『第三の聖書』

12巻からなる啓示書『真の生命の書』からの
神の啓示の要約

『生命のための書』

全12巻からなる『真の生命の書』（Libro de la Vida Verdadera）は、
全人類への遺産であり

であり、メキシコシティの

メキシコシティの「教育省著作権総局」に

番号26002、20111、83848として登録されています。

スペイン語版原著に関する詳細情報：Asociación de Estudios Espirituales Vida Verdadera Apartado Postal 888, México, D.F., C.P. 06000

翻訳および編集：

トラウゴット・ゲルテンボート、ヴァルター・マイヤー；

2016年10月現在

編集（新正書法およびレイアウト）：

Buchdienst zum Leben

マンフレッド・ベーゼ

キルヒヴェーク5

D-88521 エルティンゲン

電話：+49 (0) 7371 929 66 42

Eメール：manfredbaese@gmx.de

****

『第三の聖書』は、*DeepL Translator* を使用し、このドイツ語版をベースファイルとして他の言語に翻訳されます。

これは、ゴットホルト・ゲルテンボートによって翻訳され、ライヒル出版社から出版された、著作権を有する真正かつオリジナルの著作物です。これらは、その本来の純粋な形で保存されなければならず、改変してはなりません。それは罪であり、神の裁きを招くことになります。

この取り組みの責任者は、これらの著作物の所有者である主イエス・キリスト、私たちの神の御名において、***アンナ・マリア・ホスタが***務めます。

(Eメール:hoanna64@yahoo.com)

DeepL - *ダウンロードリンク:* www.DeepL.com/Translator (ビジネス版)

DeepLは現在100以上の言語に対応しており、デスクトップにダウンロード可能です。翻訳にはインターネット接続が必要です。

Bookmundo 出版社より刊行
第1号 – 2026年
ISBN: ……

…「私は、私があなた方に与えたこの言葉によって、私の預言が成就するよう、書物を編纂し、後にその抜粋と解釈を作成し、それをあなた方の同胞に知らせることを望む。」（6, 52 *）

** 小数点前の数字は教えの番号を指し、小数点後の数字は『真の命の書』全12巻における節番号を指す。*

…「人類がやがて『第三の聖書』として認めることになるこの書物をもって、あなたがたは私の大義を擁護しなければならない。人類は『最初の時代』の律法と、第一および第二の聖書に記されていることしか知らない。しかし、第三の聖書は今、人々が備えと理解の欠如から変えてしまったものを統合し、正すことになる。」（348, 26）

…「あなた方を呼びかけるこの声は、神聖なる師の声である。この言葉は、万物を創造された方によるものである。この著作の真髄は、将来、あらゆる秩序が築かれる礎となるだろう。万事をなす力を持つ方は、あなた方の石のような心を、愛と高揚の聖域へと変え、かつて闇しかなかった場所に光を灯すであろう。」(50, 2)

読者への注記：

人間は肉体以上の存在である。人間は、地上の肉体の中に宿る霊的な存在である。この霊的な存在は、霊と魂から成っている。霊は魂を通じて肉体を導く。

口語では、「精神」と「魂」はしばしば同義語として用いられる。これは特に、カトリック教会の定説によるものである。

翻訳の基礎となったスペイン語の文献では、両概念が共に言及され、その相互関係が明らかにされている箇所を除き、両概念とも「espiritu」と表記されている。

そのような場合、区別を明確にするために、「精神」はスペイン語で「良心」や「意識」を意味する「conciencia」を用いて表現されている。

ドイツ語訳において「espiritu」を単一の用語で統一して翻訳すると不明確さをもたらすため、翻訳者たちは最善の知識と良心に基づき、上記の説明に従って「espiritu」をそれぞれ「Geist（霊）」、あるいは「Seele（魂）」、あるいは「Geistseele（霊魂）」と翻訳するよう努めました。

読者の皆様には、疑わしい点がある場合は、啓示のテキストをその文脈に沿って理解していただくようお願いいたします。

序文

本書は、1956年から1962年にかけてメキシコで『Libro de la Vida Verdadera』というタイトルで刊行された、神の啓示を収録した12巻の叢書から、要約・抜粋した文章を収録したものです。 これらの啓示や教えの中で、神は創造主、審判者、そして父として、またキリストは神の「御言葉」として、そして聖霊との一致の中で神から遣わされた神聖な知恵の師として、自らを明らかにされました。

膨大な量の教えのテキストの中から、テーマ別に整理された抜粋版にとって、内容的にも言語的にも最も適しており、かつ各テーマを可能な限り包括的に提示する上で不可欠な箇所を見つけ出し、選定することは容易な作業ではありませんでした。 また、原典の特定の節にある特定の主張を伝えるために、その趣旨に関連する複数の節をドイツ語の要約版に含める必要が生じることもありました。他の箇所では、より長い原典の節のうち、異なる主題を含む部分のみを採録する必要が生じました。

『クンド』のスペイン語原典をドイツ語に翻訳するにあたっては、その意味内容を正確に再現することを最優先の原則とした。なぜなら、それが神の言葉の本質を表しているからである。可能な限り、スペイン語の文言も可能な限り忠実に再現したため、これらのテキストには時折、少々独特で馴染みのない単語、概念、表現が登場することがある。 そのため、より詳しい説明のために脚注が必要となる場合もありました。しかし、基本的には、読みやすく理解しやすいドイツ語の表現を重視しました。したがって、直訳が言語的に不自然であり、かつ当該箇所の意味内容が損なわれることなく、適切なドイツ語で表現できる場合には、直訳を控えることがしばしばありました。

啓示の伝達者たちは恍惚状態にあるため、啓示の定型化に意識的に関与したわけではなく、単に、神の啓示のための道具として、各自の多かれ少なかれ発達した言語能力や概念形成能力を提供したに過ぎず、また、啓示の言葉の力強さは彼らの通常の表現能力をはるかに超えていたにもかかわらず、 啓示の言語的明瞭さと表現力は、各伝達者の精神的・霊的な準備や語彙力にも依存していたのである。

「霊」と「魂」という概念に関して、意味的に正しい翻訳を行うことは特別な問題となった。なぜなら、スペイン語版では「魂」を表す「alma」

や「anima」という語が全く見当たらず、その代わりに「霊」を表す「espiritu」という語が用いられているからである。 したがって、場合によっては、「エスピリトゥ」を本来の意味である「霊」として翻訳すべきか、あるいは「魂」として翻訳すべきかという判断が非常に難しく、最善の知識と良心に基づいて決定せざるを得なかった。 こうした言葉の混同が生じた理由は、神の啓示そのものにあるのではなく、言葉を伝えた人々の言語習慣、および後にメキシコで行われた『真の命の書』の編集と初版出版における誤った判断によるものでした。

本書は、テーマ別に構成された要約集であり、関心のある読者や、知恵と真理を求めるすべての人々が、1950年末以前、 すなわち1884年から1950年にかけて、人類への新たなメッセージと教えとして啓示されたものを包括的に概観する一助となることを目的としています。とりわけ、この書は、御霊の教え、すなわち新しい神の言葉に対する徹底的な研究と理解を深めることを容易にし、促進することを使命としています。

テーマが明快に構成されているため、目次を参照することで、読者が現在関心を持っているテーマや箇所、あるいは異論を持つ人々との議論や、霊の兄弟姉妹との話し合いに必要な箇所を素早く見つけることができます。

この形式とこのタイトルで本要覧を作成するという使命と正当性は、キリストご自身がその新しい御言葉の中で与えられたものです。 各章はそれぞれ一つのテーマを扱っており（第61章から第63章を除く）、前の章の内容を知らなくても、そのテーマに特に興味のある方であれば理解できます。とはいえ、霊の教えを完全に把握するためには、本書を最初から最後まで体系的に学ぶことが推奨され、また必要不可欠です。

日々の霊的励ましや指針としては、特に第9〜11章、第16〜18章、第20〜22章、第32〜36章、第43〜45章、第59〜61章、第63章、および第65章が適しています。なお、ドイツ語訳版『真のいのちの書』 『Libro de la Vida Verdadera』のドイツ語訳版に収録された完全な教えにも特に注目すべきです。これらは から書店を通じて入手可能です。関心のある読者や信者は、これらを通じて神の啓示が全体としてどのように行われたかについての印象を得ることができ、それらを読むことで、この『第三の聖書』と同様に、精神と心に深い喜びと啓発を体験することができるでしょう。善意あるすべての人々に、これがもたらされることを願います。

編集者

序文

どの宗教団体に属していようとも、ほとんどのキリスト教徒は、本書のタイトル「第二の聖書」を冒瀆的なものと受け止めるでしょう。なぜなら、この新たな啓示の著作は、彼らにとって既存の聖書の時代遅れの聖書および新約聖書と同じ扱いを受けることになるからです。聖書は基本であり、彼らの信仰の基礎として完結しており、それ以上の補完や拡張を必要としないものと見なされているからです。

しかし、真の聖書通であれば、この福音的見解が、新約聖書の著書そのものに反しているイエスの決定的教えには根拠がないことを知っているはずだ。
それどころか！イエスは別の箇所で、再臨について繰り返し語られ、それに関して、真理の御霊、慰めの御霊、聖霊について言及し、その御霊がやがて「すべての真理へ導いてくださる」と述べられました。

使徒パウロは、時が満ちる時に訪れる神の偉大な啓示に対する確信を、次のように表現しています。「今は、鏡に映るように、ぼやけた姿しか見ることができませんが、その時には、私が知られているのと同じように、私自身もはっきりと知ることになるのです。」コリントの信徒への手紙一 13章12節

この序文は、信仰深いクリスチャンに対しては本書に関心を持つすべての読者に、本書の成立に関する真実の情報を伝え、また、イエスの再臨に関する新しいメッセージの内容の下で既存の知識を明らかにすることを目的としています。なぜなら、啓示そのものに含まれる記述にもかかわらず、いくつかの疑問が残り、疑念や誤った認識が生じる恐れがあるからです。
また、この序文は、神の御霊が、人類への「第二の聖書」として新たな啓示の中で残されたものを理解しやすくするものでもある。

この新しい神の御言葉を自ら読む読者の誰もが確認できるように、そこには最高の権威、知恵、そして栄光が輝いている。これは、イエスが「雲に乗って」（ルカ21:27）再臨するという約束の成就であり、御霊の言葉を象徴的に表現すれば、それは聖霊の方法による再臨を意味する。
したがって、メキシコにおける神の啓示を通じて私たちに与えられたこの神の第二の聖書は、霊においてのキリストの再臨に関する真実の証であり、人類に向けた現代に即したメッセージと教えを含んだ形である。

この言葉は、現代の人々にとって霊性そのもの、神ご自身、地上での存在の意味、そして個人の人生における出来事、さらには聖霊時代の到来に必然的に伴う出来事の変化について、より良く、より深く理解するための助けとなるものである。
中世の修道院長ヨアキム・ディ・フィオーレや、彼に続く多くの著者たちがすでにこの時代について語っていた。それは、預言者の時代に来、人類が約束されてきた地上に来臨するキリストの平和の王国である。

言葉によるキリストの霊性再臨をもって、この霊の時代、すなわち聖霊の時代はすでに到来しており、キリストはその新しい愛の言葉をもって、その道筋を示されたのである。

キリストの再臨における神秘的な出来事は、キリスト教世界のあらゆる予想に反して、未来のことではなく、すでに歴史となっている。それは1866年から1950年にかけて、世界の「外なる世界」やキリスト教世界からは気づかれず、無視されたまま、ひっそりと進行したのである！
西洋キリスト教の中心地であるローマでも、正教の信仰の中心地であるアトスでも、あるいは多くの人が予想したように、コプト・キリスト教の発祥地エルサレムでも、あるいはプロテスタント神学や宗教哲学の周辺でもなく、いわゆる第三世界の国、メキシコにおいてであった！

しかも、そこでも権力と華やかさを象徴するカトリック教会の中ではなく、メキシコシティの対外的には、ほとんど教育を受けていない人々の間という、貧困と無名の中であり、そこから回心が広がっていったのです。誰がそんなことを想像したでしょうか？

キリストの再臨は、新たに設立されたカトリック的なキリスト教ピリチュアリズムの教会や団体において、キリストに選ばれた人々が恍惚状態の中で霊的に受け容れるという形で現実のものとなった。

これらの啓示の内容は1950年以前の数年間、通訳によって語られ、書き記され、後に『Libro de la Vida Verdadera』（ドイツ語訳：『真の生命の書』）と題された12巻の叢書として出版された。
この数年、過去の教えのすべてが、より拡大され、深められ、形を変えて繰り返されてきました。本書は、この著作に収められているあらゆるテーマについて、その中から選ばれた文章を収録したものです。

キリストによるこれらの教えの集成、およびテーマ別に整理された資料は、当初から主によって、人類とりわけキリスト教徒のための「第二の聖書」として意図されていたものである。この重大な声明の真実性は、本書を通じて読者に明らかにされるであろう。

主の御言葉によれば、キリストの再臨の地としてメキシコが選ばれた理由は、現在の住民の先祖であるインディアンたちが、主の名においてスペインの征服者たちによって掠奪され、強制的にキリスト教化されたことである。
また、何世紀にもわたる迫害と試練を通して、これらの民族とその現代の子孫は、地球上の他の民族、とりわけヨーロッパの民族よりも、兄弟愛の精神、人類愛、心の謙虚さ、そして寛容さを育んできた。
それゆえ、かつて選ばれた「イスラエルの民」の中から、多くの成熟した魂が現代においてメキシコの人々の中に生まれ、そして霊的イスラエルに与えられた約束の成就を目撃したのである。

また、イエスの誕生、すなわちキリストのこの世の最初の到来は、ローマやギリシャという権力と文明の中心地でも、ユダヤ文化の中心地であるエルサレムにおいてさえもではなく、人里離れた貧しい環境の中で起こった。そして、イエスの誕生において、その通り道で舞台となったのは、エルサレムのユダヤ人たちから軽蔑されていたガリラヤであった。
これに対し、かつての律法学者たちは優越感に浸りながらこう言った。「ガリラヤから、いったい何か良いものが出てくるというのか？」。今日の神学者たちは同じ過ちを犯してはならない。知的優越感から、密かにこう考えてはならないのだ。「メキシコから、いったい何か良きもの、偉大なものが生まれるというのか？」と。

そこで霊的啓示が、本当に神聖な起源をもつものであると示唆は何だろうか。何よりもまず、その啓示そのものが、紛れもなくキリストの精神に、そしてその愛と慈悲に満ちていることである。これ以外には何も望まない人間がいるだろうか。
また、その思想、啓示、戒め、教えの内容と表現は、その発信者について雄弁な証しを立てている。どのような邪悪な霊が、悪意を持ってこれらすべてを創り得るというのか？これらの教えは、人類の善、発展、高揚のみに役立つものである以上、その悪意とは一体何であるというのか？

これらの啓示が神聖な御言葉として本物であることを示すさらなる根拠として、これらがこれほど長い期間にわたり、これほど多くの異なる伝達者と啓示の場を通じて行われてきたにもかかわらず、その精神性と内容において統一された特徴を持ち、明らかに単一の啓示源を指し示しているという事実が挙げられる。
一体どのような闇の力が、神の御言葉のように、国境を越えて何年にもわたり、このようなことを整然とした形で組織することができ

るというのでしょうか？それは単に不可能なことであり、人類の子らを愛する父であり、地上の運命を司る最高指導者であるお方が、決して許すことのないことです。

これらの啓示が御言葉におけるキリストの霊的再臨の証として真実であることを示す、さらなる重大な根拠は、キリストの再臨に関する「しるし」に関するイエスの約束と、この世界規模という世界各地が変容をもたらした出来事に起こった期間のメキシコでの出来事との一致にある。
これについては、『真理の力の書』第一巻の序文、聖書の約束に関するキリストの再臨、および四人のホスト・エンゲルによる現代『神の霊の復活』（いずれもライロ出版社刊）を参照されたい。

19世紀にいわゆる『神の書』がヤコブ・ロッバによってキリスト教界に対し、この世界地域においてはメキシコがキリストの霊再臨の地であるという重要な証言がなされた。
イエスはその偉大な新啓示の著作の節において、ご自身の霊的再臨が、大きなお方の約束の下に預言されるであろうと語っています（旧約による証言94章4-15節）。
ロッバによる啓示を信じる者たちや、霊的に目覚めたすべてのキリスト教徒にとって、これはこの預言が単に成就したのではないかと自問し、アメリカ大陸のどの国にこの遠隔地がかつてそれにふさわしい出来事が起こったのかを探索するきっかけとなるべきではないだろうか。しかし、その判断基準は、啓示された創造に関する詳細の大きさだけでなく、何よりもそこに表れている神の愛と慈悲であるべきです。

そのような出来事は実際に起こっており、19世紀の50年代頃、メキシコで始まりました。当時1861年5月23日、ロケ・ロペスという名の若い男が、大天使ガブリエルによる最初の召命体験と、主の地上における福音としての使命を告げる幻視を受けたのである。*
その後、さらなる大きな幻視によって神からの召命の真実性を確信した彼は、恍惚状態の中で受けたメッセージや幻視について人々に語り始め、その説得力と謙虚さによって次第に信者たちの共同体が形成されていきました。
その後、霊感の賜物が現れるこれ、彼は広く知られるようになり、助言を求めるすべての人から高く評価されるようになりました。
彼は最初の集会所を設立し、1866年9月1日、そこで初めてエリアスの使徒として語りかけ、7人の男が新しく設立された教会の指導者として奉献された。彼は救いの歴史における各時代を象徴する七つの封印を表していた。
* *これに関するより詳細な情報は、『第七の時』（ライロ出版社）の序文を参照のこと。*

1869年の聖週間に行われた集会の参加者たちが、ロケ・ロペスの期待していたような畏敬の念や敬虔さを示さなかったため、彼は深く怒りに駆られ、それまでエリアスを通して受け取っていた神の啓示を破棄した。彼はその集会を解散すると宣言し、それによって自身の祝福に満ちた使命に早すぎる終止符を打った。
しかし、彼は新たな種まきの場所を発見し、開拓した。そして数年後の1884年、七つの封印の教会のひとつにおいて、その教会の創設に忠実であり続けた女性使徒を通して、初めてキリストご自身が語られた。それ以来、神の啓示は世代を超えて途切れることなく続き、1950年の終わりまで続いた。

この期間、教会と信者数はますます増え続け、キリストが「ご自身の霊の復活」と呼ばれたこのキリスト教ピラミッドの運動は、最終的には全国で数百の教会と数十万の信者を擁するに至った。

信者たちは毎日曜日の午前中、質素な教会の集会室や個人の家などに集まり、一人または数人の伝道者がいる場所ならどこでも、時間の必要や理由に応じて、神の霊が同時に現れていました。

週に一度、癒しの礼拝が行われ、そこでは神の霊が教会に、目に見える癒しという形で現れました。肉体や魂に対する多くの霊癒しがありましたが、残念ながら、それらは文書に記されず、後世に伝えられることはありませんでした。人々はそれを特に驚くべきことでも、後世に伝える価値のあることでもないと見なしていたようです。

主がはるか前から予告した、1950年の年末に
と定められた神の裁きおよび神の霊からの啓示の終了は、霊癒しの中に深い断絶を生じました。それはキリストの王の命令に従い、それ以上の霊的啓示を受けた教会と、
一方、この命令に従わず、その信者たちをトランス状態に陥れ、それによって偽の霊や類似の霊たちに下僕化し、偽のキリストや霊の啓示を受け入れるようになった教会や教会指導者たちとの間に生じた裂け目である。

残念ながら、これらの死滅した教会は、忠実であり続けた教会よりも一般大衆にとってはるかに大きな魅力を持っていました。忠実な教会の信者の多くは、小さなグループに分かれて散り散りになったり、あるいは反対堂へと移ったりしました。なぜなら、教義の純度を犠牲にしてその後それについて意見交換を行うという清めなき和解よりも、そちらの方が周囲の緊張状態をはるかに容易に乗り越えられる道だったからです。

こうした不利な状況にもかかわらず、1950年以降、主に忠実な伝道者たちからなる多数のグループが、全国各地に散らばった啓示を集め、それらを書き記して出版し、人類にとって大きな祝福となる作業に着手しました。
その際、彼らは主にタイプライターで打たれた原稿の写しに依拠せざるを得ませんでした。それは、当時の集会の速記録に基づき、書き手自身によって作成され、その後、要望に応じて写しとして配布されていたものである。
こうして、多数の様々な啓示の原稿が収集され、そのうち最終的に366点が『Libro de la Vida Verdadera』（日本語訳：『真の生命の書』）の叢書に収録するために選ばれました。

これらは、とりわけ1950年以前の最後の数年間のものを中心に、すべての啓示の一部に過ぎないとはいえ、これは元伝道者の遺品から最近発見された未発表と思われる啓示原稿の大量の束によって証明されている、この膨大な数の啓示を総合すれば、それを全体として見れば、
神の霊が人類に、より光に満ちた未来の道を見出せるよう与えようとしたすべての重要な教義が含まれていると見ることができる。

1962年、ドイツにおいてこの全集の最初のドイツ語版が『第三の時代（Die Dritte Zeit）』というタイトルで出版され、これにより、ドイツ語圏に限られた人々にも、主の啓示の叢書が初めて届けられることとなりました。1979年以降、ライヒル出版社（Reichl Verlag）は『真の命の書（BUCH DES WAHREN LEBENS）』のドイツ語版を刊行しており、にて、書店を通じて入手可能です。

その後1970年代にエキュメニカル運動で「精神的交わり」が設立され、各教派の管理保守および革新的刷新運動の継続の任務としました。
同協約第4項においても、これを自己の本来の使命と捉えていますが、良心の自由とそれぞれの個人の自己責任を基礎とする宗教間の共同体を行うことは、その使命を見出していません。

本書のどのページを開いても、私たちは、キリストが自身の選ばれた聞き手――その中には世俗的な学校教育をほとんど受けておらず、口から出る言葉の本当の意味を自分で理解できていなかった人々もいた――を通して語られた、説得力に満ち、賢明で、愛に満ちた言葉と啓示を霊的に読み、体験するのです。まして、その内容を聴き、そしてそこに表されている聖霊の権威など、彼らは全く理解し得なかったことでしょう。

この新しい神の言葉は一方で、旧約時代のイスラエルの民における出来事、啓示、そしてイエスの地上での生涯と働きに関する確かな解釈を含んでいる一方で、他方では、従来のキリスト教的世界観に対して、部分的には抜本的な修正をせらうような、新たな霊的洞察をもたらしている。
これは、神の像、イエスとマリアの子性、人間の中の神の火花、魂が永遠に存続する人間の本質、天国と地獄、最後の審判、贖罪の教えと罪赦し、死からの復活、そして永遠の命に関する理解に関するものである。
また、キリスト教会の実践されてきた形式に関しても、新たな基準と評価が設定され、慣れ親しんだものが疑問視されたり、あるいは廃棄されたりしており、これまでの礼拝の儀式や聖書解釈に影響を与える。

その中心的なメッセージは、イエスが伝えたものと同じです。すなわち、外見的な宗教実践よりも内面的な祈りの生活と、自己の良心に従った個人の行動。
利己的な動機による算高い慈善行為のかわりに――神、人、そして神の創造物である自然への愛と、自発的で無私の行動。ここで「愛」は配慮、思いやり、敬意、同情、愛情、慰め、助け、支援など、多くの表現を意味し得る。
安易で自己中心的な偶像のかわりに――認識と霊的な聴き方に基づく、生き生きとした、見通しの利く信仰。

主はその宿泊において、まず、そこにいた弟子たちに向けて言葉を発された。主はしばしば「わたしの民」、「兄弟たち」、あるいは「働き人」と呼び、時には「愛するイスラエル」とも呼びかけられた。
しかし、より広い意味において例外はあるものの、主の言葉は、全世界の霊的なイスラエル全体、全世界の神の民全体、そしてあらゆる民族、人種、宗教の人々に向けられている。しかし、彼らはこの新しい神の言葉を喜んで受け入れ、認めるだろうか？

これは、新たな宗教団体、教会、あるいは宗派を設立する事となってはならず、またそうあってはならない。これは、人間、そして人間があらゆる種類の宗教制度の背後に霊に向けた神の呼びかけである。人類のための二つの「第二の聖書」を持つ者は、神自身と、そこに現れている霊を持つことになる。
神の新しい愛のメッセージそのものに含まれるこの警告の言葉を、誰もがよく熟考し、心に留めるべきである。同様に、イエスの「賢く愚かな乙女」（マタイ25:1-13）や「王の婚礼」（マタイ22:2-14）のたとえ話に含まれる警告もまた、心に留めるべきである。

なぜなら、この言葉は、消えかかっている聖火のための聖なる油であり、主の食卓のパンという酒であり、魂の永遠の糧であり、慰めだからである。

****

目次

序文 6

序文 9

I. キリストの再臨 — 第三の啓示の時代 32

第1章 *- キリストの再臨を待ち望んで* 32

救いの出来事に関する序論的概観（） 32

希望と期待 33

聖書の約束 35

成就した前兆 36

第2章 *- 第三の時代の夜明け* 37

最初の啓示 37

世界中のメッセージと示唆 38

主の先駆者としてのエリヤの働き 41

第3章 *– キリストの再臨という霊的な太陽* 44

主の到来 44

すべての目がわたしを見るだろう 46

第4章 *– 神の啓示による教え* 48

啓示の源 48

啓示の場所と啓示の受け手 49

神の啓示の伝達 51

啓示の形式 54

啓示の時間的制限 56

第5章 *– 新たな神の啓示の理由* 56

神の救いの意志 56

誤りや形式化された礼拝の排除 57

真の命についての啓示 59

人間の進化、霊化、そして救済 61

第6章 *– 第三の聖書と生命の大いなる書* 62
神の愛、真理、そして知恵の書 62
第7章 *– 霊の教えの影響と意義* 67
啓示の効果 67
新しい御言葉からの気づきと希望 68
第8章 *– キリストの新しい教会、弟子たち、使徒たち、そして神の使者たち* 74
啓示の教会における光と影 74
真の弟子、新たな使徒たち 78
世界中の、そしてあらゆる時代の神の使徒たち 79
II. 第一および第二の啓示の時代の回顧 82
第9章 – イスラエルの民の物語と人物たち 82
原罪の物語 82
自由意志と原罪 82
大洪水 83
アブラハムの犠牲の精神 83
ヤコブの天の梯子の夢のイメージ 84
ヨセフとその兄弟たち 85
モーセに導かれたイスラエルの民の荒野の旅 85
真の神のためのエリヤの戦い 86
イスラエルの十二部族 86
イスラエルの預言者たちと最初の王たち 87
第10章——時が満ちて 87
預言的な予言 88
ユダヤ民族におけるメシアの期待 88
イエスの生みの母マリア 89
幼子イエスへの礼拝 89
イエスとマリアの愛の絆 90

イエスの知識と知恵 90
ナザレにおける人間社会の無理解 91
第11章 – 地上のイエスの働き 91
ヨルダン川での洗礼；荒野での準備期間 91
イエスと神との一体性 92
待望のメシアとしてのイエスの不承認 92
庶民の中に現れた救い主イエス 93
たゆまぬ説教者イエス 93
イエスの子供たちと自然への愛 94
イエスの教え 94
イエスの「奇跡」 95
姦通の女 97
マグダラのマリア 97
ニコデモと輪廻転生の問題 98
イエスの変容 98
信仰を告白する勇気の欠如 98
イエスに対する敵意 99
別れの予告 100
エルサレムへの入城 100
最後の晩餐 101
第12章 – 受難、死、そして復活 102
イエスの生涯にわたる苦難と苦しみ 102
ユダの裏切り 102
イエスの受難 103
来世におけるイエスの贖いの業 107
復活後のイエスの出現 108
第13章 - イエスとその使徒たちの使命と意義 109

古い神像とその伝統の是正 109
イエスの模範 110
イエスの教えの意義 110
イエスの弟子たちの召命、修業期間、そして試練 110
使徒ヨハネ 111
使徒ペトロとパウロ 113
使徒たちの模範性 113
キリスト教の広がり 114
III. 教会キリスト教の時代 115
第14章 – キリスト教、教会、そして礼拝 115
キリスト教の発展 115
礼拝の儀式 116
聖職者たち 116
聖餐とミサ 118
洗礼 119
死者の追悼 120
物質的な象徴、十字架、聖遺物 120
聖人崇拝 121
教会の祝祭日 122
誤った礼拝形態にもかかわらず、神は常に共におられる 123
第15章——偽りのキリスト者、教会の誤った教えと不正 124
名ばかりのキリスト教徒 124
不信仰者と信仰の狂信者 125
イエスの教えの歪曲とその結果 126
キリスト教における誤った発展と弊害 127
IV. 律法——神への愛と隣人への愛 129
第16章 - 神の律法 129

神の法の力 129
『霊の業における神の愛の法』 130
神の律法への背きとその結果 131
至高の律法の成就 132
第17章 - 神を崇拝する新しい方法 134
礼拝の形態の発展 134
献身と信仰を伴わない見せかけの祈り 135
真の祈り 136
完全な祈りの四つの側面 137
言葉のない自発的な心の祈り 138
日々の祈り 140
休息の日、すなわち自己省察の日 140
求めよ、そうすれば与えられる 141
執り成しの祝福 143
祈りの必要性 143
祈りの生活がもたらす恵み 144
祈りの力 145
神と隣人への愛、すなわち神への崇拝 146
神と人間との対話 148
第18章 - 慈悲の業と愛の中心的な重要性 150
善行がもたらす後世の祝福 150
真の慈善と偽りの慈善 151
霊的および物質的な愛の活動 152
愛の包括的な意味 153
愛の崇高な力 155
V. 神の啓示の形態と働き 155
第19章 – 神の三位一体 155

神とキリスト、そして聖霊との一体性 156
神の三つの啓示の仕方 157
創造主の霊であり父である神 159
キリスト、愛、そして神の言葉 159
聖霊——神の真理と知恵 161
第20章 - 神の母なる愛、マリア 161
謙遜に生きるマリアの地上での生涯 161
マリアとイエス 162
マリアの処女性 162
女性のためのマリアの模範 163
人々の執り成し手、慰め手、そして共同の救い主としてのマリア 164
マリアの神性 165
マリアの普遍的な輝き 166
第21章 – 神の全能、遍在、そして正義 167
神の力 167
すべての被造物における神の臨在 168
運命の試練 170
神の正義 171
第22章 – 神の愛、慈しみ、そして恵み 173
天の父の愛 173
神の慈しみと助け 174
至高者の謙虚さ 176
神の憐れみと共にある苦しみ 177
神の赦し、恵み、そして憐れみ 177
第23章 – 神の霊感と啓示 178
神の霊感 178
神の啓示を人間の理解に合わせる 180

神の啓示の様々な形態 181
神の啓示の必要性 182
神の啓示の無限性 183
人間における神の臨在の顕現 184
VI. 創造 184
第24章 – 霊的創造と物質的創造 185
霊的存在の創造 185
創造の業における偉大な霊たちの働き 185
神の摂理の思惟 185
霊的存在のための物質世界の創造 186
人間の創造 186
楽園の記憶 187
人間の性質 187
創造主と被造物との一体性 188
第25章 - 自然 188
自然の法則 188
自然における神の臨在 189
自然、神の創造物、そして霊的なもののたとえ 189
神の子らが自然に対して持つ力 190
人間と自然 190
第26章 - 他の世界 192
キリストの普遍的な光 192
世界間の霊的つながり 193
他の世界や生命体との出会い 193
星々の運命 194
第27章 - あの世 195
霊的生活に関する必要な知識 195

「天国」と「地獄」 195
天国の音楽 198
わが父の家には多くの「住まい」がある 198
VII 完全性への成長の道 199
第28章 - 死、死後、そしてあの世での目覚め 199
精神の不死 199
この世を去るための準備 200
あの世への移行 201
「死の眠り」 202
来世での再会 202
自らの良心による霊への裁き 203
取り戻された霊的意識 205
第29章 - 来世における魂の浄化と昇華 206
良心の呵責、悔恨、そして自責 207
均衡の正義 207
神の御国への魂の昇華 209
第30章 - 転生を通じた魂の進化 211
発展の法則 211
「肉の復活」――正しく理解されること 212
魂の異なる発達段階 213
過去の地上での生と自身の進化の段階に関する知識 213
霊的・精神的成長のための必要条件としての愛 214
転生の様々な理由 214
完全性への道 215
生命の普遍的な学校 216
輪廻転生説の説得力 218
魂の転生の道 218

第31章 - 救い、贖い、そして永遠の救い 220
贖いに関する誤った考えの是正 220
「天国」は勝ち取られるべきものである 223
救いへの最も強力な力 225
すべての魂のための救いと贖い 226
神の子らの輝かしい未来 228
VIII. 人間 229
第32章 - 人間の転生、本質、そして使命 229
地上における転生 229
肉体の正しい評価と、霊によるその導き 231
人間における魂、精神、良心の意味と役割 231
人間の中にある神の神殿 234
第33章 - 夫と妻、親と子、結婚と家族 235
男女の関係 236
男性の性質と役割 237
女性、妻、そして母 238
子供と青少年の教育 239
子供たちと乙女たちへの言葉 241
結婚と家族 241
第34章 - 自由意志と良心 243
良心と自由意志の意義 243
自由意志の乱用 246
良心の衝動に従うことの必要性 247
自由意志と良心の葛藤 247
新しい神の言葉による良心の研ぎ澄まし 249
第35章 - 思考、感情、意志の力 249
思考の送受信とその影響 250

感情、願望、あるいは恐怖の力 251
自己克服の欠如 252
IX 神の知恵の教え 252
第36章 - 信仰、真理、そして認識 252
すべてを克服する信仰 252
神の真理の認識 253
霊的かつ神聖なものへの認識 255
霊的認識のための前提条件 256
人間に必要な意識の拡大 256
第37章 - 聖書のテキストの正しい理解 258
聖書の言葉と約束の解釈 258
使徒ヨハネによるイエスの啓示 261
第38章 - 三つの啓示の時代と七つの封印の時代 261
神の啓示の発展的依存性 262
神の三つの遺言 263
第三の時代 265
救いの歴史における七つの時代 265
第39章 - 地上のイスラエルと霊的なイスラエル 268
イスラエルの歴史的使命、その失敗 268
ユダヤ民族の、世俗的な者たちと霊的な者たちへの分裂 269
霊的なイスラエルの民 270
選ばれ、印を刻まれた14万4千人 272
第40章 – 善と悪の力 274
善と悪の起源 274
高慢と謙虚さ 277
善、善意の人 278
悪、悪に堕ちた人間 279

善と悪の戦い 279
誘惑と惑わし 280
道徳的罪悪 281
悪の無力さと儚さ 281
許しの力 282
第41章 - 現世と来世のつながり 282
霊界からの霊感と助け 282
混乱し、悪意に満ちた霊たち 284
人間をめぐる霊たちの戦い 286
神の霊界とのつながり 287
第42章 - 罪と贖罪、試練と苦しみ 289
悔い改めと贖罪の必要性 289
贖罪の法則 290
試練と苦しみの原因 291
試練における信仰、服従、そして謙遜 293
苦しみと痛みの意味 293
第43章 - 病気、癒やし、そして再生 295
病気の起源と意味 295
自らの力で癒やすこと 295
人間の再生 297
第44章 - 神的な意味での生活 297
必要な均衡 297
善き喜びと堕落をもたらす喜び 298
祝福と不幸をもたらす富 299
与えるという法則 300
義務と任務の遂行 300
第45章 - 人生における宿命、意味、そして成就 301

人間の運命における神の摂理と定命 301
人生の学校 304
人間の人生の意味と価値 304
X 物質主義と精神主義 306
第46章 - 誤った道に迷った物質主義的な人間 306
人間の精神の鈍さ、無知、そして傲慢 306
犠牲、努力、責任に対する意欲の欠如 308
人間の魂の苦しみ 310
誤った地上的行動とその結果 311
第47章 - 唯物論と精神論 313
支配的な唯物論の影響 313
スピリチュアリズムの本質 314
誰が正当にスピリチュアリストと名乗ることができるのか？ 314
宗教と宗派におけるスピリチュアリズム 315
第48章 - 霊的賜物と霊化 316
人間の霊的能力 317
真の霊性の前提と特徴 319
霊性の恵み深い影響 320
XI 人類 321
第49章 - 宗教と司法 321
唯一の真の宗教や宗派など存在しない 321
宗教の発展に対する敵意 322
宗教と科学の関係 323
地上の司法の厳しさと不公正 324
人間の冷酷な独善性 325
必要悪としての地上の司法 325
第50章 - 教育と科学 326

虚栄と知識への驕り 326
物質主義的な思考の帰結 327
神と霊界による新たな科学的知見への啓示 330
人類の福祉のために働く科学者たちへの称賛 331
第51章 – 権力者、権力の乱用、そして戦争 332
この世の権力と偉大さという儚い幻想 332
人々や民族に対する横暴な権力の行使 333
第二次世界大戦に関する考察 335
戦争の非道さと無意味さ 336
第52章 - 不正と人類の衰退 337
強者による弱者の隷属と搾取 337
人類の堕落 339
未熟な人類の歪んだ世界 340
第12章 人類の裁きと浄化 342
第53章 - 裁きの時が来た 342
人間の蒔いた種の実り 342
審判における人類の浄化 343
裁きにおける神の愛 344
第54章 - 世界観、宗教、教会の戦い 345
地上のキリストの平和の王国到来前の霊的な戦い 345
地上の精神的覇権をめぐる争い 346
霊の教えへの攻撃 347
霊的啓示や霊的治癒の無視や妨害 349
第55章 - 審判における地球と人類の浄化 349
清めの裁きに先立つ、神と自然からの警告の声 349
悪の力と支配は打ち砕かれる 351
終末的な戦争、疫病、災厄、そして破壊 353

自然と自然災害 354
神の愛の正義と憐れみ 356
審判の影響 356
XIII 世界と創造の変容と完成 357
第56章 - キリストの霊的業の勝利と承認 357
神の使徒たちによる霊の教えの普及 358
新しい御言葉の承認をめぐる戦い 358
聖霊の教えの力 358
全世界におけるキリストの再臨の認識 360
第57章 - あらゆる分野における回心と変革 361
新たかつより深い認識 361
神から遣わされた人々による啓蒙 362
人間の変容 363
あらゆる生活領域における変化と激変 365
第58章 - キリストの平和の王国と創造の完成 367
キリストの平和の王国における支配力 367
新しい人間 368
約束の地であり、天国の反映である地球 369
創造の完成 371
回復された創造の調和の賛歌 371
XIV 宣教の使命 372
第59章 - 新しい神の言葉の普及に関する使命 372
書籍の製本、抜粋版、および翻訳に関する指示 373
新しい神の御言葉を知る権利 373
霊の教えの普及に関する指示 374
第60章 - キリストの御霊による働き 376
新しい弟子たちに必要な資質、美徳、能力 376

御言葉を伝える際の正しい在り方 379
正しい宣教の方法 381
肉体的・精神的に苦しむ者たちを慰め、癒やす使命 384
世界的な使命への出発の時 385
XV. 戒め、警告、教え 386
第61章 - 主の戒めと警告 386
戒めと使命 386
信仰、希望、愛、謙遜、確信 387
祈り、研鑽、警戒、刷新、そして霊化 389
啓示を受けた教会への警告 390
1950年以降の啓示の継続と偽りの「キリストの啓示」に対する警告 391
悪徳、偽善、堕落 392
誤った悔い改めと誤った期待 394
地上の諸国民と権力者たちへの警告 395
第62章 – メキシコにいる聴衆への言葉 396
メキシコにいる聴衆への言葉 396
第63章 - 教会およびすべてのキリストの弟子たちへの教え 410
キリストの霊の働き 410
霊的なイスラエルとユダヤ民族 418
弟子としての生き方と霊性 420
発展 428
浄化と完成 432
この世とあの世 435
神の啓示 438
人間とその使命 440
悪徳、過ち、迷い 445
人類の浄化と霊化 448

XVI. 預言とたとえ、慰めと約束 449
第64章 – 預言 449
新旧の預言の成就 449
1945年1月10日、第二次世界大戦終結間近における大いなる諸国民への預言 450
戦争と自然災害 — 天のしるし 452
メキシコの教会分裂に関する預言 452
第65章 – たとえ話、慰め、そして約束 453
悪い家政係のたとえ 453
砂漠の横断から大都市へのたとえ 454
王の寛大さを描いた寓話 457
八福と祝福 458
向上への励まし 458
神の呼びかけ 459
現代の人々への呼びかけ： 459
知識人への呼びかけ： 460
労苦し、重荷を負う者たちへの呼びかけ： 460
霊的イスラエルへの呼びかけ： 460
メキシコにおける神の教え 1866-1950 462

I. キリストの再臨 ― 第二の降臨の時代

第1章 - キリストの再臨を待ち望んで

救いの出来事に関する諸神観 ()

1.

太古の昔、この世は愛が欠けていた。最初の人類は、すべての被造物の源である霊の本質、すなわちその神聖さを感じ、理解することからは程遠い存在であった。

2. 彼らは神を信じていたが、神が何であったのかは不明だった。

人々は、自然の要素を通して神の言葉を理解できると信じていた。それゆえ、自然が穏やかで平和であるのを見ると、主は人間たちに満足しておられると考えた。しかし、自然の力が解き放たれると、彼らはそこに、その形で現れた神の怒りを見出したのだ。

3.

人々の心の中には、怒りと復讐の感情を抱く恐ろしい神というイメージが刻まれていた。それゆえ、神を「父よ」と呼ぶとき、彼らはその名前を口にすることを躊躇し、全知の、近づきがたい存在だと感じていた。

4.

私たちの父なる神は、それらの被造物は、神の愛から生まれたものではなかった。初期の人々が主の言葉を守るように駆り立てたのは、神の正義の恐れ、すなわち罰の恐怖であった。5.

彼らは神を霊的な意味で「神」と呼んだが、「父」や「師」とは決して呼ばなかった。

6.

神は確かに正義である――しかし、完全なる正義であるということ、何よりも先に神は愛であり、父としてすべての被造物を愛しておられるということを、人々は理解し始めたのは、先駆者たち、初期の預言者たちであった。

7.

人類は一歩一歩、霊的発展の道をゆっくりと歩み、巡礼の旅を続け、時から時へと移り変わり、神がいつの時もその子らに与えてきた啓示を通して、神の神秘について少しずつ知っていった。

8.

それにもかかわらず、人間は神の愛を完全に理解することはできなかった。なぜなら、人間は神を真の父として愛していなかったし、主が常に自分に向けておられる愛を、心の中で感じることもできなかったからである。

9.

完全な愛の光明なる、「御言葉」が受肉し、人が触れ、目で見える姿をとることが必要であった。そうして初めて、人は神をこれほど、そしてどのような方法で彼を愛しておられるかをつかむことができるのである。

10.

すべての人がイエスの神への献身を受け入れたわけではない。イエスは、自分を拒絶する者たちに対しても謙虚で、思いやりがあり、愛に満ちておられたのだから、どうして彼がイエスを憎むことができようか。彼らは、神の敵に対しては強くて誇り高く、自分を拒絶する者たちに対しては慈悲を下し、恐ろしい存在だと考えていたのだ。

11.

しかし、その言葉を信じる者が多くいたのと同様に、多くの者はまた、心の頑なさから、その言葉を信じた。苦しみや不治の病を、ただ一つの愛無き無慈悲の罪と、希望の言葉と癒しのあり方

新しい世界、光と正義に満ちた生活が約束されたその教えは、あの神聖なものが父の真理であり、人々が知ることも、ましてや愛することもできなかった御方の神聖な愛であることを理解した多くの人の心から、もはや消えることはできなかった。

12.
その至高の真理の種は、人類の心に永遠に蒔かれた。キリストは種蒔き者であり、今なおその種を育てている。やがて彼はその実を刈り取り、永遠にそれを喜びとするだろう。その時、彼はもはや「私は創造している」とか「私は愛している」とは言わないだろう。なぜなら、ついに彼の子供たちは、彼が初めから彼を愛してきたように、彼を愛するようになるからだ。
13. 弟子たちよ、キリストについて語るのは誰か。キリスト自身である。
14.
人類よ、今再びあなたに語りかけるのは、まさに言葉であるわたしを黙せ。私は現れる必要もないからといって、私の存在を疑ってはならない。私の神性は疑うことのできないものだ。
15.
かつてこの世であなたの救主によって、私を黙せなさい。私が生まれた時と全く同じように、謙虚に死んだことを思い出してください。（296, 4-16）

希望と期待

16.
「第二の時代」におけるわたしの去った後、私の福音を守り続けた者たちの間では、世代から世代へと私の再臨が待望されてきた。親から子へと神の約束は受け継がれ、私の言葉は、私の帰還を望むという切なる願いをいきいきと保ち続けた。
17. どの世代も、自分たちの時にこの言葉が成就することを期待し、自分たちがその恵みを受ける世代であると信じていた。
18.
こうして時が流れ、世代も移り変わり、人の心からわたしの約束がますます押しやられ、人々は目を覚まし、祈ることを忘れてしまった。（356, 4-5）
19.
世界は緊張させられており、諸国民は彼らに降りかかるわたしの言葉の重荷を感じている。そして、あなたを呼びかけるわたしの光、私の声が、全人類の中に感じられるようになっている。
20.
人々はわたしの存在を感じ、降りそそぐ彼らの上に留まるわたしの普遍的な影響を感じ取っている。彼らはこの書物を読まず、私の言葉を聞いたこともないのに、私を感じ、私についての強烈な、ご質問がある。主よ、私たちはどのような時代に生きているのでしょうか。人々を襲ったこれらの試練と苦しみ――それらは何を意味するのでしょうか、父よ。
あなたは、この世の糞を選び取っておられないのですか？あなたは再び来るとおっしゃらなかったのですか？いついらっしゃるのですか、おお主よ？」そして、あらゆる諸国民、諸教団、諸団体において、わが子の霊感は、彼らはわたしを求め、わたしに願い、わたしに問いかけ、わたしを待望している。（122, 29）
** 1866年ベギニで福音のリアスを通して与えた、キリストの再臨および言葉による霊的形態の啓示。*
21.
人々はわたしに問いかけ、こう言う。「主よ、もしあなたが存在するのなら、かつてわたしたちの世界まで降りてこられたのに、なぜ今、私たちの間には現れないのですか？
なぜ今日、来られないのですか？私たちの不信は、今やあなたが助けに来るのを妨げるほど大きくなっているのでしょうか？あなたは、道に失われた者、「盲人」、「ハンセン病患者」を探してこられました――今、世界は彼らで溢れています。私たちにはおよそ、あなたの憐れみを呼び起こさないのでしょうか？
22.
あなたは弟子たちに、人のところに戻るとおっしゃいました。来臨のしるしを与える約束もされました。私たちは、そのしるしを見ていると言っています。なぜ、私たちに確かな印は与えられないのですか？」

23.
見よ、人々は私が彼らの間にいることを感じることなく、私を待望している。私は彼らの目の前にいるが、彼らは私を見ない。私は彼らに語りかけるが、彼らは私の声を聞かない。そして、ついに瞬きを見ても、彼らは私を否定する。しかし、私はお前たち自身を証し、私を望む者たちを、これからも待ち続けるであろう。
24.
しかし、まことに、この時代の人々の頑なさは大きかった。人々の血がのように流され、大地を濡らしたことでさえ、聖霊としてのあなたがたの間にある私の存在を示していたのである。（2, 27-29）
25.
誰も私の降臨に驚いてはならない。私はすでにイエスを通して、真理の霊としての私の顕現を告げる出来事を、あなたがたに示していた。また、私の至高の霊によってなされるものであると、あなたがたに告げた。それは、決して起こることのない物質的な顕現を、誰も期待しないようにするためである。
26.
ユダヤの民を見よ。彼らは救いのメシアを待望しているが、彼らが期待するようなメシアは来ない。なぜなら、真のメシアはすでに彼らの間にいるのに、彼らはそれを認識しないからである。
27.
人の子よ、あなたは私の新しい啓示を受けようとせず、私が約束したことばかりではなく、あなたの個人的な願いにかなった私を待ち続けようとするのか。（9, 2）
28.
世界は新たなメシアを待望してはならない。私が再び来ると約束したように、私が至高の霊なるものであることも、私はあなたがたに知らせてきた。しかし、人々はそれらの啓示を決して理解できなかった。
29.
当時、人々はイエスの中に神が隠されているとは信じようとしなかった。彼らはイエスを、他の誰とも変わらない、ただの一人の人間であり、誰よりも貧しい者と考えていたからである。
それにもかかわらず、人々は後に、キリストの使命を果たすために、この世に生まれ、成長し、そしてついにあの人の中に神の「御言葉」があったとさえ確信するに至った。しかし、現代においては、多くの人が、私が第二の時のように人間として来るのでなければ、私の到来を信じようとはしないだろう。
30.
私が霊として来られ、そのようにして人類に自分自身を現されるという啓示は、信じがたいにもかかわらず、すべての人によって認められるべきではない。なぜなら、唯物論は、多くの人々の目の前に覆いとなるからである。
31.
どれほど多くの人が、キリストが再びこの世に来られ、奇跡を行われるのを見て、その降臨が存在することを願っていることか。しかし、まことに、あなたがたに告げる。この地上には、私が人間として生まれるのを見るために滞在し、私が死ぬのを見るためにもう一つのゴルゴタも、もはや存在しない。
今や、真の命へと復活する者は皆、心の中で私が生まれるのを感じるであろう。同様に、霊的な罪の中に留まり続ける者もまた、心の中で私が死ぬのを感じるであろう。（8, 27-29）
32.
見よ、この時代、どれほど多くの人が、過去の時代の聖書を研究し、予言者たちについて思索し、キリストが再臨についてなされた約束を理解しようと努めていることか。
33.
彼がこう言うのを聞きなさい。「神は近くにおられる――ヨルダンにおられる、あるいはヨルダンへ来られる」と。そしてこう付け加える。「その再臨のしるしは、はっきりと明白である」と。

34. ある者は私を求め、私を呼び求め、ある者は私の臨在を感じ、またある者は霊において私の到来を感じている。
35.
ああ、もしすべての人の中に、すでその知識の湧きがあるなら、もしすべての人の中に、至高の真理だけでなくというその湧きがあるなら！(239, 68-71)
36.
あらゆる宗教分派の人々が、私の到来を告げるしるしを見ようと、時やり生、出来事を探し回っている様子を見よ。彼らは無知者たちであり、私がすでに長い間自己を明かしており、まもなくこの種の啓示が終わりを迎えることなどはないのだ。
37. しかし、私はこう言っておく。私にこれほど関して待望している人々の多くでさえ、私自己を明かす方法（
）を目の当たりにすれば、私を認識することなく、むしろきっぱりと拒絶するだろう。
38.
彼らは私の言葉だけが届くであろう。そしてそれによって、彼らは、私自身の口から聞いたことを、それでもなお信じるようになるだろう。
39.
あなたがたまた、心の中で私の到来を待ってその待望でした。しかし、私は、あなたがたが私を認識し、この時の私の働きの一員となることを欲していた。（155, 2-4）

聖霊の約束

40. イエスを通じた私の啓示において、私は聖霊の到来を告げた。
しかし、人々は、聖霊は、彼らはまだに父なる神の中に存在する神格であると考えていた。私が聖霊について語ったとき、私が語っていたのは、人間の理解を超えて人々自己を明確に顕現していた唯一の神についてであったことを、彼らは理解できなかったのだ。（8, 4）
41.
なぜ、私の新たな啓示を誰が驚かなければならないのか。まことに、私はあなたがたに言う、古の時代の先祖たちはすでにこの時代の到来を知っており、他の時代の預言者たちはそれを見通し、予言者たちはそれを告げていた。それは、私がイエスとしてこの世に生まれるずっと前に、人々に与えられていた神の約束であった。
42. 私の弟子たちに再臨を告げ、人々にどのように現れるかを伝えた時、その約束があなたがたに与えられてから、すでに長い時が過ぎていた。
43.
今、あなたがたはあの時の預言を目の当たりにしている。ここであの預言が成就しているのだ。誰がこれに驚くだろうか。ただ闇の中で眠っていた者たち、あるいは私の約束を自己の内から消し去ってしまった者たちだけである。（12, 97-99）
*
ここで他の箇所における「闇」という言葉は、「無知」、「無明」を意味し、対照的に「光」は「認識」、「悟り」の象徴として用いられている。

44.
あなたがたがわたしの教えに深く入り込むことはほとんどなかったようだと知っていたし、またわたしの啓示を拒絶する際、あなたがたが陥るであろう誤りを予見していたので、わたしはあなたがたに、真理の霊を送り、多くの秘密を解き明かし、あなたがたが理解できなかったことを悟ってもらうと告げ、わたしの再臨を告げた。
45.
なぜなら、わたしの預言の実現において、わたしはあなたがたにこう告げるのである。すなわち、この時において、わたしはかつて雷鳴や稲妻を伴って現れるようなことはせず、また第一の時のように肉体により、わたしの愛と言葉を人間性のものにすることもない、むしろ、私は聖霊の光線に乗ってあなたがたの霊に近づき、霊感によってあなたがたの理性を驚かせ、あなたがたの心が理解できる声で、あなたがたの心の扉を叩くと告げるのである。それらの預言と約束は、まさに今、成就しつつある。

46.
あなたがたが私の光を見、私の霊の臨在を感じるために必要なのは、ほんの少しの準備をすることだけである。その霊こそ、教え、真理を明らかにするために来ることをあなたがたに告げた者である。（108, 22-23）
47.
恐れや難儀の奴隷から解き放ち、メシアの到来を認めずモーセの律法だけを守る者たちが多くいる。また、イエスを信じながらも、約束された慰め主の霊を待望でなかった者たちもいる。今、私は主権者として降りてきたが、彼らはそれを待望でなかった。
48.
天使たちはそれらの預言を告げ、その呼び声は国中に満ちた。あなたがたはそれを聞いたか。私の臨在を証しするために、霊であるあなたがたのところに来たのだ。
書かれていることはすべて成就する。ヨハネに与えられた啓示は、人間の偽りと虚栄に満ちた、人間主義的な、わたしを惑わし、わたしを父と呼ぶようになる。（179, 38-39）
49.
かつて、私はあなたがたに語った。「私があなたがたに語ったことは、私が教えなければならないことのすべてではない。あなたがたがすべてを知るためには、まず私が去り、真理の霊があなたがたに送られなければならない。そうして、私が語ったこと、行ったことすべてを、その霊が説明してくれるのだ。試練の時、私はあなたがたに慰め主を約束する。」
しかし、その慰め主、その説明者は、あなたがたを惑わし、過去の教えと、今私があなたがたにもたらすこの新しい教えを理解できるよう助けるために戻ってくる、私の人である。（139, 26）
50.
知恵の神は、あなたがたの心が望む慰めの看板がある。それゆえ、私がかつて、慰め主、真理の霊をあなたがたに約束した。しかし、試練に直面しても、ただほんの少しも恐れを感じないために、信仰を持つことが不可欠である。（263, 10-11）

成就した前兆

51.
新しい時代を告げ、私が今、霊において顕現しているという兆しを認識しているのはごくわずかである。大多数の人々は、その人生の努力を物質的な進歩に捧げ、
そして、その目標を達成するための無駄に、時には激しく、闘いの中で、彼らは盲人のように生き、方向を見失い、何を求めているのかがわからなくなり、新しい夜明けの明るい輝きを見ることができず、前兆に気づかず、私の啓示の言葉を身につけることから遠ざかる。
52.
この人類は、私が時代を通じて与えてきた啓示よりも、人間の教えや言葉をより信じてきた。父が、その証拠をもって、あなたがたが至る所目にするものよりもさらに大きくなるであろう、これが真理の霊としての私の顕現のために予言された時であることを感じ、信じるようになるのを、まだ待っているというのか。
ああ、信仰の薄い人々よ！弟子たちよ、今こそ、あなたがたは、なぜ私が折々、「私の声が聞こえているが、それが誰か、真に理解する者は誰もいない」と言うのかを理解するであろう。（93, 27-28）
53.
地のすべての人がこのメッセージの真理を信じることができるよう、私は、私の再臨を告げる預言、すなわち古くから予言されていたものが、全世界で感じられるようにした。
54.
それゆえ、この良き知らせが語られるとき、人々はこの時代に彼らに語られたすべてのことを深く考え、吟味するであろう。そして、驚きと喜びをもって、私の再臨に関して予告され、約束されたすべてのことが、ただ一つの意志、一つの言葉、一つの律法のみを特徴づけられ、忠実に成就したことを発見するであろう。(251, 49)

55.
「第の時代」*において私は弟子たちに私の新しい啓示を告げた。そして彼が、その時を告げるしるしを求めたとき、私はそれらをつぶさに告げ、また彼らに与える教訓についても告げた。
*
救の歴史はキリストによって3つの大きな区分、すなわち時代あるいは時に分けられており、「第の時代」とはイエスによる神の啓示の時代およびその後の時代を指す。詳細第8章参照。

56.
前に最後の一つに至るまで現れ、これこそがイエスが予言した時であることを告げていた。さて、私はあなたがたに問う。もし私があなたがたに分かち合っているこの霊性啓示が真実でなかったら――なぜしるしが現れたにもかかわらず、キリストは信者たちが期待していた姿で現れなかったのだろうか？それとも、読者が、あなたがたの心に全被造物を救うまで変わらずにいるとお考えなのか。
57.
かつて私は、あなたがたが偽預者、偽キリスト、偽救い主たちの誘惑に陥らないよう警告した。しかし今日、私はこう告げる。受肉した魂は、その預言、試練、経験によってすでに目覚めたため、たとえどれほど多くの難解な解釈がなされようとも、闇に惑わされることはないほどになっているのだ。
58.
それゆえ、私はあなたがたにこう言うのだ。「自己の道を歩み始める前に、いくらでも確かめよ！」と。この言葉はすべての人々――――
に与えられたものであり、私がその部分的な人のためだけに留保したことは決してないことを悟れ。この著作の中に、私があなたがたから何かを隠そうとしているような書物は一つもないことを見よ。
59.
しかし、あの「第の時代」において私は弟子たちのひとりを通してこう言った。「もし誰かが私の声を聞いて戸を開けるなら、私はその人のところに入り、彼と共に食事をし、彼も私と共に食事をするであろう。」同様に、私はあなたがたに二人の女のたとえを教えた。それは、あなたがたがこの時にそれを心に留めるためである。（3, 79-80）
60.
前に話したように、私が会堂にも、しかも教会にも現れなかったのだから――私自身の言葉に背くことはできないのだから、今まさにどこかの場所で現れなければならないことを、世の人々は悟るのだ。（1, 41）

第2章 - 第三の時代の夜明け

最初の啓示

1. 今日は記念すべき日である。今日のような日に、私は最初の伝達者たちを任命し、彼らを通して私の新たな教えと啓示を告げ知らせた。エリヤの霊がロケ・ロハス*を照らし、神の律法である道をあなたがたに思い起こさせた。
＊この最初の伝達者の名は「ロケ・ロハス」と発音される。
2. その瞬間は厳粛であり、出席者たちの魂は畏怖と歓喜に震えた。それは、シナイ山で律法が宣告された時にイスラエルの民の心が震えたのと

同様であり、タボル山でイエスの変容を目撃した弟子たちが、モーセとエリヤが霊的に師の右と左に現れた時に震えたのと同様であった。
3. 1866年9月1日、それは新しい時代の誕生であり、新しい日の夜明けであった。人類のために幕を開けた「第三の時代」である。
4. その時から、神が数千年にわたり人々に与えてきた多くの預言と約束が、絶え間なく成就し続けている。 今この時代にこの世に生きる、あなた方、男女の皆さん、それらはあなた方の前で成就したのです。あの預言が語られ、あの約束がなされた時、あなた方のうち、いったい誰が地上にいたというのでしょうか？それを知っているのは私だけですが、重要なのは、私があなた方に約束したこと、そして今、それを成就させているということを、あなた方が知っているということです。
5. 私が最後に弟子たちに現れた時、彼らが私を昇天するのを見たあの「雲」について、あなたがたは知っているか。なぜなら、私が「雲の上」から戻ってくると書かれているのは真実であり、私はそれを に成就させたからである。 1866年9月1日、私の霊は象徴的な雲に乗って、あなたがたが新しい教えを受け入れる準備を整えるためにやって来た。その後、1884年に、私はあなたがたに教えを与え始めた。
6. 私は人間としてではなく、光の束に封じ込められた霊的な姿で来た。それは、人間の知性の上にその光を留まらせるためである。これが、この時代にあなた方に語りかけるために私の意志によって選ばれた手段であり、私は、この言葉に対するあなた方の信仰を、あなた方の功績として認めるであろう。
7. なぜなら、荒野を通って約束の地へとあなた方を導くのはモーセではなく、また、救いと自由への道として命の言葉を聞かせるのは、人間としてのキリストでもないからだ。 今、あなたがたの耳に届くのは、これらの被造物の人間としての声であり、私がそこに臨在する神聖な本質を見出すためには、霊的な境地に入ることが求められる。それゆえ、私はあなたがたに告げる。この言葉は不完全な存在たちを通して与えられているのだから、あなたがたがこれを信じることは称賛に値するのだ。（236, 46-50）
8. 1866年、この業の弟子たちである最初のスピリチュアリストの共同体が誕生した。私の霊の光の下で、またエリヤの教えを受け、それらの最初の弟子たちは、今やあなたがたが、その完結を目前にして豊かに受け取っているメッセージの光線を受け取り始めたのである。（255, 10）

世界中のメッセージと示唆

9. 主の道を整えるために最初に現れねばならなかったエリヤは、1866年に初めて人間の知性を通じてその存在を明らかにした。その啓示の時期と一致して、あらゆる分野で起こった兆候や出来事を調査するために、

少し時間を割いてみてはどうか。 再び、星を研究する学者たち、すなわち古代において魔術師と呼ばれた者たちが、天が神の呼びかけであるしるしを与えたことを証言するであろう。（63, 81）
10. この言葉を聞くこの地の地点が、私がわが子たちの前に現れる唯一の場所だなどと考えてはならない。まことに、私はあなたがたに告げる。私の啓示は様々な形で世界中に及んでいるのだ。
11. 人間の知性を通じて私の啓示の先駆者としてあなたがたの中に現れたエリヤは、あなたがたが住むこの国だけにやってきたのではない。彼は地球上の場所から場所へと巡り、新しい時代の到来を告げ、天の国の到来を宣べ伝えた。
12. あらゆる方面から、私の到来を告げる叫び声が上がった。揺さぶられた自然は大地を動かし、科学は新たな啓示に驚嘆し、霊界*は人々に迫った。それにもかかわらず、人類は、新時代の先駆者たるそれらの叫びに対して、耳を貸そうとしなかった。
** この表現は、より高い来世の次元に住む者たち、すなわち神の霊界の光の霊たちを指す。*

13. 人々を闇から救い出すために、神の光の洪水が降り注いだ。 しかし、人間たちは——利己的で物質主義的*であり、魂の完成や、地上の生活における道徳的向上を追求することからは程遠い存在であった——その光を、ただ自らのための王座や栄光、肉体の安楽や快楽、そして必要とあれば、同胞の命を奪うための武器を作り出すためにのみ用いた。 彼らの目は、わが光の輝きに眩まされ、その虚栄心が彼らを破滅へと導いた。しかし、私はあなたがたに告げる。まさにこの光によって、彼らは真理を見出し、道を発見し、救われるのである。
** これは「霊的」の対義語であり、つまり、物質的・肉体的なもののみに関わる人間の生活や思考を指す。*

14. この光をその知性の中に受け入れることができ、それを神からのメッセージとして受け入れた者たちは、良心に自らの歩みを導かせ、その良心を自らの行いの指針とした。なぜなら、彼らは主が再び来られ、人々の間にいらっしゃるという予感を持っていたからである。
15. 様々な宗派や教派の代表者たちは、わたしを受け入れようとはしなかった。彼らの心、尊厳、そして偽りの高慢さが、霊的にわたしを受け入れることを妨げたのである。それゆえ、新時代の到来を感じ取り、祈り、主の霊感を受けるために孤独を求める者たちのグループ、兄弟団、そして団体が、全世界に形成されたのである。 (37, 76-81)
16. 私の再臨に備えようと努めている宗教団体があるが、彼らは私がすでに去ろうとしていることを知らない。

17. 私はすべての人を呼びかけた。そして実のところ、私の呼びかけと、私が今まさに人々に現れているという噂は、私を証しする証言や証拠――改心した罪人、回心した不信仰者、よみがえる「死者」、癒される不治の病者、そして悪霊から解放される憑依者たち――と共に、地球の隅々まで届いた。
18. しかし、私は多くの者が耳を貸さないのを見出した。また、この世の地位に驕る者もいれば、私の啓示を「真理の霊」として広めるにはあまりにも臆病な者もいた。私は、私のもとに来て、私の愛を信頼したすべての人を受け入れ、教えを授けた。（239, 17-19）
19. 他の国々から、この民のもとへ大勢の人々がやって来るだろう。彼らは、あなたがたがこの時期に で立ち会った霊的な出来事について、また、私があなたがたに与えた啓示や預言について、熱心に尋ねてくるであろう。
20. なぜなら、世界の多くの地域で、私の神聖な光線が西のある一地点に降りてきて、この時代の人類に語りかけるという私のメッセージが受け取られているからである。
21. 時が来れば、あなたがたは、他の民族や国々から人々が訪ねて来るのを目にするだろう。その時、主要な宗派の人々は、私が向かった相手が自分たちではなかったことに衝撃を受けるだろう。（276, 45）
22. 世の人々は、私の新たな顕現にどれほど無関心なことか！目を覚まして私を待ち望む者はいかに少なく、眠り込んでいる者はいかに多いことか！
23. 私を待ち望んで生きる者たちについて言えば、この時代に私の臨在がどのような形をとるか、その実態をすべての人々が予感しているわけではない、とあなたに告げよう。 なぜなら、古い信仰観の影響下にある者たちは、私が人間としてこの世に戻ると考えている一方で、他の者たちは、私が人間の目に見える何らかの姿で現れなければならないと信じているからだ。そして、真実を察し、私の到来が霊的なものであると予感している者は、ごくわずかである。
24. ある者たちが、私がどのような姿をとるか、いつ、どの日に地上に現れるか、またどの場所に現れるかを問う一方で、特定の姿や時期を考えずに、「師はすでに私たちの間におられ、その霊である光が私たちを包み込んでいる」と言う者たちもいる。
25. このメッセージがすべての人の心に届いたとき、ある人々にとっては歓喜の瞬間となるだろう。なぜなら、彼らはこのメッセージの中に、自らの予感と信仰のすべてが裏付けられているのを見出すからである。 一方、他の人々は、このメッセージが、自分たちが起こると思っていたことや、それが現れる方法と一致しないため、その真実性を否定するだろう。（279, 41-44）

主の先駆者としてのエリヤの働き

26. わたしは「第三の時代」*にエリヤを帰還させた。そして、主として、わたしはあの「第二の時代」に彼を予告し、こう言った。「まことに、エリヤはあなたがたの中にいたが、あなたがたは彼を認識しなかった。わたしは世に戻るが、まことに、あなたがたに言う。わたしの前にエリヤが現れるであろう。」

** 第38章を参照。*

27. 師の御言葉はすべて成就するものであるから、エリヤは「第三の時代」において、私の前に来て、魂たちを目覚めさせ、聖霊の時が扉を開いたことを彼らに予感させ、すべての魂に、目を開き、第二の時代から第三の時代へと閾を越える準備をするよう告げたのである。 この「第三の時代」において、エリヤの啓示 がより理解しやすいものとなるよう、私は彼を、ある義人、すなわちロケ・ロハスを通じて現れさせた。

28. エリヤはあの世から霊的にこの男を啓発し、彼に霊感を与え、彼を強め、初めから終わりまで、彼の歩むすべての道を導いた。

29. しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。彼が人間の中からロケ・ロハスを選んだのではない。 私が彼を選び、私の慈悲によって整えられたその魂を遣わしたのである。私は彼に、同じく私によって整えられた肉体を授けた。そして、あなたがたも知っている通り、彼は謙虚であり、その謙虚さと徳によって、父は偉大な業を成し遂げた。彼は預言者であり、代弁者であり、予言者であり、導き手であった。これらすべてにおいて、彼は民に輝かしい模範を残した。

30. 彼は、モーセが荒野でそうであったように、自らの民から嘲笑され、侮られた。預言者エリヤのように迫害され、民のために祈り、彼らを擁護するために、山々の頂上に身を隠さなければならなかった。

31. 彼は師と同様に、祭司や律法学者たちから嘲笑され、非難された。師と同様に、彼を信じ、従い、彼を取り囲んだのはごくわずかな人々だけだった。彼の手からは癒しの力が溢れ出し、奇跡を起こしたが、それはある者には信仰を呼び起こし、またある者には混乱をもたらした。 ある人々にとっては、彼の口から発せられた預言の言葉は、文字通りその通りに成就した。彼の口は、病んだ心に満ちた慰めの助言を与えた。 32. 彼の精神は偉大な霊感を受け入れることができ、義人、使徒、預言者たちのように恍惚状態に陥ることができた。 彼の霊は、この世と肉体から解き放たれ、霊界へと入り、主の秘宝庫の扉へと謙虚に近づくことができた。この昇華によって、主の光が降り注ぐ前に、エリヤの霊は最初の証人たちにその姿を現した。（345, 57-58）

33. ロケ・ロハスは、信仰と善意に満ちた男女のグループを集めた。そして、その最初の集会の場において、エリヤは使者の知性を通して自らを顕現し、こう語った。「私は預言者エリヤである。タボル山で変容した者である。」 彼は最初の弟子たちに最初の教えを与え、同時に霊化の時代を告げ、
、まもなく神の師の光が降りてきて、その民に語りかけると預言した。
34. ある日、ロケ・ロハスの質素な集会所が、この男の言葉を信じる信者たちで満ち溢れていた時、エリヤは使者の精神を啓発するために降りてきて、私から霊感を受けて、七つの封印を体現し、あるいは象徴することとなる七人の信者に油を注いだ。
35. その後、私の啓示が約束された時が来たとき、私は、その七人の選ばれた者たちのうち、ただ一人だけが、清き花婿の到来を待ち望んで見張っていたことを知った。その心は、処女ダミアナ・オビエドのものであり、彼女の精神は、その粘り強さと準備への報いとして、神の光の輝きを最初に受け取ることを許されたのである。
36. ダミアナ・オビエドは第六の封印*を体現していた。これは、第六の封印の光こそが、この時代を照らすものであるというさらなる証拠であった。（1, 6-9）
** ヨハネの黙示録に由来するこの用語は、「七つの封印」のうちの最後から二つ目を指し、これらは救いの歴史における3つの時代の中にある7つの時代を象徴するものとして理解される（詳細は第38章を参照）。*

37. 神の使者の臨在を真に感じることができた者は、ごくわずかであった。 彼は再び、荒野で叫ぶ声となり、人々の心を、間もなく訪れる主の到来に向けて整えた。こうして第六の封印が解かれ、その中身が明らかにされ、正義と光の川となって人類の上に注がれた。このようにして、多くの約束と預言が成就したのである。
38. エリヤは、イエスやモーセと同様に、あなたがたが父を見るようにと、あなたがたの霊の目を照らした。 モーセはあなたがたに「隣人を自分自身のように愛せよ」と教えた。イエスはあなたがたに「互いに愛し合いなさい」と言われた。エリヤはあなたがたに、隣人に対してますます深い憐れみを持つよう命じ、すぐにこう付け加えた。「そうすれば、あなたがたは、そのすべての栄光のうちに、わたしの父を見るであろう。」（81, 36-37）
39. 人類を包む闇が消え去り、魂の中に光が差すとき、人々は新しい時代の到来を感じるだろう。それは、エリヤが人々の元に戻ってきたからである。

40. しかし、人々は彼を見ることはできなかったので、彼の霊が人間の理解力を通じて現れ、預言者エリヤのあの象徴、すなわち雲の上の炎の戦車に乗って、預言者たちのもとに姿を現す必要があった。
41. エリヤはこの時代、私の到来に備える先駆者としてやって来た。彼は預言者として、その闘いや試練、そして啓示の知恵を伴った新しい時代を、あなた方に告げるために来たのである。 彼はその光の乗り物に乗ってやって来て、あなたがたをその乗り物に乗るよう招き、雲の上へと運び上げ、平和が支配する霊的な故郷へと連れて行くのだ。 善き羊飼いである彼を信頼し、「最初の時代」に民がモーセに従ったように、霊的に彼に従いなさい。あなたがたが使命を果たす際に彼が助けてくれるよう祈りなさい。そして、もし彼に倣いたいと思うなら、そうしなさい。（31, 58-59）
42. 人類には認識されなかった大いなる力を持つ霊、エリヤは、常に私の先駆者であった。今日、彼は再びやって来て、私の代弁者として仕えてきた「印された者たち」*、そしてすべての人々を準備させている。
** 「印された者たち」（スペイン語：marcados）あるいは「封印された者たち」（ヨハネの黙示録第14章1-5節）とは、キリストに選ばれ、その額に神の三位一体の印を受けた者たちである。（詳細については第39章の最後の節を参照のこと）*

43. もしあなたがたが準備を整え、私の意志を知るために私の教えを学べば、エリヤが助けに来て、あなたがたの支えとなり、友となるだろう。
44. エリヤは、すべての存在を照らし、導き、わたしのもとへと導く神聖な光線である。彼を愛し、あなたがたの先駆者であり、執り成し手として崇めよ。（53、42-44）
45. 「第三の時代」の先駆者であり、その前触れである預言者エリヤは、その群れのために執り成し、祈ることを知らない者たちのために祈り、罪人の汚点をその外套で覆い隠し、その再生を願っている。 エリヤは、無知、罪、狂信、そして人類の物質主義によって生じた闇と戦うために、その群れ、その軍勢を整えている。（67, 60）
46. 今や、すでに備えられ、目覚めたすべての者の任務は、世界の解放を告げ知らせることである。この時代に約束されたエリヤが、かつてモーセがエジプトでイスラエルの部族たちに対して行ったように、物質主義に奴隷とされた地上の諸国をファラオの支配から救い出すために、現在すべてを準備していることを思い起こせ。
47. 同胞たちに、エリヤはすでに人間の知性を通じて現れ、その存在は霊的なものであり、すべての民族が進むことができるよう、今後も彼らの道を照らし続けると伝えなさい。

48. あなたがたの羊飼いの使命は、すべての被造物を、それが霊的、道徳的、あるいは物質的な領域に属するものであれ、その真の道へと立ち返らせることである。 それゆえ、私はあなたがたに告げる。エリヤを通して主の呼びかけを受ける国々は祝福されるであろう。なぜなら、彼らは正義と愛の法によって結ばれ続け、その理解と兄弟愛の果実として平和をもたらされるからである。このように結ばれた彼らは、戦場へと導かれ、そこで堕落、物質主義、そして虚偽と戦うことになる。
49. この戦いにおいて、現代の人々は新たな奇跡を目の当たりにし、不死と平和を語る、人生の霊的な意味を悟ることになる。 彼らは互いに殺し合うことをやめるだろう。なぜなら、彼らが滅ぼさなければならないのは、彼らの無知、利己心、そして物質的にも精神的にも彼らの没落と苦難を生み出した破滅的な情熱であることに気づくからである。（160, 34-36）
50. エリヤは神の光線であり、その光をもって彼はあなた方の闇を追い払い、罪の時代であるこの時代の束縛からあなた方を解放し、あなた方の魂を、神の懐にある「約束の地」に到達するまで、荒野を導いていくであろう。（236, 68）

第3章 – キリストの再臨という霊的な太陽

主の到来

1. 私は、新たな発見が人々の生活を一変させたこの時代に、人類の中に臨在している。そして、かつてあなたがたが私に対して抱いていたのと同じ謙虚さをもって、あなたがたの間での私の臨在を感じさせている。
2. 神の使者が再び人となっただけでなく、キリストが再び馬小屋の貧しさの中で生まれただけでもない――いえ、もはや神の存在を証するために肉体の必要はなかった。もし人が、この肉体の世界に降臨した神であると考えているなら、それは誤りである。神の存在は霊であり、普遍であり、無限である。
3. もし、この時に人々が成し遂げたすべてが、正義と善の範囲にあるのであれば、私は再び下って来て、あなた方に語りかける必要はなかったろう。
しかし、この類私達のすべての行いが善であるわけではない。多くの過ち、多くの不正、多くの偶像、そして多くの悪がある。それゆえ、人間自らの行いに最深く頭を垂れるときに、私は愛の眼差しを見出させ、彼らのように義務を忘れていたか、そして今あるもの、そしてこれからあるべきものすべてを誰が負っているのかを思い出させる必要があったのだ。
4. 霊に霊と私を認識することができなかった物質にしてしまった類に、私の声を届けるためには、私は彼の霊的機能を用い、人間の知性を通じて自らを明かさなければならなかった。

5.
私が降りてきて、あなたに語りかける理由の説明は、次の通りである。あなたは、主霊と霊と話すために自己高揚に陥ることができなかったため、私は段階を降りなければならなかった。すなわち、あなたが到達できない霊性領域、神聖領域からである。
そこで私は、人間の脳内に位置する知性という器官を用い、私の神聖霊感（インスピレーション）を人間言葉や物質的音声へと変換せざるを得なかった。
6. 人間はより広範な知識が必要であり、神についてが人間の全てに対して、知性を持つのである。もし、選ばれたが、これらの特別の理性の器官を通じてのみの知識、啓示の形成として、あなたにふさわしくないと思われるならば、私は真実を告げよう。彼らを通じて与えられるメッセージは、実に偉大なものである。
あなたがたは、私の啓示が、人々に感銘を与えるような華やかで儀式的形式であることを望むかもしれない。しかし、実際は、霊的観点から見れば、それらは真の光を含んでいないため、虚しいものだけだろう。
7.
私は、自分の力をはっきりと示すために、稲妻や嵐を伴って現れることもできた。しかし、そうすれば、人々が「自分の罪が赦された」と認めるのは、どれほど容易なことだけだろうか！しかし、その場合、恐怖心があなたの心を占めるため、理解度は何という観念も戻ってきのではないだろうか？
父の愛の感情はすべて、ただその正義の怒りへと変わってしまっていたのではないだろうか？しかし、あなたがたは知っておくべきだ。神は全能の力があるにもかかわらず、その力によってあなたがたを負かすことはなく、それによって変えようとはしない。むしろ、別の力、すなわち愛の力によってそうするのだ。
8.
今日、宇宙に語りかけているのは神聖霊である。かつてあなたがたがはっきりと認識できなかったすべての事柄を告げるのは、まさに神聖霊である。御霊はすべての人にとって新たな日の夜明けである。なぜなら、御霊はあなたがたを誤った恐れから解放し、疑念を取り除き、あなたがの魂と精神を自由にするからである。
9.
私はあなたに告げる。私の教えの本質と、私の法の正義を受け入れた後、あなたは、自分の罪深さを認識できる限界、そしてそれが、真実にふさわしくない認識を変えることなくできることを、認識するようになるだろう。
10.
もはや、探求し、発見することがあるのは、罰の恐れに対してではない。あなたがたが、自分にとって理解できないものを真実に見つけるときのみ、良心がその道を導くだろう。なぜなら、人間は全てを与えられるわけではなく、自分にふさわしい部分のみを理解できることを、あなたがたはよく知っているからである。
11.
人々よ、もし私の教えが、戦争や解放された自然の猛威、疫病、そして飢饉の中にあると予告されていたとしても、それは私がこれらすべてをもたらしたからではない。それは、まさにその危機瞬間に、私の存在が人類にとって助けとなるからである。
12. さて、ここに私の再臨について語れてきすべてのことが成就する。
世界が揺れ、地球のあらゆる声とともに震え、身震いしながら、新しい人類の道を切り開こうとしているまさにその時、私は人々のもとへやってくる。それゆえ、「第二の時」における神の呼びかけは、正義、兄弟愛、そして平和をその内容とし、それを支持する愛の呼びかけなのである。
13.
かつてキリストの言葉は弟子たちの内に芽生え、彼らは全世界でその種を蒔いた。その教えはなお、その真実は全世界に及んだ。

同様に、今日の教えはより広まり、それを感取し理解する能力を持つすべての人々によって受け入れられるであろう。(296, 17-27, 35)

すべての目が私を見るだろう

14. イエスは弟子たちにこう言われた。「わたしは、あなたがたからほんの少しの間離れるだけだ――また戻ってくる。」その後、彼らの師が天使たちに囲まれ、「雲の上」からやって来て、光線を地上に降り注ぐことが彼らに啓示された。

15.
今、私はここに雲の上にいます。私を取り囲む天使たちは、あなたがの間に、私の神性の使者として、またあなたがの良き指導者として現れる霊的存在たちです。その光線は、あなたがに新たな啓示をもたらし、あらゆる性質を聖に満す、私の恵みのです。

16. 見ることなく信じる者たちは幸いである。彼らは、私の臨在を感じる者たちからである。（42, 50-52）

17.
人はその霊によって真理を見、すべての人が私の臨在を感じるであろう。なぜなら、その時が来れば、すべての目が私を見るようになると、私はかつてすであなたがに告げていたからである。

18.
さて、あなたがが生きているこの時は、まさに、私の恵み過去の時代の預言者たちによって予告された、すべての人がその霊感覚能力によって私を見るようになる時である。

19.
彼らが私を見と言うために、私を人間の姿という限られた形で見る必要はない。むしろ、彼の霊が私を感じ、彼の理性が私を理解すれば、彼らが私を見たのと、完全に真実をもって言えるようになるのである。

20.
愛と信仰、そしてそれは、あなたがの目ができるより先はるかに遠くまで見通すことができる。それゆえ、あなたがは告げる。あなたがたがわたしを見させるために、わたしが自分の存在を人間の姿に限定したり、あるいは何かの象徴的姿にしたりする必要はないのだ。

21.
あの第一の時代に私を見たり、私と共に歩んだりした人々のうち、どれほど多くの者が、私が誰であるかさえ知らなかったことか。それに対して、私が人間として生まれたことさえ知らなかった人々のうち、どれほど多くの者が、霊の中で私を、私の光によって私を認識し、その栄光に私の臨在を喜んだことか。

22.
あなたがたは皆、目覚めた信仰によって、あなたがが私の子であることを証明なさい。あなたがたは皆、わたしを見ることができるが、そのためには、善意と信仰を持つことが不可欠である。（40, 45-51）

23.
わたしはあなたがたに言う。もしこの人類が、愛の如く正義と善からの力によって、さらにわたしに敵対するならば、わたしはサウロの前に現れたように、彼らの道に栄光に満ちて現れ、彼らにわたしの声を聞かせるであろう。

24.
そうすればあなたがたは、知らずにおのうちにわたしを宿していた者たちの多くが、変容し、啓発されて、善と愛と正義の道を歩むわたしの後に従うようになるのを目にするだろう。

25.
私は彼らにこう言うだろう。「立ち上がれ、旅人たちよ。この小屋のように、澄んだ水の泉が欲しくないか。私があなたたちに課した過酷な人生の旅路から、休息をとれ。あなたの渇きを癒すために、私の愛があなたの魂の深くまで入り込むことを許しなさい。私はあなたたちを慰めで満たし、励ますものだから。」（§2, 46）
26.
わたしの愛は、あなたがたの心の最も繊細な琴線に震えをもたらすだろう。しかし、あなたがたにこの神聖な旋律を奏でさせるのは、あなたがたの良心との調和によるものであり、あなたがたの多くは、イエスの霊性の姿の中にわたしを見るだろう。
27. イエスの姿こそが、あなたがたが私を見る最も完全な形ではないことを、私は指摘しておかなければならない。
かつて私が「すべての目が私を見る」と語ったとき、私はあなたがたが全員、真理を悟ることを予期していた。とはいえ、私は各人の魂の成長段階に応じて、自己を制限せざるを得ないことを知らなければならない。しかし、あなたがたが完全性の階段を登っていくにつれ、確かに私のすべての栄光の中にあなたを見るようになるだろう。
28.
今しがた私があなたを祝福しようと試みてはならない。考えてみよ。あなたがたの霊はたとえ限られているとはいえ、本質であり、光である。それならば、始まり、終わりがない（
）あなたがたの永遠の霊性はいったいどのような姿をしているというのか。その測り知れない神秘は、私の『神性聖書』の中に留めておきなさい。（§14, 69-70）
29.
私の「第一の時代」の御言葉において、私は再びあなたがたのところへ来ること、私の霊性の輝きが私と共に降りてくることを告げた。しかし、人類は私の御言葉の意味を正しく理解せず、解釈を誤った。
30.
それゆえ、あらゆる教団や自分たちの真ん中で私を待望し、この地上で見ることを期待している。しかし、今のように私を待ち望んでいる者たちは、かつてイエスがメシアであることを否定し、彼を冒瀆と見なした者たちと同じである。
31.
今日、私はあなたがた、私の弟子たちに言う。あなたがたが私の全き栄光の中にある私を見る時が来る。その時、地球とその住人は清められ、魂の美しさが回復される。
苦しみは消え去り、すべての悪は消え、あなたがたにとって終わりのない、無限の一日となるだろう。あなたがたはこの約束を見ようと思わないのか。あなたがの子供たちが、私の霊と話し、罪の消滅されて平和な世界を築けるようになることを望まないのか。（§181, 74, 81）
32.
もしも人類が「第一の時代」と「第二の時代」の預言を正しく理解していたならば、それらの預言が実現したとしても、混乱することはなかったであろう。「第一の時代」にメシアが人の間に生まれた時と同じことが起こったが、今、私が霊として来られた時も、まさに同じことが起きている。
33.
私が教えの真意は、どちらの時代においても同じである。それは、あなたがたがこの世をたとえ儚いものであっても、愛に満ち住まいとするよう満たすためのものであり、そこでは人々が互いを理解し合い、そして、真の兄弟愛の温もりを互いに分かち合うのである。
34. また、この人生の後、主が御子らのために用意しておられるあの世界、あるいは彼らと入るために、魂を準備しなさい。
私の願いは、あなたがたがそこにたどり着いたとき、見知らぬ場所と感じるのではなく、霊性という感覚によって、出会うすべての

ものを あなたも 前にもそこにいたかのように見ることができるようになることです。もしあなたが、すでにここで肉体を通して霊的なものとつながっているならば、そこには多くの真実があるでしょう。（2, 9-10）

35.

私は あなたがたの扉の前に立っている。私は叩くが、あなたがたはそれが誰なのか分からない。あなたがたは扉を開けるが、私を認識しない。私は村にやって来て、自分を誰一人としては知らない旅のようであり、異国の地に入り、その言葉では理解されない（）外国人のようだ。私は あなたがたの中でそのように感じている。いつになったら、あなたがたは私の存在を感じるようになるだろうか。おお 人々よ、いつになったら、かつてエジプトでヨセフが兄弟たちに認められたように、あなたがたは私を認めるようになるだろうか。（10, 1）

第3章 神の啓示による教え

啓示の源

1.

常に神の中にあり、キリストの中にあり、今日あなたがたが聖霊によって知っている言葉が、あなたがたに語りかけている。なぜなら、言葉とは 言葉であり、律法であり、メッセージであり、啓示であり、知恵からである。

もしあなたがたがキリストの言葉を通して言葉を得、今聖霊の霊感によってそれを受け取っているならば――まことに、わたしはあなたがたに言う、あなたがたが聞いたのは神の声である。なぜなら、神はただひとり、言葉はただひとつ、聖霊はただひとりからである。（13, 19）

2.

声の調子や唇を通して語られる言葉の中にある、その光の源は何であるか、あなたがたは知っているか。その源は、善、神の愛、神から発せられる普遍の光である。

それは あなたがたに命を与えるあの父なる神の一筋の光、あるいは粒の火であり、万物を動かし、万物を養い、肥沃にし、絶えずその軌道を描いて無限の力の一部である。

それは あなたがたが「神は輝き」と呼ぶものであり、魂を照らし、生かす神聖な霊の光である。（29, 42）

3.

今この瞬間、常にあなたがたの救いのために来られた方が、あなたがたに語りかけている。キリスト、すなわち神の約束であり、「第一の時」にイエスとして人となった神の言葉、その言葉なるもの。

愛と光と聖霊であり、一筋の光線の中に封じ込められ、その光線は人間の精神、魂、そして理性を通り、私の考えるように彼を導くのである。（10, 33）

4.

私は この世において遣わされ、言われ、被害とされたキリストである。「第二の時」において あなたがたがイエスを通して私にしたすべてのことを経て、私は あなたがたの元へやって来る。それは、私が あなたがたを赦し、愛していることを もう一度証明するためである。

5.

あなたがたは私を釘付けにするが、私はまた同じように あなたがたのところへ戻ってくる。なぜなら、私は慰めと いう形で、私の霊、真理をあなたがたの目から隠したりはしなかったからだ。しかし、あなたがたが私を認識できるようにするためには、まず あなたがたは自分の心を清めなければならない。（29, 27-28）

6.

今日、私は あなたがたに言う、ここに師がいる――人々がガリラヤの子と呼んだその人だ。私は、永遠の通りを歩く、すなわち愛の教えを あなたがたに与える。今日、私が あなたがたに授ける霊的なものであり、パも

ワインもお同様である。しかし、今日、かつてのように、そしてその時も変わらず、私は道であり、真理であり、命である。(68, 33)

啓示の場と啓示の受け手

7.
私が父の言葉であることを、また、あなたがたの君主の中で受け取る聖なる本質は、この創造の霊からの光であることを、そして、私があなたがた一人ひとりの内に私の霊の一部を残したことを、覚えておきなさい。

8.
しかし、今まさに私の君主を務めている者たちは、巻く貧しさや、あなたがたが集まっているこの場の貧しさを見ると、あなたがたはその中で私にこう問いかける。
「師よ、なぜこの時に、あなたにふさわしい豪華絢爛な儀式が捧げられるような、あの大きな礼拝堂を、あなたの啓示の場として選ばなかったのですか？」

9.
師についてこのように考えている人々の心に、私はこう答える。私をこの貧しさへと導いたのは、人間たちではない。私自身が、私の教えをあなたがたの内に貧しい状態で住まうことを選んだのだ。それは、私があなたがたにおいて、その本質的な貴さを見出す聖なる本質であることを、あなたがたに理解してもらうためである。
私はまさに、あなたがたの魂の中に霊性を見出せるよう、改めて謙虚さを持って戻ってきたのだ。(86, 24-25)

10.
ある人々は、集会の場の貧しさや貧しさ、そして私自身を見窄らしい状態にしたことを理由に、私の存在を認めようとしない。しかし、そのような疑いを持つ人がヤシュアの物語を読めば、彼が決して見せびらかしや贅沢、あるいは喜びを求めたことはなかったと気づくはずである。

11. これらの場は、かつて私が生まれた馬小屋のように貧しく、ささやかなものであってもよい。(126、38-39)

12.
私がこの国を新たな啓示のための最後の瞬間に選んだなどと思ってはならない。すべては遠い昔から定められていたのだ。この地、この民族、そしてあなたがたは、私が準備してきたものであり、私の誕生の時また、私の意志によってあらかじめ定められていたのである。

13.
私は最も卑しい者たち、すなわち、その人生と魂を清く保ってきた者たちの間で、私の啓示をなすと決めた。その後、私はすべての者が私のもとに来ることを望んだ。なぜなら、私の食卓は、差別や優劣がないからである。
この民に与えた私の言葉は、その形式において単純で謙虚であり、あなたがたにとって理解しやすいものであったが、その意味内容は極めて明快であり、あなたがたの精神にとっては探究しがいのあるものであった。なぜなら、私はあらゆる知識の宝庫であるにもかかわらず、常に単純かつ明快に表現し、啓示するからである。私は誰にとっても謎ではない。その謎や神秘は、あなたがた自身が生み出したものに過ぎない。(87, 11-12)

14.
最初に私の言葉を聞いた者たちは、私の業をまるで一本の木のように扱い、最初の枝を切り取って、それを様々な地域に移植した。ある者は私の教えを正しく解釈したが、ある者は道を誤った。

15. 貧しい集会の陰に集まったグループは小さなものだった。
しかし、その数が増え、人の群れが拡大するにつれ、私は彼らに語りかけた。それは、すべての者が一人の師の弟子であることを自覚し、同じ方法で教えを実践するためであり、また、種が働き人*の手によってではなく、神の御心に従って蒔かれるようにするためであった。

* イエスのたとえ話の登場人物のこと。

16.
新約聖書の箱舟の前で人の群れは服従、従順、そして善意を誓った。しかし、暴風雨が猛威を振るい、木の枝がしばしばちかけるようになると、弱気な者もいれば、揺るぎない堅固さを続け、新しい「動物」たちに畑を耕す教えた者もいた。
17.
この啓示の偉大さを語る者の中には、他者より優れた立場のための知識を手に入れるべく、私の意志そのものの奥義に深く入り込もうとした者もいた。しかし、彼らはすぐに私の厳しさに直面することとなった。
18.
また、この業の偉大さを、その純粋さ、その簡素さの中で発見することができなかった者たちは、私の啓示に威厳を与えることができると考え、宗教的儀式、象徴、儀礼に頼り始めた。（34, 27-30）
19.
この啓示が明らかにされ始めて来、たとえ偽預者たちが現れたとしても――知性を誇る者たちの中にも、まだ教育のない貧しい無知な者たちの中にも――、あなたの精神は私の教えによって照らされてきた。
20.
この啓示を否定しようとする議論はどれほど多かったことか！この真実を滅ぼそうとする試みはどれほど多かったことか！しかし、何一つ私のメッセージの歩みを止めることはできなかった。それどころか、この偏狭な反対にあうほど、人々の信仰は燃え上がり、時が経てば経つほど、私と私の真実を伝える者たちの数は増していった。
21. ここから何を学ぶべきか。それは、人間の力では、神のみがその御旨を遂行することを決して阻止できない、ということである。
22. 人々がこれらの集会の場の中で集まったとき、彼らは常に世界を恐れることなく、常に私のなかに保護を見出してそうしてきた。そして私は、彼らの信仰の真実に基づいていることを彼らに証明した。（29, 28-30, 37）
23. この共同体の中に、私はだれよりも愛情に満ち、素朴で謙虚な心を持つ者たちからなる、新たな預言の群れが生まれた。もちろん、彼らの間には、私の存在をこれまで目にしなければならない新しいトマスも、私を信じながらも人の恐れから私を否定してしまう新しいペトロも、そして金銭欲のために私の真実を売り渡した、私を裏切る新しいイスカリオテのユダも、欠けてはいなかった。
24.
この民を構成する数百人の群れは、都市、地方、村々に広がっていった。そして、この民の中から、真理と正義の使徒たち、主の教えに熱意を燃やす補助的な働き手たち、そして真実を証しする殉教者たちが現れた。（213, 72-73）
25.
わが新たな啓示において、私はすべてを変えた。すなわち、啓示の場と手段を変えたのである。それは、わが以前の啓示に対してなされた無知、誤り、そして誤った解釈を排除するためである。
太陽が東から昇り、正午には天頂に達し、その後に沈むのを見るように、私の霊の光も、東から西へと移行した。それは、あなたがたが私の光を、特定の場所や人々、あるいは種族に限定しないためである。（110, 9）
26.
私にとって、ごく少数の者たちが私を信じるだけで十分である。なぜなら、彼らは私のその証しを明白に伝えるからである。もし私がすべての人々を呼び集めたとしても、その大半は、世俗の誘いに惑わされて来なかったであろうと私は知っている。彼らは私を否定し、善意を持つ人々が私を信じるようにさせるであろう。
27. 私自身を見出すこの新しい場の静寂の中で、私は私の種を蒔かせる。
私は、素朴な心を持つ者たちを目覚めさせるだけで、彼らが物質的な世界の騒音から離れたとき、愛、永遠、霊、そして真の人間的・霊的価値について語りかける。それによって、彼らが感覚ではなく、霊を通して生を見つめるよう導くのである。
28.
私はこれらの子供のような者たちを呼ぶ。彼らはかつて何も所有したことがなく、隣から羨ましがられたこともなかったが、私によって召された

という誘惑に満ちた新しい命とみなした。
主が彼の神託を授け、愛の道を示してくださったのに、彼は人間の役に立てるという確信と勇気をもって立ち上がったのである。
29.
彼が12人の弟子と名乗るのに、彼を否定し、嘲笑する者もいるかもしれない。しかし、まことに、あなたがたに告げる。たとえ彼からこの恵みが奪われたとしても、彼はなおも私の弟子であり続けるのだ。（191, 33-36）
30.
世界は、私の声が彼を呼ぶのを待っている。人の心はたとえ闇において死んでいるとしても、キリストの声が近き「起き上がり、歩め」と告げるのを待望している。
31.
「貧者たち、盲人たち、病者たち、そして投げ捨てられた者たちは、非常に大きな力を成している。わたしは彼のもとへ行く。なぜなら、霊にも肉体にも苦しんでいる者たちは、わたしの臨在を最も受け入れる準備ができているからである。
世の権力者たち――権力、富、そして自給自足している者たちは私を必要としていないと思い込み、私を待望していない。彼らはすでにすべてを持っていると言うのだから、キリストが彼らに何を与えようか？
もしかすると、いくつかの霊的な恵みや、永遠における冒険だろうか？　そんなことは彼らは興味がないのだ！
32.
それゆえ、私は肉体にも精神にも貧しく病んだ人々を求め、彼らに私の教えを説いたのだ。彼らは私を望み、私を探し求めていたからである。したがって、私が人類の前に現れるお時が来たとき、彼が私の臨在を感じ取ったのは、ごく自然なことであった。（191, 32-34）

神の啓示の伝達

33. 人間の知性によるこの啓示を疑う者は、他の被造物に対する自らの優位性を否定するかのように振る舞っている。それは、あたかも自らの精神を否定し、無限の試練、苦難、闘争を経て到達した精神的・知的な水準を自覚しようとしないかのようだ。
34.
私やあなたがの知性精神を通して自己を見ることを否定することは、自分自身を否定し、下等な被造物の立場に身を置くことを意味する。
35.
人間が神の子であることを知らない者がいるだろうか。人間が自らの内に聖霊を宿していることを知らない者がいるだろうか。ならば、父と子の間に、互いに意思疎通するための手段があるはずであり、存在しなければならないと、なぜ信じないのか。
36.
私は肉体であるゆえに、あなたがの知性を通して語りかける。私は霊であるゆえに、あなたがの霊に語りかける。しかし、私の啓示を否定する者たちが、私を霊として見ようとも、認識しようともしないならば、どうしてこの真理を理解し、受け入れることができようか。
彼らはその神に多くの誤った観念を抱いており、例えば、私が人間の姿をした聖なる存在であり、私とつながるためには象徴や像を通してそれを象徴しなければならない、という考えを抱いている。
37.
何世紀にもわたって、このように私を崇めた人々は、自分たちが祈りを捧げ、儀式を行い、像や彫刻の前にひざまずく習慣の中に、「神を見ることも、聞くことも、感じることも、誰にも触れることもできない」という考えが芽生えてしまった。
「私は人間に近づくにはあまりに高貴すぎる」ということで、人々は私に敬意を表していると思い込んでいる。しかし、彼らは間違っている。なぜなら、私の人間のような被造物に関するにはあまりに偉大すぎると宣言する者は、私の霊があなたがに明かした最も美しいもの、すなわち謙遜という無垢な者からである。

38.
もしあなたがキリストを信じ、キリスト教徒であると主張するならば、主があなたがたに近づかれる値打ちなどという、そのような無意味な考えを抱いてはならない。神の使徒たちが殉教したという、神の愛の証そのものが、まさにあなたがたのキリスト教信仰の基盤であることを、忘れてしまうのか。
魂の暗く、知性の弱い、罪深く肉欲的な人々の理解に、私が神の声を人間の言葉として聞かせたこと以上に、これほど具体的で人間的な接近があっただろうか。
39.
これこそが、人間に対する愛、謙遜、そして隣人の最大の証であり、私はそれを血をもって確証した。それは、私にとって隣人者は誰一人としていないことを、あなたがたが常に心に留めておくためである。なぜなら、私は泥沼、闇、そして悪魔の神に最も深く迷い込んでいた者たちのためにこそ、私の言葉を人間として現し、私の血という命の犠牲を払ったのである。
40. それなのに、これらすべてを信じている者たちが、なぜ今、私の降臨と啓示を否定するのだろうか。
なぜ彼らは、神は無限であり、人間などよりも比較にならぬほど、あまりに偉大で、不可解であるから、これは不可能だと主張しようとするのか。まさにこれこそ、わたしはあなたがたに言う。この時にわたしの啓示を否定する者は、あの第一の時における世のわたしの降臨をも否定し、わたしの愛と謙遜をも否定しているのだ。
41.
罪であるあなたがたにとって、自分の罪深さが私から遠く離れていると感じることは、ごく自然なことだ。しかし、私にとっては、あなたがたが遠ければ遠いほど、魂を引き裂かれるほど、私はあなたがたに寄り添い、光を与え、手を差し伸べ、あなたがたを癒し、救うことが、ますます必要であると感じている。
42.
私が再び肉において現れたとき、多くの者が私を否定するだろうと知っていた。それゆえ、私は当時でも理解できていた。しかし同時に、その時私の降臨は霊的なものであることも明らかにしておいた。もしあなたがたがそれを望むならば、福音書や私の言葉を記したあの四人の弟子たちの証言によって確かめてほしい。
43.
今、私は霊としてここにあり、輝く雲からあなたがたに私の言葉を送り、これらの伝達者たちを通してそれを人間的な言葉として伝えている。これは、あなたがた全員が到達すべき啓示、すなわち霊と霊の対話の準備としての教えである。（31, 1-10, 13）
44.
神の御心は、恍惚状態にある私の預言者たちによって言葉と変えられ、それが文として結晶することで、啓示という完全な教えに満ちた霊的な言葉を形成し、確立した。
45.
これこそが約束された慰め主であり、すべてを教え導くであろうと予告された真理の霊である。その準備はすでに始まっており、あなたがたはその霊を受け入れ、心の扉と謙遜、知恵と慈悲をもってあなたがたを導く者を必要とする時が来る。(54, 51-52)
46.
わたしの教えはあなたがたの知性を刺激するために、あなたがたのもとに来る。しかし、この時にわたしがあなたがたのもとに来たその方法について、驚いてはならない。それによって混乱してはならないが、それを軽視してはならない。
47. 私の神聖さが、私の預言者として仕えるその人の知性と交わるとき、それは揺るぎなく、知恵と愛の言葉へと変容する。私の霊がこの形であなたがたの元へ至るために、天の領域の神秘の階段を登らなければならないことか！また、私の教えについて詳細説明をあなたがたに与えるために、私は私の霊的な性質をあなたがたに遣わさなければならなかった。（168, 48）
48.
私が人間の知性という器を通して自らを現すのは、脳こそが創造主によって完全に造られた装置であり、その中に魂の光である知性が現れるためである。

49.
この装置はあなたがたがそれほど科学偏重でも決して再現することのできないモデルである。あなたがたはその形状構造を自分の創造物の手本として用いるだろう。しかし、あなたがたの知識が特定完全さは、決して到達することはできない。それならばなぜ私が、私が創造したものを用いることができるはずがあるのか。（62, 40-41）
50.
いつの時代においても、師としての私の愛は、人々に必要な教えに細心の注意を払ってきた。そして私は常に、彼らの霊的な成熟度と知的発達に合わせた語り方をするために、彼らのもとを訪れてきた。
51.
私があなたがたのところに来たのは、あなたがたが作り出した人間の宗教が、あなたがたの魂が渇くような渇き――光の渇き、真理の渇き、永遠の愛の渇き――を満たしていないと見たからである。
それゆえ、私はあなたがたの間に身を置き、謙虚で無垢で、教養のない人々を用い、彼らを
なお霊的な物質的な形態では、そのつど「第三の時代」のメッセージが広まるようにしている。
52. 私の言葉と思念を受け取り伝えるふさわしい者となるために、彼らは物質的な世界の誘惑と戦わなければならなかった。
このようにして自分の個性を放棄し、虚飾を捨てることで彼らは短い期間のうちに自分の存在を完全に捧げるに至り、その知性と霊感を神の霊感に捧げ、こうして彼らの口から、知恵と優しさ、正義と癒し、そして愛に満ちた言葉が語られることを可能にしたのである。
53.
私の霊がそれらの脳に降りてくることなく、ただ私の光の一筋が彼らを照らすだけで、なぜ高い知性をもつ人々がこれほど多くの知識を言葉で表現し、これほど多くの生命のエッセンスを得意分野の精神に注ぐことができるのか、理解できない者たちが常に存在するだろう。
それに対し、私はこう言おう。あなたがたが太陽と呼ぶ星でさえ、地球を照らすために地上に降りる必要はない。なぜなら、その星が遠くからあなたがたの惑星と交わるほうが、地球を光と暖かさと生命に満ちたものにするからである。
54.
同様に、父なる神の霊は無限の輝きを持つ太陽のように、霊的なもの、物質的なものを問わず、すべての被造物に注がれる光によって万物を照らし、生気を与えている。
55. それゆえ、私の内なるところは私の霊が照らしていることを理解せよ。（91, 12-16）
56.
私の霊の光にすべての言葉の源泉があり、私があなたがたへのメッセージを受け取れるようにするために用いる声の媒体の霊の上に降り注ぐものである。どの人間という声の媒体が、「言葉」の全てを受け取ることができるだろうか？
誰もいない。そしてまさに、私はあなたがたに言う、あなたがたは「言葉」とは何かを知らないのだ。
57.
「言葉」とは命であり、愛であり、神の言葉である。しかし、そのすべてのうち、声の媒体が受け取るのはほんの一粒に過ぎない。だが、この光線の中、その本質の中に、あなたがたは無限なるもの、絶対なるもの、永遠なるものを発見することができるだろう。
58.
わたしについて語るあなたは、わたしは導く業によっても、まだ全く限られた現れによっても、それをなすことができる。わたしは万物の中にあり、万物がわたしを語っている。大きなものも小さなものも、等しく完全である。人間はただ観察し、思索し、研究することを理解すればよいのである。（84, 2-3）
59.
私の「言葉」は再び人間となったのではない。私は今、あの世を象徴する「霊の国」にあり、そこから私の光線が放たれ、その声の持主の知性を照らしている。
60.
私は人間を通して自己を表現することを喜んだ。そして、私の選択は完全である。私は間違っていない。なぜなら、私が彼を創造したからである。

私は彼をさまし者と見なす。彼は私の子であり、私から生まれたからだ。私は彼を用いることができる。それこそが私が彼を創造した目的であり、また私は
、彼を通して私の栄光を現すことができる。なぜなら、私は彼の中で私を栄光に輝かせるために彼を創造したからである。
61.
人間よ、彼は性であり、生命であり、意識であり、意志であるがゆえに、また私のすべての性質の一部分であり、その霊が帰属しているがゆえに
、彼は私の姿そのものである。
62.
しばしば、あなたがたは自分が信じていたより卑しい、足らない存在であり、またあるときは、想像しうる以上に偉大な存在である。（17, 15-18）
63. 少し考えてみれば、聖書を読めば、すべての預言者たちが一つの霊的な姿を表現し、その言葉を人々に伝えたことがわかるだろう。
彼らは、当時の人々が異端であり、物質主義的な考えに誤りなしに、人々に戒め、啓示、そしてメッセージを与えた。彼らは神の律法と言葉に従うよう教え、人々が父のもとへ帰るのを助けた。
64.
人よ、あの預言者たちと、今私があなたがたに語りかけているこれらの声の伝達者たちとの間に、大きな類似があると思わないか。私はこれら後の日にまた私の律法の管理を授けている。彼らの言葉を通して、私の霊があなたがたに届く。そして、聴く者に、最も純粋な方法で生きるよう促すために、彼らから輝かしく溢れ出ているのだ。
彼らは多くの聴き手の中に、聞く者と信じる者が混じっていることを恐れず、語っている。彼らはいにしえという偉大な時代に果たし、父が彼らを通して類語りかけ、人々に新たな啓示を与えるようにしているのだ。
65.
人よ、あの預言者たちとこれらの声の担い手たちとの間には、単に大きな類似があるだけでなく、完全な関係が存在する。彼らはこれを予告しており、かつて彼らが予言したことは、今やこれらの僕たちが体現しているのだ。（162, 9-11）
66.
私のすべての声の伝達者が、私に身を捧げる備えをする前に、意志を持てなければならない。そしてしばしば、私は無益なこと、あるいは罪深いことさえに没頭していた不純な性質に、私の光を降ろさなければならなかった。
彼らはその過ちによって、私の憤怒が引き起こした。なぜなら、彼らの女性的な霊から奪われ、彼らの唇は神のメッセージを表現するための媒体を失っていたからである。
67.
こうした場合、聴き手はこれらの預言者に対して耳を閉ざしたが、それぞれの説教者、その中に私の存在を感じ、私の恵みを受け入れるようにした。
人々はその瞬間、私の慈悲が彼らに送った恵みによって養われた。しかし、その声の担い手は、自身の唇から発せられないメッセージを与えるために、それによって、まだその形で私の霊を受け入れる備えができていなかったにもかかわらず、出席者たちに、霊から霊へと直接話すことを強いた。（294, 49）

啓示の形式

68.
自然界は常に同じ愛を含んでいるために、いつも同じ方法で始まり、それは愛に始まり、慈悲に終わる――このこの言葉の中に、私の教えのすべてが含まれている。これらの言葉は精神、それが魂を与え、光と真理の領域へと導くものである。（159, 26）
69.
あなたがたは、第二の時代に私が用いた言葉の形式と、今私が用いている形式とは異なると言うかもしれない。そして、その点については、ある程度正しい。
なぜなら、イエスは当時、自分が暮していた人々の表現法を用いてあなたがたに語りかけたのと同様に、私は今日、私の言葉を聞く人々

の精神性を考慮してそうしているからだ。しかし、当然今語られているその言葉が伝える霊的な内容は同じであり、唯一無二であり、不変である。それにもかかわらず、このことは心が頑なで、理解が閉ざされている多くの人によって見過ごされてきた。（247, 56）

70.

ああ、不信仰者たちよ！来て、しばしば私の言葉に耳を傾けなさい。私の言葉は、あなたの疑いを打ち消すであろう。もし、私の言葉の表現が、かつて私が用いたものと異なると感じるならば、私はあなた方に告げる。形式が見どころなのではなく、その意味の内容を求めなさい。その内容は同じである。

71.

その内容、すなわち真理は常にただ一つである。なぜなら、神性は決して変わらないからである。しかし、啓示があなた方に届く形式、あるいは私がそれを通してあなた方に真理となる部分をもたらす形式は、常にあなた方を導く発展段階に合わせて現れるのである。（262, 45）

キリストの教えにおける来世の存在たちの臨在

72. まことに、私はあなた方に告げる。私の言葉が人間の知性を照らし出すその瞬間、ここには何千、何万もの脱体の存在たちが私の啓示に立ち会い、私の言葉に耳を傾けている。その数は、物質界に身を置く者たちの数よりも常に多い。 あなたがたと同じように、彼らもまた、光の領域へと入るために、闇の中からゆっくりと上昇してきているのである。（213, 16）

73.

この私の言葉は、地上のあなたがたには人間の知性を通して聞こえるが、あなたがたより先に、生命段階にいる者たち、すなわち他の魂たちもまた同様にそれを聞き取っている。また、さらに高い生命段階に居る霊的存在たちも、同様にそれを聞いているのである。なぜなら、父が第三の時代においてご自分の霊たちと共に繰り広げるこの「顕現」は普遍性をもつものだからである。

74.

私は言った。私の光線は普遍であり、私の言葉とそこに含まれる霊の本質も同様に普遍であり、霊たちが選んだ最高の段階においてさえ、彼らはそれを聞き取っている。あなたがたは現在、この啓示において、人間によるという最も完全な方法で私の言葉を聞いている。

75.

それゆえ、私はあなたをより高次の啓示に向けて準備している。そうすればあなたがたが霊界へ入り、この地球を完全に去るとき、新たな生命の段階に合わせ、父があなたの霊と共に奏でる「顕現」を感じることができるようになるためである。

76.

今日、あなたがたはまだ物質界に身を置いている。この言葉によって、あなたがたの心と霊は癒され、そして、地上においてあなたがたに属していた者たち、あなたがたが今なお父、夫、妻、兄弟、子、親族、あるいは友と呼ぶ者たちは、別の生命段階にあり、同じ言葉を聞いている。しかし、彼らにとってその言葉の意味、その本質は異なるものである。たとえ彼らが同じ喜び、同じ慰め、同じ励まし、そして同じ恵みを受けているとしても。（345, 81-82）

77.

私はあらゆる世界と、私の光の領域に関わっている。あなた方に対しては、この光を聞く言葉という形態をもって、他の世界に対しては霊感という形態をもって。

78.

その聖なる光の光線で、すべての霊はつながれるであろう。彼らはそこから天の御座を作り、それが皆同じ地点、すなわち私の神性の霊なる粒であるあなたがたすべてを結集している霊界へと導くのである。（303, 13-14）

啓示の時間制限

79. わが王国は苦しむ人類の上に降りてくる。そして、わが言葉はこの時代の選ばれた者たちを通して響き渡る。それは、わたしを聞く者たちが、同胞たちの慰めとなるためである。

80.
いつの時代にも、私は人間と私の神性の間の仲介者を置いてきた。それは心から柔和で謙虚な者たちであり、私は彼らを用いてきた。今、私は教えの新たな使者たちを準備している。この福音が、人間の霊性生活の目覚めとなるためである。

81.
高貴な霊的使命を果たす前触れとなる者たちのうち、どれほど多くの者が、今なお世界中で数しれず眠り続けていることか。彼らは目覚め、その感受性の大きさによって隣人にとって有益な存在となり、自分の霊的能力を証明するであろう。彼らは謙虚であり、決して優越感を寄せることはない。(230, 61-63)

82.
人類が、救いの十字架を担うことによって、わが律法を成就するために立ち上がるように、わが業は、歪められることなく人類に伝えられなければならない。

83.
私は人々すべての人類にこれを約束した。そして、私の言葉は永遠の言葉であるがゆえに、私はそれを成就させる。私は弟子たちを通して、私の言葉という黄金の麦を彼らに送る。そして、それは人の精神を、やがて霊と霊の対話へと見出せるようにするための光となる。なぜなら、1950年以降、私はこれまで地上のいかなる場所にも、声の器官の仲介を通して再び自らを現すことはなかったからである。(291、43-44)

第3章 新たな神性啓示の理由

神の救いの意志

1.
もしこの世に無知がなく、血が流されることがなく、痛みや悲惨が存在しなければ、私の霊があなたがたの感覚に触れて啓示する理由は存在しないだろう。しかし、あなたがたは私を必要としている。私は、この時において、私の愛だけがあなたがたを救うことができることを知っている。それゆえ、私は来たのである。

2.
もし私があなた方を愛していなかったら――あなたが自ら滅ぶことなど、何の意味があるだろうか。あなたの苦しみなど、何の意味があるだろうか。
しかし、私はあなたがたの父である――すべての子供は自分のささい部であるから、子供の痛みを自らの内に感じるのである。それゆえ、私は私の言葉の一つひとつ、そして霊の一つひとつの中に、霊となって命である真理の光をあなたがたに与えているのだ。(178, 79-80)

3.
私よ、あなたがの中にいて、あなたがの心に呼びかけている私が、あなたがたが絶望と敵対関係に巻き込まれているのを見て、私の平安が全くあると思うだろうか。それゆえ、私は偉大な戦士として、闇と悪と戦うために来たのだ。そして私は、私の業を成し遂げるために、善の霊たち、すべての霊たちと共に来たのである。
この戦いはいつまで続くのか。私の子供たちが目覚めるまでだ。しかし、私は静寂をもたらすためではない。ただ愛によってあなたがを変容させるためだけなのだ。(268, 31)

4.
かつてのように私の言葉はあなたにとって再び新しいものとなるだろうが、私は彼らに真実を告げる。誰をも罪者にすることなく、私は義者を義者と呼び、姦通者を姦通者と呼び、悪人を悪人と呼ぶ。
真理は隠されていたが、今のように真理が隠されている今、再び輝きを取り戻す必要があった。それゆえ、真理は再び人々の目の前に明らかにされなければならない。（42, 31）
5. 私はただ一度だけでなく、何度も、また様々な方法で、弟子たちに私の再臨を告げ、約束した。
私は私の到来を告げるしるし――自然界の兆し、人類における出来事、世界的な戦争、そして罪に満ちた罪――をあなたがたに予告した。世界は誤りに陥り、私を再び見ることを待望することのないよう、私はキリストが雲に乗って、すなわち霊において来ると知らせた。
6.
その約束は成就した。ここに、霊において世界中に向かって語りかける御方がおられる。ここに、平和の王国の道がおられ、ノアが洪水の時に救うために箱舟を造った最初の時代のように、人々が避難し、救われることのできるよりもはるかに大きな箱舟を造っておられる。（122, 52-53）
7.
私がこの時代に自らを現す方法は、「第一の時代」とは異なるが、私の意図は同じである。すなわち、人類を救い、その道で遭遇し、逃れることができなかったあの苦難から彼らを救い出すことである。
8.
讃美の全力をもって解き放たれ、人間以外のように、大きな喜びを受けた。彼は葉が落ちた枝を通して、深い混乱の中で私を探し求め、父は彼と共にいた。
9.
杯にはまだ苦味が残っているが、それはあなたがたが、不可避の結果として出るその苦みを味わえるよう助けている。それに口を傾けるあなたがたは幸いである。あなたがたは強くなるからだ！しかし、あの大きな苦難を越えるとき、他の人々はどうなるのか。信仰の欠如によって、彼らの魂は打ち負かされてしまうのだろうか。イスラエルの祈りが、彼らを支えなければならない。（137, 38）
*
この名称は、「霊的なイスラエル」と呼ばれる新しい神の民を指すものであり、イスラエル国家の住民やユダヤ民族全体を指すものではない。詳細は第9章を参照。
10.
それは無限の愛をもって、あなたがたを求めている。それはあなたがの魂にこれほど多くの恵と祝福を注ぎ込んだので、それの子供たちの一人でも失うつもりはない。あなたがたはそれの霊の一部であり、それの本質の一部なのだ――これほど熱心に、これほど愛をもってあなたがたを求める者が、どうして悪しき者であり得ようか？
11.
私があなたがたに私の言葉を授けるために降ってくるたびに、群衆の中に最後の人々を見出す。彼は、心の中で最も私に問い求めている者たちである。しかし、私は彼を喜ばすために、常に彼の問いに答えている。
12.
今日、最後にやってきた者たちが、私の再臨の目的は何かと問う。それに対し、私は、その意味は、人間自らの力で本来の清らかさへと回帰できるようにすることである、と答える。（187, 19-20）

誤りや形式化された礼拝の排除

13. 「第三の時代」は、人類にとって完全に到来した。私があなた方に私の言葉を与えてから約2000年が経過したが、過ぎ去った時間にもかかわらず、その教えは全人類にまだ認識されていない。それは、私がすべての子供たちから愛されていないからである。それにもかかわらず、皆が

私に崇敬の念を抱き、皆がただ一つの神聖な霊、すなわち私自身の霊を求めている。 しかし、私は人々の間に一致を見出せない。彼らの中に、同じ信仰、同じ高揚、同じ認識を見出せない。それゆえ、私は聖霊として来たり、彼らを私の中に一つにまとめ、私の真理の教え、不変の言葉、愛と正義の律法によって彼らを完成させるために来るのである。（316, 4）

14.

知性豊かな人間の中にも真理の無知は、魂にとって闇であり、それゆえ、今日の類は迷いの道に迷い込んでいる。自分がどこへ向かっているのかを知らず、また知りたくもないままに生きる人がしかも増え続けたことか！

15. 私は人類にとって、痛み、混乱、不安、不信、満ちたこのような時が来ることを知っていた。

私はこの闇からあなたがたを救い出すと約束した。そして今、私はここにいる。私は真理の霊である。なぜ、再び私を人間として求めているのか。私が人間として死に、私の王国であなたがたを待っていると告げたことを、覚えていないのか。それによって、私は永遠であり、不死であることをあなたがたに理解させたのだ。（9, 7-8）

16. この時の私の言葉は、過ぎ去り、起こさせ、私を明かし、来るべきことを告げ知らせる。

それは人の霊の無知にしてまだすべての光を目にするであろう。なぜなら、真理の霊であるわたしは、私の義と正義の律法をやって来て、すべての偽りを打倒し、偽善と誤解から、再び真理の教えの中にあなたがたを導き出すからである。

17. あなたがたの魂の救いを望むために、本人の助言、あるいは他の仲介者を必要としないことを理解せよ。

18.

あなたがたは皆、救われる必要がある。すでに聖なる地に立っている者はひとりも見当たらない。あなたがたは嵐の夜に漂う難破者であり、自分の命が危険にさらされているのに、隣の人とは限らず、ただ自分の命を否定して死になっているのだ。

19.

しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしはあなたがたの唯一の救い主である。あなたがたは律法という瓦礫から外に迷い出た者たちを再び探し求めてやって来る。

私はあなたがたの陸地、すなわち、その霊たちの無限の至福を約束しているゆえに、あなたがたを待ち受けているあの祝福された地へとひとり残らず着くよう、あなたがたの道案内をする。（252, 37-40）

20. かつて神の教えが誤って解釈されたように、この時においても私の教えは歪められてしまった。それゆえ、

私は再び訪れ、あなたがたが過ちから解放されるよう助ける必要が生じたのである。なぜなら、自分の力だけで迷いから抜け出せる者はごくわずかだからである。

21.

確かに、私は当時、再び来ると約束した。しかし、私がそうしたのは、人類が私の教えの道を歩んでいるという確信があったからこそ、実際はその教えから大きくかけ離れた時が来ることを知っていたからである。そして、今こそが、私が再臨を予告したその時である。(264, 35-36)

22. 第二の時において、キリスト――今この瞬間あなたがたに語りかけているこの方――は人間となり、地上に宿った。

しかし今、キリストは霊としてあなたがたと共にあり、人類与えた約束、すなわち、新たな時において再び来臨し、あなたがたに最高の慰めと真理の光をもたらし、それによって人に告げたすべてのことを明らかにし、解明するという約束を果たしている。（91, 33）

23. 人類は方向を見失っているが、私は霊の光によって彼を導き、彼が私の言葉の真意を悟るようにするために来たのである。

24.

時が経つにつれ、私の弟子たちが残した書物は人によって変えられてきたため、宗教間の不和が生じている。しかし、私は人類に唯一の光、唯一の意志の下に集結させるため、私の教えのすべてを啓示しようと。（361, 28-29）

25.

今日、世界にとって新たな段階が開かれようとしている。そこでは、人間は思考においてより大きな自由を求め、その精神に背いてきた隷属

の鎖を打ち砕くために闘うことになる。
今こそ、諸教会の霊的な糧と真の光を受け、狂信の闇を追放していくのを、あなたがたは目にする時である。そして、私はあなたがたに告げる。たとえ一瞬でも、自由に考え、探求し、行動できるという幸福を味わった者は、二度と自分の意思でその幸福を手放すことはないだろう。なぜなら、今やその目は見、その精神は神の啓示に触れさせられからである。（287, 51）

26.
私は、人々が私の教えを世から遠ざけようとますます画策し、私の律法を変え、真理を歪曲していくことを知っていた。私は、人々が私の再臨の約束をそれもまた互いを引き裂くことはせず、最初の瞬間に皆で、非人道的な武器を用いて互いに殺し合うようになることを知っていた。

27.
しかし今、その時が訪れ、約束された日が来た。私はここにいます。私自身をあなたがたに明かすために選んだ方法を難しではありません。なぜなら、私を裁くのは世界ではなく、今や人類裁きの時であるがゆえに、人類を裁くのは私自身からです。

28.
私は人の心の中に王国を築く――多くの者が期待するような地の王国ではなく、霊的な王国である。それは、この地の権力からではなく、愛と義から勇気を得るものである。

29.
私がこのように語るのを聞いて、驚く者もいるだろう。私は見ている。しかし、私はあなたがたに問う、なぜあなたはいつまでも金銭や富に身を包んだ姿として想像しようとするのか。なぜ私がその反対を明かにしたにもかかわらず、あなたは私の王国がこの世のものであると望むのか。（279, 61-64）

30.
私はすでに、戦いが激しいものになると予言した。なぜなら、誰が自分の教えが完全であり、その真理だけを受け入れるものだと考えてやまないだろうか。しかし、もしそうであるならば、私がこの時代にさって来て、あなたたちに語りかける理由はどこにあるだろうと、私は告げる。

31.
私は霊感を通して、深い霊的教えをあなたがたに与える。なぜなら、あなたの礼拝形式は異教が支配しており、狂信という悪しき種が、無知と偏見の感情をあなたがたに植えつけているのを見ているからだ。

32.
私の名前には力がある。私は、あらゆる嘘、あらゆる形の悪、あらゆる偽りを打ち砕く戦士であり、王である。私の戦いが終わり、人々の心が祈りと生活のために一つになることを学ぶとき、あなたの霊の視野は、無限の光と永遠の平安の中にそれを見出すだろう。
「これが私の王国」とあなたがたに告げるだろう。「そして私はあなたがたの王である。なぜなら、私はそのためにここに存在し、あなたを創造したのだ。すなわち、統治するために。」（279, 72-74）

真の神についての啓示

33.
すべての人間は、私がすべての被造物の父であり、存在の源が私の中にあることを知っている。それにもかかわらず、私は彼らから、その注意や関心を受け取っていない。彼らは私を創造主、支配者であり、隣の運命に対しても責任を持っていると信じている――それならば、なぜ私が前にしゃしゃり出る必要があるのか？

34.
このようにして、人間は私の面前で、私の正義に挑んできた。私は彼ら真理を見出すための時間を与えたが、彼らは私から何も受け入れようとしなかった。私は父としては来たが愛されず、その後、師としては来たが理解されなかった。しかし、人類を裁くことが必要であるため、今、私は裁き人として来る。
私は、人間が私の正義に反対することを知っている。なぜなら、彼らは私を裁き主としても理解せず、神の復讐だと宣言するだろうからである。

35.
私は神の愛と恵みであるがゆえに、神の復讐の感情を抱くことはあり得ないということを、すべての人に理解してほしかった。同様に、神の苦痛

を送ることもない。それどころか、それはあなた自身の罪なのだ。私の神聖な正義は、あなたの苦しみ、さらにはあらゆる拒絶してる、痛み、障害、失敗は、人間絶えず自ら課す結果あり（
）、その種の果実こそが彼から取ることなるものである。私にとっては、こうした人生の危機および、あなたの霊と私の光を届けて、その霊救いを得るようにすることだけで十分である。（10, 5-7）
36. 真理の霊が降りてきて、奥義を解き明かし、あなたが真の命を享受するために必要な情報を示してくださるのです。
その御霊は、神の裁きや罰とは無縁であり、あなたを光と平和と至福へと導く愛の使者であることを証しするために、あなたの苦しみの上に注がれる神聖な油である。（107, 24）
37.
異端者たちの許された事柄を聖霊は、認識する者は、自分に啓示されたその光から、もはやその精神を制御することはできないことを知れ、
来の世界に足を踏み入れようとも、あるいは幾度となく地上に戻ろうとも、かつて聖なる光の火花として受け取ったものは、その存在の最純粋な部分から、予感として、あるいは聖なるインスピレーションとして、繰り返し湧き上がってくるだろう。
時として、それは目覚めのように、あるいは天の乳のように、新しい心強さで満たすだろう。それは、霊性な郷の霊の灯のように、これこそが、この世に属する魂たちにとって、私の教えが意味するものである。一見、霊は自らの過去を忘れているように見えるが、実のところ、私の教えの記憶を失ってなどいない。
38.
今この瞬間、この私に彼に語りかけているのが神自身であることを認識する者たちに対して、私はこう告げる。もし彼が私にその名を授けたくないのであれば、もしこの言葉を神殿に記録させたくないのなら、彼らはこの教えの真意を心に留め、その一つ一つの考えを深く掘り下げるべきである。
そして、聞いたことを熟考した結果、そこに人類のための光と真理が含まれているという結論に達したならば、それを他の人々の指針として用い、それによって自らの生を改善するべきである。
39. 私は、あなたがたに真理を授けていることを知っている。人々が何と言おうとも、私の真理は何一つ変わりはない。
しかし、人間は自分が信じ、知り、愛するものを確信している必要がある。ただそのために、私は時折、啓示において人類のレベルに身を置き、そうして彼らが私を認識できるようにしているのだ。（143, 54-56）
40. 人々が私に対して抱くイメージは非常に限られており、霊性なものに対する彼らの認識は極めて乏しく、信仰も非常に小さい。
41. 宗教は、何世紀にもわたる夢の中で眠り続け、一歩も前進していない。そして目覚めようとしても、その運命は他の人々に翻弄され、自らの努力によって変革させる勇気を持てないままである。
42.
光と、清められた霊性な環境と、真理の進歩を喜んで受け入れる者たちは、軽んじられた者たち、貧しい者たち、病める者たち、無知な者たちであろう。彼らが、霊性の時代における新たな啓示の時が来たことを感じ取るとき、鐘は鳴り、目覚めの呼びかけが響き渡るのは、まさに彼らである。
43.
人々は、霊性な神秘――彼が不可知に歩み入らなければならないその存在――を発見したいと願っている。それゆえに、彼はそれを探ることに興味を抱いているのだ。
44.
人々は準備の必要性を感じているため、慈悲による光を求め、懇願し、請い求める。しかし、そのすべてに対する答えとして、霊性な神秘であり、それを覆すべく探り出そうとする努力は、傲慢であり冒涜であると告げられる。
45. まことに、わたしはあなたがたに告げる。真理と光を探し求める者たちは、その渇きを癒す泉を、この世で見出せないであろう。
魂の渇望するその時の水を与え給うのは、私である。私は、あらゆる霊と肉体の上に、私の真理の泉を注ぎ出し、「秘密」を無くせる。なぜなら、私はもう一度言うが、人々のために秘密を包んでいるのは私ではなく、それを作り出しているのはあなた自身からである。

46.
確かに、神は無限であり、あながはほんの一粒の砂に過ぎないことを考えれば、あながの父の神は、あながが決しては得ない何かが常に存在するだろう。
しかし、あながが永遠において何者であるかを知ってはならないこと、あなが自身が自分にとって解き明かせない謎であり続けなければならないこと、そして霊性生活に入ってからでなければそれを知ることはできないと待つ必要があること――これは、私が定めたことではない。
47.
確かに、かつてはこのようにあながに語れることはなく、霊性開発の光と比較されるような呼びかけがなされることもなかった。しかし、それは単に、過去の段階を卒業しているようなほどきわだった必要性を感じていなかったからであり、また霊に対して性的に反応する能力を備えていなかったからに過ぎない。
たとえ人が常に探し、あこちと手探りしていたとしても、それは光への真の渇望というよりは、むしろ育ちがこわれていたに過ぎない。
48.
人がその光へと導く道を見出し、命の水の泉の水を汲むことができるようにするためには、まずあらゆる性質を含む心からあらゆる不浄を排除しなければならない。
そうして彼が心の中で生ける神の存在を感じ始めるとき、彼は自分の存在の最深部から、感覚に訴えさに満ち、高揚感さに満ちた、未知の新たな歓喜が湧き上がってくるのを感じるだろう。それが、霊によって啓示される真の祈りとなるのである。
49.
これが、光の導かれであり、霊との交わりへの第一歩となる。もし御霊が人間に真の祈りを啓示し得るならば、御霊はまた、御霊が持つすべての能力、そしてそれを開花させる愛の道と導く方法をも、人間に啓示し得るであろう。（ヨハネ15, 66-75）
50.
あながは、私の降臨の中に「第二の時」と同様の教えを見出すことができるだろう。しかし、この時において、私は聖霊の光を通して、あながには測り知れないことを啓示した。そして、霊から霊への対話の中で、私はこれからも、新しく、そして非常に進んだ教えをあながに啓示し続けるであろう。
第二の降臨の全ての教えを、私との降臨の時にあなたは見るであろう。それは、私の第二の到来の時とあなたが結ばれるものである。そうして、あながは「測り知れないもの」をますます認識するようになるだろう。そして、霊にこそがすべての魂の故郷であり、高きあの世であながを待ち受ける、無限に素晴らしい父の家であることを見出すだろう。そこでは、あながが隣人に対して愛と慈悲をもって行った行いの報いを受けることとなるのだ。（ヨハネ16, 16）

人間の進化、霊化、そして救済

51.
私があなたがたに与えた教えは、単にあなたの物質的な本性を刷新するための道筋を示しただけのものではない。むしろ、それによって、あなたがは神の完全という高い境地へと登りつめることができるのだ。
52.
私があなたがの間に新しい宗教を設立するのではない。この教えは、私の真理に基づいてはいるが、既存の宗教を否定するものではない。これはすべての人への神の愛のメッセージであり、あらゆる段階の呼びかけである。神の意志を理解し、私の戒めを果たす者は、自らの魂の進歩と高みの領域へと導かれるのを感じるだろう。
53.
人間が、自らの生活において愛と霊を理解しない限り、平和が地上で現実のものとなる日はまだ遠い先のことである。それに対し、私の愛の道を全うする者は、死をも、また、その後待ち受けるものをも恐れることはない。（ヨハネ13, 12-13）

54.
私はこれの啓示によって、単に世界平和をもたらし、肉体的苦痛をなくすだけでなく、この啓示を通して、私はあなたがの魂の進化について、より深い教えを授けるのである。
もし私が単に世の富をもたらすことだけを望んでいたのなら――まことに、私は言っておくが、それならば私は預言によって予言し、自然の秘密を明かした科学者らに、自然から癒しの薬を取り出し、あなたがの肉体の苦しみから癒すよう命じるだけで十分だったろう。
55.
私の業は、あなたがの魂の救済、あなたがを取り巻く無限の世界と続く、さらなる啓示をもたらすものである。それは果てしなく続く啓示であり、あなたがが属する永遠の道を指し示すものである。（11, 13-14）
56.
私の霊性教えにはいくつかの目的や特徴がある。一つは、過ぎ去りし日々、彼を創造した神が、平和の御国で永遠に彼を待っておられることを理解させることである。もう一つは、彼の救いと幸福、あるいは完成を達成するために、どれほどの犠牲を払うことができるかを、彼に知らせることである。
57.
この言葉は、霊のメッセージを伝えるものであり、人の五感を、彼が現実を直見できるようにする。彼は、目に見えるもの、触れるもの、
あるいは肉の科学によって証明できるものの中にしか見出せないと信じている現実を、直見できるようにする。彼は、その過程ではないものを「現実」と呼び、真の現実が存在する永遠の次元を、否定していることに気づいていなかった。
58. このメッセージを通じ、国に、家から家へと広め、光と愛と平和の種を蒔き、
そうして人が心の聞いたとおり、精神に従事することができるように。その心は、精神の器であり、思い出すために不可欠なものであり、いつの瞬間も霊界への扉の時となり得ること、そしてこの世の行いと考えが種によって、霊的生活と至上の救いに実を結ぶことを。(322, 44-46)。

第3章 第三の聖書「生命の光」なる書

神の愛、真理、そして知恵の書

1.
わが言葉の書は、神聖かつ真の愛の書である。その中に、あなたがは、大変な真理を見出すであろう。それを手に取れば、あなたがは、自らを成長させ、永遠の平安を得るための知恵を見出すであろう。
その真意を誤って解釈したり、変更したりする者は、滅びるであろう。また、私の完全な教えと調和しない言葉をつけ加えたり、付け加えたりする者は、私の律法を重大に犯すことになる。
2.
この言葉を、その本来の純粋さのままに守りなさい。それは、私が人類に残した最も美しい遺産からである。私の教えを書き留め、それを人々に広めなさい。そして、この遺産に対する責任を負っているのだから、それを実行しなさい。
3. 明日、人々はそこに、私の啓示の精髄を見出すであろう。その教えは、人々を真理の道へと導くであろう。
4.
これらの書物は、親から子へと、生ける水の泉として受け継がれていくであろう。その流れは、きらめく噴水となって湧き出し、心から心へと流れていく。「生命の光なる書」すなわち霊の書を学びなさい。それは、あなたがが時を経て受け継いできた神の啓示を解明するであろう。

5.
あなたの知識がその本来の真理へと回復されることを、私はあなたに約束しなければならない。なぜなら、今こそ、あなたに告げられる時だからである。
6.
まことに、私はあなたに告げる。私の書の教えについて思索し、自分の認識を高めたいという真の渇望をもってそれを探求する者は、その魂のために、私をより身近に感じるようになるであろう。
7.
昔も今も、神は崩れ去るであろう。人間のつくり出したものはすべて倒れるであろう。なぜなら、もはや不完全なものによって養われることができない時が来るからであり、その時、魂は真理を求めて旅立ち、それを唯一の糧とするようになるからだ。
8.
これらの教えの中で、人類は、今日に至るまで霊性の光をいまだ理解できていなかった、わが啓示の核心を見出すであろう。その時から、わたしは預言者たち、使者たち、そして「通信者たち」を通して、それをあなたに託してきたが、あなたはそれを、神話や迷信や仕切りだけに利用してきた。違うか。
もし何世紀にもわたる話に苦しみから逃れたいと願うなら、真摯な愛をもってこの教えを探求し、研究しなさい。
しかし、単にこの書物を所有しているだけで満足してはあなたがの責任を果たしたことにはならない。いや、もしあなたが真の私の弟子でありたいと願うならば、この書物はあなたがたを目覚めさせ、教え導くものである。私があなたがたに示した模範、愛、そして助け合うことをもって教えなさい。（20, 1-8）
9.
私の教えの書は、この時代に私が聞き入れる能力を通してあなたがたに託した教えから成っている。人類がやがて「第三の聖書」として認めることになるこの書をもって、あなたがたは私の理想と教義を守り抜かなければならない。
10.
人類は、最初の時代の律法と、第二および第三の聖書に記されていることしか知らない。しかし、第三の聖書は今、人々が偏狭と理解の欠如によって歪めてしまったものの総合し、正すであろう。
人類は、私のメッセージを研究し、その書の一つ一つの中核に深く入り込み、一つの理想、一つの真理、そして霊性と導く唯一の光を見出さなければならない。（148, 26）
11.
私は、科学者が知らないため教えることのできないことを、あなたがに啓示する。彼はこの地の偉大さの中で眠りこけ、私が眠りを揺さぶって私のもとへ立ち上がろうとはしなかった。
12.
様々な宗教団体において、霊にとっての偉大さと豊かさである霊性の知識を教えるべきである聖職者たちの心は、閉ざされてしまった。
13. わたしは、かつて人類に授けた律法と教えが隠され、儀式や見せかけに伝統取ってかわられているのを見てきた。
14. しかし、あなたがたは、この書の啓示がシナイでイスラエルの民に与えたもの、そして第二の時代にイエスの口から聞いたものと同じであることを深く理解している。あなたがたは、神の義と行いを通して、魂にとって益にならない愚かな伝統にとらわれないために、神の律法を守らなければならないことを教えるべきである。（93, 10-13）
15. わたしは、あなたがたがメッセージ、戒め、予言、そして教えを受け取ったわたしの使者の名を思い出させた。
16. このようにして、私は過去のすべての教えの内容を、一つの教えに統合したのである。
17. スピリチュアリズムとは、三つの聖書が一つの霊性書物に統合された啓示である。（165, 62-64）
18.
霊性主義を明らかにするために「霊的」と呼ばれるこの教えは、人間を創造主と、彼は主として、彼を愛するようになるために、人間のために定められた道である。それは、人々に、自分の隣人の中に父を愛することを教える書である。スピリチュアリズムは、善と結束、完全を命じる法である。

19.
この源は、義務はすべての人に課されている。しかし、それは誰もその履行を強制するものではない。なぜなら、すべての霊は自由意志を与えられており、そうすることで、裁きを受ける際、その罰、およびすべての行いが、自分の責任として認められるようになるからである。
20.
したがって、この教えこそが、私の羽根の最初の一本から最後の一本までをすべて照らし、彼らに温かさを与えてきた神の愛であることを確信せよ。（136、20-22）

霊の教えとイエスの教えとの関係

21. 霊の教えは単なる理論ではなく、人間生活と魂の生活の双方に対する実践的な教えである。これほど包括的で完全な教えは他にない。それはあなたがたが地上に来る前から付き添い、この世での日々の営みの全期間を通じて付き従い、魂が以前の住処へと帰るときには、魂と融合するのだ。
22.
あなたがたの苦しみを取り除くのは私ではない――それは、自分の発展の道程をより大きく進める必要があることに直面し、古い観念を自ら乗り越えていく人間精神である。
まなび人は、神と捧げることができる唯一のものは愛の実践であることを理解するだろう。なぜなら、愛は善、慈悲、知恵、そして正義を包含するからである。
23.
スピリチュアリズムはキリストが語った言葉のどれ一つとして消去することはない。もしそうでなければ、それは真理に背くことになるため、その名を名乗ることはできないだろう。同じ師が語っているのだから、どうしてこの言葉があの言葉に反することがあろうか。
もしあなたがたがこの教えの真意を真に深く理解するならば、今日の私の言葉こそが、かつて私が語ったすべての事柄の説明であり、解説であることに気づくでしょう。それゆえ、今日の人類、そして未来の人類は、過去の世代より多くを理解することができ、それゆえにより純粋で、より高く、より真実な方法で律法を履行することができるのです。
24.
もしあなたがたが人々が宗教を実践する様を注意深く観察すれば、かつて彼らが崇拝の対象としていたものを、今やなお執着すべく選び続けていることがわかるだろう。
その理由は、魂は自発的に目覚め、真に自分を養うことができるものを求めているからである。それゆえ、私はあなたがたに、この類表層的な礼拝は、やがて消え去る運命にあるのだ。（183, 27-30）
25.
この講演であなたがたは、神聖な光に満ちた書物の中で、人はあらゆる苦悩の解決策を見出し、かつては部分的にしか啓示されなかった教えの補完を見、古のテキストに象徴として隠されているすべての秘密を明かす、単純な方法を見出すであろう。
26. この霊的メッセージを受け取った後、その内容の真実性を確信し、
感覚的刺激の渇望、偶像崇拝、そして信仰、その対象となるあらゆる形態から離れようとする者は、自分の魂を救い、それを喜びと安らぎで満たすであろう。なぜなら、その魂は、待望する永遠の祝福を受け取るために戦うことができるようになるからである。
しかし、今見た形態に執着し続け、この世のものへの愛着に、魂の開花を妨げられている者たち――まことに、私はあなたがたに告げる。彼らは取り残され、自分の過ちと無知に気づいたとき、涙を流すことになるだろう。（105, 4-5）

新しい言葉をめぐる論争

27. もし私の教えが、あなたがたにとってあまりにも異質に思え、私を知っているにもかかわらず、そのような言葉を聞いたことがないと思うのであれば、私はあなたがたに告げる。その驚きは、私がかつてあなたがたに啓示したものの核心を探求することを怠った結果である。 それゆえ、この教えはあなた方にとって異質なもの、あるいは新しいものに思えるかもしれないが、実のところ、この光は常にあなた方の人生の中に存在していたのである。（336, 36）

28.
「第三の時代」と同様に、この時代の私の教えは大混乱をもたらすだろう。偽善者たちは真実に向き合わなければならない。偽りの仮面を脱ぎ捨て、真理の輝きを放つだろう。真理は、この世界を覆っている影を打ち破るだろう。

29.
人間は、理性と真実をもってすべてのものを理解し、認識することができるようになるだろう。しかし、たとえ理解できなくても信じられたものはすべて、自撮りするようになる。それゆえ、私の教えは人々が愛する世界中に広まっていくのである。
あなたがたには、この業の大きな役割が与えられている。すなわち、その偉大な目的を同胞たちに明かすことである。（137、28-29）

30.
人類は、わたしの言葉、わたしの真実を渇望している。人々は自分の知性のために光を求め、切望し、正義と平和と慰めを期待している。今こそ決定的な時である。まことに、あなたがたに告げる。何世紀にもわたって真理とされてきた多くの概念、理論、さらには教義そのものが崩壊し、誤りとして捨て去られるであろう。
狂信的傾向は、それらに長い間縛られていた者たちによって打ち破られ、排除されるであろう。神の教えは理解され、その光、その内容、その本質が理解され、実感されるようになる。

31.
試練の時を経て、科学者たちが基本的な原子を分析した後、彼の精神が覚醒し、自分の精神の声を聞き取るとき、彼らは夢にも思わなかったことを発見するだろう。

32.
改めて言っておく。目を覚ましていなさい。偽善と教義、宗教と科学が対立するこの時代において、多くの人々は自分たちの狭い得知識こそが、私の新しい弟子たちを打ち負かすための武器となると考えるだろう。彼らはあなたがたが本を書いていないことをよく知っているからだ。(150, 11 13)

33.
弟子たちよ、私はあなたがたに、大きな試練と苦難に対峙することになると告げた。しかし、どちらに対しても恐れることはない。
私があなた方に託した真理は明白であり、私の教えの言葉は分かりやすく単純だが、その意味には無限の深みを持っており、それはあなた方が戦い、勝利するための強力な武器となる。

34.
しかし、わたしはあなたがたに告げる。地上には、物質主義と不信に満ちた一つの民がたちまち、あなたがたがイエスと全能の神を否定し、メシアの再臨を主張したという、あなたがたの証言を否定しようとするだろう。その民はユダヤの人々である。
あなたがたは、そのことを考えたことがあるか。その民は、その中にあって、彼らに正義をもたらし、再び地上のすべての民の上に彼を置く、彼のメシア、彼の救い主を待望している。
その民は、私が常に彼のもとに来ていたことを知っており、この「第三の時代」において、こう言うだろう。「なぜ神は地の民のもとに来られるのか？」――しかし見よ、ここに私の教えがある！（132, 10）

35.
ここにあるこの霊的実体は、知られずに生きている。世界はあなたの存在を知らず、権力者たちはあなたに目を向けない。しかし、霊

性主義者とキリスト教徒の間、霊性主義者とユダヤの間の戦いが近づいている。その戦いは、全人類が私の教えを知るために必要である。そうして初めて、旧約聖書と新約聖書および第三の書とが一つに結合され、一つの本質となるであろう。

36.
あなたの多くはこれは不可能と思うかもしれない。しかし、私にとってはこれほど自然で正しく、完全なことはない。（35, 63-64）

『真の生命の大いなる書』

37. わが言葉は永遠に書き残されるであろう。そこから、あなたがたは第三の時代の書、第三の聖書、父の最後のメッセージを編纂することになる。なぜなら、三つの時代すべてにおいて、神は人類にその知恵を遺すために、その「金のペン先」*を持っておられたからである。 * この用語は、神の啓示に参加し、主の言葉を速記で書き留める任務を負った者たちを指す。

38.
モーセは、父が第一の時代の出来事を消えることのない文字で巻物に書き記すために用いた最初の「金のペン」であった。モーセはユダヤの「金のペン」であった。

39.
「第二の時代」においては、すなわち後継者たちの中で、イエスは四つの筆、すなわち、マタイ、マルコ、ルカ、そしてヨハネであった。これらは神聖の「金の筆」であった。しかし、愛と誠実と霊性の絆によって、旧約聖書と新約聖書とが一つに結合される時が来ると、それらは一つの書物となった。

40.
今、「第三の時代」において、あなたがたは再び私の言葉を受け取っているが、私は同様に、それが書物として保存されるよう、「金のペン」を任命した。

41.
時が来れば、あなたがたは一冊の書物を編纂することになる。そしてこの「第三の時代」の書物は、その時が来れば、同様に第二の時代と第一の時代の書物と統合されることになる。
そしてその時、「三の時代」の啓示、預言、そして言葉から、すべての魂の救いとなる「大いなる生命の書」*が生まれるのである。
* 『真の生命の書』第5の教え、第4節からの補足：
「この現在編纂中の『書』あるいは書物が、以前の書物と統合されるよう、あなたがたが努力する必要はない。なぜなら、この書物において『三の時代』の啓示を教え終えたのは私であるからだ。私はそれから本質を抽出し、一つのメッセージを作り出すのである。」

42.
そうすれば、あなたがたは、最初の語から最後の語に至るまで、すべての言葉と霊において成就したことを、また、すべての預言が人類のために啓示された、あかしの見通しがたい歴史の経過であったことを学ぶであろう。なぜなら、これから起こる出来事を書き記すことのできるのは、神のみからである。預言者たちが語ったとき、語ったのは彼ら自身によるよりも、神が彼らを通して語られたのである。

43.
わたしはわたしの新しい選ばれた者たちに、モーセや「第二の時代」の四人の弟子が受けたと同じだけの心の準備を与えた。それはわたしの言葉が完全に記録され、完全に啓示され、そして真実をもって書き記されるためである。なぜなら、それは明日の世代のためのものであるからだ。しかし、もし誰かがその書物から何かを加えたり、削除したりしようとするならば、私はあなたがたを問いただすことになる。

44.
さて、わが愛する子らよ。あなたがたが編纂し始めたこの書物に、今、誰も重要性を感じていないだろうか。実のところ、誰もいない！しかし、や

かつ類が、渇望と喜びに満ちて、あなたがの書物をおおってくるために来る。その時、彼らは覚めわが言葉を祝し、それについて議論するようになる。

その思想の中で、科学者、神学者、哲学者という名前は現れないだろう。詩人は、あなたがの言葉の証しと啓示の書に届けられ、誰もが私の教えについて語るようになる。

これが、言葉、思想、イデオロギーをめぐる新たな戦いすべての始まりとなるだろう。しかし、最後に、すべての人が真理の霊において、一冊の大いなる書が互いによって書かれたことを悟るとき、彼らは兄弟のように抱き合い、私の意志通りに互いを愛し合うようになるだろう。

45.

なぜ最初の時代において世界をつかさどるのにわの言葉だけでは不十分だったのか。また、第二の時代においても、イエスの教えそれを成し遂げることができなかったのか。なぜこの時代において、諸国民が互いに愛し合い、平和に暮らすために、私が1866年来、私の言葉を授けただけでは不十分だったのか。

この言葉が全世界を照らすためには、三つの書が一つとなることが必要である。そうすれば、人類の光に従い、バベルの呪いは解かれるであろう。なぜなら、すべての人が一冊の大いなる書（

）を読み、皆が同じ教えに従い、霊と真理において神の子として互いに愛し合うようになるからである。§58, 58-66）。

第3章 霊的教えの影響と意義

啓示の効果

1.

ここに、この啓示者において、その存在の奥底の面すべてが霊と肉において震えない者は一人もいない。ここで私は耳を傾ける間、人生と死、神の正義、永遠の霊的生活、善と悪について考える。

2. 私の声を聞きながら、彼は自分の中に魂の存在を感じ、自分がどこから来たのかを思い出す。

3.

私に耳を傾けているその瞬間、彼はすべての隣人とつながっていると感じ、その存在の最も深いところで、彼を真の兄弟姉妹は霊的に永遠においても兄弟姉妹として認識する。肉体の兄弟姉妹は地上に時折しか存在しないが、彼らはそれよりもさらに彼に近い存在なのである。

4.

私を聞くとき、私に見られていると感じない男女もいない。それゆえ、誰も私に対して自分の行為を隠したり、美化したりしようとはしない。そして私はそれらを明かすが、誰一人としてそれを不快に思うことはない。なぜなら、私は決して誰をも不快にさせないからである。

5.

わたしは、あなたがの中に、姦淫者、幼児殺し、盗人、悪徳、そしてそれ以上のものを見出していると告げる。それは、罪に染まった者たちの魂に、まるでハンセン病のようにまとわりついている。しかし、わたしは、あなたがの心の過ちを暴くことができることをすることによってのみ、わたしの言葉の真実を証明するのではない。

また、悪霊は、勝利のための武器をあなたがたに与え、しかして神に近づくのを妨げ、あなたがの中に善、高潔、そして清らかさの渇望を呼び覚まし、あらゆる美しいもの、あらゆる偽り、そして魂にとって有害なあらゆるものに対する強烈な嫌悪を生じさせることによって、私の教えの力を証明したのだ。(145, 93 65-68)

6.

今日、あなたがたは救いとして、光に満ち、薄暗い日の中に生きている。しかし、その光は、霧を抜けたあなたがの空のわずかな時間を利用し、優しい光線となってその中を突き抜け、地球のいくつかの地点に届き、人々の心を動かし、魂を震わせ、目覚めさせている。

7. この光に驚かされた者たちは、その歩みを止め、「あなたは誰ですか？」と尋ねた。そして、私は彼らに答えた。「私は世の光であり、永遠の光であり、真理であり、愛である。
私は、あなたがたに語りかけるために戻ってくると約束した者であり、神の言葉であると語れた者である。」
8.
ダマスコへの道のサウロのように、彼らはすべての誇りを捨て、高慢な心を砕き、謙虚に身を伏せて、心から私にこう言った。「父よ、主よ、お赦しください。今、私はあなたに赦されたのであり、あなたを信じていたことを悟りました！」
9.
その瞬間から、これらの心はさ弟子たちとなった。なぜなら、この「第二の時」において、今日に至るまで、私の新しい弟子たちの中に、かつて私の弟子たちをこれほど激しく迫害し、その後これほど熱烈に愛された者たちの痕跡を特定することは誰にもできないからである。（179, 21-24）
10.
教会は、何世紀にもわたる闇と停滞の眠りに沈み、その間、真理は覆われたままであった。しかし、エホバの救いと神の御言葉を求める者たちは今、あなたがたに語りかけているこの声の中に、この時のために約束された真理の聖霊の声を見出さなければならない。（92, 71）
11. この言葉を耳にすれば、多くの人が憤慨するであろうことは承知している。
しかし、それは精神の混乱の中で、人間は肉体と霊性が本質的に存在することを認めようとしない人々、あるいは、人間の脳はごくわずかしか使われていないという伝統的な思い込みに縛られて、魂には無限の発展の道があることを否定する人々である。（105, 65）
12.
私はこれらの言葉を書き残す。それらは未来の私の弟子たちの元に届くであろう。そして彼らがそれを発見するとき、彼らはこの言葉を鮮やかに生き生きとしたものとして受け止め、その瞬間、師が彼らに語りかけているのを感じ、喜びに震えるであろう。
13. 私があなたがたに語ったすべてのことは、ただ私の話を聞いた者たちのためだけであると思うのか？
いいえ、愛する民よ、私の言葉はここにいる者たちも、いない者たちも、今日のためにも、明日のためにも、そして永遠のために語られているのだ。死んでいく者のためにも、生きている者のためにも、そしてこれから生まれてくる者のためにも。（97, 45-46）

新しい啓示からの気づきと希望

14.
わたしは、苦しむ者――動揺している者、泣いている者、罪人、そしてわたしを拒み続ける者――に慰めをもたらす愛の言葉である。わたしの言葉は、彼らの心の中で命のパンとなり、そこで彼らは癒され、浄められる。それはまた、安らぎと平和の永遠の郷へと続く道でもある。
15.
どうして人生の闘い――その複雑さ、逆境、試練――が、永遠における正当な報いを見出すことなく、死をもって終わるなどという考えに至ることができるのか。それゆえ、啓示に満ちた私の律法と教えは、あなたがたの心において日の光のように明るくあり、愛無くあり、癒しの薬である。あなたがたが私の教えから背を向けるとき、飢えと渇きを感じるのだ。（129, 3-4）
16.
人間という被造物に対する私の理解において、私は彼らに私の業を示し、すべての被造物を贖うことを許している。それは、神の御子らが自身の使命を果たしているからといって、神の公正であると宣言する理由を彼らに決して与えないためである。
17.
私はあなたがたを創造し、自由意志という賜物を授けた。そして人間はその自由を用い、それによって私を傷つけ、私の律法を冒涜したにもかかわらず、私はその自由を尊重してきた。
18.
しかし今日、私は人間に私の愛無き性質を悲しませ、私の御前でその過ちを犯し、私の子供たちが一人また一人と、真理の道から反れようとしている。

19.
私の光である真理は、あなたがの霊の神輝いている。なぜなら、あなたがは、あらゆる秘密が明かされ、これまで正しく解釈されてこなかったことを理解できるようになる、と予言された時に生きているからである。（104, 9-10）
20.
私はこの地上で神自身を見、すべての人々への贈り物として私の言葉を置く。この贈り物は、人類の霊的な貧困を取り除くであろう。（95, 58）
21.
わたしは、神に至る真の方法をすべての人に授け、また、神の律法に従って生きる正しい道を授ける。その律法の履行こそが、主があなたがた一人ひとりに認める唯一の事柄である。
22.
やがて、あなたがた人間は、私の言葉の内容、すなわちその真意を理解することになるだろう。その時、あなたがたは、私が教えの単に人の語りかける神の声であるだけでなく、すべての霊の表現でもあることを発見するだろう。
23. わが言葉は、勇気づける声であり、自由をもたらす声であり、救いの道である。（281, 13-15）

神の言葉の力

24. 私の教えは、人間のあらゆる本質的側面を発展させる。それは心を感化し、高潔にし、*知性を目覚めさせ、深め、そして魂を完成させ、高揚させる。

** 十以上の箇所において、「心と魂」という用語異なる意味を持つ：*
「心」（スペイン語で「corazón」）は心理学的な、比喩的な、または肉体を取り巻く人間の物質を象徴しているのに対し、「魂」（ここでは「espíritu」）はその内在する神の光、すなわち霊によって、その声である良心を通して導かれる、より高次の永遠の側面を指す。

25.
私の教えを徹底的に研究し、私の教えを実践する正しい方法を理解できるようにしなさい。そうすれば、あなたの人生は調和のとれたものとなるでしょう。そうすれば、あなたは、刺激や、この世の理想を目指すだけに、単に性格を発達させるようなことにはならないでしょう。
26.
あなたの存在のあらゆる資質は、私の言葉の神に、それらが最も無限に至るまで完成されることのできる光に満ち道を見出すことができる。（176, 25-27）
27.
私の教えは、その本質において霊的なものであり、光であり、力である。それは、あなたの魂に導き、悪の戦いにおいて魂の勝利を収めるよう導く。私の言葉は単に耳に心地よいだけのものでなく、魂の光である。
28.
魂をもって私を受け入れ、魂で、この教えの真意を悟りたいと願うならば、心を清め精神を浄化し、良心に導かれるがままにせよ。そうすれば、あなたの内面に、魂だけでなく、道徳にも、また肉体にも、変容の働きがなされるであろう。理解を通して魂が獲得する喜び、そして魂が到達する清らかさは、心の感情、身体の健康に反映されるだろう。
29.
憎しみは、愛により、悪意は、赦しにより消え去り、狂信と無知は、ますます真の悟りと、わが律法における深い悟りに道を譲っていくであろう。（284, 21-23）
30.
この数の人々には知られておらず、人類によって顧みられていないこの教えは、まもなく、すべての苦しむ者たちの癒しの看板として掲

、慰めを与え、信仰に火をつけ、闇を追い払い、希望へと導くであろう。それは、あなた方を悲惨、苦痛、そして死から引き出してくれる。

31.
そうであるはずはない。なぜなら、これをあなた方に啓示したのは、私、すなわち神の使者であり、約束された慰め主であるからだ。（195, 30-31）

32.
あなたがたが一緒に集められた後、この世で追い求めるものを手に入れず、苦しみ、絶望している人々に遭遇したとき、あなたがたの物質主義が、私の弟子たちの霊性とは対照的であることを実感するだろう。彼らの努力と願いは高貴であり、この地のすべては儚いという確固たる認識に基づいているため、彼らの満足は大きなものとなるからだ。

33.
わたしの弟子たちは霊的構造を通して、すなわち、魂をこの地の塵の中に縛り付けるのではなく、神に近づけるような方法を通して世に語りかけるであろう。

34.
私は来るべき時に、唯物論者たちがこの教えを聞けるとき、憤慨することを知っている。しかし、彼の良心は、私の言葉が真実を語っているのだと告げるだろう。（175, 5-7）

35.
あなたがたを待ち受ける将来の業において、私はあなたがたの助けとなる。私の教えは、世界に大きな変革をもたらすだろう。風俗習慣に大きな変化が生じ、自然界においても変化が起こるだろう。
これらすべてが、人類にとって新しい時代の始まりを告げるものであり、私がまもなく地上に遣わす魂たちは、この世界の回復に向けて貢献するために、これらすべての事について語るだろう。彼らは私の言葉を証明し、出来事を納得する。（216, 27）

36.
この「第三の時代」は復活の時である。魂たちはお前のようであり、その肉体は墓のようであった。しかし、命の言葉をもって彼に「出てきて、光と自由へとたどれ！」と告げる声が、彼のところに来たのである。

37.
彼の中で、真理の召命を、そして自分の務めを行い、そして隣人への愛と言うことができる者は、もはやこの世界を盲目の地、あるいは涙の谷とは見なさないだろう。なぜなら、その者は、魂の翼をもって真の平和の歓びをますます深く感じるようになるからである。

38.
この人生におけるその貢献は、魂より良い世界において享受する完全な平和と光の反映となるであろう。そこでは、私自身が魂を迎え入れ、その功績にふさわしい住まいを与えるのである。（286, 13）

神学者や唯物論者たちの反応

39. もし、この時代にあなたがたに語りかけた者が誘惑者であり、彼自身も奇跡を行い、それによって選ばれた者たちを動揺させ、混乱させるだろうと予言されている、と言われても、驚いてはならない。 まことに、あなたがたに告げる。私の啓示をそのように判断する者の多くは、たとえ口先では常に真理を広めていると主張しようとも、実際には悪と闇に仕える者たちの一員となるであろう。

40.
木はその実によって知れることを忘れるな。そして、私はあなたがたに言う。その実はこの言葉であり、それは単なる教師や男女であ

る。この声は、すべての理解を超えて聞こえるようなものである。その実、それを聞いた者たちの霊性によって、人類は、私がその木であることを悟るであろう。

41.

三位一体・マリアの霊的事業はここから始まる。それによって、かつてから授けた教えを再び理解したと信じ、自分の哲学や神学の誤謬により人類を導く霊的雰囲気がずいぶん多くの人の間に、真の警戒心を生むことになるだろう。

42.

彼は、精神性純化から目覚めたとき、今日の人の精神のように考え、感じているかに気づき、彼が「新しい思想」と呼ぶものに対して、呪いの言葉を発せ、この運動をキリストによって指導されたものとなるだろう。

43.

そうして彼は、聖書を裏返し、そして私が「第二の時代」にあなたがたに与えた私の言葉に逆らえ、私の新たな啓示、新たな教え、そして私が約束し、今日成就させているすべてのものを否定しようとするだろう。

44.

わたしの言葉は、わたしの弟子たちのことを通して、また聖書を通して、物質的なものを探したものや、かつて彼が受け入れた誤った概念のうちにあるものをも認めない者たちに届くであろう。そして彼は、わたしがあなたがたにこの言葉をもたらしたために、わたしを偽の神と呼ぶであろう。

45.

しかし、あなたがたがそれを聞いても、たとえ心が傷ついたとしても、信仰が揺らぐことはない。なぜなら、あなたがたは心の奥底で、師がすでにこれを予告し、その言葉をもって、これらの試練に耐えるよう励ましていたことを思い出すからである。

46.

しかし、私はあなたがたに言う。あなたがたは道において、異端、偽善、迷信、宗教狂信、そして偶像崇拝に遭遇するであろうが、誰の過ちについても、決してその人を裁いてはならない。

私の言葉をもって彼を教え、そのことは私に委ねなさい。私こそが、あなたがたにとどまる唯一の存在であり、偽りの神、偽りのキリスト、邪悪な教え、偽善的なパリサイ人が誰であるかを知っている者からである。（17, 32-35）

47.

思想、信条、宗教、教義、哲学、理論、そして学者たちの戦いが訪れるであろう。そして、私の名と教えは、すべての人の口にのぼるようになる。わたしの再臨は議論され、否定されるであろう。そしてその後、偉大な学者たちがたちあがり、キリストが再び人の間に現れたと宣言するであろう。その時、わたしは無限の彼方から彼の心に訪れ、彼の信仰を強めるために、彼の道において奇跡を行う。（146, 8）

霊の教えの影響

48. 私の光が全世界に広がったことで、あらゆる教えの中に私の真理が求められるようになった。これが、人々がそれぞれの信仰において示す行動の理由である。

49.

これは、かつて予言されたことの成就である。彼の中で、誰が真理を探しているのか。誰が善の皮を被った悪を創り出しているのか。誰が清らかな心をもち、自分の内面の絶対的な清らかさを保証しているのか。

50.

あなたがたは、私の真理を見分けるためにスピリチュアリズムを実践しなければならない。なぜなら、人類は、人間の思考の発展に応じて、数多くの宗教や世界観を創り出してしまうからである。

51.

その結果、ますます多くの新しい教えが生まれ、それらのうちに含まれる真実を判断することは、あなたがたにとって非常に困難なことだろう。

52.
私の教えは人の思考と観念を超越し、次第に誰が自分の行いを完成させ、より完全で高みの道へと導くための基礎を理解するようになる。

53.
やがて、あらゆる宗教会が、わが業に属するものを探し求めて、自らを省みる時が来るだろう。しかし、その答えを見つけるためには、彼が魂を高め、霊の声に注意を傾けることが必要となる。（§63, 4-8, 29）

54.
この地には多くの宗教団体があるが、それらをつなぎ合わせたり、互いに愛し合うようにさせたりすることはできない。この業を成し遂げるのは、私の霊の教えである。世界がこの光の進撃に抵抗しても、それは無駄である。

55.
私の弟子たちへの迫害が最も激しい時、自分の力が解き放たれるであろう。しかし、私の働き手たちの祈りによって、それらは鎮められる。そうして、世界は私が彼らに与えた権威の証人の当たりにするのである。（§43, 30）

56.
私の言葉が語られる時、世界は動揺するだろう。なぜなら、この啓示に触れている人の魂は、喜びと同時に恐れに動かされるからである。その時、真理を求めようとする者は、物質主義や観念の束縛から自己を解き放ち、その胸に広がる光に満ちた地平線に注意すべきである。しかし、魂の闇の中に留まり、この光に抗い続ける者は、そうする自由が依然としてある。

57.
霊性の成長は、諸国民の間に対立や葛藤をもたらすであろう。しかし、争いに激しくなるため、あなたがたは揺るぎない愛がある。人が戦争で互いに立ち向かい合うとき、それは私の意志によるのではなく、彼が神の律法を理解していないからである。（§49, 47-48）

58.
すべての人が試練の時が来る。あらゆる宗教と、あらゆる宗教団体は、私によって裁かれる。誤ったものはすべて暴かれるため、人の魂は嘆きの叫びに満ちるだろう。だが真理の光が輝き始め、
人類の中に目覚めが起こり、その時、人は私にこう言うだろう。「父よ、私たちをあなたの助けを与えてください。私たちを導く真の光を与えてください。」そして、その光と助けは、聖霊の教えであり、私があなたがたに与えた教えであり、私がすべての者の父であるがゆえに、彼がすべてに注ぐ教えである。（§47, 27）

新しい啓示の言葉の意味

59. 一見、この啓示には大したことは含まれていないように見えるが、将来、あなたがたは、それが人類にとってどのような意味を持つことになるかを目の当たりにするだろう。

60.
この民の中には、あらゆる種類の弟子がいる。ある者はその業の偉大さを予感し、その世の出来事をすでに察知している。またある者は、これが良い道であると信じただけで満足している。さらに、この教えの偉大さに気づくことができず、その勝利が人の心の浸透を妨げる者たちもいる。
言っておくが、これは私があなたがたに託した宝である。しかし、あなたがたは私の教えを探し求めなければならない。その時、光が輝きを見ようとしなかったのだ。
私は光ほど闇の中で最も明るく輝く、とあなたがたに告げた。同様に、この物質主義と罪の時において、私があなたがたに持ち込む真理が、その全き輝きを放つのを目にするだろう。

61.
キリストの時代も、その言葉を疑う者が持てることを忘れてはならない。人はイエスの出自と服装を批判し、彼がサルの大工の貧しい

女性の息子であることを知ったとき――後に貧しいガリラヤの漁師たちをも含め、彼らは喜んで思えぬ教えを広めるために加わることになる人物であることを――――

そのため、村から村へと巡り、粗末な服を身にまとったあの巡回説教者が、主がイスラエルの民に約束された王であるとは、彼らは信じることができなかった。

62.

私がこれらの手紙を与えるのは、人が、霊によってのみ見られ、感じられるべきものの偉大さを信じるようにと、感覚をはるかに超えた輝きを放っているからである。

63.

私は、人の目が開かれるために、自らの血を流し、命を捧げ、復活しなければならなかった。あなたがたが私を信じるために、今、私の霊はどのようでなければならないのか。人類に、私があなたを救われるのを見るために、私がしたことをあなたがたは信じるだろうか。（§9、68-69；71、73）

64.

私の教えが、物質的進歩こそ繁栄であると宣言する者は、重大な過ちを犯している。すべての創造者である私は、人類に、その向上と真の進歩への道を示している。

私の言葉は、霊と語りかけるだけでなく、知性、理性、さらには感覚にも語りかける。私の教えは、霊性生活を啓発するだけでなく、あらゆる学問とあらゆる道筋をもたらす。

なぜなら、私の教えは、すべての魂をこの現世を超えた領域の道へと導くことに留まらず、人間の心に届き、この惑星上で快適で、人間らしく、有益な生活を送るよう人々を奮起するからである。（173, 44）

65.

あなたがたが生きている「第三の時代」は、偉大な啓示が明かされる時である。学者や神学者たちは、私があなたがたに啓示している真理に照らして、自らの誤謬を修正せざるを得なくなるだろう。

66.

今こそ、人が私の知恵の光に目を開くべき時である。それは、私の教えという変わらぬ光であり、それを通してあなたがたが霊において真の命とよみがえりのための糧を得るためである。（190、51-52）

67.

人は私の啓示の真実性を否定しようと試みるだろう。しかし、事実、証拠、そして出来事こそが、この真実を証明するであろう。それは「第三の時代」の偉大なメッセージとして、私の民の口から語られることとなる。また、書物を通しても、私の教えは世界に広まっていく。なぜなら、これは私が人の皆から奪い去られた、許された手段からである。

ただ、あなたがたは、私の真理を見抜き、それを最も純粋で簡素な方法で人の心に伝えてほしいと願う。（158, 6）

68.

あの「第三の時代」において、私が再び来臨することは、ごく少数の心によってのみ信じられていた。それにもかかわらず、人類最後の救い主の誕生を祝う時のように定められた。

同様に、この時において、あなたがたの啓示、すなわち聖霊としての私の到来のしるしは、明日、さらなる時のしるしとして定められるであろう。69.

神の愛の体現者であるキリストがあなたがたに語りかけ、言葉で教えを説いたように、「皆の人々に平安あれ、真理を愛し、愛の奉仕者たちに平安あれ。」（158, 41-43）。

第8章 – キリストの新しい教会、弟子たち、使徒たち、そして神の使者たち

啓示の教会における光と影

1.
もし私がすべての国々に伝道者を送れば、大多数の人はそれを嘲笑するであろう。なぜなら、人の虚しい物質主義、そして誤った自負は、霊的誕生、そして聖霊による教えを受け入れないからである。世界はまだ受け入れる準備ができていないため、誰かがこの形の私の啓示を受け入れることはできないであろう。

2.
かつてキリストが人間として生まれるために若者を選ばれたように、今日、わたしはまた、わたしに従順な準備ができており、あの祝福された夜、神の子を迎え入れた羊飼いたちのように、この地の片隅を見出したのである。（24、13-14）

3.
ここにいる、指導者聖職者よ、自分の道を歩め。偽りの家族よ、私に従順な者たちの素晴らしい人々の集まりは、何世紀にもわたる闇の中でまだ眠り続けている者たちを目覚めさせるために、また、私の多くの子供たちにとって、扉と浄化の泉となるであろう。（94、39）

4. わたしの教会の扉の下には、そこから光を持った人々が自分の光を広めることができるような亀裂がない。
主の座を奪おうとする者に対して、誰一人立ち上がったり、紫のマントをまとわされたりすることはない。また、裁き、赦し、断罪、あるいは人の行いに対して判決を下すような階級が現れることもない。公正かつ完全な裁きの座に座ることができるのは、私だけである。

5.
私は人を召し、教え、導く者を遣わすことはできるが、裁き、罰するために誰かを遣わすことはない。私は人の牧者となる者を遣わしてきたが、主や父となる者ではない。霊において唯一の父は、私である。（143, 13-14）

6.
私はこの時代に、私の律法を真に従い、真理実践と隣人愛を愛する民を育てたい。この民は、他の人々が自分たちが犯した過ちを指摘することができる鏡のようになるであろう。
その民は裁判官であってはならないが、その義務、行い、そして霊的義務の遂行は、その道で出会うすべての者の魂に響き、私の律法に背くすべての過ちを彼らに示さなければならない。

7. この民が一度、強力で数多くなれば、その隣人たちの注目を集めることとなる。なぜなら、その行いの清さと、神の業における誠実さは、人々を驚かせるからである。その時、人々はこう問うであろう。「神を知らないのに、どうしてあのような行ないをしているのか？
誰が、この畑に、礼拝のための祭壇や教会が必要だと感じることなく、祈りをもって献身することを教えたのか？鳥のように、種を蒔かず、刈り取らず、納めず、それでもなお生き続ける、これらの巡回説教者や宣教師たちは、どこから来たのか？」

8.
その時、私は彼らにこう告げるであろう。「この貧しく謙虚でありながら、私の律法を行うことに熱心で、世の権力に対して強いこの民は、いかなる人間によっても育てられたのではない。
善行と喜びを見出し、霊感を受け、人の心に平和のメッセージと癒しの香油の一滴をもたらすこの畑は、地元のいかなる宗教共同体の教師や聖職者からも教えを受けたわけではない。
まことに、わたしはあなたがたに告げる。この時代、あなたがたの世界は、真の霊性をもって神の業を行うことのできる人間は、ただ一人もいないのだ。

真理の御霊は、儀式や儀礼の華やかさも、富や地位の権力にも心を奪われることなく、清く、高潔で、誠実で、真理を愛する人をその神殿として求めている。そのような人はあなたの中にいるのか。（154, 12-14）

9.

私は多くの子供たちを呼び寄せ、この偉大な中で様々な使命を与えた。そして、あなたがの進歩と能力に応じて、彼らをあなたがたに与えた。私は彼らを試みて、私の民、私の新しい使徒団を形成した。

10. 私は、ある者たちに指導の職務を与えた。そして、彼らの任務を重荷ないし苦労とならないよう、民を会衆に分けた。

11.

また他の人々には、私の霊感、それが聞き慣れないものをこの器を受け取るために集まる教会を与えるための信仰の手引としての賜物を与えた。

12. ある者たちには、彼らを導き、彼らの中を通って来るべきことを告げ知らせるために、透視の特権を与えた。

13. 「牧」としての任務は、民の癒しのために、聖霊の賜物と共に、十字架の証言を担う教会に留まる者たちの助けとなる者たちに与えられた。

14.

他の人々には、他の賜物が授けられており、彼らは霊の道具として訓練され、そのメッセージ、すなわち私の業の解説を伝えるとともに、病人のための癒しである癒しの書物の作成としても、その癒しの霊感を通して、共に苦しむ者たちに慰めを授けるようになっている。

15. 私があなたがたに残した書物に、この時代の私の啓示、教え、そして導きを記す者を、私は賢者の筆と呼んだ。

16.

私は、民の間において堅固で、安定し、そして強い模範となるべき者たちに、「使徒」という職務を授けた。民の間における彼らの召命は、そして模範は、岩のように変わらなければならない。

17.

しかし今、私の務めのこの時期が終わりに近づいているので、私はすべての職務を、これほど大きな任務を受けるために選ばれたすべての人々に、自らを深く省み、その召しと選びを確かなものとするよう呼びかける。この審判の時、私はすべての人々に寄り添う。（35、27-28）

18.

いつの時もそうであったように、召された者は多くても選ばれた者は少なかった。なぜなら、私はその任務のほとんどを準備時代において整っている者たちを選び出すからである。そして残りの者たちは、彼らもまた選ばれる日が来るのを待つことを理解できるよう、光を与える。

19.

また任務に選ばれる機会を得ていないにもかかわらず、単に召されただけで、私の弟子、働人の列に加わった者たちがどれほど多いことか。彼の魂は、この十字架の証言を担うために不可欠な成長を遂げず、また彼の性質は、私の霊を受け入れるために必要な準備ってもいなかったのだ！

選ばれた者たちの列に加わった後、彼の多くは堕落していた。神聖な召命を誤って解釈し、霊感を誤って解釈し、その思い込みを他者に教え、嘘をつき、不正をまき散らし、私の名と、私の弟子たちに授けた霊の賜物を悪用して、私の秘密をさまよっていたのだ。

20. 彼らが誰であるかを探ろうとする者はないように。なぜなら、あなたがたは見つけることができないからだ。

ただ私の鋭い審判の目だけが彼らを見ることができ、私は彼らの良心に私の言葉を届ける。それは彼らにこう告げるのだ。「目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、時宜を得て自らの過ちを悔い改めることができる。もしそうするなら、私は約束する。霊に速やかにあなたちを私の食卓に着かせ、和解の祝宴を祝おう。」（106, 53-55）

21.

これが真実である。私の業に属している者であっても、皆が互いに愛し合っているわけではない。また、皆がそれを理解しているわけでもない。それゆえ、私はあなたがたにこう言えるのだ。ある者は私の業に属し、またある者は彼自身の業を行っているのだ。

22.

愛をもってわたしに従う者たちは、わたしの言葉を愛している。なぜなら、その言葉が彼を傷つけることなく、彼を動揺させることなく、過ちを犯してくれることを知っているからだ。それゆえ、彼は自らの行いを完璧にすることに精力的に取り組むのである。

23.
しかし、この宗派を創設するために、称賛、憧憬、お世辞、あるいは指名されることを求めた魂の完成を志さない者たちは、自分の過ちを悔やみ始めると、私の言葉を知るようになる。そうすれば、彼らは自分の意志を自由に遂行できる。私のものとは異なる業績を成し遂げなければならない。彼らはまだ私の啓示の期間中に聴かなければならない唯一のことは、後で私のメッセージを解釈できるように、最も崇高な心持ちで私に耳を傾けることであるということを理解していない。（140, 72-74）
24.
私は、混乱の時代が終わり、その「働き手」がたった一人の人間の知力によって私の啓示を説明しない、と宣言するように、と述べた。しかし、たとえ人間が私の意志に逆らおうとも、私の言葉が成就されるときが来る。
25.
私が憐れみを与えた者たちの多くが、その道においてどれほどの過ちを犯してきたことか。1950年以降、私の子供たちの間にどれほどの無理解が広がっているか、私は見ている。
26. 理解の欠如に基づいて、人間は私の助けとなる愛と慈悲を、律法と調和した真理の真の道から外れて立っている。
27.
イエスは再び家族という裂け目が裂けて、私がその弁護者は清純な律法を説こうとするだろう。イエスは再びかつての道を求め、偶像崇拝を非難するだろう。
イエスは権威主義的な方向に流れ、人間が差し出す卓越の良い偽りの言葉に喜びを見出すだろう。
28.
教会内の分裂は、イエスの裂け目が、互いに否定し合い、弱体化しているのを見ると、その計り知れない価値ある宝を奪い取り、新しい契約の律法を押しつけ、明日は自分たちが人類における真の神の使者であり、私の神性の代弁者であると宣言する真理を求めるだろう。
(363, 47-49, 51, 57)

霊的働きに関する聴衆への警告の言葉

29. わたしの啓示が終わった後、あなたがたがこの教えが何であるかを明確に理解し、正しく従うことができるようにしたい。なぜなら、今日に至るまで、わたしの言葉を聞いた大勢の人々の間には、真のスピリチュアリストはまだ現れていないからだ。 これまであなたがたが実践してきたのはスピリチュアリズムではなく、単に私の業に対するあなたがたの想像に過ぎず、それは真のスピリチュアリティからは程遠いものである。
30.
あなたがたは、自分たちが道を誤っていたことを認める姿勢を持たなければならない。習慣を改めるために気力を奮い起こし、この教えの真実と純粋さがあなたがたの間に輝きを放つよう、熱心に努力しなければならない。
31. 私の教えの本質を理解するのでない限り、それ以外の形式儀礼の見せ場を求めることを控えてはならない。（152, 28-30）
32.
残された時間を活用して、私の教えに耳を傾けなさい。そうすれば、その教えが光と恵みであなたを満たし、霊性と確かな歩みを踏み出すことができるだろう。物質主義に満ち溢れた人生を続けているために、あなたはその歩みを踏み出すことができなかったのだ。
33.
今日に至るまで、あなたがたは像、儀式、象徴、無限の神霊性を求める事柄に執着していた。あなたがたは、霊性主義者となる勇気がなければ、物質主義的な構えや過ちを悔い改めるための一種偽りの霊性を編み出してきた。
34.
私は、あなたがたを裁く者ではなく、証人であり真実を愛する者であってほしいと願っている。それゆえ、私はあなたがたに次の明確な語りかける。

あなたがたの生活態度に表れ、この業の真実を世界に示すためである。あなたがたは自分をスピリチュアリストと呼ぶか？
なるほど、真にそうありなさい。
あなたがたが私の教えとは正反対のことをしている限り、私の教えについて語るな。そうすれば、あなたがたの行いによって人々を混乱させるだけだ。
35.
何よりも先ず、私の業とは何か、私の律法を何と心得るのか、あなたの使命とは何か、そしてそれをどのように遂行すべきかを悟りなさい。そうすれば、もしあなたの道に、その歩みを導くふさわしい導き手がなかったとしても、良心と、私の教えから得た悟りによって自分を導くことができるようになる。そうすれば、いかなる過ちや誤りについても、誰のせいにすることもできなくなるだろう。（171、27-30）
36.
私が人間的な性格を通して告げるのは当然だから、私の意志は、あなたがた霊性豊かな者を実践に用い、霊性向上に着手することである。そうすれば、私が去るとき、あなたがたは全ての道のりの一部を歩み終えており、そのような霊性は容易に遂行に着手するのに、自分たちが弱すぎると感じることはなかろう。
37.
神の御名を挙げ、それを実現しようと努力する者たちもいる。しかし、この業の真意を誤解してしまう者たちもおり、彼らは大多数を占めている。
38.
これは私たちの民に対して非難すべき誤りである。なぜなら、長い間教会を去った者たちを、人類の敵と見なすようなことになってはならないと願うからである。（167, 65-67）
39.
ある者たちは私の言葉の真意の一部に気づき、常に自分の魂の進歩と発展を望んでいた一方で、他の者たちは見せ掛けの意味しかない喜びを見出していた。同様に、前者は霊性開発の教えを受けることを喜んでいたのに対し、後者たちは自分の過ちが指摘されることに不快感を抱いていた。
40.
私の代弁者たちを通して明かされるべきであったにもかかわらず、隠されてしまったすべての事柄について、誰が私の前で責任を問われることとなるか、私だけが知っている。（170, 8-9）
41.
よく考えてみれば、あなたがたに必要な調和は霊的なものであり、自分の精神性を乗り越えたときこそ、それを達成することができるだろう。
42.
誰が自分の近隣は唯一の真実として説き、同時に他者の近隣を誤りとして糾弾している状況で、どうして平和を築くことができるだろうか。
43. 狂信は闇であり、盲目であり、無であり、その実が光に満ちたものであることは決してない。（189, 8-10）
44.
まことに、あなたがたは告げる。もしあなたがたが、わたしの意志に従って話さないならば、人類はあなたがたを拒絶し、あなたがたの人生が誤ったものから遠ざかっているのを見れば、その時からあなたがたを追い出すであろう。
45. もし人々が、どの教会においてもほぼ同じ、私の教えの実践方法もそれぞれ違うと気づいたなら、どうなるだろうか。
46.
わたしはこの民族のために、あなたがたが働くよう、わたしの名の最後の召命をあなたがたに託す。それは、霊性面が物質面を含むあらゆる事柄において、調和と一致に満ちたあなたがたの働きこそが、様々な集会所や国の各地にいるあなたがたすべてが、ただ一人の師、すなわち神によって教えられたという最大の証しとなるためである。（252, 69-71）

真の弟子、新たな使徒たち

47. この普遍的かつ無限なる業を制限しようとしたり、また、あなた方の霊的発展に制限を設けようとしたりしてはならない。なぜなら、善行と研鑽の道に深く没頭すればするほど、より大きな啓示を受けることになるからである。 あなたがたは、最も目立たないものの中から神の業が湧き上がってくるのを見、すべての被造物の中にそれが現れているのを見、そして自分の内なる存在の中でそれが鼓動しているのを感じるだろう。

48. これこそが私のスピリチュアルな弟子教育の秘訣であり、彼はまた師のように謙虚であるようにするためである。弟子は神秘的な力や並外れた能力で人を驚かせようとするのではなく、言葉と真実と行いのみによって、人を説得し、改宗させなければならない。

49. 真の弟子は、その簡素さによって偉大となる。彼は神を理解し、同時に、周囲の人々にも自分を理解させることができるだろう。（97, 15-17）

50. イエスの弟子とは、言葉によって人を打ち負かし、説得し、慰め、高め、目覚めさせ、打ち負かされた者を自由にし、逆境は打ち勝つ者と変える者である。

51. キリストの使徒は、自分の苦しみや心配事ばかりを考えて、心を閉ざすことはできない。彼は自分のことを気にかけるのではなく、他者のことを思う。なぜなら、霊的な助けを必要とする兄弟姉妹のために自分のことを犠牲にした者は、父が喜んで立ち会ってくださるという約束が与えられているからだ。

そして、隣人、希望を失い、悲しみの涙、痛みのための一滴を慰めるために、自分を忘れてしまう者は、帰還の際、祝福、喜び、そして平和である光に照らされた我が家を見つけるのである。（93, 32-33）

52. この時代、わたしの食卓は男性女性等しく使徒として座ることとなる。わたしは、あなたがたの霊性をその食卓に招く。

53. この時代、霊性運動の旗を高く掲げたのは女性たちであり、彼女たちは主の律法を心に刻み込んだ足跡をその道に残してきた。

54. わたしの新しい使徒団において、女性は男性の隣に立つであろう。そして、わたしはそのために特別な場所をもつ。大人も、子供も、老人も、若い娘も、母も、皆そうするであろう。なぜなら、わたしはもう一度言うが、わたしが求めているのはあなたがたの霊性であり、それによってあなたがたは神秘に満ちているからである。(69, 16-17)

55. 第二の時代において、わたしの王国はこの地のものではないとあなたがたは言ったが、今日、あなたがたの王国もここにはない、と言う。なぜなら、あなたがたすでに知っているように、この世は人間にとって単なる通過点に過ぎないからだ。

56. 私は決して物質主義に基づいたことのない、真の生き方を教える。それゆえ、地上の権者たちは、私の教えに従って歩むだろう。私は愛と赦しと謙遜から成る、永遠の生命の教えを携えてあなたがたのもとに来る。しかし、それはすぐには理解されないだろう。人類は私を非難し、もう一度私を十字架につけるだろう。

しかし、私は、私の教えが広められ、愛されるためには、これらすべてを経なければならないことを知っている。私は、かつて私を最も激しく迫害した者たちが、その後、私の最も忠実で、自己犠牲を厭わない種まき人となることを知っている。なぜなら、私は彼らに、私の真実の極めて大きな証拠を与えるからである。

57.
「第の時代」のニーファイ、すなわち祭司たちの長であり、贖罪の深遠な教えについて語り合うためにイエスを訪ねたその人が、この時代に再び現れ、私の業を広く知らしめ、それに回心するであろう。
58.
かつて私を激しい怒りで追ったものの、後に私の最偉大な使徒の一人となったパウロと呼ばれるあのサウロが、再び私の道に現れるであろう。そして至る所に私の新しい弟子たちの姿を見けるであろう――あるときは私に、またあるときは王を証して。
今の時代重大な意味を持つ私があなたがに語っているその時は、ますます近づいている。（3, 45-48）
59.
人は、試練の中で揺ぎない姿勢を保つことができる者、この世の霊の大きな闘いに精通している者を愛している。彼らこそが人類を方向づけ、導くことができる者である。なぜなら、彼の心は、誰をも恐れたり憎んだりしないという決意でいっぱいだからだ。
彼は、高潔な瞬間に、彼を愛で満たし、その経験を皆に伝えるよう導いてくださる主の霊を得ている。なぜ、利己主義を小さくすることができよう。（4, 53）

世界中の、そしてあらゆる時代の神の使徒たち

60. 地上の諸民族は、霊的な光に欠けたことは一度もない。まことに、わたしはあなたがたに告げる。ここにいるこの民だけが預言者や使徒を持っていたのではなく、わたしはすべての人々に、彼らを目覚めさせるために使者を遣わしたのである。
61.
彼の教えの光と真理、そして私があなたがに啓示したものと類似している点に基づいて、あなたがは彼の言葉を判断することができる。
62.
ある者はメシアの到来前に生まれ、他の者は私が人間として存在した後に活動した。しかし、彼らは皆、人々に霊的なメッセージをもたらした。
63.
それらの教えは、私の教えと同様に、歪められてきた。なぜなら、その真実が変えられていなくても、それらは切り抜かれ、ある真理を渇望する人々が理解できるからである。
64.
使徒、預言者、そして僕たちを通して人々に啓示されたのは、ただ一つの真理、ただ一つの道徳である。それなのに、なぜ人々は真理、道徳、そして人生について異なる考えを持っているのだろうか。
65.
あらゆる時代において類によって歪められてきたこの真理は、再び回復されるであろう。そしてそれは、たとえそれが、私の神性の子供たちの発展の道筋に照らしてきたのと同じ光であるにもかかわらず、人々にはあたかも新しいものであるかのように思えるほどの力を持って輝き出すであろう。
66.
真実を語ったために命を落とした者は多く、また、自分の中で語りかける声を黙らせようとしなかったために拷問を受けた者はさらに多い。
67. 天は精神、愛、道徳について語った者たちだけを遣わしたのだと思ってはいけない。いや、天は科学の良き友、すなわち人々の生活を豊かにし、その重荷を軽くし、苦悩や心の病を癒した者たちをも遣わしたのである。彼らすべてが、私の使徒であったのだ。
68.
また、霊的な道徳の教えや科学的な発見をもたらすだけではなく、創造の美しさを感じ、賞賛することを教えるメッセージを携えてくる者たちもいる。彼らは、悲しみに暮れる人々の心に喜びと癒しをもたらすという使命を帯びた、私の使者たちである。

69. 彼らは皆、真理に目をつぶり世界、美善、無感覚、愛、無理解を目の当たりにしたとき、苦しみを経験した。
それでもなお――私が、この時にはすべての回復すると言うならば――すべての正しい軌道に戻し、私の教えのすべてに本来の意義に取り戻すと予言するならば
それゆえ、この世界にとって霊的な春の時が近づいていると信じることはできる。ただし、それが訪れる前に、すべての裁き、清めることを忘れてはならない。（21, 9-16）
70.
神の啓示が火を発しようとするたびに、私は彼らに預言者を送り、その光を彼らによって認識されるよう準備させてきた。しかし、霊のメッセージをもたらす者だけが私の使者であると考えてはならない。
いいえ、弟子たちよ、人間の中でしかるべき役割を果たす者は皆、私の使者である。
71.
これらの使者はあなたがたの人生のあらゆる道で出会うことができる。宗教団体においても、科学の分野においても――統治する者たちの間でも、あるいは良き教えを説く者たちの間でも。
72.
私の良き僕は歩まなければならない道から決して逸れることのない者である。彼は引き返すよりは、その道で死ぬことを選ぶ。彼の生き様は、隣の人生における光であり、その行いは他者にとっての模範となる。
ああ、人類が私が彼らを通して送るメッセージを理解できればいいのだが！しかし、そうでない。世の中には重要な使命を帯びている人が多くいるにもかかわらず、彼らはそれらの偉大な模範から目をそらし、自分たちの好き勝手な道へと踏み出してしまうからだ。（105, 13-15）
73.
しかし、人類よ、私があなたに送ったあの人を、あなたはどのように扱ったのか。彼は私の道、すなわち愛と平和の道である事の道を、あなたに思い出させるために送られたのだ。
74.
あなたがたは彼の使命を全く受け入れようとはせず、あなたの理論や教義に基づく偏狭な事柄をもって彼と戦った。（163,18-19）
75.
私はもう一度言わなければならない。私の啓示の周りに集まるのは、父の愛をもって他の如何なる宗教よりも高く置いている民ではない。
また彼らに目を向けるのは、新しい神の啓示がそのたびに、常にこの世に存在してきた魂たちによって彼らを形成されたからではない。彼らは預言者、使徒、先駆者、そして最初の民であるイスラエルの民と霊的な系統である。
76.
この時において彼らは私を受け入れ、私の啓示の新しい形を理解し、私の約束の成就を証できる者がいったい誰がいようか。（159, 51-52）
77. 私はその大多数が国に居住するイスラエルの民から降りてきた。
残りの者たちは、私によって遣わされ、あらゆる国々に散らされているが、私は彼らの霊の目を見た。これらは、私に忠実であり続ける私の選ばれた者たちである。彼らの心は汚されておらず、彼らの霊は私の霊感を受け入れることができる。彼らの内を通して、私は今、世界に偉大な時の変化を与えている。（169, 2）
78.
愛する子供たちよ、あなたがたは数多くここに集まったが、まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの鋭い視線は今、これらの臨在の時であると心で感じている選ばれた者たちを至る所に見出している。彼らはあなたがたのようにわたしの言葉を耳で聞いたわけではないが、
しかし、彼らの霊の中では私が再び人類の中にいること、霊の世界から来たことを告げる声を聞いている。ある者は、霊の目をもってそれを見ることさえした。ある者は夢の中によって、残りの者は私の愛を強く感じさせ、私の霊の臨在を知らせる。（346, 13）

79.
まもなく、直感のある者、霊感を受ける者、霊に感受性豊かな者たちが立ちあがり、計画において彼が霊によって見ていること、感じていること、聞き取っていること、受け取っていることを証するであろう。
改めて言っておくが、わたしの民は、これら特別な者たちを通してわたしが語りかける者たちだけに限られるのではない。わたしは後の時代の者たちが来なければならない道を整え、畑を耕すために、わたしの僕たちをほかのさまざまな場所に遣わしたのである。
80.
わたしは彼をカルメルと祝福する。彼の日々の働きは豊かに満ち、その道筋は覆われているからだ。喝采、伴奏、中傷、そして苦悩などが、どこへ行っても彼にはつきまとう。
しかし、彼ら――直感に導かれ、霊感に満ちて――は、自分たちが私によって遣わされたことを知っており、その使命を果たすため道の果てまで進む意志を持っている。（84, 50-51）
81.
わたしはあなたがたをわたしの王国へと招く。わたしはしかなる差別もなく、地のすべての民を呼びかける。しかし、すべての者がわたしに耳を傾けるわけではないことを、わたしは知っている。
82. 人類の上を闇が覆い、暗闇の中を歩んでいる。しかし、誤りが蔓延する場所には、私によって照らされた者が現れるであろう。
その者は明るい光を広げる――見よ、私がその者を立て、人々を目覚めさせ、霊感を与え、警告を与えるために、霊を見よ、私である。
83.
それらの使者の愛を、あなたがたの心の中で実を結ぶ種とせよ。彼らが見の貧しさを常にあなたがたの前に現しても、拒んではならない。彼らの言葉に耳を傾けなさい。彼らは私の名において、あなたがたが現在は知らない能力を受けるためにやって来るのだ。彼らはあなたがたを教え、あなたがたを導いてくれる物質的束縛から解き放ち、私のもとへとどまらせた霊性自由を得る助けをしてくれるであろう。（81, 33）
84.
もし誰かが現れて、自分を再び開かれたキリストであると宣言したとしても、彼を信じてはならない。なぜなら、私は再び来ると告げたとき、それは霊においてのことであると、私はあなたがたに知らせたからである。
もし誰かが「私は神の使者だ」と言ったとしても、その者を疑いなさい。真の使者は、自分は遣わされた使命を大々的に宣伝したりはしなかった。彼らはただその行いによって自らを証明するだけである。その者が真の使者であるかどうかは、人が判断することである。木はその実によって知れる、と私が言ったことを覚えているか。
85.
私はあなたがたに「この果実を刈りとることを急いではならない」と言ったが、良い果実と悪い果実を見分けるよう、備えをしておかなければならない。
86. 真理を愛する者たちを、私は燭台として立て、彼らが周囲を道照らすようにする。（131, 5-7）
87.
あなたがたがこの世において霊的な導きを必要とした時は終わった。これからは、この道を歩む者は、わたしの律法の道、自らの良心の導きを持つことになる。
88. とはいえ、その横に霊によって人の群れを支える大きな力と強い影響を持つ男女は、常に存在し続けるであろう。89.
もしそうでなければ、私はずっとモーセやエリヤのように霊を地上に遣わし、彼らが道を示し、常に律法を思い出させていたはずである。
彼らはまた、あなたがたを支え、守り、付き添ってくれるが、もはや肉体の姿ではなく、霊的な方からである。90.
誰が彼らを見るのか、誰にもわからない。しかし、あなたがたが構えをすれば、常に人類とつながり、人類の中で偉大な使命を果たしてきた偉大な霊たちの存在を、あなたがたの上に感じるであろう。（155, 40-41）

II. 第一および第二の語りの時の区別

第一章 イスラエルの民の物語と人びと

原罪の物語

1.
地球最初の住人に関する歴史伝承は、世から世へと受け継がれ、やがて『太古の時』という書物に記されるに至った。それは、地球に生きる最初の人類を生き生きと描き出す話である。彼の純粋と無垢によって、彼は神による自然の愛を感じることができた。すべての存在の間には友好的関係があり、すべての生き物の間は、制限のない兄弟愛で結ばれていた。（105, 42）

2.
神聖な書の中で、私は最初の人類、彼の使命についての最初の知識を得るようにと告げられたが、私の語りの真意は誤って解釈されてしまった。

3.
人間が食べた善悪の知識の生命の木について語られるとき、それはただ人間が善悪を区別する力を意味する。それによって自分の行いに責任を負うようになるときから、その行いの実り取り始めるということを、あなたがたは理解せねばならない。（150, 42）

4.
あなたがたは、神が人に『産めよ、そして地を満たせ』と言われたことを知っている。これこそが、あなたがたに与えられた最初の掟であった、おお民よ。
その後、父は人に、単に産め、人類の種を繁殖させるだけでなく、その意識がますます高められ、魂が成長することを開拓し、発展していくようにと命じられた。
しかし、もし最初の律法が人類の繁栄を目的としていたのなら――どうして、あなたがたが神の戒めに従い、それを果たしたからといって、その同じ目的があなたがたを責めることができるだろうか？民よ、あなたがたの神の中に、そのような矛盾が存在しうるだろうか？

5.
見よ、人はただ罪の現実について語られただけだと私に言うが、それは物質的な解釈を与えたことか。それゆえ、私は教えを探求し、もはや最初の人たちが父の不服従によって負った罪の償いを、あなたがたが支払っているなどと言ってはならない。
神の義について、より高次の観点から。（150, 45-46）

6.
今こそ、あなたがたは私の言葉『産めよ、満ちよ』を理解できる時である。すなわち、これは霊にもなされねばならず、あなたがたは霊と光に満ち、思考をもって宇宙を満たすべきなのだ。
私に近づこうとするすべての人々――完全性を求めるすべての人々を、私は歓迎する。（150, 48-49）

自由意志と罪

7. あなたがたは、自由意志のゆえに過ちや誤りに陥ったと私に言う。それに対し、私はこう答える。この賜物によって、あなたがたは、自身の発展の始まりに立っていた地点から、無限に遥か彼方へと高みへ昇ることができるのだ。

8.
自由意志から、私はすべての人の精神の中に私の光を注いだ。それは、誰も迷い出ないようにするためであった。しかし、私の声を聞こうと

しなかった者。あるいは霊的光を得ながらも、それに向き合おうとしなかった者は、すぐに人間的な数えきれないほどの美しさに惑わされ、魂を支える私の律法を失い、つまずき倒れることとなった。

9. たった一つの過ちが多くの痛ましい結果をもたらしたのは、不完全な神の愛と調和しないからである。

10.

悔い改め、謙虚な心で直ちにわたしのもとに戻り、今まさに犯した過ちから清められるよう素直に願い求める者たちを、主は限りない愛と憐れみをもって迎え入れ、彼の霊魂を過ちから守り、彼を導き、その使命を果たすものとした。

11. 最初の誘惑後、誰が私に、悔い改めて戻ってきたと言えようか。

いや、多くの者は憤慨と憎しみに満ちて戻ってきた。また、罪を自覚し恥じ入りながらも、自分の過ちを私の前で正当化しようとした者もいた。そして、悔い改めと償いによって自らを清めること――それこそが贖いである――とは程遠く、彼らは私の愛と恵みの律法の外で、自分なりの生き方を築くことを選んだ。

12.

そこで、私の正義が立ち上がった――しかし、彼を滅ぼすためではなく、彼を罰するためであり、彼を減ぼすためではなく、彼らに自己を完成させるための広範な機会を与えることによって、彼を永遠に保つためであった。

13.

あの最初の罪人たちのうち、どれほど多くの者が、今なお自らの力から解き放たれることを求めていないことか。彼らは堕落の連鎖と、深淵とますます深く落ちていくからである。彼をそこから救い出すことができるのは、ただ私の律法の義務だけである。（20, 40-46）

大洪水

14. 人類の初期の時代は、人々の間に無法と純潔が交じり合っていた。しかし、その数が増えるにつれて、彼らの堕落と自由意志により、彼らの罪はますます増え、ますます急速に広がっていった――彼らの美徳ではなく、私の律法に対する違反がそうであった。

15.

そこで、私はノアを召集した。私は彼に霊の中で自らを見せた。なぜなら、私は人類の始まりから、このように人々と話をしてきたからである。

16.

私はノアに言った。「私はすべての魂を、あらゆる罪から清める。そのために、私は大洪水を送る。箱舟を造り、あなたの子供たち、その妻たち、あなたの孫たち、そしてあらゆる種類の動物をそれぞれ一つがいずつ、その中に入れなさい。」

17.

ノアは私の命令に従った。そして、私の言葉通り、大箱舟を建てた。悪しき種族にそそぎ注がれ、善き種族の救いに役立てた。そこから私は、私の正義の光を呼び戻し、私の律法を蘇らせ、良き道徳に従って生きることを通じ、新しい人類を創造した。

18. あなたがたは、あのように悲惨な死を遂げた人々が、肉体も滅ぼされてしまったと思うのか。

まことに、わたしはあなたがたに言う。いいえ、わが子らよ、彼の魂はわたしによって守られ、審判者である彼自身の良心の前に目覚め、再びあの道へと戻る備えが整えられ、その道において霊的な進歩を遂げるようになったのである。（102, 14-16）

アブラハムの犠牲の精神

19.

あなたがたが普段の食事を取る前に祈りを捧げることが、常に主にふさわしいとは限らない。なぜなら、あなたがたの信仰、従順、決意、そして私の命令に従おうとする意志を見るだけで、私は十分であり、それゆえ、私はあなたがたを試練の最初の瞬間から祝福してあげるのだ。

20.

アブラハムが、深く愛していた息子イサクを犠牲に捧げるよう求められたことを思い出せ。この族長は、痛みと息子への愛を乗り越え、あなたがたには決して理解できないような、従順、信仰、愛、そして謙虚な心で、息子を捧げようとしていたのだ。

しかし、彼は息子への犠牲を遂行することを許されなかった。なぜなら、彼はその瞬間に既に神の御心への従順を証明しており、それだけで十分だったからである。
アブラハムの手が、より高い力によって止められ、イサクの犠牲が阻止されたとき、彼の心の中の確信はどれほど大きかったことか！彼は主の御名をどれほど賛美し、その恵みをどれほど称賛したことか！（Gen. 22:8, 11）
21.
私がアブラハムに、その愛を試すために、彼の息子であり、深く愛するイサクを犠牲に捧げるよう求めたとき、アブラハムとその息子イサクを通して、私はあなたがたに、救いの犠牲の死が何を意味するかをすでに教えていたのである。
22. 正しく考察すれば、その行為の中に、後に「独り子」の犠牲が
＊ 全世界の救いのために捧げられたことの類似点を見出すだろう。＊
この聖句表現は、「この世に生まれた」あるいは「愛した」神の御子を意味する

23. ここでアブラハムは神の体現であり、イサクはイエスの姿であった。
その瞬間、族長は、主が自分の息子の人生を要求されたのは、無辜者の血の罪を流すためだと考えた。そして、彼は自分の肉から生まれた者を深く愛していたにもかかわらず、神に対する従順、そして民の救いと愛が、愛する息子の命よりも彼にとって重かったのだ。
24.
従順がアブラハムは、息子を殺害しようとしていた。彼の悲しみは大きかったが、息子を犠牲にするために剣を上げたその瞬間、私の力が彼を制止し、愛と従順の証としてその家畜が残るよう、息子の代わりに子羊を犠牲にするよう命じた。（Gen. 22:19, 18-19）

ヤコブの天の梯子の夢のイメージ
25. ヤコブが夢の中で見たあの梯子とはどのような意味を持つか、ご存じでしょうか。あの梯子は、魂の進歩と発展を象徴しているのです。
26.
啓示が下された時、ヤコブの肉体は眠っていたが、その魂は目覚めていた。その魂はよりの祈りによって高みへと昇り、光の領域に至ったとき、天からのメッセージを受け取った。それは、全人類であるご自身の民のために、霊的啓示と真理の遺産として残されるべきものであった。なぜなら、「イスラエル」とは地の名ではなく、霊的名だからである。
27.
ヤコブは、その梯子の上に立っており、その頂点が天に触れているのを見た。これは、魂の向上への道を指し示している。それは地の肉体に始まり、魂が物質的影響から遠ざかり、その光と本質をより多くまとうようになるにつれて、ますます輝きを増していくものである。
28.
族長は、その梯子のを天使たちが昇り降りしているのを見た。これは、光をまとった魂、あるいは聖霊に満たされた状態を帯びて、霊界へ帰還する際には高く、死へ昇るために、絶えず生まれ、死に、絶えず変容する魂の姿を象徴していた。
それは、完全へと至る魂の発達の道である。
29.
それゆえ、ヤコブは梯子の頂点に、象徴的にイエスの姿を見た。それは、神ご自身があなたがたの完成と努力の目標であり、また果たすべき至福という最高の報いであることを示していた。それは、過酷な戦い（
）、長く苦しみ、そしてついに辿り着こうとする出発点に対する報いとして与えられるものである。
30.
魂は、運命の試練の中で、常に手助けするための助け手や機会を見出してきた。その際、あらゆる試練において、常にヤコブの梯子が象徴され、それはあなたがたに、さらなる努力するよう促していたのである。
31.
これは大きな啓示であった、お弟子たちよ。なぜなら、魂が理解するもの、高きもの、清きもの、善きもの、真実なるものを獲得する目覚めが、まさにまさにその時に、霊的な話について語れたからである。

32.
そのメッセージは、ある一つの家族だけのものでも、ましてや一つの民族だけでもなかった。その概念は普遍性をおびており、それゆえ普遍性を持っていた。まさにそれゆえに、父の御声がヤコブにこう語られた。「わたしは、アブラハムの神、イサクの神、主である。あなたが今、るこの地を、わたしはあなたとあなたの子孫に与える。そして、その子孫は地の塵のように数多くなる。あなたが、西、東、北、南へと広がり、地のすべての民族は、あなたとあなたの子孫によって祝福されるであろう。」（創15, 45-50）

ヨセフとその兄弟たち

33.
ヤコブの息子ヨセフは、エジプトへ向かう途中の商人たちに、実の兄弟たちによって売られてしまった。ヨセフはまだ幼かったが、すでに預言という特別な賜物の兆しを見せていた。
嫉妬に駆られた兄弟たちは、二度と彼に会うことはないだろうと考え、彼を追い出した。しかし、そのしもべを見守っていた主は、彼を守り、エジプトのファラオのもとで彼を得がたい者となさった。
34.
それから何年後、世界が飢饉に見舞われたとき、エジプトはヨセフの助言と霊感に導かれて、その難局に耐えうるだけの十分な備蓄を蓄えていた。
35. そこで、ヤコブの息子たちは食糧を求めてエジプトへとやって来た。
彼の兄弟ヨセフがファラオの右腕となっていることを知ったとき、彼の驚きは大きかった。彼を見たとき、彼らは自分の過ちを悔い改め、彼の足元にひれ伏した。兄弟の夢が成就したことを悟った。彼が死んだと思っていたその人物が、力と徳を帯びて、彼の目の前に立っていたのだ。
彼が売った預言者は、主が幾年もすでに彼の内に授けていた預言の真実を彼らに証明した。彼が苦しめ、売ったその兄弟は、彼を赦した。民よ、理解できるか？今、あなたがたは、なぜ私がこの日にこう言ったのか知りたいはずだ。「いつ、あなたがたは、ヨセフが兄弟たちに認められたように、私を認めるようになるのか？」（詩90, 2）

モーセに導かれたイスラエルの民の荒野の旅

36.
「初期において、モーセはイスラエルの先頭に立ち、40年間にわたり彼を導いて荒れ野を通り、カナンの地へと向かった。しかし、不満、不信仰、そして物質主義のために、ある者は倒れ、ある者は裏切り、ある者は背き、またある者は反抗した。
しかし、モーセはこの状況において、彼が主の御心を傷つけることなく、彼の不満を見過ごしてから、岩から水を湧き出させ、その父に対して、謙虚かつ従順であるよう、知恵と愛をもって彼に語りかけた。（詩43, 53）
37.
モーセは、真の神が彼と共におられるという十分な証拠を目撃していた。しかし、民はさらに多くの証しを求めた。そこで、使者は預言者をホレブ山の麓まで導くと、彼はエホバの御心を尋ね求め、主は彼を導く大きな証しを与えられた。
38.
民は、モーセの行いによって聞き、見ていたその方を、自ら聞き、見もし、望んだ。そこで、わたしは雲の中に現れ、民全員に聞こえるわたしの声を聞かせた。しかし、その声があまりに畏怖すべきもので、人々は恐れのあまり死ぬかと思った。彼らの体は震え、その御声を聞いて魂は萎縮した。
そこで民はモーセに懇願し、もはや主の声を聞くことができないから、主が民に語りかけないよう主に願ってほしいと訴えた。彼らは、永遠なる方に直接あるいは自分たちがあまりにも汚れであることを悟ったのである。（出19、32、34）
39.
人生の大きな戦いのなかで、あのイスラエルの民が強くなったように、あなたがたの魂も強くなさい。果てしなく続くかのように見え、容

救いの歴史の中で、どれほど広く、あなたがたは知っているか。敵対されているために、孤独と苦難、そして全面的な見捨てられるという経験が、どのようなものか、あなたがたは知っているか。
まことに、あなたがたは言う。あの民が神に従うという単純さを学び、神を愛することを学んだのは、まさにあの荒野であった。
あの民は、砂漠の中を旅してきたというのに、それにもかかわらず、彼らにはすべてがあった。パン、水、休息のための住まい、オアシス、そしてすべての創造主である神の恵みをもって満ち溢れさせるための聖域。（Ps. 107, 28）

真の神のための二人の戦い

40. 最初の時に、エバは地上に降りた。人の心近くにいたが、彼は異教の偶像礼拝に堕ちていた。
世界は王や祭司たちによって統治されていたが、彼らは皆、神の律法の道から背き、民を迷いと虚偽の道へと導いていた。彼らは様々な神々のために祭壇を築き、それを礼拝していた。
41. エバはその時代に現れ、正義に満ちた言葉で彼らにこう語った。「目を開きなさい。あなたがたが主の律法を冒涜したことを悔いなさい。
あなたがたは、主の被造物の模倣にすぎない偶像を礼拝してしまった。あなたがたは目を覚まし、主を見上げ、主を讃える必要がある。偶像礼拝を捨て、あなたがたが主を表現するために用いたあらゆる像から目を背けよ。」
42.
エバは、私の声を聞いた私に言った。「この邪悪な国から離れよ。あなたが私の名において命じるまで、長い間雨が降らないと彼らに告げよ。」
43.
そこでエバは言った。「わが主よ、その時までどれほどの期間でしょうか。わが声が命じるまで雨は降らないであろう。」そう言い終えると、彼は立ち去った。
44.
それから地は乾ききり、雨が降るべき季節が過ぎても、雨は降らなかった。空は雨の兆しを全く見せず、野原は干からびて割れ、家畜は餓死寸前であった。人々は水を探そうと地面を掘り返したが、水は見つからなかった。
川は干上がり、草は焼けた大地の光の下で枯れ果て、人々は神に祈りを捧げ、自分たちを養うための種子を収穫するために、その水という要素が戻ってくるよう懇願した。
45.
エバは神が命じるところに従って身を隠し、祈りつつ主の御心を待っていた。男も女も、水ができることのない新しい土地を求めて、故郷を離れ始めた。至る所でキャラバンが見られ、あらゆる国の地から人々が集まっていた。
46.
年月が過ぎ、ある日エバが彼に向かって祈っていると、父の声が聞こえてきた。「立ちなさい。私の命令をもって、この地に再び雨が降るであろう。」
47.
謙虚に従順にエバは、その民の立ち上がり、偽りの神々を礼拝する者たちの前に、自らの姿を示した。その後、彼らとその力について語りかけるとしるしが現れた。空は暗雲、雷、火が見られ、続いて命をもたらす雨滴のように降り注いだ。
野原は再び緑に覆われ、木は実り豊かになり、豊かさがもたらされた。
48.
人々はこの証拠を目の当たりにして目覚め、エバを通して彼らを呼びかけ、戒めを思い出した。当時、人類を目覚めさせるために、エリヤが行った奇跡よりもはるかに多く、また非常に大きなものであった。（Ps. 33, 34-40）

イスラエルの十二部族

49.
預言者や牧者、光の精霊たちがイスラエルの民の中にのみ存在したと考えてはいけない。われは彼らの一部を他の民の中にも遣わしたが、人々は彼らを預言者ではなく神として扱い、その教えを基に宗教を築き上げた。

50. イスラエルの民は、他の民族に対して果すべき使命を理解せず、祝福と安楽に満ちた安住の地に眠り続けていた。

51.
父は、ある部族を民の平和を維持する役割に、別の部族を土地の耕作に、さらに別の部族を漁業に当たらせた。こうして、十二の部族からなる一つの家族としてそれを形作った。
また別の部族には神の霊性が賦与されており、こうして民を構成するこの部族それぞれが異なる役割を果し、それらが一体となって調和の模範を示していた。しかし、まことに、あながたは言う、あながたがかつて持っていた霊性の能力は、今もなおあながたの中に残っているのだ。（35, 15-16）

イスラエルの預言者たちと最初の兆し

52.
預言者たちはいくつもの真実をもって語り、ほとんどの場合、混乱と迷いの時代に世に遣わされた。彼らは民に警告し、悔い改めと回心を求め、もし彼らが善へ向かわなければ、正義による大いなる裁きが下ると告げた。
また、神の律法に従い、それに忠実であることの祝福を予言したこともあった。

53.
しかし、それらの預言者たちが語ったのは、善と正義、そして神の王国を実現するよう促すものであった。彼らは、魂の生命、その運命、そしてその発展について明かしたわけではない。私自身が啓示するために選んだ、その方々を通して、律法を授けたモーセでさえ、霊的な生命についてあながたに語ったことはなかった。

54.
父の律法は、知恵と正義に含まれている。それは人々に、平和に生き、互いに愛し合い、尊重し合い、私の目において聞くに値する者となるよう教えるものである。
しかし、モーセは、肉体の死の彼方に何があるか、また不滅の魂がどのようなものであるか、あるいは、人生の後において賢明で献身的な者の報いがどのようなものであるかを、人類に示すことはなかった。

55.
その後、霊性の時代に霊感に満ちたダニエルが続き、高潔な暮らしぶりのために、彼は驚くべき霊性の啓示を受け、それをもとに詩篇を創作した。それは、イスラエルの民が、祈りと主への賛美の捧げ物を捧げるよう促すためのものであった。
しかし、ダニエルは、その霊感のすべてをもってしても、民が驚くべき存在、その発展、そしてその目的を明かすことはできなかった。

56.
そして、彼の後継者が続き、同様に、彼に授けられた知恵と霊性の啓示を示し、そのため愛され、称賛され、その賢明、義、慈悲、格言が今日に語り継がれているソロモン――もし彼の民が彼に近づき、こう尋ねたとしたら:
「主よ、霊性の生命とはどのようなものですか？死の向こうにはどのようなものがありますか？魂とは何ですか？」と尋ねたとしても、ソロモンは、そのすべての知恵をもってしても、それに答えることはできなかったろう。（39, 12-15）

第10章――時が満ちて

預言的な予言

1.
あなたがたは、神の御言葉が人の間に宿り、その受肉の模範によって、彼らに贖いの道を示すことができるよう、すべてを備えられた。

2.
まず、神は預言者たちに霊を与え、メシアがどのような姿でこの世に現れるか、人間としてのその性質、苦難、そしてそのようなものになるかを告げさせた。それは、キリストが地上に現れたとき、預言を知っている者が即座に彼を認識できるようにするためであった。

3.
私がイエスとして現れる何世紀も前に、預言者イザヤはこう言った。「それゆえ、主ご自身があなたがたにしるしを与えられる。見よ、処女が身ごもって、男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる」（これは「神我々と共におられる」という意味である）。彼はこの預言をはじめとする数の預言によって、私の来臨を告げたのである。

4.
私が来る何世紀も前に、ダビデは、痛ましい預言的な意味に満ちた詩篇の中で、十字架のメシアの苦悩を歌った。それらの詩篇の中で彼は、十字架の私の上の言葉のいくつかについて語り、救い主を十字架と導く預言者、私が「わが神、わが神」と言う様子、そして人々にする嘲りの言葉、

人間の悲しさによって私の肉体が感じるであろう見捨てられ感、私が受けることになるあらゆる辱め、さらには彼が私の衣をくじびきで分けることまでも語られている。

5. 私の預言者たちは皆、私の来臨を告げ、道を整え、その日が来た時、誰も迷うことがないように、正確な詳細を明かした。（40, 1-5）

ユダヤ民族におけるメシアの期待

6. 当時の世界は、イスラエルの民があの「第二の時代」に私を待ち望んだような形で、私を待ち受ける準備ができていなかった。私の偉大な預言者たちは、メシア、すなわち救い主、神の子を予告していた。その方は、抑圧された者たちを解放し、「言葉」の光によって世界を照らすために来られるはずだった。 その民が苦しめば苦しむほど、約束された方の到来を切望し、屈辱と抑圧の杯を飲み干せば飲み干すほど、メシアの臨在を渇望し、至る所で、救い主の到来が近いことを告げる兆しやしるしを探し求めた。

7. 世から世へ、親から子へと、神の約束は長く続き、それは長い間、主の選びを覚えさせ、祈りへと駆り立てた。

8.
ついに私が民のもとに来たが、皆が私を待望していたにもかかわらず、私を認識する者は皆ではなかった。ある者は霊的な方法で、ある者は物質的な解釈によって私を受け入れたのである。

9.
しかし、私の臨在を感じ、私の言葉の光の中でその御国の現実を見、私の呼びかけに応じた者たちの証しと愛は、私にとって十分であった。私は実に、私を霊的な救い主と見た者だけで私は十分であった。なぜなら、私がこの世を去った後、私の真実を証したのは彼らであったからである。

10.
私のメッセージは地上のすべての民に向けられていたが、私の呼びかけは、後に私の言葉の使者となるよう、選ばれた民の心に届いた。とはい

え、私の臨在を感じたのは彼だけでなく、他の国においても、人々は私の到来のしるしを見出し、私が地上に臨まれる準備をしていたのである。（15, 17-19）

11. あらゆる時代、あらゆる神の啓示において、エホバは人々の前に現れる。

12.

メシアはまだ地上に来てはいなかったが、もう間もなく、彼は人間として生まれようとしていた。そして、すでに預言者の魂はヨルダンの神権を受けており、彼は後に「洗者ヨハネ」と呼ばれ、人々の間に「御言葉」の臨在となるその御方の到来を告げるために遣わされたのである。（1, 61-62）

イエスの生涯の母マリア

13.

最初の時代においてすでに、旅する預言者たちはメシアの到来について語り始めていた。しかし、メシアは霊としては来ないのである――彼は女性から生まれ、人間となり、女性から肉体を得るために来るのである。

14.

神の御子は霊また人間となり、女性なしに、清らかな花とならなければならなかった。そうしてこそ、その花から、イエスそのものである神の「御言葉」の香りが漂い出るのだ。（60, 26）

15.

ナザレには、清らかさと優しさの花、マリアという名の婚約した処女が住んでいた。彼女はまさに預言者イザヤによって予言された者であった。なぜなら、彼女の胎から真の命の実が生まれるはずだからである。

16.

主の霊性を帯びた彼のもとに来て、彼女が地上に持ち込む使命を告げ知らせるために、こう言った。「おめでとう、恵まれた方。主があなたとともにおられます。あなたは女のうちで祝されています。」

17.

神の神秘のうちに隠されていた到来、メシア、救い主、贖い主の到来について語れてきたすべてのことが、今まさに成就しようとしていた。しかし、私の存在を感じ取ったのはほんのわずかだったことか。私の真理の光の中でその御国を築き上げる準備ができていたのは、どれほど少なかったことか。（40, 6-7）

幼子イエスへの礼拝

18.

今日、人類は東方の賢者たちがベツレヘムの飼い葉桶に入れられた神の御子を礼拝したあの日を記念している。今日、あるじたちが私に問う。「主よ、あの占星術の学者たちがあなたの御前にひれ伏し、あなたの神性を認めたというのは本当でしょうか？」

19. そうだ、わが子らよ、私の御前にひざまずいたのは、まさに三人の賢者、そして富める者たちであった。

20.

また、そこには羊飼いたちとその妻や子供たちもいた。彼らは世の救い主を迎え、祝福するために、貧しさの中からも温かな贈り物を携えていた。そして、天の栄光の女性を見るマリアもそこにいた。彼らは謙虚さと無垢さ、そして喜びに満ちていた。

しかし、羊飼いたちにメシアについて語られた預言や約束を記していた者たちは、誰ひとりこの世に生まれてきたのかさえ気づくことなく、深い眠りに沈んでいた。（146, 9-11）

イエスとマリアの愛の絆

21.
イエスは幼児青年期をマリアの傍で過ごし、彼の胎内にそれほど多くの愛を享受した女性はなかった。神の優しさは救い主がこの世の最初の数年間を共にするようにした。なぜなら、その時が来ると、彼はあまりにも大きな苦難を経なければならなかったからである。
22.
イエスの肉体が形作られ、主が共に暮らされたマリアの体において霊性の高み、清らかさ、そして聖性の欠如などということはどうしてあり得ようか。
23. わたしを愛する者はまずわたしのすべて、すなわち、わたしが愛するすべての者を愛さなければならない。（39, 52-54）

イエスの知識と知恵

24.
人々は書物の中でイエスが知識を得るためにエッセネ派のところへ行ったと主張している。しかし、世界が創造される前からすべてを知り生きておられる御方は人間から学ぶことは何一つなかった。
神聖なものは人間性のものから何も学ぶことはできなかった。私がどこに行こうとも、それは教えるためであった。この地上に神より賢い賢者がいるだろうか？キリストは人々に神聖な知恵をもたらすために父のもとから来たのである。あなたがたの師が12歳の時に当時の神学者、哲学者、律法学者たちを驚嘆させたとき、その証拠を示してくれなかったろうか？
25.
ある者たちはイエスにすべての人間が持つ要素を帰し、神聖で過ぎないその人に自分たちの心の神秘を投げかけることを楽しんでいる。彼らは正しくはないのだ。
26.
あなたがたが目にしている生ある人の姿が、神の思念の物質性の具現化でないとすれば――キリストの肉体こそが、あなたがたの父なる神の霊と愛と思念の具現であったとは思わないのか。それゆえ、キリストは肉体をもってではなく、霊をもってのみ、あなたがたを愛したのだ。私の真理は、絶対的な光と無限の力をその内に秘めているため、決して滅びることはない。（146, 35-36）
27.
私は「第二の時代」において、あなたがたをこの地上に導く使命を果たすために、しかしてふさわしい時を待つべきという手本を示した。
28.
私は私の肉体――人々の目の前にあったあのイエス――が神の神殿である、あなたがを愛するという任務を彼を通して果たすのに最適な器に達するまで待った。
29.
その肉体――すなわち人性――が完全に開いたとき、私の霊はその唇を通して語り、私の知恵はその知性を満たし、私の愛はその心に宿った。そして、その肉体と、それを照らす神聖な光との調和は、あまりにも完全であったため、私はしばしば人の群れに向かってこう語った。「御父を見る者は父を見ている。」
30.
キリストは人々を教えるために神から真理を用いた。彼はそれをこの世から得たのではない。ギリシア人、カルデア人、エッセネ派、フェニキア人、あるいは他の誰からも、彼はそれを学ばなかった。彼らは神の国の道を知らなかったが、私は地上では知られていなかったことを教えたのである。
31.
イエスは、天の御国、すなわち愛と正義の律法、光と命の教えを宣伝える時が来るまで、幼児青年期を、実践的な隣愛を祈りに捧げていた。

32.
あの時、私が宣べ伝えた言葉の意義を探し、それがかなる人間教師や当時生きていたかなる学問に由来し得るものか、私は告げなさい。
33.
言っておくが、もし私が本当に当時の人々の学識に頼っていたならば、私は彼らの中から弟子を探したはずであり、私が彼ら最も優秀な教育を受けたおう無学な人々の中から選ぶことはなかったろう。（Ⅰ69, 62-68）

ナザレにおける人間性の無理解

34.
私が預言者は、私に保護者を提供することができなかったため、私はエジプトのような民の中で育てられなければならなかった。しかし、私の心が癒されなければならなかった苦しみは、それだけではない。
35. 私がエジプトから戻りナザレで暮らしていたとき、絶えず嘲笑され、不信と敵意に満ちた言葉によって傷つけられた。
36.
私はそこで育ち、隣人愛を私の方から示した――それにもかかわらず、誤解された。私の幼年時代を間近で知っていた者たちのうち、私を信じた者は一人もいなかった。
37.
それゆえ、宣教の時が来たとき、私はナザレをあとにし、こう言うことを余儀なくされた。「まことに、あながたに告げる。預言者は自分の故郷では尊ばれないものである。その言葉が受け入れられるためには、故郷を離れなければならない。」（Ⅰ99, 70-72）

第1章　地上のイエスの使命

ヨルダン川での洗礼；荒野での準備期間

1.
神の言葉が自分の口から発せられる時を待望していた、愛に満ち謙遜なナザレ人イエスは、洗礼の水を受けるためにヨルダン川のほとりにヨハネを訪れた。イエスは清めを受けるためそこへ行ったのか。いえ、わが兄弟よ。彼は犠牲を行うためそこへ行ったのか。それも違う。
イエスは、ご自身が「自分」であることをやめ、人間が消え去り、御霊が語られる時が来ことを知っておられ、人々の証しに深く心動かされることによって、その時を待ち望むようになさったのです。
2.
その象徴的な水はいかなる罪も洗い流すものではなかったが、人類の模範として、その肉体をこの世のあらゆる汚れから解放し、御心によって御霊一つになることを可能にしたのである。
このとき、そこにいた者たちは、人間の言葉に混じって神の声を聞いた。「これは、わたしが愛し、喜んでいる子である。彼に聞きなさい。」
3.
その瞬間から、神の言葉はイエスの口において永遠のいのちの言葉となった。なぜなら、キリストが彼を通してその全き姿を現されたからである。人々は彼をラビ、師、使徒、メシア、そして神の子と呼んだ。（Ⅰ08, 25-27）
4.
その後、私は瞑想し、あながたと創造主との話に入ることを考え、まず天の評議の中で私が受けた使命を思い、私があながたに託した業が成し遂げられる前に、まず自分を清めなければならないことを考えるために、砂漠へと退いた。
それゆえ、あながたの心の静寂の中で、父の直接の対話をめなさい。そして、そのように準備されて――清められ、力づけられ、決意を固めて――揺るぎなく、あながたの歴史的使命の成就に取り掛かりなさい。（Ⅰ13, 9）

イエスと神との一体性

5.
3年間、私はイエスの口を通して世に語りかけたが、私の言葉や考えが、その人性によって歪められることはなく、その行いが私の意志と一致しないことはなかった。その理由は、イエスとキリスト、すなわち人間の霊が一つであったからであり、それはキリストが父と一つであるのと同じである。（J08, 28）

6. わたしの神ぶりを見せよ。まことに、わたしはあなたがたに言う。キリストは、世界が存在する前から、永遠に父と一つであったのだ。

7.
「第二の時代」において、神と一つであるこのキリストは、地上でイエスの聖別された肉体をもって人間となり、それによって神の子となったが、それはただその人間性においてのみのことである。なぜなら、私はもう一度言うが、存在する神はただ一人だけだからである。（J, 48）

8.
私がイエスとして人間となったのは、神が人間の姿をしていることをあなたがたに理解させるためではなく、神聖なすべてのものに対して目と耳を塞いでいた者たちのために、私を目に見えるもの、耳に聞こえるものとするためであった。

9.
まことに、あなたがたに告げる。もしイエスの体が十字架の姿であったなら、彼はよみがえることも、死ぬこともなかったろう。それは完全な体であったが、人間であり、感覚を持つものであった。それは、人々が彼を見、彼を通してその父の声を聞くことができるようにするためであった。（J, 82）

10.
イエスにはこの性質があった。一つは物質的かつ人間的なもので、私の意志によってマリアの処女の胎内に創造されたものであり、私はそれを「人の子」と呼んだ。もう一つは聖なるものであり、それは「神の独り子」と呼ばれた霊であった。この神聖な性質の中にこそ、イエスを通して語られたあの「神の言葉」があった。もう一方の性質は、単に物質的で目に見えるものに過ぎなかった。(21, 29)

11. キリスト、すなわち神の「御言葉」こそが、清く純粋な人間であるイエスの口を通して語られたのである。

12.
人間イエスは生まれ、生き、そして死んだ。しかし、キリストに関しては、彼は生まれもせず、この世で育ちもせず、死ぬこともない。なぜなら、彼は愛の声であり、愛の霊であり、神の言葉であり、創造の大いなる現れであり、常にこの神にいたからである。(91, 28-29)

待望のメシアとしてのイエスの承認

13. 「第二の時代」において、私がすべての人から認められたわけではない。
予言者たちによって与えられた前兆が成就したのを見て、すでに私を待望していたユダヤの民が、私が現れたとき、私の存在に多くの人々を驚かせた。彼らは預言者たちの言葉を正しく解釈することができず、自分たちのメシアを創造し、正しい判断者たちを通じては彼を待望していた者たちに、真の地位の証を授けてくれると期待していた。

14.
その民は、イエスが貧しく、下着着ておらず、体半裸なまま一枚の覆れ、馬小屋で生まれ、後に単なる職人として働いているのを見て、彼が父から遣わされた者、すなわち約束された方であるとは信じることができなかった。
彼がイエスを通じ、その聖なるメッセージを理解するためには、師は目に見える奇跡の業を成し遂げなければならなかったろう。（J27, 12-13）

15.
常に、私の存在を見出したのは謙遜な者たちと貧しい者たちであった。なぜなら、彼らの知性は、その明晰な判断力を曇らせるような人間の理論に囚われていないからである。

16.
「第二の時代」においても、メシアの到来が予告されていたにもかかわらず、彼が来たとき、素朴な心と謙遜な精神、そして偏見のない知性を持つ人々だけが、直感的に彼を認識したのである。

17.
神学者たちは聖書の書き手し、メシアの到来の兆し、時期、そしてその様子を告げる言葉を日々繰り返していた。それにもかかわらず、彼らは私を見ていながら私を認めず、私の言葉に耳を傾けながら、私が約束された救い主であることを否定した。
彼らは私の業を見たが、それに対して何もすることができなかった。実のところ、それらはすべて予言されていたものだったにもかかわらず。（150, 21-23）
18.
今日、人々はおおっぴらに私を疑ってはいないが、多くの者が私の神性を論じ、さらには否定さえしている。ある者は私に大きな尊厳があることを認めるが、他の者は私が父のもとから至るために通過儀礼を経ていると主張する。しかし、もしそうであるならば、私はあなたがたに「私は道であり、真理であり、命である」とは言わなかったろう。（170, 7）

庶民の中に現れた救い主イエス

19.
あなたがたの使命は、この地での道のりにおいて、あなたがたの理想となる模範に従って生きることである。思い出してほしい。私が家を訪れるたびに、私はすべての人に平和のメッセージを残し、病を癒し、愛に満ち神聖な権威をもって悪霊を追い払ったのである。
20.
そこでは何も言わなかったからといって、家に入ることを共にためらったことはない。私はその場をたつ時、住人たちの心があふれんばかりの喜びに満たされていることを知っていた。なぜなら、彼らはにがにがしいうわさに、私の教えを通してその反証を目撃していたからである。
21.
時には私が父のもとへ行き、時には彼が私のもとへ来た。しかし、いずれの場合も、私の愛そのものが私の言葉の真実を通して彼らに与えた永遠の命の糧であった。（28, 3-5）

貧しい人々に仕えたイエス

22.
私がこの地上の孤独な場所に身を隠したいくつかの機会は、ほんのわずかな間だけ大きくなることができた。なぜなら、私の言葉に聞き従い、その無限の愛で満たす恵みを望んで、群衆の方へと近づいてきたからである。
私は彼らを抱き入れ、その男たち、女たち、子供たちに、私の限りない慈しみの温もりを注ぎ出した。なぜなら、あらゆる被造物の中に、私がこの世に生を受けた理由である愛を体現することを知っていたからです。
それから、私は彼らに、霊と真理の領域である天の国について語った。それは、彼らが私の言葉によってもたらされる安息を通して、永遠の命を得るという希望を抱き始めるためであった。
23.
群衆の中に、私の真理を大声で否定し、私が偽預言者であると断言しようとする者が一人、ひっそりと潜んでいたことがあった。しかし、彼が口を開く間もなく、私の言葉が彼を打ちのめした。
また別の機会には、群衆の前で、主の侮辱を受けても不機嫌にならないことを証明するために、ある盲者が私を殴ることを許した。それによって、私は彼らに謙遜の模範を示したのである。
24.
私の弟子たちは、私に入り、すぐに立ち去り、その行いによって真理を宣伝している方を、自分の疑いによって傷つけてしまったことを悔いた者たちもいた。
機会を設ける度に、彼らは私のところへやって来て、道を私についてきた――私の言葉に打ちのめされ、涙を流しながら、かつて私を傷つけた侮辱について許しを請うことさえ考えず、ただ黙ってついてきた。私は彼らを呼び寄せ、言葉で慰め、何かの恵みを与えた。(28, 6-7)

25.
聞け。私が地上であなたがと共にいた時、人々は群をなして私のところへやって来た――高ぶる者たち、虚栄に満ち者たち、変革者たちで、彼らは私に聞くために急かそうとしてきた（
）。あるときは賛美が、恐れからそれをとは認めなかった。またあるときは嘲笑した。
26.
男女や子供たちから成る大勢の人々が私のところに来て、朝も、昼も、夜も私の話を聞いた。そして彼らはいつも注意して彼らは神の言葉を受けとるのを見た。彼らは主が自分を忘れておられるのを見て、主の休息を妨げたり、声を荒だてたりしないようにという配慮をとっておられるのか、理解できなかった。
その理由は、彼らがイエスが自分の霊から生まれて、ご自分の神性を見出しておられたことを知らなかったからである。（41, 23）

イエスの子供たちと自然の愛

27.
時折、私がひとりでいると、子供たちが来られ、彼らは私のところへやって来て、小さな花を差し出し、何か小さな贈り物を私にキスをした。
28. 母親たちは、自分の小さな子供たちが私の腕の中にいて、私の言葉を聞いているのを見つけると、不安そうに心配した。
弟子たちは、これを師に対する侮辱であると考え、子供たちを私のそばから追い払おうとした。そこで私は彼らにこう言わなければならなかった。「子供たちを私のところに来させておきなさい。天の国に入るためには、子供のような清らかさ、素直さ、そして純真さを持たなければならないのだから。」
29. 私は、ちょうどつぼみが開こうとしているかのように、その無垢と気づかない様子に喜びを感じた。（62, 62-64）
30. イエスが、この地の様々な被造物と語り合っているところを、弟子たちに目撃されることは、どれほど多かったことか。
師が鳥たち野獣、海と語り合っているところを、どれほど頻繁に目撃されたことか！しかし、弟子たちは師の現実から遠ざけてはならないことを知っていた。彼は師の中に、すべての被造物に言葉を与え、すべての「子供たち」を導き、御自身によって創造されたすべてのものから賛美と愛を受け取っている、父なる神の創造の霊が宿っていることを知っていたのだ。
31.
弟子たちや人々はイエスの慈悲深さに無関心、すべてを冒涜する姿勢に目をとめたことか。そして、イエスの瞳の中に、すべての被造物に対する限りない愛の輝きを見出したのである！
弟子たちは、主が自分の腕の中に生まれたこれほど多くの蛇に、これほど多くの鷲に囲まれているのを見たときに、主の神性に喜びを察知していた。また、そのような蛇に直面しても人が無関心であること、これほど多くの素晴らしさに対して問いかけない被造物が盲目であることを見たときに師の目に浮かんでいるのを疑問に思った。彼らはハンセン病者のために涙を流すハンセン病者を見たり、完全な愛に満ち溢れているにもかかわらず、自分の運命を嘆く男を見たりするたびに、師がしばしば泣くのを見た！（32, 25-26）

イエスの教え

32.
イエスは、汝らに慈悲深く愛を教えた。汝らの敵を愛せよと教え、偽りを捨てて真理を愛すべきと告げた。また、汝が受けた善と同様に、悪に対しても善をもって報いるべきであると説いた。
イエスは隣人一人ひとりの魂を救い、内なる魂を見出す方法を明かされた。また、自分の生きもって模範を示し、それによって子供たちから尊敬されるようになるよう示された。
33. これは、真キリスト教徒であると願う者が従わなければならない戒めの一部である。（151, 35-36）

34.
律法学者やパリサイ人たちは、イエスの行いを観察し、それが自分たちの慣習と異なっていることに気づくと、イエスが説く教えはモーセの律法に背くものであると判断した。
その理由は、彼らが律法を誤解していたからである。しかし、私は彼らに、父がモーセを通して与えた律法に背いたのではなく、言葉と行いによってそれを成就したことを証明した。
35.
確かに、私はその民の多くの悩みを経験した。なぜなら、それが消えゆく、より高次の教えを待ち望む時代が始まるべき時が来ていたからである。（49, 42-43）
36.
私がモーセを通して与えた律法の第一の戒めにおいて、「汝あるものの像や模型を作ってはならない。それに向かってひざまずき、それを拝んではならない」と述べたことを思い出せ。それは、人間のための道、そして救いのための道はすでにはっきりと示されている。
37.
モーセは十戒を人々に与えるだけに留まらず、人間生活のための二次的律法を制定し、霊的神の礼拝の中に儀式、象徴を導入した。これらはすべて、当時の人間の精神状態にふさわしい発展の段階にあったものであった。
38.
しかし、約束されたメシアが来て、伝統、儀式、象徴、そして犠牲を廃し、律法のみを残した。それゆえ、パリサイ人たちは民に、イエスはモーセの律法に反対していると告げたとき、私は彼らに、自分は律法に反対しているのではなく、むしろそれを成就するために来たのだと答えた。
もし私が彼らの悩みを取り除くことになるとしても、それは彼らの悩みを喜ぶために、律法を破ってしまうから、してはならない。（254, 17-18）
39.
現在の私の言葉は、第一の時代に私があなたがたに与えた言葉を消すことはない。時代、世代、時代が変遷しようが、イエスの言葉は変遷することはない。今日、私は当時私があなたがたに語ったが、あなたがたが理解できなかったことの意味を、あなたがたに説明し、明らかにする。（14, 47）

イエスの奇跡

40.
その教えが人々の心の中で揺るがないように、また人々に愛されるように、私は同時に奇跡を行なった。そして、これらの奇跡ができるだけ実感できるものとなるよう、私は肉の身体を用いて奇跡を行ない、盲人、聾者、唖者、足の不自由な者、悪霊に取りつかれた者、ハンセン病患者を癒し、さらには死者をも生き返らせた。
41.
キリストは人の間でどれほど多くの奇跡を行なわれたことか！その奇跡の多くは、後の世への手本として歴史に留められている。（51, 37-38）
42.
神の業に仕える光の存在たちと、反抗的で無法者たちが至る所に目立つようになり、その人類の中に、科学では解決できず、民衆から遠ざけられた悪霊に取りつかれた者たちが現れた。律法の教師たちも、科学者たちも、その病んだ精神を取り戻させることはできなかった。
43.
しかし、これらすべては、あなたがたに、愛の証しを与えるために、わたしが予定していたことである。わたしは、多くの人々を驚かせるべく、イエスを通して、その被造物たちの癒しをあなたがたに与えた。
44.
イエスのみこいで語り聞かされ、その奇跡を行なっていた使徒たちは、イエスを瞬時でも軽蔑せず、彼が決して間違いを犯さなかったことを証明するために、最大限の証拠を挙げました。

しかし、憑れた者たち全員は、私が彼らに触れたり、見つめたり、あるいは命令の言葉を投げかけただけで、彼を普通の人間としての状態に戻し、その霊たちが彼の精神から去り、両者がその重要な関係を断絶されるという事実が、彼を驚かせた。

45.

この光景に直面して、パリサイ人、学者、律法学者、そして群衆たちは、それぞれ異なる反応を示した。ある者はイエスの権威を認めたが、ある者はそのわざを悪の影響によるものと見なし、またある者は何も言うことができなかった。しかし、癒された病人は、イエスの神性を賛美した。

46.

ある者は一つの霊に取りつかれていたが、マグダラのマリアのように七つの霊に取りつかれた者もいれば、自ら「軍団」であると言うほど多くの霊に取りつかれた者もいた。

47. 師の生涯を通して、霊的な現象が次々と起こった。あるものは二人または三人の目の前で、またあるものは民衆の目の前で――野外でも家の中でも――起こった。それは奇跡、すなわち「不思議の時」であった。（139, 20-22）

48. あなたがたが理解しているような奇跡など存在しない。神聖なものと物質的なものとの間に矛盾などないのだ。

49.

イエスは多くの奇跡を行ったとされているが、まことに、私はあなたに告げる。彼が行ったのは、愛すなわち聖霊の自然な現れであった。その力はすべての魂の中に本来的に存在しているにもかかわらず、あなたがたはまだその使い方を理解していない。なぜなら、あなたがたは愛の力を恐れながら育てられてきたからだ。

50. イエスが成し遂げたすべての奇跡において、愛以外に何が作用していたというのか。

51.

聞け、弟子たちよ。神の愛が人類に現れるためには、その器としての人間性が必要であった。そして、イエスは真に人間であった。また、そのことを人々に示すために、あの時、彼は父の御心なしには何事も成し得ない、とあなたがたに語ったのである。

この言葉の意味を深く理解しない者は、イエスが他の人と同じような人間にすぎなかったと思うだろう。しかし、真実は、イエスがあなたがたに人間の教えを与えようとしていたということである。

52. イエスは、この人間性、すなわち父との一体性が、人類に対して自身を全能なものにすることを知っておられた。

53. 愛と人間性の融合、なんと素晴らしく美しい姿であろうか！

54.

今や、あなたがたは、イエスが「父の御心に従わなければ何事もできない」と語ったにもかかわらず、実際にはすべてを成し遂げることができた理由を知っている。なぜなら、彼は謙虚であり、人間であり、律法と人々の僕となり、愛することを知っていたからである。

55.

ですから、あなたが自身、霊的な愛の能力のいくつかを知っているとはいえ、それを実感してはいないことを悟りなさい。それゆえ、あなたがたは神の愛をもう渇望している。あなたがたが奇跡や神秘と呼ぶすべてのものの原因を理解することができないのです。

56.

イエスがあなたがたに与えた教えのうち、愛に由来しないものはひとつもあっただろうか。彼が、カルト的儀式ですべき断食、修行、あるいは神秘的な瞑想はいったい何だったのか。それは、すべてを成し遂げる至高の愛そのものではないか。

57. 父の律法は人間とは何一つ関係ない。それは、賢明であるがゆえに単純であり、愛に満ちているがゆえに賢明なのである。

58. 師を理解しなさい。師こそが、あなたがたの教科書である。（17, 11-21）

59.

イエスを生かしていた霊は、私自身の霊、すなわち、あなたがたの神であった。神は、必要があるがゆえに、あなたがたの神性と自己を見出すために人となった。私は人間として、あらゆる人間的苦しみを味わった。自然の摂理を研究してきた学者たちが私のところに来て、彼らは私に教えることで何もなかったことに気づいた。大工なども引き寄せた。徴税者、罪人、無法者も引き寄せた。私の言葉の真意を受け入れ、私は彼らの傍に近寄った。しかし、多くの者が招かれたにもかかわらず、選ばれた者はわずかであり、私の周りにいた者はさらに少なかった。（44, 10）

姦通の女

60.
私は罪人たちを弁護した姦通の女のことを覚えていないか？彼女が群衆に追われ、非難されながら私のところに連れて来られたとき、パリサイ人たちがやって来て私に尋ねた。「彼女をどうすべきか？」――答えは、私が「石を投げなさい」と言うのを期待し、そうすればこう言い返すつもりだったのだ。
「なぜ、あなたは愛を説きながら、この罪人が罰せられるのを望むのか？」と反論するつもりだったのだ。もし私が「彼女を解放せよ」と言っていたら、彼らはこう答えたろう。「あなたが――ご自身の言葉通り――支持しているモーセの律法は、姦通の現場で捕えられた女は打ち殺すべきだという規定がある」と。」
61.
私は彼らの意図を見抜いたので、その質問には答えず、身をかがめて、彼女たちを裁く者たちの罪を地面に書き記した。彼らは再び「その女をどうすべきか私に尋ねたので、私は彼らに答えた。「罪なき者から、まず石を投げなさい。」
そこで彼らは自分の過ちに気づき、顔を覆いながら立ち去った。清き者ほど大胆であり、心の奥底まで見通されたと感じ彼らはもはやその女性を告発することはなかった。なぜなら、彼らも皆、罪を犯していたからである。しかし、その女性と、彼女と同様に姦通を犯した他の者たちは、悔い改め、二度と罪を犯さなかった。
言っておくが、愛をもって罪を気づかせることは、厳しさをもって気づかせることよりも容易である。（4, 11）

マグダラのマリア

62. マリア・マグダレナ――世が「罪人」と呼んだその女――は私の温情と赦しに値する者であった。
63.
彼女はすぐに救いを得たが、信仰の弱く、ただ罪の赦しを請うだけの他の人々は、そうはならない。彼女が求めていたものをすぐに見つけた一方で、他の人々はそれを得られないのだ。
64.
マグダラのマリアは、自分の悔い改めを待つことなく、赦された。彼女は罪を犯したが、それはあなたがたが罪を犯すのと同じことである。しかし、彼女は深く愛したのだ。
65.
愛する者は、人間としての振る舞いに過ちを犯すことがあるかもしれない。しかし、愛は心からあふれ出る温かさである。もしあなたがたが、自分たちと同じように赦されたいと願うなら、愛情に満ち溢れる眼差しを、まず隣人に向けなさい。そうすれば、あらゆる過ちから解放されるだろう。
66. その女は二度と罪を犯さなかった。彼女の心からあふれ出た愛は、師の教えに捧げられたのである。
67.
彼女は過ちを犯したにもかかわらず、赦された。しかし、彼女の心は、人を責める思いで燃えていた。そして、その罪が受け入れられるや否や、彼女は瞬時といえども、イエスから離れようとはしなかった。それに対し、私の弟子たちは、最も血なまぐさい時においてさえ、私を一人にしてしまった。しかし、あの軽んじられていたマリアは、私から離れず、私を否認せず、恐れもせず、恥じることもなかった。
68.
それゆえ、彼女は私の十字架の足元で、また私の墓の上で涙を流すことを許された。彼女は深く愛したがゆえに、その魂はすぐに救いを見出した。
69.
彼女の心の中には、偉大な精神が宿っていた。彼女の目は、真理の光のように輝いている。彼女は私の足に口づけし、こう言ったのだ。「主よ、もしお望みなら、私は罪から解放されます。」
70. それに対して、あなたたちは――長い祈りで自分の過ちを覆い隠し、どれほど懸命に、私に自分の無実を納得させようとするのか。

71.
いいえ、弟子たちよ、彼から学びなさい。すべての隣の神に、真主を愛しなさい。多くを愛しなさい。そうすれば、あなたの罪は赦されるでしょう。あなたがたは、この真理の中で開かせるとき、偉大となるのです。（12, 68-75）

ニコデモと輪廻転生の問題

72.
その頃、私は善意をもって私に話そうとしたニコデモにこう言った。「肉から生まれたものは肉であり、霊から生まれたものは霊である。あなたがたに、再生まれなければならないと言うとしても、驚いてはならない。」その言葉を理解できた者はいたか。
73.
私はその言葉をもって、たった一つの私の教えを理解するだけでも、一つの人生では十分であり、この人生がもたらす啓示を理解するためには、多くの他の生が必要であることを、あなたがたに打ち明けたのだ。それゆえ、肉体の死は、魂の他生への境界となることだけである。（151, 59）

イエスの変容

74.
「第三の時」に、イエスはある時、数人の弟子たちを従えて出かけた。彼はある山に登り、師の言葉によってその男たちを準備させている最中、突然、主の体が変容し、空間に浮びあがり、その右にはモーセの霊、左にはエリヤの霊が立っているのを見た。
75. その途端、弟子たちは恐怖の当まりにし、弟子たちは恐怖に目がくらみ、地面に倒れ伏した。
しかし、彼らはすぐに落着きを取り戻し、師の肩に互いの両手を置き、モーセとエリヤに同様にするように指示した。すると、彼は無限の彼方（）から降りてくる声を聞いた。その声はこう言った。「これは、わたしが喜ぶ、わたしの愛する子である。彼に聞きなさい。」
76.
弟子たちはその声を聞いて大いに恐れおののいた。そして顔を上げると、そこには師だけが立っておられ、こう言われた。「恐れるな。まだ、わたしが死者の中からよみがえるまでは、このことを誰にも話すな。」そこで彼らは尋ねた。「なぜ律法学者たちは、エリヤが先に来なければならないと言うのですか。」
すると、イエスは彼らに答えて言われた。「まことに、エリヤは先に来て、すべてのことを整えるであろう。しかし、あなたがたに言っておく。エリヤはすでに来たが、彼は彼らに認められず、むしろ彼らは自分勝手に振舞ったのだ。」そこで弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを話しておられるのだと悟った。
77.
今の時代、私はあなたがたに、私が人間としての姿、すなわち人類がイエスとして知っていた姿を見ることを許すために、私自身を示すこの肉体を、あなたがたの目の前で顕現させてきたことか。それにもかかわらず、あなたがたは、この新たな変容の前にひれ伏すことはなかった。（129, 15-18）
*
この現象は超理学において「トランスフィグレーション（変容）」として知られており、顕現しつつある霊的存在が複数の目に見える形となっている現象を指す。
顕現しつつある霊的存在が複数の人間に対して視覚的に現れている現象としても知られている。

信仰告白する勇気のない弟子

78.
かつて私が人間となってあなたがたの間で暮らしていた頃、夜、皆が休んでいる間に、見つかることを恐れて密かに私を訪ねてくる人がしばしばいた。彼らは私を尊敬し語りかけている最中に私に向かって怒鳴り、私に対して憤りを感じてしまうため、良心の呵責を感じ、私を訪ね

できるのである。
しかし、私の言葉が彼の心に種として贈り物を残し、私が彼の体験の着想者であったと気づくと、彼の憤慨の念はやわらぎました。
79.
彼はうやうやしく私の前に現れ、こう言った。「師よ、私たちをお赦しください。あなたの言葉は真理を含んでいると悟りました。」
私は彼らに答えた。「もし私の言葉が真理を語っていることに気づいたのなら、なぜ探しているのか。太陽が現れた時、その光を受けるために出るのではないか。それなのに、いったい何を探したことがあるのか。真実を受ける者は、決してそれを探したり、否定したり、そのために恥じたりはしない。」
80.
私がこう言うのは、多くの者がこっそりと私の話に耳を傾けてはどこへ行けばよいかを否定し、聞いたことを探し、時には私のところにいたことさえ否定しているのを見ているからだ。それなら、一体何のことを探しているのか。（133, 23-26）

イエスに対する敵意

81.
私が「第二の時代」に人の前で語りかけたとき、私の言葉は――その意味がまだ完全なままで――すべての人に聞き届けられた。人々の心に深く入り込み、私の視線は一人ひとりの内に秘められているすべてを見抜いた。ある者には疑いがあり、ある者には躊躇があり、また多くの者からは、恐怖に満ちた声で私に語りかけた。
それは、その痛みゆえに私から奇跡の癒しを得ていた病人たちであった。また、私が父のもとから来た人々に「その国をもたらすと言うのは偽りだ」と噂を広めようとする者たちもいた。さらに、私に対する憎しみと、私を悪魔だと排除したりしようとする意図を、私がその心の中に発見した者たちもいた。
82. 私の真理に逆らったのは、高慢な者たち、すなわちパリサイ人たちであった。
なぜなら、私の言葉はそれ自体で、愛に満ち、慰めに満ちていたにもかかわらず――そして常に力強い御業によって裏付けされていたにもかかわらず――多くの人々は私を人間イエスとしてだけ、私の独特な深い、私の着ている服の質素さや物質性といった外的な側面にのみ注目することで、私の存在の真実を見出そうとし続けたからである。
83.
しかし、私を非難するだけでは満足せず、彼らは私の弟子たちをも非難した。彼らが話すとき、道で私たちとすれ違うとき、あるいは食事に着くときなど、あらゆる場面で彼らを厳しく監視した。
あるとき、私の弟子たちが食事に着く前に手を洗っていなかったのを見て、パリサイ人たちはなんと憤慨したことか！
身体の清めを知ったかぶりして語った哀れな者たちよ！彼らは神殿や聖なるパンに触れるとき、手は清くとも、その心は偽りに満ちていることに気づいていなかったのだ。（56, 37-38）
84.
彼らは私の行く先々で私を監視した。私のすべての行いと言葉に悪意を持って臨んだ。たいていの場合、彼らは私の業に説明を加えて困惑していた。なぜなら、彼らの知性は、霊のみが理解しうることを理解する能力を持っていなかったからだ。
85. 私が祈ると、彼らは言った。「彼は上手に語っていると自慢しているのに、なぜ祈るのか？
彼は何の必要で何を願うというのか？」そして、私が祈ると、彼らは私が彼の宗教儀礼を守っていないと言った。
86.
弟子たちが食事をしているのに、私が何も口にしないのを見ると、彼らは私が神の定めた律法の外にいると判断した。そして、私が食事をしているのを見ると、彼らはこう言った。「自分はそのものであると主張しているのに、なぜ生きるために食べなければならないのか？」
彼らは、私がこの世に生を受けたのは、長い浄めの期間を経て人類が永遠に生きるすべを与え、それによって人間の苦しみ、肉体の必要、そして肉体感覚の痛みを越えた霊として世に生まれるようにするためであることを理解していなかった。（40, 11-13）

別の予告

87.
イエスは至聖 弟子たちと共に暮した。イエスは心からイエスを愛する選ばれた人々に取り囲まれていた。弟子たちにとって、師が理解し教えを説く限り、これ以上何も望むことはなかった。イエスの近くにいる中で、彼らは飢えも渇きも感じず、つまずきや悲嘆もなく、その集団は恵みの雰囲気に満ちていた。それにもかかわらず――彼が愛するイエスが世界に対して証言されていたあの時、イエスは彼らにこう言われた。「今、別の時が来る。私はあなたがたのもとを去り、あなたがたは羊飼いに放たれた羊のようになるだろう。

その時近づいている。私は神のところへ戻らなければならない。あなたがたはしばらくの間、独りになるだろう。そして、愛と正義を渇望し、飢えている人々に、あなたがたが見聞きしたことの証人となりなさい。私の名において働きなさい。そうすれば、その後、私はあなたがたを私のところへ永遠の喜びと迎え入れる。」

88. その言葉は弟子たちを悲しませた。その時近づいてくるイエスの別れを告げるたびに、その予告をより明確に繰り返された。しかし同時に、イエスは御自身の霊感を通して、これからの世界に関して告げることで、御言葉を聞く者たちの心を慰められた。彼らが当時の人々に慰めと希望のメッセージとして御言葉を伝える準備をするならば、イエスは彼らの口を通して語り、奇跡を行われるだろう。（$54, 26-27）

エルサレムへの凱旋

89.
私がエルサレムの街に入ったとき、群衆は歓声を上げながら私を迎えた。村や路地から、男、女、子供たちが急いで押し寄せ、主が街に入られるのを目撃しようとした。

彼らは、神の子の奇跡の力の証を受けた者たちであった――かつて目が見えなかった者が今は見えるようになった盲人、かつて声が出なかった者が今は「ホサナ」と歌えるようになった口のきけない者。寝床を離れて、過越祭の際主を見るために急いで駆けつけた足の不自由な者たちであった。

90. 私はこの勝利が一時的なものであることを知っていた。その後何が起こるかについては、すで弟子たちに予言していたのだ。これは、私の戦いの始まりに過ぎなかった。そして今日、あの出来事から長い年月が経過し、私はあなたがたに告げる。私の真理の光は、無知と罪悪の闇に対して戦い続けている。それゆえ、私の最終的勝利はまだ訪れていないと付け加えなければならない。

91.
エルサレムへの凱旋が、私の大いなる勝利を意味していたと、どうして言うことができるだろうか。改心したのはほんの一握りに過ぎず、私が誰であるかを認めなかった者たちが大勢いたのだから。

92. たとえ当時の人々が皆、私の言葉に改心したとしても、その後なお、多くの世代が続いたはずではなかったか？

93.
あの至福の瞬間、あの束の間の勝利の凱旋は、光、善、真理、愛、そして正義の勝利の象徴に過ぎなかった――それは必ず訪れるべき日であり、あなたがたが全員が招かれている日である。

94.
もしその時、私の子供たちのうち一人でも新しいエルサレムの外にいたならば、神が満たされなかったであろうことを知れ。なぜなら、神のうちその最後の子供さえ救うことができなかったならば、神は勝利を祝うことなどできず、勝利を祝うことなどできなかったからである。（268, 17-21）

95.
あなたがたは、イエスがエルサレムに凱旋された第一の時に「ホサナ」を歌った者たちと同じである。今日、私は霊においてあなたがたに現れるとき、あなたがたはかつて私の道を喜んだことはない。あなたがたの主として崇めるのは、あなたがた自身そのものである。今日、あなたがたの「ホサナ」はもはや声を張り上げて叫ばれるものではない。この「ホサナ」は、謙遜と愛、そして神の認識の賛美として、また第二の時において主があなたがたにもたらされたこの啓示の証の賛美として、あなたがたの魂から湧き上がるものである。

96. かつても今も、あなたがたは、私がエルサレムに入城した際、私に従った者たちと同じである。
大勢の人が、私の愛の言葉に引き寄せられ、私を取り囲んだ。男女、老若、子供たちが歓呼の声をあげ、往来は騒然となった。民衆の反感をかうのではないかと恐れた祭司やパリサイ人たちでさえ、私にこう言った。「師よ、あなたが沈黙なさるよう、弟子たちをお叱りください。」
しかし、私は彼らにこう答えました。「まことに、あなたがたに言います。もし彼らが黙ったとしても、石が語り出すでしょう。」
なぜなら、それは恵みの瞬間であり、正義を渇望し、浸されていた人々――長い間、預言の成就としてこの到来を待望していた魂たち――の間における、メシアの臨在であり、栄光の瞬間だからです。
97.
わが民は、その預言書をもって、エジプトからの解放を祝った。私は、その過越の記念を、わが民にとってさらに意味あるものにしたかった。
しかし、まことに、あなたがたに告げる。私が小羊を犠牲にしたのは、単なる祝祭からではない。いや、私は、犠牲の小羊であるイエスにおいて、すべての者が予言の救いを見出し、自分自身を捧げるためである。（18, 57-59）

最後の晩餐

98.
イエスが弟子たちと共に、その民の伝統に従っての過越の食事を祝われたとき、彼らにこう言われた。「今、私はあなたがたに新しいことを明らかにする。このように唱えなさい。このパンを食べなさい。これはまことに私の体を表している。そして、私の記念としてこれを行いなさい。」
99.
師が逝かれた後、弟子たちは、人類の愛からすべてを捧げられた御方を象徴するこの唱えごと、パンを食べることで、主の犠牲を思い出した。
100. 何世紀にもわたり、宗派に分かれた人々は、私の言葉に様々な解釈を与えてきた。
101.
今日、私は、あの時、あの最後の晩餐において私が何を感じていたかを、あなたがたに伝えたい。そこでは、イエスの一言一句、一挙手一投足が、深遠な限りない愛に満ちた一冊の本の頁のようであった。
私がパンをこのように唱えたのは、それが現実であり、命である愛に等しいことを、あなたがたに理解してもらうためであった。そして、私が「私の記念としてこれを行いなさい」と言ったとき、師は、あなたがたがイエスの愛に似た愛をもって隣人を愛し、人々に対して真の贈り物として自分を捧げる者であることを伝えたかったのだ。
102.
これらの教えに基づいて行うかなる儀式も、あなたがたが自身の教えと模範を生活の中で実践しなければ、実体のないものとなろう。まさにそこがあなたがたにとって難しい点であるが、そこにこそ価値があるのだ。（151, 29-32; 34）
103. 今、あなたがたの周りにあるように、あの第一の時代の最後の晩餐であった。
イエスがその部屋で弟子たちと最後の語らいを持ち、ちょうど別れようとしていた。それは、死を目前にしながらも、愛する弟子たちに向けて語られた言葉であった。イエスも、そして弟子たちも悲しみが漂っていた。彼らは、数時間後に、彼を襲い、これほどまでに愛してくれたあの方を何と待受けているのか、まだ知らなかったのだ。
彼の心はそうしていたが、彼らはまだその方法を知らなかった。ペテロはときどき、胸に抱いた聖杯をぎゅっと握りしめ、ヨハネは頭で師の胸を探し、マタイとバルトロマイは私の言葉に聞き入っていた。フィリポとトマスは、食事をしながら心の痛みを感じていた。
ヤコブ（小）とヤコブ（大）、タダイ、アンデレ、シモンは悲しみのあまり言葉を失っていた。それでも、彼が心の中で私に語りかけたことは、数えきれないほど多かった。イスカリオテのユダもまた心痛を感じていたが、そこには恐れと良心の呵責があった。しかし、闇が彼を支配してしまっていたため、もはや後戻りはできなかった。
104.
イエスの最後の言葉と祝福を語り終えたとき、弟子たちは涙していた。しかし、そのうちのひとりはもうそこにはいなかった。彼の魂は、それ

ほど多くの愛を受け入れることも、それほど多くの光を見ることもできず、その言葉が彼の心に染み込むことはなかった。彼はただ去っただけであった。（94, 56-58）

105. イエスの理想は、弟子たちが彼の教えの種まき人となることだった。

106.

弟子たちへの最後の説教、すなわち父と子供たちとの最後の対話のクライマックスにおいて、彼は満足げに彼らにこう言った。「今、私はあなたがたに新しい戒めを与える。互いに愛し合いなさい。」

107. 彼はその至高の戒めの光をもって、人類にとって最大の希望となった。（54, 59）

第2章 受難、死、そして復活

イエスの生涯にわたる苦難と苦しみ

1.

私は人の間に生き、自分の生命を糧とし、教えた。私はあらゆる苦しみ、誘惑、闘い、貧困、労働、そして軽蔑を味わった。私自身からの拒絶、恐れ、裏切り、長期の労働、飢えと渇き、嘲笑、孤独、そして死を経験した。

私は、人間の罪の重荷のすべてを自ら負うことを学んだ。私は、人々が私の言葉と、私の貧しい体――そこでは私の最後の肩代わりを見ることができた――を通して、私の霊を探り求めることを学んだ。神であるにもかかわらず、私は裸の死体となり、裸にされ、さらに屈辱の十字架を負わされ、強盗たちの死んだ仲間とならなければならなかった。

そこで私の人間としての生涯は、私が言葉の神であっただけでなく、行いの神でもあるという証として、その幕を閉じた。（17, 11）

2.

時が近づき、最後の晩餐が終わると、イエスは弟子たちと最後の祈りを捧げた。そして、いつも祈りを捧げていたオリーブ園へと向かい、父にこう言った。「父よ、もし可能ならば、この杯を私から取り除けてください。しかし、私の思いではなく、あなたの御心が行われますように。」

すると、私が予想していたことではあったが、弟子の一人が、私を捕えるために集まった一団を率いて近づいてきた。彼が「ナザレのイエスとは誰か」と尋ねると、ユダが私のもとへ近づき、彼にキスをした。

イエスの穏やかな落ち着きを見た者たちの心には恐れと動揺が走り、彼らは再び「イエスとは誰」と尋ねた。そこで私は彼らに歩み寄り、こう言った。「ここにいる、私だ。」こうして、私の受難が始まった。

3.

彼らは私を祭司、裁判官、権力者たちの前に引き出した。彼らは私を取り調べ、裁きを下し、モーセの律法に背き、皇帝の王国を滅ぼすような王国を築こうとしているとして、私を告発した。（52, 6-7）

ユダの裏切り

4.

あなたがたは、私がこれほど多くの機会に、私を信じた者だけでなく、私を裏切った者や、私を告発した者たちに対しても、私の愛を明らかにしたかを覚えているだろうか。

今、あなたがたは、なぜ私がそのような試練をすべて許したのか、その理由を私に問うかもしれない。そこで私はこう答える。私が彼らに思考と行動の完全な自由を与えたのは、私を明らかにするふさわしい機会を作り出し、私が世に教えた愛をすべての人が体験できるようにするためだったのだ。

5.

私はユダに私を裏切るよう強いたわけではない。彼の心が闇に満ちていた時、彼は悪霊どもの道具に過ぎなかったのだ。しかし、その弟子の行為に対して、私は彼を私の敵とした。

6.
あなたがたにその課題の模範を示すために、私の弟子の一人が私を裏切る必要などなかった。師は、人からしてもらえるどんな機会でも、それを示すことができるはずである。その弟子は、師が世界にその神聖な課題を示すための道具となる役割を与えられたのである。
たとえあなたがたが、イエスの死をせかしたのはその弟子であったと考えたとしても、私はあなたがたに言う。それは誤りである。なぜなら、私はあなたがたにすべてを捧げるために来たのだから。もしそれがユダでなかったとしても、他の誰かがそうなったことは間違いない。
それゆえ、あなたがたは、その弟子を呪ったり裁いたりする権利はない。彼は、一瞬の衝動の中で、師に捧げるべき愛と忠誠を欠いてしまったのだ。もしあなたがたが、私の死の責任を彼に負わせるのであれば――私の血がすべての人の救いのために流されたことを知っているのだから、なおさら祝福されないのか。
あなたがたのうちだれも、誘惑に陥らないよう祈り、願い求めるべきである。なぜなら、律法学者やパリサイ人たちの模範は、今なおこの世に存在しているからだ。（マタイ20, 37-39）

イエスの受難

7.
私がゲツセマネの園で祈り、彼が私に言ったとき、「私はあなたに誓って言える。あなたはキリスト、すなわちメシア、神の子なのか」。そこで私は彼に答えた。「あなたが言ったとおりだ」（マタイ26, 30）
8.
ほんの数日前まで私を歓迎し、祝福していた多くの人が、それを忘れ、恩知らずな態度を示し、私を憎む者さえ加わった。しかし、その憎しみが極めて大きなものであったからこそ、人の計画から決して消えることのないものとなったのである。
9.
世界、そしてその一部であるあなたがたは、人間としてあり得ないほど、わたしを冒涜し、嘲り辱めた。しかし、わたしはあなたがたが飲ませようとした杯を、忍耐強く飲み干した。一歩一歩、わたしは人間の中で愛による定め（）を全うし、わが子に自分自身を完全に捧げた。
10. 血にまみれ、息も絶え絶えの姿を見ながらも、神を信じる者さえいるのである。
11.
しかし、私を待受けていたのは、さらに過酷な試練であった。すなわち、二人の強盗に挟まれて、木の十字架に釘付けにされ死ぬことである。だが、それに書かれていることであり、それゆえ、私が真のメシアであると認められるために、それは成就されなければならなかった。（詩篇22, 8-11）
12. 私が今、あなたがたに与えているこの教えについて、私はすでに第一の時代において一つの例を示しておいた。
イエスは十字架にかけられ、救い主は、彼がこれまで愛した人々の嘲笑の前にして、死を遂げていた。すべての心は彼から離れてあった。見物の群衆の中には、大祭司である者、教会の指導者、徴税人、パリサイ人、富める者、貧しい者、堕落した者、そして病んだ者がいた。
しかし、ある者たちは、その時の群衆が誰であるかを知っていた。彼らはイエスの御業を目撃し、その恵みを受けていたからだ。一方で無実の血を見、復讐に飢えた者たちは、あの人を殺すように「ユダヤの王」と呼ばれる者を、無慈悲な血の渇き、復讐の貪欲に駆られて殺した。彼らは彼がただ一つの民族だけでなく、地のすべての民族、そして宇宙のすべての世界の王であることを知らなかったのだ。イエスは、その御業の最後の瞬間に向かいながら、憐れみと愛に満ちていた祈りを捧げ、こう言われた。「父よ、彼らを赦してください。彼らは自分が何をしているのかを知らないのです。」
13.
その視線は、彼の周りに立っている者たちだけでなく、彼の苦しみを見て喜んでいる者たちをも包み込んでいた。なぜなら、父の愛のものであった御子の愛は、すべての人に等しく向けられていたからである。（詩篇103, 26-27）
14.
イエスの存在を脅威と感じた者たちの憎しみが、イエスを傷つけ、鞭打った。その鞭によってイエスが普通の死すべき人間のように血を流

し、やがて他の人間と同じように死に絶えし、死んでいくのを見てその日、パリサイ人、民の指導者たち、そして祭司たちは満足げに叫んだ。
「見よ、自分自身を呼び、王であると自認し、メシアであると偽った者だ！」
15.
イエスは、とりわけ彼らに対して、他の誰よりも先に、御父に彼を赦してくださるよう祈られた。彼は、聖書を知っていながら、今やイエスを否み、群衆の前で彼を冒瀆して回った者たちであった。
彼は、律法学者であると自称しながらも、イエスを裁く際、実際には自分が何をしているのか理解していなかった。一方、群衆の中には、目の前で繰り広げられる狂気の沙汰にしびれ切らされる人々や、義の憤りで死者に対して厚意を示す者もあった。
この世の人の間で誰もおられないほど、自己を失うことで人が何を失うのかを理解していたのは、素朴な心と謙遜な、そして真に精神的な男たちであった。（150, 24-25）
16.
十字架の上で死に絶えし、処刑の手だてに苦しめられ、拷問を受けながらも、その目は無限の彼方へと向け、「父よ、彼を赦してください。彼は、自分たちが何をしているのかを知らないのですから」と語った。その方が、今、あなたに語りかけているのだ。
17.
私は、その瞬間、赦しの中に、あらゆる時のすべての人を含めた。なぜなら、私は、類を過去、現在、そして未来を見通すことができるからである。私は、真実と霊において、あなたがたにこう言うことができる。すなわち、私が、この時、私に新しい御言葉を聞いているあなたがたをも、あの祝福された時、見ていたのだ。（168, 38-39）
18.
私が十字架の高みから、群衆に最後の視線を向けたとき、マリアを見出し、ヨハネを指して彼女に言った。「女よ、この人はあなたの息子です」。そしてヨハネに言った。「息子よ、この人はあなたの母です」。
19.
その時、次の言葉の意味を理解できたのはヨハネただ一人であった。群衆にあまりに盲目であったため、私が「渇く」と言ったとき、彼らはそれが肉体的な渇きと考え、胆汁酒を私に差し出した。しかし、私が霊的に感じていたのは、愛の渇きであったのだ。
20.
私の両脇には二人の罪人も死に絶えしていた。しかし、一人は冒涜し、滅びと身を投じた一方で、もう一人は御父の光に照らされた。彼は、自分の神を呪い、十字架の梁に釘付けされ、死を目前にしているのを見ていながらも、その神性を信じ、こう言った。
「もしあなたが天の御国におられるなら、私を思い出してください」と。すると、私はその深い信仰に感動され、こう答えた。「まことに、あなたは言う。今日、あなたは私と共に楽園にいるであろう」
21. その時、イエスの心の中でのような嵐が吹き荒れていたか、誰も理解できない。
解き放たれた自我の力は、あの人の孤独の中で起こっていたことの、ほんの微かな兆しに過ぎなかった。そして、神の霊の痛みは、あまりにも大きく、あまりに現実であったため、一瞬、引き裂かれた肉体は、「わが神、わが神、なぜわたしを見捨てたのですか」と叫んだのである。
22.
私が人に生きることを教えたのと同じように、死ぬことも教えた。そして、父に「彼を赦してください。彼は、自分が何をしているのか分かっていないのですから」と語りかけたとき、私は悔い改め、拷問した者たちを自ら赦し、祝福した。
23.
そして、御霊がこの世を去る時、こう言われた。「父よ、私の霊を御手に委ねます。」完全なる契約は成し遂げられた。私は神として、まことに語ったのである。（152, 12 161 17）
24.
ディマスにとって、救いを見出すまでは一瞬であり、それは彼の人生の最後の瞬間であった。彼は十字架の上から私に語りかけた。神の子と呼ばれるイエスが死の苦しみの中にあるのを見ても、かかわらず、彼はイエスがメシアであり、救い主であることを感じ取った。そして、心の底からの悔い改めと謙遜をすべて捧げて、イエスに身を委ねた。それゆえ、私はその日のうちに彼と楽園を約束した。

25.
言っておくが、無実で罪なき者であっても、人生の終わりに誠実な信仰に満ちた心で私に語りかける者は、私の憐れみ深い愛と優しさを感じさせよう。その愛は、彼を他の誰よりも引き上げ、高貴で崇高な人生の模範にするのだ。（§4, 71-72）
26.
そう、愛するディマスよ、あなたは私と共に、光と霊性と平安の楽園にいた。そこは、あなたの信仰の報いとして、私があなたのために準備した場所である。
イエス――死の苦しみの中で血を流していたその姿――の中に神が宿っていることを疑う者たちに、誰が、イエスの右側で死の苦しみの中で横たわっていた強盗の中に、光の霊が隠されていたと告げることができようか。27.
時は過ぎ、魂の安らぎの再開を告げたとき、私が祝福していた者たちの多くが、私の真理の光の中へと入り込んだ。それゆえ、彼の憐れみは深く、私に従う彼の愛は揺るぎないものとなった。（§20, 67）
28.
第二の時代に私の器として役立てた肉体が死の苦しみに入り、私が十字架の上から最後の言葉を語ったとき、私の最後の言葉の中には、その瞬間も、その後長い間理解されなかったものがあった。『わが神、わが神、なぜ私を見捨てられたのですか？』
29. その言葉ゆえに、多くの者が疑念を抱いた。また、ある者たちは、それが臨終の動揺、あるいは瞬間的な絶望と考え、混乱した。
しかし、彼らはそれが最後の言葉ではなく、その後に、完全な力と明快さをもって別の言葉を私が語ったことを考慮していなかった。『父よ、私の霊を御手に委ねます』と。『すべては成し遂げられた』と。
30.
今、私はあなたがの誤りを正して、あなたがが『秘密』と呼んできたものを明らかにするために戻ってきた。だから、こう言おう。私が十字架にかけられていた時、死の苦しみは長く、血まみれのものだった。そして、他のすべての人間よりもはるかに感受性の強いイエスの肉体は、長く続く苦痛に耐え続けたが、死に屈しなかった。
イエスはこの世の使命を全うし、すでに最後の言葉を語り、最後の教えを授けていた。そこで、その拷問を受けた肉体に引き裂かれた魂は、霊の力が感じると、痛みに満ちた声で問いかけた。『父よ、父よ、なぜ私を見捨てたのですか？』――それは、傷ついた人間の言葉にしばしば発した優しくも苦悩に満ちた叫びであった。
それは、キリスト、すなわち御言葉が、イエスにおいて真の人となり、その苦しみまで真実であったことの証であった。
31.
あなたがたは、父と永遠に一つであるキリストに、この言葉を帰することができるだろうか？――今や、あなたがたは、それが人の目によって冒涜されたイエスの肉体のうめきであったことを知っている。
しかし、主の愛無しその拷問を受けた肉体に降りると、イエスは語り続け、その言葉はこうであった。『父よ、私の霊を御手に委ねます。』
――『すべては成し遂げられた。』（§4, 27-30）
32.
イエスが十字架にかけられた時、その死の瞬間に、愛に満ちた声を聞いて感動させられない霊など一人もいなかった。イエスは、御言葉によって伝えられた真理のものように、裸のままで死んでいったのだ。
イエスの犠牲を祝した人々は、彼の前にも後にも、彼のような業を成し遂げた者は誰一人いなかったことを悟った。それは、その模範によって人類を救う神聖な業であったからである。
33.
私は再び心の準備をと向かった。なぜなら、私の血があなたがたを安らぎに救うべきものであると知っていたからである。最期の瞬間まで、私は愛をもって語り、あなたがたを祝した。私は、あなたがに宗教的教えを授け、完全な模範をもって永遠の道を指し示すために来たのだから。
34. 人類は肉体の死を恐れることで、私をその計画から引き離そうとした。しかし、私はそれを断固として貫いた。
人々は私を冒涜へと誘おうとしたが、私は冒涜しなかった。群衆が私を侮辱すればするほど、私は彼らに対してより深い憐れみと愛を注ぎ、彼らが私の肉体を傷つければ傷つけるほど、信仰のない死んだ者たちが命を得るために、そこからより多くの血が流れ出た。

35.
その血は、私が霊のために道を示した愛の象徴である。私は、正義を渇望する者たちに「聖なる者の言葉」を霊に貧しい者たちに「神の宝」を残した。
36.
この時を経て初めて、人類は、この世で誰がために気づいたのである。それにより、イエスの業績が神聖なものとして、超越的なものとして認識されるようになった――なんと多くの贖罪の涙が！魂の中に、なんと多くの良心の呵責が！(29, 37-41)
37. 「道であり、真理であり、命」であったイエスが、あなたの言葉「父よ」をもってその使命を終え、最後の息にこう語られたとき、「父よ、私の霊を御手に委ねます」と語られたとき、その御前であなたがたは、従順と謙遜の奉仕としてこの世を棄てることなく、この世をすることができるだろうか。また、主の保護を受けずにこの世を去ることができるだろうか。なぜなら、あなたがたは他の領域へ入ることになるのだから。
38. イエスの生涯そのものが、父への愛の奉仕であった。十字架の死の苦しみが続く3時間は、愛の執成しと赦しの祈りであった。
39.
これこそが、私が啓示した道である。師に従って生きよ。そうすれば、私はすべての苦悩の源であるあなたの魂と、あなたを導くことを約束する。（24, 78, 80）
40.
わたし、キリストは、人イエスを通して父の栄光、その本質、そしてその姿を見た。その姿は、霊において御言を知性において、心において愛を必要としていた人々のために、奇跡行為の用いられた。
愛のものの力であるその姿は、苦しむ者たちの上に注がれ、彼らを完全に癒すためのものであった。それは、死の瞬間私の肉体同様に必要としていたにもかかわらず、私ご自分の肉体のためにその姿を使わなかったほどであった。
41.
私は、自分の肉体に突き刺さるような痛みを避けるために、その姿を使おうとはしなかった。なぜなら、私が人間となったのは、あなたがたのために苦しみ、未熟な者たち、苦しむ者たち、罪びとたちに対する私の限りない愛憐れみの、神聖かつ人間的な手段であるような証拠をあなたがたに与えるという意図によるものだけからである。
42.
私が使った啓示したすべての力――それは、ハンセン病患者を癒し、盲人の視力を回復させ、足の不自由な者に歩行能力を与えたことであれ、罪を赦させ、死者をよみがえらせたことであれ
――私は、群衆の前で示したすべての権能、すなわち人間に対する私の愛と生命に対する私の力を証明することで、彼らに私の真実の証拠を与えるために示したすべての権能を、私ご自身のために用いることを望まなかった。それゆえ、私はご自分の肉体のあの受難を経験し、あの苦痛に耐えることを望んだのである。
43.
確かに、私の力によって私の肉体からあらゆる苦痛を取り除くことはできたが、それでは、あなたがたの目には、私はどのような模範であっただろうか。
もし私がその力を用いて痛みを免れたとしたら、人間として理解しうる標準を、私は残せたでしょうか。あの瞬間、私は自分の力を含む、神のすべての力、肉の痛み、恐れに対する悲しみ、孤独、死の苦しみ、そして死を感じ、体験する必要があったのです。
44. それゆえ、イエスの苦しみは真実であったため、死の刻にイエスの唇は助けを求めたのである。
しかし、熱にうなされ、疲れ果てたイエスの体を圧倒したのは、肉体的苦痛だけではありませんでした。それはまた、その体を通して、自分の血を流したにもかかわらず、盲目であり、恐れずに高慢と偏見によって、打ちのめされ、嘲笑された神としての精神的苦しみでもあったのです。
45.
イエスは、彼を宿した霊、すなわち聖霊によって強められており、痛みに対して無感覚であり、迫害者たちの攻撃に対して無敵であることもできたはずである。しかし、

、彼は涙を流し、群衆の目の前で何度も地面に倒れ込み、肉体の力が尽き果て、その体が最後の血の一滴まで失った後に死ぬことを恐れる必要があったのである。

46.

こうして、私の地上の使命は果たされた。こうして、エルサレムに入城するずっと前に、民衆によって王と称えられたあの者の、この世での生涯は幕を閉じた。（§20, 56-61）

来世におけるイエスの贖いの業

47.

人類の初期の時代、その霊的発達が極めて低かったため、肉体の死後の魂の生活に関する肯定的な認識はなく、その最終的な運命に関する確かな知識もなかったため、魂は肉体の殻を離れる際、深い眠りに落ち、そこからゆっくりとしか目覚めることができなかった。

しかし、キリストがすべての魂に救いを授けるためにイエスとして人間となったとき、彼は人間としての使命を全うするやいなや、世界の始まりから彼を来臨を待望していた大勢の霊たちとその光を送り、彼が活かす創造へと昇華できるよう導いた。

48.

キリストのみがその闇を照らすことができ、キリストの声のみが眠っていた魂たちをその深みから目覚めさせることができる。キリストが人間として死んだとき、神聖霊霊界、そしてそこに眠っていた魂たちがその肉体から出てきた墓の中さえも、光をもたらした。

その夜、これらの存在たちは世界を巡り、救いを必要とするすべての存在にとって命そのものであり、魂が死であることを証として、人の目に現れた。（§41, 5-6）

49.

男は、あの世からのしるしと呼ばれる力を受けた。老いや病気もまた、これらの現象の証であり、救いを必要とする人間が学校に行くようになるずっと前の数千年間、その光は人々の心に差し込んだ。

霊の存在たちは人々の心に呼びかけた。そして、師が人間としての最後の息を引き取り、その光が、物質的・霊的に堕落したあらゆる闇や隔たりまで突き通したその日、長い間待望していた存在たち――道徳的に、良心の呵責という鎖に縛られ、不当な重荷を負い、また死んだと思い込み、肉体に縛られていた他の魂たち――その時、彼らは皆、深い眠りから目覚め、命へと立ち上がった。

50.

しかし、彼らがこの地を去る前に、かつての親族であった者たちに、自分の復活存在の証を与えた。これらすべてを通して、世界は悲しみと苦痛に満ちた夜に、これまでにない輝きを目の当たりにした。

51.

人々の心霊、子供たちは、長い間死んでいた者たちが、この日、ほんのひとときだけ戻ってきて、愛の種蒔きのために地上に降りてきたあの師の証を立てるのを見て、涙を流した。

同時に、彼はまたその子供たちである無数の魂に霊性を注ぎ、彼を慰め、無から創造した。（§39, 22）

52.

私は肉体を離れた時、私の霊は霊界へ入り、真理の言葉をもって彼らに語りかけた。あなたがたに対してそうであったように、私は彼らに神の愛について語った。なぜなら、それこそが生命の真の認識だからである。

53.

まことに、私はあなたがたに告げる。イエスの霊は、墓の中に一瞬たりとも留まらなかった。彼は他の生命の世界において、多くの善を成し遂げなければならなかったのだ。私、無限の霊は、かつてあなたがたにそうであったように、彼らに対しても多くの話をしなければならなかった。

54.

霊存在たちが愛することを学んでいない世界がある。彼らは闇の中に生き、光を望んでいる。今日、人々は、無愛和合主義の支配するところは闇が支配し、戦争と憎悪こそが、神の国へと続く道の閉ざされた障壁であることを知っている。

55. それに対して、愛こそが、真理あるいは平和の開かれた扉である。

56.
この地では、私は物質的な形を通して自分を現したが、あの世では、私の霊は、触れることができない者たちを教え導くために、高次の霊的存在たちと直接語りかけた。それらの高貴で輝かしい存在たちは、ここであなたがたにとってそうであるように、私が声を伝える者たちである。(213, 6 11)

復活後のイエスの出現

57.
私が十字架にかけられてから数日後、弟子たちがマリアの周りに集まっていた時、私は肉体と骨格をもった霊的な形を通して、彼らに私の存在を感じさせた。その祝福された時、誰も動くことも、一言も話すこともできなかった。
その霊的な姿を目にしたとき、真の恍惚が彼らに、彼らの心は喜びに満ちて震えていた。なぜなら、彼らは目に見える形では去った師が、霊において常に彼のそばに存在し続けることを知っていたからである。(8, 15)

58.
なぜ、あなたがたは私を霊として来ることは取るに足らないと考えるのか。私が人間としての死の後も、弟子たちと語り続け、霊的存在として彼らに現れたことを思い出せ。

59.
もし私が彼らに与えた彼の使命感、彼の犠牲の精神に向けて新たな勇気をかき込むあの啓示がなかったら、彼らはどうなっていただろうか。

60.
私が去った後、彼らの姿は悲痛そのものだった。深い絶望は刻々と強まり、刻々と増すばかりの苦しみが溢れ、彼らは恐れおののき、恐怖と良心の呵責に苛まれていた。彼らは知っていたのだ。ある者は私を売り渡し、ある者は私を否み、そしてほとんど全員が私の最期の時を見捨てたことを。

61.
彼らはいかにして、あらゆる完全さの師であるその方の証人となることができるのだろうか。いかにして、これほど多様な信念や考え方や生き方を持つ人々に立ち向かう勇気と力を得ることができるのだろうか。

62. まさにその時、私の霊が彼らの間に現れ、彼らの痛める心に慰めと信仰の火をつけ、私の教えの理想を彼らの心に燃え上がらせた。

63.
私は、弟子たちの前に私の霊を目に見える形で、感じられるものとするために、それに人間の姿を与えた。しかし、私の霊は本質として霊的なものであった。そして、その現れが私の弟子たちの間にどのような影響と意義をもたらしたか、ご覧なさい。(179, 47-52)

64.
私の離反と裏切りは成し遂げられた。しかし、彼らの心の中に疑念、苦しみ、混乱、そして恐れという嵐が巻き起こり、かつてないほど私を必要としていることを知っていたため、私は再び彼らに近づき、私の限りない慈悲のしるしを与えた。
私の言葉の約束に対する愛と憐れみをもって、私はこの世持っていたあの体、すなわちその姿をとり、人間として現れ、彼らに姿を見せ、声を聞かせ、そして私の言葉によって、その打ちしがれた魂の中に信仰の火を再び灯した。
それは新たな類いの地上でのふれあいを持つための新たな方法であった。そして彼らは信仰と私の真理の言葉によって、力づけられ、鼓舞され、変容したと感じた。

65.
彼らの目の当たりにしたそれらの証しにもかかわらず、私の弟子たちに与えた驚くべき証拠に疑いを抱く者が一人いた。それゆえ、彼が信じることができるよう、私の霊は彼の肉体の感覚でさえ触れて確かめることを許さなければならなかった。

66.
しかし、その疑いは私に近かった弟子たちの間だけに生じたのではない。いや、地方町村の信者たちの間、すなわち、私の力の証しを受

は、その後数日の間に、私が出会った人々の間にも、混乱と不安、疑問と動揺を引き起こした。
なぜ人々がこのような結論を下したのか、理解できなかったのだ。
67.
私はすべての人々に隣人愛を説き、それゆえ、たとえ私が人間として他の人に寄り添うことはなかったとしても、私が彼らから離れてはいないということを、最も身近な弟子たちと同様に彼らにも与えた。あらゆる家庭、あらゆる家族、そしてあらゆる職場において、私は私を信じる人々の心に、様々な形で私の霊的臨在を感じさせることによって、自らを現した。
そこで、地上の誰もが知らなければならなかったキリストの教えをめぐる戦いが始まった。彼らは立ち上がり、師が彼らに啓示した真理を宣伝えるためであった。あなたがたは皆、彼の偉大な業を知っている。（§33, 38-41）
68.
「第二の時代に、私が霊の国から弟子たちに最後の姿を現したとき、私が彼らの視界から消えると、彼らは悲しみに満たされた。その瞬間、彼らは見捨てられたと感じたからである。しかしその後、彼らは主の天使の声を聞いた。その天使は彼らにこう言った。『ガリラヤの人たちよ、何を見つめているのか。今日、天に昇って行くのを見たこのイエスを、あなたがたと同じように降りてくるのを見るだろう。』」
69. そこで彼らは、主が父のもとに戻れるのは、霊的に成長するのだと理解した。（§, 13-14）

第3章 イエスとその使徒たちの使命と意義

古い神像とその伝統の是正

1.
キリストであるイエスは、父の愛と赦しがいかに偉大であるかを示すために、私がこの世であなたがたに与えた最も明確な類似の模範であった。イエスは、あなたがたの誤った考え方や態度を変えさせるために、創造主が地上に送った生きたメッセージであった。
人々はエホバを、怒りに満ち容赦のない神、恐ろしく復讐心に燃える裁き主と見なしていた。しかし、イエスを通して、神はあなたがたをその誤りから解放された。
2.
師の中に、人となった神の愛を見よ。師は、謙遜と柔和と慈しみに満ち生涯を通して、あなたがたのすべての行いを教えられた。しかし、死をもってあなたがたを贖うかわりに、師は自らの血を捧げ、愛という真の命を示してくださった。
その神聖なメッセージは、類を見ないものであり、神聖なる啓示を受けた言葉は、教会の完全な源泉であり、それを通して人々は救いを得、今なおそうしている。しかし、まことに、私はあなたがたに言う、彼らはまだそのメッセージの内容を理解していなかった。
3. 人類は、神が人々への愛のゆえにイエスにおいて死なれたことから、神の子供たちの愛は限りないものだと信じている。
彼は、裁判官ピラトの前でイエスが受けた苦しみに対して、深く心を動かされ、次第に師の神聖さを認識するようになっている。しかし、処女から生まれたことや、ベツレヘムの馬小屋で始まったあの誕生を通して、主が人々に伝えようとしたすべての事柄の意味、その深遠な意義は、今日に至るまで正しく解釈されていない。
4.
私は、その言葉が父のもとへ昇ったのと同じ雲に乗って再び戻ってこなければならなかった。それは、その説明をあなたがたに与え、イエスの誕生、生涯、使命、そしてそれを通してあなたがたに啓示されたすべての事柄の意味を明らかにするためである。
5.
当時キリストによって約束された真理の霊は、闇雲に、人間の知性だけでは理解し得ない神秘を啓示するために来た。この神聖な啓示のことである。（§1, 46-49）

6.
私は「第の時」において、人間として自の模範を通して私の真理を示した。私は完全な愛の教えのために自を犠牲にすることで、無実で無罪なすべての人々に対する無条件の犠牲を実践した。あなたがたは私を「神の子」と呼んだ。それは、あの最後の過ぎ越しの祭日に私が犠牲にしたからである。

7.
実際、私の血は、人々を救いへの道を示すために流されたのである。私の十字架の上から、当時の人類、そしてあらゆる時代の人類へと差し伸べられた。それは、人類その模範、その言葉、その完全な生涯を通して、救い、罪の清め、そして永遠の命を見出すためであった。（1 76, 15）

イエスの模範

8. イエスが、あなたがたが従うべきであり、かつあなたがたが選ばなかってしまっていた模範を、あなたがたに示す必要があった。

9.
私は、あなたがの心を動かし、知性を目覚めさせるために、私のすべての業には、愛、知恵、そして慈悲をあなたがたに示し、あなたがと共に生活を送った。
心から、と生まれ変わる必要があった。そして、愛ゆえに私が十字架にかけられるのを見る前は、父のもとへ至るためには、愛のために苦しむ必要があることを思い出させるために、まるで初めてのようなものだった。
自の十字架を背負い、私に従いたいと願うすべての人への私の約束は、永遠の平安、すなわち、霊において終わりのない至福の至福であった。（1 40, 23 24）

10.
キリストは、あなたがの模範であり、まさにそうあるべきである。そのために、私がこの世に人間となったのだ。イエスが人類にもたらした革新とは何だったのか。それは、彼の限りない愛、神聖な知恵、限りない慈悲、そしてであった。

11.
わたしはあなたがたに言った。「わたしを模範となさい。そうすれば、あなたがたもわたしが行うのと同じ業を行うようになる。」わたしが師として来たのだから、あなたがたは、それが、あなたがたに達成可能な教えや、人間の理解の及ばないような教えを与えるためではなかったことを理解すべきである。

12.
ですから、イエスがあなたがたに教えられたのと同じような行いをするならば、私が先にあなたがたに語った「しもべの模範」に到達することとなるのだと、よく理解なさい。（1 56, 25-27）

イエスの教えの意義

13.
人類が救いを目指して、開かれた書物として与えられたイエスの教えは、地球のいかなる民族、いかなる時代、いかなる種においても、他のいかなるものとも比較できないものである。
なぜなら、正義の救い、愛の教えを広めようと志す者たちは、先駆者として、使者として、しかも神格としてではなく、私によって地上に遣わされたからである。神格としてあなたがのところに来たのは、キリストただ一人である。彼は、人間の心が受け取り得る最も明快かつ偉大な教えをあなたがたにもたらした。（2 19, 33）

イエスの弟子たちの召命、修業期間、そして試練

14.
あなたがたは、この数週間、私の活動、すなわち、私が弟子たちを訓練し、彼らと共に暮らしたあの年月を思い起こした。彼らは私のすべ

ての業務の当たりに、その瞬間において私の心に深く入り込み、師の神あり清かさ、その全き威厳、そして聖を理解することができるのである。

15.

当時私の行いは人目を引くためのものではなかった。この地の私の兄弟は貧しかった。しかし、備の整う者は私の臨在の偉大さと、自分が生きている時の偉大さを感じていた。

16.

こうして私は弟子たちを選んだ。そのうちの何人かはガリラヤで出会う者たちであり、私は「私に従いなさい」と言って彼らを召した。彼らが私を見つめたとき、彼らに語りかけているのが誰であるかを理解したので、私は一人また一人と選んでいった。（ルカ5:42, 21）

17.

私がこの世で教えている間、弟子たちが私で師であるとか、彼らに王権を授けるべきだとは決して言わなかった。彼らはまた私の言葉の光に魅了されて喜んで私に従い、過ぎ、なお過ぎることもあった。なぜなら、彼らが変容し、その後人々の模範として働くようになるまでには、ある程度の時間が必要だったからである。

彼らは後に彼ら自身をダイヤモンドと変えることができるように、神の愛の炉によって鍛えられている最中であった。（ルカ22:56, 39）

18.

私はいつの時も、弟子たちを試してきた。ペトロを叱責し、矯正したことか。彼はそのうちのたった一度だけ、揺らいだ。しかし、その行為をもって彼を悪く判断してはならない。なぜなら、彼の信仰が燃え上がる時、彼は教え、真理を証するとき、彼は人の間で雄弁のようであったからだ。

19.

トマスを難してはならない。あなたがたは、私の業をこの手で触れるほど近くに感じることができなかったにもかかわらず、それでもなお疑ったことが何度あったかを思い起こせ。ユダ・イスカリオテを裏切り者と見なしてはならない。あの愛された弟子は師を二十枚の銀貨で売り渡したが、彼は深い悔恨を抱いた者ではなかったのだ。

20.

わたしは彼ら一人一人を用いて、あなたがたに教訓を残した。それはあなたがたにとって模範となり、人類全体に永遠に役立つものである。彼らはまた自らの過ちを悔い改め、改心し、使命を遂行し、全身全霊を捧げた。彼らは真の使徒であり、すべての世代のための模範を残したのである。（ルカ24, 22-23）

使徒ヨハネ

21.

思い起こせ、わが肉体が十字架に釘を刺され、その後葬られた時、動揺し、何が起きたのか理解できなかった弟子たちは、自分の死をもってすべてが終わったと信じていた。彼の福音にあずかり、わが言葉に対する彼の証しが強まるためには、彼の目が開かれ、わたしを見、彼の耳が開かれ、わたしの声を聞く必要があったのだ。

22.

さて、私はあなたがたに告げよう。あの弟子たちの中に、決して疑わず、試練に直面しても決して揺らぐことなく、一瞬たりとも私から離れなかった者が一人いた。それは、忠実で、勇敢で、情熱があり、最も愛に満ちた弟子、ヨハネであった。

23.

この愛ゆえに、私は彼が十字架の足元に立っていた時、マリアを彼に託した。そうすることで、彼が終始その母なる心の中に愛を見出し、彼の傍らで彼女を受け入れるために、さらに近づくことができるようにするためである。

24.

彼の弟たち、すなわち他の弟子たちが、一人また一人と恐れの死の一撃の下に倒れ、その血をもって、彼が説いた全真理の名を確証していった一方で、ヨハネは死を免れ、殉教を免れた。

25.
彼が祭壇へと導かれたとき、彼を連れた者たちは彼を通し、私たちの上に、その日に時を経たちからの大きな苦難が降り注ぐことなど、思いもよらなかった。それは、彼が次々と経験してきたもの――すなわち、これから起こり、成就するすべての事柄について人々に語りかける重荷である。
26.
ヨハネは弟子たちに多くの愛を注ぎ、師の名において彼らに仕えるという使命に専念させた後、彼から離れて、独りで生きなければならなかった。しかし、彼は常に、類まれな祈りとイエスへの献身をもって救おうとした人々のことを常に心に留めていた。
27.
祈りと沈黙の内省、その存在の純粋さ、そして思考の深さがあいまって、ある人の間、あるいは他の魂と触れ合うのに数年を要するであろうことを、短期間で成し遂げるのである。（109, 41-45）
28.
私がこの地上にいたときと、すべての民族が私の名前や、何百万もの人々が私の言葉を口にしているのがわかる。しかし、まことに、私はあなたがたに言う。それにもかかわらず、私は人の間に愛を見いだせないのだ！
29.
私がこの時にあなたがたに教えていること、そしてこの世で起きていることすべては、私が使徒ヨハネを通して人類に与えた啓示の説明であり、その成就である。当時パトモス島に住んでいた彼を、霊によってその高い神聖な次元に、計り知れない広大さへと運び、象徴を通して根源目的、アルファとオメガを示した時、人類の啓示の説明であり、成就である。そして彼は、すでに起こった出来事、まさに今進行中の出来事、そしてこれから起こるであろう出来事を見た。
30.
その時、彼はその意味を理解していなかったが、私の声が彼に言った。「あなたが見聞きするものを書き記せ。」そこで彼は書き記した。
31.
ヨハネの弟子たちおよび彼は船で海を渡り、彼の隠れ家へと訪ねてきた。その男たちは、かつてイエスの弟子であった彼に、師のような方であったか、その言葉や奇跡について熱心に尋ねた。そして、愛と慎みをもって師であったヨハネは、その言葉で彼らを驚かせた。老いが近づき、すでに時折体を衰えさせていたときでさえ、彼はまだ力強く、師について証し、弟子たちに「互いに愛し合いなさい」と告げることができた。
32.
彼を訪ねてきた人々は、ヨハネの死の日が近づいているのを見て、その使徒が蓄積したすべての知恵を手にしたいと願い、師から学んだことをすべて明かしてほしいと懇願した。しかし、どんな答えも返ってこない代わりに、彼が口にしたのはいつもただ一言、「互いに愛し合いなさい」という言葉だけだった。
33.
あれほど熱心に、そして興味深く尋ねた者たちは、裏切られたと感じ、老いがキリストの言葉を彼の記憶から消し去ってしまったのだと考えた。
34.
私はあなたがたに告げる。ヨハネは私の言葉を一つも忘れてはいなかった。むしろ、私の教えのすべてからの贅沢な抽出、律法全体を要約するその教え、すなわち互いに愛し合うことを語ったのである。
35. あれほど愛された弟子が、これほどまで愛した師の教えを、どうして記憶から失うことができようか。（167, 32-37）
36. 私の去った後の第三の時において、天の母は悲嘆に暮れる弟子たちのもとへ、彼らに寄り添われた。
苦しみと試練の後、彼はマリアの慈愛に満ちた心と安らぎを見出し、彼の言葉に従って彼女を養った。神聖な
師はキリストの教えを授け続けたマリアに励まされ、彼は歩み続けた。彼が去った時、彼の魂がまばゆい一人ひとりから去れた道を歩んだ。（183, 15）

使徒ペトロとパウロ

37.

私の弟子ペトロが、サウロによって死に至るまで迫害された時のことを忘れるな。私はその迫害を使徒に、彼が試練の中で独りではないこと、そして私の名を讃えれば私が彼を迫害者たちから守ってやると示したのだ。

38. サウロは、ペトロを捕えようと捜し求めていた時、私の輝きに光に驚かされた。

私の光はサウロの心の奥底まで届いた。彼は――私の領土にいれば、私の愛は負うされ、私の弟子に対して企てていた任務を遂行できなくなった。そして、心の奥底で自分の存在が変容しているのを感じ、今やキリストへの信仰に回心した彼は、急いでペトロを探し求めた。もはや彼を殺すためではなく、主の言葉によって彼に教えを請い、その使徒から加わってほしいと願うためであった。

39. それ以来、サウロはパウロとなった。この名の変更は、その人の魂の完全な変容、すなわち彼の完全な回心を示していた。（Ac 9:8, 46-47）

40.

パウロは二使徒の一人ではなく、私の食卓を共にすることもなく、また私の教えを聞くために私の後を追い歩いたこともなかった。それどころか、彼はほとんど、私に従う者たちを憎しみの眼差しで見ることもなかった。

彼の心の中には、私の弟子たち、訳しまさに広がり始めたばかりの教会を、滅ぼそうという考えがあった。

しかし、パウロは自分が私の選ばれた一人であることを知らなかった。彼はパンが来なければならないことを知っており、それを信じていた。しかし、謙虚さにより約束された救い主であるとは想像できなかった。彼の心は世俗に満ちており、それゆえ、彼は真の信仰を感じ取ることができなかった。

41.

サウロは、彼の救いに対して立ち向かった。彼は、使徒たちの口から私のメッセージを聞くために彼のもとに集まった人々、すなわち私の弟子たちを迫害した。そして、私が彼を驚かせたのは、彼が私の選ばれた者たちを迫害しようとしていたまさにその時であった。

私は彼の心の最も秘められた部分に触れ、彼の霊が私を待望していたため、彼は聖霊を受けた。それゆえ、彼は私の声を聞いたのである。

42.

あの広く知られた男がこのように回心することは、私の意志であった。それは、世界が信仰と理解の扉となるべき驚くべき出来事を、彼が歩むあらゆる道において目撃できるようにするためであった。

43.

それ以来、師の愛と聖霊に教えに触発され、隣人への愛に満ち溢れたこの男の物語を、これ以上詳細に振り返る必要があるだろうか。

44. パウロは、わが言葉の最も偉大な使徒の一人であり、その証しは真実、愛に満ち、真実、そして光に満ちていた。

彼の前の物質は極めて高く、霊性と変わり、その厳しさは限りない優しさと変わった。こうして、私の使徒たちを迫害していた者は、私の言葉の最も熱心な担い手となり、彼が生き、その福音を伝えた主の聖霊のメッセージを、様々な国々、州、村々に届ける、疲れを知らない巡回説教者となったのである。

45.

愛する民よ、ここに、回心の美しい模範があり、たとえ私の声を聞いていなくとも、人が私の偉大な使徒となり得るという証しがある。（Ac 9:157, 42-47）

使徒たちの模範性

46.

あの「第二の時」、弟子たちが信仰を失って世界を巡っていた時、私以外に誰が彼らを派遣したであろうか。一人ひとりの使徒が、あなたにとって模範となるものと思われないか。

しかし、私はあなたがたに言う。彼らも他の人間と同じように弱さがあったのだ。後に彼らは愛と信仰に満たされ、世の中で弟子の使命を果たしているように見えても、人々の迫害や嘲笑にさらされながらも歩み続けることに、決して気落ちすることはなかった。

47. 彼らは奇跡を行うことがあり、その恵みを用いて人々の心を真理へと回心させることがあった。

48.
私の弟子たちのひとりイエスの使徒ヨハネ。すべての人は兄弟である。なぜなら、彼を通して私の教えに接することなく、その純粋と真実のすべてをもって伝えられたからである。それゆえ、人々は彼の話し方を聞いた時、魂の中に主の存在を感じ、その存在の中に、力と知恵と威厳という神の感覚を覚えたのである。
49.
あなたがたはガリラヤのあの貧しく謙虚な漁師たちに、ふさわしい模範を見出すことができる。愛によって霊性漁師と変えられた彼は、イエスから学んだ言葉によって諸民族と国々を魅惑せ、その粘り強い信仰によって、諸教会と霊性平和の実現を構築したのである。主から洗礼まで彼らは、あの真のキリスト教の時代に、私の弟子を験した。
50.
人の間にあったあの霊性の時代は長く続かなかった。しかし、すべてを知っている私は、あなたがたが再び私を必要とすることを知っていたため、私の再臨を告げ、約束していたのである。（179, 56-60）

キリスト教の広がり

51. 私の教えは、弟子たちのひとりを通して、無知、偶像崇拝、そして物質主義と戦い愛と光の剣であった。
自分の神話や幻想の闇に固執している多くの者たちからは、憎しみや怒りが生じたが、一方で真理を渇望し、罪に苦しんでいる者たちの希望と信仰のために開かれた、光に満ちた道と直面して、他の者たちの心からは、感嘆の賛歌が湧き上がった。
52.
霊性生活を否定していた者たちは、天の御国に関する話を耳にして激怒したが、その存在を感じ、そこから正義と救いを期待していた者たちは、父の御独り子をお遣わしくださったことに感謝した。
53.
心の中に神の言葉を迎え、神の愛をもたらすという祝福された渇望を抱いていた人々は、私の言葉に深く入り込むにつれて、自分の道が明るくなり、心が浄化されるのを感じ、霊的な喜びを覚えた。
真の霊的パンとしてのキリストの教えは、彼の内にあった計り知れない空虚を埋め、その完全さと深い意味によって、彼の霊のあらゆる渇望を満たした。
54. 新しい時代の幕開けは、永遠へと続く、より光に満ちた道を開いた。
55.
信仰に照らされ、わが言葉を受け入れるために集った者たちの内に、なんと美しい、魂の高貴な愛と優しさの感情、そこでは目覚めたことか！
一瞬たりとも絶望することなく、あらゆる困難に耐え、それを乗り越えることを知っていた、あの心は、なんと大きな勇気と信仰の精神が宿っていたことか！
56. それは、自分の血が流されるのを見かけただろうか？
いや、民よ。神の愛の物質性と具現であったその血の霊性の本質は、乾くことなければ、決して消えることもない。それは今日、当時と同様に、現れ、生き生きとして、生ぎ温もりを帯びている。
57.
その理由は、彼の心はまた、真理の愛が存していたからである。彼はその真理を証拠だて、自分の教えを学んだことを証明するために、自分の血をお捧げたのである。
58. その貴重な捧げられた血は、あらゆる障害と試練を乗り越えた。
59.
わが言葉の弟子たちの霊性はしかし、増大したことか。それは、古い悩みに固執する者たちや、ただ肉体の糧で身を養って生きる異端者たち、偶像崇拝、物質主義、利己主義、そして無神論とは、なんと異なっていたことか！（316, 34-42）
60.
人生の道を、模範となる善で彩りなさい。わたしの教えを忘れてはならない。その点において、第二の時代の弟子たち、すなわち「

」を冒瀆しなさい。彼は、わたしの教えを説き、解説するために、決して目に見えるような儀式に頼ることはなかった。
その後、人類のために贖罪の責任を彼らに負わせることはできない。彼の弟子は決して祭壇を築くことも、霊的な神のいけにえのための場所を建てることもなかった。しかし、彼はわたしの教えを広め、病人に健康を与え、貧しい者や悲しむ者に希望と慰めをもたらし、そして彼の師のように、迷える者たちに救いの道を示したのだ。
61. あなたがたが今日知っているキリスト教は、私の弟子たちの実践、教えや教えのほのめかしを反映しすぎなのだ!
62.
もう一度言おう。あの弟子たちの中にこそ、謙遜、愛、慈悲、そして高潔の完全な模範を見出すことができるのだ。彼らは自分の口から語られた真理を、自分の血をもって確証したのである。
63.
人類は、もしあなたがたの証言を得るために、あなたがたに血を要求することはないだろう。しかし、彼らはあなたがたに真実をゆだねるだろう。（256, 30-33）

III. 教会やキリスト教の時代

第4章 キリスト教、教会、そして礼拝

キリスト教の発展

1. 私が「第二の時代」に去った後、私の弟子たちは私の業を続け、使徒たち、続く者たち、彼らの働きを引き継いだ。
彼らは新たな働き手であり、主によって整えられ、主の血と霊の言葉によって聖別され、十二人の弟子たち、そして彼らに続く者たちの働きによって耕されたその畑の耕作者たちであった。しかし、時が経ち、世代から世代へと、人は私の業と教えをますます神秘化したり、歪曲したりしていった。
2.
誰が私に、私を像として造ってもよいと言ったのか。誰が、十字架に架けられた私を描き出せと言ったのか。誰が、マリアの像や聖母の姿、あるいは磔像を造ってもよいと言ったのか。ああ、信仰の薄い人々よ、私の存在を感じるために、霊的なものを物質的に可視化しなければならなかったあなたがたよ!
3.
父の像はイエスであり、自分の像は弟子たちであった。「第二の時代」において、私はこう言った。「子を見れば、父を見る」。これは、イエスを通して語られたキリストこそが、父そのものであることを意味する。父のみが、自分の像を創造することができるのである。
4.
私が肉としての死を迎えた後、私は弟子たちに「生ける者」として現れた。それは、私が霊であり永遠のものであり、肉にあろうはずもないこと、あなたがたの中に常に存在していることを彼らに悟らせるためであった。しかし、すべての人がこれを理解しているわけではなく、それゆえ彼らは偶像礼拝に陥ってしまうのである。（113, 13-17）
5.
わたしはサマリアの女にこう言った。「わたしが与える水を飲む者は、二度と渇くことがない。」そして今日、わたしはあなたがたに言う。もし人類がこの泉を飲んでいたなら、これほど大きな悲惨はなかったろう。
6. 人は私の教えを歪めようとはせず、自分たちの解釈や都合に合わせて、私の名を利用して教会を設立することを選んだ。
私は隣人を愛し、愛を教えた。しかし今日、あなたがたは魂の益にならない、中身のない儀式や儀礼に私を奉仕させるために、私の

ところに来る。あなたがたの内に霊がなければ、そこに真理はあり得ない。そして、真理をその内に持たないものは、あなたがたの父とは呼ばない。

7.

あのサマリアの女は、私の言葉が彼女の心の奥底まで届いているのを感じると、私にこう言った。「主よ、あなたがたはエルサレムこそが私たちの神を礼拝すべき場所だと言っています。」

そこで私は彼女にこう言った。「女よ、まことに、あなたは言う。今あなたがたがしているように、この山でもエルサレムでも父を礼拝することなどなくなる時が来る。父を霊と真理をもって礼拝する時が近づいている。神は霊からである。」

8.

これが私の説いてきた教えである。見よ、真理はあなたがたの目の前にあったのに、あなたがたはそれを見ようとしなかった。それゆえ、あなたがたはこれからも、どうしてそれを実践できるというのか。（151, 2-5）

礼拝の儀式

9.

もしあなたがたが愛するならば、目に見える礼拝の儀式など必要としないだろう。なぜなら、あなたがたはすでに神聖なるものを持つことになるからだ。その光は、あなたがたがそうとするあらゆる闇の波を突き抜け、人間の霊を覆い、霧を晴らすものである。

10.

もはや神聖なものを冒涜してはならない。まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが先祖から受け継ぎ、熱狂的になっているこれらの外的な礼拝を行うとき、あなたがたは神の前で大きな罪を犯しているのだ。（11, 13-14）

11.

道に迷った人間よ――道に迷っているのは、キリスト教を乗っ取る人々が、私の教えそのものよりも、儀式や見せかけの重きを置いてきたからだ。私の愛と、十字架の血によって贖われたあの人々の言葉は、もはや人々の心の中に生きてはいない。それどころか、それらの書物の中に閉じ込められ、沈黙しているのだ。

こうして、キリストがおられようとは、理解も想像もできないキリスト教を乗っ取る人間が存在するのだ。

12.

それゆえ、この時代、わたしは弟子がほしくない――苦しむ者を愛し、その痛みを和らげる者たち、徳をもって生き、自らの模範によってそれを説く者たち、それこそがキリストの弟子である。

13. わたしの教えを聞きながらそれを実践しない口先だけの者は、わたしの弟子ではない。

14.

私はこの時代に、石造の神殿など、そこで自らを見せるために来たのではない。私が求めているのは魂であり、心であり、物質性や華やかさではない。（12, 47-50）

15.

宗教団体は深い眠りの中に沈んだままであり、その慣習的な道から外れない限り、霊性を目覚めさせ、霊性を理解する認識も出ない。それゆえ、人の間に平和は訪れず、真の愛のための余地は生まれないだろう。深い人間性の対立を解消するには、輝きを放つことができない。（100, 38）

聖職者たち

16.

あなたがたは真の平和をおのれのものとするために、それを追い求めることに満足し、あらゆる手段であらゆる方法で、わずかな心の平安さえ得ようとするが、決して真の魂の平和であるものを得ることはない。

私はあなたがたに言う。主の御心にかなう神の御業によってのみ、それが得られるのだ。

17.
この世は、わたしの言葉を正しく説く者、わたしの教えを正しく解釈する者が欠けている。それゆえ、キリスト教徒を名乗る人々でさえ、霊的に後進性を甘受している。なぜなら、わたしの真の教えをもって彼らを悟らせる者がおらず、わたしが人々を教えたのと同じ愛をもってそれを育む者がいないからである。
18.
日々――集会所、教会、大聖堂において――私の名が唱えられ、私の言葉が繰り返されているが、内面が動かされる者はおらず、その光に心を照らされる者もいない。それは、人々がその真意を誤解しているからである。
大多数の人はキリストの言葉のみは、それを機械的に繰り返し唱えることであると言っている。しかし、それを解釈する必要なく、研究し、熟考し、実践し、生きることが必要であるということを理解していないのだ。
19.
もし人々がキリストの言葉の中にその真意をくみ取ろうとしたなら、それは彼らにとって常に新しく、鮮やかで、生き生きとして、現実味のあるものとなるだろう。しかし、彼らはそれを探し求めず、それゆえ、そこから養分を得ることはできず、このままでは今後、ますます得ることはできないだろう。
20.
哀れな人類よ――光がすぐそばにあるにもかかわらず、闇の中をさまよい、平和が手の届くところにあるにもかかわらず、恐怖に震えている！しかし、人はあの神聖な光を見ることができない。なぜなら、彼らは盲目にされた者たちだからである。
真のあなた方の父は、あなた方に語りかけ、教え、かつて私が語ったすべての言葉が永遠に有効であり、その神聖な言葉が過ぎ去った時代の古い教えとして捨て去られてはならないことを証明することで、あなた方を助けに来る。
なぜなら、私の教えの本質は永遠であり、その中にこそ、この迷いの時代、計り知れない苦しみと苦悩に満ちた時代にあって、あなたがたが必要とする慰めがあるからだ。（307, 4-8）
21. 私は、盲目的な信仰、すなわち理解なき信仰、恐怖や迷信によって得られた信仰を拒否する者たちを非難する。
22.
人類を苦しめるあらゆる悪、あらゆる災い、飢饉、疫病を、神の罰、怒りであると称して神はにする者たちの言葉に耳を傾けてはならない。彼らは偽預言者である。
23. 彼らに注意を向けよ。彼らはわたしを知らないのに、神がどのようなお方であるかを人々に教えようとしているのだから。
24.
これは、過ぎ去った時代の聖典に対してなされた誤った解釈の結果である。それらの聖典の中には、言葉は啓示、予言された人間の言葉の形において、まだ発見されていないのだ。多くの人が、真理についてほとんど知らずに、世界の終わり、最後の審判、死、地獄について語っている。（290, 16-19）
25.
あなたがたはすでに第二の時代に生きているが、人類はいまだ霊的に遅れている。彼らの教師、神学者、そして霊的指導者たちは、永遠の命についてほとんど、時には全く何も明かしていない。
彼らに対しても、私はあの大聖書の秘密を明かしている。それゆえ、私はあなた方に問う、なぜ彼らは黙しているのか。なぜ彼らは、人々の眠っている良心を目覚めさせることを恐れているのか。（245, 5）
26.
わたしの教えは、父の完全で霊的で清らかな崇拝をあなた方に説くものである。なぜなら、人間の魂は――自覚することなく――主の神殿の入口にとどまっており、そこへ入り、わたしの臨在を感じ、その霊を通してわたしの声を聞き、その天性降り注ぐ光の中でわたしを見るからである。
27.
この時代、人がそれぞれの宗教団体の中で感じている安堵感は、魂と霊との創造と混乱を招いていることを証明する。儀式や慣習は、魂を満たさず、魂はあの真理の光をいまだに切望している。（138, 43-44）

28.
私は決して謎を語って人のところへ来ることはない。もし私が神聖なものを示したり、永遠なるものを何かの物質性形を表現したりするために上昇意識をあなた方に語ったとすれば、それはあなた方が私を理解できるようにするためであった。
しかし、人々がそれらの教えの真意を探求するかわりに形物あるいは儀式を崇拝することに固執するならば、彼らが何世紀にもわたって停滞し、あらゆるものの神秘を見出せようになるのは当然のことである。
29.
イスラエルがエジプトに滞在していた時代、すべての家の入り口が子羊の血によって象徴されていた時代は来、伝統儀式だけは残れ、その儀式が、あなたがた霊的命を与えるためにキリストが流すべき血の予表であったことを理解しない人々が存在してきた。
また私の体に養われていると信じている者たちは物質的なパンを食べているが、私が最後の晩餐で弟子たちにパンを与えたのは、私の言葉の意味を霊として受け入れる者が、私に養われていることを彼らに理解させるためであったということを理解しようともしない。
30.
真に私の神聖教義を理解できる者はわずかしかいない。そして、そのわずかな者たちこそが霊によってそれを適用する者たちである。しかし、私が神聖啓示を一度あなた方に授けたのだから、私の教えのために少しずつ説明していることを心に留めておきなさい。（16, 7-9）
31.
聴衆たちの心は喜びが満ちている。なぜなら、彼らの霊前には師が彼らを待受け、真の命のパンという聖食、飲ませてくださる天の恵みがあることを知っているからだ。
32.
かつてイエスが使徒たちと共に集まり食事は、天の国の象徴であった。そこではが子供たちに囲まれ、命と愛を象徴する食事が供され、神聖な声が響き渡り、その本質は聖なる交わりであり、そこに満ちていた平和は、神の国に存在する平和そのものであった。
33.
あなたがたは、この朝の時間に、師の御言葉によって新しい勢いをもらってくださるだろうと考え、自らを清めようとした。その通りである。今日、わたしはあなたがたに、わたしの体と血を表したパンという聖餐式をすることを告げる。
しかし、同時に、この新しい時において、あなたがたはその儀式、わたしの言葉の神聖な意味においてのみ見出しとなると告げる。もしあなたがたがわたしの体と血をいただくなら、創造の神聖な中にそれをいただかなければならない。なぜなら、わたしは霊であるからだ。そのパンを食べ、そのぶどう酒を飲め。しかし、わたしの肉で満たしてくれ、わたしはあなたがたと共に飲むものだ。わたしはあなたがたの愛に渇いている。
34.
このメッセージを弟子たちに伝え、血は命であるがゆえに、真の愛である永遠の命の贈り物を象徴に過ぎないことを学びなさい。あなた方を通して、私は人類の新しい啓示で照らし始めるのである。（48, 22-25）
35.
わたしはあなたがたに新しい教えをもたらす。もし第一の時代においてわたしの言葉があなたがたに多大な影響を与えた無垢な動物の犠牲を強いたのであれば、今日、わたしの神聖な言葉という霊によって、あなたがたはもはや、この地のパンとワインによってわたしの体と血を象徴することはなくなるのである。
36.
生きようと願うすべての魂は、神霊によって養われなければならない。わたしの言葉を聞き、それを信じ感じる者は、真に養われるのである。その者は、ただわたしの体を食べ、わたしの血を飲むだけでなく、養われるためわたしの霊を受けるのである。
37. この天の糧を味わった後、誰が再び人の手によって作られた像や物の中にそれを求めようとするだろうか。

38.
時折、私は来て、伝統、儀式、慣習を取り除き、あなたがの精神の中に、ただ律法と、私の教えの霊性だけが残るのである。（8, 27）

洗礼

39.
人々よ、その頃、洗礼者と呼ばれるヨハネは、彼の元に来た者たちに水で洗礼を授けた。この行為は、原罪からの清めの象徴であった。彼は、荒野の言葉を聞くためヨルダン川に集まった群衆にこう言った。「見よ、私はあなたがたに水で洗礼を授けるが、聖霊をもってあなたがたに洗礼を授けるかが、すでに道を備えておられる。」

40.
すべての霊はの母胎から生まれ、そこから清く純粋な姿で現れた。しかし、もし彼がその道の途中で、不注意からもたらした罪によって汚れてしまうならば、私の霊の火が再び彼の上に注がれ、彼の罪を消し去り、浄めを流し、彼に本来の清さを取り戻させるのである。

41.
もしあなたがが、この霊性洗礼を、人が創造主に対する謙虚、悔い改めの行為によって得る清めとして理解するのではなく、単なる儀式に変えてしまい、行為の象徴的意味に満足するならば――まことに、わたしはあなたがたに言う、そのとき、あなたがの魂は救われないであろう。

42.
このように振る舞う者は、なお洗礼者ヨハネの時代に生きているのであり、それはあたかも、霊的洗礼について、また神の御子を清め、光の中で死とする贖いについて語った、その預言者は業を得ていなかったかのようだ。

43.
ヨハネは、清めの象徴としてその水を主なために、大人としての人々を自分のもとへ招いた。彼はすでに自分の行いを自覚しており、善と正さと正義の道を歩み続けるという、決意に意志を持つようになったから、彼のところへ来たのである。
見よ、人類がかつて、神の愛から生まれ、悔い改めと善の固い決意による真の刷新ではなく、水による象徴的な清めの儀式を行うことを望むかぎり、儀式的行為は必ずや要る。それに対し、心を清め、清くであり続けるために奮闘することは、人間にとってまさに努力であり、自己錬成であり、さらには自己錬成そのものである。
それゆえ、人々は良心が許す限り、自分の道徳的あるいは精神的成長にふさわしい儀式や特別の行為、儀礼の遵守に満足することで、外見上、自分の罪を覆い隠すことを選んできたのである。

44.
弟子たちよ、これこそが、私があなたがの間で儀式的な行為が行われることを望まない理由である。その実行によって、魂に実際に作用するものがなされてしまわないようにするためである。（9, 56-61）

45.
発展の流れに従って魂を整えと送り出すのがわたしである。まことに、私はあなたがたに告げる。この世の影響は、私の神聖な計画を変えることはない。なぜなら、あらゆる霊的な戦いを経て、私の意志は成し遂げられるからである。

46.
すべての人間は、地球上の各地に集まってやって来る。その運命によってあらかじめ定められており、その魂が人生の旅によって聖別されている。人々が儀式を行い、幼子たちに洗礼を与えるのは無駄なことだ。
まことに、あなたがたに告げる。しかる物質的な出生においても、水は、わが律法に対する違反から魂を清めることはない。そして、もし私があらゆる罪から清められた魂を望むならば、各宗教の聖者たちは、洗礼によってその魂をどのような罪から清めるというのか。

47.
あなたがたは、人間は原罪ではなく、その誕生が自然界の成り行きであることを理解すべき時が来た。それは、人間だけでなく、自然を

構成するすべての被造物が滅びる運命にある。私が「人間」と言うのであって、「その魂」とは言わなかったことに留意せよ。
人間は、自分自身に存在を創造することの権限がある。しかし、魂は私からしか生まれない。
48.
成長、増殖することは普通な運命である。星が他の、より大きな星から生まれたのと同様に、種は増殖した。そして、私は決して、それによって彼が罪に陥ったある人間を創造を終えたとは言っていない。ならばなぜあなたがたは、この神聖な秘密を果たすことによって、罪であると見なされなければならないのか。法廷が、決して人間を罰することはない、ということを理解せよ。
49. 人間を罰し、魂を永遠の道から遠ざけるのは、低俗な嘘、すなわち傲慢、悪徳、淫行である。これらすべては妨害するからである。
50.
真理を見出すまで学び、探しなさい。そうすれば、あなたは地上で、生命の創造の秘密を理解することはないが、善という概念によって、あなたの子らの存在を聖なるものとするだろう。（37, 18-23）

死者の遺骸

51.
人々は自分の流れ星に導かれている。彼が、その肉体を墓に下ろした人々の消えることのない記憶を、その遺骸を埋葬した場所に惹かれるのは理解できることである。
しかし、もし彼が物質生活の真の意味を深く理解すれば、その肉体は、原子一つ一つが解き放たれて、それが形成された自然界へと還り、生命はさらに展開していくことを悟るだろう。
52.
しかし、人間は霊性事柄を学ばなかった結果、いつの時代も、肉体崇拝という邪悪な儀式を作り出してきた。人間は物質生命を滅ぼそうとは、真に永遠の生命を持つものである魂を忘れてしまっている。彼が霊性生命を理解することから、いかにそれほど遠く離れていることか！
53.
今や、あなたがたは、「死」をもたらすが、「滅ぼす生命」をもたらすべき場所に供物を持ち込む必要がないことを理解するだろう。なぜなら、そこではまだ満開であり、そこには、生き物が生命のより豊かにできることのない、広大な世界があるからだ。
54.
これらの教えを理解すれば、人類は物質的なものにその価値を、神聖なものにその価値を与えることを理解するようになるだろう。そうすれば、先立った者たちの偶像崇拝は消えるだろう。
55. 人は精神の精神と、その創造を深く、愛すべきである。
56.
祭壇は廃止され、墓は無に帰すべきである。私はあなたがたのすべての過ちが、本当にあなたがたを目覚めさせなければならない。私が教えを理解するだろう。そして、人が物質的世界を高く思い過ぎることもなくなるだろう。（245, 16-21）

物質的な象徴 十字架、聖遺物

57.
最初の時代において、あなたがたは象徴を持っていた。それは、十戒の石板が収められていた契約の箱、幕屋、すなわち聖所である。それらの象徴がその役割を果たし終えると、私の意志はそれを地上から取り除き、世界が偶像崇拝に陥らないよう、人の目から隠した。しかし、それらの物質的な象徴が持つ意味と本質については、私は弟子たちの精神の中に書き残しておいた。
58.
キリストの磔刑が成し遂げられた後の第二の時代において、私はキリスト教の最高の象徴である十字架を、いばらの冠と聖杯、そして人類によって物質的崇拝の対象とならざるを得なかったものと共に、この世から消し去った。（138, 36）

59.
人類はイエスが苦しむのを見てきた。そして、その教えと証しをあなたがたは信じている。それなのに、なぜまだ偶像の神で彼を十字架につけ続けるのか。あなたがたが、自分の罪深さの責任として彼に負わせたものとしてきた何時間の疑問でまだ足りないというのか。
60. イエスの苦しみと死の責任を私だけに転嫁するのではなく――なぜ光と栄光に満ちた私の復活を念頭におかないのか？
61.
十字架のイエスの姿を描き、あなたの像を見て、私が恐ろしく、臆病で、恐れる人間であったと信じ込んでしまう者たちが時折いる。彼らは、私は霊であり、あなたがたが「犠牲」と呼ぶもの、私が「愛の義務」と呼ぶものを、全く別の観点として評価したことを考えたことはないのだ。
62.
私が父とひとつであったことを考えるとき、私は屈辱と絶望、力も、支配も存在しなかったことを思い起こす。しかし、私が人間として苦しみ、血を流し、死んだのは、あなたがたに謙遜という私の美徳の模範をすすめるためであったのだ。
63.
人々は、その教えの偉大さを理解しておらず、至る所に十字架から下ろされた者の像を建てた。それは、愛すべきと言われる御方の愛情と慈悲を持たず、絶えず彼を十字架から下ろし、日々傷つけ、主が命を捧げられた目的とは全く逆のことを行っているこの人類にとって、恥辱である。(21, 192 15-19)
64.
もしあなたがたが、キリスト教の信仰を象徴する最後の十字架をこの地から消し去り、それを「互いへの真の愛をもってその象徴を置き換えるならば、私はあなたがたを賛美することはないだろう。なぜなら、そうすればあなたがたの信仰が、神の禁止は精神による禁止と信仰と変えるからであり、それは私があなたがたに期待していることと対立するからだ。
65.
もし、あなたがたの礼拝の象徴が、せめて単純なものだ、あなたがたを悪魔にさらさず、平和を保つだけの力を持っていたなら。しかし、あなたがたが、自分たちの言葉によれば聖なるものであるとされているあらゆるものをいかに軽んじているかを見てみよ。あなたがたが神聖であると考えていたものをいかに踏みにじっているかを見てみよ。
66.
もう一度言おう。もしあなたがたが、地球のどこにも教会、祭壇、象徴、像を持たず、代わりに霊をもって祈り、父を愛し、代理者を必要とせずに父と言うことができ、そして私の教えの中で示したように互いに愛し合うことができたなら、それはあなたがたにとってより良いことだろう。そうすれば、
、あなたがたは数えられ、私の血の跡によって示された道を歩むことになるだろう――その跡こそ、私の教えの真実を確認するために残したものである。(180, 69-70)

聖人崇拝

67.
私がこの教えを与えるのは、あなたがたが多くの義人の魂を聖人と宣言し、あたかも神であるかのように彼らに祈り、崇拝しているからである。なんと無益なことか、人類よ！どうして人間は、その人間が行ったことだけを基にして、ある魂の聖性と完全性を判断できるというのか？
68.
あなたがたは、兄弟たちがその行い、その生涯、その徳によって示した良き模範を、手本とすべきであると、私は真っ先に告げている。また、あなたがたが彼らを想うとき、彼らの霊的な助けと影響を期待してもよいと、私は告げている。
しかし、なぜあなたがたは、それらの魂に謙遜さを傷つけることができない祭壇を、彼らのために築くのか？なぜ、あたかも彼らが神であるかのように、彼らの記憶を崇拝の対象とし、自分の兄弟たちの記憶を忘れてしまうほどに、父から離れるのか？あなたがたがここで彼らに与えた名声は、彼らにとってどれほど痛ましいものであったことか！

69.
人々は、彼らが聖人と呼ぶ者たちに対する私の義について、何を知っているというのか。彼らは、それらの存在たちの霊的な出自について、あるいは、主のもとで各々が勝ち得た地位について、何を知っているというのか。
70.
これらの啓示によって、私が人間の中で私の業たちが成し遂げた功績を消し去ろうとしていると、誰も思ってはならない。それどころか、私は、彼らが私のもとで見出した恵みがいかに大きいか、そして私が彼らの祈りを通してあなた方に多くのものを与えていることを、あなた方には知ってほしいのだ。しかし、宗教的な信心業や、そして迷信深いあなたらの無知を除くことが必要である。
71.
もしあなたがが、それらの存在たちの霊があなたがの出自の世界を知っていると感じたら、霊界の一部である彼らを讃えなさい。そうすればあなたがと彼らが主の道において一つとなり、霊的な救済の業を成し遂げることができるだろう――それは、私がすべての教えの結果として期待している業である。（15, 52-56）

教会の祝祭日

72.
今日、人々が大きな歓声をあげて教会と駆け寄り、天が開いてその扉が祝福の日に、私はあなたがたに告げる。これらすべては、人々の心を感動させるための単なる誘惑に過ぎない。それは、今日、私の聖なる業を具現化する義ではない。
73.
祭壇や像物を設けることによって、この世に従ってはならない。聖なる出来事を表現したり、目立つための特別な衣を身にまとうな。これらすべては偶像崇拝にほかならない。
74.
心から私を呼び求め、わたしの教えを心に留め、わたしの模範に従いなさい。あなたがの改心の証をわたしに捧げなさい。そうすれば、天の門があなたたちを受け入れるために開かれるのを感じるだろう。
75.
私が私の義について述べる、誤った解釈は避けなさい。なぜなら、誰も私を理解することはできなかった。私の模範と教えに従って生きなさい。そうする者は、地上でその証を見たことになる。（31, 11-13, 16）
76. 人類よ、あなたがが一人の誕生を記念する数日間、心に平安を受け入れ、一つに結ばれた幸せな家族のように振舞いなさい。
77.
あの時代に私がこの世に生を受けたことを記念する祭、すべての心からの喜びを感じているわけではないことを、私は知っている。内省と静寂の時間を持ち、その喜びを内なるものとし、記念の祭が精神の中で行われるようにする者はごくわずかである。
78.
今日においても、かつてと同様に、人々は記念日を悪徳で盛大な祭へと変えてしまい、精神の喜びとはかけ離れた感覚的な娯楽を追い求めている。
79.
もし人々がこの日を神の愛について思索にふけることで霊的な救いに用いたなら――私があなた方と共に生きるために人間となったという事実こそが、その揺ぎない証である――まことに、私はあなた方に告げる、あなたの悩みは、あなたの存在の深みの喜びに変わり、私と絶えず道照らす星となるであろう。
あなたの魂は愛で満ち溢れ、人生の道において困窮している人々に善と慰めと温かい思いやりを惜しみなく注ぐようになるでしょう。あなたは兄弟姉妹の必要を感じ、自分を傷つけた人々をもかばうようになるでしょう。親なく、住む家なく、愛なく、社会から疎まれた子供たちを見る時、あなたは愛で満たされるでしょう。
戦争によって人間性のあらゆる善きもの、高貴なもの、聖なるものが破壊された平和な民のことを思うだろう。そうすれば、あなた

の祈りは純粋なままの心とともに届き、ご答えがあるでしょう。主よ、これほど多くの不幸や恐ろしい苦しみがあふれているのに、私たちに平和をもたらす奇跡などあるのでしょうか？」

80.

それに対する私の答えはこうだ。あなたがお腹の痛みを感じ、祈り、憐れみを待ったのだから、家の中に集まり、食事を囲み、その祝福されたひとときを喜びなさい。なぜなら、私はそこに降臨するからだ。

その瞬間、苦しんでいる人々がたくさんいることを知りながらも、喜んでいて申し訳ない。まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたの喜びが偽善のものであれば、そこから平和と希望の息吹が生み出され、それは苦しむ人々を、愛のうねりのように包み込むだろう。

81.

誰も、あなたがたが年の中でイエスの誕生を祝って祝う、最も清らかな瞬間を私があなたがたの心から消し去ろうとしているなどと思ってはならない。

私はただ、世は世らしいものを、魂には魂らしいものを与えるよう、あなたがたに教えただけである。なぜなら、もしあなたがたがこれほど多くの瞬間を、人間の出来事だけに執行するのなら――なぜこの瞬間を聖別しないのか。そうすれば、魂は祈りとなって私のもとへやって来て、愛の贈り物を、兄弟たちの暮らしを豊かにする贈り物を受け取れ、真の知恵の光の前で、その道を照らし、その瞬間を、あなたがたの霊的な成長のために役立てるように？

82. 私は、この数日間、人々の批評を読んでも喜び過ぎないようにしよう。

それは単なる試みというだけではない――それは、私の教えがあなたがたに触れ、私のものがあなたがたを照らし、私の愛があなたがたをマントのように包み込んでいるからである。そして、あなたがたは誰よりも喜び、優しさに満ちた心を感じ、何かを贈り、体験し、愛したいという欲求に満たされるのだ。

ただ、あなたがたは、そうした感情や霊感の真の偉大さと純粋さを常に表現しているわけではない。なぜなら、あなたがたは、その喜びを世の快楽に浪費し、救い主がこの世に来られたその魂のために、その瞬間を生きたり、その光の中に入り、清められ、救われることを望んでいないからだ。

なぜなら、人となったその神聖な愛は、すべての人の人生の道に永遠に存在し、人がその愛の中に命を見出せるようにしているからである。（1999, 43-48）

誤った行動にもかかわらず、神は常に共におられる

83.

人間は物質に縛られているため、感覚器官を通してわたしを知ることを望み、また、その霊の目が開かれていないため、わたしを見るために、わたしの像を作り出さなければならない。

魂が感覚豊かにしていないため、人は常に物質的な奇跡や証拠を求め、それによってのみ私の存在を信じようとする。そして、私は主え、私に従い、私を愛し、私から与えるものに対して何かを返すという条件を私につきつけるのである。

こうして、私は地球上の人々が作り出したすべての教会、すべての宗教団体、すべての宗派を見ている。それは、物質主義、狂信、偶像崇拝、秘密主義、異端、そして冒涜に満ちている。

84.

私がそこから受け入れるものは何か。ただその意図だけである。これがすべての中から、何が私に届くのか。それは、私の子供たちの魂肉体の必要、彼らの苦しみが愛、光の渇望である。これこそが私に届くものであり、私はすべての者を救いたいと願う。私は教会、宗派、儀式などには目を向けない。私はすべての子供たちのために、等しく訴える。

私は祈りの中で彼らの魂を受け入れる。私は彼らを胸に引き寄せ、抱きしめる。そうして私の温もりを感じさせ、その温もりが試練となる試練の道において励ましと刺激となるように。しかし、私が人類の善意を受け入れるからといって、彼らが偶像崇拝や狂信に囚われ、永遠には罪の中に留まることを望んでいるわけではない。

85.

私は、人間の目を覚まし、魂が私に向かって叫び、その真の姿の中での真実を見出し、共に儀式の偽りの輝きを拒絶することを望む。

私は、彼が真の弟子に達したとき、自己否認、人間の教義から解放され、感覚の情着、情欲、悪意を脱ぎ、真の自分を見出すことを望む。そうして、決してわたしに対して「自分は他の弟子と違う」などと言わないように、父が彼を唯一無二の像に似姿として創造されたことを彼が悟るためである。（360, 14-16）

86.

地上には多くの宗教団体があり、その大部分はキリストへの信仰に基づいている。それにもかかわらず、彼らは互いに愛し合っておらず、また互いを神の弟子として認め合ってもいない。

87.

もし彼らが皆、私の教えを学んでいたなら、各宗教を調和と平和へと導くことで、その教えを実践していたはずではないかと、あなたは思わないか。しかし、そうではなかった。彼らは皆、互いに躓き石であり、それによって人々を精神的に分断し、対立させ、その結果、人は互いを敵や異端者と見るようになった。

誰が、自分が真理の所有者であり、他者は誤っていることを証明するために、手段を講じ探している。しかし、すべての者の救いのために戦うという志を持つ者は誰もおらず、また、あらゆる国の信じる神の崇拝の中に、ある種の真理が含まれていることを見ようとする意志を持つ者もいない。（326、19-20）

第5章――偽りのキリスト者、教会の誤った教えと征服

名ばかりのキリスト教徒

1.

人類の大部分は自らをキリスト教徒と呼んでいる。しかし、師はこう言われる。「もし彼らが真のキリスト教徒であるならば、その愛、謙遜さと平和をもって、すでに他の人々を打ち勝っているはずである。」

しかし、私が第一の時代にすでに遺言として残した教えは、人類の心にはなく、人の行いの中で生き、花開くことはない。それは紙やぶどう木の中に保管されているが、私自身について人が語るために来たのではない。

2.

書物の代わりに、私は自分の生涯、言葉、行い、そして人間としての苦しみと死を、あなたがたに与えた。キリスト教徒を名乗る人類の大部分が、キリストの平和と恵みを持たない理由は、人がキリストを学ばず、その教えに従って生きていないからである。(316, 5)

3.

弟子たちよ、私に従いなさい。そうすれば、あなたがたの心から、憎悪と復讐を根絶することができる。キリスト教界は、互いに愛し合わず、誤った判断によって隣人を裁き、軽蔑し、憎む事の為に分裂してしまった。私はあなたがたに言う。彼らは愛のないキリスト教徒であり、それゆえ彼らはキリスト教徒ではない。なぜなら、キリストは愛そのものだからである。

4.

ある者たちは、ユダヤを、人間の過ちをすべて備えた老人として、復讐に満ち、残酷で、地上の最悪の裁判官よりも恐ろしい存在として描いている。

5.

私がこれを言うのは、あなたがたに誰かを糾弾させるためではなく、神を愛するあなたがたの認識を深めるためである。あなたがたは今、過去のどのような形式を崇拝していたのかを悟れ。（12, 33-35）

6.

キリスト教徒を名乗る国が、戦争によって互いに滅ぼし合い、さらには出発の前に祈り、敵対する勝利を与えてくれるよう懇願するなど、どうしてあり得ようか。愛の代わりに憎しみが、赦しの代わりに復讐が支配する場に、私の霊が存在し得ようか。（67, 28）

7.
様な高い宗教を持つすべての人に、私はこう言う。彼は物質性意識のあるべき場所に追いやることを理解せず、その結果、霊的なものを本来あるべき場所に置くことができなかったのだ。もし人が私の律法を尊重していたなら、彼はすでにこの地上に約束の地獄を目にし、その住民たちの声を耳にしていたであろう。
8.
あなたがたは、私の存在を信じ、私の神性を信じていると宣言する。また、私の御心がなされますようにとも言う。しかし、まことに、私はあなたがたに言う。あなたがたの信仰はなんと弱く、私の定めたことへの服従はなんと弱いことか！
しかし、私はあなたがたの内なる目を開いた道において、あなたがたが強められるよう、私はあなたがたの神聖な使命を呼び覚ます。(70, 12-13)
9.
今日、私はあなたがたに、命を捧げるよう、血を流すことを求めてはいない。私があなたがたに求めるのは、愛、誠実さ、真実さ、無私無欲である。
10.
こうして私はあなたがたに教え、そのことを通してあなたがたを導き、この第三の時代において私の神性の弟子たちを育てている。なぜなら、私はあなたがたの地球を無関心に見ているのを見るからである。それは、あなたがたが、これほど多くの悲嘆と苦痛のある人々の心身を置くことをよしとしないからである。
11.
大きな不等が蔓延している。なぜなら、王と名乗るには値しそうにない支配者たちを見、また、真の奴隷である被支配者たちを見るからだ。そこから争いが勃発している。この世で富を得た支配者たちの間には、自らをキリスト教徒と呼ぶ者が多いが、私はあなたがたに言う。彼らは私の名をほとんど知らないのだ。
12. 隣人を欺いて見ず、富を蓄え、他人の所有物を奪い取る者たちは、憐れみ深くないゆえに、キリスト教徒ではない。
13.
霊的なものと物質的なものとの戦いが終結し、人類は争いに巻き込まれるだろう。しかし、正義が勝利を収めるまで、人類はそれほどの苦しみを耐え忍ばなければならないことか！（122, 43-45）

不信仰者と信仰の狂者

14.
私はあなたに言う。真実を信じている誤った確信は、疑いや否定に満ちているよりは、不信仰や否定に満ちているほうがあなたにとって良いのだ。疑いや無知から出る疑い、否定は、偽りに対して断固反対することよりも、あなたたちの喜ばない理由を与える疑いは、いかなる種類の確信よりも光り輝いている。光を真に求める誠実な不信仰は、狂信的な、排他的な信仰よりも光り輝いている。
15.
今日、至る所に、不信者、失望した者、そして離れた者たちが多くいる。彼らは反逆者であり、儀礼的な振舞いを単なる形式としか感じない他の人々よりも、しばしば救済をより明瞭に見ている。
人を精神に導く者たちから聞いた偽りの言葉は、彼を納得させることはない。なぜなら、それらの複雑な理論はすべて、恐怖に満ちた清らかなものを渇望する彼の心を満たすものではないからだ。
16.
あなたがたが反逆者と見る者たちは、その問いかけにおいて、自分たちは謙虚であると自負してそれに答える者たちよりも、しばしばより多くの神の光を示している。彼らは、神の教えの違いであると自称する多くの人々よりも、はるかに鋭く、見窄らしく、聞き取り理解しているのだ。（148, 12）
17. 真理はなんと明快で、なんと素晴らしいことか！霊性はなんと明瞭で、なんと単純なことか！
それにもかかわらず――狂信という闇の神々に留まり続ける者にとって、それを理解することはなんと困難なことか。その者の理

性は、自分が理解しているもの以上の何かが存在することを理解できない。その者には、自分にとっての神あり法あるもの――すなわち福祉と義しい――を含有することは確かである。

18. あなたがたは、私が、私の真理をどうしても認めようとしない者たちを憎んでいると思うのか？
いいえ、わが子よ、私の慈悲は限りなく大きい。そして、まさにそのような者たちこそ、私は助けの手を差し伸べ、彼の滅びから救い出し、光の国の喜びを見出せるよう導こうとする相手なのだ。彼には、信仰の目覚めのために必要な試練を与えている。それは彼のカを超える試練ではなく、あらゆる魂、あらゆる人生、あらゆる人間に賢明に適合させた教えだろう。

19. そこから、あの暗く閉ざされた頭の下から、宗教的狂信無知によって病んだ心の下から、あなたがたは、偉大で輝かしい真理の騎士たちが現れるのを見るだろう。
なぜなら、彼がその鎖から解放され、光を見たその日、彼は躊躇せず、私の世界を救うために戻ってきた、すなわち、霊化の階段を登って真の祖国へとたどり着くために戻ってきたことを声を限りに叫ぶことになるからだ。（18, 48-50）

イエスの教えの到来とその結果

20. わたしは、第一の時代にあなたがたに語ったのと同じ霊的な内容をもって、わたしの言葉をあなたがたに与える。そして、あなたがたが忘れてしまった、あるいは宗教上の誤った解釈のために背を向けてしまった、わたしの教えの多くを思い出させる。

21. あなたがたはわが教えにこれほどまでに背いたため、私はこう言わざるを得ない。あなたがたは私の道とは全く異なる道を築き上げながら、それに同じ名前を付けたのだ。私はわが唯一の愛と真理の言葉をもって、あなたがたをその誤った解釈から救うことはできなかった。

22. それゆえ、今、あなたがたが私に耳を傾けているこの時に、私の言葉を深く探求し、理解なさい。そうすればあなたがたの神に対する信仰が強まるだろう。今こそ、私はあなたがたに、魂の輪廻転生の事実であり、それが人類の始まりから来、神の目的は愛の光として存在していることをはっきりと告げる時である。それなしには、魂の完成という長い道のりを進むことはできないのだ。(66, 63-65)

23. 教会が以前に魂について明らかにしてきたことは、真実ではある。しかし今、教会は新たな啓示を受けようとしている。そして、懸念や恐れを乗り越え、これまで隠してきた真実を人類に明らかにする者たちは、祝福されるであろう。私は、私の赦しと慈しみの光をもって、彼らを照らすであろう。

24. そうして人類が、教会は単に地上の人々が道徳的に生きるための存在であるだけでなく、魂をその永遠の故郷へと導く使命を負っていることを認識したとき、人類は神の定めた道において一歩前進することになるだろう。（109, 15-16）

25. 私がイエスとして人々の間にいた後、私は父に戻り、あるいは旅立って来ない者たちを遣わし、彼らの行いによって私の教えを確立させ、人類が私の教えを受け入れることを助けた。
しかし、私の言葉を不完全にしか解釈しなかった多くの耳の聞こえない者や目の見えない者は、意見が分かれ、それによって様々な宗派を生み出した。しかし、人々が精神的に分断されているならば、どうして私の律法の最高位に従って互いに愛し合うことができるだろうか。

26. それゆえ、私はあなたがたに告げる。この分裂は、人々自身がそれを望んでいるため、単なる過渡的なものだ。人類が、私の愛の律法という私の世界を築き上げるまでは、平和と霊の光がもたらされることはない。その時こそ、彼らは真の向上する世界を創造し、形成するだろう――霊的面においても、科学においても、道徳においても。(192, 17)

27. 最終完全啓示という理解のみが、あなたを真理の道へと立ち返らせるであろう。

28.
神の律法の解釈者であると自認する者たちは、あなたがの霊と肉とのために悩み苦しみが待ち構えており、悔い改めを説く。肉体を懲らしめ傷つけ、神に物質的な供物を捧げるよう勧め、神はあなたがたを祝し、御国へと導いてくださる、と説く。まことに、わたしはあなたがたに告げる。彼らは誤っている。
29.
人よ、あなたがたは聖なる父の偉大な計画について学び、私が迷い人であると見なす者たちに導かれて、いったいどこへたどり着くというのか。それゆえ、私はあなたがたを私の愛の道へと前進させるこの教えの光をもって、あなたがたを救うために来たのだ。（24, 46-47）
30.
人々は私の教えの真の意味を理解せず、そのかわりに、あなたがたに命をもたらすどころか死をもたらすに違いない、ドグマをあなたがたに見せようとしている。
31.
今日、あなたがたは、教えを受けてくださった師から背を向けた結果に直面している。あなたがたは苦痛に打ちひしがれ、自らの貧しさに押しつぶされ、無に苦しんでいる。しかし、人間の中に眠っていた創造主の目覚め、新しい時代の到来を告げる使者のように宣言する者が来た。
32.
人の教会、科学、そして司法は、彼らにとって貴重で有意義であるものの証明を試みるだろう。しかし、精神の目覚めと進歩を止めることのできるなど存在しない。解放の日は近い。（14, 5-8）
33.
地上において、私を知っていると主張する者たちは、私を不名誉な形で表してきた。それゆえ、多くの人々が私に背を向けてしまったのである。
34.
無神論者と自称する者たちについては、彼らが私から追い出したからといって、私は彼らを問いただすことはない。むしろ、真実を証明し、多くの人々が受け入れられないような光を人々に示した者たちを問いただすのである。
35. 正義であり、健全であり、善であるものすべては、私がいつの時にも説いてきた真理を含んでいる。
36.
あなたがたが再び真理を愛すべき時、すなわち、正義と善を再び認識する時が来た。あなたがたは私から生まれたのだから、高きもの、永遠なるもの、清かなものをめざして至らなければならない。（25, 22-25）
37.
そう、イエスは、人の心は物質的なものを禁じようと求めてきた。耳の地は、言葉を癒してきた。それゆえ、人は私が第二の時代にキリスト教の教えとしてせっかくもたらしたものを、「宗教」へと変質させ、それを変えてしまったのである。
38.
人間の心には常に利己、強欲、虚栄が目覚め、それは自らを王と称し、民を自分たちのしもべとし、民を奴隷とし、罪と縛り付け、暗闇と無感覚の状態へと導いてきた。（63, 36）
39. この時の神学者たちは、わたしの言葉と新しい書物を否定し、こう問うだろう。「このように語るお前はいったい何者なのか？」かつての律法学者やパリサイ人たちが反発し、私に「お前は誰だ。なぜモーセの律法を無視し、置き換えるのか」と言ったのと同じように、その時、私は彼らに、三の時代こそが、私が常に教え、従ってきた唯一の律法であることを理解させるだろう。
40.
この時代に私を非難する者の多くは、「第二の時代」に疑いを抱いた者たちである。しかし、私は彼らを再び地上に遣わした。それは、彼らが私の律法の勝利の目撃者となり、その目を光に向けて開けるためである。（234, 46-47）

キリスト教における誤った発展と弊害

41. 人類の大部分は、言葉「キリスト」の意味、その教えを全く知らずに、自らを「キリスト教徒」と呼んでいる。
42. かつて私が与えた私の言葉、私の模範、私の教えを、あなたたちはどうしたのか。

43.
あなたは、果たしてあの時の者たちより先進した人間なのか。なぜ、あなたの精神行為によってそれを証明しないのか。もしかして、この人生が永遠であると思っているのか、あるいは、人間の科学によってのみ進歩すべきと考えているのか。
44.
私は、あなたがたの生を、真の神殿のような大きな祭壇と変えるため、また、人間の生が父の純潔な愛の捧げ物となり、隣人一人ひとりの中に父を愛し、それによって創造主であり師である父に近づけるようなために、律法の真の成就者なのである。
45.
しかし今日、私が人々のところに戻ってきたとき、そこにはいったい何があるだろうか。嘘と不正が、真理と隣人愛に取ってかわっている。高慢と虚栄が、柔和と謙遜に取ってかわっている。偶像礼拝と狂信、そして無神が、光、高揚、そして霊性に取ってかわっている。
義務と責任とが存在すべき場所に、利己主義がはびこっている。兄弛緩の憎しみと解放された争いが、兄弟愛、平和、そして愛に取ってかわってしまった。
46.
しかし、わたしは第二の時代にエルサレムの神殿を行ったように、わたしの神殿に来て、そこから商人たちを追い出し、彼らに再びこう告げるであろう。『私の家を商売の場としてはならない。』
わたしはいかなる教会、誰かが真の祭壇の前に仕えるようにと、もはや誤りに囚われることなく、また、わたしの律法に対する誤った解釈のために無知から迷い出ることのないようにする。（154, 15-20）
47.
わたしと使徒たちの模範は、わたしに従おうとしたすべての人によって手本とされてはいない。多くの者は、しもべであるべきところを主人のように振舞い、栄誉と優越感と高慢に満ち、富と華やかさと名誉とを追い求めた。
その過程で彼らは貧しい人々の苦悩を忘れ、他者の悲惨や苦しみに対して無関心で無感覚になってしまった。それゆえ、人々は真理を求めてある宗派から別の宗派へと移り歩き、私を自由に探すために新たな宗派を創設したという精神状態なのである。
48. かつて聖なる神に見放されていた者たちは、今日、失望した類によって操られている。
49.
人々はおおよそ、自分の過ちを赦してもらうために告解室に入ろうとはしない。彼らはそれを恥ずべきことと感じるからだ。そして、永遠の地獄の炎という考えはもはや罪の抑止力とはならず、恐れさせることもない。
50. この霊的な方向感覚の喪失を利用し、狼が世の中に潜んでいる。
51.
わが神性のすべての僕と使者は、人の間に平和をもたらすという責任を負っているが、それは彼らがこの時代にしていることの正反対である。誰が自分こそ第一だと考え、誰が最高でありたいと願うが、唯一の強者、すなわち『私』がすべての人の中にいることを忘れてしまっている。
52.
今や、あなたがたは、なぜ私が第二の時代に再び来ると約束したのかを理解できるだろう。今や、なぜ私が再びあなたがたに教えを説くのかが、あなたがたには理解できるはずだ。なぜなら、私の言葉だけが霊的闇を取り除くことができ、私の愛だけがあなたがたを贖い救い出すことができるからである。（230, 23-28）
53.
わたしの律法に対して犯された重大な罪と過ちに対して、わたしの裁きがくだるであろう。完全な神によって正されない過ちは一つとしてない。惑わされてはならない。自分の過ちを正し、裁いてはならない。わたしが決してあなたがたを罰することはない――あなたがた自身が自分自身を罰しているのだと理解せよ。
54.
私は、無知から罪を犯した者に光を照らし、故意に罪を犯した者を悔い改めへと導く。そうして両者が、私の赦しを全く確信して、犯した過ちを償うようにするのだ。これこそが、私のもとへ至る唯一の道である。

55.
様な宗教の違いを人々に導く聖職者たちよ、これらすべてを心に留めよ。祈り、そして信じる者たちを霊性へと導け。今こそ、あなたがたは自らの迷いを悔い改め、魂にとって死に値する人間的物質主義の戦いをやめる時である。そのために、あなたがたは私の真理を用い、私の言葉を器として取り、私の教えの中で生きなければならない。

56.
私は、どの宗派に対しても特別な意識をもってはいない。私があなたの側に立つのではなく、あなたが私の側に立たなければならない。なぜなら、そうすることであなたがたは、霊において結ばれることになるからである。（162, 27-30）

57.
霊性に満ちた私の教えは、この民の心に芽生え、将来、真理と命の実を結ぶであろう。私の言葉は地に広まり、清めと啓発、救いの場をつくりだすであろう。

58.
そうして、諸国民は真の、永遠の霊性にと目覚めよ。それぞれの様な国家における表面的で物質主義的な部分を排し、ただ私の律法の本質に向き合うことに専念するようになる。

59. 人類は、霊性を与えるような、何物にもまして自らの足をしっかりと踏ん張ってきあがるものから目を背けるようになる。

60.
人々が善意を持ず、互いに愛し合っていなければ、キリスト教の教会、すなわち宇宙的地上的同胞団体たるところで、何の益があるだろうか。

61.
外見的なものは、人々に対して何の力も持たず、敬意も、善意も、傷つけることへの後悔も存在しない。それゆえ、私はあなたがたに告げる。象徴や形式は消え去るであろう。その時こそ終わりであり、内なる核こそが、人を光と運び、高め、私のもとへと導くものとなるのだ。（280, 63-67）

IV. 律法――神の愛と隣人への愛

第6章 神の律法

神の法の力

1.
私の教えを時代遅れと考える人は多いが、その理由は、彼の物質主義的な考えが、私の教えの永遠の真実を見せることを妨げているからである。

2.
私の法は愛である。文化と文明、そして法律を持つ人間その他の存在であり、それらすべての中で生き続けるのは、精神愛と慈悲の業によって築き上げたものだけである。

日の労苦と試練の後に、神の恵みの泉に向かうとき、霊こそが、私の法を説きよ、と霊教を記した常に開かれた書物を見せるのである。（104, 31-32）

3.
わたしはすべての人間をわたしの光で照らし、それによって唯一存在する真理が彼らに示された。しかし、あなたがた見の通り、一人ひとりの人間の感覚が、それぞれ異なる方法で感じ、考え、信じ、解釈している。
4. 人のこうした多様な考えが生まれたのはなぜか。あなたがたは様々な種類の異なる道具、異なる理想を掲げているからである。
5.
大多数の人々は、神の律法の成就が理性的な犠牲を払うことを意味すると考え、光に満ちた真の道から遠ざかり、自分たちにとって律法の遵守をより容易に実践できる宗教体系を自ら設けることを選んだ。
このようにして、人々は自分の魂の中で感じる光と言葉の違いを、鎮めることができると信じている。
6.
何世代もの時が過ぎ、幾多の時代が移り変わっても、人々は、私の律法を履行することが人間の義務ではないこと、それどころか、私の求めを無視するときこそ、彼らはまさに世界の救いに貢献していることに気づかなかった。
彼らは、私の言葉に従って生きる者が、物質主義に染まった人々が全く異なる形で想像しているような、真の幸福、平和、知恵、そして神を見出すことになるということを、理解しようともせず、理解しようともしなかった。
7.
あなたがた現代の科学的な世界は、物質主義的な理念を持つ人々、すなわち人間の物質的な向上のみを目指してきた人々による業である。
そして私は、彼らがその業を行い、それを成果まで導き、その結果を刈り、その実を収穫することを許した。それは、彼らがそこから経験の光を引き出せるようにするためである。
その光の中で、私の正義が明らかにされ、その正義の中に、愛である私の律法が存在するであろう。（13, 60-64）
8.
もし私が、あなたがたが私の教えを、私の意志ではなく、あなたがた自身の意志に従って人生に適用することを許したならば――まことに、私はあなたがたに言う、あなたがたは決して霊的な束縛から抜け出ることはなく、また、あなたがたの魂がその発展、開花、そして完成を遂げることも決してないであろう。
9.
そこには、宗教の中で熱心な人々が見える。彼らは、神の律法が、いることなどないのではなく、神を誤った教えで律法を覆い尽くすことによって、律法を自分の意志に従わせようとしたため、もはやそこから引き出そうとはしない。
10.
この時代、多くの人々があらゆる宗教から自ら遠ざかり、霊によってわたしを求め、自分の存在の最奥部で感じているあらゆる質問、疑問、能力を開花させることができるようになることは必要であった。（105, 6-8）

霊の業における神愛の法

11.
あなたがたに語りかけているのは、あなたがたの神である。わたしの声こそが律法である。今日、あなたがたはそれを新たに聞いている。それを石に刻む必要も、あなたがたの間で受肉したわたしの御言葉を送る必要もない。
あなたがたの霊に語りかけ、そこに一つの時代の始まりを告げるのは、私の神聖な声である。その時において、人類は、その創造主と和解し、聖書に記されている通り、自らを清めることになる。（15, 8）
12.
私はイエスを通して、あなたがたに完全な教えを与えた。誕生から死に至るまでの人間としての私の生涯を考えれば、愛に生きよと、そして完全であなたがたに開かれるであろう。
13.
私は、あなたがたにイエスのようになることを求めているわけではない。なぜなら、イエスの中には、あなたがたには到達し得ないもの、すなわ

ち人間として完全であることがあなたからである。イエスの神はあなた方は限定された形をとった神自身であなたがだ。しかし、それでもなお私はあなたがたに、イエスに従うべきと言う。

14.
私の永遠の律法は常にこの愛について語ってきた。私は太古の昔あなたがたに言った。「心を尽くし、魂を尽くして神を愛せよ」と、「あなたの隣をあなた自身のように愛せよ」と。

15.
その後、私はあなたがたに次のような約束を立てる言葉を授けた。「私があなたがたを愛したように、兄弟姉妹を愛しなさい」、「互いに愛し合いなさい」。

16.
この時代、私はあなたがたに、すべての被造物よりも神を愛すべきこと、存在するすべてのものの中で神を愛し、存在するすべてのものを神の中に愛すべきこと、そして、あなたがたがすべての善を見るために、隣人に対して憐れみ、さらに憐れみを実践すべきであることを教示した。なぜなら、憐れみは愛からである。(167, 15-19)

17.
私はこの霊教が世界教になるとは、決して言わない。なぜなら、私は宗教を伝えたことは一度もなく、ただ律法を伝えただけからである。
私が言っておきたいものは、地上において勝利を収め、人の存在を照らすために永続的な力を持続するその律法は、私教会の中で説明し、あなたがたが完全に理解できるようにした愛の律法である、ということだけである。

18.
人類は愛することを学び、真の愛の行為を実践するようになるまで、まだ多くの偽りの愛の実践の行為を行うことになるだろう。また、多くの人々はその精神が高く、高貴となり、ついに唯一の法、すなわち普遍かつ永遠の霊教とは、すべての人が実践する愛の教えであることを理解するに至るまで、まだ多くの宗教をつくることを余儀なくされるだろう。

19.
すべての宗教は消え去り、残るのは人の内なる聖なる神の神殿の光のみとなる。その神殿において、あなたがたは皆、従順、愛、信仰、そして善という唯一の礼拝を捧げるようになるのである。(12, 63-65)

神の律法の拝とその結果

20.
この講話の朝、わたしはあなたがたに問う、わたしがモーセを通して人類に送った律法をあなたがたはどのように扱ってきたのか。これらの戒めは果たして当時の人々のためだけに与えられたものだったのか。

21.
真実を言おう。あの祝された種は、人の心にはない。なぜなら、彼らはわたしを愛さず、互いに愛し合ってもいなかった。彼らは聖日を厳守せず、他の偶像を崇拝している。それどころか、互いに命を奪い合い、結婚を破り、自ら堕落させている。

22.
すべての人の口から偽りが語られているのを聞かないのか。ある民が別の民から利益を奪っていることに気づいていないのか。それにもかかわらず、人類は律法を知っていると言う。もし人々が私の戒めを全く忘れてしまったら、人類はどうなってしまうだろうか。(15, 1-3)

23.
第二の時代、イエスがエルサレムに入られたとき、祈りと神の礼拝のために捧げられた場所である神殿が商業化しているのを見出し、師は熱意に満ちて、そのような冒瀆を行う者たちを追い出し、彼らにこう言われた。「わたしの父の家は市場ではない。」
これらの人々は神の律法を履行するよう人々の心を導くことを託されていた者たちよりも罪深くなかった。祭司たちは神殿を、名声と虚飾が支配する場所へと変えてしまっていたが、その頃は打ち砕かれた。

24.
今日、私は、私の律法を冒涜した者たちを罰するために干渉することはしなかった。しかし、私は、人々が自らの過ちの結果に触れ、その意味を悟り、私の律法が不変であることを理解できるよう、それを与えた。
私は人々に道、すなわち真っ直ぐな道を示した。もし彼らがそこから逸れるならば、彼らは冒涜の厳しさ自身をさらすことになる。なぜなら、その中にこそ私の愛が表れているからである。（41, 55-56）
25. わたしはわたしの神殿を再び建て直す――壁も塔もない神殿である。なぜなら、それは人々の心の中にあるからだ。
26. バベルの塔をお建てになった方が、その上告は人々の心の中で破壊されるであろう。
27. 偶像崇拝と宗教的狂信がまたその高い塔を築き上げるが、それらは脆く、やがて崩れ落ちる運命にある。
28.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの律法――神の律法も人間の律法も――は聖なるものであり、それらが自由を約束するであろう。
29.
人類は自分たちを解放者だと考えているが、まことに、あなたがたに告げる。彼らはみな、黄金の子牛を崇拝しているのだ！（122, 57）
30.
混沌が再び訪れたのは、美徳が存在しないからであり、美徳のないところに真理はあり得ない。その理由は、父がモーセに授けた律法のみがなしからでも、イエスの教えが過去の時代のみの適用されるからでもない。両者とも、その精神的内容において永遠の律法である。
しかし、それらは泉のようなものであり、その水を飲むことを誰も禁じられてはいない。むしろ、この愛の泉に近づく者は皆、自らの意志でそうしているのだと悟るべきである。（144, 56）
31.
わたしの教えを正しく解釈なさい。わたしの霊があなたがの他の善みを見て喜び得るとか、あるいは、あなたがを喜ばせるものをすべて奪い取り、それを楽しんでいるとか、そう考えてはならない。
私が来たのは、あなたがたが私の律法を学び、尊重するためである。なぜなら、それはあなたがの義務と責任に関するものであり、あなたがたがそれに従うならば、平安をもたらしてくれるからである。
32.
わたしは神のものは神に、そして皇帝のものは皇帝に捧げるよう、あなたがたに教えた。しかし、今日の人々にとっては皇帝しか存在せず、彼らに対して捧げるものが何もない。もしあなたがたが、この世に愛するものだけを持っていたなら、あなたがたの善みはなかったろう。
しかし、あなたがたが自分の行為を愛している皇帝は、理不尽な法律を押し付け、あなたがたを隷属し、見返りなく命を奪っている。
33.
私の律法がいかに異なるか、よく考えてみよ。それは肉体を束縛しない。ただ愛をもって説得し、慈愛に満ちてあなたがたを導くだけである。すべてを私に与え、やがて時が経つにつれて、すべてを従い、報酬するのだ。（155, 14-16）

至高の律法の成就

34. もし主があなたに、「心を尽くし、魂を尽くして神を愛し、隣を自分のように愛なさい」と言われたなら、
また、師が愛の教えを説いたならば、同じ源から発するこの霊的真理は、愛の律法に固くすがりつくべきだと告げている。なぜなら、それはこの地上のいかなる権威も持ち得ない力であり、その祝福は偉大で永続するものとなるからだ。愛と善の上に築かれたものはすべて、永遠の命を持つからである。(293, 214 67)
35.
私は、あなたがたが不当な支配の下で生きることを望まず、また私の言葉を正しく解釈することをはばかる者たちを語り、罰の恐れからだけで私の律法を守るようなことがないよう、魂の真の生き方を示す。

36.
わたしの律法を理解なさい。それは複雑でも、理解するのが難しいものでもない。それゆえ、それに従う者は、恥をかくことなければ、偽りの言葉を言い、誤った考えや悪い解釈に惑わされることもない。
37.
わたしの律法は単純であり、常にあなたがたが歩むべき道を示している。わたしを信頼なさい。わたしは、あなたがたを白く輝く都へと導く道であり、あなたがたの到来を待ちわびて門戸を開き続けている約束の地へと至る道である。（2, 9）
38.
いったいなぜ、あなたがたは、わたしの律法を全うすることによってのみ、健康と幸福と命を見出すことができるのだと、ようやく確信するのだろうか。
39.
あなたがたは、物質的な生活において生き延るために闘わなければならない限りがあることを忘れている。しかし、人間の神性の中に存在する永遠の命の源にあずかることができるように、霊的な世界でも闘わなければならない限りがあることを、あなたがたは忘れてしまっている。（188, 62）
40.
わたしだけがあなたがたの救いであることを忘れるな。過去においても、現在においても、そして未来においても、わたしの律法はあなたがたの魂の道であり、導き手であった、今もあり、これからもそうあり続けるのだ。
41.
わたしの律法に従う者たちは祝福される。彼らは決して道に迷うことはないからだ。彼らは約束の地に至り、勝利の歌を歌い上げるであろう。（125, 31-32）
42. 私は知っている。あなたがたの試練が深まるほど、私の愛も深まるのだ。
43.
私が「私を愛なさい」と言うとき、私が何を伝えようとしているか、あなたがたは知っているか。真理を愛し、善を愛し、光を愛し、互いに愛し合い、真の命を愛なさい。（97, 57-58）
44.
私は、あなたがたが私をあなたがたを愛するように互いに愛し合い、また自分自身をも愛することを望む。なぜなら、私はあなたがたに特定の人々の指導と導きを託しただけでなく、あなたがたが私に対して負う第一の義務は、自分自身を大切にすることからである。あなたがたは、自分たちが創造の生ける姿であることを認識し、互いに愛し合うべきである。（133, 72）
45.
私が地の民に託した使命は偉大であり、また極めて繊細なものである。それゆえ、私はあらゆる時代において彼らを訪れ、私の言葉によって彼らを教育し、律法の内容をさらに詳しく啓示してきたのである。
46. 愛と善と正義の律法こそが、私がいつの時にも彼らに授けた霊的な遺産である。教えと教えと、私は光と導き、律法と一つの救いすべての愛の集合することを理解せよ。
命の創造主である父を愛し、父の一部である隣人を愛し、主の創造し定められたすべての人を愛なさい。
47.
愛は知恵、偉大さ、力、高揚、そして生命の源であり、源であり種である。これこそが創造が魂のために示した真の道であり、それによって魂は段階から段階へ、住まいから住まいへと、私のおそばへと深まる親密さを感じることができるのである。
48.
もし人類が太古の昔から、偶像礼拝の儀式や形骸化した宗教行事に心を奪われることなく、霊性と愛と神の尊厳としていたならば、今日、人の堕落と悲惨によって汚れた世界は、
魂がこの地上の後の魂と昇華の道において到達すべき霊性の高みへと至るために、功徳を積むことのできる祈りの谷となっていたであろう。（184, 35-38）

第7章 神を礼拝する新しい方法

礼拝形態の発展

1. 人類はしかしゆっくりと神の礼拝の完成へと向かっていることか！

2.
私が新たな教団を持ってあなたがたを訪れるとき、それはあなたがたの発展段階から見てあまりにも先を行き過ぎているように思えるだろう。しかし、私があなたがたに一つの時代を与えているのは、その時代が続く限り、あなたがそれを理解し、あなたの生活に取り入れることができるようにするためであることを理解してほしい。（9, 30-31）

3.
あなたがたの礼拝は動物の血の犠牲によって受け入れられた。しかし、それはあなたがたの霊をのちの高みへの最善の方法ではなかった。そこで私はイエスとしてあなたがたのところへ来て、「互いに愛し合いなさい」と教える神の戒めを受けたのである。

4.
今、私はあなたがたに言う。私が第一の時代にイエスの姿を通して示した教えは、あるいは変えられ、あるいは誤って解釈されてきた。それゆえ、私はあなたがたに予告した通り、私の真理を明らかにするために来たのである。当時、私は多くの動物の血の犠牲を要求し、私はあなたがたに、より完全な神の礼拝を教えた。

5.
この時代における私の新たな啓示は、象徴的な礼拝形式は、それが単に私の教えの象徴的表現過ぎないため、その意味を説明することなく用いてはならないことを、人類に理解させることになるだろう。（4, 28）

6.
祈りは、私が人間に、私の神性の対話を行うために授けた霊的な手段である。それゆえ、祈りは初めから、あなたがたの中で活動して、魂の必要として、試練の時における避難所として現れてきたのである。

7. 真の祈りをしない者は、それがもたらす祝福を知らず、その中に含まれる健康と恵みの源を知らない。
その人は確かに、私に近づき、私と語り合い、自分の願いを私に捧げたという一種の感じを受ける。しかし、霊が欠けているために、その自分の思いを天に向けるという捧げ物のおかげで、すぐに何か物質的なものを探し求め、それを私に捧げようとする。なぜなら、そうすることで私の善意をよりよく表せると考えているからだ。

8.
このようにして、人は礼拝の特定の儀式、そして個々の祈願、それによって自分の願いを聞き入れ、父に直接るというその祝福された自由を奪ってしまうのである。
痛みが極度に激しく、苦しみがついに人間の力の限界に達したときのみ、魂は解き放され、形式的なことをされ、その場合でも人は心を締め、心の底から叫ぶのだ。「わが父よ、わが神よ！」

9.
ご覧なさい、この物質主義の時代に、人は互いに戦争を繰り広げることは許されていてはならない。しかし、私はあなたがたに言う。あなたがたの戦いの中にあって、多くの人が祈りの神秘を発見したのである――それは苦しみから、また助けを求める叫びとして、嘆きとして、懇願として、私のもとに届く祈りである。

10.
そして、彼がその道で願い求める者を試みたとき、彼は、魂の言葉以外には、神と語り合う方法はないことを悟るのである。（16 1, 22-24, 27）

献身と信仰なき見せかけの祈り

11.
あらゆる誘惑を拒絶するよう、魂の最高貴な感情を殺してはならない。また、それを外的な儀式で窒息させようともしてはならない。

12.
見よ。もし母親が、愛する幼い子供に物質的なものを与えることができないとしても、彼女は子供の上にかがみ込み、全愛をもって祝福し、口づけをし、慈愛に満ち涙ぐむ目を向け、涙でその子を洗うだろう。しかし、決して空虚な言葉で子供をだますことはない。

13.
どうして私、神聖なる師が、あなたがたのしかるべき精神価値、しかるべき真理愛と欠けた儀式に満足することを認めるなどと思うのか。あなたがたは、それによって自分の魂をだまそうとしているのだ。魂に、自分が養われたと信じ込ませようとしているが、実際は、真理に関してはすべて無になっていくだけではないか。(21, 20-21)

14.
祈りは、神が人間に与えた恵みである。それは、人間が霊的に高められるための導き手として、浄められるための器として、自己を教えるための書物として、そしてあらゆる病いが癒され、回復するための薬として役立つものである。

15.
真の祈りは地から消え去ってしまった。人々はもはや祈らない。そして、祈ろうとするときでさえ、魂をもってふさわしい語りかけるのではなく、口先だけで空虚な言葉や儀式、偽りの技術を用いている。イエスが教えたかの形式や慣習を用いているのに、どうして人々は盲目にされているというのか。

16. 真の祈りが人の間に戻る必要がある。そして、それを再び教えるのは私である。（9, 12-14）

17.
祈りを教えよ。そして、人々に、創造主に語りかけるのは彼の精神であることを理解せよ。そうして、彼の祈りがほんとうに、肉体の叫びであり、恐怖の表れであり、偶像の如き、あるいは私に対する偽証であることに気づかせよ。

18.
あなたがたの周囲に、私の霊を感じ、私の栄光を思い起こすために、肉体を懲らしめたり、傷つけたりする必要はないことを理解せよ。
肉体を苦しみや苦行を自ら課す者たちは、私にとって最も忌まわしい存在であることについて、ほんの少しの知識も持たず、また私の愛や、あなたがたの父である私の慈悲について、何の想像も持っていないがゆえに、そうしているのだ。

19.
あなたがたは、私があなたがたを救うために、あなたがたの目に涙があり、心に痛みが必要だとでも思っているのか。それは、私に憐れみ、無情、無関心、利己的な神のようだと言うに等しい。あなたがたが愛する神に、そのような欠点があると想像できるだろうか。

20.
あなたがたは、私を喜ばせようとこれほど努力してこなかったことか！その理由は、あなたがたが、御霊に調和して考えるように、自分の知性を鍛えてこなかったからである。（78、17-20）

21. 今日、ひとときだけでも霊において私のもとに来なさい。

22.
何世紀にもわたり、人々は正しい祈りの方法を誤ってきた。それゆえ、彼らは感覚によって祈り、霊によって祈らなかったため、力づけられることもなく、また私の愛によって人生の道標を与えられることもなかった。

23. 人間がこれほどまでに低く、また偶像崇拝は、まるで毒のようであり、内なる祈りの霊性を窒息させてしまうことができた。

24.
人々はただ祈り方を知らなかったというだけで、どれほどの苦悩を負ってきたことか！そして、これは当然のことである。弟子たちよ。なぜなら、

神の御心としての私の霊の中にある命の源に近づく手段を持たない人間に、人生の試練は打ち勝つための霊的強さが一体どれほどあるというのか。人間は、深い闇の中でも探し求めるが、立ち上がって、山頂光の中でそれを見出すことさえもできるはずである。

25.

ああ、もしこの時代の人々が祈りの力を理解していたならば――彼らはどれほど多くの超越的な仕業を成し遂げたであろうか！しかし、彼らは物質主義の時代を生きており、神聖なものでさえも、触れて見ることができるようにと、物質化しようとしているのだ。（82, 61-64）

真の祈り

26. 私は祈る者たちを祝福する。彼の祈りが霊であればあるほど、私が彼らに与えられる恵みはより大きなものとなる。

27.

これは容易に理解できることである。なぜなら、祈るために、神聖な存在の臨在を感じるために、像や物体の前にひざまずくことを主張しなければならない者は、心の中でその臨在という霊的な感覚を体験することはできないからである。

28.

「見ずして信じる者は幸いである」と私はかつて言ったが、今、再びそう言う。なぜなら、この世の事柄に対して目を閉じる者は、霊的なものに対して目を開くからであり、私の霊的な臨在を信じる者は、それを感じ、それを喜びとしなければならないからである。

29.

いやなぜなら、地の者たちは直接祈り、あるいは――それは同じことだが――霊から霊への祈りによって、心の中で私と交わりを感じるという喜びを自分の霊から奪うことをやめるだろうか。それは、私のみ父の姿を照らし、彼が真理であり、自分の過ちを理解した時である。

30.

今こそ、祈り、瞑想するふさわしい時である。しかし、それは狂信的な雰囲気を排した祈りであり、私の神聖な臨在について静かで深い思索を伴うものでなければならない。

31. あらゆる時があらゆる場所が、祈りに適している。

私が教えの中で、それのために特に定められた場所や曜日があるなどと言ったことは一度もない。あなたがたが住むこの世界よりも、あなたがたの精神の方がはるかに偉大であるのに、一体何のために、祈るために特定の場所を探し求めるのか。私が無限であるのに、なぜ自分自身をそのような限られた場所に閉じ込めるのか。

32.

人々の貧しさ、この世の不運の最も重大な原因は、彼らの不完全な祈りの在り方である。それゆえ、私はこの話題を全く新しく扱うようにしなければならない、とあなたがたに告げたのである。（79, 2-7）

33. あなたがたは常に同じ形の集まりをもって祈ってきたわけではない。それゆえ、常に同じ平安や同じ霊を得てきたわけではないのだ。

34. 霊は満たされ、思考は高められるものである一方で、全く無関心なままでもあり得る。

そのような中で、どうして私のメッセージを常に同じように受け取れるというのか。祈りの瞬間に、精神は活動できるよう、心、そして肉体さえも敏感でなければならない。

35.

霊は常に私と結びつく用意がある。しかし、その瞬間、言い換えれば、地の塵と霊とを取り巻くありとあらゆるものから解放されるためには、肉体が良好な状態であることが必要である。

36.

真の祈りに至るよう努めなさい。なぜなら、祈ることを知る者は、平和、健康、希望、霊的な力、そして永遠の命の鍵をその内に秘めているからである。

37.

私の律法という目に見えない盾が、彼を悪や罪から守ってくれるだろう。彼らの中に目に見えない剣が集い、その通り道にはあらゆる敵を打ち倒すだろう。

灯台が、嵐の中でその進路を照らし出すように、彼自身のためであれ、隣のためであれ、必要な時はいつも、奇跡的に彼の祈りの届くところにあるだろう。

38.

祈りなさい。この霊の高揚感を信じなさい。なぜなら、このかが、未来の人々の、すなわち、すでに肉体にあって彼の霊と私の霊の結びつきに達するであろう人々の、人生を変えることになるからである。

39. 家長は、祈りを通して、子供たちを導くための啓示を受けるだろう。

40.

病人は、祈りによって健康を受ける。統治者たちは、祈りの中で光を求めることによって、彼の大きな問題を解決し、科学者たちは、祈りの賜物によって啓示を受けるであろう。（40, 40-47）

41.

弟子たちよ。「第二の時」において、私の使徒たちは私に、どのように祈るべきかを尋ねた。そこで私は、あなたがたが「主の祈り」と呼ぶ完全な祈りを彼らに教えた。

42.

今、私はあなたがたに言う。この祈りの意味、その厳粛さ、そしてその偉大にインスピレーションを得て、あなたがの霊が私の霊と交信するようになさい。そうすれば、もはや肉体の唇やそれらの祝福された言葉を語るのではなく、霊が、その自身の言葉を用いて私と語りかけるようになるからである。（136, 64）

43. 単に唇だけで「父」と呼ぶことのないよう注意せよ。なぜなら、あなたの多くは、この瞬間に行っているからだ。

あなたがたが「天にまします我らの父よ、御名の聖とさせたまえ」と祈る時、その祈りの言葉から勇気を取り、一節一節を深く噛みしめるようになさい。そうしてこそ、あなたがたは霊感を受け、私と完全な交わりの中にいることができるのだ。

44. 私は、子供を真の父に近づける方法、完全な祈りをあなたがたに教えた。

もしあなたがたが「父」という言葉を、熱意と畏敬の念をもって、高い愛をもって、信仰と希望をもって口にすれば、距離は縮まり、空間は消える。なぜなら、この

霊と霊の交わりの瞬間において、神はあなたがたから遠く離れておられるわけでもなく、あなたがたが神から遠く離れているわけでもないからだ。そのように祈りなさい。そうすれば、あなたがたはこの中で、私の恵みを豊かに受け取ることになるでしょう。（166, 52-53）

完全な祈りの四つの側面

45.

魂の完全性を獲得するために、奮闘し、奮闘しなさい。私は、この目標に達するための道をあなたがたに示した。私は、人生の道において様々な攻撃からあなたがたを守るために、あらゆる物質的な武器より優れた武器として、祈りをあなたがたに託した。しかし、あなたがたが私の律法を遵守するとき、最高の成果を手にすることになる。

46.

祈りとは何から成るのか。祈りとは、願い、執成し、礼拝、そして霊的黙想である。そのすべての要素は必要不可欠であり、一つ一つから生じるものである。まことに、わたしはあなたがたに告げる。願いとは、人がわたしに、自分の望みを与え、満足させてほしいと求めること、すなわち、その人自身の人生において最も重要かつ有益であると考えるものを求めることである。

そしてまことに、わが子よ、父は願いを聞き入れ、それがその者の益となる限り、各人に最も必要なものを与える。しかし、あなたがたの魂の救いに反するものを願うことは、くれぐれも気をつけなさい。なぜなら、物質的な富や肉体的快楽にはめない権力を願う者は、自らの魂を鎖で縛ることを願っているからである。

47.

肉体の死は、ただ苦しみをもたらすだけである――この世においてのみならず、霊界へと移った後も同様である。なぜなら、その肉的欲望の影響は、そこへさえも及ぶからである。そして、魂はそれから自己を解放することができないため、引き続きそれらの渇望に苛まれ、転

生で物質性を継続するために、何度何度も地上に戻りかえるようになるのである。
それゆえ、わが子らよ、あなたがの魂の益のため真に必要なものだけを願いなさい。
48.
祈りの第二の形態である献身は、隣への愛、すなわち、私がこの世に来た時に師としてあなたがたに教えたその愛から出るものである。
近しい人のために、遠く離れた人のために、また様々な国で戦争の惨害に遭い、この地球の変革のために苦しみ耐えている人々のために祈りなさい。
49.
わが子らよ、備えよ。同胞のために祈れ。しかし、この献身においても、祈ることを学ばなければならない。なぜなら、重要なのは彼らからである。兄弟姉妹、あるいは子供たちが病であるならば彼のために祈れ。しかし、それが魂にとって必要なことでないならば、彼らがこの世にとどまることを願ってはならない。
むしろ、その魂が解放され、苦しみの中で清められ、その痛みが魂の向上を促すよう祈りなさい。それゆえ、師はすでに第一の時において、あなたがたに教えるよう導いたのである。『父よ、御心がなされますように』。なぜなら、父はどの子供よりも、その魂が何を必要としているかをよく知っているからである。
50.
祈りの第三の形態、すなわち聖霊の祈りは、あらゆる完全なものの祈りを意味する。なぜなら、この種の祈りを通して、あなたがたは、全宇宙をも凌ぐ完全性、すなわち愛と一つになることができるからである。
祈りにおいて、あなたがたは超越すべき完全性の境地を見出すことができ、それはやがて霊感へと導く。この霊感は、祈りと相まって、永遠の源である聖なる霊の合一へとあなたを導く。その源こそが、父の御国に至るための力を日々あなたに与えてくれるのである。
51. このように祈るべきである。願いの祈りから始まり、霊感に至るまで。これこそが、あなたがたを与えるであろう。
52.
そして、十分に準備が整ったら、自分自身のためだけに戦うのではなく、隣人のこの道程の達成のために戦わなければならない。なぜなら、あなたがたは自分一人だけで魂の救いを得ることはできず、全人類の救いを得るために奮闘しなければならないからである。(358, 10-17)

言葉のない自発性の祈り

53.
人々よ、ここに聖霊の声がある。それは、あなたがたの内なる通路を通して神が示す霊性啓示であり、新たな律法や教えを明らかにするものではなく、父ご自身、父を受け入れ、父を学ぶための、より進歩的で、より霊的で完全な新たな方法をもたらすものである。(293, 66)
54.
私の言葉は、その偉大な解釈者となった者はそれほど多くはない。それにもかかわらず、彼らは私の教えの最も優れた実践的弟子ではなく、「互いに愛し合いなさい」と告げる神の戒めを果たしていない。
55. それに対して、私の教えのほんのわずかでも実践する者がいかに容易に変容するかをよく見てみよ。その例をあげよう。
56.
ある人がある人に対して、言葉による祈りによって、私を愛していると私に告げていた。それは心から発した祈りであり、彼はその言葉の意味をはっきりとは分かっていなかった。
しかし、やがて彼は真の祈りとはどのようなものかを悟った。そして、古い習慣を脇に置き、魂の最も奥深い意識に集中させ、思いを神へと向けると、初めて神の近さを感じたのである。
57.
彼は主に対して何を言えばよいのかが分からず、胸が震え始め、目から涙がほろほろと落ちた。彼の心にはただ一つの言葉だけが浮かんだ。『父よ、私はあなたと話す方法をほとんど知らないのに、あなたに何と言えばよいのでしょうか?』

58.
しかし、その涙、そのすすり泣き、その内なる葛藤、そして彼女の悲しさが、父に向かって、あなたがたが人間の言葉、書物の中で決して見つけることのできないほど美しい言葉を語りかけていた。
59.
主に向かって霊に祈り始める人間のたどたどしい言葉は、幼い赤ん坊の最初の言葉に似ている。それは、生きとし生けるものたちが始めて存在の最初の表現を耳にする親にとって、喜びと慰めの源となるものである。（81, 22-24）
60.
より高度に発達した魂は、人間の言葉、霊性、思考の表現を貧しく、矮小化することを知っている。それゆえ、その魂は物質性の重さを憎ませ、高みへと舞い上がり、神のみが知る言葉で、自分の存在の最奥の秘密を神に語り出すのである。（1, 69）
61.
あなたがたが父をほめたたえ、思いを天へと向けるのを見る時、私の霊はこれほど喜びを感じる。私はあなたがたの信仰を感じさせ、平安で満たしてあげる。
62.
わたしをほめ、わたしに語りかけなさい。自分の願いを表明するには、自分の思いがあまりにも個別的であっても、気にすることはない。わたしはそれを理解するだろう。父に話すような信頼をもって、わたしに語りかけなさい。親友であるように、あなたの僕であるわたしに対しても開かれなさい。
あなたがたがはなはだしく未熟であることを恐れてはいけない。そうすれば、私は御言葉をもってあなたがたに語りかける。しかし、あなたがたの霊が私に向かって高まるその祝福された瞬間に、父から与えられる光、力、祝福、そして平安を受け取るよう祈りなさい。（36, 15）
63.
静寂の中で、あなたの苦しみを私に語り、あなたの切なる願いを私に打ち明けてください。私はすべてを知っていますが、あなた自身が祈りを通じてそれを表明するようになることを望んでいます。そうして、あなたの霊が父と完全に話すことができるようになるまでです。（10, 31）
64.
祈りは、必要に応じて長くも短くもなる。もし望むなら、休憩することなく、また他の義務が急を要しない限り、その霊性を深める神に何時間も過ごすことができる。また、突然やってきた試練に直面しているときは、たった一秒で終わるほど短いものにもなり得る。
65.
あなたの内なる祈りが届こうとする言葉が、わたしのもとに届くのではありません。あなたがたがわたしの前に示す愛、信仰、あるいは切実な願いこそが、わたしのもとに届くのです。それゆえ、あなたがたは言います。あなたがたが慣れているように、思考や意識、あるいは考えを組み立てる時間などない、祈りがたった一秒しか続かないような場合もあるでしょう。
66.
どこであれ、私を呼び求めることができる。私にとって場所は重要ではない。私が求めているのは、あなたの精神からである。（40, 36-38）
67.
第二の時代にあるユダヤ人がイエスに、エルサレムこそが神を礼拝すべき場所であるかと尋ねたとき、師は彼にこう答えられた。「エルサレムも、他のいかなる場所も、神を礼拝するのにふさわしい場所ではなくなる時が来る。なぜなら、神は霊であり、真理によって、すべての霊と霊は礼拝されるからである。」
68.
私の弟子たちが、祈りを教えてほしいと願ったとき、私は彼らに、あなたがたが「主の祈り」と呼ぶ祈りを与えました。それによって、真の完全な祈りはイエスの祈りのように、心から自発的に湧き上がり、父のもとへと届くものであることを彼らに理解させたのである。
それには、従順、謙遜、罪の告白、感謝、信仰、希望、そして賛美が含まれているべきである。（162, 23-24）

日々の祈り

69. 愛する弟子たちよ。毎日、霊的な祈りを実践し、自分を浄めようとする善意をそのすべてに注ぎなさい。

70.
よく考えてみなさい。あなたがたが祈りに費やす時間は、その時間限りない平安を体験することから、それはあなたがたにとって、私の神聖な霊を受け取る最大の機会である。その霊の中に、あなたがたが理解できなかったことや誤解していたことすべてに対する洞察を見出すだろう。
あなたの過ちを悔い改め、問題を解決し、不安を排除する方法を見出すだろう。その祝福された霊的な静けさの時間において、あなたのすべての感覚は明晰となり、善行への準備と意欲が湧いてくるだろう。（108, 1）

71.
たとえ分からないほど短いものであっても、祈りを怠ってはならない。しかし、その際は良心をもって自己を厳しく律し、自らの行いを常に注視し、どこを改善すべきかを探るようにせよ。

72.
祈りの中で怠慢、時間の浪費を犯すことがあれば、それは霊性の欠如である。なぜなら、たとえほんの一瞬であっても、あなたがたは時間から抜け出すことができるからである。その時間は、物質世界の誘惑が、ただ楽しみや強欲のためのみ浸透する時間なのだ。
73. 日々自己を省みる者は、その思考、生活、言葉、そして感情のあり方を変えるだろう。（12, 30-32）

74. 私は、祈りによって時間を得ることを教えた。しかし、だからといって、祈りを長くすぎると言っているのではない。
私はあなたがたに、分間祈りを求めたが、それは、その瞬間、真に自己を委ねられるよう、短く祈るべきという意味である。しかし、残りの時間は、隣人に対する精神的・物質的な義務を果たすべきである。（78, 52）

75.
今、私はあなたがたに、日々の行いのすべてが高潔な感情に導かれ、試練や困難によってくじけたり、後退したりすることがないようにするための、ある種の準備の仕方を教える。
新しい一日の光に目を覚ますとき、祈りと思いによって私に近づき、私の光に導かれてその日の計画を立て、そして生の闘いに立ち向かいなさい。その際、強くあり、一瞬たりとも誠実さに背かないことを心に決めなさい。

76.
まことに、私はあなたがたに告げる。ますます、あなたがたの祈りの精神と、その行いの効果に、あなたがた自身が驚嘆することとなるだろう。（162, 7-8）

休息の日：すべての日曜日

77.
すでに最初の時代において、私はあなたがたに、第七の日を私に捧げるよう教えた。人間は長い間、世俗的な義務の遂行に専念していたのだから、少なくとも一日を主の為に捧げることは、当然のことであった。
私は、人間が最初の日を私に捧げるよう求めたのではなく、最後の日を捧げるよう求めた。それは、その日において労苦から休息し、霊的な瞑想に専念し、魂が父に近づき、祈りを通して父と語り合う機会を与えるためである。

78.
安息日が設けられたのは、人間がたとえ短い間であっても、この地の厳しい生存競争を忘れ、良心が自分語りかけ、律法を思い出させ、自らを省み、過ちを悔い改め、心の中で悔い改めの高潔な決意を固める機会を与えるためであった。

79.
安息日は、かつて休息と祈り、そして律法の研究に捧げられていた日であった。しかし、人々はおろそかになり、同胞に対する配慮や隣人に対して負うべき霊的な義務を忘れてしまった。

80.
時おり、人類霊に発展。キリストは、安息の日であっても、積極的な愛を実践。あらゆる善を行うべきであることを、あなたがたに教えるために来られた。
81.
イエスは、一日を肉体の休息に捧げることはあっても、霊的な使命を果たすために、特定の日や時が予定されているわけではないことを、あなたがたに理解してほしいと伝えかけるのだ。
82.
師は極めて明瞭に語られたにもかかわらず、人はそれから逸れ、各自が自分にとって最適の良い日を選んだ。それゆえ、ある者たちは安息日として安息に捧げられた日を維持し続けた一方で、他の者たちは善行のために日曜を選んだ。
83. 今日、私は再びあなたがたに語かけ、私の教えはあなたがたに新たな気づきをもたらす。あなたは多くの経験を経て、ここに戻ってきた。今日、地上の学びからの休息のこの日を捧げるかは重要ではない。重要なのは、あなたが、私が示した道を毎日歩むべきであることを知っているということである。
祈りのために定められた時などないことを理解しなさい。なぜなら、一日のどの時間も、祈り、そして同胞のために私の教えを実践するのにふさわしいからである。(166, 31-35)

求めよ、そうすれば与えられる

84. あなたがたは皆、心に傷を負っている。
私のように、誰があなたの内面に深く入り込むことができようか。私は、あなたの苦しみを、悲しみを、そして、この世に蔓延する大きな不正感にもがき苦しむ葛藤を知っている。私は、長い間の地上での、苦しい、その存在が重荷となっている人々の嘆きを知っている。
この人生で孤独に置かれた人々の心の空虚さも、私は知っている。私はあなたがたすべてにこう言う。「求めよ、そうすれば与えられる」。なぜなら、私はあなたがたが必要とするもの――それが伴侶であれ、心の平安であれ、癒しであれ、使命であれ、光であれ――をあなたがたに与えるために来たのだから。(62, 72)
85.
落胆するな。それは時的なものに過ぎない。その中においても祈り、ヨブの忍耐強さは、豊かさと共に戻ってくる。その時、あなたがたは私に感謝する言葉が見つからないほどになるだろう。
86.
もし病に苦しむことがあっても、おお、祝福された病める者たちよ、絶望してはならない。あなたの霊は病んでいないのだ。祈りをもってわたしのもとへ立ち上がれ、そうすれば、あなたの信仰と霊性によって、身体の健康は取り戻されるだろう。わたしが教えた通り、霊に祈りなさい。(81, 43-44)
87.
試練の瞬間に、短くとも純粋な請願の祈りを捧げなさい。そうすれば、慰めを感じるだろう。そして、あなたがが主と調和するに至ったとき、私はあなたがたにこう言えるだろう。「私の意志はあなたがの意志であり、あなたがの意志は私の意志である」と。(35, 7)
88. 祈りなさい。しかし、その祈りは私の計画に基づいていなければならない。それこそが、あなたにとって最良の祈りとなる。しかし、もし私に向けて願いを込め思いを捧げたいと望むなら、ただこう言ってくれ。「父よ、あなたの御心が私の上に成りますように」。そうすれば、あなたがが理解し、期待しうる以上のものを受けることになるだろう。そして、この単純な言葉、この思いこそが、かつてあなたがたが私に求めた「主の祈り」をさらに簡潔なものにするだろう。
89.
これで、あなたがたは、あらゆるものを願い求め、あなたがのために最もよく語ってくれる祈りを得ることになる。しかし、それを口にするのではなく、心で感じなさい。口にすることは感じることではないからである。もしあなたがたがそれを感じていないなら、私にそれを言う必要はないのだ。私は神聖の声を聞き分け、その言葉を理解している。このことを除いて、あなたにとって大きな違いがあるだろうか。それとも、私が何をすべきかをあなたに言ってもらうことを頼っていると思っているのか。(147, 52-54)

90.
わたしはあなたがたに、他者のために祈り、願い求めるよう教えてきた。しかし、あなたがたが自分のために願うとき、わたしもそれを聞いてはいる。わたしはその祈りを受け入れる。だが、あなたがたが罪に満ちているために、あなたがたの願い通りに与えていた時代は終わった、と告げておく。
今や、あなたがたが弟子として振る舞い、祈りの際に自分の精神と心を私に捧げつつ、私からその印を受け取り、私の御名を行うことを望むこと、それが私の御心である。（96, 69）
91.
もしあなたがたが私に問いかけたり、願い事をしたりするときは、自分の問題を私に明確に説明しようと無理に努力したり、頭の中で最も適切な言葉を探そうとしたりしないでください。
その瞬間に、あなたがたの精神性から離れ、心と魂が清められ、それによって私の霊を受け取るようになれば、それで私は十分である。もしあなたがたが自分の内なる私の存在を感じることができないのなら、私に素晴らしい言葉を捧げたところで、何の益があるだろうか。
私はすべてを知っている。私があなたがたを理解するために、あなたがたが私に何かを説明する必要などないのだ。（86, 9-10）
92.
もしあなたがたが私の教えを理解することができれば、それはあなたがたに多くの満足を与え、向上するための多くの機会をもたらすでしょう。
何が洞察を下前にすることを学びなさい。なぜなら、祈りは、人生の闘いに勝つための光と力を与える、最も完全な方法だからです。
93.
祈るとき、あなたの知性はさまざまな影響がもたらされ、それによって善悪すべきこととすべきでないことをはっきりと区別できるようになる。そして、これこそが、あなたが内面において、御霊の声を聞く準備ができたという最も明確な証拠となる。
94.
忍耐をもって謙虚でありなさい。もし試練の意味を理解できないならば、祈りなさい。そうすれば、あなたがたの心でそれを受け入れることができるよう、私はその意味を明かしてあげる。（33、61、62、75）
95.
あなたがたの昼も思いが私に上り、私を悩んでください。私の苦しみに同情してください。主よ、あなたの救いを私から遠ざけないでください」と言うとき、あなたがたは無知であり、混乱しており、私をほとんど知らないことを証明しているのだ。
96.
私に、あなたがたの痛みに同情せよと言うのか。私に、私の子供たちに憐れみを示すよう求めるのか。私に、あなたがたの罪深さを懸念するのか——愛であり、恵みであり、慈悲であり、赦しであり、憐れみそのものである私に？
97.
あなたがたが、地上で苦しんでいる者たちを動かそうと、隣への思いやりの欠けた者たちに、涙と懸念をもって憐れみを乞おうとするのは良いことだ。
しかし、愛によってあなたがたを創造し、永遠に愛してくださる方を動かすために、そのような言葉や考えを用いてはならない。（336, 41-43）
98.
地上における人間の生活に関するありとあらゆる事柄について、父があなたがたに与えてくださった大きな恵みに満足しなさい。あなたがたの現在の肉体を破滅に導きかねないものを求めないでください。私は、あなたがたが私に求めることのできる以上のものを与えることができます。
しかし、あなたがたの人生の道において、本当に何が欠けているのかを知っているのは、私である。私はあなたがたに言った。「もしあなたがたが私の律法を全うすることを理解すれば、私のすべての栄光があなたがたに見えるだろう。」（337, 21）

執成の祝福

99.
言葉だけで祈ることに慣れてはならない。霊をもって祈れ。また私はあなたに告げる。祈りをもって祝福し、光の思いを彼らに送りなさい。自分のために何も求めてはいけない。覚えておきなさい。私のことを心に留める者は、常に私を護符として持つことになるのだ。
100. あなたがたが愛をもって蒔く種は、何倍にもなって返ってくるであろう。（21, 3-4）
101.
辛い試練に直面している時だけでなく、平穏な時にも祈りなさい。そうすれば、あなたの心と思いは他の人々のために尽くすことができるようになるだろう。
また、あなたに善を行ってくれた者や、あなたに害を与えなかった者のためだけに祈ってはならない。それは確かに称賛に値することではあるが、何らの形であなたに害を与えた者たちのために執成をすることほど、大きな徳はないからである。（35, 8）
102. 今、私はあなた方に何を教えているのか。
心と精神をもって、あらゆるものを、あらゆる人を祝福することである。なぜなら、そのように祝福する者は、御心のすべての者にその温かい光を注がれるように御心にかなっているからである。それゆえ、私はあなたがたに言う。精神をもって、思いをもって、心をもって祝福することを学べ。そうすれば、あなたがたがそれを送る相手は、たとえその相手がどれほど遠く離れていようとも、あなたがたの平安、力、そして心の温かさが届くであろう。
103.
もしすべての人が、互いに面識なく、一度も会ったことがなくても、互いに祝福し合うとしたら、何が起こるだろうか。地上は計り知れない平和が満ち、戦争など想像できないこととなるだろう！
104.
この崇高な目的のものとするために、あなたがたは感謝することで、自らの魂を高めなければならない。これを不可能だと思うか？（142, 31）
105.
求めよ、そうすれば与えられる。あなたがたが神の御前にもたらすべてのもの――それを私に求めなさい。求めよ、その願いを苦しむ者の願いと結びつけなさい。そうすれば、私はあなたがたが求めるものを与えよう。（137, 54）

祈りの必要性

106.
「目を覚まし、祈りなさい」と私は繰り返し言っている。しかし、私はあなたがたに、この言葉に満ち足りた慣れることを望んでいるのではなく、それについて深く考え、それに従って行動することを望んでいる。
107.
私があなたがたに祈るよう命じるのは、祈らない者は不必要な、物質的な、そして時には無意味な思考にふけり、それによって、自覚することなく、兄弟殺しの戦争を助長し、養ってしまうからである。
しかし、あなたがたが祈るとき、その思考はあたかも光の剣であるかのように、今日多くの存在を囚えている闇のベールに強烈な裂け目を引き裂く。それは理性的な力に満ち、悪の勢力に立ち向かうのである。（9, 25-26）
108.
人々は常に他の宗教に過度に支配されてきたため、祈りや、この生命ある世界すべてに対する霊的な思考が持つ意義について考える余裕がなく、その結果、自らの本質を見出すことができなかった。
祈る者は必ず語り、問い求めれば即座に答えを得る。人が霊的事柄について無知であるのは、祈りの欠如によるものである。（106, 33）

109.
あなたがは魂ふさわしいものを正しく与え、世界ふさわしいものを与えることを祈る時へと向かっている。それは真の祈りの時であり、狂言綺語の神の裁判の時である。そこではあらゆるものが祈り託されたものを与えることを祈るようになる。
110.
もしあなたが自分の意志を通すばかりにまだ祈りの中で人と争うなら、どうして過ぎ越すことができようか。祈る者は神とつながりを持って生き、父から受ける恵みの価値を知り、同時に、自分と縁ある兄弟姉妹を理解するのだ。（174, 2-3）

祈りの始まりもたらす恵み

111.
私はいつの時も、あなたに「祈りなさい」と語ってきた。今日、私はあなたに、祈りによって睡眠を得ることができると告げる。もしすべての人が祈るならば、彼らは私が示した光の道から決して迷い出ることなどないだろう。祈りによって病は癒され、不眠者はなくなり、魂には平和が戻ってくるだろう。
112.
人がわずかの恵みを得たとして、どうして幸せになれるというのか。愛、慈悲、善意は人間性の本質ではないとでも思っているのか。（69, 7-8）
113.
愛を宿さない言葉は、命を与えないことばだ。あなたがは、いかにして愛し始めればよいか、また、心の中にこの感情を呼び覚ますためにはどうすべきか、と私に問う。それに対し、私はこう告げる。
、あなたがまず始めなければならないのは、正しく祈ることである。それはあなたが父に近づくだろう。そして、その道は、私である。
114.
祈りの中で、あなたは最も霊感、そしてひらめきを見出すでしょう。それは証しする者なしに、神と親しく語り合うことができるという、この上ない満足をあなたに与えるでしょう。神とあなたの霊は、この親密で霊的な話、そして祝福に満ちた瞬間につながるのです。（166, 43-44）
115.
親しい人、慈愛に満ちた友を必要とするときはいつでも、私のもとに来なさい。そして、あなたがの心を苦しめているかもしれない苦しみを私に委ねなさい。そうすれば、私は最善の道、すなわちあなたが求めている解決を見出してあげる。
116.
もしあなたの魂が重荷に押しつぶされているなら、それはあなたが罪を犯したからである。私はあなたを受け入れ、私の裁きにおいて寛大であり、あなたの改心の決意を強め、失われた者を取り戻してあげる。
117.
わたしの教えに従うことだけが、あなたを悪の中にあっても、魂と身体の健康を維持する。あなたが得る縁は、魂の中にしずく落ちる光となるだろう。（162, 20-21）
118.
警戒してきることを心得ている魂は、主が彼のために定めた道から決して逸れることなく、より高い発展に達するまで、その違和感を活用することができる。
119.
この存在は、目覚めて生き、決して物質に惑わされることがないため、試練の中で前進しなければならない。目覚めた祈る者は、人生の危機から常に勝者として抜け出し、確かな足取りで人生の道を歩んでいく。
120.
祈りと瞑想される者の振る舞いは、これとはまったく異なることから、彼は、私が心の中に置いた最大の武器、すなわち信仰、愛、そして謙虚

光によって自らを守ることを、自ら進んで放棄している。彼は、直感、良心、そして夢を通して語りかけるかなる声も聞くことができない者である。しかし、そのような人は理性をはるかに超えた叡智を理解せず、自らの精神からのメッセージを聞こうとしない。（178, 2-3）

121.

祈りとは、あなたがの疑問や悩み、そして苦しみや願いを携えて、わたしのもとへ至るために、あなたがの霊に与えられた手段である。この対話を通して、あなたがは救いを、慰めを、しかるべき助言を見いだすことができる。

122. 祈りは、霊から霊への語りかけであり、それはまるで時代は関係なく、この類の中で実現するであろう。

123.

今日、私は、私に聖なる民に、これらすべてを啓示した。それは、彼らが霊性の時代の準備となるためである。（176、18-19）

祈りの力

124.

あなたがのうちの誰かが祈るとき、その人は自らの思考によって霊性世界に何を成し遂げているのか自覚していない。それゆえ、あなたがたは隣のために――戦争の中で互いに滅ぼし合っている者たちのために――祈るとき、その瞬間、あなたがの霊はそれ自体、悪に対する思考戦争を繰り広げており、平和、

理性、正義、そして彼らのための善の渇望であるその者が、憎み、復讐、傲慢という武器で立ち向かっているのだ。

125.

今、人々が祈りの力を自覚するまで来た。祈りが真の力を発揮するためには、あなたがが愛をもってそれをわたしへと捧げることが必要である。（139, 7-8）

126. 思考と精神が祈りの中で一つになる時、人間の中に、あらゆる人間の力を凌駕する力が生まれる。

127. 祈りによって、弱き者は強められ、臆病者は勇気に満たされ、無力な者は力を与えられ、内気な者は大胆かつ自由に振る舞えるようになる。

128.

精神が理性と調和して働き、真の祈りに至ることができれば、それは目に見えない戦士となり、一時的に自らの本質の知識を置き、別の場所へと移り、肉体の影響から解放され、善を行うこと、

悪い霊を追い払い、困っている者たちに一筋の光、一滴の香油、あるいは息のそよぎをもたらすことに専念する。

129.

私が語るこれらすべてに基づき、この類を覆っている闇の中で、あなたがが精神と理性をもってどれほど多くのことを成し遂げ得るかを理解なさい。

あなたがは、相反する思考、悪意の渦巻き、情熱、荒れ狂う、憎しみの感情、復讐、思考が物質と混じり、魂が包まれている世界にいるのだ。

130.

祈りによって、思考と精神をもって光の領域、すなわち平和の領域と昇ることを学んだ者たちが、あらゆる人間の情熱が映し出される霊の世界に打ち負かされることなく足を踏み入れることができ、それどころか、霊の光を必要とする者たちのために有益なものを持ち帰ることができるのである。（288, 18-22）

131. 祈ることを学べ。祈りによって、多くの善を行うことができるだけでなく、陰謀や攻撃から身を守ることもできるからだ。

祈りは盾であり武器である。敵がやむにやまれば、祈りによって身を守れ。しかし、この武器で誰をも傷つけたり害したりしてはならないことを忘れるな。なぜなら、その唯一の役割は、闇に光をもたらすことであるからである。（180, 56）

132. 自然の力は、人間に対して解き放たれている。

恐れることはない。なぜなら、あなたがには悪を打ち破り、同じ力のための権威が与えられていることを知っているからだ。あなたがは、あの破壊の

な要素もこれほどまでに少ないことができる。そしてそれはおだやかだろう。祈り続け、目を覚まし続けていれば、あなたがたは誘惑に、世界の騒乱に巻きこまれることができないだろう。

133.
心から祈りなさい。わたしの霊と交わりなさい。そのためには特定の場所を探す必要はない。木の下でも、道中でも、山の頂上でも、あるいは寺院の隅でも祈りなさい。そうすればわたしは降りてきて、あなたがたと語りかけ、啓示を与え、力を与えるであろう。（250, 24-25）

134.
まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたがすでに霊において、思考において、意志において一つとなっていたなら、あなたがたの祈りだけで互いに襲いかかろうとする者たちを、遠く離れていても撃退し、止めるのに十分であろう。
あなたがたは誘惑を取り除き、同じ志のあいだの問題を一掃する聖なる、権威ある目に見えない剣のようなもの、弱者を守る盾となるだろう。

135.
人類は、この高次の次元と調和して一瞬たりとも、自省するだろう。そして、その自省によって、そうでなければ悲惨なその要素から受けるであろう多くの激しい苦難や災害を免れることとなるだろう。（288, 27）

136.
もしあなたがたが、祈りのために一つになる場所と、それ以外の時間を持っていたなら――その思考によって、どれほどの慈悲の行いを成し遂げることとなるだろうか。しかし、あなたがたは祈りに、それが本来持つべきすべての力を込めてこなかった。それゆえ、一瞬真に真実な祈りによって、あなたがたが何を成し得るのか、しばしば気づかないのである。

137. あなたの世界において最も非道な戦争が発生するのを、何より高次が阻止していることに気づかないのか。この高次は、精神をもって闇の力と戦い、戦争の企てに対し、数百万の男女や子供たちの祈りが影響を与えていることを理解できないのか。祈り続けよ。見張り続けよ。しかし、その運動は、あなたがたが持つ限りの信仰をすべて注ぐべし。

138.
人々よ、祈りなさい。そして戦争、苦痛、そして悲劇の上に、あなたがたの思考による平和の傘を広げなさい。それによってあなたがたは盾を形成し、その保護下であなたがたの同胞たちに避難所を見出せるであろう。（323, 24-26）

神聖なる愛、すなわち神の祭壇

139.
わが新しい弟子たちよ、あなたがたの主の祭壇前方は、あなたがたのあなたがたへの愛が絶えることなく続くように、特定の時間を待つ場所ではなく、維持されるものでなければならないことを知れ。
しかし、もしあなたがたが過ぎ去りし日々、わたしの愛業をどのように思い起こすべきかを知りたいと望むなら、わたしはこう言おう。互いに愛し合うことによって、あなたがたの人生そのものが、万物創造された方の維持される賛美となるべきである。

140.
そのように行動しなさい。そうすればあなたがたは確実に私に頼ること、すなわち、あなたがたの過ちが赦されることを、私は求めてあろう。私はあなたがたを慰め、安らぎを与える。しかし、こう言っておく。
もしあなたがたが自分の過ちに気づき、良心がそれを責めるならば、祈り、過ちを正し、再び同じ罪に陥らないよう、また私に赦しを請うことを繰り返さなくて済むよう、力を蓄えなさい。私の言葉は、あなたがたが正しい霊性の道を開けるよう教えるものである。（49, 32-33）

141.
「私は悩んでいる」と、私は私の言葉を理解せず、私の死の苦しみを見て喜んでいたあの群衆に言った。今日、私の痛みを感じることなく、単なる群衆ではなく、全世界が私の霊に傷ついているのを見て、私は一体何と言えようか。

142.
私の渇きは限りなく、計り知れないほど大きく、ただあなたの愛だけがそれを満たすことができる。なぜあなたは、愛の代わりに、表面的な捧げ物を私に捧げるのか。私が求めているのに、あなたはなぜ私に背を向け出ていることを許すのか。（4, 74-75）
143.
まことに、あなたは言う。多くの苦しみを経い、しばしば私を傷つける者たちこそ、私を最も熱烈に愛するようになる。彼らの心からは、私の神性の捧げ物が絶えず流れ出ようと。
それは物質的な贈り物でも、詩篇でも、地上の祭壇でもない。彼らは兄弟たちに対して行う愛の行いこそが、私にとって最も喜ばしい捧げ物であり、崇拝であることを知っている。（2, 5）
144.
日々、あなたの霊性の祈りは、あなたの地上の言葉では理解できない言葉で、私のもとへ届いている。それは、あなたの唇から発せられた言葉でも、あなたの知性によって形成された概念でもなかった。霊の祈りは、人間の耳が感覚器官を通して聞くずっと前に、深遠である。
145.
その祈りの中で、霊は高次の霊たちが住む光の領域へと至り、そこでその恵みを分け与えられ、その後、その体へと戻って、そこに力を注ぐのである。（156, 63-64）
146.
人々よ、あなたが祈ることを理解できる時が、あなたが言った。今日、私はあなたがたに、地上の代弁者は言わない。唇で祈ることを教えたり、美しい祈りの言葉を作り出すことも教えない。
今日、私はあなたがたにこう言う。心の中で私に向きなさい、魂を高めなさい。そうすれば、私は常に降りてきて、私の存在をあなたがたに感じさせてあげよう。もしあなたが神の語り合う術を知らなくても、あなたの悔い改め、思い、痛み、そして愛があれば、それで私は十分である。
147.
これこそが、私が聞き取り、理解する言葉、すなわち言葉ではなく真実と調和の言葉である。これこそが、私の第二の時にあなたが教えた祈りである。
148.
あなたが静まりなさい、父よその時、あなたは非常に近くおられるので、あなたは私の平安、安らぎ、そして幸福感を感じるはずである。（58, 53-55）
149.
私は、人間の虚栄心が生み出したありとあらゆるものを拒絶する。なぜなら、私の霊に届くのは、霊的なもの、高貴で真実なもの、清く永遠なものだけだからである。
私がサマリアの女に言ったことを思い出してください。「神は霊であり、神を礼拝する者は、霊と真理をもって礼拝しなければならない。」無限なるもの、清らかなものの中で私を探しなさい。そうすれば、そこで私を見つけるでしょう。
150. なぜ、私があなたたちのために創造したものを、私に捧げるのか。なぜ、あなたたちが作ったものではないものを、私に贈るのか。
それに対して、もしあなたが、愛、慈悲、赦し、正義、隣人への助け合いの行為を私に捧げるならば、その捧げ物は確かに霊的なものとなり、子供たちが地上の主人へと送る愛情のこもった贈り物のように、父のもとへと届いていくであろう。（6, 26, 29）
151.
また、あなたの神の崇拝の霊的な集会所に限定することもない。そうすれば、あなたは自分の霊的な視野を広げ、永遠の報いを得るためにその霊を広げることができるようになるからだ。
152.
私があなたがたに与える私の教えと捧げ物のための祭壇は、あらゆる制限を超え、あらゆる宗教、あらゆる教会、あらゆる宗派を超越した生命そのものである。なぜなら、それは霊的なもの、永遠なるもの、神聖なるものに根ざしているからである。（194, 27-28）

神と人間の対話

153.
今日、私は、一度理解されれば、たとえ他の人々には実現不可能に見えるとしても、最も容易に実現できる教えを携えて、あなたがのところに来る。
私は、あなたの祈りに行い、そして特定の場所にのみ出向いて唱えるものではなく、霊感を受けるために儀式的な行為や像を必要としない、霊的な祈りを通して、神の愛を教える。（2, 21）

154.
人々が私の声に、遠く離れた、近くからでも、神を見出そうとしていた一方で、私は、私が彼の目のまえにおり、彼らに近いことを彼らに証明しようと決心した。

155.
彼らは機械的に祈りを唱えることがすべてであり、実現しないのを見ると、落胆して「神よ、私たちに耳を傾けてくださらなかった」と叫ぶ。

156. もし彼らが私のことを理解し、心と理性を結びつけるならば、彼らは静寂の中でこの内なる御声（ ）を聞き、主の御臨在が彼らに非常に近いことを感じ取ることができるだろう。しかし、彼らが儀式を通じて私に祈っているのに、どうして私の御臨在を感じ取れるというのか。
自分たちの手で作った像を通して主を礼拝しているのに、どうして彼の魂が豊かになるだろうか。

157.
私は、私があなたがたに非常に近くにいること、あなたがたが容易に私と結びつき、私を感じ、私の霊感を受け取ることができることを、あなたがたに理解してほしい。（62, 17-20）

158.
霊の神秘に満ちた清寂を実践なさい。この清寂は静かな泉のようなものであり、そこに入る者は皆、私の知恵の賜物で満たされる。
清寂は、破壊不可能な壁で囲まれた場所のようで、そこに立ち入ることができるのは霊だけである。人は、神とつながることができるその秘密の場所についての知識を、常にその内面に携えている。

159.
あなたがたがどこにいようとも、その場所は重要ではない。山の頂にいようとも、谷の底にいようとも、都会の雑踏の中にいようとも、家庭の安らぎの中にいようとも、あるいは戦の真っ只中にいようとも、どこでも出会うことができるのだ。
もしあなたがたが、高揚感に満ち溢れた清寂の中で、心の聖域の奥深くにおいてさえあるならば、宇宙的な目に見えない神殿の門は開かれ、あなたがたの霊の中に存在する、あなたがたの父の家に、あなたがたが真に身を置いていると感じられるようになるでしょう。

160.
試練の痛みがあなたを押しつぶし、人生の苦しみがあなたの感情を打ち砕くとき、少しでも平安を得たいと切に願うなら、寝室に引きこもるか、野原の清寂へ孤独をめざせ。そこで、御霊に導かれて魂の天空へ深く入り込みなさい。
清寂は霊の領域であり、肉眼は見えない領域である。

161.
霊が光悦境に入る瞬間、高次の感覚が覚醒し、直感が働き、霊感が閃き、未来が予感され、霊が生まれる遠くにあるものがはっきりと認識し、かつては夢のないと思われたことを可能にする。

162.
もしあなたがたがこの聖域、この至聖の清寂に入ろうとするならば、自ら準備をしなければならない。なぜなら、真の清らかさをもつのみ、そこに入ることができるからである。（2, 36-40）

163.
人類を救うために、私が選ばれた器たちを用いたいと願う理由がある。なぜなら、野心と暴力に目がくらんで自己破滅的な方向へ向かう人類を、平和へ導こうとする者たちは、その使命に取り組み、福音を伝えることを恐れてはならないからである。

164.
もし人が霊をもって祈ることを知っていたなら、彼らは私の声を聞き、私の霊を受けるだろう。しかし、彼が祈るとき、彼の霊性自体はばらばらであり、私の霊はどこかに隠れてしまう。
私は、人の内的な休みである瞑想に彼のことを誘い、その魂を目覚めさせ、呼びかけ、語りかけなければならない。深く夜に沈むようにあなたの心を沈め、そこに愛の種を蒔くのはキリストである。（67, 29）
165.
祈りながら同時に瞑想することを学びなさい。そうすれば、あなた方一人ひとりの内に、認識と理解が光として現れるでしょう。（33, 7）
166. 霊性とは自由である。
それゆえ、今、私を信じ、この精神性教えの真意を理解した者たちは、自分たちの前に広大な啓示が開かれるのを見ている。そこでは、全能の創造主である神が、神と人間との対話を築くために来られた時が来たことを、彼らは戦い、証しすることになるのだ。（39, 8）
167.
キリストの教えは霊性そのものであったが、人はそれを、高みへと至る魂たちの理解の範囲内に収めるために、儀式や形式で包み込んだ。
168.
あなたがたは、霊の時代、すなわち大いなる啓示の時代に入った。そこでは、あらゆる宗教や物質に基づく不完全さが消え去り、すべての人間は自分の霊を通して、全き霊であるその神を知るようになる。その道において、人は全く新しい方法で見出されるだろう。（195, 77-78）
169. 人が一度、私の霊と交信する方法を学べば、もはや本を調べたり、質問したりする必要はなくなる。
170.
今日、人は自分より多くの知識を持っていると信じる者たちに導かれ、真理を見出そうとして書物や教義を探し求めたりしている。（118, 37）
171.
もしあなたが、毎日、瞑想することを学び、その瞑想が霊性と関係するものであれば、他のいかなる方法でも得ることのできない、無限の識見を発見し、啓示を受けることになるだろう。
172.
あなたの魂はすでに私に問いかけ、私の答えを受け取るのに十分な光を持っている。人間の魂はすでに高い発展段階に達している。
謙虚な心を持つ人々を観察してみよ。彼らは誰に教えられるまでもなく、その深遠な霊的な他の人々にとっては不可解な事柄を、いかに明快に自ら説明しているかによって、人々を驚かせる。彼らはそれを本や学校から得ているのだろうか。いいえ。しかし彼らは直感的な必然性から、霊性を祈りの一部である瞑想の対象を見出したのである。
外界の影響や情報から隔絶された孤独の中で、彼らは永遠なる霊性なるもの、真実となる道を見出した。その程度はそれぞれ異なるが、人生の真理について瞑想した者たちは皆、その大性の中に霊性を受け取っている。（140, 43-44）
173.
あなたは、祈りとは何であるかを私に問う。私はこう答える。それは、あなたの霊が自由にのびのびと昇ることを許すことである。完全な謙虚さをもって、その流れを受けることである。心と性をもって、霊によって受け取れた啓示を受け入れることである。真の謙虚さをもって、父の御心を行うことである。
このように祈る者は、人生のあらゆる瞬間に私の存在を喜び、決して空虚を感じることはない。（186, 11）
174.
この時代、私はそのすべての最も秘められた部分、すなわち霊において私の律法を記し、私の声を響かせ、私の祝福を築くであろう。なぜなら、人の内側にないものは、その魂にないものは、存在しないも同然だからである。
175.
たとえ私の栄光のために巨大な教会堂を建てようとも、たとえ私に華麗な典礼を捧げようとも、その捧げ物は私に届かない。なぜなら、それは霊性のものではないからだ。

あらゆる人的な援助は、常に虚栄と見せかけが伴っている。それに対し、人を通して捧げられる奉仕――世の目には触れず、あなたがた霊から霊へと私に捧げるもの――は、その謙虚さ、誠実さ、真実ゆえに、一言で言えば、それが霊から生まれたものであるがゆえに、私の元へと届くのである。

176.

「第三の時」に与えられた、ファリサイ人と徴税人のたとえ話がある。あの私のたとえを思い出してみなさい。そうすれば、私の教えがいつの時も変わらないものであることがわかるだろう。（280, 68）

177.

ある人は、それに値しないにもかかわらず愛されていることを知っている。私はそのようにあなたがたを愛している。あなたの十字架を私に委ねよ。あなたの挫折を私に委ねよ。あなたの打ち砕かれた希望を私に委ねよ。あなたが背負っている重荷を私に委ねよ。私はあらゆる苦痛に対処する。

あなたがたが幸せになれるよう、その重荷から解放されなさい。私の愛の領域に入り、宇宙の祭壇の前で憩い返しなさい。そうすれば、あなたがたの霊は、最も美しい言葉、すなわち愛の言葉をもって、父と語り合うことができるでしょう。（128, 73）

第8章　慈しみの業と愛の中心的な重要性

善をもたらす後世の祝福

1.

あらゆる種類の悩み、苦しみ、痛み、困難、窮乏、至る所に存在するその痛みの最も小さな一つ一つに対して、あなたの心がますます思いやりに満ちていくようになさい。

2.

もしあなたがたの内なる存在の深くで、善を行うという喜びと高貴な衝動を感じたなら、その衝動に身を任せ、それを表に出しなさい。それは、魂が、そのメッセージを伝えるために、進んでそれを受け入れる準備のできた身体を見つけたからである。(334, 3-4)

3.

愛の行いをあなたの努力の中で最優先するようにしなさい。そして、慈善を行うことを決して後回しにしてはならない。なぜなら、この美徳によって、あなたは人生における最大の満足と幸福を得ると同時に、あらゆる高潔な魂が所有するすべての知恵、力、そして高潔さに到達するからである。

4.

隣人への慈悲によって、あなたは救われ、そのようにして過去の負債を清算することになる。あなたは人間としての地位を高められ、霊的な地位向上させることになる。

5.

そうしていつかあなたが全員が叶うことになるその門にたどり着いたとき、あなたがの至福は極めて大きなものとなるでしょう。なぜなら、霊界があなたがたに投げかける賛美の声を聞くことになるからです。霊界はあなたがたを祝福し、尽力した霊の業と呼ぶのです。（308, 55-56）

6. 私はあなたがたに告げる。自由と健康を失った人の苦しみを感じ、彼らを助ける私の働き手たちは祝福されるであろう。なぜなら、いつの日か彼らは再び会うことになるからだ――この世であれ別の世であれ――そして、その時は彼らに愛のメッセージを届けた者たちよりも、彼らの方がより多くの健康、より大きな自由、そしてより多くの光を持っているかもしれないのだ。その時、彼らは感謝の念をもってその恩を返し、かつて彼らに手を差し伸べてくれた者に、自ら手を差し伸べるだろう。

7.

あなたがたが彼の心に私の言葉を届けたあの瞬間――あなたがたの手が彼の額に触れ、彼らに私を思い、私を感じさせたその瞬間は、決

して彼の魂から消えることはない。同様に、彼の心の中であなたの顔や声のように忘れ去られることもない。それゆえ、あなたがどこにいようとも、彼はどこであなたを思い出すだろう。(149, 54-55)

8.

そして大勢のあなたを慕う人々のように、わが民よ、あなたも私を慕うべきである。今こそ、助けを必要とし、苦しんでいる人々が溢れている時である。あなたが奉仕する者は他者ではなく、あなたの救いのために働くという恵みをあなたに与えてくれているのだと理解せよ。

その人はあなたに感謝の機会を与え、それによってあなたが名に値しようとしているのだ。なぜなら、人の世は善の種子をくわえて生まれたのだから。だから、あなたが何かをする者は、実はあなたに恩恵を与えているのだと理解せよ。(27, 62)

真の慈善と偽りの慈善

9.

おお、弟子たちよ、あなたの最初の務めは、愛の行いとなるであろう！多くの場合、あなたはそれをひそかに、自慢することなく行うだろう。右手が何をしたかを左手に知らせることなく。しかし、あなたの愛の行いが周囲の人々に見られるべき機会もある。そして、彼もそれに加わることを学ぶためである。

10. 報いについては心配するな。私は、子供たちの行いをつぶさに、正義をもって報いる父である。

11. あなたがたに言うように、真の愛をもって一杯の水を差し出すなら、それは報いられずに終わることはない。

12.

わたしのもとに来るとき、主よ、わたしの行いの報いとして何も望みません。ただ、あなたの子供であるという存在、そのことだけで満ち足りています」と、わたしに言う者たちは幸いである。(4, 78-81)

13.

自分の魂の救いや報いばかりを考えて、利己的になってはならない。なぜなら、あなたが霊界に旅立つ時、実際は何の報いも得ていなかったと気づき、その失望は極めて厳しいものとなるからである。

14.

私が言わんとしていることをよりよく理解してもらうために、次の例を挙げよう。これまで、そして今なお、同胞に対して慈善の行いをすることに熱心に取り組んできた男がいる。それにもかかわらず、彼が私のところに来たとき、霊性を高めるための功績を示すことができなかった。その理由は何だと思うか。彼が父なる神による不正の犠牲者であったと想像できるか。

答えは簡単だ、弟子たちよ。彼の行いに謙虚さがなかったため、彼は自分自身の利益として何一つ良いものを得ることができなかったのだ。なぜなら、彼が手を差し伸べて何かを与えようとしたとき、それは貧しい者に対する真の慈愛からではなく、自分自身のため、自分の魂の救い、そして自分の報いを考えて行っていたからである。

ある者は自己によって、またある者は虚栄心によって動かされていたが、これは真の慈愛ではない。なぜなら、それ自からのものでなければ無私の行為でもないからだ。私はあなたがたに言う。心の中に謙虚と愛情を持たない者は、真理を得ることもなければ、報いを得ることもないのだ。

15.

表面的な慈善は、この世において、あなたがたに多くの満足をもたらすかもしれない。それは、あなたがたが世間に評価や受け入れられるものである。しかし、見かけのものは私の王国には入り得ない。そこへ入るのは、真実なものだけである。

そこでは、あなたがたが皆、わずかな光しか放っていないことに、たじろぐことになる。

なぜなら、あなたがたが神の御前に現れる前に、華やかな装い、冠、勲章、称号、そしてこの世に属するすべてのものを脱ぎ捨て、至高の創造者の御前に、その創造主に対して自分に託された任務について説明責任を果す、ただの一つの魂として現れることになるからだ。(15, 22-24)

16.

愛をもって隣の役に立ちたいと願う者は、人生が提供する数多くの道のうちのどれか一つを通して、善き奉仕者となる。彼は自分が極めて高

き目的のために神の御心によって用いられることを受け入れるべき人間であることを知っている。
おお、弟子たちよ、私はあながたを確信を得て、向上の道を失った者たちをその過ちから解放してほしいと願う。
17.
真の愛――すなわち、人間心の感情を越えた愛は、知恵の果実である。見よ、私が言葉によって、あなたがの想像の世界を照らす。そしてその後、私はあなたがの愛の果実を期待する。
18. 善行の方法、慰め、奉仕する方法は数多くある。それらはすべて、唯一無二の愛、すなわち霊の知恵である愛の表現である。
19.
ある者は地の道を歩み、ある者は霊の道を歩み、またある者は感情に導かれるかもしれないが、そのすべてが合わさって、霊性は調和をもたらすのである。(282, 23-26)

霊性および物質性愛の活動

20.
もしあなたが物質的に貧しく、そのために隣人を助けることができないとしても、嘆いてはならない。祈りなさい。そうすれば私は、何もない場所に光を輝かせ、平和が訪れるように導くであろう。
21. 同情と生まれる真の隣人愛こそが、あなたがたが周囲にいる人々に与えることのできる最高の贈り物である。
もし、一銭、一切のパン、あるいは木の水を施すに、隣人への愛が込められていないならば――まことに、私はあなたに言う、その時は何も与えていないのと同じであり、むしろ、与えるものを持たないほうがあなたにとって良いことである。
22.
人類よ、いつになったら愛の法則を理解しようとするのか。今日に至るまで、あなたは、命の源であるその法則を一度も使用したことがない。（306、32-33）
23.
周囲にいるすべての人々を敵と見なすのではなく、兄弟と見なせ。誰に対しても罰を与えず、寛容であれ、そして赦しの模範を示し、心良しの言葉をかけるようにせよ。口を閉ざし、あなたのことは私にまかせよ。
24.
病人を癒し、混乱している者たちに理性を取り戻させてやりなさい。精神霊たちを悪霊を追い払い、両者が失った光を取り戻すようになさい。（3, 58-59）
25.
弟子たちよ。「第二の時代」において私が教えた、互いに愛し合うというその原則は、あなたの生活におけるあらゆる行いに適用されるものである。
26.
ある者が私にこう言う。「師よ、私は肉体労働に明け暮れる取るに足らない存在ですが、どうして隣人を愛することができるでしょうか？」
27.
このような子供のような弟子たちに、私はこう言う。一見無意味に見えるこの肉体労働であっても、あなたがたが同胞に奉仕したいという願いを持ってその仕事に取り組めば、隣人を愛することができるのだ。
28.
もしすべての人が、善行という思いを胸に懸命に、自分のささやかな努力を他の人の努力と結びつけるとしたら、あなたの人生がいかに美しいものになるか、想像してみてください。まことに、私はあなたがたに言います。そうすれば、もはや悲惨な存在はなくなるでしょう。しかし、現実には、誰が自分のために懸命に、自分自身のことばかり、自分の家族のことしか考えていないのです。
29.
あなたがたは皆、誰一人自分だけで生きることはできず、他者を愛していることを知らなければならない。あなたがたは皆、共に果たすべき普遍性の使命に深く結びついていることを知らなければならない――しかし、それは地の義務によって結ばれているのではなく、志霊

感。そして理想。一言で言えば、互いへの愛によって結ばれているのである。
そうしてこそ、その実はすべての人の幸福となるのだ。（34、35-37）
30.
愛の律法なき弟子たちよ、私はこう言おう。もしあなたがが、私がイエスにおいて成し遂げたような完全な業を行うことができないとしても、せめて人生において、それに近づこうと努力すべきである。
私にとっては、私なおうとするわずかな善意と、隣へのわずかな愛を見るだけで十分であり、そうすれば私はすであなたのそばにいて、あなたの道のりに私の恵みを注ぐのである。
31.
あなたがは決して、戦の最中に独ぼっちになることはない。あなたがが罪の重荷に押しつぶされそうになっている時でさえ、私があなた方を独りにはしないのだから――この愛撫という十字架の重荷を背負って貰う時、私があなた方を含むとでも思うのか。（103, 28-29）

愛の普遍的な意味
32. いつの時も、私の教えは、あなたがの最も内なる本質が愛であることを明らかにしてきた。
33.
愛は神の本質である。すべての存在は、生きるために、ここから汲み取っている。そこから生命と全創造が生まれた。愛は、父によって創造されたすべてのものの運動における源であり、目的である。
34.
すべてを動かし、照らし、生かすその力の前では、死は消え去り、罪は消失せ、憎しみは逃げ去り、不純物は洗い流され、不完全なものはすべて完全なものとなる。（95, 32）
35.
わたしは、わたしの存在と、あなたがの存在の理由を明かした。命を授け、万物に魂を吹き込む火にその愛であることを、あなたがは明かした。愛こそが、あらゆる生命の源である。
36. 見よ。あなたがは愛から生まれ、愛によって存在し、愛によって救いを得、愛によって永遠に存在することとなる。（135, 19-20）
37.
愛こそが、あなたの存在の源であり、理由である。おお人よ。この暗闇の中に、どうして生きられようか。私を信じなさい。自分の神、死をおそれてはいけない。ただ誰も愛さないがゆえに、病んでいる者も大勢いるのだ。
多くの人を救う癒しの香油は愛であり、真の命とはかけらほども賢い、高ぶってくれる神は暗闇をまた愛である。（166, 41）
38.
愛なき、愛なき者は、人生において最も美しく、最も高貴なものを持ち合わせておらず、それを感じることができないという深い悲しみを心に抱いている。
39.
これこそが、キリストが自身の死をもってあなたがたに教え、また聖餐の晩餐の中で遺されたものであり、それは「わたしがあなたがたに示したその愛をもって、互いに愛し合いなさい」という言葉に要約されている。
40.
愛なき者たちが、その苦しさや痛みから解き放たれ、私のもとに来るとき、私の限りない優しさに満ち、愛の言葉に耳を傾ける時、彼らはかつて立ち返ったその日が来るであろう。
41.
まことに、わたしはあなたがに告げる。愛の中にこそ、わたしの力、知恵、そして真理がある。それは、下位の段階から、完全性を成した至高の霊に至るまで、様々な形で現れる、計り知れないほど長い梯子のようなものである。

42.
たとえそれがあなたとなりの方法であっても、愛なさい。憎んではならない。憎みと敵対が、愛によって出会い、あらゆる争いは消えるからである。（24, 34-36）
43.
私はあなたに告げる。愛を言葉の形で、かつ絶対的証拠をもって表さない者は、愛していないのだ。その者は真の知識を持たず、所有するものはごくわずかである。
それに対して、全霊と与えられたすべての力をもって愛する者は、その内なる眼の光を宿し、自分を取り巻くすべてのものの真の所有者であることを感じるだろう。なぜなら、父が持つものは、その子供たちの所有物でもあるからだ。（168, 11）
44. 愛は、科学の険しい道において、学者の精神が探している真理を理解するための知恵を、あなたに与えてくれる。
45.
すべての行い、言葉、そして思いにおいて、自分があなたを導くことを許しなさい。自分の愛に満ちた導きに従って自己を整えれば、あなたは神の愛を見ることとなる。そうして、あなたは神と調和するようになるため、神に近づいていると感じるだろう。
46. 愛すれば、イエスのように柔和でいられるようになる。（21, 10-12）
47.
愛する者は理解し、学ぶ者は意志を持ち、意志を持つ者は多くのことを成し遂げることができる。言っておくが、魂の全力を尽くして愛さない者は、魂の真の知恵を得ず、偉大な業を成し遂げることもない。（24, 41）
48.
あなたがの心を痛ませてはならない。なぜなら、それは万物がそこから生まれ、万物が新たに生かされる、あの御方の永遠の火を象徴しているからである。
49.
霊は、身体を通じて愛するために必要である。もしあなたがが物質の法則に従ってのみ愛するなら、その愛は制限があり、はかないものとなる。しかし、もしあなたがが霊において愛するなら、その感情は永遠にして完全、かつ不変であるべき感情となる。
50.
すべての生命とすべての被造物は、霊と関係している。なぜなら、霊は永遠の命を持っているからだ。自分を制限してはならない。私を愛し、互いに愛し合いなさい。あなたがは、『存在』という神の名を宿しており、その愛は限りなく、それこそが神そのものだからである。（180, 24-26）
51.
山頂へと続く道を登りなさい。一歩一歩進むごとに、私の教えをより深く理解し、神のメッセージの解釈においてますます完璧になっていくでしょう。
52. 霊の言語とは何だろう。それは愛である。愛はすべての霊が普遍的に言語である。
人間性愛とは、語ることに気づかないのか。多くの場合、言葉は不要であり、行動と思考を通じてよりよく語られる。人間性愛がすでにこのように表されるならば、あなたがが私の律法において完成したとき、その言葉はどのようなものになるだろうか。（316, 59-60）
53.
私が知恵そのものであるとあなたがが考えるならば、その知恵は愛から発生するものである。あなたがが私を救い手として認めるならば、それは愛に基づいている。あなたがが私をお与えの父と見るならば、私の力は愛に根ざしている。
私が永遠であることを知れば――私の永遠性は愛に由来する。なぜなら、愛こそが命であり、命こそが死を不死にするからである。
54.
愛とは命であり、知恵である。そして、この種を、私は太古の昔からあなたに与えてきた――完全なる霊として、あなたの心という畑に蒔かれた唯一の種である。（122. 23）

愛の芸術の力

55.

世の男女は、あなたがたは自分たちを貧しく、幸せにすることができる唯一のものを、その大事の中で忘れてしまった。あなたがたは、万物を鼓舞する愛、すなわち、万事を成し遂げ、万物を変容させる愛を忘れてしまったのだ。あなたがたは暗闇の中に生きている。なぜなら、私が教える愛を知らないがために、あなたがたは自分の肉体的、あるいは精神的苦しみを増大しているからである。

56.

私のメッセージを発見し、理解するためには、まずから愛で満ち、穏やかでなければならない。これは、あらゆる創造されたその瞬間から備えている義務である。しかし、

の愛という真に高貴な感情を感じ取るためには、善なる感情を育てることによって精神性高くなければならない。それにもかかわらず、あなた方は生においてあらゆるものをめようとしたが、ただ一つ、霊性愛だけはめようとしなかった。(16, 31-32)

57. いつの時代にも、愛の福音を教えてくれる導き手たちがいた。

彼らは、私の律法に対するより深い理解、その行いにおけるより大きな清らかさを備えた、あなた方より進んだ兄弟たちであった。彼らは、迷いと罪に満ちた生活を善性と霊性、そして真の隣人愛に満ちた存在へと変えることで、強さ、愛、そして謙虚さの模範を示してくれたのである。

58.

幼児期から成人に至るまで、愛によって何が達成されるか、また隣人愛のないがどのような苦しみをもたらすかについて、明確な手本を与えられてきた。しかし、岩より冷たい無感覚、あなたがたは、日々の生活から与えられる教訓や手本から学ぶことを望まなかった。

59.

愛の呼びかけに、猛烈にそして優しく応えることを一度でも経験したことがあるか。自然の要素から、物質に霊に存在するすべてのものは、同じように応えうるのだ。

60. それゆえ、私はあなたがたに、宇宙の父であり創造主である御名において、すべてを愛をもって祝福すべきと言うのだ。

61.

祝福するとは、満たすことである。祝福は、善感じ、それを語り伝えることである。祝福は、あなた方周囲すべてのものを、愛と思いで満たすことである。(14, 56-60)

62. まことに、あなたがたに告げる。愛こそが、宇宙を動かす不変の力である。愛は、生命の源であり、その意味である。

63. 私は今、すべての人のための霊性復興の時代を切り開く。

――それは、私が宇宙の高みからこの世に遣わした人々が私に教えたように互いに愛し合うならば、死はこの世から消え去れ、その代わりに命が人々に満ち、彼らのあらゆる行いの中に現れるであろうと告げた、あの祝福された愛の重要な私が開花させる時である。(282, 13-14)

V. 神の名の神聖性

第9章 神の三位一体

神とキリスト、そして聖霊の一体性

1.
私の言葉の光は、この第二の時に人々をつまずかせるだろう。私の真理はすべての人の心に輝き、それによって誤解されやすい私の本質を消し去るだろう。

2.
今日、ある者はエホバとして私を受け、キリストを否定し、またある者はキリストとして私を受けエホバを認めない。ある者は聖霊としての私の存在を認める一方で、またある者は私の三位一体をめぐって争い、分裂している。

3.
さて、私はこの類の、彼らを霊的に導く者たちに問う。なぜあなたがたは、真の神は一体であるというのに、互いに論争するのか。もしあなたがたがエホバにおいて私を受けるなら、あなたがたは真理の神である。もしあなたがたがキリストを通して私を受けるなら――彼は道であり、真理であり、命である。もしあなたがたが聖霊として私を受けるなら、あなたがたはみな近く。

4.
あなたがたはただ一人の神、ただ一人の父がいない。神の中に存在するこの三つの性格はなく、ただ一つの神聖霊が三つの異なる発展階段において類自己を見ただけである。この深みと広さ以前、人類がその痕跡のうえに、ただ一つの神聖霊が存在しない場所に、三つの性格を見と言うのである。だから、もしあなたがたが「エホバ」という名を聞くなら、神は父であり、救い主であると考えるがよい。
キリストを思うときは彼の中に自己を、愛として神を認識しなさい。そして、聖霊の源を探ろうとするなら、より進んだ弟子たちその計り知れない知恵を与えられた聖霊は、他ならぬ神そのものであることを知れ。

5.
もし私が旧約の類に、今日のように霊的に発達した状態に出会っていたならば、私は彼らに父として自己を、そして聖霊として自己を現したであろう。そうすれば、人々はただ一つの神しか存在しないのに、三つの神性を見ることなどなかったろう。
しかし、彼らは私の教えを正しく理解することができず、混乱し、私の道から遠ざかって、自分たちの想像から、身近にいさせ神を作り続けていたであろう。

6.
人々が真理を理解し、受け入れるやいなや、彼らはほんの少しの愛のあかしだけではあの過ちのために、互いを憎んでしまったことを悔やむようになるだろう。

7. もしキリストが愛であるならば、私が愛であるにもかかわらず、キリストがエホバから独立しているなどと言えるだろうか。

8.
聖霊が愛であるならば、私が愛であるにもかかわらず、その霊がキリストとは独立して存在すると信じるのか。あなたがたは、「言葉」と聖霊が別物であると考えているのか。

9.
イエスが類を教え導く前の部分は終っているだけでも、神はただ一人しかおらず、永遠にただ一人であるということを理解するには十分である。それゆえ、私は彼を通してこう言った。「子を見ている者は父を見ている。なぜなら、
、彼は父の中におり、私は彼の中にあるからだ。」その後、彼が別の時、人々のところへ戻ってくると告げたとき、彼は弟子に「私は再び来る」と言っただけでなく、聖霊すなわち慰め主の霊、真理の霊を送ると約束した。

10.
なぜキリストは聖霊から離れて来なければならないのか。彼が聖霊の中に、真理の光と慰めを携えて来ることができないというのか。（1, 66-70, 73-76）

11. わたしはあなたがたの師である。しかし、わたしを決して切り離して見てはならない。なぜなら、わたしこそが父からである。

12. 御子と聖霊の間違いをするな。なぜなら、聖霊は御子の霊であり、その霊こそが私からである。

13.
あらゆる時を通じ私の名の中に、多様異なる教訓によってあなたを教導してこれは唯の神見よ。それは多くのページを持つ一冊の本である。(156, 4)

神ヨエの名の性方

14. 今や、あなたがたは父が御使いで名づけられた理由を知り、また三位一体という用語に関する人々の誤った理解をしている。
15.
もはや、私の姿をあなたの想像の中で肉体的形にしようとしてはならない。なぜなら、私の霊はお分かりでないからである。知性、愛、あるいは聴覚がないのと同じように。
16.
私がこう言うのは、多くの人が父を思うとき、私を老人の姿として想像しているからだ。しかし、私は老人ではない。私は時間の外におり、私の霊には歳がないからだ。
17.
あなたがたがキリストを思うとき、すぐ心の中にイエスの肉体的姿を形作ってしまう。しかし、私はあなたがたに言う。肉体に生まれた神の愛であり、私の人間となった御言葉であるキリストは、その肉体という衣を離れたとき、彼が生まれ出た私の霊に融合したのである。
18. しかし、あなたがたが聖霊について語る時、何らかの形の聖霊を想像しようと、ほとんどの人が陥る。
しかし、私はあなたに言う。彼の時代は終わったのだ。それゆえ、聖霊の影響下にあると感じる時、あなたはそれを霊感として、あなたの霊におけるささやきとして、不確実な謎、闇雲な予感として受け取るのだ。(39, 42, 44-47)
19. 時が経つにつれ、人々はイエスについてますます明確なイメージを持つようになってきた。
キリストを通して私を知る者たちは、モーセの律法を通しての私を知る者たちよりも、真理に近い認識を持っている。かつて人々がその正義を恐れ、従い、服従していた神は、後に彼の心の中にキリストの愛の種が芽生えたとき、父であり師である
として求められるようになった。(112, 3)
20.
私は時を超越し、すべての被造物を超えている。私の神聖な霊は、発展の法則に支配されることはない。私は永遠であり、完全である――
あなたがたとは異なり、あなたがたは始まりがあり、あなたがたは発展の法則に完全に支配されており、さらに、あなたがたの存在の性質は時の流れを感じているのだから。
21. だから、父はただ一つの時代に属し、キリストはその時代に、そして聖霊はまた別の時代に属しているなどと言ってはならない。
なぜなら、父は永遠であり、しかなる時代にも属さない。むしろ、時はその内のものである。また、キリストは肉体としてこの世を去った後、神そのものであり、聖霊はまた、あなたがたの父そのものであり、あなたがたの間にしかなる他の神格をも介さず、その最高の顕現形態を構成しておられるのである。(66, 43)
22.
私は、あなたがたが「父」と呼ぶものは、唯一の被造物ではない、全宇宙の創造主である神の絶対的力であり、あなたがたが「子」と呼ぶものは、
キリスト、すなわち、被造物に対するその完全なる愛の顕現であり、また、あなたがたが「聖霊」と呼ぶものは、あなたがたの霊、私の名をよりよく理解できるようになったその時に、神からあなたがたに送られる慰めである。
23.
その聖霊の光、すなわち神の慰めは、まもなく、あなたがたが経験を重ねているこの第三の時代において現れ、霊的な渇望、真理を探し、愛を創り出す人類の思考を照らすであろう。
24. 民よ、一つの神が、たとえ二つの異なる顕現を通してとはいえ、人々に自身を見せたことは真実である。
もしあなたがたが、あの第一の時代の父の御業の中に愛を求めるならば、それを見つけるであろう。また、もしあなたがたが人類の光を求めるならば、それを見出すであろう。それは、キリストの御業と御言葉の中に、愛だけでなく、力と知恵とに出会うのと同じことである。

それならば、この時の聖霊の働きの中に、力、律法、権威だけでなく、愛、優しさ、そして癒しの香油を見出したとしても、何もおかしなことだろうか。（193, 20-21, 259 25-26）

25.

律法、愛、知恵――これらは、人間が自身の成長の道において、創造主である神について完全な認識を持つことができるよう、私が人間に自らを現した三つの形態である。これら三つの形態は互いに異なるが、それらはすべて同一の源から来ており、その全体として絶対的な完全性を成している。(165, 56)

26.

わたしの神は、裁き主、父、そして師である――一つの存在の中に三つの異なる顕現の階層、三つの力の中心、そして一つの本質、すなわち愛がある。（109, 40）

27. 私は、あらゆる時において、あなたがたの前に啓示してきたエホバである。

私はいつの時も、あなたがに語りかけてきた唯一の神である。キリストは、イエスを通してあなたがに語りかけた私の言葉である。彼はあなたがにこう言った。「御子を見る者は、父を見る。」そして、今日あなたがに語りかけている聖霊も、やはり私である。なぜなら、聖霊はただ一つの言葉、ただ一つのあり、それは私のものからである。

28.

聞け、わが弟子たちよ。第一の時代には、わたしはあなたがに律法を与え、第二の時代には、あなたがたがその成就を切望すべき愛を教え、そして今、この第三の時代において、わたしはあなたがに光を送る。それは、あなたがたが啓示されたすべての事柄の真意を深く理解するためである。

29.

それなのに、なぜ、ただ一つの神聖な霊、すなわち私のものである霊が存在しない場所に、どうしてもこの神格を見出そうとするのか。

30.

わたしは最初の時代に律法を与えたが、それでもなお、モーセに、わたしがメシアを遣すことを告げた。わたしがあなたがに言葉を与えたキリストは、その使命の終わりが近づいた時、こう言った。『わたしは、わたしがそこから出てきた父のもとへ帰っていく。』また、彼はこうも言いました。『父と私は一つである。』しかしその後、彼は私の意志に従い、またあなたがの成長に合わせて、私の啓示の神秘を明らかにしてくれる真理の霊を、あなたがに遣すと約束しました。

31.

しかし、誰が私の真実に光を当て、これらの神秘を説明することができるだろうか。私以外に、私の知恵の書を印刻することができる者がいるだろうか。

32.

まことに、あなたがに告げる。あなたがが現在、エホバやキリストとは別のものであると考えている聖霊は、あなたがに真理を理解させ、見させ、感じさせるために、私があなたがの霊に啓示する聖なる知恵ではない。（2, 22-27）

33. 神としての私の啓示、すなわちあなたがが律法を学ぶものを、

父としての私の啓示、すなわち無限の愛を明らかにするものと、師としての私の教え、すなわち知恵を明らかにするものを、心と霊において一つに結合しなさい。そうすれば、あなたがはこれらすべてから一つの本質、一つの神聖な意志を受け取るだろう。それは、あなたがが霊性の道を通って私のもとに来ることである――それは単にあなたがへの啓示にすぎないものなのだ。

私は、私自身の王国であるあなたがの内にある、永遠に存在し、常にそこにいる私自身の霊である。（24, 58）

34.

人々が神の啓示を解釈しようと苦闘したり、彼らの目には謎としか映らない事柄について明快さを求めたりするのは、今回が初めてのことではない。第一の時代においてさえ、私がこの世で働きを行った後、人々はイエスの人格について議論し、彼が神であるかどうか、父と一つであるのか、それとも父とは異なる存在なのかを巡って争った。彼らはあらゆる方法で私の教えを研究し、探求した。

35. 今、私は再び、解釈、議論、論争、そして調査の対象となるだろう。

36.
キリストの霊が現れたとき、それが父の霊から出ていたかどうかが検証されるだろう。また、語りのはじめでも終わりでもなく、聖霊あなたと主張する者たちは現れるだろう。
37. しかし、あなたがたが「聖霊」と呼ぶものは神の力であり、あなたがたが「子」と呼ぶものは神の言葉である。
したがって、あなたがたがこの世の律法に基づくとき、あるいは私の「第一の時」の教えを研究するとき、あるいは「第一の時」の律法と啓示について考えるときは、あなたがたが唯一の神の前にあり、その御霊の業に、その御霊の光を受けていることを自覚しなさい。（16, 39-42）

創造主の霊であり父である神

38.
私は、すべての被造物の本質である。万物は、私の無限の力によって生きている。私はあらゆる肉体のあらゆる霊の中にいる。私はあなた方一人ひとりの内にもいるが、私を感じ、私を見出すことができるよう、あなた方自身を調律し、感受性を高める必要がある。
39.
私はすべての存在にとっての命の息吹である。なぜなら、私が命そのものだからだ。それゆえ、私はあなたがたに、私があなたがたのすべての行いに存在している以上、私を身近に感じたり、私を身近に感じるために、特別な処置で私の像をつくる必要はないことを理解させた。この誤解は、人類を間違った方向へと誘うことしか役立たなかった。
40.
わたしの言葉によって、あなたがたは父とすべての被造物の間に存在する調和を感じ、わたしがすべての存在を養う本質であり、あなたがたがわたし自身の一部であることを理解する。（185, 26-28）
41.
父の御霊は目に見えないが、無限の形態をもって現れている。全宇宙は、神性の物質性の現れに過ぎない。すべての被造物は、真理の反映である。
42.
私は、私の神性の子供である皆の存在を、彼らが住む場所に応じて、一連の生命態で取り囲んだ。そして、それらの各々に、私の存在の最初の部分と、私の力の様々な与え方のために、知恵、美、生命力、そして意志を注ぎ込んだ。
私は、人生の意味を愛すること、知ること、そして真理を識別することであると、あなた方は聞いている。（168, 9-10）
43.
弟子たちよ、私からこの物質性は生まれた。すなわち、神聖な質、霊的な質、そして物質的な質である。すべての被造物の創造主であり所有者である私は、神聖かつ同時に理解しやすい方法で、あなた方と語りかけることができる。物質的な質は私から生まれたものであるため、私は人間に自分を理解してもらうために、自分の声と言葉を肉体に聞こえるようにすることができる。
44.
私は完全な存在であり、万物の起源であり、あらゆる形の原因であり、すべての始まりである。私はすべての被造物、あらゆる意識の上に立っている。（161, 35-36）
45.
今こそ、理解の時、魂の再生の時である。この時、人間はこの霊的な形態を求めるようになるだろう。なぜなら、神は単なる物でも空想上の存在でもなく、無限で絶対的な普遍霊であることを悟るからである。（295, 29）

キリスト、愛、そして神の言葉

46. 父がイエスにおいて類体自身を現前に、父は物質的形態に来ることを承諾しつつ、あなた方自身の形をされた。
「キリスト」という名のもと、あなたがたは人の間に神の愛を見た御方を知った。しかし、彼が地上に来られたとき、彼はすでに父として

自己を見ていた。それゆえ、キリストがこの世に生まれたと言ってはならない。生まれたのはイエスであり、それはキリストが宿った肉体であったのだ。

47.

よく考えなさい。そうすれば、やがてそれを理解し、キリストはイエスより以前から存在していたことを悟るようになるだろう。なぜなら、キリストは神の愛そのものだからである。（16, 6-7）

48.

今、私はあなたがのぞむとおり、あなたの魂の永遠の平安のために戦うを与えている。しかし、まことに、あなたが告げる人類が私を殺す前から、私はずっと無限の彼方からあなたを照らし、あなたの心に語りかけていたのだ。なぜなら、私はひとつであるから、常にこの神とともにあったのだ。

世界がイエスにおいてわたしを受け入れ、神の御業を聞くに至るまで、人類の止まることのない時間が過ぎなければならなかった。とはいえ、当時わたしの教えを聞いた者たちのすべてが、キリストの神性の偉大さを感じるために必要な霊性の成熟を備えていたわけではない、とあなた方に言わなければならない。（100, 30）

49.

あなたがたは、エホバを残酷で恐ろしく、復讐に燃える神であると見なしていた。そこで私は、あなたがたをその誤りから解放するために、キリスト、すなわち神の愛を遣わされた。それは、御子を殺すことで父を殺すためであった。

それにもかかわらず、無知で罪深い人類は、怒りと侮辱に満ちたイエスを見ていると思い込んでいる。そのイエスは、霊性を欠き、自分を傷つけ者たちが現れるのを待ち、彼らに「私から離れよ、私はあなたたちのものではない」と言い、ついに永遠の最も厳しい苦しみを受けさせるためだけ待っているのだと。

50.

あなたがたが誤りに陥らないよう、今こそ私の教えの真意を理解すべき時である。神の愛は、あなたがたが私のもとに来ることを妨げることはない。しかし、もしあなたがたが過ちを償わなければ、あなたがたが父の王国に入る値しないと告げるのは、あなたがた良心の呵責なき裁き主となるだろう。（16, 46-47）

51.

あなたがた真の私の弟子と名乗るように、私はあなたがたがこのようになることを望む。私の遺したものは、愛と慈悲である。あなたがたのもとに来るのはキリストであり、今この瞬間、あなたがたに語りかけているのもキリストである。しかし、私を神から切り離そうとしたり、私を神の外に置こうとしたりしてはならない。なぜなら、私は父、そして常に、父とひとつだからである。

52.

わたしはキリストこそが神聖な愛であるとあなたがたは語った。それゆえ、わたしを父から切り離そうとしてはならない。父が、自分の子供たちを愛さないような父であると思うのか。どうしてそのように考えるに至ったのか。あなたがたは自分を欺いてきたのだ。

53. 誰も、創造主である神を恐れることを恐れてはならない。なぜなら、それが神の真の姿だからである。（19, 57-58）

54.

イエスにおいて、世界はひとなる神を目の当たりにした。人々はイエスから、愛の教え、無限の慈悲の教え、完全な正義の証しだけを受け取ったが、最も冒瀆の言葉や憎しみの行為、あるいはその兆しを一度も受けたことはなかった。

それゆえに、彼らがどれほど侮辱され、嘲笑されたかを見てほしい。彼らは、全世界が持つことのできない権威とあらゆる力が握られていたが、世界がその真の本質、真の霊魂において、自分の父を知る必要があったのだ。

55.

イエスにおいて、世界は、自分のために何ひとつ求めず、子供たちのためにすべてを捧げる父を見出した。最も大きな侮辱をも無限の愛をもって赦し、決して復讐しない父。そして、自分を侮辱する子供たちの命を奪うかわりに、彼らを赦し、自らの血をもって彼らの魂救いの道を切り開いてくださる父を見出したのである。（160, 46-47）

56.
人間としてのイエスは、あなたがの理想であり、完全性の模範であった。あなたががイエスの神に、従うに値する模範を見出せるように、私は、神になぜに人間というあるべきかを教えようとしたのである。
57.
神性であり、キリストは神性一つである。なぜなら、キリストは神性の言葉であり、あなたががすべての被造物の父のもとへ至ることができる唯一の道からである。（21, 33-34）
58.
弟子たちよ、キリストは神の愛の最高の現れであり、霊の領域において命ある光である。それは闇を取り去り、あらゆる霊性は現実前に真理を明かし、謎を解明し、肩書き、魂の知恵、永遠、そして完全性の道である。(91, 32)

聖霊――神の真理と知恵

59.
知恵の神こそ、あなたがの心が望む癒しの力と慰めがある。それゆえ、かつては慰めの霊として、真理の霊があなたがたに約束したのである。
60. しかし、成長の道を歩み続けるためには、まず試練を経なければ信仰を持つことが可能である。(263, 10-11)
61. これが今の時であり、聖霊の光である神の知恵が、心に宿る最も深められた隅々まで照らし出すであろう。(277, 38) (第3-10節12節18節21-24節27節32節36-37節を参照)

第10章 神の母なる愛 マリア

謙遜に生きるマリアの地上での旅路

1. マリアは、私の天の庭であり、その本質は私の霊の神であった。
2.
ここに、その美しさを謙虚の神隠しの中に見るか。マリアもまた、かつてそうであり、今もそうである。彼女を清らかさと畏敬の念をもって見ることができる者にとっては、尽きることのない美であり、すべての存在にとっては、慈愛と優しさの源である。
3.
マリアはこの世界よ、その神聖な本質を隠しておられた。彼女は自分が誰であり、その子が誰であるかを知っておられたが、その事を告げるかわりに、ただ予言者のしもべであり、主の御前の道であるとだけ宣言された。（8, 42-43, 46）
4.
マリアは、地上のあらゆる王よりも力強く、偉大な王を身ごもることを知っていた。しかし、それゆえに、彼女は自らを人間の女王と称したであろうか？広場を通り、宮殿や屋敷で、彼女の喜びは、自分がメシアの母となること、父の「独り子」が彼女の胎から生まれることを告げ知らせたであろうか？
5. 決してそうではない、わが民よ。彼女の神は、このような謙遜と柔和と恵みが満ちており、その本質は成就した。
人間の母としての彼女の心は喜びに満ちあふれ、出産の前から――その時から、そしてその後、息子の旅路を通して――彼女は最も慈愛に満ちた母であり、霊にイエスの元へ、彼が人の間で果たすべき使命、そして彼がなぜ来たのかを知っていた。彼女は決してその定めに逆らわなかった。なぜなら、彼女もまた、その同業に参与していたからである。
6.
時に彼女が涙を流したとしても、それは人間としての母の涙であり、息子、すなわち彼女自身の肉体と血の痛みを肉体という性質の感じ取ったからに他なりません。

7. しかし、彼は師である息子イエスの弟子であったのか？
いいえ。マリアはイエスから何も学ぶ必要はなかった。彼はそのものの中にあり、ただその美しく比類なき存在を証明するための受肉は過ぎなかった。
8.
その時、母の心はただ最愛の息子を愛することに限られていたのだろうか？決してそうではない。その小さな人間を通して、母なる心は、慰めと喜びと喜び、日ごと増す奇跡、光、そして真理として現れたのである。
9.
彼は決して自分を高めることなく、師の言葉を誇張することはなかった。しかし、彼がやりかけて役立たず、無価値だったのと同様に、彼はまた息子であり、師であり、全被造物の父であるお方が死に、人間としての最後の息を引き取った十字架の足元にもいた。
10. こうして彼は、人間の母としての務めを果たし、すべての母たち、そしてすべての人々に喜びと模範を示した。（J60, 28-31）

マリアとイエス

11.
人々はしばしば、なぜイエスは十字架にかけられた後であっても、罪人であるマグダラのマリアに姿を見せ、その後弟子たちを訪ねたのに、一方で母を訪ねたという話は何も聞かれないのか、と疑問に思ってきた。
それに対し、私はこう言おう。マリアの前に、あの人の前と同じように私を現す必要はなかったのだ。なぜなら、キリストとマリアとの絆は、世界が造られる前から、常に存在していたからである。
12.
私は、罪人を救うために、イエスを通して人類に自身を現し、また、私を必要とする者たちの信仰を奮い立たせるために、十字架後、彼らに御自身を見せたのである。
しかし、まことに、あなたがたは言う。マリア――人間として私が愛する母――はいかなるしるしからも遠ざけられる必要はなかった。また彼は、母なる胎をキリストに捧げる前から、キリストが誰であるかを知っていたのだから、信仰に欠けることなどあり得なかったのだ。
13.
彼が、私をその胎内に宿したのと同じ清らかさと柔和さをもって、私を私が来たところの御国へと返してくれ、彼を救うために、私の霊を人間にする必要はなかった。しかし、私が彼の胎内で彼に語りかけた方法や、私の霊が彼をどのように神聖にし、無垢にし、誰が知ることができたであろうか。
14. イエスが最初に母を訪ねるべきだとよく考えていた人々に対し、私はこのように答える。
15.
私がマリアに現れた形は、マグダラのマリアや弟子たちに私の存在を感じさせるために用いた方法とは、どれほど異なっていたことか。（J0, 17-21）

マリアの処女性

16.
主がおられるのは、普通の母であるマリアもいます。彼は、第三の時代において、神の言葉の愛の奇跡が現実となるために、女性なる方です。
17.
人間は、マリアやイエスがこの世に生を受けた方法について、しばしば疑いを抱いてきた。そして、それらの疑いは、その人が自分の心をこの世に注ぎ出した母なる霊の清らかさの大きさを測っています。
18. 私たちの時代、不信仰の疑いを晴らし、霊性教育の障害を取り除くために、来たるべきものの一部を明らかにしよう。

19.
人々は、道のように私の真理から多くの脇道を作り出し、そのほとんどで迷い道へと迷い込んでいる。ある者は天の母の執り成しを求めます。ある者は彼女を崇めていますが、彼の愛と慈しみのマントはすべての人を包み込んでいる。
20. 太古の昔から、私は預言者たちに彼の誕生前から語っていた霊性の存在を明かしてきた。（Gen 3:15, 28, 1-5）
21.
マリアは、その徳と模範、そして完全な神性を明らかにするために遣わされた。彼女は、人間の中のあらゆる他の女性たちのような女性ではなかった。彼女は、他とは異なる特別な女性であり、世界は彼女の到来を見つめ、彼の考えが願い方法以上に、彼の魂と身体の清らかさと優雅さを欲していた。
22.
彼女は、貧しく、謙遜で無私、そして愛の模範である。しかし、彼の人生の当時の人々や後世の人々はほとんどいたにもかかわらず、彼女の徳や処女性を認めない者も多い。彼らは、彼女が処女でありながら母でもあったという事実を理解できないのだ。
その理由は、人間は本来、不信であり、目覚めた精神をもって神の仕業を識別することができないからである。もし聖書を研究し、マリアの愛と彼の栄光の到来を探求すれば、やがて彼女が誰であるかを悟るだろう。（Gen 3:15, 121, 3）
23.
神が被造物に対する最大の愛は、死ぬことではない。それにもかかわらず、第二の時において、その愛はイエスの母マリアという女性の姿をとった。
＊ したがって、マリアの無原罪なるマリアの姿は、一時的に与えられた霊性と調和の姿としてのみ捉えるべきである。
24. マリアの本質、すなわち彼の愛と優しさは、常に神の中に存在していたのだから、マリアは常に存在していたのだと理解せよ。
25.
人々はマリアについて、どれほど多くの誤った説を作り出してきたことか！彼女の母性、受胎、そして清らかさについて。その過程で、彼らはどれほど冒涜なことを口にしてきたことか！
26.
彼がその清らかさを真に理解するその日、彼はこう言うだろう。「我々はなんてばかだったんだ」と。火の涙が彼の魂の中で燃え上がるだろう。
その時、マリアは彼をその慰めの中に迎え入れ、神の母はマントで彼を包み、父は彼を祝し、無限の愛をもってこう言われるだろう。「目を覚まし、祈りなさい。わたしはあなたを祝す。そして、あなたを通して、わたしは世界を祝し、祝福する。」（Gen 3:15, 171, 69-72）

女性たちのためのマリアの模範

27.
あなたがの師匠は、すべての人にとっての模範である。しかし、女性としての役割について教えが欠けていたため、神の愛の体現者であるマリアが彼女たちに遣わされた。マリアは、人間の中で女性として現れ、あなたがたと同様に、謙遜という理想の模範を示してくれたのである。（Gen 3:15, 101, 58）
28.
祝福された女性たちよ、あなたがたは、私の娘たちの一員である。肉体においては異なっており、双方の役割は異なるが、男性の精神はあなたがたの精神の間違いない。
29.
イエスをあなたがの霊的師として受け入れ、その愛ある道を歩みなさい。その言葉を自分のものとし、その教えを学びなさい。
30.
あなたがは霊において等しいので、私は男性たちと語るのと同じ言葉であなたがの霊と語りかける。しかし、もしあなたがの女性たちが、模範として進むべきものを求めているなら、もしあなたがが人生において完全なるための支えとして、完全な模範を必要としているなら、マリアを思い出し、彼女が地上で過ごした聖なる体験を熟考しなさい。

31. マリアの謙遜は、彼女の懐胎期を通して彼女を助け、彼と語り合う私の弟子たちの書きものとなった。それが、その徴しであった。
32. その処女――知る者にとっては、謙遜なものが――は、誕生からこの世の最期に至るまで輝かしいものであった。
マリアは、その謙遜な精神、限りない優しさ、心の清さ、そして類まれな愛をもって、多くの苦難に満ち教えのページを綴った。彼は、人々に語りかけるやり方はやりストであることを知っていたため、言葉よりも思想をもってそれを表現した。
33. マリアの精神は、父から発した母性愛のものであり、人類、謙遜さ、従順、そして
なかでも完全な模範を示すためのものであった。彼女がこの世を去った道は、光の軌跡であった。彼の処女性は、美であり、威厳に満ち、清らかであった。彼の中に、メシアが処女から生まれると予言した預言の成就であった。
34.
彼女はかその胎内に神を宿すことができた。彼女が、イエスを生む使命を果たした後、人類の霊的母としてこの世に与えられた素晴らしい存在であった。
35.
それゆえ、マリアは女性たちよ、あなたの完全な模範である。しかし、彼女に対しては、彼の憐れみ、謙遜、苦しむ者たちの愛による限りない包容性、静かな喜び、すべての思いやり、そして執成し、慰め、そして優しい助けなる愛において、彼を模倣せよ。
36.
処女たち、妻たち、母たち、親なし少女たち、あるいは未亡人たち、孤独な女性たち、あなたがたは痛みに満ちた道を歩んでいる――マリアを、あなたがたの愛情深い思いやりある母と呼び、心の中で彼を呼び求め、霊において彼を受け入れ、心の中で彼を感じなさい。（2
25, 46-54）

人の執成し手、慰め手、そして救い主としてのマリア
37.
マリアは静かにこの世を歩みましたが、人々の心を平安で満たし、困窮する者たちのために執成し、すべての人々のために祈り、そして最後に、人の罪は悪に対して赦しと憐れみの涙を流されました。
あなたがたの元にまでも、と願うなら、なぜマリアを頼らないのか。あなたがたは彼を通してイエスを受け入れたではないか。救い主の死の瞬間に、母と子はひとつになっていなかったか。その瞬間、子の血と母の涙は混ざり合わなかったか。（8, 47）
38.
私はキリストの口から、この世にしのばれる霊的な聖書を遺した。それは、何世紀にもわたり、時代時代を経て、人々によって解釈され、理解されるべき書である。
それゆえ、私はキリストの足元で祈りをささげているマリアにこう言った。「女よ、これがあなたの息子」と。そのとき、私はヨハネの方を見ていた。彼はその瞬間、人類を代表していたが、それはやがて良き弟子へと変えた類まれな霊に満たされた類であった。
39. また、ヨハネに対しても、私は「子よ、これがあなたの母である」と語りかけた。この言葉について、今、あなたがたは説明しよう。
40.
マリアは、清さ、従順、信仰、優しさ、そして謙遜を体現していた。これらの美徳のひとつとは、私がこの世に降りてきて、あの聖なる清らかな女性の胎内で人間となるために登った梯子の段である。
41. その愛、その清さ、そして愛こそが、命の種が受胎する聖胎である。
42.
私が人間となり、私の子供たちと共に住むために、あなたがたのもとに降りてきたその梯子は、あなたがたが祈りから光の霊へと変え、その梯子を登って私のもとへ上るために、私があなたがたに差し出すものと同じものである。
43. マリアは梯子であり、マリアは聖胎である。彼に身を委ねよ。そうすれば、あなたは私に出会うだろう。（20, 68-73）

44.
私は十字架の足元で、すべての人の血と涙を受け止めたその高みに、マリアをあなたのために残した。彼はそこで子供たちを待続けた。なぜなら、十字架は彼の肩から取り除かれ、天の道は彼らに示すのは彼女であるからだ。（4, 73）
45.
マリアのメッセージは慰めと慈愛に満ち、謙虚、謙遜、そして希望のメッセージであった。彼は、その母性的な本質を世にもたらし、その処女の胎を捧げるために、この地上に来なければならなかった。それは、その胎の中で御言葉が人となるためであった。
46.
しかし、彼の使命はここだけで終わったわけではない。この地上に、彼の真の使命があった。そこから彼は、すべての子供たちの上に思いやりと慈愛の手を広げ、迷える者たちの道を照らし、苦しむ者たちに天の慰めを注ぐことができるのである。
47.
マリアが一人の女性として人間となり、神聖な使命を果たすためにこの世に生まれる何千年も前に、神の預言者が彼女を予言していた。その預言者を通して、あなたがたは、ある処女が息子を宿し、産むこと、そしてその子が「インマヌエル」、すなわち「神我と共におられる」と呼ばれることを知ったのである。
48. 天の母は愛の御霊に満たされた汚れなき女性マリアにおいて、預言者によって告げられた神秘は成就した。
49. それ以来、世界は彼女を、人々が慈悲と愛をこめてその名を口にし、苦しみの中で彼女を母として慕っている。
50.
あなたがたは彼女を「悲しみの母」と呼ぶ。なぜなら、世界が彼の心に苦痛の剣を突き刺したことを知っているからであり、その悲しみに満ちた神秘と、限りない悲哀の表情が、あなたがたの想像の世界から消えることはなかった。
51.
今日、私はあなたがたに、その純潔な苦痛のイメージをしか取り除き、その代わりに霊の勝利、すべての子供たちが師示した道に沿って向上できるよう助けてくださる、慈愛に満ち、微笑み、愛溢れる母としてのマリアを思い描くべきだと告げる。
52.
さて、マリアの使命が地の母性だけに限定されていたのではないことを、今、おわかりになったろうか。また、第二の時におる彼女の顕現だけが唯一のものであったわけではなく、彼には新たな時代が用意されており、そこでは彼女が霊から霊と人々に語りかけることになるのだ。
53. 私の弟子ヨハネは預言者であり先見者であり、恍惚の中で太陽を身にまとう女性、光に満ちた処女を見た。
54.
この女、この処女こそがマリアであり、彼女はもはや新たな救い主を胎内に宿すのではなく、愛と御霊に満たされ、あらゆる完全さの師であるキリストの御霊を迎えるために、彼の神聖な金婚式を祝うことになる。
55.
預言者は、その女性がまるで産気づいたかのように苦しんでいるのを見た。しかし、その痛みは人の清め、魂の贖いによるものであった。その痛みが過ぎれば、魂は光に満ち、喜びがあなたがたの普遍の母の霊に満ちあふれるであろう。（140, 44-52）

マリアの神性

56.
あなたがたの天の母マリアは、永遠の昔から世界に光を投げかけ、私の子供たち、すなわち彼の子供たちを慈愛をもって守ってきた。霊としてのマリアはこの世に生まれたのではない。彼の母性的な本質は常に私の一部であった。
57.
彼は私の清らかさ、私の聖性の証拠である。彼は女性なる時は私の娘であり、受肉した御言葉を宿す時は私の母であった。（141, 63-64）

58.
マリアはその本質において神聖であり、その霊は父と子とひとつである。それなのに、なぜ人は彼女を人間性基準で判断するのか。彼女は、太古の昔から「神の言葉」が受肉する神秘的被造物として類予告されていた選ばれた娘であったではないか。
59.
それなのに、なぜ人間は冒涜し、私の名を、敬意なく私の業を探ろうとするのか。その理由は、人間が私の神聖教えに深入りせず、聖書が何を語っているかを考えず、また私の御心に従わないからである。
60.
今日、第二の時代において人間同様に、マリアが人々に現れることを疑っている。しかし、私はあなたがたに告げる。彼女は私のすべての業に参与しているのだ。なぜなら、彼女は私の神聖霊を有する最愛しい愛の具現だからである。（121, 4-6）
61.
マリアは、神性とその体なる、その一つの側面を成す霊である。それは父、御言葉、聖霊の光という三つの格の形態を通してある。この意味で、マリアは神慈愛を見、体現する神霊のものである。（352, 76）
62.
多くの人は、至高の天国にと望むとき、マリアと出会うことを望んでいる。彼らはマリアを、この世の人となったキリストの母として、かつてこの世にいた女性として、また王座に美しく飾られた女王として、常に人間の姿で思い描いている。
63. しかし、私はあなたがたに告げる。もはや、あなたがたの心の中で神聖なものの形を与えるべきではない。
マリアは、すなわちあなたがたの霊的母は存在している。しかし、彼女は、女性の姿でもしかるべき他の姿でもなく、ただ聖なる慈愛に満ち優しさそのものであり、その慈悲は無限に広がっている。彼女は魂の中で統治しているが、その統治は慈悲と清らかさによるものである。しかし、彼女が人間が想像するような王座に座っているわけではない。
64.
彼女は美しいが、その美しさはあなたがたが最美しい顔をもってしても想像することさえできないものである。彼女の美しさは神性なものであり、あなたがたは決してその神性なものを理解することはできないだろう。（263, 30）

マリアの普遍的母性

65.
マリア、すなわちあなたがたの普遍的母は、私の中に生きており、その最愛の子供たちに最優しい愛を注いでいる。彼女はあなたがたの心の中におり、そこに彼女の平安聖域としての幕屋を残していった。
マリアは世界を見守り、ヒバリのようにその翼を広げ、世界の端から端まで守っている。（145, 10）
66.
わたしの神性の中には、執成し愛が宿っている。それはマリアである。御父に選ばれていたとほぼ多くの人が、彼女を通して悔い改めと愛へと導かれたことか！彼女の母性的存在は、被造物の中に遍在し、すべての人によって感じられている。それにもかかわらず、目が見えているにもかかわらず、それを否定する者もいる。（110, 62）
67. マリアの神聖母性を否定する者は、神性が人類に与えた最美しい恵みの一つを否定しているのだ。
68.
キリストの神性を認めながらマリアを否定する者たちは、私の神性の中に存在する最繊細で愛しい性質を自分が欠いていることに気づいていない。
69.
聖書を知っていると信じているのに、何も理解していないために何も知らない者はどれほど多いことか。また、創世の記事を解明したと思い込んでいるにもかかわらず、誤った生き方をしている者はどれほど多いことか。

70. 母なる霊は、あらゆる存在の中で愛をもって働いている。その姿を至る所に見出すことができる。
その神聖な母の愛は、祝福された種としてすべての被造物の心に蒔かれ、自然のあらゆる動きの生きた証であり、すべての母の心はその偉大な愛のために築かれた祭壇である。マリアは神聖なる母であり、その実例であった。（15, 15-18）

第1章 神の全能、遍在、そして正義

神の力

1.
現代の人間は、そのすべての科学をもってしても、自然の要素を自分の意志に従わせることができない。それならば、どうしてその力を霊性力に強化することができるだろうか。
2.
宇宙の天体が、人間の意志によってその軌道や運行を変えさせることなく、不変の法則に従っているのと同様に、霊界に存在する生命も、誰によっても変えることはできない。
3.
私は昼と夜を創造した。すなわち、私は光であり、私以外の誰もそれを暗くすることはできない。霊性世界についても、同じことが言える。（29, 31-33）
4.
もしあなたがわたしを信じるならば、わたしの力は人間の罪よりも無限に大きいこと、そしてそれゆえ、罪は真理と正義の光の前に退くやいなや、人間にその人生を変えさせざるを得ないことを確信しなさい。
5. もし人々が神の御心を行うようになったら、この世の生活がどのようなものになるか、想像できるだろうか。（8, 59-60）
6.
私にとって、人間の悔い改め、その再生、そして救いが不可能であるはずがない。もしそうならば、私は全能ではなく、人間の方が私より強くなってしまおう。あなたがたは、私の力を、人間の中に存在悪が持つ力より弱いと考えているのか。人間の中の闇を、神の光より強いと見なしているのか。決してそうではない！と、あなたがたの心は私に告げる。
7.
よく考えなさい。私の使命は、あなたが存在をやめた後、あなたを完全と導き、あなたがすべての霊性学校を一つ一つ終えることである。そして、私の御心は、いかなるものをも途中で挫折することがあってはならない。
8.
わたし、神なる主イエスは、愛の種を、気づかれないようにすべての魂に蒔く。この種が全人類の中で発芽するのは、わたしだけが知っている。そして、わたしの業績を、限りない忍耐をもって待ち続けることができるのも、わたしだけである。（72, 17-19）
9.
私は、私の偉大さによってあなたを圧倒させたり、それを誇ったりするつもりはない。しかし、私の意志の及ぶ限り、それをあなたに示す。それは、全能、全知、そして完全な神を父として持つことの至福の喜びを、あなたが感じられるようにするためである。
10.
あなたがたは、私の力の限界を決して目にすることはないこと、そして、あなたがたの魂が発達すればするほど、私をよりよく知ることになるという考えに喜びを見出してください。主の偉大さに決して及ばないことを知ることに対して、誰が不満を言うというのでしょうか。
あなたがたは、地上で、自分の地の父にとって年下であることを、受け入れなかったろうか。あなたがたは、父に絶対権を喜んで認めていなかったろうか。自分より先に強く、誇り高く、勇敢で、美徳に満ち男性を父として持つことを、喜ばなかったろうか。（73, 41-42）

11.
私のかたには、人間のなど何の意味があるだろうか。物質的な目的の成就など、霊の無限のかに対してができるというのか。何もない！

12.
私は、人間存在の深淵の限界まで、そして絶望の底まで至ることを許された。それは、父から授けられた自由意志という贈物が真実であることを、彼自身が悟るためである。

13.
しかし、人間がその限界に達したとき、彼は恩寵と唯一の救済力、そして唯一の普遍性を悟る。すなわちあなたがの神聖なものであるものはすべて負わされ、私の領域にれ入ることになる。（192, 53）

すべての被造物における神の存在

14.
私は、無限の神はまさに特定の、あるいは限定された場所を持っていない。なぜなら、私の存在は、神聖なもの、霊的なもの、物質的なものを問わず、存在するすべてのものの中にあるからである。
あなたがは、私の恩寵のどの方向にあるかと言うことはできない。そして、もしあなたがが視線を高く上げ、天に向けるとしても、それはあくまで象徴的なものに過ぎない。なぜなら、あなたがの実在は全ての国境を越えており、その国境ごとに、新たな天の領域と新たな高みをあなたがたは見出しているからである。

15.
これらすべてを通して、私はあなたがに、あなたがと私の間には距離はないこと、そして、あなたがを私から隔てている唯一のものは、私の完全な律法とあなたがの精神の間に立ちはだかる、あなたがの許されない行いであることを伝えたいのだ。

16.
あなたがの清らかさが大きければ大きいほど、あなたがの行いが高潔であればあるほど、そしてあなたがの信仰が堅固であればあるほど、あなたがは私をより近く、より親密に、そしてかけがえのない存在として感じるようになるだろう。

17.
同様に、善、正義、許されたものから遠ざかり、暗く不自然な性質の物質的な喜びに身を委ねれば委ねるほど、私を自分からますます遠く感じさせることを得ることになるだろう。あなたがの心が私の律法の境界から遠ざかれば遠ざかるほど、私の神聖な存在に対して鈍感になっていく。

18. なぜ私がこの時代に、この形態で啓示を与え、霊と霊との対話を備えさせているのか、理解しなさい。

19.
あなたがは、わたしを無限に遠い存在と言っていたため、わたしのもとに来ることを理解できなかった。わたしは、あなたがたがわたしの神聖な存在を実感させ、父と子供たちの間には、彼を隔てる障壁は存在しないことを証明するために、あなたがたと共にいるのである。（37, 27-32）

20. もしあなたがが、私自身を見つめて、無限であると考えているなら、それは誤りである。なぜなら、あなたがが
に思い描いているその無限は、存在しないからだ。無限などというのは、虚栄と傲慢に満ちた人間だけのものの過ぎない。

21.
わが霊は無限にして全能であるゆえ、特定の場所に留まることはない。霊は至る所、あらゆる場所に、霊的な世界にも物質的な世界にも遍在している。それならば、あなたがが私に帰するその無限はいったいどこにあるというのか。
22.
地上にあるような無限に、物質的な形態という形を私に与えるのをやめなさい。あなたががいつも私に与えている人間姿から私を解放しなさい。あなたがの人間的な性質では理解し得ない天国を夢見るのをやめなさい。
もしあなたががこれらすべてから解放されれば、それはあたかも、あなたがを縛っていた鎖が断ち切られたかのようであり、あたかも、あな

たがの目の前の高い壁が崩れ落ちたかのようであり、あたかも、濃い霧が晴れ、あなたがたに、境界のない地平線と、無限に輝く大空を、しかしあなたがたの精神はアルゼの可能なものとして見てくれるかのようなだろう。
23. ある者は「神界におられる」と言い、またある者は「神霊性におられる」と言う。
しかし、彼らは自分が何を言っているのかを知らず、自分が何を言っているのかも理解していない。確かに、私は界に「住まう」が、あなたがたが想像するような特定の場所ではない。私は、光と愛と知恵と真実と霊と命の完全性の界に住まうのである。（130, 30, 35-36）
24. 私の遍在は物質を満たしており、宇宙のいかなる場所も空虚または空間なく、すべて私によって貫かれている。（309, 3）
25.
私は、あなたがたに、私がそれほど近くにいること、あなたがたの思考の最も秘められた部分さえ知っていること、私が遍在するゆえにあなたがたがいるところならどこにでもいることを告げた。私は、霊と光に満ちた考えによって、あなたがたの知性を照らす光である。
26.
私はあなたがたの神である。なぜなら、私はあなたがたを霊的に造り出した霊であり、あなたがたを非常に良しとしたからである。私はあなたがたの感覚と肉体の神である。なぜなら、私は全創造物の神であるからである。
27.
あなたが自身の中、そして周囲のあらゆるものの中に、私をますます感じなさい。そうすれば、この世を去る時が来たとき、あなたがたは安全に霊的な生活へと入り、感覚の世界が残すかもしれない印象によって魂を汚されることなく、また、あなたがたが永遠に続く無限の清かさの源である私に、さらに一歩近づくことができるのです。(180, 50-52)
28.
声の主の唇から語られる言葉に含まれている、あの光の源が何であるか、知っていますか？その源は、善、神の愛、神から発せられる普遍的な光であります。
それは、あなたがたに命を与える、その輝く霊存在の一筋の光、あるいは粒の火花であり、万物を通して、その下で物質、動植物、鉱物、人間よりその軌道を描く無限の一部である。それは、あなたがたが理想的な
な霊と呼ぶものであり、魂を照らし、活気づける聖霊の光である。
29. その輝きは、魂と身体も、世界も、そして人間、植物、創造のあらゆる存在に影響を及ぼす。
それは霊にとって霊であり、物質にとって物質であり、知性にとっては性であり、心にとって愛である。それは意識であり、光であり、内省であり、本能であり、直感であり、あらゆる存在の感覚の中に、その形式、性質、種類、そして発達段階に従って存在している。
しかし、その源はただ一つ、神であり、その本質はただ一つ、愛である。それゆえ、私がこれらの被造物の知性を発展し、あなたがたに霊的な光のメッセージを送ることのために不可能なことがあるだろうか。
30.
植物は、実を結ぶために、私の霊から生命の光を受け取っている。星は、その軌道を巡るために、私の霊から放つ力を受け取っている。
今この瞬間、生き生きとした証であり、あなたがたのあらゆる感覚に訴えているこの地は、その胎から数多くの形態と生命の種子を絶えず受け取っている。
それならば、その存在の中に、私の類似の源である霊の存在が宝のように輝いている人間が、私の霊から直接、その霊と、彼の中で実を結ぶ霊的な種である聖なる力を受け取ることは、どうして不可能であるというのか？（129, 42-44）
31.
あなたがたの祈りの声は、天において一つとして聞き逃されることはない。あらゆる祈りは、わたしの中にその響きを見出す。あなたがたの苦難や人生の危機は、父なる愛によって見過ごされることはない。280 第1章
わたしはすべてを知り、聞き、見ており、すべてのことに存在している。
32.
人々は、自分たちの罪のために私が彼から身を引いたのだと思い込んでいるが、その結果、彼らは私から遠ざかっていると感じてしまう。ああ、人間の無知は、それが彼の唇にどれほどの苦悩をもたらすことか！
もし私が、私の被造物の一人からでも離れることがあれば、その者は即座に存在しなくなることであろう。しかし、そのようなことは起こらなかっ

たし、これからは起こらない。なぜなら、私があなた方に霊を与えたとき、私はあなた方すべてに永遠の命を与えたからである。（108, 44-45）

運命の試練

33.
あなた方全人類を苦しめる試練を呪ってはならない。それが神の罰、怒り、あるいは復讐であるなどと言ってはならない。そうすれば、あなたは冒涜することになるからだ。私はあなたに告げる、まさにこれらの試練こそが、人類救いの港へとますます近づけるのである。
34. それを正義、贖罪、あるいは救いと呼べば、それは間違った正しいとなる。怒りと復讐は魂の平安、調和、そして完全さからますます遠ざかる者たち特有の人間的感情である。私のすべての業を疑うな、あなた方の私愛に、下品な罰という名や、不名誉な復讐という名をつけることは、公正ではない。
35.
あなたがたは自ら進んで茨の道を、深淵と足踏みを、私の愛に満ち溢れた呼びかけにも、良心の声にも耳を傾けなかったことを思いなさい。それゆえ、痛みが助けとして現れ、あなたがたを目覚めさせ、立ち止まらせ、正気に戻し、真の道へと立ち返らせる必要が生じたのである。（181, 6-8）
36.
わたしはあなた方を罰するのではない。しかし、わたしは正義のものであり、その正義としてわたしの戒めに背く者すべてに、その正義を感じさせるのだ。なぜなら、永遠の方は、誰一人変えることのできない律法をあなた方に明かされたからである。
37.
人生、試練に直面し、計り知れない深淵に落ち、愛する者を失った妻が泣き、子供たちが悲しみの涙を流され、家庭が悲惨な状態に沈んでいくのを見る時、その父が小さな声を発した。
彼は自分の幸せのために絶望する。しかし、祈り、自分の罪悪を改めるやいなや、彼はわたしに尋ねた。「どうして神はこのようにわたしを懲らしめるのか」と言う。その方で、神聖なる testimony は、実のところ、御子の苦しみのように、同様に涙を流しておられる。そして、その涙は、愛、赦し、命の血である。
38.
まことに、わたしはあなたがたに告げる、人類を選ばれた民の救いのために、この時における彼の状況の改善は、わたしの慈悲だけに依存するものではない。それは彼自身の責任によるものであり、わたしの罰によるものではない。なぜなら、わたしの律法と光は、あらゆる良心の中に輝いているからである。
39.
わたしの正義は、あらゆる種類の悪を根こそぎ排除するために降りてくる。そして、自然のカオスは、この正義の執行者として現れる。そうすると、すべてが混沌に陥ったように思われるが、それは実は聖浄のためである。
しかし、ある人々はこれに驚かされ、「これほど大きな苦痛に耐えなければならないのなら、そもそもなぜ私たちはこの世に生まれてきたのか」と言う。彼らはその苦痛が罪から来るものではないことを考えもせず、
*
キリストのこの難しい言葉は、この「苦痛」とは個人的な罰ではなく、彼の邪悪で堕落した種族性を指していることが分かる。
40.
人間は、正義と愛から贖罪と救いについて無知のままであることに対して責任を負っている。それゆえ、まだ試練が生じ、その後に苦痛が生じるのである。わたしの教えを探求し、わたしの律法を守る者たちが、もはやそのような試練に耐えることはできなくなる。（142, 19-21）

神の正義

41.
あなたがたは、時として、あまりにおおい病は枝を持った姫のようなものである。それらは、再び健康を取り戻すために、病む部分を取り除くという痛みを伴う剪定を必要とする。
42. 私の愛の正義が、人の内からその人を傷つける病む枝を取り除けば、その人は立ち直る。
43.
もし人の病む枝を切り落とさなければならない時、たとえそれが、病であるもの、死であるもの、そしてまだ生き得るものを奪っているものを取り除くことが分かっていても、その人はため息をつき、震え、臆病になる。
44. パンもまた、剪定されるときは、痛みの涙のようにその生命の果汁が流れ、その後、最も美しい花を咲かせる。
45. わたしの愛は、はるか高いところにおいて、わたしの子供たちの心にある悪を取り取り、その際、時にはわたし自身を犠牲にする。
46. 人々が私を十字架につけたとき、私は自分の裁判官をもって、私が呼んだ者たちを救い、彼らに命を与えた。
私の言葉と黙示によって、私は彼らを満たし、守り、救った。こうして私は悪を取り取り、私の愛によってそれを正し、悪を行う者たちを救うのである。それらの救いは、かつてそうであったように、今も、そして永遠に、救いの源であり続けるであろう。（248, 5）
47.
わたしは、あなたがたの過ちの重さより先に、裁きを、あなたがたに下すことはできない。それゆえ、あなたがたはわたしを恐れる必要はなく、むしろ自分自身を恐れるべきであると、わたしは言う。
48. あなたがたの過ちの重さ、その大きさ、そしてその意味を、私だけが知っている。
人は誰かを見誤ることがある。なぜなら、彼らは隣人の心の中を見通すことができないからだ。しかし、私はその中を見通すことができる。そして、重大な過ちを犯したと自白し、私を侮辱したことを深く悔い改めた人々が私のところに来たが、私は彼らを清い者と認めた、とあなたは言うことができる。
それはお前に、他の人々はやって来て、誰に対しても悪事を働いたことは一度もないと私に言ったが、私は彼らが嘘をついていることを知っていた、ということを示すためである。なぜなら、彼らの罪は隣人の血に対してはなかったとしても、彼らが命を奪うように仕向けた犠牲者たちの血が、彼らの魂に降り注いでいたからである。
彼らは石を投げながらその罪を犯している者たちである。私が各々の中で「盲者」「偽者」「裏切り者」という言葉を発すると、彼らの全存在が震えおののき、しばしば彼らは自分たちを襲う混乱のために、私の教えの場から立ち去った。（159, 42-43）
49.
もし神の正義の中にこの最大の愛が存在せず、もしその正義がこの源を持たないならば、この人類はとっくに存在していなかったであろう。彼らの罪と絶え間ない過ち（それは神の面前を汚していたはずである）しかし、そのようなことは起こらなかった。
人類は生き続け、魂たちは救いとして生出ており、一歩一歩、あらゆる局面において、愛であり無限の慈悲である私の正義が示されている。（258, 3）
50.
私の言葉を深く探求しなさい。そうすれば、多くの者たちのように、私が些細な過ちを犯した者たちを厳しく罰し、それに対して、一見すると重大な罪を犯した者たちを赦しているように見えるとき、私の神聖な正義が行いに疑いを抱くことはないであろう。
51.
主よ、あなたがたはこう言われる。一見、軽微な過ちを犯した者のみ、私が厳しく制裁するのは、私が魂の救いを願っているからであり、もし彼らが律法を遵守する道から逸れれば、それが彼らを破滅へと導く第一歩となり得るからだ。
しかし、私が他の重大な過ちを見逃すのは、大きな過ちこそが、魂にとってそれに見合うほどの大きな贖いの理由となることを知っているからである。
52.
裁いてはならない、断罪してはならない。ましてや、人の間で流血の罪を犯す者たちに、私の正義が下ることを、心の中でさえ願ってはならない。彼もまた、あなたと同様、私の子供であり、私の被造物であることを忘れないように。そして、彼らと自分の大きな罪を、大きな贖罪

によって償なければならないのだ。
まことに、わたしはあなたがたに言う。あなたがたが指さして、「呪われた者たちの魂よ、あなたがたはとこしえに落とされた者たちだ」と呼ぶ者たちこそが、来るべき時において、偉大な呪われた者となり、人類最大の悪人となるのである。
53.
数百万の犠牲者の血が、地からわたしの聖なる正義を求めて叫んでいる。しかし、人間の司法官であるあなたがたが知るべきなのは、わたしの正義である。
54. 人間の裁きは赦さず、救わず、愛さない。しかし、わたしの裁きは愛し、赦し、救い、新たな命へと目覚めさせ、高め照らす。
そしてまさに、人類これまで多くの堕落せられた者たちを、わたしは贖い、救うであろう。彼を、その大きな贖罪の道を通らせることによって。それは彼が清められ、良心の声に全く目覚め、自分の行いの最深部まで見通せるようになるための、試練の日となるであろう。
わたしは彼に、彼が犠牲者たちすなわち彼の民にしたのと同じ道をたどらせる。しかし、最後には、彼はわたしの清めを手に入れ、地上に戻り、破壊されたすべてを再建し、荒廃したすべてを回復することができるようになるだろう。（3Q09, 16-18）
55.
あなたがたは、死の訪れるまでなって初めてあなたがたを裁くのではなく、あなたがたが自分の行いに気づき、良心の呼びかけを感じる瞬間に、この裁きが始まることを知らなければならない。
56.
わたしの裁きは常にあなたがたの上にある。人間生活であれ、霊的生活であれ、一歩一歩、あなたがたはわたしの裁きに服している。しかし、この世において、肉体の死が訪れるとき、魂は良心の呼びかけに対して聴覚なし、耳が聞こえなくなってしまう。
57. 私があなたがたを裁くのは、あなたがたの目を光に向けて開かせ、罪から救い、苦しみから救い出すためである。
58.
私の裁きにおいて、私が決して考慮しないのは、あなたがたが私に対して犯したかもしれない侮辱である。なぜなら、私の裁きは、憤り、復讐、まして憎しみを知らないからである。
59.
もし痛みがあなたの心のどこかに、最も敏感な場所にふれるならば、それはあなたが犯している何かの過ちを指摘し、私の教えを理解させ、新しく目覚める機会を与えるためである。これらの試練の根底には、常に私の愛が存在している。
60.
ある場合には、私はあなたがたに試練の理由を明かすことを許すが、またある場合には、あなたがたは私の言葉によるその警告の意味を見いだせない。それは、父の御業にあなたがたの視野を向け、人間の知性では到底理解することのできない深い神秘があるからである。（3Q13, 13-17）
61.
「あなたがたが量るその尺度で、あなたがたは量られる」と言われた時代は、過ぎ去ったものとなった。この地で復讐を果たし、隣人愛のあらゆる感情を押しやるために、その通りにされるまで待ち続けてきたことか！
62.
今、私はあなたがたに言う。私はこの言葉の尺度を取り上げ、あなたがたが測ったのと同じ尺度で、あなたがたを測るつもりである。ただし、私のあらゆる裁きは、あなたがたを深く愛しておられる父と、あなたがたを救うために来られた救い主が介在されることを、付け加えて説明しておかなければならない。
63.
人間それぞれが、その行いによって自ら裁きを下す者であり、時には恐ろしい裁きを下すこともある。そして、あなたがたが贖罪しうる道を見出せるよう、助けを与えてくださるのは、あなたがたの主である。
64.
まことに、あなたがたに言う。もしあまりにも痛ましい贖いを避けたいと望むなら、時宜を得て悔い改め、心からの刷新によって、兄弟たちへの愛と慈悲の行いをもって、あなたの人生に新たな方向性を与えなさい。

65.
私が救いの門であることを理解せよ。それは、真の信仰をもって私をめざすすべての人のために、決して閉ざされることのない門である。（2 Ne. 3, 19-23）

66.
さて、神の計画によって成立していることがお分かりだろう。あなたがたのそれのような罰によるものではない。もし私が、あなたが自身の法律を用いて、あなたがたを裁くとしたら――多くの見積もりの判断どころか適用もない私の前で――あなたがたはどうなるだろうか。

67.
もし私が、あなたがたの悪いたずらまで、あなたがたの恐ろしく厳しい法律を適用したとしたら、あなたがたはどうなるだろうか。そうすれば、あなたがたは当然、私に慈悲など期待できないと悟るだろう。

68.
しかし、あなたがたは恐れる必要はない。なぜなら、私の愛は決して変わることも、変えることも、消えることもないからだ。それに対し、あなたがたは必ず滅び、死んでまた生まれ変わり、去ってはまた戻ってくる。そうして、あなたがたはさらに道を踏み続けるのだ。やがて、あなたがたが父を畏れ、その律法に従う日が来るまで。（17, 53）

第2章 神の愛、慈しみ、そして恵み

天の父の愛

1.
あなたがたが罪を犯しているにもかかわらず、私の愛はどこまでもあなたがたを追いかけてくることを不思議に思うな。あなたがたは皆、私の子供たちである。この世において、あなたがたは両親の愛の中に、神の愛の写しを見てきた。あなたがたは両親に背き向け、その権威を認めず、その命令に従わず、その助言に耳を貸さなかもしれない。

あなたがたは、その思いやりによって彼の心に傷を負わせ、彼の目を涙でぬらさせ、こめかみに白髪を生やし、その顔に苦しみの跡を刻みつけるかもしれない。しかし、彼らは決してあなたがたを愛することをやめることはなく、あなたがたに対して寛容さしか持たないだろう。

2.
しかし、あなたがたが地上で持っていた不完全なこれらの両親でさえ、これほどまでに純粋で高貴な愛の証をあなたがたに与えてくれるのだ。それならばなぜ、その父親、親となるという特権を与えた方が、完全な愛をもってあなたがたを愛しておられることに、あなたがたは驚くのか。愛こそ最高の真理である。真理のために、私は闘ったし、真理のために、私は闘い続けるだろう。（2 Ne. 26, 27）

3. 私の愛を疑ってはならないが、この世ではしばしば非常に苦しい経験や葛藤をするが、その愛を疑ってはならない。

4.
人は深い悲しみに満ちあふれたり、私のことを疑ったり冒瀆したりすることがある。しかし、誰にとっても、自分のみじめな存在の中で私を感じ、もはや私を遠くにあるとは感じず、私を見ることはできず、まして私の存在、私の愛、そして私の重要性を否定することのできない時が来るのだ。（2 Ne. 26, 30）

5.
わたしはあなたがたを捨てたわたしの前に立たせるつもりはない。常にわたしの父なる愛があって助けとなる。わたしの子供たちとしてあなたがたを見たいと願っている。わたしは、わたしの御霊が常にあるために、また、あなたがたがわたしの中で幸せであるために、あなたがたを創造したのだ。（3 Ne. 22, 41）

6.
わたしを愛することを学びなさい。あなたがたの過ちや罪にもかかわらず、わたしの愛はどこまでもあなたがたに注がれ、あなたがたがその影

響から逃れることも、避けることもできないことを悟りなさい。悟りなさい。あなたの過ちが重いほど、あなたに対する私の憐みは大きいのだ。

7.

人の悪意は私の愛を妨げようとするが、愛は物質ではない。それは物質や普通の力よりすばらしいものであるため、悪意は愛に勝つことはできない。

8.

私があなたに語るすべてのことの証拠は、人類が罪の深淵に迷い込んだこの時に、私があなたの中に現れたときに与えたものである。私の愛は、人間の罪に対して嫌悪を感じることはなく、ただ憐れみを感じるだけである。

9.

わたしを求め、わたしのところに来なさい。そうすれば、わたしの憐れみの偉大な泉で、あなたの汚れを洗い流すことができる。求めなさい、求めなさい。そうすれば、与えられる。（97, 59-62）

10.

人々は一瞬、自分たちが私に対してあまりにも不適格であると思い込み、私がそれほどまでに彼を愛することができるということを理解できない。

そして、父から離れて生きることを許されてしまうと、彼らは自分たちの思い通りに人生を築き、独自の流儀で宗教団体を設立する。それから、彼が私の王国を目にしたとき、その驚きよ。そして彼らは問う。「果たして私たちの父は、このようにして私たちと語りかけ、絶えず私たちを愛しておられるのだろうか？」

11.

人々よ、私はたこう言っておく。私のものは減じない。そして、あなたがたは私のものなのだ。あなたがたが存在する前から、私はあなたがたを愛しており、永遠に愛し続ける。（112, 14-15）

神の慈しみと助け

12. 弟子たちよ、私は、魂が救われるために必要なすべての教えを、あなたがたに与えた。

13.

真理を探す者たちよ、幸いである。彼らは「道」を速やかに見出すからである。他の人々は、自分たちの行いが私の行いより優れていると見なすため、常に神の教えを探し続ける。

14.

わたしはあなたがたすべてを愛している。わたしは羊を呼び、彼らをつかまえ、数え、日々その数を増やしたいと願う羊飼いである――彼らを導き、養い、世話をし、その数多くの中に喜びが、すべての者が頂点にいるのを見ると、時には涙を流すこともある。

15. これがあなたがたの父である。あなたがたの多くは私のところに来るが、真に私を探す者はいない。（166, 23-26）

16.

自分の行為を省み、誘惑がわたしに従いなさい。あなたがたが誰かに悪をなし、心に平安をなくし、魂に光をなくしている間、わたしはあなたがたの霊的な生活に関するすべてのことに気を配り、何一つおろそかにしないことを信じていなさい。

17.

私があなたがたの霊に語りかける時、私は同時にあなたがたの心の中を調べ、その中の悩みと必要、そして願いを見出しているのだと信じなさい。（89, 6-7）

18.

どんなに罪に見える人種や部族であっても――たとえ、手の届かない森に住んでいるために、あなたがたが知らない人々であっても――私の愛と現存を感じていない者などいない。彼らは試練にさらされる時間、彼らを守り、護り、助言するその声を聞いたのである。

19.
あなたがたは、決して見捨てられたままにされることはない。あなたがたが命を得て来、初めから、あなたがたは私の愛の内にあったのである。
20.
子供たちを慈しんで愛する人間の親たちよ。もし子供たちがこの世に生まれて間もない時、つまり、あなたの援助と愛を最も必要としている時に、彼らを置き去りにすることができるだろうか。
21.
私は、あなたがたとえ子供たちが成人した後であっても、彼らのことを配慮しているのを見てきました。過ちを犯し、あなたたちを傷つけた者たちでさえ、あなたがたは最大の愛をもって配慮しているのです。
22.
しかし、あなたがたがこのように子供たちの振舞に反応するならば、あなたがたが存在する前からすでにあなたがたを愛しておられた天の父の愛はいかほどのものであろうか。
23.
私は常にあなたがたを助けにやって来た。そして今、あなたの霊性向上の歩みを進めたこの時に、私は悪の力を打ち砕くためにどのように戦わなければならないか、そして善の源泉を開かせる方法をあなたに教えてきた。（45, 39-42）
24.
あなたがたよ、人生の新たな段階へと脱出しようとしている道すじで整えられている自分の十字架を負いわたしに従いなさい。この道は険しくないとは言えない。しかし、困難な道を通り抜けたり、苦悩の砂漠を横切ったりするたびに、あなたが励まし、助言する声が聞こえるだろう。あなたに寄り添い、あなたを高めてくれる私の愛と共にあり、私の癒しの香油の優しい愛撫を感じるだろう。（180, 34）
25.
もしあなたが痛みを負わされ、あらゆる試練や苦しみの種をそこから学ぶ代わりに、ただ泣いたり、罵ったり、あるいは単に苦しみの終わりとして待つことをよしとしているのを見るとき、
その時、私はあなたに近づき、愛をもってあなたの心に語りかけ、慰めと希望を与え、それを強める。そうして、あなたの心が、自分の弱さや悩みの奴隷を脱ぎ、試練に打ち勝つことができるようにするためである。なぜなら、その勝利の中にこそ、平和と光、そして真の幸福ある霊性の幸福があるからだ。（181, 10）
26.
私自身の最も小さな存在の中に宿っていることを考えれば――あなたがたに不完全さがあるからといって、私はどうしてあなたがたを捨て、あなたがたから離れようなどと思うだろうか。まさにその時こそ、あなたがたは私を最も必要としているのだから。
27.
私はあり、万物の中にいる。それゆえ、死などというものはない。言葉の表現に縛られないよう、深く考えなさい。感覚を超え、言葉の奥に私を見出せ。（158, 43-44）
28.
自分の内面へと立ち返りなさい。そうすれば、そこには聖所、聖なる場があるのを見つけるでしょう。あなたは、恵みと祝福の泉、源を発見するでしょう。
29.
救いようのない魂など存在せず、誰一人として贖罪を免れた者はない。わたしの神聖な慈悲の前において、全宇宙に自らを貧しき者と呼べる者、父に見捨てられた者、主の地から追放された者など、一人として存在しない。
30.
自分は見捨てられたと感じる者は、自分の中に恵みの賜物を見出していないからであり、あるいはまさに罪の中に迷い込んでいるからであり、目が曇っているからであり、あるいは自分は植なしと感じているからである。

31.
あなたがたは、常に自分の神にこれの恵の賜物を見出さなければならない。そうすれば私の証が決してやぶれることがないこと、そして「パン」、癒の香油、武器、鍵、そしてあなたがたが愛するすべてのものが、常に自分の神に備わっていることを確認するだろう。なぜなら、あなたがたは私の証人であり私の弟子だからである。（3 Nephi 45, 87）
32.
父と子供たちの間には、決して断ち切ることのできない絆があり、この絆こそが、神聖霊とあなた全員との間に証が立てられる理由である。（Moroni 62, 35）
33.
人類は、心の奥底まで届く私の愛と、私の言葉を必要としている。師は、あなたがたの魂により一層深く、無から創造されたより高い領域と昇華できるよう、たゆまず働いている。
34. わが王国の門は開かれており、父の言葉は、再び道をそらすことに限りない愛をもってあなたがたの元へやって来る。
35.
私は再び人類のもとに来ましたが、私は霊体で現れたのゆえに、彼らの物質意識ゆえに、彼らはそれを感知することができませんでした。あなたがたの魂は私の神聖霊から生まれたのです。それなのに、なぜ人々はそれを感知しなかったのでしょうか。それは、彼らが自らの肉体物質意識を情欲に縛り付けてしまったからです。
36. しかし、ここに神の子羊がいる。それはあなたがたの元へやって来て、あなたがたを贖い、真理をもたらすのだ。（3 Nephi 40, 13-15）

至高者の謙虚さ

37.
私の言葉は、虚しい哲学であなたがたの知性を満たすものではないことを理解せよ。それは生命の真理である。私は、世俗的富をあなたがたに授ける金持ちではない。私は、真の
命の王国を築き上げる唯一の神である。私は、華やかさを排して子供たちに近き、その愛無き物質的言葉をもって、贖罪の道において彼らを立ちどまらせる謙虚な神である。（Moroni 65, 55）
38. 私のしもべとなりなさい。そうすれば、あなたがたは決して私によって辱められることはない。
39.
見よ、私は王として来るのではなく、栄光を纏ってやって来るのでもない。私は謙遜の模範として、それ以上に、あなたがたの僕として、あなたがたの神として来るのだ。
40.
私に求めよ、そうすれば私は与える。私に命じよ、そうすれば私は従う。それは、私の愛と謙遜のしるしをあなたがたに与えるためである。
ただ、あなたがたに願うのは、わたしを畏れ、わたしの御心を行うことだけである。そして、義務果たす上で障害に遭遇したなら、祈り、わたしの名においてそれを乗り越えなさい。そうすれば、あなたがたの徳はより大きくなるであろう。（Moroni 111, 46）
41.
父があなたがたに語りかける――その御声は、御前にひれ伏している者誰一人としてない方である。しかし、まことに、あなたがたに告げる。もし私より偉大な方がおられるなら、私はその方の御前にひれ伏すであろう。なぜなら、私の霊は謙遜が宿っているからである。
42.
あなたがたは、わたしの小さな子供たちであるにもかかわらず、わたしのもとへ登ろうとするのではなく、わたしが降りてきて、あなたがたに語りかけ、耳を傾け、慰めるように指向していることをよく考えなさい。（Moroni 125, 19）
43.
あなたがたの心の中で、父愛されているという喜びを知りなさい。父は、その偉大さによってあなたがたを辱めることは決してなく、むし

ろ完全な謙虚の中でその偉大さを見、あなたが私に、始まりも終りもない領域における真の命の喜びへと導いてくださるのです。（101, 63）

神の憐れみと共にある苦しみ

44.
もしあなたが、イエスは神の子であったから痛みを感じなかったと言っているなら、それは誤りである。もしあなたが、私が今日、霊として来ているから痛みが軽減されていると言っているなら、それについても同様に誤っている。もしあなたが、私があなたは皆、最初に私の元に来ることを知っているから、今は私は苦しみを感じないと思っているなら、それもまた正しくない。
まことに、あなたは苦しむ神ほど霊と感覚の強い存在はいない。
45.
私は問う。すべての存在に感覚をもたらしたのは誰か。あなたが、私に喜びをもたらさない善など、一体何ができるというのか。また、私の感覚にとって偏るような悪など、一体何ができるというのか。
見よ、これこそが、私が「頭私を再び十字架につけた」とあなたは言う理由である。いかなる、私は十字架から降ろされいばらの冠から解放されるのだろうか。（69, 34）
46.
もしある者たちが私の敵としてたちはだかっても、私は彼らを敵とは見ない。ただ、助けを必要としている者たちとして見るだけである。
学者を自任し、私の存在を否定する者たちは、私は憐れみの問題を抱える人の心の中で私を滅ぼそうとする者たちは、命の創造主である私を滅ぼすだと脅威を持っていると言っているのに、私は彼らを無知な者たちと見ます。（73, 33）
47.
私は、慈愛に満ち父として、謙虚な師として、あなたがたに自己を現す。あなたの苦しみに対して決して無関心ではなく、あなたの不完全さに対しては常に寛容で慈深い。なぜなら、私の目には、あなたがたはいつまでも子供たちからである。
48.
私は、これほど多くの愛をもって創造され、永遠の命に定められた子供たちが、霊的な命に無関心であり、その存在が彼らに期待している完全性を少しも望まずに、地上において無知のままでいるのを見ると、あなたを憐れまねばならない。（125, 59-60）
49.
私はあなたがたの父であるがゆえに、子供たちの感じることを必然的に共感せざるを得ない。そうしてはじめて、あなたがたは一人ひとりが苦しみ、それぞれの痛みを感じている間も、神の御霊がすべての子供たちの痛みを共に味わっておられることを理解するだろう。
50.
この真実の証として、私はこの世に生まれ、人間となり、世界のあらゆる苦しみと罪に関する体験を積んだ。しかし、私が人間として、あなたがたの不完全さの重荷を背負い、あなたがたのすべての痛みを感じていたならば――神として、どうして私が子供たちの苦悩を前にして無感情でいられようか。（219, 11-12）

神の赦し、恵み、そして憐れみ

51.
私は、すべての者の運命を決定する唯一の存在であり、あなたがたが歩んできた道、そしてこれから歩まなければならない道を決定する唯一の存在である。あなたがたの苦しみと喜びを知っているのは私である。私は、あなたがたが真理と正義を見出すために、どれほど長い道のりを歩んできたかを知っている。私の慈しみが、心の中で過ちの赦しを求める者の、恐れに満ちた心を受け止めるのである。
52.
そして、私はあらゆる病気を癒し、あなたがたの涙をぬぐい、病を癒し、あなたがたが汚れ、汚名から解かれたことを感じさせ、あなたがたが人生を新たに築き直せるようにする。
53. また、私は、私の子供であるあなたがたから私に向けられた侮辱を赦すことのできる唯一の存在である。（245, 39-41）

54. この時わたしの言葉再びあなた方を照らす。わたしはあなたが清く、優性あるように、わたしの恵みを豊かに注ぎもう。しかし、もしあなたが再び罪に陥るなら、民よ、あなたがそれから遠ざかるのは私ではなく、私の意志に反してあなたが自身が私から離れていくのだと悟りなさい。しかし、私の赦しと愛は悔い改めて私のもとに戻ろうとする者には誰にも閉ざされることのないものである。（183, 69）

55.
私はあなた方を赦し、戒めるその瞬間に、私は自らを見る。あなたがたが自分の意志のままに生き、その過程で傷ついたとき、私はその罪に対する罰を科すことはせず、空気もパンも与えなかったわけではない。私はあなた方を苦しみの中に置き去りにすることも、あなたの糞を踏みにじることもなかった。
そして、自然はその驚異の光を初めとして引き続きあなた方を迎え入れた。こうして、私はいくつもを明かし、彼らに私を現すのである。この地上で、私ほどあなた方を愛する者は誰もおらず、私のようにあなた方を赦す者もいない。

56.
あなたがの魂は、私が永遠の昔から育て、磨き上げ、最美しい花に最も完全な実を結ぶまで導いてきた種である。どうして私があなたがたを見捨てたり、嵐の猛威にさらしたりできようか。すべての被造物の運命を司る唯一の存在である私が、どうしてあなたがの道の途中で見放すことができようか。（142, 31-33）

57.
迷える道連れ者たちよ。あなたがが私を呼び求めれば、私は喜んであなたがを受け入れ、私のかたちを与える用意がある。あなたがが、肉体と魂と精神の病を患っていようとも、それは問題ではない。私はあなたがが自分を悔い改めた者たちを祝福し、また神があなたがの中にそのような奇跡をなし得るとお考えになったことを祝福するように導く。そうすれば、あなたがたはこの中でキリストの愛を感じ始めるだろう。

58.
この言葉を聞いてある人々はこう思うだろう。「罪人たちがその行いによってこの恵みを受ける義務があるのと同様に、どうしてこの恵みを受けずにいられるというのか？」と。

59.
ああ、人々よ、目に見える範囲しか見通せない人々よ！私はあなたががそれに値する前から、常に恵みによって私の慈悲を与えてきたのだ。

60.
私は純粋な思いにも、また隣人への愛の欠如のために、たとえほんのわずかな誘惑や悔いの兆しにも、その人から離れ出る時、汚れを抜いて私に近づく者の悲痛な嘆きにも応えるのである。

61.
私は自らの大きな無力と無知のゆえに、涙を流す者たちの擁護者である。私は泣く者たちを慰める慰め主である。私は苦しみと悲嘆のうちにある者を優しく愛撫する慈愛に満ちたイエスである。

62. 私はあなたがの救い主、あなたがの贖い主である。私は人間とって理解しうる真理である。（148, 18-21）

第3章 神の霊感と啓示

神の霊感

1.
弟子たちよ。もし私の言葉があなた方に届いても、それを理解できなければ、あなた方はそれを受けないだろう。しかし、私はあなた方に言う。もし不確かさがあなた方を苦しめるなら、野原の孤独な場所へと身を引け。そして、広々とした野原、山々、そして空だけが証人となる静けさの中で、もう一度、あなの質問をかけてみよ。

その言葉に深く浸れば、すぐその愛に満ちた答えがあなたに届くでしょう。そうすれば、あなたは救われ、霊感を受け、永遠の霊性を歓びに満たされるのを感じるでしょう。

2.

このようにして、あなたがたは地上の多くの人々ではなくなるでしょう。なぜなら、神の言葉のひとつひとつに真理が含まれていることを知っているからです。しかし、それを識別するためには、それ相応のあるがままに、敬虔な心と清らかな精神をもってその言葉に深く入り込まなければならない。

3.

あなたがたが準備整い、何かを叶えたいと願うたびに、その光の源泉、神の光が引き寄せるでしょう。私は何度、こう言ってきたでしょうか。「心の扉を叩きなさい。そこで私はあなたの悩み、苦しみ、そして困難を訴え、と。

4. イエスは第三の時代において、自らの言葉をもって、これらの教えをあなたがたに示した。

私は皆さんの救いのために、祈るために静寂に退いた時、私の言葉を思い出してください。私が人々の間で過ごした最後の数日間、祈るために会堂に行く前に、父に語りかけるためにオリーブの森に孤独を求めたことを思い出してください。

5.

自然創造の神殿があり、そこでは万物が主を崇めるために一つとなり、そこでは、あなたがたはその輝きを直接、ありのままに受け取ることができる。

そこでは、人間の利己主義や物質主義から遠ざかって、賢明な霊があなたの心に近づき、その道において善を行うようにあなたを導くのを感じるでしょう。（169, 28-31）

6.

弟子たちよ、目を覚ましていなさい。私はのことを通してのみあなたたちに語りかけるのではなく、あなたの肉体が眠っている間にも、あなたの魂自身を見守るためである。

私は、あなたがたに、準備整えて眠りにつき、魂を他の光から離脱するように教える。そうして魂が光の領域へと昇り、そこでその道標となる啓示を受け取り、そのメッセージを理解して伝えることができるようにするためである。（100, 30）

7.

あなたがたが時折感じていたように、私は決してあなたがたから遠ざかっていたわけではない。また、あなたがたの苦しみに対して無関心であったことも、あなたがたの呼びかけに耳を貸さなかったことはない。次のようなことが起こったのだ。あなたがたは、より高次の感覚を培う努力をせず、肉体の感覚でのみ感じようと期待していた。

しかし、私がこれを告げていた時代はすでに遥か昔のことであると、私はあなたがたに告げる。

8.

もしあなたがたが、霊媒現象による神の顕現、祈りに対する予感、予言的な夢、あるいは霊性を視覚化した霊性能力のいくつかを開花させるために少しでも努力していたなら――私は保証する、そのいずれを通しても、あなたがたは私と結びつき、それゆえに、あなたがたの問いに対する答えと、神聖霊感を、あなたがたの思考の中で受け取ることができたはずである。

9.

私はいつもあなたがたと語り合う用意があり、あなたがたの直観精神が準備万端に待望している。それは、あなたがたを導き、私の存在をあなたがたの精神に明かすという喜びをあなたがたに与えるためである。そのためには、この恵みを得るために、最大限の謙虚さをもって身を整えることだけが必要である。（124, 52-54）

10.

あなたがたの隣人に尋ねてみなさい。もし彼が正直であれば、彼は神聖霊をお与えくださいと答えるでしょう。もし彼が、自分自身の虚栄心を脱ぎ捨て、隣人への愛をもって私にそれをお求めてくれたなら、私は彼にもっと多くの霊感を与えるでしょう。

11.

まことに、あなたがたに告げる、あなたがたが蓄積してきた真の知識のすべては、私から来ている。人々が特別で高貴なものはすべて、この時にあなたがたのために用意されていた。なぜなら、私はそのためにそれをあなたがたに与えたからである。（17, 59-60）

12.
今こそ、わたしの霊が絶えず人の霊、魂、理性、そして心に語りかける時である。わたしの声は、思考と話を通じてなお届く。それによって多くの人が自発的に真理に目覚める。なぜなら、彼らを導く教師たちは眠っており、世界が決して目覚めることのないことを望んでいるからである。（06, 63）

13.
「第三の時代」において、私は全ての預言をもって、人間にとっては不可能なこと、すなわち人間の肉体を通して自分自身を示すことを実現した。

14.
弟子たちよ、私を理解せよ。なぜなら、あなたがたが受ける霊との対話において、あなたがたは永遠に私の存在を感じるようになるからだ。もしあなたがたが備えることがなければ、もはや私にこう言うことはなくなるだろう。「主よ、なぜあなたは来ないのですか？なぜ私に苦しみを見せるのですか？」と。あなたがたは、もはやそのように私に語りかけることはなくなるだろう。
まことに、弟子たちよ、私はあなたがたに告げる。このように私に語りかける者は、自分の無知と準備不足を露呈することになるのだ。

15.
私は弟子たちが私から離れているのを見たくない。私は、あなたがたの中で私にこう言うことを望んでいる。「師よ、あなたは私たちの間におられます。私たちの魂はあなたを感じています。あなたの臨在は私のインスピレーションの源です。」これこそが、私があなたがたに聞きたいと願う真の告白である。（16, 54）

神の啓示を人間の理解に合わせる

16.
神は啓示するにはあなたの言葉以上に限られている。それゆえ、私はいつの時代も、たとえ不十分な器を用いてでも、あなたに語りかけなければならなかった。しかし今、あなたはたとえ私がそのように語りかけたとしても、私の啓示を探求する必要と意志が欠けていたために、私をほとんど理解していなかったことを悟っている。（14, 50）

17.
どの時においても、あなたがたは私を待望できた。それにもかかわらず、私があなたがたのそばにいたときでさえ、あなたがたは準備不足と霊性の欠如のために、私を見分けなかった。私はあなたがたに言う。私の語ったどのようなお告げも、そこには常に真理と神聖な生命のエッセンスが含まれているのである。

18.
わたしは、世に自己を現すために様々な形を用いたと、あなたがたは語った。しかし、それらはわたしの霊をあなたがたが理解するための仮面ではなく、わたしを人間らしく、制限し、それによって人がわたしを肉体と感じられるようにするためのものだった。

19.
今、私はあなたがたに告げる。あなたがたは、判断を下す前に、まずこの声を聞くべきである。そして、魂の中に沈み、確信と啓示の瞬間が訪れるまで待つのだ。（07, 11-12）

20.
人がその肉体と無の中に留まっている限り、何よりも父である神は、理解されるために、御自身の子供たちに対して人間性姿をとらざるを得ず、自己を制限し、小さく見せなければならないという状況を生じさせることになる。いかなる方法で、あなたがたは私、あなたがたの前に、あなたがたが私を見るべきその光のうちに現れることを許してくれるだろうか。

21.
あなたがたはわたしの偉大さを感じ得るまでに導かれなければならない。そのためにわたしは繰り返しやって来て、あなたがたは霊性偉大さを与えるのだ。そうしてこそ、あなたがたは父なる神、その愛を感じ、頭上に響き渡る神聖な調和という限りない歓びを体験することができるのである。（09, 26-27）

22. シナイ山における啓示の外的側面は、神の律法を彼らに与えるための乗り物であった。
23. イエスを通して神が人々に伝えた啓示における外的側面は、キリストの肉体、すなわち人間姿であった。
24.
現代において、私の啓示の外的側面はその媒体である。それゆえ、この啓示の形式は、過去の時代のものと同様に、終わりを迎えなければならない。
25.
あなたがたは、形式ではなく本質によって導かれるべき霊性主義の民の子らであることを理解せよ。もしあなたがたが私の言葉を正しく理解すれば、二度と儀式に戻ることはなく、また外的な礼拝行為や儀式にはかかわりを持つことはなくなるだろう。なぜなら、あなたがたは常に本質的なもの、永遠なるものを探すようになるからである。(224, 69-71)

神の啓示の様々な形態

26.
人類は、深淵から自分たちを救い出す新たなメシアの到来を望んでいる。あるいは、少なくとも、空響ではなく、人の声のような神の声を聞きたいと願っている。しかし、私はあなたに告げる。少しばかり観察するか、あるいは静寂の中で瞑想し、感性を研ぎ澄ませるだけで分かる。そうすれば、あらゆるものがあなたに語りかけているのが聞こえるようになるだろう。
石が語りかけるなどあり得ないと思われるなら、私はこう言おう。石だけでなく、あなたを囲むすべてのものが、創造からあなたに語りかけているのだ。それはあなたが偉大な物質主義という夢から目覚めるためである。(61, 49)
27. かつての啓示を受けた者たちは、常に光の輝きを見、常に私の言葉を聞いていた。
預言者たち、霊感を受けた者たち、先見者たち、そして高い霊性を備えた芸術家や創造者たちは、雲のない風、あるいは正確には特定できないどこかから聞こえてくるような声を聞いたと証言した。彼らはあたかも天の神秘的な響きのように、神の声を聞いたのである。多くの者は感覚を通じて聞き、見、感じ、他の者は霊性の洞察を通してそうした。今の時代にも、同じことが起こっています。
28.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。肉体の感覚をもってわたしのメッセージを受け取った者たちは、神の霊感、霊性の解釈を与えた。そして彼らは、自分の肉体的・霊性的準備の度合いや、この世にいた時代によってそうしたのである。それは、あなたがたが「声の預言」あるいは「幻の預言」と呼ぶ、現在の人間の器においてなされていることと同じである。
しかし、私はあなたがたに告げなければならない。過去においても現在においても、彼らは神の啓示の純粋さに、自分の観念、あるいは理解を混ぜ合わせ、知らず知らずのうちに、あるいは意図的に、真実の純粋さと無限の栄光を変質させてしまったのである。その真実は、その最高の啓示において、愛そのものである。
29.
霊性の偉大な霊感は彼らの中にあり、最初の人々も最後の人々も、その霊感について証言できよう。これから証言し続けるだろう。その霊感は、今日多くの人々に、そして明日さらに多くの人々に起こっているのと同じように、彼らがほとんど気づかないうちに、彼らの霊と一つになったのである。
30.
言葉、解釈、そして動作の様式は、人々と彼らが生きる時代に起因するものであるが、それらすべての上に、至高の真理が立っている。(16, 11-14)
31.
時折、私の霊があなたがたの理解に届き、理解できる何らかの形で現れる必要がある。あなたがたが語りかけるこの必要性は、私の律法に対するあなたがたの不服従、真の道からの逸脱に起因している。
32. 人間は、その自由意志ゆえに、被造物の中で最も反抗的な存在である。今日に至るまで、人間は良心の導きに従おうとはしなかった。
33.
わたしの言葉は、ある者たちを奮い立たせ、他の者たちには怒りを与え、すべての人を真理において強く、深淵から救い出そうとするものである。

34. 私が今、自らを現しているこの方法に、不慣れであってはならない。それは第一の時代のそれとはまったく異なるものである。
私が二度同じ形を用いたことは一度もないとさえ言える。それは、あなたがたが同じ教えにとどまりつづけることを望まないからであり、私は常に、あなたがたに新しい教えを、新たな啓示の型から与えてきたのだ。（183、39-42）
35.
わたしの言葉は、良心を通して、わたしを語る説教を通して、自然の力を通して、あるいはわたしの霊的な子供たちを通して、様々な形で伝えられる。わたしの言葉は普遍である。準備整えた者は皆、わたしの声を聞くであろう。（64, 48）

神の啓示の必要性

36.
私の啓示は、霊だけがだけのものではない――いや、それは人間の心に届くものでなければならない。そうして初めて、霊的部分と肉体的部分が調和するのだ。
37.
神の言葉は、人の知性を発展し、心を感化するために定められており、その言葉に含まれる生命のエッセンスは、魂を養い、高めるために定められている。
38. 人の人生が完全なものとなるためには、物質的な糧を得るための懸命な苦労が、霊的な糧と同様に必要である。
39.
「人はパンだけで生きるものではない」と、私は第一の時代においてあなたがたに語った。私の言葉はいまなお有効である。なぜなら、人々が霊的な糧を欠くことになれば、この地上において病、苦痛、闇、災難、悲惨、そして死に襲われることになるからだ。
40.
唯物論者たちは、人間はまず地球自然から与えられるものだけで生きており、人生の旅路において彼らを養い、強めるような霊的なものを求める必要などない、と反論するかもしれない。
しかし、私はあなたがたに言わなければならない。それは完全で実った人生ではなく、精神という概念を欠いた存在に過ぎないのだ。（126, 58-62）
41.
私はいつの時も、人間が私を理解できるよう、簡素な形で自らを現してきた。常に、私はあなたがたの知性の理解の範囲内でそうしてきたのである。
私はあなたがたをより良い生活へと導き入れるために、あなたがたの貧しい生活に身を置くとき、それによって謙遜の模範を示すために、あなたがたのところへ降りてきたのである。（126, 54）
42.
ここに、私が第一の時代においてイエスが父に感謝した時の言葉が成就している。すなわち、父は賢者や学識ある者たちからは隠し、謙虚な者たちに与え、啓示されたのである。
43.
そう、わが民よ。あなたがたが「学者」と呼ぶ者たちは、自らを誇り、庶民を蔑むようとしている。彼らは、自分たちが私から受けたパンのかけらに過ぎないと見なすようなことがたを庶民に教えているのだ。
44.
一方、貧しい人々、すなわち庶民は、人生がもたらす苦難それ自体を身をもって知っている。彼らが何かを自分のものと呼べるようになったとしても、それは自分たちには余りに多すぎると感じ、それを他の人々と分かち合うのである。
45.
さらに付け加えるならば、貧しい者が貧しい人となり、高慢な者が謙虚な人となれば、彼らは地上に、徳ある生き方を広めるために私が用意してきたすべてのものに与るようになる。なぜなら、私の愛は偏ったものではなく、すべての者に及び、私のすべての子供たちのためのものだからである。（150, 17）

神の啓示の無限性

46.

第二の時代をもたらす教えは、私の最後の教えではない。霊性なものには終わりがない。私の法は、神聖な光のようにすべての良心の中で輝いている。停滞と退歩は人間のみに固有のものであり、それは無知、怠惰、あるいは誤った解釈の結果である。

47.

人類がその霊性を最高の上昇へと導き、私の教えがあなたがたを支配する永遠の理念をその内に抱くようになれば、人類進歩は完全への道を見出し、もはやその向上の道から逸れることはしてなないだろう。(112, 18)

48.

もしあなたがたが、私が今までに霊性について何かを啓示したと思っているなら、それは大きな誤りである。なぜなら、私はもう一度言うが、神の教えは最初の人間が生まれた時から始まったのである。そして、世界が存在する前、霊が創造された時から私の教えがあったと言っても、私は決して誇張してはいない。(289, 18)

49.

人々が、自分の目で発見できるものだけが存在すると信じ、自分たちの住む世界の姿をはるかな昔に限定されていた。

50.

しかし、彼の知性が次々と謎を発見するにつれて、彼の目の前で宇宙はますます広がり、驚異する人間の知性にとって、神の偉大さと全能性はますます増していった。

51. それゆえ、私はこの時代に、あなたがたの発展にふさわしい教えを授けなければならなかった。

52.

しかし、私は問う、私の啓示に含まれているのは、物質的な知識のみか。いいえ、私の教えの中には、あなたがたが見て、長い間探してきた自然を超えた存在に関するものである。私の啓示は、精神を、そこからすべてを発見し、認識し、理解することができる生命の源へと導く道を示している。

53.

神の霊に入ったあなた自身を見ること――霊の自己を見、あなたの生命の中に現れること――来たる世界の領域があなたがたに語りかけることが、あなたがたには不可能に思えるか、あるいはなんとも奇妙に思えるだろうか？

まさか、あなたがたの認識がそこまではまだ、父がすでに啓示された以上のことを一度も啓示しないことを望んでいるというのか？

54. 慣習に縛られてはならず、あなたの精神を認識に制限を設けてはならない！

55.

今日、あなたがたは霊の教えを否定し、それに立ち向かい、追放するかもしれない。しかし、私は明日はあなたがたが真理に屈することを知っている。

56. あなたがたの啓示は、現れ出ると同時に戦いを惹き起こしてきた。しかし、最後にはその光が勝利を収めてきた。

57. 科学の発見に対しても、人類は同様に不信感を示したが、結局、現実に屈しざるを得なかった。(175, 64-70)

58.

人類の叫びが霊の神殿の無限の広がりに入った時、その叫びは新たな啓示を現れさせるだろう。そして、魂がより多く発展すればするほど、その啓示はより大きなものとなる。(242, 62)

59.

私があなたがたのもとへ降りてきたというのに、あなたがたは私の子供であるにもかかわらず、私が他の国を訪れたなどと思うことができるだろうか。私の霊は遍在であり、すべての被造物を包み込んでいるというのに、誰が私から遠く離れている、あるいは私がいないなどと思うのか。

60.
すべてのものは生きており、私から養われている。それゆえ、私の普通の光線は地球全体（以降）全ての霊よりの世界や他の世界において私の影響を受け取るのである。なぜなら、私はすべての私の子供たちを救うために来たからである。（176, 21）

61.
私の言葉によれば、声の媒体を通じた私の啓示は時代ものの過ぎず、この民にとって、この真理証しの広め、そして世界に第二の時代の到来告げるための規範、法、そして基礎となるべき準備期間過ぎない。

62.
人間の性よる私の啓示が、稲妻のように瞬間のものであると定められていたのと同様に、この啓示の立会い、このメッセージを受け取るよう招かれるのは、ごく一部の人の集団のみであることも、あらかじめ定められていたのである。

63.
それに対し、霊から霊への対話は、時間や距離など全く関係なくあろう。なぜなら、私を求め、私を受け入れ、私の声を聞き、私を感じるという形は、永遠に通じるものだからである。（284, 41-43）

人間における神の臨在の顕現

64.
わたしは、あなたがたをわたしの弟子とし、わたしの霊の子としてわたしを感じ取れるようにしたい。あなたがたはわたしの本質そのものであり、わたしの分身であるのだから、どうして自分の中にわたしの臨在を感じないというのか。

65.
あなたがたがわたしを感じないのは、そのことに気づいていないからであり、霊性準備が欠けているからである。また、どれほど多くのしるしや感覚的現象を受け取っても、それを霊性の原因に帰しているからだ。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。たとえわたしがあなたがたと共にいても、あなたがたはわたしの臨在を感じることができないのだ。

66.
今、私はあなたに言う。あなたがたは私の一部なのだから、自分の内なる存在として私を感じることは、ごく自然なことではないだろうか。そうであるならば、やがてあなたがたの霊と私の霊が融合していくのは、当然のことではないだろうか。私は、すべての人間に本来備わっているべき真の偉大さを、あなたがたに明かする。なぜなら、あなたがたは道を誤り、この地上で偉大でありたいという欲望によって、霊的に小さくなってしまったからだ！（31, 25-26）

67.
もう、あなたがたに主よ、なぜあなたは私から遠く離れているのですか、なぜ私の声に耳を傾けてくださらないのですか、なぜ私は人生の道で孤独を感じるのですか、と言わせてくれ。

68.
愛する民よ。私は決して子供たちから離れることはない。あなたたちが私から離れていくのだ。それは、あなたたちに罪が欠けていたからであり、あなたたち自身が私を締め出し、心の扉を閉ざしてしまったからだ。（36, 60）

69.
あなたがたに、わたしが遠くにいると感じてほしくない。なぜなら、あなたがたは皆、霊によってわたしを感じ、わたしを直接体験するようになると、わたしに言ったからだ。あなたがたの霊はわたしの声を聞き、霊的にわたしの臨在を見るようになる。こうして、わたしはあなたがたの霊が、わたしの霊と永遠に一つになるのを見たい。それがわたしの御心だからである。（42, 57）

VI. 創造

第4章 - 霊的存在と物質の創造

霊的存在の創造

1.
世界が存在する前、あらゆる生き物や物質の生命が存在する前、すでに私の神聖な霊が存在していた。しかし、万物の統一体として、私は自分の内に計り知れない空虚を感じていた。なぜなら、私は一人のない父のようであり、弟子を持たない師のようであったからである。
それゆえ、私は自分と似た存在を創造し、彼らに私の知恵を授け、深く心から愛し、その時が来れば躊躇することなく十字架で彼らに私の血を捧げるという計画を立てた。

2.
あなたがたが存在する前から、すであなたがたを愛していたと私が言っても、それを不思議に思ってはいけない。そう、愛する子供たちよ！（345, 20-21）

3.
神の御霊は、ただ御自身だけがおられたにもかかわらず、愛に満ちておられた。まだ何も創造されておらず、神の御自身の周りには何一つ存在しなかったが、それでもなお神は愛し、御自身を父として感じていた。

4.
神は誰を愛しておられたのか。神は誰の父として自身を感じていたのか。それは、神から生まれたすべての存在、すべての被造物であり、その方は神の御霊の中に秘められていた。その御霊の中にはあらゆる光、あらゆる生命の力、あらゆる存在、あらゆる創造の基盤があった。神はお一人であり、時間のないお方であった。世界や存在の生命が現れる前から、彼の中には過去、現在、そして未来が存在していた。
5. その神聖な霊は、神の愛と無限の力のもとで現実のものとなり、生命が生まれました。(150, 76 79) 6.
神ご自身を父と呼べるように、神は御自身の中から霊たち――神の神聖な霊たちは被造物――を現出させられた。これがあなた方の起源であり、こうしてあなた方は霊的な命と生まれ変わったのである。(345, 22)

7.
あなたがたが創造された理由は、愛するお父様のそばにいたいという神の切なる願いであった。そして、私があなたがたに自由意志をもたらした理由も、やはり愛であった。私は子供たちから愛されていると感じたかったのだ――それは鎖によって強いられるものではなく、あなたがたの魂から自由に湧き出る自発的な感情によるものであった。（1, 53）
8. すべての霊は、神聖な御心から生まれた。それゆえ、霊たちは創造の完全なる継承である。（236, 16）

創造の業における偉大な霊たちの働き

9.
エルは神の右に立つ偉大な霊であり、その謙虚さゆえに自分を神の僕と呼ぶ者である。私は彼を偉大な霊たちの父として、霊宇宙を統べし、偉大な業を行う御方を実現する。そう、私の弟子たちよ、私は創造を統べる大勢の偉大な霊たちが仕えているのである。（345, 9）

神の神聖な思惟

10.
聞け、弟子たちよ。あなたがたが生まれ落ちる前から、私はすでに存在しており、私の霊の中にはあなたがたの霊が隠されていた。しかし、私はあなたがたが犯した罪ごとに私の王国の崩壊となることを望まなかったし、また、誰もあなたがたを創造した父なしに、すでに存在するものを所有することを望まなかった。さらに、私はあなたがたが方向性や目標や理想を持たずに、私のもとを去ることを望まなかった。

11.
それゆえ、私はあなたがたに霊を与え、それがあなたがたの導き手となるようにした。私はあなたがたに自由意志を与え、あなたがたの行いが私の前で真価を持つようにした。
私は、魂をあなたがたに与えた。それは、魂が常に、光に満ち清かなものと結合することを望むようにするためである。私は、肉体をあなたがたに与えた。それは、あなたがたが心を通じて善と美に対する感覚を持つためであり、また、肉体は試金石として、絶えず試練して、そして物質界において生きるための道具として役立つためである。（5, 48-49）

霊が存在するための物質世界の創造

12.
空間が初めて霊たちの存在によって照らされたとき、彼らは――まるで赤ん坊のように――言葉にできないほど高く、霊性を持つ場所に留まるための成長を持たなかったため――強さを感じるための支え、拠り所を必要とした。
こうして彼らは物質と物質世界から与えられ、その新たな態において、彼らは経験を獲得した。（5, 50）
13.
宇宙は存在たちで満たされ、そのすべてにおいて父の愛と力が顕現した。主は原子に結合して存在と身体を形成し、それらに形を与えるよう命じられたその瞬間から、主の尽きることのない生命の泉のようであった。
14. 最初の存在たちは霊性生命であり、最初の存在たちは霊存在であり、その後に初めて物質性が出現した。
15.
多くの霊性被造物が物質性世界で生きるために肉体性姿をとることが定められていたため、主の子供たちがすべて整えられた状態で迎えられるよう、あらかじめ全ての備えがなされていた。
16.
主は御子らが喜ぶべき道祝福で満ち、宇宙を生命で満たされた。人間という存在の道美で満たされた。そして、その瞬間に、神聖な火花――すなわち精神、魂――が宿し、愛、知性、力、意志、そして意識をもった人間が創造された。
しかし、主が存在するすべてのものの源自身のみもとに近づき、その存在の目的を示された。（150, 80-84）
17.
父が世界を創造し、それを霊の場とするという決定を与えたとき、神はすでに、子供たちがその道のりで出会い通り抜けること、そして再生と完成の第一歩を踏み出すために安全地帯が必要となることを知っておられた。（150, 37）

人間の創造

18.
聞きなさい。神、すなわち至高の存在は、あなたを「御自身の像と似姿」として創造された――それはあなたが特別な物質性姿に関してではなく、あなたの精神構造に関してであり、それはあの瞬間から存在している。
19.
創造の栄光であると自認することは、あなたの理解にとってどれほど難しいことだろうか。あなたは、神が造られた最高度に発達した被造物であると自負している。しかし、宇宙があなたのためだけに創造されたと考えるならば、それはひどく誤りである。なんと無礼なことであろうか、あなたが自分を「創造の頂点」と呼んでいるのだ！
20.
地球でさえ、人間のためだけに創造されたのではないことを理解せよ。神の創造という果てしない階段の上には、神の律法を成就するために奉仕を続ける、数えきれないほどの魂たちが存在する。
21.
すべてを包含する目は、たとえ望んだとしても、人間であるあなたがたには理解できないほど大きく、父のすべての御心と同様に完全である。
しかし、まことに、あなたがたは言う。あなたがたは、主の被造物の中で最も偉大な者でも、最も小さな者でもない。

22.
あなたが創造された瞬間、あなたの霊的導き手から命を受け、永遠における責任を果たすために必要なあらゆる特質がその内に宿っていたのである。（17, 24-28）

23.
わたしの傍にある人間の魂の中に、わたしはわたしの理想を宿した。わたしは、庭師が庭の木に育てた植物を愛するように、無限の愛をもってそれを育てた。あなたがわたしなしにはまた自分自身なしには、生きるために何一つ欠けることのないこの世界と、あなたを置いたのだ。私は、あなたが活力を得て、完全なるために、魂は神の生命を感じるを肉体は感覚をもった。
私は、あなたがこの世界で最初の一歩を踏み出し、進歩完成の道において私の律法の完全さを経験し、生活を通じてますます調和し、愛し、その精神によって私と一つになることができるように、この世界をあなたに委ねた。

24.
私は、あなたに自由意志の賜物を与え、良心を授けた。前者は、あなたが私の律法の枠の中で自由に成長するためであり、後者は、善と悪を見分けることができるようにするためである。それは、あなたが私の律法を尊重しているか、あるいは違反しているかを完全な審判者として告げるためである。

25. 良心とは、私の聖霊からの光であり、一瞬たりともあなたから離れることはない。

26.
私は道であり、真理であり、命である。私は平和であり、幸福であり、あなたが私のもとに戻るという永遠の約束であり、また私の計画のすべてが成就することでもある。（12, 7-10）

楽園の記憶

27. 最初の人間たち――すなわち類祖であった者たちは、しばらくの間、彼らの魂が霊的な谷から持ち帰った記憶を保っていた。それは、肉体の情欲と性衝動が彼らの生活の中に現れるまでは、彼らの中で続いた美と平和と確信の印象であった。

28.
しかし、私はあなたにこう言わなければならない。あの人々の魂は、光の世界から来たとはいえ、最高創造主すなわちあなたが、永遠によってのみ選ばれる場から来たのではなかったのだ。

29.
それにもかかわらず、それらの魂は最初の歩みを踏み出した際に保っていた無垢、平和、幸福、そして健全な状態は、光に満ち溢れた時代として、彼が子供たち、そして子供たちがその子孫へと受け継いでいく証となった。

30.
しかし、その記憶の真の意味を誤解した物質主義に染まった人々の大半は、やがて、最初の人類が暮らした楽園の地の楽園であったと信じるようになった。それは、それらの被造物たちの魂の状態であったことを理解せず。（87, 12-13）

人間の性質

31. 魂と肉体は異なる性質をもつ。それらがあなたの存在を構成しており、その両者の性質が異なっている。
前者は霊的な性であり、後者は地上的な物質である。両者は一つの存在に統合されており、あなたの中の神聖なる霊に導かれて、互いに争っている。この闘いは今日に至るまで続いてきたが、最後には、魂と肉体は調和して私の律法が割り当てた使命を果たすことになる。

32.
魂は肉体を大地として機能することもできる。物質の中に宿された魂は、人間としての生涯において受ける試練と教訓を経て、成長し、天へと伸びていくのである。（21, 40-41）

創造と被造物の一体性

33.
神の霊は、枝が世界であり、葉が存在である、無限に大きなものようなものです。幹を通ってすべての枝、そしてそこから葉へと流れるのは、すべて同じ樹液なのです。それゆえ、あなたがたを互いに結びつけ、創造と一つにする、永遠の神聖な何かが存在すると言えないでしょうか？ (21, 38)

34.
すべてを満たす私の霊は、霊性なものであり物質性は自然であれ、私が創造したすべてのものの中に存在している。すべてのものに私の業は現れており、あらゆる生命の源において私の完全さを証ししている。

35.
私の神聖な業はすべてを含んでいる――私の中にある最も偉大で完全な存在から、かろうじて感じることのできる微小な生物、植物、鉱物、原子や細胞に至るまで、それらはすべての被造物に存在している。

36.
それによって、私は再び物質性の存在から、すでに完全性を達成した霊に至るまで、私が創造したすべてのものの完全性をあなたに示すのである。これが私の業である。（102, 39）

37.
最高法である霊の法から逃れる者は、人間もほとんどいない。すべての物質性の法の支配下に置かれる。しかし、最高法に従い、それと調和を保つ者はあなたがたが自然と呼ぶあらゆる法則の上に立ち、科学や宗教の中で見つけた識見が持たない者よりも、より多くを感じ、理解する。

38.
それゆえ、イエスはあなたがたが奇跡と呼ぶ行いによってあなたがたを驚かせるのである。しかし、彼があなたがたをもって与えた教えを学びなさい。全創造の中に普遍的な霊性の中に、超自然なものを求めるものではないことを理解しなさい。（24, 42-43）

第5章 自然

自然の法則

1.
私は神を「唯一なるもの」として、また、あなたがたの霊性と物質性を含む無限の存在として、全宇宙における運動と作用を導くものとして、そして、最も単純な植物の中にも、宇宙を司る私の意識の中に現れている生命として、それらすべてが、それを支配する法則に基づく一体となって存在していることを、あなたがたに教えてきた。

2.
その法則こそが、私、すなわちあなたがたの神である。それは純粋な発展の法則であり、人間を驚きと自然の神秘にますます深く入り込むことを可能にする広大な領域を開いてくれるものである。（59, 74-75）

3. その法則こそが、至高の創造の愛によって開かれたそのすべての被造物を導く道であることを理解せよ。
あなたがた個々の生命について考えてみよ。それは無数の基本的な生物から成り立っているが、やがてあなたがたはあらゆる物体存在が一見すると未知の神秘な力によって導かれているかのような道筋の上を動いていることに気づくだろう。この力こそが、神がすべての被造物のために定めた法則である。

4.
あなたがたがこれらの重要な事柄を学べば、最終的には、実際すべてのものが、ある高次の命の下で生き、動き、成長しているという認識に至るであろう。（15, 4）

自然における神の臨在

5.
わたしが成遂げたすべての業の中にわたしを求めなさい。そうすれば、どこにでもわたしを見出すことができるだろう。わたしに耳を傾けてみなさい。そうすれば、すべての被造物から発せられる沈黙の声の中に、わたしの声を聞くことができるだろう。なぜなら、被造物の存在を通して自分自身を表現することは、わたしにとって何の困難なことでもないからである。

6. わたしは、星の中にも、嵐の荒れ狂う中にも、そして、夜明けの優しい光の中にも、自分を見ている。
私は鳥のメロディアスな歌の中に私の声を響かせ、また香りを通して表現する。そして、私のあらゆる表現態、あらゆる側面、あらゆる業は、愛について、正義の道の成就について、知恵について、霊的世界における永遠について、あなたに語りかけているのだ。(170, 64)

自然、神の創造物、そして霊的なもののたとえ

7.
多くの人は、自然を、存在するすべてのものの創造の源として略奪することで、自然を自分たちの神にしてきた。しかし、まことに、私はあなたがたに言う。すべての存在が生まれたその自然――あなたがたの取り巻く物質的な世界――は、創造主ではない。それは、あらゆる神の創造によって創造され、創造されたものである。
自然は、生命の頂点でも、根源でもない。私、すなわちあなたがたの主こそが、初めであり終わりであり、アルファであり、オメガである。(26, 26)

8.
この人生において、あなたが現在、目にするすべてのものは、永遠の命の写しであり、理解するための物質的な形を通して現される深遠な教えである。

9.
あなたがたはまだ、この驚くべき教えの真の意味を理解してはいない。そして、人間は、地上の生活をあたかも永遠であるかのように捉えてしまったため、再び誤りを犯してしまった。
人間は、その表面的な現れに目を向けただけで満足し、そこに含まれる神の啓示、すなわち全ての創造物に遍在する神の愛と真理をすべて軽んじてきたのである。(184, 31-32)

10.
私は、私の子供たちの維持、健康、栄養、幸福、そして喜びのために、私自身の神聖なものについて、何一つあなたから隠すつもりはない。

11.
それどころか、私はあなたがたにこう言う。私の霊のパンを差し出し、神聖なエッセンスを吸い込み、霊的香りに満ちるようにと同様に、あなたがたもまた、自分たちの種子だけでなく、それから遠ざかりしてはならない。そうすれば、調和、健康、エネルギーを得て、それによって生命の実り豊かな成就に至るからである。(210, 22)

12.
理性を持たない存在は、その内なる声であり、師であり、導き手である本能に導かれる。それは、母なる自然から発せられるかのように、その存在が人生において歩まなければならない道――これまで経験したことのない道である――を指し示す。

13. あらゆる種類の生きている被造物の生命を尊重しなさい。無益な殺生の衝動を心に留めなさい。
それらは私の被造物から発せられたものであり、同様に私から生まれたものであるため、神の本質を含んでいる。それらは、この世においてあなたがたと伴い、私がこの地上に置いたものと参列するために存在するのだ。(120, 34; 37)

神の子らの自然に対する力

14. あなたがたが私の律法を尊重し、同胞の隣人たちが私にそう頼むならば、自然力はあなたがたに従うであろう。（18, 47）

15.
私はあなたがたに、解放された自然力さえも、あなたがたの祈りを聞き、鎮まることを教えたではないか。もしそれらが私の声に従うのなら、主の子らが準備整えたとき、なぜ彼の声に従わないというのか。（89, 10）

16.
われは霊的戦勝者たちが、道の最終目標に到達できるよう、霊物質を与えた。しかし、その戦いは激しいものとなるだろう。なぜなら、人間たちの世に、自分が信じる唯一の正当性を築いて来た人間は、自身と周囲のあらゆるものとの間に存在すべき調和を破壊してきたからである。
人間は、その創造主たるあらゆるものの存在の力の不服従さを、自然要素たちに自分の意志を押し付けようとしている。しかし、人間はそれを成し遂げられなかった。なぜなら、人間は一つの点に、霊的な流れの方向を誤り入ってしまったからである。

17.
私が今、この民に、自然力が彼らに従うことができると語ったとき、それを信じなかった者たちがいた。そして私は、彼らにはそう理由があると告げる。なぜなら、自然はそれを通じ、冒涜し、嘲笑する者たちには決して従わないからだ。
それに対して、霊物質の流れに調和して生きることを欲する者――すなわち、周囲のあらゆるものと調和して生きる者は、その者において創造主と調和し、自然諸要素が彼らに、従う権利を獲得する。それは、万物の創造主であるわに満ちすべての子供らにふさわしいことである。(105, 39)

18.
自然力があなたがたの声を聞き、あなたがたに従い、尊重している、と私が言うとき、私は嘘をついてもいなければ、誇張してもいない。

19.
イスラエルの歴史は、われの真実の証しとして記されたものであり、その中において、神の民がかつて自然力の要素から繰り返し試められ、尊重されてきたかを発見することができる。なぜ、これがあなたがたには当てはまらないというのか。

20. まさか、私のかの類の愛が、時を経て変わったとでも思っているのか？
いいえ、この言葉を聞く者たちよ、私の霊があなたがたを貫いている。私の力と愛は永遠であり、不変である。（53, 64）

人間と自然

21.
しかし、地の民よ、汝は耳しなければならない。もし汝が、私の聖霊を引き続き自然力に挑むために用いるならば――もし汝が、持ってはならない能力を邪悪なために用いるならば、汝は最も予期しない時に、苦痛に満ち厳しい報いを受けることとなるだろう。
あなたがたは空気、火、土、水、そしてあらゆる生物を汚している。もし、あなたがたの無分別によって解放された自然力を食い止めるために、時宜を得て行動しなければ、その報いがどうなるかは、すでに分かっているはずだ。

22.
あなたがたは、私の言葉があなたがたの自由意志に許可を与えようとしていることに、私は注意を促す。あなたがたは自然をあまりにも挑発しすぎている。そして、あなたがたは、自分たちを導いている者たちであるのに、あなたがたが置かれている危険を警告するために、この言葉を与えられるのである。（17, 60）

23.
私は、私の意志よりはむしろ私の言葉を行動せよとあなたがたに言った。そして今、私は、自然力がかなる要素も、私の意志よりの意志には従わないと告げる。

24.
また自然は人間にとって彼が望むものなら得ると言っておく。神は慈愛と憐れみなく与えるほども飽くほど豊かに恵まれる神の恵みとせよ得る。
人生善愛そして永遠について賢明無限の答えを与える神となることもあれば人の不幸迷いに対して容赦ない裁き人となることもある。旨読
25.
わが父なる神の声は最初の人類に語りかけつつこう告げられた。「生めよ増えよ地を満たせ地を支配せよ。海の魚空の鳥地を這うすべての生き物を支配せよ。」
26.
そう人類よ私は人間を創造した。それは人間が空の領域水域全大陸そして創造の全世界において主となり権威を持つためである。
しかし私は「支配者」と言った。なぜなら人間は――自分の科学によって地球を支配していると信じているが――実際は奴隷からである。彼は自然の要素を制していると思い込んでいるが、その実態は傲慢と無知の産物となっている。
27.
人間の力と科学は大地海そして大空を征服した。しかし、その力と智恵は神の愛の現れとして生命知恵調和そして完全である自然の力と智恵とは調和していない。人間業その科学と力は傲慢利己的虚栄そして悪意しか表していない。（40, 26-30）
28.
自然の力の働きそれが受け最初の生物に気づいているか。なぜ解放された自然の力が襲われているのかその理由を自覚しているか。
その理由はあなたがたが霊的生命と物質的生命との間に存在する調和を乱しそれによって今あなたがたが陥っているあの混沌をもたらしたからである。しかし人類が生命を支配する法則にしたがうようになればすべては再び平和豊かさそして幸福となるであろう。（108, 56）
29.
あなたがたが、まさに自分の生命の源である自然の要素を敵対しているのを見て、どうしてあなたがたの地の行いが完全であると言えるだろうか。
30.
私の教えはあなたがたが自然の要素の力を利用することを妨げるものではない。しかしそれはそれを善き目的のために用いるよう、あなたがたに命じ教えているのである。
31. あなたがたの手に委ねられた自然の力は、友であるから、あなたがたを厳しく罰する裁き人と変える可能性がある。
32.
人がもはや自然の力を利用しないよう、経験実験を積むようにと、とくに諭していた。なぜなら、彼らはそのすべての科学をもってしても、それを止めることはできないからである。（110, 43-46）
33.
科学という木は猛烈な嵐の前に揺さぶられその実を人類の上に落とすであろう。しかし人間よりの誰がそれらの自然の力の秘密を解くというのか？
34.
確かにかつての人類はまだ現実すなわち良心の光に目覚めある程度にまで至るようになるために苦痛にさいなまれた。しかしこの時の発達意識高く教養ある人間が――どうして生命の木を冒涜するということを考えてできるだろうか！（88, 28）
35.
私が自然の法則によって人間を罰しているのだと考える者たちに対し私はこう言おう。そう考えるならば彼らは大きな誤りに陥っているのだ。なぜなら自然は不変、変化するものであり、その変化移行の過程で激動が生じる。もしあなたがたが私の律法を守らなければそれらは苦しみをもたらすが、あなたがたはそれを神罰と解釈しているのだ。

36.
確かに、彼の神は私の敵で働いている。しかし、もしあなたが――魂の奥深くで神聖な仕方によって選ばれた存在であるあなたが――が周囲の世界に調和して生きていなければ、あなたの精神は自然の変容と自然の力の活動を経て前進し、あなたが苦しみを受けることはなかったろう。(280, 16)
37.
自然は巨大な被造物の地ならしではないか。そう、弟子たちよ、それはその栄光の光線を浴びることができるように、同様に発展し、浄化され、開花し、完成へと向かう被造物なのだ。
38.
あなたがたは、その完全性を達成するための自然の過渡的現象に、どれほど頻繁に不機嫌な、それゆえ罪深い目を向けていることか。しかし、あなたが自身もまた、自然と創造物とともに浄化され、発展し、完全性に向かって進んでいることに気づいていないのだ。（283, 57-58）

第6章 他の世界

キリストの普遍性と光

1.
かつて私はあなたがたに、「私は世の光である」と言った。それは私が間違って語ったからであり、人々が自分たちの小さな世界の側について何も知らなかったからである。今、霊として私はあなたがたに言う。私は、すべての世界、天、そしてはるかな星雲、すべての存在と生物を含む、彼らの命をもたらす普遍性である。（308, 4）
2.
私は多くの種族人である。私が地上に来る前から、人々からイエスと呼ばれていた前から、私はすでに種族人であり、物質に限られ、無知の被われた者たち――あなたがたが知らず、想像できない霊性と神性に近い者たち――はすでに私を知っていた。
3.
私が地上に来る前から私を知っていた者たちの中から、私は多くの人々をあなたがたのもとへ遣った。それは、この世で私について証し、愛と慈しみの言葉であるキリストの到来を告げ知らせるためである。その者たちの中には、預言者もいれば、先駆者もいれば、また使徒もいた。
4. 私の足跡が残されたのは、この世界だけでない。救いを必要とされたところは、どこでも私は存在していた。
5.
しかし、私はあなたがたに告げなければならない。他の世界では、あなたがたの兄弟姉妹たちの隣人愛によって、私の十字架が取り除かれた。それに対し、ここ、この世界では、何世紀も経った今なお、私は
の救済の業、あなたがたの完全さという十字架に釘づけされ、苦しみの入った杯を飲み続けているのだ。
6.
私の愛と慈悲深さのために、私は限りない忍耐をもってあなたがたを待望している。そして、すべての人間に対し、ただ一度だけでなく、繰り返し向上の機会を与え、深い盲目に陥っている者たちの目覚めを、長い時を通して待ち続けてきたのである。（211, 26-29）
7.
完全性の領域には多くの段階があり、霊性が異なる宇宙の領域には多くの世界がある。しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。私は常にすべての人々に自己を現してきたのであり、彼らが置かれている世界の霊的領域に応じて、私の姿を彼らの間にあらわしてきたのである。（219, 34）
8. 人間たちが私の神性、私の存在、そして私の教えについて議論している一方で、私が完全な愛をもって愛している世界がある。

9. あなたがたの最高の魂の清らかさが集まったとき、あなたの惑星は霊的に大きな変容の時を経験している。（17, 65-66）

世界間霊的つながり

10. 私の神聖な光はあなたがたの内に輝いている。あなたがたが私を求める場所はどこであれ、私の姿を見出せるだろう。

11.
私はすべての兄弟たちの間に調和が芽生え始めるよう働きかけるつもりである――地球に住む者たちの仲にも、他の世界に生きる者たちの仲にも。

12.
すべての存在の間に霊的調和は、彼らに導きと啓示をもたらし、霊と霊との対話を可能にするだろう。それは媒体なしに、遠く離れた者を身近にし、対立や境界を取り除くことになる。（86, 1-3）

13.
人間は霊に向けて大きな歩みを進めるだろう。その精神は肉の限界を超え、より高い生命の世界へと到達し、兄弟たちと交わり、彼らの差し出す助けを受け取ることができるようになる。

14.
また人間は、発展の段階が低い存在や、遅れた存在が留まっている生命の次元へと降りていくこともできる。それは、彼らがその貧しい存在を脱し、より良い生活圏へと移るよう助けるためである。

15.
魂が完成へと登っていく階段は非常に長い。その階段の上で、あなたは無限に多様な種類の存在たちに会い、あなたが持つものを彼らに差し出せるだろう。そして彼らはまた、その精神性豊かさのいくつかをあなたに与えてくれるだろう。

16. そうして、改善を求め奮闘しているのは地球だけではないことに気づくでしょう。
すべての惑星において発展、すべての惑星で成熟し、その使命を果たすために成長していることを、あなたは知ることになる。そして私はあなたがすべての兄弟たちと出会い、互いに認識し、愛し、助け合うという聖なる願いにおいて彼らと交流できるよう、準備整えてほしいと願っている。

17.
私の名において、そして絶対的服従をもって、あなたの思考通してそれを行いなさい。この実践をすれば、次第に彼の願い、教え、そして意志を正しく理解するようになるでしょう。

18.
私は、あなたがたが、現在あなたがたの住まいであるこの惑星はじめその外にいる兄弟たちと調和することを願っている。友情の絆を結び、必要な時には助けを求め、また、あなたがたが持っているものを求めてくる者たちにも、急いで助の手を差し伸べなさい。（120, 44-46）

他の世界の生命体との出会い

19.
あなたは、この世界の向こう側には何があるのか、また宇宙を周回するあの星が、あなたの世界のような世界なのかどうか、私にしばしば尋ねてきた。

20.
あなたの好奇心に対する私の答えは、私の愛のベールを完全に引き裂くものではなかった。なぜなら、あなたがたは、それを理解するために必要な成長も、他の世界と調和するために不可欠な霊性も、まだ備わっていないと私は見ているからだ。

21.
あながたは、自分たちが住むこの惑星のちっぽけな教会をまだ認識し理解していないのに、すでに他の世界を探そうとしている。同じ世界の住人であるはずの間で親しくなることさえできないのに、他の世界にいる存在を発見しようとしているのだ。
22.
ひとまず、私が第一の時代において、「父の家は多くの住まいがある」と語ったことを思い出させた次第である。そして今、その言葉を裏付けるように、あながたは宇宙唯一の住人ではなく、あながたの惑星だけが生命を宿す惑星ではない、と私は言う。
23. 明日の世代には、他の世界と近づく門が開かれているのを見ることが許され、彼らはそのことから必ず利益を得るだろう。
24. 慈愛と平和の相互に善意と愛こそが、神秘の扉を開く鍵となり、それによって人は宇宙の調和へと歩を踏み出すことになるだろう。
25.
今日、あながたは故郷として孤立し、制限され、妨げられている。なぜなら、利己心が、魂の自由と高揚を求めることなく、ただこの世界のために生きることを強いてきたからだ。
26.
虚栄におおわれた人々よ――物質主義によって変化された存在たちよ――もしあなたがが、人間としての過ちから解放される前に、他の世界へ行くことを許されたとしたら、どうなるだろうか。あなたがたは幸福だろうか。不和、度を越した野心、虚栄心である。
27.
まことに、わたしはあなたがたに言う。すべての偏見が消滅するその知識、そして、人間を苦しめ、その存在を締めつける闇から思考を解放するその啓示を得るためには、人間自身を深く清め、徹底し、祈らなければならない。
28. 私の神秘を証明するのは、科学だけではない。その知識の源泉が霊性に根ざしたものであることが必要である。
29.
ひとりの人の地球霊を呼び出そうとすれば――私はあなたに言う。その時、彼らは自分の世界の彼方を探すために努力することなど必要としないだろう。なぜなら、その瞬間、彼らはより高い使徒たる者たちによって訪問されることになるからだ。(292, 3-11)

星の運命

30.
あながたの父の家は多くの「住まい」があり、それらは宇宙と呼ばれる神の無限の段階である。そこから霊世界」は降りてきて、あなたがたの間でその存在を明らかにする。
31.
あながたは、霊から霊と、数えきれないほど多くの星や、あながたの世界の上を輝いている惑星が存在する理由について、何度も私に尋ねてきた。そして、「師よ、それらの世界は空っぽなのですか?」と私に言った。
32.
しかし、私はあなたに言う。私がそれを完全に明らかにするのはまだ来ていない。人が霊的覚醒して初めて、大きな啓示を与えられ、私の神性なる存在たちと霊から霊へと話ができるようになり、その時、すべての兄弟たちの間で思想の交流が行われるようになるのだ。
33.
しかし、あなたがたは今日、すでに知っておくべきである。すべての世界は神の被造物によって住まわれており、空っぽなものは何一つなく、すべてが祝福された領域であり、神聖な愛の体現であるマリアによって守られた霊域なのである。
34.
聖霊は、あなたがたを通して、あなたがたも、類まれな高次の啓示を再び与えるであろう。いつのことか、愛する民よ?それは、あなたがたの内なる霊性が変化し、使命の準備が満ち足りた時である。(312, 10-12)
35.
見よ、わが民よ、天を見上げよ。よく見よ。そうすれば、どの星にも家があり、あなたを待ち受ける世界があることを悟るだろう。それは神の

子供たちに集まれ生命の世界であり、あなたが全員そこに住むことになるのだ。
なぜなら、あなたがたは皆、私の王国をもつようになるからだ。それは特定の存在のためのみ
に創造されたものではない。それは、主のすべての子供たちがつながるための、普遍性な愛として創造されたのである。(12, 24)

第7章 あの世

霊性生活に関する必要な知識

1.
今日の人々は、霊性教えに関してなんと無知なことか。その理由は、彼らに対して、私の使徒教会が、彼の助けなる単なる道徳教えとしてのみ説かれてきたからであり、彼の救済なる知恵と導きとして説かれてこなかったからである。
2.
様々な宗派は、人々の心に霊性な知識に対する誤った恐れを植え付け、その結果、人々は私の教えを避け、無知という闇の中にますます沈んでいくことになった。彼らは、霊性生活は理解し難い神秘である、と理由をつけている。
3.
そう主張する者たちは嘘をついている。人類のはじまりから神々たちを通してきすべての啓示は、霊性生活について語ってきたのである。確かに、あなたがたはまだすべてを理解できなかったため、私の教えのすべてを授けられなかったが、その時はやがて来るであろう。しかし、父が今日に至るまで啓示してきたことは、霊性生活について完全な知識を得るには、あなたがたにとって十分である。(25, 38-40)
4.
ある者たちが語る霊性生活は、他の者たちから恐れられ、否定され、さらには嘲笑されている。しかし、それは多くの人に受け入れられている。
それはすべての人を受け入れる啓示であり、あなたに向かって差し伸べられる腕であり、霊の故郷である。それは者たちにとっても測り知れない神秘である。しかし、その理解のための鍵が愛であるならば、いつでも私の神秘を踏み通ることができるのだ。(30, 40)

「天国」と「地獄」

5.
人々は、地獄を永遠の苦しみのある場所として想像してきた。彼の考えによれば、私の敵や背いた者たちは皆、そこへ送られるという。そして、重大な罪に対してこの地獄を創り出したのと同様に、彼らは軽微な罪に対しては別の場所をまた善悪を行なわなかった者たちのためにまた別の場所を想像した。
6.
あの世では喜びも苦しみもないと言う者は、真実を語っていない。苦しみを知らない者も、喜びを知らない者もいない。魂は至高の平安に達するまでは、苦しみと喜びが常に混在するものである。
7. 聞け、わが子らよ。地獄は、現世に生きる者も、すでにこの世を去った者も、この地の住人にも、霊界の住人にも存在する。
地獄は、重罪を犯した者たちの激しい苦しみ、恐ろしい良心の呵責、絶望、痛み、そして苦しみの象徴である。しかし、彼らは私の愛と赤われることで、これらの結果から解放されるだろう。
8.
一方、真の霊と真の平和を象徴する天国は、神の交わりの中で生きるために、この世の清めを受け入れた者たちのための場所である。
9.
自分の良心に問いかけてみよ。そうすれば、自分が地獄に生きているのか、過ぎ越しているのか、それとも天国の平安に満たされているのかが分かるだろう。

10.
人が死後地獄と呼ぶものは、特定の場所ではない。それは、あなたの精神が霊性界に到達した時に取る、あなたご自身のものである。
誰かがそれぞれの地獄を経験し、贖罪の世界に身を置き、あるいは神聖霊の慈悲深いみもとで浄化を享受するのだ。（1, 51-56）
11.
人が地上において、わが王国の外には霊性界の世界を自築させることができるのと同様に、その堕落によって、悪徳、邪悪、良心の呵責に満ちた地獄のような状態を築くこともできる。
12. 来世においても、魂が迷い、そして憤怒に陥って、霊闇に堕落、憎み、そして僕の世界に遭遇することがある。
しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる、人が地上の形やイメージによってのみ想像する天国と地獄、魂のままざまな段階と他ならない。一方はその発展によって完全の頂点であり、もう一方はその闇、悪徳、そして迷の深淵であるのである。
13.
正義の魂にとって、その魂がどこにいようと問題ない。なぜなら、どこにいようとも、その魂は創造の平安と天国をその内に抱いているからである。一方、不純に汚れた魂は、たとえこの世で最も素晴しい場所にいたとしても、その内面では絶えず良心の呵責という地獄を感じ続けるだろう。その呵責は、その魂が清められるまで、その魂の中で燃え続けるのである。
14.
あなたがたは、私があなたがたのために、あなたがたを罰し、あなたがたの宣告に対して永遠の報いをするために、特別に定められた場所を創造したと思うのか。
15. このような話を聞く人々とは、なんと野蛮なことか！
16.
永遠の闇と永遠の苦痛とが、ある魂が受け入れるべきものであると、どうして信じることができるのか。たとえ彼が罪を犯したとしても、彼は依然として永遠の神の子である。もし彼が教えを必要とするなら――ここに師がいる。もし彼が愛を必要とするなら――ここに父がいる。もし彼が赦しを必要とするなら――ここに完全な赦しがある。
17.
私を求め、自分の過ちを正そうと決して試みない者は、私のところに来ることはない。しかし、私の厳しい試練に耐えられない者は一人もいない。清められた者だけが、私のところに来ることができるのだ。（2, 31-37）
18.
父の家には多くの住まいの中に、闇の世界はつゆなく、すべてに光がある。しかし、もし魂たちが無知のベールに目隠しをしてそこに入るのであれば、どうしてその光を見ることができるだろうか。
19.
もしあなたがたがこの世で盲人に、何が見えるかと尋ねれば、彼はこう答えるだろう、「闇だ」と。それは光が存在しないからではなく、彼には光が見えないからである。（2, 12-13）
20.
私はこの時に、あなたがたに言った。人間たちは、間違って存在する地獄についての概念を抱いてはならない、と。なぜなら、この世において、あなたがた自身の無知によって作り出した人生よりも大きな地獄はなく、また来世において、良心がその過ちをきっぱりと清め、良心の苦しみがこれ以上必要なくなるまで、これ以上存在しないからだ。(182, 45)
21.
宗教の指導によって、来世において地獄行きが決まっていない者たちが、その考えに固執している限り、彼らは自ら地獄を作り出すことになる。なぜなら、魂の迷いは人間の理性のそれと同様であるが、はるかに強いものだからである。

22.
さて、あなたがたはこう言うだろう。「神は、彼らを救いたいのでしょうか？」私はこう言う。救いはすべての人に与えられているが、平安とともにそれらの魂に届くのは、迷いの闇が晴れてからのことである。
23.
混乱した理性が、実在しないものまで見てしまう人間に対して、憐れみを感じたことはあるか。もし来世で、自分たちが想像した地獄を目の当たりにしている、妄想に囚われた存在たちを見たら、その時あなたの痛みはどれほど大きくなるだろうか！（27, 71）
24.
これらの告白を前にして震えることはない。それどころか、この言葉があなたがたが抱いていた永遠の罰という概念や、かつて与えられてきた永遠の火に関するあらゆる解釈を打ち砕くのだと考えると、喜びなさい。
25.
「火」とは、魂を苦しめ、それを責める痛み、自責、そして悔恨の象徴である。それは、るつぼの中で金が精錬されるのと同じである。この痛みの中に私の意志があり、私の意志の中に、あなたへの私の愛がある。
26.
もし、人間の罪を償うのが火であるというのが真実であるならば、罪を犯した者たちの肉体はすべて、この地上の生において火の中に投げ込まれなければならないはずである。なぜなら、死んでしまえば彼らはそれを感じることができないからである。
なぜなら、肉体は決して霊へと変わることはないからだ――
それどころか、一度その役割を終えると、肉体は地中へと沈み、そこから生命を受けた自然へと溶け込んでいくのである。
27.
しかし、あなたがたが「永遠の火」と呼ぶものが、肉体のためではなく魂のために用意されていると信じるならば、それはさらなる重大な誤りである。なぜなら、霊には物質的な要素は存在せず、また火が魂に作用することもないからである。物質から生まれたものは物質であり、霊から生まれたものは霊である。
28.
わたしの言葉はいかなる誤りの余地をも残すためにできているのではない。もし誰かがそう考えるなら、それは大きな誤りである。わたしの言葉は、正しく解釈されてこなかったすべての事柄、それゆえに誤りをもたらし、人類が世代から世代へと受け継がれてきた事柄の真実を明らかにするであろう。
29.
もし私の律法教師が、魂を誤りと罪から救い出すことができないのであれば、それはどのような価値があるだろうか。また、もし永遠に、終わりのない贖罪の中で滅ぼされなければならない者の救いのためであれば、人間としてこの世に私が現れたことに、どのような意味があったろうか。（352, 44-48）
30.
死の裁きを、主を棒げるべき犠牲が何も残っていないのではないかと恐れるがゆえに、善を行うよう駆り立てられる者もいる。また、罪の中で死んでしまい、この地の後、永遠の懲罰を受けなければならないという恐怖から、悪から離れる者もいる。
31. これほど多くの人々が想像を絶するこの神なんと歪んでおり不完全なことか！
なんと不公正で、怪物じみて、残酷なことか！人間が犯したすべての罪と過ちを合わせても、それは神が罪を犯した子供たちを――彼の考えによれば――永遠の懲罰と追いやるという、その忌まわしさほどにものにならない。
神が最高に属性愛であると、私はあなたがたに説いてこなかったか？
ならば、永遠の苦しみとは、永遠の愛という神の属性の絶対的な否定であると思わないか？（164, 33-34）
32.
あなたがたは、天国は永遠の中に存在する領域であり、肉体の死の瞬間、自分の過ちを心から悔い改めることによってそこに入ることができると言っている。なぜなら、その瞬間に救いを得て、私によってその御国へと導かれると信じているからだ。それがあなたがたの信じていることである。

33.
しかし、私はあなたがたにこう言おう。天国は、特定の場所でも、ある地域でも、住処でもない。魂の天国は、その高貴な感情の世界であり、その完全性であり、その清められた状態である。では、あなたがたが天国に入ることを待つのは、誰の責任だろうか。常にあなたがたを呼び続けてきた私か、それとも、常に与えようとしなかったあなたが自身か。

34.
もはや、無限なるもの、神聖なるものを限定してはならない。もし天国が、あなたがたが信じているようなもの――特定の地点、地域、あるいは特定の場所――であるなら、それはもはや無限ではないということになるのだと、理解できないのか。
たとえあなたの想像が現実のすべてを把握できないとしても、今こそ、より高次な方法で霊性なものを理解すべき時である。しかし、少なくともそれに近づこうとするべきである。（146, 68-69）

天国の音楽

35.
あなたがたは、天国の天使たちが永遠の神聖なコンサートを聴いていると聞いたことがあるだろう。この象徴について考えるとき、天国も、あなたがたが地上で慣れているような雑音を聴くのだと信じることに意味はない。
そう考える者は、物質主義という完全な誤りに陥っている。それに対して、天の音楽や、それを聴く天使たちの登場について語られるのを聞いた時、この神聖なコンサートにおける神の調和を思い浮かべる者は、真理の中にいることになる。

36.
しかし、あなた方一人ひとりの魂の中に、この普遍的なコンサートの音が宿っているにもかかわらず、なぜ多くの人々がそれを受け止めないのでしょうか。なぜ、この音楽を耳にしても、それを理解せず、感取せず、あるいは誤って解釈するのがほとんどなのでしょうか。

37.
ああ、愛する子供たちよ、理解が弱い、あなたがたは、祈りの中で光を求めてください。瞑想の中で私に問いかけてください。なぜなら、あなたの問いがどれほど広範なものであっても、私は常にあなたに答えることを知っているからです。私からお聞きあなたがた、問いを投げかけ、師と弟子の間に真理の光が輝くようにします。

38.
天の音楽は、あなたの中にある神の領域であり、あなたがたが真の高みへと霊性を進化させた時、そのコンサートの真っ只中で、あなたの音が響き渡るだろう。これこそが天の音楽であり、天使たちの歌である。あなたがたがそう感じ、感じるとき、真実のあなたの存在の中に輝き、神があなたの内におられることを感じるだろう。
人生は、あなたがたに永遠の神聖なコンサートを捧げてくれるでしょう。そして、その音の一つひとつの中に、あなたがたは答えを見出すことになるのです。

39.
あなたがたは、まだそれらの美しい音色を完全な調和の中で聴いたことはない――時には不協音、また時には強い音、もし偶然それらを耳にしたとしても、それらは調和することができない、曖昧な音として聞こえるだろう。
あなたがたは、それらに含まれる美しさをまだ完全に見ていないのだ。魂の中で神のコンサートを感知するためには、感覚情動、そして物質主義の影をすべて捨てなければならない。（199, 53-56）

わが父の家には多くの「住まい」がある

40. 私の業はますます拡大し、やがてすべての魂が私の律法の成就において一つとなり、この地の住まいが完全な世界となるだろう。
その時、そこには住者たちはすべての被造物の中に私の愛を感じ、より良い世界で生きるために備えるだろう。この地球は、あなたがたの魂にとって一時的なものに過ぎず、完全性を求める心を持って、他の領域、あの世界の次へと旅立つことになる。

41.
私が「わが父の家には多くの住まいがある」と語ったことを思い出せ。そして、あなたがたが私の教えをより深く理解するようになったその瞬間、時

代において私はこう言おう。『父の家には無限数の住まいがある』と。だから、この世を去る時すでに最大の霊的高みに達したなどと思ってはならない。

いいえ、弟子たちよ、この惑星の営みが終わる時、私はあなた方全員が住まいへと導き、そしてそこで私はあなたの完成の無限の階段をいつまでも導いていくのだ。私を信頼し、私を愛しなさい。そうすればあなたは救われる。（17, 30）

42.

あなたがこの世にありながらにして、私の王国すなわち天国とその栄光がどのようなものであるか、あるいはどのような質のものかを想像することは不可能です。私はあなたが、それが完全な状態であり、そこから魂があなたが現在理解することも想像することもできない、霊の清らかな生活体験、感じ、理解するのだということだけ満足してほしいのです。

43. 言っておくが、あなたがたが今肉体を去る時、死は甘美な眠りであり、その命の躍動にほかならないのだ。

『父の懐に生きる』ということがどういうことか、おわかりだろうか。あなたがたがそこに住むようになって初めて、それを知ることができるのだ。その神秘に対する驚きと畏敬の念が、あなたの成長の道のりにおける励みとして、一瞬たりともあなたの心から離れ、過ぎ去っていくことはない。（6, 28-29）

VII 完全性への成長の道

第28章 - 死、死後、そしてあの世での目覚め

精神の死

1.

今こそ人が精神の美しさに目覚め、永遠の事柄に関心を持つ。『死後に待ち受ける生活はどのようなものだろうか』と質問する時である。

2.

たとえどれほど不信心な者であっても、自分の中に、肉体の死後に生き残る何かがあるかもしれないと、一度は考えたことがない者はないだろう。まことに、私はあなたに言う、

その神秘を感じ、その測り知れないものについて一瞬たりとも考えたことがない者など、誰一人としていないのだ。

3.

ある者は遠くにあるように思われながら、実際にはまさに目の前にある霊性の神秘について問いを投げかける。ある者はそれを恐れ、またある者はそれを否定する。ある者はすべてを知っていると思い込んで語るが、ある者は黙し、様子を見る。しかし、あの世について真に何かを知っている者はいかにわずかなことか。（107, 1）

4.

第二の時において私は魂を肉体に吹き込むために霊から立ち上がり、彼を新たな命へと目覚めさせた。なぜなら、私はその初めからである。誰一人死ぬことはできない。自らの手で命を絶とうとする者でさえ、その真の目的の成就を遅らせることになるだろう。（52, 63）

5.

私の教えは単にあなたがたに地の生を満足に確立するためだけのものではない。それはこの世を去り、あの世の門をくぐり、永遠の故郷へと入る方法をあなたがたに教えるためのものである。

6.

あらゆる宗教はこの世における魂の力だが、死後の世界の大いなる旅について、魂をどれほど明かし、準備させているだろうか。そ

れゆえ、多くの者が死を終わりと見ているが、そこからこそ、真の命の果てしない地平が見えることはないのである。（261, 52-53）

7.
「死」とは単なる象徴に過ぎず、「死」はまず真理を探究する者たちのための存在である。彼らにとって、「死」は依然として、その背後に不可解なもの、あるいは無があるという恐怖の象徴である。私はあなたに告げる。目を開き、あなたたちが死ぬことはないのだと悟りなさい。
あなたがたは肉体から離れることになるが、それはあなたがたが死ぬことを意味するのではない。あなたがたは、あなたがたの師のように、永遠の命を持っているのだ。（213, 5）

この世をさるための準備

8.
あなたがたは霊的被造物を持者として創造されての最愛なる従業であることを理解しなければならない。なぜなら、父はあなたがたの中に霊的な本質、霊性を置かれたからである。

9.
魂とっての死は存在しない――あなたがたが理解するような、すなわち存在の消滅を意味するような死は、肉体の死は、魂とっての死、終わりではあり得ない。まさにその時、魂はより高次の生へと目を開くのであり、その方で、肉体を去った、この世界に関して言えば、永遠にその目を閉じるのである。それは、完全性へと至る道のりにおける、単なる終わりの瞬間に過ぎない。

10.
もしあなたがたがまだそう理解していないとすれば、それはあなたがたがこの世をまだ深く愛し、それに強く縛られていると感じているからである。あなたがたはこの世を家としていることに重荷を感じている。なぜなら、あなたがたは『
』で有しているものを自分の所有物と考えているからだ。また、ある人々は私の神聖な正義に対する激しい恐怖を抱き、霊界へ入ることを恐れている。

11.
人類はこの世をあまりに深く愛しすぎてしまった――その愛は誤った方向に向かっていたがゆえに、あまりに深く愛しすぎたのだ。このために、どれほど多くの者がこの世の命を落としたことか！同じ理由で、どれほど多くの魂が質入れしてしまったことか！

12.
死の足音がすぐそばに迫っているのを感じたとき、重病にかかったとき、苦しんだとき、そのときはじめて、あなたはあの世、つまりそのような危機や瞬間が訪れるあの国境領域に、あと一歩のところまで来ているのだと気づくのです。そして、あなたは以前、誓いを立て、地上でを愛し、仕え、従うことを誓うのです。（146, 46-49）

13.
人々はこの生をあまりに愛しすぎて、それを去る時が近づくと、私の意志に背き、私が彼らに向けて発するよびかけを聞こうとしない。彼らは私の王国の安寧よりも、地の財産を相続するために、父と地でのさまざまな事柄を求めている。

14.
霊性を感じることのできる、感性豊かな人間は、あなたの発展のより――すなわち次の生――に満足してはならない。なぜなら、その先に、より高次の創造の業が存在するからである。

15.
もし死が私の意志に従ってあなたがたに近づいたなら、それを拒もうとしてはならない。また、科学者に、私の決定に逆らい、あなたがたの存在を延ばすという訴訟を起こすよう求めたりしてはならない。なぜなら、あなたがたの過ちを深く後悔することになるからだ。
この人生において備えをしておけば、来世の旅立ちを恐れる理由はどこにもないだろう。（52, 55-57）

16. この世に生きている間は、その法律を尊重できるよう、あらゆる範囲でこの世のものを愛しなさい。
しかし、常に高次の霊的世界へ向けて、という一貫した目標を堅持し続けなさい。そうすれば、魂が肉体の束縛から解き放たれる時、動揺することも、この惑

星に愛された者の誰もが経験することはないだろう。そうでなければ、魂はもはや属さない世界に縛られ、鎖でつながれたままとなり、その世界を何ら楽しむこともできなくなるからだ。（84, 5）

17. 自分自身に誠実であれ！

いつ魂が肉体から離れるか、誰も知らない。明日、自分の目が再び光に開かれるかどうか、誰も知らない。あなたがたは皆、すべての被造物の唯一の所有者に属しており、いつ召されるかを知るのだ。

18.

頭の髪の毛さえも、あなたがたのものではないこと、また、あなたがたが踏む塵さえも、あなたがたのものではないことを忘れるな。あなたがた自身さえも、あなたがたのものではないのだ。あなたがたの祖国はこの世のものではないのだから、はかない所有物など必要ないのだ。

19.

霊性に関して言えば必要限度以上すべてを正義と節度をもって所有することとなる。そして、この生命の時が来れば、光に満ちて昇り、あの世であなたに与えられるものを手にするだろう。（5, 95-97）

あの世への移行

20.

あるとき私の声は平安のある善き道へとあなたがたを呼びかけている。しかし、耳の遠いあなたがたはその声に対してほのかなときしか感応せず、そのときそれが死の訪れによって肉体の死が近づいていることを告げる。あなたがたの生涯の最後の瞬間となるのである。その時、あなたがたは過ぎ去った良い歳月に直面して驚愕するかもしれない。主に献身する模範的な生活に、人生をやり直したいと願うだろう。（64, 60）

21.

もしあなたがたが魂の死を恐れるならば、人間生命に終止符を打つ死の到来を恐れてはならない。準備をしてそれを待ち受けよ。死は私の命令に従うものであり、それゆえ、たとえ人がしばしばその反対を言っているとしても、死は常に適切な時に、そして正当な理由で訪れるのである。

22. 辛いのは、人が死ぬことではなく、肉体を離れた後その魂が光の中に真理を見ることができないことである。

私は罪人の死を望むのではなく、その回心を望む。しかし、死が必要なとき――たとえそれが魂を救うためであれ、あるいは肉が破滅と堕落の淵へと沈むのを食い止めるためであれ――その時、私の神聖な正義がその人間存在の糸を断ち切るのだ。（102, 49-50）

23.

あなたがたの運命の書には、あの世の門扉で、あなたがたの魂を受け入れる日時が記されていることであり、そこから、あなたがたは地上のすべての行い、すべての道を見ることとなる。

その時、あなたがたが難癖をつけたり、たてる声を聞きたくないでしょう。自分たちの不幸の原因はあなたがたにあると指さす者たちを見たくはないでしょう！（53, 49）

24.

あなたがたはまだ長い道のりが目の前にあるからといって、立ち止まって、決して目的地にたどり着けないなどと考えてはならない。前進しなさい。たとえ一瞬の間躊躇したとしても、後であなたの魂がそれを嘆くことになるのだから。誰が、目的地はこの世にあると言うのか？誰が、死が終わりであり、その瞬間私の御国に到達できると教えたのか？

25.

死は短い眠りのようなものであり、その後で魂は、私の光の愛撫のもとで、新たな生涯で目覚めるだろう。それは、魂にとってはまるで新たな一日のように。

26. 死は、あなたがたが肉体に縛られていた間閉じ込められていた牢獄の扉を開く鍵であり、同時に、永遠の門を開く鍵でもある。

27. 人間の不完全さによって嘆きの谷と変えられてしまったこの惑星は、魂にとって監獄であり、追放であった。

28.
まことに、わたしはあなたがたに言う。地上の生活は、生命の練習における段階である。なぜ、そのすべての苦悩を引き受けなければならないのか。多くの者が何度もここに戻らなければならない理由は、彼がそれを望まず、前世から何の益も得なかったからである。（167, 22-26）

29. 魂は、長く、時に厳しい試練にさらされようとしている。なぜ、地上に転生する前に、霊的な準備を受けることをしなければならない。しかし、その準備のおかげで、魂はこの人生に足を踏み入れる際、動揺することはない。魂は過去に対して目を閉じ、新たな存在へと開く。そうして、魂は自分が来たこの世界に、最初の躓きを克服していくのである。

30.
しかし、肉体とこの世を離れた後、霊的生活の再開に際し、あなたの魂がどのような態度をとるかは、これとは全く異なる。故郷の霊界に向けた真の準備を与えられていなかったため、魂は混乱し、物質の束縛から逃れ、何をすべきか、どこに向かうべきかもわからなくなるのである。

31.
これは、最初の躓きにこの世界に対して目を閉じなければならなかったことに起因する。なぜなら、そうしてはじめて、魂はかつて去った霊界に向けて再び目を開くことができるからだ。そこでは、魂の発展が、新たな経験を通じて継続することを待望されており、過去のすべての功績が新たな糧として加えられるのである。

32.
彼が光を取り戻そうとする時、彼の思考には濃いベールがかかる。彼が置き去りにしたあらゆるものからの磁気的影響が、彼の精神の覚醒を妨げている。しかし、彼の影が消え去り、真の自己となろうとする時――なんと大きな動揺、なんと大きな苦痛であろうか！

33.
このメッセージを聞いたり読んだりした後、それを無益な教え、あるいは誤った教えとして拒否する者がいるだろうか。私は言う、極度の物質主義者、あるいは自己中心的な理由のある者だけが、その魂が深く動かされることなく、この光を拒むことができるのだ。（157, 20-22）

「死の民」

34. あなたがたの地上的な理性の理解に、提示されるような精神性など存在しない。
魂が待望する休息は、活動であり、善行への憧れであり、一瞬一瞬を活かすことである。そうしてこそ、
魂は休息し、自己憐憫から解放され、善行によって活力を取り戻し、創造と刺激を愛することによって安らぎを得るのだ。

35.
まことに、あなたがたに言う。もし私が、あなたがたの魂を、あなたがたが地上で体験するような休息のない無為のままにしておくならば、絶望と恐怖の闇がそれを覆うことになるだろう。なぜなら、魂の命と光、そしてその最大の幸福は、労働であり、闘争であり、終わりなき活動からである。

36.
地から霊的な谷へと帰還する魂は、肉体の衰えをその内に引き込み、あの世の休息の場として求め、安らぎ、忘れ、生の闘いの痕跡を消し去ろうとする。――
そのような魂は、最も不幸な存在であると自覚し、その無為から目覚め、自分の過ちに気づき、私がまさに語ったような霊的生活、すなわち愛、活動、そして完全へと至る道における絶えざる闘いと高まるまでは、平和を垣間見せないだろう。（317, 12-14）

来世の再会

37.
私は、あなたがたが信仰深い人であり、霊的な志を持つ者であることを望む。もしあなたがたの配偶者があの世へと旅立つのを見送ったとしても、彼をあなたから遠く離れた存在と思わないでほしい。また、彼を永遠に失ったとも思ってはならない。

もし彼と再び結ばれたいと願うなら、努力して功徳を積みなさい。そうすれば、あなたが来世にたどり着いたとき、彼はそこであなたがたを待受け、「霊性谷」で生きることを教えてくれるでしょう。(9, 20)

38.

来世の生活について不安を感じたことがない者はいるだろうか。この世で愛する人を失った者の中で、もう一度その人に会えない、あるいはせめてその人がどこにいるのかを知りたい、という強い願いを感じなかった者はいるだろうか。これらすべてを、あなたがまもることになる。あなたが彼らと再会するのだ。

39.

しかし、今この功徳を積みなさい。そうすれば、あなたがたがこの地を去り、「霊界」で探している人がどこにいるのかと尋ねたとき、「彼らはより高い段階にいるから、あなたには見えない」などと言われないようにするためです。私がずっと前に、父の家には多くの住まいがあると告げたことを忘れないでください。(61, 31)

自らの良心による霊の裁き

40. もし、ある罪の魂が、この物質性から離れて「霊性谷」へと入ろうとする時、その魂は、自分が想像していたような地獄は存在せず、かつて語られていた火とは、自分の良心という容赦ない審判の前に立たされた時に、自らの行ないがもたらす霊性結果にほかならないことに気づき、驚愕する。

41.

この来世の裁き、すなわち、その罪人を闇の中に導く道しるべの光は、あなたがたが想像しうる最も燃えさかる火よりも激しく燃え上がる。しかし、それは、私が傷つけた者たちがするようにしてあからさまに怒りをぶつけるものではない。いや、この苦しみは、犯した過ちの自覚、自分を生かしてくれた方を傷つけてしまったという苦しみ、そして、自分が受け取ったすべての恵みを無にしてしまったという自覚から生じるのだ。

42.

たとえ罪人が、それを犯した者自身をより深く傷つけることを私が知っていたとしても、私が傷つけた者を罰するべきだと、あなたがたは思うか。罪を犯した者は自ら悪を行っているのであり、私がその者を罰することで、彼が自ら招いた不幸をさらに増やそうとしているのではないことを、あなたがたは理解できないのか。

私はただ、彼が自分自身を見つめ、良心の容赦ない声を聞き、自ら問いかけ、自ら答え、物質によって失った霊性を意識し、自らの起源、使命、そして誓いを思い出すことを待つだけである。

そして、その裁きの場において、彼は「火の試練」を経験しなければならない。その火は彼の悪を焼き尽くし、坩堝の中の金のように、彼の魂は浄められ、彼から有害なもの、無益なもの、そして霊的でないすべてのものが取り除かれるのである。

43.

もし魂が立ち上がり、良心の声を裁きの主権者だとするならば――まことに、わたしはあなたがたに告げる。その瞬間、その魂はわたしの御前にいるのである。

44.

この苦しみと悲しみの時間が、すべての魂にとって同じ時間ではない。ある者はすぐに自己の誤りと悪習に気づき、それによって多くの苦しみを免れる。なぜなら、彼が必要とする、自らの過ちを認めない、身を引き締め、自らの悪を最後の一点に至るまで償おうと取り組むからである。

45.

一方、悪魔や何らかの魔、あるいは罪深い生活を送ってきたために目が曇っている者たちは、その迷いから抜け出すまで長い時間を要する。

46.

また、すべての順調にもかかわらず、あまりにも早くこの世から連れ去られたと不満を抱く者たちは、呪いの言葉を吐き、冒涜を行う。それによって、彼らは自らの到着を遅らせる結果を招いている。そして、彼のようなケースは数多く存在し、それらはすべて私も悲しみが知っている。(6, 47-51)

47.
あなたはすべてについて責任を負わなければならない。そして、あなたの悪の性質に対して、あなたは自身によって最厳しい裁きを受けることになる。なぜなら、私があなたを裁くのではないからだ。それは誤りである。
明晰な意識あるあなた自身の精神こそが、あなたにとって恐るべき告発者であり、恐ろしい裁判官である。それに対し、私は激しい苦悩からあなたを護り、あなたを贖い、救い出す。なぜなら、私は清い赦しそのものだからである。（2, 65）
48.
あなたはさまざまな霊界に身を置くことになること、そしてこの地で得たものを必ず取り戻さなければならないことを忘れるな。この世からあの世への移行は、依然として魂にとって厳しい審判である。たとえ自分が最もふさわしい僕であると自負する者であっても、この審判を免れる者はない。
49.
わが意志は、あなたがかの無限の領域に足を踏み入れたその瞬間から、もはや地上の法律に縛られることなく、さらなる階へと登りつめたという喜びと歓びを感じ始めることである。（9, 49-50）
50.
人類が解釈してきたような最後の審判に誤りである。私の裁きは一時間や一日のことではない。それはすでに長い間、あなたの上に重くのしかかっているのだ。
51.
しかし、まことに、私はあなたに告げる。死んだ肉体は、それに見合う物質圏に融合するよう定められており、その定めに従うのである。なぜなら、地上のものは地へ帰さなければならないのと同様に、霊性あるものは、私の懐であるその領域へと向かうべきだからである。
52.
しかし、私はまたこうも告げる。あなたは、その裁きにおいて自らを裁く者となるのだ。なぜなら、あなたの良心、自己認識、そして直感が、あなたがどのような状態であるか、またどの霊性の領域にはまらなければならないかを告げるからである。
あなたは、従うべき道をはっきりと見出すであろう。なぜなら、私の神性の光を受け取れば、自分の行いを裁き、自分の精神を浄化するようになるからだ。
53.
霊性谷には、多くの混乱し、動揺した存在たちがいる。いつかそこに入ったら、彼らに私のメッセージと私の光をもたらしなさい。
54. すでに今、祈りを通して彼らとつながり、この仕事を実行することができる。
あなたの声が、彼らが住む場所に響き渡り、彼らを深い眠りから目覚めさせるであろう。彼らはきっと悔恨の涙で身を清めるであろう。その瞬間、彼らは私の光を受け取ることになる。なぜなら、その時、彼らは過去の虚しさ、過ち、罪を理解するからだ。
55.
良心が彼を目覚めさせたとき、その痛みはなんと大きいことか！その時、魂は最高の審判者の御前にひれ伏すことか！その存在の最も奥底から、しかし謙虚に、赦しを求める願い、そして何と祝福に満ちあふれることであろうか！
56.
今、魂は父の完全さに近づくことができないと悟り、そこで自分に近づく機会をもたらしてくれた時間と試練を活かすことができなかったこの地上とは異なる世界へ向け、過ちを償い、果たせなかった使命を果たすために、新たな肉体を請うのである。
57. では、誰が正義を司るのか。自らを裁くのは、霊のものではないからか。58.
わが霊は、あなたがた自身を映し出さなければならない鏡であり、それはあなたがたが持つ清らかさの度合いを明らかにしてくれる。（240、345 41-46）
59.
もしあなたの魂が肉体の滅びる時、霊性を墓において自らの悪とともにおり、その過ちと穢れを拭わなければ、この世は完全であり、主の御前に差し出すにふさわしく、報いを受けるに値すると見た多くの行いが、その内省の瞬間において、取るに足らないものとして映るであろう。

魂は、この世で善いものと思われた多くの行いの意味が、単なる虚栄心や偽りの愛心から発せられたものであり、悪の表に過ぎなかったことを知るだろう。

60. 魂自身を裁くための完全なる裁判官による審判を、誰かがあなたに与えたと、あなたは思うか。

正義の時がくるまでは、あなたが強く印象を与えるであろうその霊こそが、各人に、地上で行う善、正義、正しさ、真実とは何であるか、そしてその道から外れた悪、誤り、不純とは何であるかを告げる者となるのだ。

61.

私が今、あなたに語る聖所は、霊の聖所である。それは、誰にも見ることのできない神殿であり、神が住まれ、そこから神の声が響き、光が溢れる神殿である。

62.

この世において、あなたがたはまだその神聖所に入る用意ができていなかった。なぜなら、あなたがたの人間的な性格は、すべての人の中に語りかける聖なる声を聞くための正しい方法ばかりを常に考えているからである。

63.

私はあなたに告げる。もしあなたの魂がその神殿に入る時、やがてその聖なる臨在の前にたたずみ、心を整えてそこに入り、魂が祭壇の前にひざまずき、自分の声が聞こえ、良心という光の中で自分の行いを知り、父として、師として、そして裁き主として語る神の声を、自分の内から聞くことになるだろう。

64.

あなたがたは全員が、自分の中に持っている霊を探し、それを守り、また、もはや魂の中に留めてはならないものを見極めるために練られなければならない、その瞬間の全ての描写をしかねる人間は想像することはできない。

65.

魂が自分の良心に直面し、それが真実の判断をもって語りかけてくるとき、その存在は自分自身に耐えるにはあまりにも弱く感じられ、自分が存在しなかったことを願う。

なぜなら、一瞬のうちに、その意識の前を、自分の全人生が駆け抜けていくからだ――過去に残してきたもの、所有していたもの、そして自分自身のものだったもの、そして今やついにその説明責任を問われなければならないもの。

66.

弟子たちよ、人々よ、この世においてすでにその瞬間に備えよ。そうすれば、あなたの魂が神聖所の臨在の前に現れたとき、その神殿を灰に変えてしまうことはないだろう。なぜなら、その時の魂の苦しみは、それに敵対する肉体の痛みなど存在しないほど、甚大なものとなるからだ。

67.

私は、あなたがたがこの教えの中で私が語るすべてのことを熟考し、霊性の領域においてあなたがたの霊がかかわれるかを理解することを望む。

それゆえ、あなたがたは神をある人の姿をとって示される方と想像する、あのイメージを、自分の想像の世界から消去しなければならない。その法廷では、神は善き子らを右側に通して天国の喜びを享受させ、悪しき者たちを左側に立たせて永遠の罰に処するのだ。

68.

今こそ、光があなたがたの魂の性質の最高、領域にまで届き、すべての人の中に真理の霊、霊性生活の新しい歩みへの準備が整う時である。（34, 5-11; 14-15）

取り戻された霊的意識

69.

私が創造の神に、肉体の死など、各魂が人生において到達した発展の段階ごとの適したものだよ、また完全性へと導くために、私の言葉を与えたものだよ。

それゆえ、私の法と教えは常に、そして断固として人の心に透ようとするものであり、また痛みと苦しみは、魂が高まるところが深みへと導くような道を、人が離れるよう促しているのである。

70. もし良が、あなたが地上で愛の種まきをしたと告げるならば、来世において、あなたの魂はどれほど幸福を感じるだろうか！
過去があなたの目の前に現れ、あなたの行ってきたものの一つひとつを見るたびに、あなたは限りない歓びを覚えるだろう。

71.
あなたがの記憶に留めておくことができなかった、わたしの律法の戒めは、明瞭と光に満ちて、あなたがの魂の前を通過していくであろう。真実を見る目を持って来世の世界へと踏み込むことができるようになりなさい。

72.
人間が解明しようと試み続けた多くの秘密がある。人間の直感科学も、人が抱いてきた多くの問いに答えることはできなかった。それは、霊性界に入った魂のみが知ることを許された秘密であるからである。
魂が受けるこれらの驚き、これらの奇跡、これらの啓示は、その報いの一部となるだろう。しかし、まことに、私はあなたに告げる。もし魂が、
なお肉体をまとったまま霊界に入ったならば、何も見ることができず、すべてが明瞭であるべき場所でさえ、依然として謎と謎ばかりを見ることとなるだろう。

73.
今日、私があなたがたに与えるこの教えは、多くの美しさを明かし、あなたがを慰めるものである。そうすればいかに霊として永遠なる御父の御前に立つとき、その瞬間からあなたがを祝福してあげよう、その驚くべき現実に耐えうるようになるだろう。（5, 42; 63-66）

74.
私の光を受け入れなさい。そうすれば、それはあなたの生き方を照らし、死の瞬間、意識の暗闇からあなたがを解き放ってしまう。そうすれば、あなたがはあの世の境界線を越えるその瞬間に、自分が誰であるか、かつて誰であったか、そしてこれから誰になるのかを悟るようになるでしょう。（100, 60）

75.
あなたがの肉体は大地に埋められ、その腐敗で大地に混ざり合い、大地の一部となるだろう――死後なお、それはしばらくの間存在し続けるかもしれない――しかし、あなたがの存在の中心、霊は、大地に残ることはなく、魂と共に旅立ち、魂にとっての書物として現れる。その書物の深遠で明瞭な教えは、魂によって学ばれることとなる。

76.
そこで、あなたがの魂は真理に向けて開かれ、一瞬にして一生をかけても理解できなかったことを悟り知ることができるようになる。そこで、神の子であり、隣の兄弟であるとはどういうことかを理解するだろう。
そこで、あなたがは所有していたすべてのものの価値を理解し、犯した過ちやそれに関する後悔の念に、改悛の最も美しい決意があなたがの中に生まれるだろう。（62, 5）

77.
今この時から、皆が同じ目標に向かって進み、魂の進歩の解釈は調和していなさい。誰も自分が弟より先に霊的に進歩しているなどと思ってはならない。他者より先に高い段階に立っているなどと考えてはならない。言っておくが、死の瞬間、あなたがの霊の高さについての真実を告げるのは私の声である。

78. そこに良の前に訪れるその悔い改めの瞬間に、多くの者が報いを受ける。しかし、多くの者は自分の偉大さが消えるのを見る。

79.
救われたいか。ならば、兄弟愛の道を歩んで私のもとに来なさい。それこそが唯一の道であり、他に道はない。それは私の至高の戒めに記されている、「互いに愛し合いなさい」という言葉のことである。（99, 40-4）

第9章 来世における魂の浄化と昇華

良心の呵責、悔恨、そして自責

1.
わたしは、あなたがの魂が汚されることも、また、真の命に関してのことも望まない。それゆえ、あなたがが有害な喜びや嫉妬にふけっているのを見かけたら、わたしは正義をもってあなたがを懲らしめる。あなたがの魂は、わたしの魂から生まれた時と同じように、清かなままわたしの傍にとどまればならない。

2.
肉体を地に残し、混乱した状態でこの世を去った者たちは皆、霊界でお迎えの光の中に現れるわたしの姿を目にしたとき、深い眠りから目覚め、苦しみ、涙、自己嫌悪の絶望に襲われる。その苦しみから解放されるまで痛みが続く限り、人は苦しむのである。（28, 7-8）

3.
知識の欠如に起因する良心の呵責、苦しみ――あの生命を享受するための霊が欠如しているために生じる苦しみ――これは、汚れを拭えてある、あるいは精神と霊性の入口にとどまった魂たちの暗闇の中に、これ以上含まれている。

4.
私は、人が自分に悪をもたらしていることを知っているため、人間の罪、不完全さ、あるいは堕落を、父である神の愛として受け止めることはできない、と言なさい。（56, 56）

5.
もしあなたがが隣人を愛し、父の御心を行なえば――もしあなたがが自由意志の部分義性し、良心が命じる通りに行動すれば、あなたがの人生はそれほど豊かで満ち、あなたがの存在はそれほど偉大で尊いものとなるだろうか。
そうすれば、あなたの存在は物質の領域を超えて、超越的なものに触れることとなるだろう。なぜなら、これまでのところ、それはその領域にさえ近づいてもいなかった。

6.
科学者の魂は、この世を去って神の真理と対峙したとき、いかなる衝撃を感じるだろうか！そこで魂は恥じ入って顔を伏せ、その傲慢を放されるよう懇願する。魂は、すべてを知り、すべてができると信じていた自分の知識や理論などちっぽけなものが存在することを否定していたのだ。しかし今、命の書、すなわち創造の無限の偉業の前に立つに至り、その魂自らの無さを認め、絶対的英知である御方の御前に謙虚に身をかがめなければならない。（83, 48-49）

7. 霊界に着いた際、地上で犯した罪について考えなければならないことを恐れてはならない。
もしあなたがが、苦しみによって満たされ、心から悔恨が湧き上がり、過ちを償おうと懇願するならば、あなたは驚くほど清められ、私の御前に立つことになるでしょう。そして、あなたの良心でさえ、あなたの過去の不完全さを口にすることはないでしょう。

8.
完全なる知恵は、時の中であれ永遠の中であれ、その持ち主の手に来たり受ける場所がすべての魂たちから用意されている。愛、慈悲、信仰、そして従順という「」の階段を登り、あなたは大きく一歩と、私の王国へと入っていくことになる。（61, 60-61）

地獄の定義

9.
この世において私が持っていた弟子たちはすべて、神の御前の子のようにきよらかな者たちではなかった。それに対し、霊界には多くの弟子がいる。なぜなら、そこでは私の教えを理解するに最大の進歩が見られるからである。そこでは、愛、創造者、私の子供たち、人類が彼らに抱きの念から受け取る場所である。
そこでは、謙虚さゆえに地上では見過ごされていた者たちが、その徳によって輝き、また、この世で偽りの光に照らされていた者たちが、悲しみと悔恨の涙を流している。

10.
あの世こそ、あなたがが地上では望んだことのないような形で、私があなたがを迎える場所である。あなたがは涙を流しながらも、私を祝福しつつ、自分の罪を償っていたのだ。

あなたがが人生の旅路において一瞬でも激しい反対の嵐があったとしても、それは重要でない。私は、あなたがたがきよい道の上を過ごし、その中で服従を示し、私の名が冒瀆されたことを考慮に入れる。あなたがたまた、その小さな範囲でたとえそれがあなたがの不徹底によって引き起こされたものであったとしても、いくつかのゴルゴタを経験してきのだ。

11.

見よ、神の恵みと愛のほんの一瞬によって、あなたがたは世において今と悪の苦難のだ。かくして、私の永遠の愛は、人間のわずかの間の愛に応えるのである。（12, 27-29）

12.

あらゆる善行には報いがあるが、それはこの地ではなく、来世で受け取れるものである。しかし、どれほど多くの人が、この確信すらもこの地において受けたいと願っていることか。彼らは霊的生活のために何もしない者は、その世界へ入ったとき、何の蓄えもなく立ち尽くし、そのときその無報いな状態になることを知らないのである。（1, 21）

13.

世の栄誉や報酬を得る者は、この世でそれを得るかもしれない。しかし、それらはまもなく、霊界へ入るその日には何の役にも立たない。金銭目当てとする者は、ここでその報酬を得てもよい。それが彼の目当てのものであったからである。しかし、この地のすべてを置き去りにして来世へと向かう時が来れば、たとえ愛のために多くのことをしたと思っていても、彼は自分の魂のために必要な報いを要求する権利をほとんど持たないだろう。

14. それとは反対に、常に語ったり行ったりほんの純粋心で神と隣人を愛し、あらゆる種類の困難にぶつかっても善をなすことに専心し、愛の行いを実践することに喜びを見出した者――その者は報いを考えないだろう。なぜなら、彼は自分の満足のために生きるのではなく、隣人のために生きるからである。彼が主の懐に抱かれるとき、その平安と至福はどれほど大きなものとなるだろうか！（253, 14）

15.

私はこの時に、純粋で完全な教えをあなたがたに与える。それゆえ、私はあなたがたに言う。日の業が終わりに、あなたの世において真の愛をもって行ったことだけが、あなたの功績として認められるのだ。なぜなら、それこそが、あなたが真理を知っていたことの証しとなるからである。（281, 17）

16.

善を行うその瞬間、その価値がわからなかったからといって、あなたがが行った善が決して報いられることのないのだなどと考えてはならない。あなたがの行いのうち、報いを受けないものは一つもない、と私は言う。

17.

いつかあなたがが霊界に入ったとき、一見取るに足らないようなささいな行いが、しかも困難な善の達成に関わりあったかが判明するだろう。その達成者によってますます長く生かされていくが、それゆえ行者自身を大いに満足で満たすものである。（292, 23-24）

18.

私はあなたがたに功績を積むよう促すが、その動機は、自分の魂の救いをめざす自己中心であってはならない。むしろ、あなたがたは、隣人のことを思い、また来るべき世のことを思いながら行いをなすべきである。彼らにとって、先立ちによって道が整えられているのを見つけたとき、その驚きは計り知れないものとなるだろう。

そうすれば、兄弟姉妹と平安があなたの魂に届くため、あなたの報いは限りないものとなるだろう。

19.

自分の救いと幸福をめざす者たちの場合は、なんと異なることか。なぜなら、彼が自分の行いによって勝ち取った場所にたどり着いたとしても、自分たちが置き去りにした者たち、そして苦難と荷を負っている者たちを見れば、一瞬たりとも平安と喜びを得ることができないからである。

20.

まことに、わたしはあなたがたに言う。この教えの真の弟子たちは、わたしの光そのものである彼の霊のように、その行いにおいて義かなった清められた者となるであろう。（290, 76-77）

21. あなたが謙虚であれば、あなたが受ける人生において、あなたの霊性富は増加するであろう。
そうすれば、あなたは、存在おける最美しい感覚をもたらす平安を得るだろう。そして、あなたの霊の中に、父に仕えたいという渇望が生まれる。父は、私創造たすべてのものの恵深き護者であり、苦しむ者の慰めであり、安らぎなき者の平安であるからだ。（260, 29）

神の御国への魂の昇華

22.
これこそが「第三の時代」であり、この時代において、あなたの魂は、まず地上にながらにして、極めて高い生命の次元や、極めて大きな悟りについて学ぶことができるのである。
なぜなら、この世を去る者が、自分の魂の中に、これから出会うものについての認識と、その霊的物の開花をすでに携えていなければ、その者は多くの世界を、そこに留まることなく通り抜け、自分の性質によってふさわしい世界へと至るからである。
23.
その人は自分の霊性は想像を完全に自覚し、どこにいようとも自分の使命を果たすことを理解するだろう。愛、調和、正義の言葉を理解し、思考そのものである霊性言葉の助けをもって、自己を表現することができるようになる。
彼にとって、障害も、動揺も、涙も存在せず、永遠の遺産として与えられている彼ふさわしい故郷へと近づくという計り知れない歓びを、ますます深く味わうことになる。（294, 55）
24.
神の次の領域は、魂の完成度によって、到達した発展階層に応じた様々な階層に置くことができる無数の存在がいる。あなたの魂は、この完成の階段を登り、創造の高貴な目標によって定められた目標へ到達するために、ふさわしい性質を持って創造されたのである。
25.
それらの魂の運命については、あなたが知ることはない。しかし、私は言う。それらは、私創造たすべてのものと同様に、完全なものである。
26.
あなたがは、父から与えてくださった賜物をいまだ理解していない。しかし、心配するな。やがてあなたがはそれらに気づき、それらが完全に現れるのを体験することになるだろう。
27.
あなたのように、様々な生命の次元には、無数の魂たちは、愛という言葉の力によって互いに結ばれている。彼らは、停滞のためでなく、闘い、そしてより高い発展のために創造されたのだ。わたしの務めを果たした者たちは、神の愛において偉大となった。
28.
しかし、たとえあなたの魂が偉大さ、力、そして聡明さに達したとしても、その質は神におけるもののように無限ではないため、全能なることはないということを、私はあなたに思い出させておこう。それでもなお、それは創造の愛と最初の輝きからあなたのために描き出されたまっすぐな道の上で、あなたを完成の頂へと導く十分である。（32, 34, 37）
29.
あなたの魂は、完全性を達成するために、七つの魂の発達階層を経なければならない。今日、あなたが地上に生きている今、あなたはその様子のどの段階にいるのかを知ることはない。
30. 私は、あなたの魂のこの問いに対する答えを持っているが、現時点ではそれを言うことはできない。（133, 59-60）
31.
どの段階、どの人生レベルも、魂により大きな光と、より完全な至福をもたらす。しかし、最高の平安、すなわち魂の完全な幸福は、魂が時間に留まるあらゆる場所を越えたところにある。
32.
あなたがは、神の家における完全な幸福を、あこがれの感覚として感じることがある。しかし、その幸福は、この地上後、あなたがが向かわなければならない次の世界での、ほんの前味に過ぎないことを、あなたがは知っていない。（296, 49-50）

33.
どれほど多くの人が、その瞬間自分たちを私のもとへ導き、天国が永遠に私と共にできるようになると期待して、死を夢見ていることか。しかし、その道は彼らが信じていたよりもはるかに遠いことを、彼らはまだ知らない。あなた方を私のもとへ導く天の梯子のたった一段でも上るためには、人間としての弱さを正しい方法で生きなければならない。
無数にいる多くの者が私の教えの真意を誤解しているのである。（64, 30）
34. 人間によって破壊力が解き放たれた。戦争はその種すべての人の心に苦悩をもたらした。人類はこれほどの苦難を経験したことがあっただろうか！
その通路はどれほどの見合いであり、悲惨、孤独、そして悲嘆が残されたことか！
戦いで倒れた者たちの滅びがすべてだと、あるいは人間の神聖な創造の一部である永遠性は存在しないと、あなたは思うのか？
35.
いいえ、民よ。魂は戦争と死を乗り越えて生き残る。私の精神の一部であるそれは、苦痛と試練から立ち上がり、生き続け、開花し、発展していくために、私の道において新たな地平を求めているのだ。（62, 26-27）
36.
私はあなたが全員等しく所有し、平和に暮らし、それを時的住まいとして用いるために、また、そこで創造を開花させ、魂が新たな住まいへと旅する準備をするために、この地球を与えたのだ。
37.
わたしはあなたがたに言った。「父の家には多くの住まいがある」とあなたがたは高みへと昇るにつれて、それを知ることとなるだろう。その一つひとつが、ますますわたしに近づけてくれるものであり、あなたがたの行いに応じてそれらに到達することとなる。なぜなら、すべては神の秩序と正義に従っているからである。
38.
誰も、あなたがたがいとの生命の次から次へと移ることを妨げることはできない。そして、それぞれの次の終わりに、あなたがたの霊も、また私の霊も、祝福と神聖さで満ちるであろう。
39.
こうしてあなたは、あなたがたが歩まなければならない道程、ことごとく、最初の一歩だけで満足して、それがすでにそれらの住まいの扉を開いてくれると思い込まないように、あなたがたを準備させているのだ。
40.
しかし、私はまたこう告げる。数えきれないほどの障害を乗り越えた後、ある階段の終わりに到達し、立ち止まって、大きな闘い、苦悩の日々、そして安らぎの瞬間をあとにしてきた道程を振り返ることは、霊にとって美しく、また祝福に満ちたことなのである。
41. ついに勝利を収め、そして喜びあなた方の周囲に、父なる神の御霊が――今ここに、栄光に満ちて――その子（　）を祝福し、次なる階段に備えるまで、その束の間の安らぎを与えるのである。
こうして一つから次へと移り、ついに最高の成就に至り、永遠に私と共にいることになる。（15, 34-36）
42.
人間をその創造主に近づけている霊の火は、それが生まれた無限の炎にますます近づいていく。そして、その火は、意識、思考、愛に満ちた輝き、知識に満ちた輝く存在となる。
その存在は、わずかな穢れも、些細な罪悪存在せず、完全かつ真の至福を知る、完全な幸福を享受する。
43.
もしこれがあなたがたの精神目標でなかったならば――まことに、わたしはあなたがたに告げる、これほど多くの教えを通して、わたしの教えをあなたがたに知らせることはなかったであろう。なぜなら、その場合は、最初の時代の律法だけで、あなたがたが地上で平和に生きるには十分であったからである。
44.
しかし、私が人間の中に生きていたこの地球上の無限の世界を約束したことを考え、さらに別の時代に再来して、引き続きあなたがたに語りかけ、あなたが理解できなかったすべてのことを説明すると約束したことを思い起こせば、人間の霊的な運命はあなたがたに

うるあらゆるものより先に高く、はるかに高いものである。
また、約束された至福は、あなたがかつて想像したり理解したりできるものよりも、無限に大きいということになるだろう。（77, 48-49）

第10章 転生を通した魂の進化

発展の法則

1.
私はあなたに言う。人間は、自分の魂が何度この地上に降りてきたにもかかわらず、依然として私の法則に従って順調と言える道を理解できていないことを恥じなければならない。（77, 55）

2.
人間は単に発展しかつては見ることのなかったような事柄の発見を目の当たりにしてきたのに、なぜ魂の自然な発展に抵抗するのだろうか。なぜ魂を停滞させ、眠らせてしまうようなものに固執するのだろうか。それは、永遠の命という確実なものを恐れてきたからである！（118, 77）

3.
理解せよ。創造は完成しているように見えるが、それでもなお、万物は発展し、変容し、完成へと向かっている。果たして、あなたの魂がこの神の法則から逃れることができるだろうか？
いいえ、わが子らよ。霊性なもの、科学、あるいは宗教について、誰も最終的な結論を下すことはできない。それは終わりなきわが業からである。（79, 34）

4.
得てして謙虚に、霊性偉大さを備えていると思い込んでいる人がどれほど多いことか。しかし、私にとって彼は、発展の途上でたちまってしまった子供たちに過ぎない。
なぜなら、彼は魂と霊性の発展を達成できるのは、単なる性の開花によるものではないことを心得なければならないからだ。それは、その存在全体の成長を通してなされなければならないものであり、完成に至るためには、人間は開発されなければならない多くの能力があるのだ。

5.
それゆえ、私は――愛と正義の法則のもとで――魂転輪廻を設けたのである。それは、魂に、その完成に至るために必要なあらゆる機会を提供するより長い道のりを与えるためである。

6. 地上であらゆる生まれ変わりに過ぎない。そうでなければ、人が私の法則から受ける機会はあまりにも少なすぎるからである。
しかし、あなたがこの人生の目的を理解することは可能である。そうしてはじめて、そこからその真意を受け取り、人間完全性の基礎である調和に到達することができるのだ。そうしてはじめて、あなたがはより高い存在の次元へと進み、私が教えなければならない多くの教訓や、またまだ与えなければならない多くの啓示がある。（156, 28-29）

7.
あらゆるものが絶えず発展し、変化し、完成へと向かい、開花していく中で――なぜ、あなたの魂だけが何世紀にもわたって停滞し続けなければならないというのか？

8.
科学を通して多くのことを発見し、学んできたあなたにとって、創造のあらゆる存在に存在する発展は、決して新しいものではない。それゆえ、私はあなたに、長い間繰り返してきたあの後進性と停滞の中に、魂を留めておいてはならないことを理解してほしい。
また、あなたを囲むすべてのものと調和を成し遂げるようにしなければならない。そうしてはじめて、自分がその秘密の源であるかを明らかにし、自分があなたの敵ではなく、僕たる、協力者たる、兄弟たるようにと、人類のために請うのである。（105, 6, 8）

「肉の復活」――正しく理解されること

9. 今、世界は「肉の復活」、すなわち救い主についての真実を必要としている。

10. 救い主は、人間として新たに生まれ変わるために物質世界に下ること、すなわち、その使命を継続するために人間の肉体において魂を復活することを意味する。これこそが、あなたの先祖たちが語った「肉の復活」に関する真実であり、彼はそれについて、歪曲されただけでなく、完全に無意味な解釈さえも与えてきたのである。

11. 救い主は、神があなたの魂に与えた贈物である。それによって、魂は物質の貧しさ、地上での儚い存在、そして自然の欠点に決して縛られることなく、より高次の性質に到達する魂は、この世における偉大な使命を果たすために必要なだけ、いくつもの物質的肉体を用いることができるのである。

12. この贈物によって、魂は肉体の死、そしてあらゆる他のものに対するトがれない優位性を証明する。すなわち、魂は死を克服し、次々と肉体を着ては脱ぎ、どれほど多くの肉体を与えられようとも、それらすべてを超越していくのである。魂は、時間に抵抗し、そして誘惑を克服する者である。（2Ne 9:0, 53-56）

13. どうしてあなたがたは、審きの日の万人の肉体の復活、魂と合体して神の王国に入るなどと考え得るのか。他の時に教えられたことを、どうしてこのように解釈できるのか。

14. 肉体はこの世のものであり、この世にとどまるが、魂は自由に昇り、その源である命へと帰っていく。「肉から生まれたものは肉であり、わたしの霊から生まれたものは霊である。」

「肉の復活」*とは、魂の再会のことである。これを人間の理論を信じる者もいれば、新たな啓示を信じる者もいるが――まことに、わたしは言う、わたしは大預言者ヨセフの頃から、この啓示を世にもたらし始めてきたのだ！その証拠は、わたしの業の証である聖書の文章の中に見出すことができる。

*

古い聖句の言葉で表現されるこの表現は、第一コンスタンティノープル会議において、それまで部分的に認められていた救い主の教義が、コンスティノープル宣言（1）によって異端と断じられた時期に定められたものである。こうして、魂の肉における再生は、「肉の復活」となったのである。

15. しかし、この時において、この啓示はより高い、より難解なあなたの魂に届いたのであり、また、それと同時に最も近しい方々の愛に満ち溢れる一つとして、当然のことが受け入れられるようになるでしょう。

あなたがたが抱いていた「審きの日」という概念を捨てなさい。それは、ある期間を指すものであり、あなたがたの「日」の一つではなかった。また、「世界の終わり」とは、あなたがたが住んでいる惑星の終わりではなく、あなたがたがその惑星上で作り出した不自然な生活の終わりを意味するのだ。（D&C 76:0, 41-43）

16. 「肉の復活」の教えは、魂の救い主に関する啓示によって解明された。今日、あなたは、この愛と喜びの源が、魂が永遠に完成していくこと、そして魂が決して失われることがないということであることを知っている。なぜなら、魂は常に、父が差し出す救いの機会としての開かれた扉を見出すからである。

17. この法に基づく、あらゆる魂に対する取り扱いは、完全かつ容赦のないものである。

18. あらゆる事柄は人間には理解しがたいものであるため、あなたを慰めることができるのは私だけである。それゆえ、誰一人他者に対して偽りかされたり、裏切られたりすることなく、

19.
魂たちの間を迷い、数多の輪廻と変容を経て、長い旅路を歩んだ後、彼らはその経験によって聡明さ、苦しみによって清められた功績によって高められ、長い旅の疲れながらも、子供のように真実に満ちて、私のもとに来るであろう。（1, 61-64）

魂の異なる発達段階

20. 遥か昔、あなたの魂は私から生まれた。それにもかかわらず、すべての魂は発展の道において等しく進んだわけではない。
21.
すべての道は異なるが、それはすべて同じ目標へと導く。ある者はこれが、別の者はあれが試練として用意されている。ある被造物は一つの道を歩み、別の被造物は別の道をとる。あなたがたは皆、同じ瞬間に存在し始めたわけでなく、また皆が同じ期間に歩みつづけてもいない。ある者は先を歩き、ある者は後を歩くが、目標はあなたがた全員を待っている。
誰が自分に近く、誰が遠くを歩んでいるのか、誰が知り得ようか。なぜなら、あなたがたはその知識を持つには未熟すぎるからだ。あなたがたは人間であり、その虚栄があなたがたを滅びへと導くことになるであろう。（10, 77-78）
22.
いつの時においても、人類歴史の過去にも、高潔な精神を持つ人々の例は存在してきた。もし彼らが、上昇の発展を助ける連続した転生を経ていなければ、なぜ最も短い期間からすでに魂が発達した人々が存在したのか、どうして説明できようか。
23. その理由は、魂が肉体と同時に生まれるわけでなく、人類歴史の過去に一致するわけでもないからである。
まことに、わたしはあなたがたに言う。あの世に存在することなくして、この世に生まれてきた魂は、ただ一つもない。あなたがたのうち、誰がその魂が、この地上に生きるためにやって来る前に、他の領域でどれほどの時を過ごしたかを測り知ることができるであろうか。（156, 31-32）

過去の地上での生と自身の進化の段階に関する無知

24.
魂が肉体と密接に結びついている限り、魂は、過去の生で獲得した知識を利用することも、知ることもできない。しかし今、魂はその生が永遠であり、頂点に到達したという予感による終わることのない発展であることを知るようになる。だが、今日、あなたがたは、自分がどの高みに達したのか、まだ知らない。（190, 57）
25.
あなたがたの肉体は、魂の過去からの像、記憶のイメージを受け取ることができない。なぜなら、肉体は、魂の生活と浸透することをせず、厚いベールのようなものだからである。魂は過去の過程を受け取ったイメージや像を、いったいどの脳が受け止めることができようか。人間性と結びついて、自分は理解できないものを理解できる感性とは、いったいどこにあるというのか。
26.
これらすべてのゆえに、私はこれまで、あなたがたの魂は何者であるか、また、あなたがたの過去はどのようなものであったかを知ることを許してこなかった。（174, 54-55）
27. わたしのすべての業は、わたしによって「生命」と名付けられた一冊の本に記されている。
その一ページ一ページは、数えきれず、その無限の広がりは、その著者であるわたし以外は、誰も把握することはできない。しかし、その中、その一ページ一ページは、わたしがそれぞれの業を、あらゆる感性にとって理解できるように、分かりやすく示した短い要約が含まれている。
28.
あなたがたまた、絶えずあなたがたの生の書に書き記している。そこには、あなたがたのすべての行いと、発展の道のりにおけるすべての歩みが、永久に記録されることになる。その書はあなたがたの魂の中に記され、知識と経験の光となり、明日、あなたがたが、より高尚な目的地へと導くための道しるべとなるであろう。
29.
まだ、その内容を知るのだから、誰もその書を見ることはできない。しかし、まもなくそれはあなたの前に出され、あなたは自分

の成長、贖罪、そして経験について語るページを一冊の本にすることができるようになるだろう。そうすれば、あなたはあなたにとって開かれた書となるのだ。

30.
自分の使命を自分の光とする者たちよ、幸いである。彼は、ヤコブが夢の中で見た梯子を登っているのを感じるだろう。それは、存在たちを創造の頂点に至らせる霊的な道である。（253, 6-8）

霊的・精神的成長のための必要条件としての愛

31.
あなたの肉体が生きるために空気、太陽、水、そしてパンを必要とするのと同様に、魂はまた、その本質ふさわしい生活環境、光、そして糧を必要としている。
もし魂が、自分の糧や成長や高みへと舞い上がる自由を奪われたと見なせば、それは弱り、萎え、鈍感になる。まるで、子供を常に揺りかごの中に留め、その活動に閉じ込め続けるかのように。その子は不自由になり、顔色は青ざめ、感覚は鈍り、能力は萎縮してしまうだろう。
32. 魂はまた、不自由な者となり得ることを知れ！私は、この世界は魂の不自由な者、盲人、聾者、病に満ちているとさえ言えよう！閉じ込められて生き、開ける自由のない魂は、知恵においても、力においても、徳においても、成長しない存在である。(258, 62-63)

33.
まことに、あなたがたは言う。あなたがたを高めてくれるのは愛である。なぜなら、愛は神と感覚意識高揚が在しているからだ。愛は神性のあらゆる特質の結合であり、神はこのあらゆる霊的な被造物の中に注がれたのである。

34.
あなたがたが愛することを学ぶために、私はどれほど多くの教訓を与えてきたことか！神規則は、あなたがたにどれほど多くの機会、人生、そして試練を与えたことか！その教訓は、習得されるまで、必要なだけ繰り返されてきた。一度習得されれば、繰り返す理由はない。なぜなら、それは忘れられることはないからだ。

35.
もしあなたがたが私の教訓を素早く学べば、もはや苦しむ必要も、過ちを糧とする必要もなくなるだろう。地上で受ける教訓を必要とする存在は、この世に戻ってくるかもしれないが、それは常に、より大きな歓喜と、より良い生活条件のもとでなされることとなる。
一つの生と次の生の間には、常に休息の期間があります。それは、新たな人生の営みを始める前に、熟考し、休息するために必要なものです。(263, 43-45)

転生の様々な理由

36.
まことに、わたしはあなたがたに言う。人類のいかなる時においても、人間がわたしの律法を犯したことはなかった。なぜなら、その精神である理性から、魂の内なる光、知性のひらめき、あるいは心の予感さえも、決して消したことはなかったからである。

37.
それにもかかわらず、あなたがたの魂は、目の上に覆いをかけたまま、この世へと戻っていた。そして、わたしはあなたがたに言う。この試練の谷であるこの地上生活で教訓を学ばない者は、償いを完遂するため、そして向上し学ぶために、そこへ戻らなければならないのだ。（184, 39）

38.
他の世界においても、魂たちは同様に自由意志を享受し、罪を犯して道を踏み外すこともあれば、善き堅忍を保ち、そのようにして向上していくこともある。それは、あなたがたが地上で行っているのと同じである。
しかし、定められた時が来ると、この世に生きることを定められた者たちは、高貴な使命を果たすために、また贖いの義務を果たすために、この世へと降りてくる。

39.
しかし、彼がこの地球をどのように見ようとするかによって、ある者は楽園として、またある者は地獄として現れる。したがって、彼が父の意志を理解すれば、祝福と精神的な教訓に満ちた素晴しい人生、すなわち永遠の生へと近づく道が見えてくる。
40.
ある者はこの世を去る際、再び戻りたいという願いを抱き、またある者は戻りたくないという思いを抱いてくる。その理由は、あなた方の過去の経験が、主と共に生きる喜びを十分理解できていなかったからである。（156, 33-34）
41.
誰も、別の肉体を持ってこの惑星に戻らなければならないと考えてはならない。また、輪廻転生の魂は永遠であると考えてはならない。地上に生きることを重ねるたびすべての魂は、より高い発展を遂げ、私が彼らに託した使命を果たすために、輪廻転生の法則を経なければならないのである。
42.
未浄化の魂だけが再び地上に生まれなければならないわけではない。高次の魂もまた、その業が成し遂げられるまで、幾度となく戻ってくるのである。
43.
エリヤは、この地上に遣わされた預言者の中で最も偉大な者である。しかし、彼が成し遂げた偉大な業や、神が存在するという揺るぎない確信にもかかわらず、彼は別の時代、別の肉体、そして別の名をもって、この世に戻らなければならなかった。
44.
この愛と正義の法則は、長い間人々には知られていなかった。もし彼が前もって知っていたならば、落ち込んでいたかもしれなかった。それでもなお、父はすべての秘密を明かす、この時を待ち望ませるいくつかの預言と兆しをあなた方に与えてくださった。（122, 25-28）

完全性の道

45.
あなたがたの前に横たわる道は遠い。父すなわち聖霊の厳しい試練があなたがたの魂を研ぎ澄まし、磨き上げ、完全な姿を与えるその道は、長い道のりが存在するに違いない。（92, 26）
46.
まことにわたしはあなたがたに告げる。あなたがたが完全な清らかさを得るためには、この世においても、霊界においても、あなたがたの魂はなおいっそう浄化されなければならない。
47.
あなた方にとって必要である限り、この惑星に戻らなければならない。そして、父から与えてくださる機会を無駄にすればするほど、真の生命の最終的な入り口までは、涙の谷の滞在期間は延長されることになる。
48. すべての魂は、地上の生において、その有限な歩みを終えることで、進歩と成長の果実をもたらさなければならない。
49. 自分の隣人に対する唯一の善は、他者に対する真の愛と慈悲から、しかも無条件に行われるものであることを覚えよ。（159, 29-32）
50. 人間の中には、常に生き続けているものがある。それは、はかない人間的性質と、永遠である霊的性質である。
51.
この永遠の存在は、自己の魂が完成するには非常に長い時間が経過しなければならないことをよく知っている。真の幸福を得るには、数多くの人生を送り、その中で多くの試練を経なければならないことを悟っている。
魂は、涙の谷を経て、そして肉体の死を何度も経験した後、完全性の道の中で常に探し求めてきたあの頂に到達するだろうと悟っている。

52.
一方、肉体という儚い存在は、注意を怠れば、時に魂の足かせとなることがある。魂が長い、肉や周囲のあらゆるものとの闘いにおいて、学び、経験を積んでおいて、魂は肉体を変え、それを通して自らを見ることが成功するのだ。

53.
魂の進化の旅は長く、その道は遠く、その存在の形態はさまざまに、実に変化に富んでいる。そして、あらゆる領域が、それぞれ異なる種類の試練がある。しかし、魂はこれを乗り越えるごとに、高まり、清められ、完成されていく。

54.
人生の歩みの中で、魂は前進を続けていく。それゆえ、高潔な魂にとって、肉体の力などは決して重要ではない。それは、それが通り過ぎるものであり、自分にとって些細な出来事に、旅の途中で立ち止まってはならないと知っているからだ。

55.
彼女は瞬く間に、自分の肉体の弱さに意識を向けるが、短くてやがて地の深くへと消えるものを、あまり深く愛してはならないことを知っている。（18, 24; 27-28）

生命の普遍的学校

56. 人類の始まり以来、魂の輪廻転生は、愛に満ちた導きとして、また、自身の無限の慈悲をもたらす一つとして存在してきた。輪廻転生は、この時代だけの事ではなく、あらゆる時代の事であり、また、私がこの使命を今になってあなた方に明らかにしたのだと、決して思ってはならない。はるか昔より、人間の内には、魂の輪廻転生に関する直感的な認識が存在していたのである。

57.
しかし、唯物論的科学的世界観を追い求めた人々は、肉の情欲に支配され、その結果、霊的なものを感知する人間の心の繊細な感覚を失い、人々は霊に属するあらゆるものに対して目を閉ざされてしまったのである。（105, 52）

58.
あなたが創造される前、あなたがはわたしの中にいた。その後、霊性が増して、あなたがは、すべてが完全な調和の中で揺れ、命の源と、わたしがあなたがを養う真の光の源である場所にいた。

59.
苦しみは父によって創造されたものではない。私があなたがに語ったあの時代、あなたがは罪深くなく、不平を言うことなかった。あなたがは自分の内に天を感じていた。なぜなら、あなたがの完全な人生において、あなたがはこの存在そのものの豪奢であったからである。

60.
しかし、あなたががその旅に出たとき、私はあなたがの霊を去り、あなたがはますます深く沈んでいった。その後、あなたがの魂は歩み戻り、今あなたががいる父の光輝ある存在の元へと還ったのだ。（115, 4-5）

61.
あらゆる魂の目標は、浄化を完成させ、神性と融合することである。そのために、私はあなたがの道のりに満ち、あなたがが段階を追って昇ってこられるよう、魂力を与える。
あなたががこの世を去る際に到達している発展の段階に応じて、来世で生じることになる霊性の状態が決まる。なぜなら、宇宙は魂のための完成の学校として創造されたからである。（195, 38）
** これに関するより詳しい説明は、第3章9節、第8章6節との箇所である！*

62.
もし私がこの人生においてすべてをあなた方に与えていたならば、あなた方はもう、さらに上の段階へと昇ろうとする理由をなくしてしまったことだろう。しかし、ある生において達成できなかったことは、別の生において、また、その生で達成できなかったことは、さらに別の、より高い生において、実現される。こうして、魂は果てしない発展の道において、永遠に前へと進んでいくのである。

63.
あなたは私の言葉聞くと、自分の魂がこれほど大きな完全性に達することができるとは到底信じられないと思うだろう。しかし、私が言うには、あなたが魂に宿る時、物質性自体を見るものは――すなわち、貧しさ、無知、悪意――ただ見つめているからにほかならない。
しかし、これ以前に、ある者たちの魂が病んでいるからであり、またある者たちの魂が麻痺しているからであり、さらにある者たちは盲目であり、またある者たちは霊的に死んでいるからにほかならない。しかし、そのような魂の悲惨さを目の当たりにすれば、あなたは、永遠にあなたたちのために用意している運命を疑うことを恥じるだろう。
64.
こうして、あなたは地上の世界に肉体を受ける時に生きている。しかし、すでに私の真理の光があなたに届き、過ぎ去った時の夜闇を追い払い、その夜明けとともに、私の教えによって魂が救済を受ける時代の到来を告げている。（16, 17-18）
65.
あなたの多くは、過ちを償うために再び地上に肉体を得ることになるだろう。あなたは、今持っている、そして頼りにしているその道具、すなわち肉体をもはや持たないことになる。この世に生まれることは
にとって魂にとっての特権であり、決して罰ではないということを理解しなければならない。それゆえ、あなたはこの恵みを活用しなければならない。
66.
この人生の後、あなたは新たな教訓を受けるために他の世界へと旅立ち、そこでさらに高みへと昇り、自己を浄化するための新たな機会を見出すでしょう。人間としての義務を果たしたとき、あなたは使命を全うしたという満足と共にこの世を去り、あなたの魂は平安に満ちるでしょう。(221, 54-55)
67. 今、私の声は多くの人々を呼び寄せている。多くの魂にとって、この地上の旅の終わりが近づいているからだ。
68.
彼が心に抱いているあの苦悩、あの憂慮、あの悲しみは、彼がすでに、より高貴な、より良い世界を望んでいることの証である。
69.
しかし、彼がこの世であと最後の段階を、良心の指針に従って生きることは必要である。そしてこそ、地上における彼の最後の足跡が、後に続く世代にとって祝福となり、彼がこの世界にすべき様々な使命を全うできるようになるからである。（76, 4）
70.
この世界は永遠のものではなく、またそうである必要もない。この地球が、今持っているその目的を果たさなくなった時、それは消えるだろう。
71.
もしあなたの魂が、この世の生命という教室をもう必要としなくなったならば――それは、別の世界でより高次の教えが待っているからであるが――その時、この地上の闘いの中で勝ち取った光によって、魂はこう言うだろう。「今、私はようやくはっきりと理解していることか。この人生のあらゆる苦しみは、私がより深く理解するために必要な経験教訓に過ぎなかったと。
苦しみによって押しつぶされていた時は、あの人生という旅はとても長く感じられたことか。しかし今、すべてが終わった今、永遠という観点から見れば、それはなんと短く、はかないものに見えることか。」（30, 47）
72.
人よ、喜びなさい。この涙と苦しみに満ちた世の中であなたが立ち止まり、悩むたびに、喜びなさい。ここはあなたの永遠の故郷ではないのだから。より良い世界があなたを待っているのだ！
73.
だから、もしあなたがこの地上なら、後悔することなく去りなさい。そうすれば、ここに残されるのは、苦痛の叫び、苦労、そして涙にほかならないだろう。

あなたがたの世界別を告げ、天の高みで待受ける者たちのもとへと舞い上がるのだ。そこから、あなたがたは地球を宇宙の点として見下ろし、愛をもってそのことを思い返すことになるだろう。（130, 51）

輪廻転生の説得力

74.
スピリチュアリズムの光は、輪廻転生という現象に内在する真実、正義、理性、そして愛を世界に明かしている。それにもかかわらず、世界は初めからこの教えを頑なに拒み、それを異端で誤った教えであるかのように見なし、善意の人々に不信を抱かせるだろう。
75.
各宗派が、信者たちを古い信仰箇条という時代遅れの信仰体系という固定された軌道に留めようと行う努力は、無益で無駄なものとなるだろう。なぜなら、人間の思考力の発達はこれまで急速に、啓示や神霊、疑念や謎の解明、そして精神性の領域の時代に向けて魂を目覚めさせる聖なる光を、誰一人止めることはできなかったからだ。
76. また、思考、精神、信仰の自由を脅かしてきたあらゆる類の統制を、誰一人止めることはできなかったろう。（190, 57-59）

魂の再生の道

77. 私は、すべての地の巡礼者たちを呼び寄せる。彼らを向上へと導き、永遠の命を得るよう招く私の声を聞いてほしい。
78.
「神の計画」が明らかにされるこの日に――その計画を利用し、それによって学びなさい。なぜなら、知識の中にこそ力があり、そこにこそあなたがたの救いがあるからだ。
79.
もしわたしの律法が、あなたがの生涯におけるあらゆる点において、道徳、正義、秩序を教えているのなら――なぜあなたがたは、自ら苦痛をもたらすような、それとは正反対の道を歩むのか。しかし、あなたがたがこの世へと旅立ち、この地上で肉体を得た時、あなたがたの肉体という殻があまりに愛すべきものだったがゆえに、涙を流すのだ。
80.
もしあなたがたが、その肉体はお前のものではなく、わたしのもとに来るまで保護の道を歩まなければならないと感じるならば、わたしはこう言う。「わが子よ、お前はわたしに抗することができるのか。お前は地上で、わたしの助けを全くなしに生きてきたのか。」
81.
しかし、あなたがたは――これほどまであなたがたを愛し、多くの恵みを与えてくださったあなたがたの愛の贈り物を得ないために、恥じ入り、落胆し――魂を押しつぶす罪を自ら作り出し、その魂が失い、恵みを失ったことを嘆き、泣き叫んでいる。魂は、自分を呼び戻す父の声を聞いたことがある。しかし、成長しておらず、まだ神には値しないと感じているために、立ち上がりたいと待ち続ける。
82.
時が過ぎ、魂は再びその声を聞く。苦しみに満ちた魂は、誰が自分に語りかけているのかと問う。するとその声はこう告げる。「目覚めよ！お前はどこから来て、どこへ向かうのか、知らないのか？」そこで魂は目を上げ、計り知れないほど大きなものを見る。その輝きの前では、自分は惨めな存在に思える。
彼女は、地上に遣わされる前からすでに存在しており、その声が発せられるはるか以前から愛されていたことを悟る。そして今、父は彼女が哀れな状態にあるのを見て、彼のために苦しんでいるのだと気づく。彼女は、戦いの道を歩み、その試練によって報いを得るために、様々な地へと遣わされていたことを悟る。
83.
そして、その子は問う。「もし私が、地上に遣わされる前から、あなたの深い愛を受ける被造物であったのなら――なぜ私は堅く留まることができず、堕落し、苦しみ、苦労して、あなたのもとへ戻らなければならなかったのですか？」
84.
その声は彼に答えた。「すべての魂は罪の道に従うことになっており、その道において私の大霊は常に彼らを見守っておられる。そし

では、子供たちの善を喜ばる。もっとも、私があなたを地上に遣ったのは、そこで単なる苦痛と戦場ではなく、魂の完成のための闘いの場とするためである。

85. われは、あなたがたに言う、不安であってはならない、と告げた。
しかし、あなたがが霊性界に戻る時、収穫をもたらすことはなく、ただ空虚、私から与えた恵みを持ずさやって来る。それゆえ、私は再びあなたがたを遣し、こう告げる。「自分を清め、失ったものを求め、霊性に昇華せよ」

86.
魂は地上に戻り、その中で安らぎ、新たな人生の旅路のために、小さくて繊細な人間の体を探す。魂は自分に割り当てられた幼い子供の体を見つけ、それを用いて、私の律法に対する自分の違反を償うのである。
その準備を終えた上で、魂は地上に来る。魂は、自分が父の息子であることを知っており、父から託された使命を知っている。

87.
最初の数年間、魂は無垢であり、その清らかさを保ち、霊性界とつながり続ける。その後、魂は罪深い始め、父の正義の法に対する人の高慢、傲慢、反抗を間近に見るようになり、生まれつき汚れた肉に悪が染まり始める。
誘惑に負けて堕落すると、彼は地上に持ち込んだ使命を忘れ、律法に背く行いをしようとする。魂と肉体は罪の果実を味わい、破滅に陥ったとき、最初の時、彼を導く。

88.
再び、魂は霊性領域に身を置くが、罪の重荷に疲れ、打ちひしがれている。そこで彼は、かつて自分に語りかけ、今なお呼びかけている声を思い出す。そして、自分が誰のかもわからず、迷子になったかのような感じ、多くの涙を流した後、かつてその場にいたことを思い出す。

89. 深い愛をもって彼を創造した父が、彼の行く手に現れ、こう問いかける。「お前は誰だ。どこから来て、どこへ行くのか。」

90.
その子は、その声の中に、自分を存在へと呼び戻してくださった方――常に救い、清め、闇から救い出し、光へと導いてくださる父――の言葉を認める。
子供は、自分を裁く父の前に立っていることを知り、震えながらこう言う。「父よ、私の不敬虔、罪はあなたに対して甚大であり、私はあの功績なため、あなたの近くに暮らすことを期待することはできません。今日、霊性界に戻ってきて、私は償わなければならない罪を積み重ねてきただけだと気づきました。」

91. しかし、慈愛に満ちた父は、再びその者に道を示し、その者は再び肉体に帰還し、再び類の一員となる。

92.
しかし今、すでに経験豊かなその魂は、自分の意志を貫き、神の救いを妨げるために、より大きな力で肉体を支配しようとする戦いが始まる。魂は、人間を堕落させる悪戦い、自分の救いのために与えられた機会を最大限に活用しようとする。
人生の終わりまで戦いは続く。そして、この外に出て髪が薄くなり、かつては難なく引き締まっていた体が年月の重みに屈し始めるのを失っていくとき、魂はより強く、より成熟し、より経験豊かなものと感じる。罪はなんと大きく、忌まわしいものに見えることか。魂は罪の浄化に向けて、ついに目的地に到達する。
今や彼は、父が彼を呼ぶその瞬間を待ち望んでいる。なぜなら、彼は神の律法は正しく、神の御心は完全であり、この父は子供たちに命と救いを与えるために生きておられる、という結論に達したからである。

93.
最後の時が訪れると、彼は肉体の死を感じたが、痛みは感じなかった。彼は静かに、そして威厳をもって世を去った。彼は心の中で自分自身を見つめ、まるで目の前に鏡があるかのように、光に包まれて美しく輝いている自分を見た。
すると、声が彼に語りかけ、こう言った。「子よ、どこへ行くのか。」そして、彼は誰であるかを知っていた彼は父のもとへ歩み寄り、その光を自分の存在に注ぎ込み、こう言った。「お父様、創造主よ、おおすべての愛。私はあなたのもとへ来て、安らぎを得、この成就をあなたに捧げます。」

94. 清算が済んでおり、魂は完全で清く、罪の鎖から解き放たれ、目の前に待ち受ける高揚感を目の当たりにした。

95.
その後、彼はあの光の一つとなり、その輝きにさらに深まるのを感じた。そして、平和の場所、聖なる地を目にし、深い静寂を覚え、「アブラムの懐安らぎ」を得た。（3, 14-16）

第1章 救い、贖い、そして永遠の救い

贖いに関する誤った考えの是正

1.
多くの人は、この世のすべての涙は、最初の地上人の罪によってもたらされたものと考えていた。彼はそのことを理解することができず、ついには、キリストは自らの血によってあらゆる母を洗い流すために来られたのだと言い出した。もしこの逆説がそうだとしたら――なぜその難題が成し遂げられているにもかかわらず、人は罪を犯し、苦しみ続けているのだろうか？

2.
イエスは、人に完全への道を教えるためにこの世に来られた。それは、イエスが自ら歩まれ、そして言葉をもって示された道である。（150, 43-44）

3.
あなたがたは皆、自らの使命を果たすことによって、その目標に達するだろう。私が、尽きることのない教えをあなたがたに与えたのは、あなたがたが永遠の階段を登っていけるためである。あなたがたを救うのは私の血ではなく、あなたがたの魂の中にある私の光が、あなたがたを贖うのである。（8, 39）

4.
第二の時において、私は新たな啓示を携えることとなる。それは人間の目には見えないものだが、その高みから、私は類まれなメッセージを送り、私の言葉の霊的な本質である私の血は、魂のための光と変容するだろう。

5. かつて私を裁いた者たちは、今日、自らの精神をもって悔い改め、過ちを償うために、人の心を生らしている。

6.
人間の悪について語る私の教えの勝利のためには、まずキリストが磔刑に処され、嘲笑されたように、それ自体が磔され、嘲笑されなければならない。愛なきこの地上界をすすぐために、私の光はあらゆる傷から溢れ出なければならない。人類再救の道をすためには、私の目に見えない血が天界の上に降り注ぐことが必要である。（49, 17-19）

7.
私は再び、あなたがたに告ぐる。私の中にあって、全人類は救われるのだ。ゴルゴタで流されたその血は、あらゆる魂にとっての命である。しかし、それは単に流れ落ちた血のものではなく、その血に象徴される神の愛のだ。私があなたがたに私の血について語り、あなたがたがそれが何であり、どのような意味を持つのかを学んでいる。

8.
多くの人が、主イエス、また隣人への愛から自らの血を流してきたが、それは神の愛を体現したものではなく、ただ霊なき人間性の愛にすぎなかった。

9.
しかし、イエスの血は神の愛を体現している。なぜなら、その血はお一人のからだ、師は決して罪なく、神の被造物にとってすべてであり、彼を無限に愛しているがゆえに、何の躊躇もなく完全に身を捧げていることを、あなたがたが理解するために、師は最後の一滴に至るまでその血をあなたがたに与えたのである。

10.
大地の塵が、主の体の中で命そのものであるその液体を吸い上げたのは、私の教えが、神の愛と知恵と正義による贖いによって、人の生活を実現するものとする必要があったことを、あながたは理解しなければならないのだ。
11.
世界の者たちは、自分の罪業と汚れに対して無頓着であり、懐疑的であり、私の教えに反対し、イエスが人々を罪から救うために血を流したにもかかわらず、世界は救われなかったと宣言する。彼らは、世界はより進歩しているにもかかわらず、日ごとますます堕落していると宣言する。
12.
人々は、「救いの血のかけらはどこにあるのか」と問うている。それなのに、私の教えの真の根源を明らかにすべき者たちは、光を遮り、真理の探究を望む人々の問いに応える術を知らない。
13.
私はあなたがたに告げる。この時において、真理を知らない者たちの問いは、真理を知っていると宣言する者たちの答えよりも、より深い意味と、より大きな価値を持っているのだ。
14.
しかし、わたしは再び来て、あなたがたに語りかける。そして、あの血の洗礼によって、神の正義から罪人たち――すなわち、失われ、重荷を背負い、苦しみへと定められていたすべての人々――を救うと信じている者たちの、わたしの言葉はこうである。
15.
わたしはあなたがたに言う。もし、すべてを知っておられるが、人がイエスのその言葉と行いによって与えた教えのすべてを、徐々に活用し理解することなどと言っていたならば――まことに、父は決してイエスを遣わすことなどなかったであろう。なぜなら、創造主は決して無益なことをなさらないからである――実を結ぶよう定められていないことは何一つさらないからである。
しかし、もしもが、イエスを人の間に生まれ、成長し、苦しみ、死なせから遣わされたとすれば
それは、主が豊かで満ち満ちた恵みを施し、その行いを通して決して滅ぶことのない道、破壊され得ない足跡を描き出し、それによってすべての子供たちが、真の愛と善き、その教えに従うことによって、創造主が待ち受ける場所へと至る道を見出せるようになることを、主が知っておられたからである。
16.
また、主は、清らかさと限りない愛を証し、最後の一滴まで流されたその血が、人々に、創造主の御許をもって彼ら各々の地へと引き上げる使命を果たすことを教えようとなさっておられた。そこで彼は、その使命の成就を私に託して、こう言うことができるようになるのだ。
「父よ、すべてが成し遂げられました。」
17.
今、私はあなたがたに告げよう。十字架で私の血が流されたその瞬間こそが、人類の贖いの時を告げるものではなかったのだ。私の血は、この世に留まり、生き生きと、新鮮なままであり、私の聖なる血の証をもって、あなたがたの贖いの道を示した。その道こそが、あなたがたに、あなたがたのために約束された住まいを獲得させるのである。
18.
わたしはあなたがたに言った。「わたしは命の泉である。来て、あなたがたの汚れを洗い清め、自由な者として、あなたがたの父であり創造主であるかたのもとへ行きなさい。」
19.
わたしの泉は、愛によって成り立っており、尽きることなく、限りがない。これこそが、当時流されたわたしの血が、あなたがたに伝えようとしていることである。それはわたしの言葉を確証し、わたしの教えを裏付けるのである。（158, 23-33）
20.
あの出来事から何世紀も経った今日、私はあなたがたにこう告げる。私は全人類のために血を流したが、イエスの教えに従う者たちだけが、その魂の救いを得ることができる。一方、無神論者、誤った信仰を持つ者、あるいは罪の中に留まり続ける者たちは、まだ救われていない。

21.
言っておくが、たとえ私が十回人間となり、十回十字架で死んだとしても、人々が立ち上がって私に従わない限り、彼らは救いを得ることはない。あなたがたの十字架ではなく、あなたの十字架のために。
私はまがいの十字架を背負わず、人間としてそこで死んだ。そしてその瞬間から、私はそれを憎んだ。あなたがたは、喜びと愛をもって私に従い、真の謙遜をもって自分の十字架を背負い、使命の最終目標に到達するまで歩み続け、そうして初めて、同様にあなたがたの父のもとに至ることとなるのだ。（168, 16-17）
22.
幸福を見出したと願う者はない。そして、それが絶えずあればあるほど良い。なぜなら、私はあなたがたに至高かつ永遠の幸福と至る道を教えているからだ。とはいえ、私はただ道をさすだけであり、その後、あなたが自身に最も心響く道を選ぶのである。
23.
私は問う。「もしあなたが幸福を得るなら、なぜそれを待って後に難しいのか？」人のために尽くすように召し出されたと感じた者は、なんと少ないことか！（169, 37-38）
24. あなたがたが抱いている、地上での人生の意味、魂とは何か、そして霊とは何かという考えは誤っている。
25.
信者の大多数は、ある種の信念を持って生きれば、あるいは人生の最期に犯した過ちを悔い改めれば、自分の魂は神の国に行けると考えている。
26. しかし、人間にとって非常に危険なこの誤った考えこそが、
人間が物質を通して律法を breaking することなく、その結果、魂がこの世を去って霊界へと旅立ったとき、自分が想像していたような喜びを見ることもなく、まさに救いとして信じていた至高の幸福を感じることもできない場所へやって来てしまったと気づかざるを得なくなるのである。
27. 天国に行けると確信していたのに、そのやり方に従わなかった者たちに、何が起こるか知っているか。
彼らはおよそ肉体という入れ物を失い、地上に居場所を持たなくなってしまったが、霊的な光の領域に存在する資格を得ることもできなかったため、自覚することなく、人間でもなく、深霊でもない世界を自ら作り出してしまうのである。
28. すると、魂たちは問い始める。「これが天国なのか？これが、長い間地上を旅した後、神が魂たちに定めた住まいなのか？」と。
29. いいえ――と他の者たちは言う――光と愛と清らかさのみが存在しうる場所が、これであるはずがない。
30.
次第に思考を整理し終え、魂は悟りに至る。魂は神の律法を理解し、その精神の光に照らされて、過去の行いを省き、それが驚くほど不完全であり、自分が信じていたものを得るに値しないものであったことに気づく。
31.
その後、この内省によって謙虚さが現れ、かつて歩んだ道と見比べ、汚れを洗い去り、過ちを償い、父なる神の前で真に価値あるものをもたらそうという願望が生まれる。
32.
人類にこれらの秘密を明かすことは必要である。そうしてこそ、物質界での生活が、人間自らの魂のために功徳積む機会であることを理解できるようになるからである――
それはより高い霊的な領域に生まれ変わるにふさわしいまでに魂を高め、そこで留まることなく、段階から段階へと昇り続けるために、再び功徳を積まなければならない。なぜなら、「父の家には多くの住まいがある」からである。
33.
あなたがたは、父の永遠の律法に教えられたように、愛によってこの功徳積むことになる。こうして、あなたがたの魂は、完全性の階段を一段ずつ登り、天の御国へと続く狭い道、すなわち絶対的完全性である真の天国へと至る道、その通路となることになる。（184, 40-45）
34.
まことに、あなたがたに告げる。もし私がこの時に人間として来なければ、あなたがたの目は私の傷ついた体を見ることなく、血を流しているの

を見なければならなかったであろう。なぜなら、人の罪はごとなく、また、ゴルゴタで私が流した人類への私の愛の証であるその血を思い起こして、自ら贖おうともしなかったからである。

しかし、私は霊として来た。それは、地上で私を裁き、有罪とした者たちの行いを、あなたがたが見倣いることを避けるためである。

35. すべては終わっている。しかし、すべての人の魂の中には、私が十字架の上で全人類のために流したものの、その一部が存在している。

その生命と血が消え去ったり、失われたりしたとは決して思ってはならない。それは、その瞬間から私がすべての人に注ぎ続ける霊的生命を表現していたのだ。私の言葉を確証し、私が地上で語ったこと、行ったことすべてを裏付けたその血によって、人は救いの確信を得、上へと引き寄せられていくであろう。

36. 私の言葉、私の業、そして私の血は、無力ではなかったし、これからも無力となることはない。

時折、私の名、私の言葉がほんど忘れ去られたかのように思えることがあっても、やがて、それらが再び、生命の活力と生命に満ちあふれる形で現れることとなるであろう。それは、絶えず燃えながらも決して滅びることのない種火のようなものである。（21, 64-66）

37. 救いの光と変容したイエスの血は、救いとしてすべての魂に浸透し、今もなおそうしている。

私の霊が速やかに救いと光を受け、私が絶えず、暗闇の中に私の光の輝きをまばゆく、私の神聖な霊が絶えず――人間としてではなく、救いの力として、霊的生命として――私のすべての子供たちに注がれている。（19, 36）

天国は勝ち取られるべきものである

38. 情欲の激しさに流され、人は堕落の中に深く沈み込み、救いへのあらゆる希望を捨ててしまった。

しかし、癒されない者は一人もいない。なぜなら、魂は――霊の声に耳を傾けない限り、人間の嵐はしないことを確信したならば――立ち上がり、その運命の目的地、すなわち地上ではない永遠のある場所に到着するまで、私の律法を全うするからである。

39.

存在に意味がないと言い、闘いや苦痛、無益なものと考える者たちは、人生そのものが幻想であり、苦痛そのものが完成と導入であることを知らない。

私が痛みを創り出し、それを不当にもあなた方に与えたのだなどと思わないでほしい――私があなた方を苦しませたのだなどと思わないでほしい。人間は自分の意思で堕落したのだから、それゆえ、自分の努力によって再び立ち上がらなければならないのだ。

また、痛みだけがあなた方を完成させるのだと思ってはならない。いや、愛の行いを通しても、あなた方は私のもとへ至るのだ。なぜなら、私は愛そのものだからである。（1, 54-55）

40.

肉体より先に霊をもって祈りなさい。救いを導くためには一瞬の祈りや一日の愛だけでは十分であり、忍耐と寛容に満ち行い、そして私の求める人生が必要だからである。そのために、私はあなた方に大きな能力と使命を与えたのだ。

41.

わたしの業はすべての人を招き入れる救いの箱舟のようなものである。わたしの救いに従う者は滅びることはない。もしあなたがたがわたしの言葉に導かれるなら、救われるであろう。（23, 30-31）

42.

完全なものだけがわたしのもとへ至ることを心得なさい。それゆえ、あなたがたの魂は完全さを達成して初めて、わたしの王国に入ることができるのである。あなたがたは、絶えず清められながらわたしのもとから出てきたが、功績と義認という衣をまとい、わたしのもとへ戻らなければならない。（3, 22）

43.

まことに、わたしはあなたがたに言う。神の近くに至る義の魂たちは、自分の行いによってその場所を勝ち取ったのである。それは、わたしが彼らに与えたからではない。わたしはただ彼らに道を示し、その道程に高い報いを示したに過ぎない。

44. 主よ、あなたは道であり、その道照らされた旅の力です。
あなたは、進むべき方向を示し、人生の岐路において私たちを新たに生き返らせてくださる声であり、また目的地たどり着いた者の報酬でもある。」――そうわが子よ、私は命であり、死者からの復活である。（63, 74-75）
45.
今日、父はご問うことはない。「誰が、その血をもって贖罪の犠牲と用意を持っているか？」と。また、イエスはご答えることもない。
「主よ、私は、その血と愛をもって贖罪の道を切り開く用意のある小羊です。」
46.
また、私はの時に人間となるために、私の言葉を送ることもない。その時はあなたにとって避けられ、その教えと言葉はあなたの魂の中に残った。今、私は霊的進歩の新たな時代を切り開いた。その時において、あなたは恵まれた者となるべきである。（80, 8-9）
47.
私は、あなたが全員が平和と光の中にあり、次第にすべてを手に入れるのを見ることを願っている――それは私の愛によってだけでなく、あなたがの功績によってもある。なぜなら、そうしてこそ、あなたがの満足と幸福は完全なものとなるからである。（145, 34）
48.
私は、人間性の生活より先高次の生活の美しさをあなたがに示し、高尚なあなたがの行いと、愛を呼び覚ます言葉を教え、犠牲と愛の心を養うときに魂が得られる、かつない幸福を味わうために来たのである。
49.
あなたがは、私の教えの中にあるすべてを熟慮し、ついに、あなたがの魂が真の幸福と近づくのは、あなたがの善であるということを理解するようになるべきである。（187, 48-49）
50.
もし、地球の光から別の光へとあなたがを導くために、多くの森、山、砂漠、海、民族、都市、国を通り抜けた旅の目的地に到達しなければならないとしたら、その約束の地に至るためにも、同様に長い旅をしなければならないことを心に留めておきなさい。そうしてこそ、その長い旅の途中で経験と知恵、そして英知と成長を得ることができるのだ。
これこそが、それを手に入れるために多くの闘いと戻流した後、最終的にあなたがが味わうことになる生命の実なのであろう。（287, 16）
51. あなたがはまだ父の子である。しかし、もしあなたがの弱さゆえに、苦しみと涙に満ちた人生の闇に陥ったとしても、これらの苦しみは過ぎ去るだろう。なぜなら、私があなたがを呼び、ご自分のとき、あなたがは私の呼び声に応じて立ち上がるからである。
「私はここにいる。あなたの地位を捨て、山に登るように。その頂上には、地上ではなく集めようとしたすべての平安、幸福、そして富が見つかるだろう。」（108, 5）
52.
あらゆる世界、あらゆる存在の次元は、魂がその上で発展、創造と進歩を遂げ、そして、絶え間ない前進と進化の中で、汚れなく、清く、美しく整えられた姿で、その旅の終着点、すなわち究極の完全性の頂点に至る機会を得るように、創造されたのである。それこそが、まさに神の御国にほかならないのである。
53. 結局のところ、「神の国」にほかならないことが、誰にとって不可能と見えるだろうか？
ああ、哀れな理性の人々よ、あなたがは真に考えることをやめたのだ！あなたがは、私の国からこの世に現れたこと、つまり、それ以前にすでに私の懐に存在していたことを、もう忘れてしまったのか？生命の源から生まれたすべてのものが、やがてその源へと帰っていくことに、何ら不思議なことなどないではないか。
54.
すべての魂は、私からこの世に生を受けた時、処女のように清かであった。しかしその後、多くの者がその道のりで汚れを帯びてしまった。そ

れでもなお――すべてが私によって贖われ、愛に満ち、正義を重んじる方法で見られていたゆえに、私は喜んで、わが子が死ねばならぬ道において彼の救いと再生に必要なあらゆる手段を講じることに着手した。

55.
たとえその魂が多くの存在によって汚されたとしても、彼がすべての過ちから清められ、それによって本来の清さを取り戻す日が来るだろう。その清さは私の目には非常に貴重なものである。なぜなら、魂はその信仰、愛、忠誠、そして神に対する大きく純粋な謙遜を通して、それを勝ち取ることとなるからである。

56.
あなたがたは皆、労働場所と苦痛の道を歩んで、光の王国へと戻るだろう。そこではもはや肉体を持つ必要も、物質の世界に生きる必要もない。なぜなら、その時はあなたがの霊性進化のわざが、すでにある存在の状態から別の状態へと、あなたがの影響力と恩恵、それを実感させることを可能にしているからである。(313, 21-24)

救いの最も強力な力

57.
見よ、ここに道がある。その道を歩め、そうすればあなたがは救われる。まことに、わたしはあなたがたに告げる。この時にわたしの言葉を聞いたことがなくても、救いを得ることは可能である。
人生においてわが聖霊の律法を実践し、創造主から霊感を受けたその愛を隣人愛へと変える者は、誰でも救われる。その者はその人生と行いにおいて、私について証をするのである。(63, 49)

58.
太陽が全宇宙のすべての存在、生命の光源であり、星もまた地上に光を放つならば――なぜ聖霊が人間の魂に光を放ってはいけないというのか。

59.
今、私はあなたがたに言う。人よ、内省しなさい。愛、その源泉、正義の光が、この世に広まるようにしなさい。私の真理によって、真の愛、あるいはあなたがの魂の救いを得ることはできないと確信しなさい。（89, 34-35）

60.
わたしの光はすべてのわたしの子供たちのためのものだ。この世はあなたがだけでなく、さまざまな存在の状態で生きるすべての魂のためである。もし彼らが兄弟姉妹への愛の行いによって、互いに愛し合うことを求めるわたしの神聖な命令を果たすならば、彼らは皆、解放され、永遠の命とよみがえるであろう。(65, 22)

61. 愛する民よ、これは私が肉体の間で私の言葉を新たな命へと蘇らせる第二の時である。
これは私が霊性形態で世の前に現れ、「ここにあなたがが十字架で死んでいくのを見たあのキリストがおられる。そして今、彼はあなたがたに語りかけている。なぜなら、彼は生きており、これからも生き続け、永遠に存在し続けるからだ」と告げる第三の時である。

62.
それに対して私は、人が信仰、愛、そして光と調和をその内に抱いているのを見る。彼らはそれぞれの宗教団体において真理を宣伝していると主張しているにもかかわらずである。彼は教会が、儀式に参加すれば、自分の魂救いに保証されたと考えている。
しかし、私はあなたがたに告げる。魂の救いは、愛と慈悲の行いを実践することによってのみ得られるのだということを、世界は知らなければならない。

63.
礼拝の場所、宗教は過ぎ去る。教会は単に律法を説くことに留まるべきではなく、人生は神の律法から学んだことを、私の愛の教えを実践することで証明しなければならないことを、世の人々が理解できるよう導かなければならない。（152, 50-52）

64.
キリストは神の愛を証明するために人となられた。しかし、人々はあまりに頑なで、獣性と悪性を持っているため、受けた教えをすぐに忘れ、それを誤って解釈してしまう。

私は人々が義と正義と愛を復讐心に置き換えてしまうことを知っていた。それゆえ、私は人々が理解できるかぎり教えを説明するために、霊的にこの世に戻ってくる時が来ると、あなたに告げたのだ。

65.

その約束された時とは、あなたがたが生きているこの時であり、私は私の義と神聖さと愛が、あなたがたの神の至高の愛の完全な教えとして明かされるよう、あなたがたに私の教えを与えたのである。私が来たのは、人間が、ついに仕事、あるいは金のものを減ばしてしまうのではないかと恐れているからだと、あなたがたは思うのか。いいえ、私はただ光と平安に満ち溢れた姿を見たいと願い、私の羽根たちの愛の元に来るのです。

66. あなたがたはただ私の愛の元に来るべきではないか。

しかし、それは自分自身の愛からではなく、父の愛、そして隣への愛からである。地獄の苦しみの恐れから罪を避ける者があるいは、それによって得られる報い、すなわち永遠の場所を獲得することだけを動機として善を行う者が、神の愛に触れているとでも思うのか？

そう考える者は、わたしを知らず、まだわたしへの愛から来ているのではない。彼はただ自分自身の愛から動いているだけである。(164, 35-37)

67. わたしの律法はすべて、二つの戒めに要約されている。すなわち、神の愛と隣への愛である。これこそ道である。(243, 4)

すべての魂のための救いと贖い

68.

今、私は第一の時にラボニに対して行ったように、肉体の死と墓をよみがえらせるために来たのではない。今日、私の光は、私に属するあなたがたを目覚めさせるために来る。そして、その魂は、私の言葉の真理によって永遠の命へと高められるであろう。なぜなら、あなたがたの魂こそが、あなたがたが現在その内に抱いているラボニであり、私が死からよみがえらせ、癒す者からである。(17, 52)

69.

霊性は生まれ変わりによって覆われており、もしあなたがたがそれから離れるならば、その死は耐えがたい結果をすぐに感じるようになるだろう。

70.

私がどれほど強く、あなたがたを救いたいと願っているかを知りなさい。今日、かつてと同様に、私はあなたがたを真の命へと引き出すために、十字架を背負うであろう。

71.

かつてゴルゴタで流された私の血が人々の心を揺さぶり、彼らを私の教えへと回心させたように、この時においては、私の神聖なる肉体と霊は、あなたがたを真の道へと立ち返らせるであろう。

72. 私は、悪の中で死んでいる者たちが、永遠に生きることを望む。私は、あなたがたの魂が闇の中に住むことを望まない。(69, 9-10)

73. あなたがたの周りの、どれほど多くの者が、偶像礼拝の渦中にありながら、メシアの到来を待望しているか、よく見よ。無知のために、私を悪しき者たちと呼び、善き者を救い、世界を滅ぼすだけやって来ると言っている者がどれほど多いか、よく考えてみよ。彼らは私を父として、師として、兄弟として、あるいは友として、愛と謙遜に満ちた存在、すべての人を救い、祝福し、赦すために助けの手を差し伸べていることを知らないのだ。(170, 23)

74.

偶然に生まれた者は一人もいない。たとえ自分がどれほど取るに足らず、無価値でみすぼらしい存在だと思い込んでいたとしても、その者は至高の存在の恵みによって創造されたものであり、その存在は、その者を自分と同じように愛していると考える者たちと同様に、その者を愛している。そして、その者は他のすべての人と同様に、神の元へと導く運命にあるのだ。

75. 社会から疎まれ、道徳さえない、悪意と悲惨に満ち、自分が者でどこへ向かっているかを知らずに生きている人々を見よ。まさに中で暮らし、猛獣に狙われている人々について、知っていますか？私の父の愛から遠ざけられた者は誰一人としていません。すべての

者に課すべき試みであり、すべての者が最初の種子であり、功績や努力と闘いによって、魂が階段を自ら私のもとへと導める道歩んでいるのです。

76.

たとえほんの瞬間であっても、私の愛を確信せず、この地の生活から解放されることを願わない者がいるとでもいうのでしょうか？すべての魂は、かつて住んでいた世界、生まれ落ちた郷の記憶を持っている。あの世界は私のすべての子供たちを待ち受け、永遠の命を楽しむよう招いている。ある者はそれを望んでいるが、一方で、混乱した魂たちは、希望も信仰もなく生きているため、ただ死を待ち、存在しなくなることだけを望んでいる者もいる。

一体何が、これらの存在たちに、自分の再生のため戦うよう促すことができるでしょうか？一体何が、彼らの中に永遠の憧れを呼び覚ますことができるでしょうか？彼らはただ、もはや存在しないこと、沈黙、そして終わりを待っているだけだ。

77.

しかし、『私の光』、すなわち『道であり真理』であるお方があなたがたその救いによって命とよみがえらせ、あなたがの疲れ果てた顔を優しく撫で、あなたがの心を慰め、そして、自分は存在価値がないと言っていた者にも、私の声を聞かせるために戻ってこられたのです。その声にご注目ください。『私はあなたを愛している。私のところに来なさい！』(80, 54-57)

78.

人は皆、闇の中に身を投じ、それゆえ私から遠く離れていると感じるかもしれない。人は、死は自分にとってすべての終わりだと信じているかもしれない。しかし、私にとっては、誰一人死によって、誰一人失われることはない。

79. この世で罪ある存在と見なされていた者たちのうち、今日、光に満ちている者はどれほど多いことか！

罪、悪意、犯罪という烙印を押されて残された者たちのうち、すでに清めを達成した者はどれほど多いことか！（87, 9-10）

80.

確かに、多くの者が自分の魂を汚している。しかし、彼らを責めてはならない。彼らは自分たちが何をしているのか分かっていないのだから。彼らはまた、たとえ今、私を忘れていたとしても、あるいはこの世で作り出した偽りの神によって私を冒涜していたとしても、私は救う。たとえ彼らが今、偽りの預言者たちがわれに、愛の教えを受けるために自分の命を捧げる慈愛に満ちキリストを忘れていたとしても、私は彼らを私の王国へと導く。

81.

父にとって、悪人と呼ばれる者は一人としていない。誰一人そうなることはできない。なぜなら、彼の責任は私にあるからだ。道に迷った者、盲目な者、暴力的な加害者――私の子供たちの多くは、彼らに与えられた自由意志によって、そのようになってしまったのだ。しかし、すべての人の中に光を差し込み、私の慈悲が彼らを救いの道へと導くであろう。(54, 45-46)

82.

あなたがたは皆、わたしの種であり、主はそれを刈り取る。良い種の中に雑草の種が混じったとしても、わたしはその種を慈愛をもって手に取り、黄金の麦へと変えるのだ。

83.

私は、心の中に罪、汚れ、憎しみの種を見出すが、それでもなお、あなたがを刈り取り、愛している。私はその種を慈しみ、清め、太陽の下で麦のように輝くようになるまで育てる。

84.

私の愛の力が、あなたがを救い出すことができないとでも思うか。私はあなたがを清めた後、私の庭に植え、そこであなたがと新たな実を結ぼうとする。あなたがを私にふさわしい者とすることは、私の理想と使命の一部である。（56, 19-21）

85.

魂が決して消えることのない私の光をその内に宿し、私がありとあらゆる道においてその魂と共にいるというのに、どうしてその魂が私にとって取り返しのつかないほど失われることがあり得ようか。たとえその魂の反抗が続こうとも、あるいはその混乱が続こうとも――これらの闇の力は、決して私の永遠の勝利とはならない。（55, 60）

86.
最も重い過ちの渦にまみれた存在が、高き理想に感化されて自らを清めることは、最初から光り愛し、最後まで汚れなく守り続けた存在が清らかであり続けることと同様に、私にとって貴重である。
87. 混じり合った霊と肉の霊とは性質の異なると考える者たちは、なんと真理から遠く離れていることか！
88.
もしそれが真実であるならば、父は不正である。また、もし父に、汚れた者、不敬な者、不完全な者を救い、彼をすべての義人と共に一つの同じ住まいへと結ぶための大胆な愛が欠けているならば、父はお全能者ではないだろう。（195, 15-17）
89.
まことに、あながたは言う。あながたの感覚が悪霊と呼ぶ存在でさえ、ただ混じり合ったあるいは不完全な存在に過ぎず、父は自身の崇高な御計画と御意志を実現するために、それを利用しておられるのだ。
90. しかし、今日その魂の闇に包まれ、私から与えられた能力を悪用してきた者たちの多くも、その時が来れば、私によって救われるであろう。
91.
なぜなら、おおイスラエルよ、主のすべての被造物が、私を永遠に賛美する時が来るからだ。もし私が、私の大胆な愛をもって、一つの魂でも救うことができないとしたら、私はお全能の神ではない。（102, 31）
92.
この地において、親たちの良い子供たちへの愛、悪い子供たちを嫌うことがいかにあり得ようか。彼らが自分たちを最も傷つけ苦しめる者たちに対してこそ、最も愛深く、最も思いやり深く接しているのを、私は何と見てきたことか！
、あなたがたが、私のそれよりも大きな愛と赦しの業を行うことなど、どうして可能であろうか。
師が弟子たちから学ばなければならないなどということが、かつてあり得ようか？
93.
だから、私は自分の子たちの誰一人として不適格とは考えていないことを知れ。それゆえ、救いの道は、あなたがたが歩むようにと定められているのだ。また、光であり、平和であり、善であるあの王国の門も、律法と真理から遠ざかっていた者たちの到来を待望しながら、永遠に開かれているのである。（156, 18-19）

神の子らの輝かしい未来

94.
私は、私の子供たちのうち、たった一人でも道に迷ったり、ましてや滅ぼされたりすることを許さない。私は毒性植物を実際に結ぶ植物へと変える。なぜなら、すべての被造物は、完全という目標に到達するために存在するように定められているからである。
95.
私は、あなたがたが私と共に私の業に喜び、楽しむことを望む。あなたがたは私の一部であるから、私にとり私はあなたがたに私の特質を分かち与えてきた。すべては私のものであるから、私はあなたがたを私の業の所有者とする。（9, 17-18）
96. わたしの言葉を疑ってはならない。
最初の時代に私は、偶像礼拝に満ちるエジプトの奴隷状態からイスラエルを救い、自由と生ける神の業のための地であるカナンへと導くという約束を、あなたがたに果たした。そこで私が人間として来ることが告げられ、その預言はヤハトにおいて語られた。
97.
イエスにおいて、彼を通してあなたがたを愛したその主であるお方は、別の時代に世界に向かって語りかけ、御霊によって自らを現し世界と約束した。そして今、ここに私の約束の成就がある。
98.
今日、私はあなたがたに言う。私はあなたがたの魂のために、素晴らしい領域、住まい、霊性を準備しておいた。そこでは、愛し、善を行い、私の光のなかでの真の自由を見出すことができる。私がかつての約束を果たした今、あなたがたはそれを信じることができるだろうか？（138, 10-11）

99.
私の理想は、あなたが、光と愛の世界へと導くことである。そこでは、魂の高揚、感情の豊かさ、完全という理想によって、あなたは喜びに満ち溢れるだろう。しかし、あなたはその理想の中に、私のような愛を見出せないのか。
これをそう理解できない者は、間違いなく盲目である。（181, 13）
100.
よく考えてみなさい。この地上のあらゆる美さえも、いつかは他のものに道を譲るために、消え去る運命にあるのです。しかし、あなたの魂は永遠に生き続け、その全ての源――あなたがその胎から生まれた父――を目指すでしょう。すべての被造物は、その源である場所へと帰らなければならないのです。(147, 9)
101.
わたしは永遠の光であり、永遠の平安であり、永遠の至福である。あなたがわたしの子供たちであるから、あなたがわたしの栄光の共同者とするのが、わたしの意志であり、わたしの義務である。そのために、わたしはあなたが律法を守る。それは、魂をその王国の高みへと導く道である。（163, 36）
102.
善、知恵、清さ、そして愛の高い境地に達した魂は、時間、苦痛、そして肉体を超越していることを、常に心に留めておきなさい。その魂は、あらゆる所に留まることも制限されることなく、どこにでも存在し得、あらゆる場所に存在し、感じ、知り、愛し、そして愛されていることを知ることによって、至高の喜びを見出すことができるのである。これこそが、魂の天国である。（146、70-71）

VIII. 人間

第2章 人間の存在、本質、そして使命

地上における存在

1.
あなたは、身内の一人が墓地へと旅立つとき、その人が並ぼう一歩先に行ったことを理解して安心するのではなく、泣いてしまう。
それに対して、新しい存在があなたの家に来ると、あなたはその魂の涙の谷での試練を果たすために肉体に降りてきたのだと、その瞬間は考えもせず、祝宴を開く。その時は、その魂のために泣くべきである。（52, 58）
2.
あなたは肉による子孫が、家族、部族、国家、そして世界と結びつけるのは私である。そして、人間は理解できないこの連鎖の中に、私の愛を織り込んでいる。（67, 26）
3.
あなたがまだ現在生きており、私があなたの未来のために何を計画されたのかを知らない。私は地上という、困難な使命を帯びてくる霊存在のために準備を整えている。そして、あなたがのうちの多くが、私の使者として存在するその存在たちの親となることになければならない。あなたの義務は、彼らを受け入れ導くことができるよう、内面に準備を整えることである。（128, 8）
4.
私は多くの霊的事柄についてあなたに語りかけたが、あなたはそれを理解できない。もし私が、あなたがすでにどのような地に降りてきたのかを明かしたとしても、あなたはそのような場所でどのように生きてきたのか理解できないだろう。

5.
今日、あなたがたは霊性を欠いていることを否定できるだろう。なぜなら、魂が肉体に宿っている限り、その過去はアクセスできないようにされているからだ。そうすることで、魂は隠れたり、落ち込んだり、あるいは新たな存在として、あかや新しい人生のように始めなければならないという現実に直面して絶望したりすることがないようにするためである。
6.
たとえ望んだとしても、あなたがたはそれを思い出すことはできない。私がここで明らかにする事柄について、あなたがたがほのめかす予感や直感だけを維持し、人生の闘いの中で耐え忍び、試練を喜んで受け入れることができるように、私はそれを告げているのだ。
7.
あなたがたは、私が話すべてのことを疑うかもしれない。しかし、まことに、あなたがたが霊的存在であった間、あの霊界にその真のあなたがたの故郷であった。あなたがたは、苦しみを恐れず、父の栄光を自らの存在の中で感じていた。その故郷の住人であった。なぜなら、父は何の欠点もないからである。
8.
しかし、あなたがたは失敗した。それゆえ、あなたがたの魂はその努力によってあの王国を取り戻すために、あの天を去り、この世に降りてくる必要があったのである。
9.
しかし、あなたがたは道に迷いますます堕落し、ついに、あなたがたの起源である聖で霊的なものから、非常に遠離れていると感じるようになった。（14, 35-36）
10. 魂がこの世に来るとき、それはその存在を公に捧げ、あらゆる点で人に喜ばれ、隣人のために役立つという最善の決意に満ちている。
11.
しかし、肉体に入れ、人生の道において一連の試練や誘いに直面すると、魂は弱くなり、肉の種々の思い、誘惑に負け、利己的になり、ついには次第に自分自身を愛するようになる。そして、その結果に基づいて定められている運命を全うするのは、ほんの一握りのことである。
12. わが言葉は、あなたがたが霊性を思い出し、誘惑や障害に打ち勝つ助けとなる。
13.
私が示した道から一度も逸れたことがない、と断言できる者は誰もいない。しかし、あなたがたが隣人を赦すことを学ぶために、私はあなたがたを赦す。（45, 47-48）
14. 人の良心の声に従って生きるためには、大きな霊性が必要である。
なぜなら、万物は神の愛に満ち、人間の幸福のために創造されているとはいえ、この世に限り巻き物質は、魂が本来属さない世界に身を置き、自分とは異質な肉体に結ばれたその瞬間から、魂にとっての試練となるからである。
15.
ここに、魂が自らの過去を忘れる理由を見出すことができる。魂が、生まれたばかりの無垢な存在を通して、それに誕生するその瞬間から、その身体と密接に結ばれた人生が始まるのである。
16.
精神のうち、残るのはただこの特性、すなわち良心と直感のみである。しかし、人格が成し遂げたもの、そして過去はしばらくの間隠されたままである。それはめそう定められたからである。
17.
高き領域の光から、この世の影響の中で生きるためにやって来た魂が、もし自分の過去を思い出したら、どうなるだろうか。そして、別の人生においてその魂の中に存在していた偉大さが人々に明らかにされたら、人間たちの間にどのような虚栄が生まれるだろうか。（57, 18-19）

肉体の正しい評価と、霊によるその導き

18.
私は、あなたが「魂を清めるべきだ」と言うだけでなく、あなたから生まれる新しい世代の健康が、その魂の理性的使命を果たすように、体も強くあるべきだと言っている。（1, 59）

19.
あなたの身体の健康に気を配り、その維持と生命を果たしなさい。私の教えは、あなたの魂と身体に対して、愛に満ち配慮を持つよう勧めている。なぜなら、両者は互いに補い合い、彼らに託された理性と霊的使命を果たす上で、互いを必要としているからである。（2, 75）

20. 自分の体に、実際以上に大きな重要性を与えてはならない。また、魂のみにふさわしい場を、体に占めさせてはならない。

21. 肉体という器は、魂が地上においてその存在を示すために必要な道具に過ぎないことを理解しなさい。（2, 22-23）

22.
この教えが、いかにあなたの魂にとって有益であるかを見よ。なぜなら、肉体の物質は、日ごとに、少しずつ地の塵へと近づいていく一方で、魂は逆に、ますます永遠へと近づいていくからである。

23.
肉体は、魂が地上に在る間、その魂をふさわしい場所である。なぜそれを、束縛の鎖で閉じ込める牢獄としてしまうのか。なぜそれを、あなたの性格を歪めてしまうのか。目の見える者を、盲人が導くことが正しいと言えるだろうか。（126, 15-16）

24.
この教えは、すべての純粋な理想の基準であり、それは理解しやすい。しかし、それを実現することは、時に困難に思えるだろう。魂の望みは、肉体からの努力、自制、ある種の犠牲を要求する。もしあなたが、そうした精神的な鍛錬を欠いているならば、苦しむことになるだろう。

25.
太古の昔から、神から与えられた法則に従った人生を送るために、何が正しく、何が許され、何が善であるかを理解しようとする際、魂と肉との闘いが存在してきた。

26.
この厳しい闘いの中で、あなたがたは、まるで真に悪であるかのごとく、戦いを放棄するよう誘惑し、自由意志を持って物質の道を歩み続けるよう勧めているかのように感じるだろう。

27.
私はあなたに言う。あなたの肉体の弱さほど大きな誘惑はない。肉体は周囲のあらゆるものに敏感であり、屈服するまで、容赦なく誘惑されるものである。
しかし、身体の衝動、情熱、そして弱さを制することを学んだ者は、自らの中にある誘惑に打ち勝つのである。（71, 49-50）

28.
地球は戦場であり、学ぶべきことは多い。そうでなければ、この惑星の数千の世界で十分であり、あなたがたは何度も生まれ変わるために送り出されることはなかったろう。汚れた物質の衣をまとっているとき、魂にとって、自身の肉体ほど危険な敵はない。

29. わが言葉は、あなたがたをこの墓から引き出し、その後、翼を与えて、平和と霊性の光の国へと舞い上がれるようにする。（13, 24-25）

人間における魂、精神、良心の真の役割

30.
人間は、霊としても、ただ魂を宿した肉体生命によってのみ存在することはできる。しかし、その場合は人間という存在ではない。その者は魂は持ちながら霊性はないことになるが、それでは自ら導くことはできず、また、霊通でなければ、善悪を区別し、あらゆる神の啓示を受け取る最高存在とはなり得ない。（9, 56）

31. 霊は魂を照らし、魂は肉体を導くべきである。（1, 9）
32.
この世では、ある者たちが魂の大きさを過小評価する一方で、他の人々は人間を神の前では取るに足らない被造物であると語り、さらには自らを虫のように卑下する。確かに、あなたがの物質的な肉体は、わたしの創造物の中にあっては小さく見えるかもしれないが、わたしにとってそうではない。なぜなら、わたしがそれを創造した際、特別な意図があったからだ。
33.
しかし、どうして体の大きさだけで、あなたがの存在の偉大さを判断できようか。あなたがは、その中に魂の存在を感じないのか。魂は体よりも偉大であり、その存在は永遠であり、その進展は無限である。あなたがは、その始まりを見ることも、その到達点に立つこともできない。私はあなたがを小さく見たのではない。私は、あなたがの偉大さを証明するためにあなたがを創造したのだ。
私が人間を創造したとみなすのは、いつだと思うか？それは、彼が罪に溺れ、その高貴さと尊厳を失ってしまった時である。
34.
長い間、あなたがはわたしに目を向けていません。あなたがは、自分たちの真の拠り所であるかを忘れてしまっています。なぜなら、あなたがは、創造があなたがの中に置いた多くの特質、能力、賜物が、あなたがの本性の中で眠ったまま、活用されないままにしておくことを許してきたからです。
あなたがは、魂を精神に関して眠っている。しかし、まさにその霊的な特質の中にこそ、人間の真の偉大さがあるのだ。あなたがは、この世に生まれ、この世の存在のように生きている。（5, 56-57）
35. 私の愛と慈悲をもって、私はあなたがの精神が私にとってどれほど価値あるものであるかを証明する。
物質的な創造物の中に、あなたの精神より尊いものは何一つない――その光輝く星であれ、あらゆる惑星や地球であれ、あるいは地上のいかなる被造物であれ、私があなたに与えた精神より尊いものはない。なぜなら、それは神の息子であり、神の精神から生まれたからである。
36. 神は除けば、霊のみが霊的な性質、意識、意志、そして自由意志を備えている。
37.
肉の本能と欲望の上に、あなたの魂であるあなたがを、その光に導く手であり、教師であり、裁き手である霊が存在する。（6, 68）
38.
人類は、その物質主義の中で私にこう言う。「霊の領域など、果たして存在するのだろうか？」しかし、私はあなたがに答える。おお不信仰者たちよ、あなたがは第三の時代のトマスである。同情心や優しさ、慈愛、寛大さといった感情は、身体に属する特質ではない。それは、あなたがの内なる神の賜物と同様に、身体に由来するものではない。
あなたがの心と性質に込められているあらゆる感情、あらゆる能力は、すべて霊に属するものであり、あなたがはそれを否定してはならない。肉は限られた道具に過ぎないが、霊はそうではない。霊は神の粒子の原子であるがゆえに、偉大なのである。
39. あなたがの存在の核心、精神の座を求め、愛と光の中で生きなさい。（147, 21-22）
40.
まことに、わたしはあなたがに告げる。人類の黎明期から、人間は自分の中に霊的な存在を宿しているという直感的な確信を持っていた。それは目に見えない存在でありながら、人生の様々な営みの中でその姿を現していたのである。
41.
あなたがは時折、霊の存在、その本質、そしてその隠されたありかをあなたがに告げてきた。なぜなら、あなたがは霊を内に宿しているにもかかわらず、物質によってあなたがをすべてはるかに上回り、あなた自身の存在の中で最高貴で神聖なものが何であるかを認識することができないからである。
42.
人間は多くの真理を否定することを選択してきた。それにもかかわらず、自分の霊的存在の証拠は、彼が最も激しく戦う教義の一つとは言

まれていなかった。なぜなら、人間は、自分の霊を否定することは、すなわち自分自身を否定することと同じであることを感じ取ってはいても理解しなかったからである。

43.

人間の肉体は、その情欲、悪意、そして感覚的快楽によって弱まったとき、魂の開花にとっての鎖となり、時に、目隠しとなり、窒息となり、障害となった。それにもかかわらず、試練の時において、人間を助けに来るべき力は、決して欠けたことはなかった。

44.

まことに、わたしはあなたがたに告げる。霊の最も高貴で純粋な表現は、良心、すなわち、人間を、周囲にあるいかなる被造物の中でも第一であり、最高であり、最大であり、最も高貴な存在たらしめるその内なる声である。（170, 56-60）

45.

わたしはすべての民に告げる。人間が持つ最も高貴で美しい称号は、「神の子」であるということである。もっとも、それを得るには、それに見合う行いが必要ではあるが。

46.

律法と教えの意義は、あなたがたに私の真理を認識させ、至高の完全性であるその神にふさわしい存在となれるようにすることである。（267, 53）

47.

あなたがたは、「わたしの像姿」として創造されたことを知っている。しかし、そう言うとき、あなたがたは自分の肉体の姿を思い浮かべている。わたしは言う、わたしの像姿にあるのではなく、あなたがたの魂の中にあるのだ。その魂は、わたしに似るために、徳を実践することによって完全とならなければならない。

48.

私は道であり、真理であり、命であり、正義であり、善である。そして、これらすべては神から出ている。さて、あなたがたが「私の像と姿」となるために、どうあるべきか、今や理解できるか。（31, 51-52）

49.

あなたの内には神性の反映があり、私はまことにあなたの内にいる。あなたが持つ性、意志、能力、感覚、そして美徳は、あなたが属するより高い本質を証し、あなたがそこから生まれたの生きた証である。

50.

時として、不順と罪によって、あなたがたは自分の本質の中に私から受け継いだ像を汚し、辱めている。その時は、あなたがたは私に似ていない。なぜなら、創造主の像にあるためには、人間の肉体に魂を持っているだけでは十分だからである。
私の真の類似は、あなたがたの中に、すべての隣人に対する愛の中にあるのだ。（125、23-24）

51.

わたしはあなたがたを「わたしの像姿」として創造した。そして、わたしが同時に三位一体であり、かつ唯一であるように、あなたがたの中にも同様にこの三位一体が存在する。

52.

あなたがたの物質的な体は、その完全な造り、調和のために創造主を讃えている。あなたがたの受肉した魂は、人間世界で愛の福音を広めるために人となった言葉の具現であり、あなたがたの霊は、聖霊の神聖な光から放たれる輝かしい火花である。（120、11-12）

53.

もしあなたの魂が、意志も理解もない肉体の中で働いていたとしたら、そこにどのような葛藤があるだろう。魂と肉体との間の闘いは、力の対決である。そこにおいて、魂は自分の優性と魂の偉大さを証明しなければならない試練を見出すのである。
それは、魂がしばしば瞬く間に世界が肉を通して持ち込む誘惑に屈してしまう試練である。これらの誘惑が魂に及ぼす力はそれほど大きく、ついには、超越的な悪の力があなたを滅ぼそうとするかぎりなく、情欲の中であなたを溺れてしまうかのように感じさせてしまうほどである。

54.
神の前における罪責は、なんと大きいことか！肉体はこの責任を負わされはしない。死期が来た時、肉体が永遠の神の眼前に立つのを見よ。いったい、あなたがたは物質界、今生きているこの場よりも、より完全な住まいに住むふさわしい魂となるのだろうか？
55.
この世は、虚栄と高慢、そして偽りの偉大さをすべてあなた方に差し出している。しかし、こうした虚栄を乗り越えることを恐れは、来世において別の対応をすることを余儀なくされている。（3, 9-11）
56.
生命は、肉体よりはむしろ魂の中に現れるべきものである。この世に生きている者は多いが、霊的に生きている者、すなわち、すべての人間存在する源、創造主が人間に宿したその理想性を実現した者はいかに少ないことか。
57. もし人が精神の透徹力を得ることができたなら、それによって自分の過去、現在、そして未来を見通すことができるだろう。
58. 精神は私の「神の言葉の書」に記している。そこにはなんと多くのものが含まれていることか！
精神を通じ、あなたがたの理解力を明かしようとしている――時にはあなた方は理解できないほど深遠な啓示でも。
59.
すべての人間存在のそれぞれに、人間霊と結びつく絆があり、彼をあの世の父なる神と接触させるものである。（101, 37-40）
60. ああ、もしあなたがたの物質的な目が、霊の感覚を通して受け取るものを理解することができたら！
なぜなら、たとえ肉体のその物質的な目がいかに感じやすくても、霊は決して見抜くことのできないからだ。いったい、あなたがたはどうやって霊を理解できるようになるのだろうか。（166, 11）
61.
人生を「謎」と言って憂えるあなたがたが、人間における精神の重要性を認識せず、また精神に導かれることなしに真の価値を見出すことは決してないだろう。
62.
魂が獲得しその情熱を注ぐに値する、より高次なレベルにおけるものは、まさに霊である。もしあなたがたが霊を実現することができれば、神の偉大な愛を感じ取ることができるだろう。そうすれば、あなたがたは父の意志を理解し、その美しさを目にし、その啓示を見出すだろう。そして、私たちがそれを「生」と呼ぶものがあるようになるだろう。
63. この教えを知り、理解した後、それが真実ではないと言って、あえてこれを拒む者がいるだろうか。
64.
あなたがたが、自分の真の価値は精神にあることを理解すれば、父が創造したすべてのものと調和して生きることとなるだろう。
65.
そうすれば精神は、人間の生活を美しく彩るだろう。しかしその前に、人はまず、あらゆる罪悪、あらゆる誘惑に背を向け、正義と善の道を歩まなければならない。そうしてはじめて、あなたがたにとって真の生活がはじまるのだ。それは、今あなたがたが無駄に見ている生活である。なぜなら、あなたがたは自分が何を殺しているのかを知らず、その完全さについての概念を持っていなかったから。（11, 44-48）

人間の中にある神の概念

66.
人類が私に対して抱いている疑惑は多い。なぜなら、私が永遠であることを、彼らは深く理解することができないからである。準備のできている者にとっては、私は目に見え、触れられ、至る所に存在している。しかし、物質主義によって心が硬くなってしまい、感受性を失った者にとっては、私が存在することを理解するのは難しく、私に触れられるほど近くにいても、なかなか私を感じたり見たりすることは不可能であると感じてしまう。

67.
人は自分の神秘を宿していること、自分の魂と精神の光の神に、神性の純粋な源を持っていることを知らなければならない。（3, 50-51）
68.
現世の人を押しつぶすような苦しみは、彼が気がないうちに一歩一歩、内なる聖域の門へと導いていく。その門の前で、彼はそれ以上進むことができず、こう問うことになるだろう。「主よ、あなたはどこにおられるのですか？」そして、神殿の内側から、自己の至福で満ち満ちた声が聞こえ、彼にこう告げるだろう。「私はここにいる。私がいた場所――すなわち、あなたの精神の中に。」（104, 50）
69.
あなたがたは、わたしの神生まれたものである。霊的な命と物質的な命は、父から授かったものである。そして端的に言えば、あなたがたがわたしの神生まれたその同時に、わたしもまたあなたがたの神生まれたのだと言うことができる。
70.
私はあなたがたの霊の神生まれ、あなたがたの成長と共に育ち、あなたがたの愛行の神に完全に現れる。そうして、あなたがたが喜びに満ちてこう言えるようにするのだ。「主よ私と共におられる。」（138, 68-69）
71.
今日、あなたがたはまだ幼い生徒であり、私の教えを常に正しく理解できるわけではない。しかし、ひとまず、心に想いを込めて神に語りかけなさい。そうすれば神はあなたがたの存在の最奥部から答えてくださるだろう。
あなたがたの霊の中で語られる神のメッセージは、明瞭で、賢明で、愛に満ちた声であり、あなたがたはそれを第六感と見なし、やがてそれに慣れていくことになる。（105, 47）
72.
私はこの「第三の時代」において、弟子たちの心の神聖霊教会を築き上げる。そこには、創造主なる神が「第一の時代」に人間となられた神、無限の愛を持つ神が住まわれる。
神はあなたがたの内に生きておられるが、もし神を感じ、その崇高な響きを聞きたいと願うなら、内面に備えなければならない。
73. 善行者は、内なる私の臨在を感じる。謙虚な者も、また、あらゆる徴を五感と見なす者も同様である。
74.
あなたがたの神は、聖霊の神殿が存在する。この領域は破壊不可能であり、それを汚すことのできる試練などは存在しない。それは人間の目には見えず、触ることもできないが、その神聖なるものは、善の神の現れという確信である。
そのドームは、父が神性を授与するものであり、聖霊の愛である。なぜなら、私の扉に招く者は皆、天の国の心に触れることになるからだ。
75.
弟子たちよ、ここに、聖霊教会に生きる真理がある。それは、あなたがたが誤った解釈によって迷い込む者たちの一員とならないためである。石で造られた教会は単なる象徴に過ぎず、それからは石しか残らないであろう。
76.
わたしは、あなたがたの心の祭壇上の炎が常に燃え続け、あなたがたが自らの行いによっていつの日か偉大な聖堂が築かれるべき基礎を築いていることを知ることを望む。
私は様々な方法ですべての人を結集させ、彼らに働きかけている。なぜなら、私はすべての人を私の神殿の建設に参加させるつもりだからである。（148, 44-48）

第3章 夫と妻、親と子、結婚と家族

1.
あなたがこの地に来る前から、私はすであなたの生き様を見ていた。そして、あなたの人生の解答を与えるために、私はあなたの道にその愛によって道標を打ち立てた。この愛は男性のものであり、女性のものでもある。
それによって、私はあなたを助けたり、それを必要とする者たちにとって、信頼と道標となり、そして絶対の支えとなるようにしたかったのだ。（256, 55）

2.
父なる喜びを、あなたは分かち合いたかった。そこで私はあなたを人間の親とし、あなたはその存在を形作り、私があなたに送る魂が生まれる器となるようにした。神聖かつ永遠なるものの中に母性の存在するように、
、私は人間の姿の中に、それを体現する存在があることを望んだ。そして、その存在にその女性である。

3.
初めに人間という存在は二つに分けられ、こうしてこの世が創造された。一方は男性、もう一方は女性である。男性には、知性、威厳が、女性には繊細さ、優雅さ、美しさが備わっている。一方は種、もう一方は肥沃な地である。
ここに、互いに結ばれて初めて、完全であり、完璧であり、幸福を感じることができるこの存在を見よ。その調和の中で、彼らは一つの肉となり、一つの意志となり、一つの理想を抱える。

4. この結びつきが霊に導かれたものであるとき、それは結婚と呼ばれる。（38, 29-31）

5. まことに、私はあなたがたに告げる。この時代、男女はその道から外れている。

6.
私は、義務果たさぬ男たち、母となることを避ける女たち、そして、古くから「男性の頭である」と言われていたにもかかわらず、男に定められた領域に踏み込む者たちを見せよ。

7.
それゆえ、女は自分を卑しいものと感じるべきではない。なぜなら、今、わたしはあなたがたに、女は男のしもべであると告げるからである。

8.
見よ、それゆえに、私は結婚を定め、聖別したのだ。なぜなら、霊においては等しくあるが、肉体においては異なるこの二つの存在の結合の中にこそ、完全な統一が存在するからである。（66、68、69）

9. 愛をもって神の律法を全うし、平和と光と調和の道に生きようと努める者は、しかし少ないことか。

10.
人が歩んできた道のりは非常に長い。しかし、彼らはいまだに、人生において、ごく限られた範囲でしか禁断の果実を食べることを許されている。禁断の果実とは、神が創造されたゆえに本来は良いものであるが、人間が分に満ちることを知らず、あるいはそれを濫用するならば、有害となり得るものである。

11.
男女は、準備もせずに生命の果実を受け取り、地上に新たな存在を誕生させる際、創造主に対する自らの責任を認識していない。（4, 12-14）

12.
ある人がわたしに尋ねた。「主よ、人間の愛はあなたにとって許しがたい忌まわしいものであり、あなたは霊的な愛のみを認めるのですか？」

13.
いいえ、民よ。確かに、愛の最高責任は精神と感情と霊にふさわしいものだが、私は人間の体も心も創造し、その心が愛するように、また感情をも与えた。それは、その感情を通して、心が周囲にあるすべてのものを愛するようにするためである。

14.
その源が肉体のみにある愛は、理性なく存在し、特有のものである。彼らには、その道標となる良心が欠けているからだ。さらに、私はあなたがたに告げる。善き結びつきからは常に善き実が生まれ、それはその魂を浄化するであろう。（127, 7-8, 10）

15. 私は、あなたがたに超人的な精進を求めているのではない。
私は、私だけために、男性にも女性にも「男性であってはならない」と求めたこともなければ、霊性を発展するために、女性にも「女性であってはならない」と求めたこともない。私は、夫をその伴侶から引き離したこともなければ、彼が私に奉仕できるように、彼をその妻から遠ざけたこともない。また、私だけために、両親に子供たちを捨てよ、あるいは出家せよと言ったこともない。
16.
私が彼を「このような例外人」としたとき、彼一人ひとりに、私のしもべとなるために人間であることをやめる必要はなく、それぞれ、神のしもべ、世のしもべ、それぞれであることを理解しなければならないことを、私は明かした。（33, 55-56）

男性の役割

17.
わたしはあなたがた男性に、一つの違った一つの役割、すなわち愛し、世話をするために託された妻たちを与えた。それにもかかわらず、あなたがたの伴侶はわたしのところに来て、あなたがたの無理解を嘆き、わたしの前で泣き叫んだ。
18.
わたしは、あなたがたは強く、「わたしの姿似姿」として造られたのだと言った。しかし、わたしはあなたがたに、女性を辱め、彼女を奴隷にするよう命じたわけではない。
19.
私は、あなたがたが家庭において女性を支配できるよう、あなたがたを強くしたのだ。徳において、能力において強し、また、この地の生活において補助として、伴侶として女性を与えた。それは、互いの愛の中で試練を乗り越え、運命の方向性を見出せるようにするためである。（6, 61）
20.
男性たちよ、よく考えてみよ。多くの場合、あなたがたこそが、高潔な女性たちの繊細な弱い部分を探し出し、その罠に陥らせてきたのではないだろうか。しかし、かつては盲目であったが、今、目覚めてしまったその霊眼を、あなたがたは再び彼女たちの魂の清らかさと美しさを映し出すように導かなければならない。
21. なぜ、かつてあなたがたが堕落した生活へと誘い込んだ者たちを、今日になって軽蔑するのですか。なぜ、女性を堕落させるのですか。もしあなたがたが、彼女たちを心と精神、敬意と隣人愛の通じあう私の律法の道へと導き、彼女たちを単なる遊びではなく、高潔な愛をもって愛していたならば、泣いたり嘆いたりする理由はどこにもなく、彼女たちを捨てることもなかったのだということを理解せよ。
22. 男は女に美徳と美しさを求め、それを期待する。しかし、なぜあなたがたは、自分たちが値しないものを求めるのか。
23.
あなたがたは、実際にはほんの少ししか持っていないにもかかわらず、依然として大きな功績があると思い込んでいるようだ。あなたがたが嫉妬してしまったものを、行い、言葉、そして思いによって再び築き上げ、高潔さ、道徳、そして美徳、それらが本来持つ価値を認めてあげなさい。
24.
男性たちよ、あなたがたのようなものならば、イエスの救いの業を助けることとなり、善良な妻、高潔な母たちによって家を尊ばれているのを見るとき、あなたがたの心は喜びで満たされるだろう。美徳を失ってしまった者たちが、それを取り戻してくるのを見るとき、あなたがたの喜びは大きなものとなるだろう。
25.
救いはすべての人に与えられる。なぜ、最も大きな罪人でさえ救われないというのか。それゆえ、私はあなたがたに言う。あなたがたが嫉妬と空虚さに満ちた人々を救うために、私と共に働け。私の教えの光をもって、彼らに新たな希望を与えなさい。
私の愛で満たせ。彼らの心と魂に届くようにしなさい。刑務所、病院、さらには娼家のような場所へさえも、私のメッセージを届けてやりなさい。なぜなら、そこでは、世界がその誘惑をもって彼らを滅ぼそうと襲いかかり、自分たちが十分強くなかったことを悔み、痛みを覚えて泣いているのだから。

26.
すべての女性かつて子供あり、かつ処女であった。それゆえ、あなたがは共感をもって彼女たちの心に届くことができるだろう。
27.
私は、これの難儀を引き受けることのなかった男たちを用い、彼らにこの任務を与えた。私が「あなたがの行いによって、あなたがは救われる」と言ったことを思い起こせ。地の姿を通して、魂が語るようにせよ。
28.
しかし、私がその存在に宿る愛しさを尊重しようとしなかった者たちは、こう言おう。あなたがが感じているのは愛ではないのに、なぜ愛していると言うのか。なぜ他者を傷つけるようなことをし、それを止めるものがないのか。
考えてみなさい。もし、あなたががあの散果てたにしていることを、あなたがの母や姉妹、あるいは愛し、それゆえ尊重している妻に対してされたとしたら、あなたがの心はどのような思いを抱けるだろうか。あなたがは、これほど多くの愛をもって育ててくれた両親に、自分たちがそれに傷ついて一度でも考えたことがあるだろうか。
29. 良心の光のもとで、真の誠実として自分の心に問いかけてみなさい。時間をかけてもいいから、答えを受け取ることができるだろうか、と。
30.
もしあなたがが純粋な魂を傷つけ続けるなら、未来の生活のための準備をしているのか。どれほど多くの人が、あなたがの犠牲となるのか。あなたがの結末はどうなるのか。まことに、われはあなたがに告げる。あなたがは、憤怒の嵐の中で多くの人を犠牲にしてきた。その中には、現在に属する者もいれば、過去に属する者もいる。
31. 私は、不誠実な関係であっても心と心が、真実と清らかな愛の関係となることを望む。
32.
言葉と模範によって隣人の道標となり、堕ちた女性たちの救い主となれ。ああ、もしあなたが一人ひとりが、せめて一人でも救うことができれば！
33.
その女性について悪を言ってはならない。なぜなら、誰かを傷つける言葉は、それを聞くすべての人を傷つけることになるからだ。その瞬間から、彼女もまた悪意ある人となってしまうのだから。
34. 他人の行いや秘密を尊重しなさい。それを暴くのは、あなたがの役目ではないのだから。
罪によって倒れた者が、私利私欲からはやっているような男たちの方が、清らかさを装いながら罪深い偽善者たちよりも、私はねたましい。私は、偽りの徳を装うことよりも、たとえ罪人であっても誠実な者を好む。もしあなたがが身を飾るものなら、それは誠実という究極の衣であれ。
35.
もしあなたがが、高慢に対する純真な女性を見つけ、彼女を愛しているにもかかわらず、自分にふさわしくないと感じて近づくことをためらったとして、その結果、彼女を辱め、中傷し、その後、苦しみや悲しみ、自分の過ちを語って、慰めを求めて彼のもとへ戻ろうとしても、彼女の扉は閉ざされ無駄である。
36.
もし、一人の男性の人生において傷を果たしたすべての女性が、その男性から愛や尊敬、理解の言葉や感情を受け取っていたならば、あなた方の世界は、今のような罪深さには陥っていなかったろう。（35, 18-32）

女性、妻、そして母

37.
女性たちよ、あなたがたこそ、祈りによって地上に存在するすべての平和を守っている者たちである。家庭の聖なる砦として、そこに愛と温もりが欠けることのないよう配慮している者たちである。このようにして、あなたがたは母マリアとつながり、人間性を守る者たちである。（30, 53）

38.
女性たちよ、あなたがたは涙とこの世の道を需し、血にこの人生の歩を刻んでいる。私のもとで息し、新たな力を得、引き続き私と地上であなたがたに託した家の愛告、かまどの火、強固な台であり続けてほしい。そして、これからも、夫と子供たちをその翼で覆うものであり続けてほしい。私はあなたがたを祝福する。
39. わたしは男性と、男性の右に立つ女性の地を高めます。わたしは結婚を聖別し、家族を祝福します。
40. この時、私は愛を持ってやって来る。かつて人間によって歪められてすべてのものを正すために。（17, 29-31）
41.
まことに、あなたがたは告げる。人間の刷新は女性からはじまらなければならない。そうしてこそ、明日の人間となるその実が、あなたがたを真実へと導く光の内に創造されるのである。
42.
その後、この回復業、自分の役割を果たすのは、男性たちの務めとなる。なぜなら、女性を堕落させる者は、その女性を再び立ち直させなければならないからである。
43.
今日、私はあなたがたに、その道でまずた女性を救うよう促した。そして、あなたがたが救ったその女性を私の前に連れて来れば、私は彼女に祝福を、そして限りない安らぎを与え、二度と倒れることがないようにする。
44.
あなたがたがこの任務をこのように果たすならば、この世によって傷つけられた者たちは、イエスの愛、彼の心に触れるのを感じるだろう。
45.
彼が祈りの中で私にこう言うのを、私は聞くであろう。「父よ、私の罪を見ないでください。ただ私の痛みだけを見てください。私の堕落を裁かず、ただ私の苦しみだけを見てください。」
その瞬間、その苦しむ心の扉が開かれ、涙によって清められるだろう。もしあなたがたが、自分を義であり清いと思い込んでいる高慢な者の祈りよりも、罪の祈りの方がより強く感じられることを知っていたなら。（35, 16-17, 43-45）
46.
私があなたがたに命を与えたその愛について、人はまだわずかしか認識や体験が示していない。あらゆる人間の感情の中で、神の愛に最も近いのは母愛である。なぜなら、そこには無償の、自己犠牲、そしてどんな犠牲を払おうとも子供を幸せにしようとする努力があるからだ。（42, 39）
47.
不妊の女性たちよ、師はこう告げる。あなたがたは、自分の体内の浪となることを切願し、懇願し、ある晩ある朝、自分の内から幼い心臓の鼓動が聞こえることを望んでいた。
しかし、月日は過ぎ、あなたの胸からは乳だけが溢れた。なぜなら、あなたの腕に子供がなかったから。
48.
私は言う、あらゆる希望を将来によって奪われてしまったあなたがたのうち、どれほどの人が、私の名において、この務めを通して多くの人々を私を認めるようになるために、実ある者とならなければならないことか。目を覚まし、恐れなさい。私の言葉を忘れるな！（38, 42-43）

子供と青少年の教育

49.
家族の父たちよ、過ちや悪い手本となるような行いを避けなさい。私はあなたがたに完璧を求めているわけではない。ただ、子供たちの愛と配慮を求めているのだ。心安らかでありなさい。あの世では大勢の魂たちが、あなたがたの間に人間となる特別な恩恵を望んでいるのだから。
50.
私は数だけでなく徳においても増加し、増殖する新しい人類を望んでいる。そして人が約束の地を目にし、見届け、その子供たちが新エルサレムに住むことができるようにするためである。

51. 私は、愛の果実である善意の人々で、この地が満たされることを望む。
52.
この時のトルとキラを滅ぼしなさい。あなたがたの心が彼らの罪に慣れることを許してはならず、また、彼らの住民のようになってはならない。（8、44-47）
53.
熱心に子供たちに道を示し、霊と物質の混沌を避けるよう教えなさい。もし彼らがそれを嫌がるなら、叱りなさい。なぜなら、親であるあなたがたは、地上でその代表であるのだから。
そして神の律法、すなわち変容律法を維持するために、聖なる怒りに満ちてエルサレムの商人たちから永遠の教訓を与えたイエスのことを思い起こしなさい。（41, 57）
54.
今日、あなたがたはお互いではなく、私の教えの真意を理解することができる。また、あなたがたの魂は、今持っている肉体と同時に生まれたわけではなく、一方が他方の起源ではないことを知っている。
あなたがたが抱く幻滅感は、その心無さを責めているが、その魂の神は、時に親それより先長く、そして悲惨な過去を経ている。それの成長の道において進歩を遂げるよう、それを育むべき者たちの責任は、なんと大きなものであろうか。
55.
それゆえ、子供たちに対して愛に満ちた目で見なさい。あなたがたは、彼らが誰であるか、また何をしたかを決してはならないということを心得よ。むしろ、彼らに対する配慮と愛をもって、あなたがたを霊性と進歩の道において助言者とするために、その機会をあなたがたの神に感謝せよ。あなたがたは、彼の肉体と血肉に関して、一時的に親となっているのだから。（56, 31-32）
56.
私は、教師たちにこう言います。子供たちの物質的な将来を配慮するのと同様に、彼らのこの点に関してこの世に持ち込んだ資質に基き、子供たちの霊性の将来にも気を配るべきと。（41, 64）
57.
魂は転生する際、そのすべての能力を携えてくるものであり、その運命はすでに定められており、したがって、この世で新たな力を受け取る必要はないことを知れ。魂は、あるメッセージ、あるいは特別の課題を携えてくるのである。
時には良い種子を、またあるときには毒麦を播くこともある。しかし、この人生において、魂は常に神から与えられる愛の教訓を受け取るのである。
58.
子供たちをこの人生において導く者たちよ、子供らしい無垢さの時が過ぎ去り、彼が私利私欲の道を歩もうと心掛けなさい。
彼の感情を呼び覚まし、彼の能力を明かし、常に善へと彼を
導きなさい。まことに、私はあなたに告げる。あなたがたのように私へと導く者は、私愛であるあの神聖な泉から放たれる光に満たされるであろう。（9, 64-65）
59.
霊性は、あなたがよりも長い道のりを歩んできた。そして今、新しい世界が幼児から示している直感の鋭さに、あなたが驚いているなぜなら、彼は多くの経験を経て、今、人類の前進をもたらすために戻ってきた魂だからである。ある者は霊の道で、またある者は地の道で、それぞれの能力と使命に応じて。
しかし、彼らすべてにおいて、人はおなじ姿を見出すであろう。私があなたがたに語っているこれらの存在たちは、あなたの子供たちとなるのだ。（20, 14）
60.
堕落していた悪に満ちた他の人々という悪い手本を前にして、その生き方に従わないことは、子供にとって過ちと考えてしまうか。それとも、子供は親に従うべき義務があると考えてしまうか。
61. まことに、私はあなたがたに告げる。良心と理性が、あなたがたを正しい道へと導くべきものである。（71, 33-34）

62.
祝福された無垢は世の堕落に染まってしまっている。若者たちは老人のような速さでその道を突き進み、処女たちでさえも、善心、貞操、そして品位を失ってしまった。これらすべての美徳は彼の心から消え去ってしまった。彼は性的な情欲を育み、自己を破滅と享楽とに没頭している。

63. 私はあなたがたに、魂の救いに向けて確かな歩みを踏み出すことができるように、はっきりと語っている。（44, 48）

64.
若者たち、隣人への愛に燃え上がりなさい。彼らに偉大で高潔な理想をもちなさい。なぜなら、正義、愛、そして精神に満ちた自由に輝くような存在を実現するために、明日、戦っていくのは若者たちからである。準備しなさい。予言に語られた大きな戦いは、まだ来ていないのだから。（139, 12）

子供たちと女たちの召集

65.
子供たちの魂、あなたがたは皆、私の神秘のメッセージを持っている。私が創世記の話においてあなたがたに人間の誕生をもたらしたのは、彼があなたがたの体の命をもち、あなたがたの死をあなたがたのそばに持ち込むためであった。
わたしはあなたがたに、「あなたは、すべての被造物より先に神を愛さなければならない」と言い、さらに「あなたは父母を敬わなければならない」と付け加えた。だから、あなたがたの義務はそれだけではない。もしあなたがたが両親を愛し感謝して認めてくださったとしても、彼らがまだこの世にいるなら、彼らを祝福し、その功績を認めなさい。（9, 19）

66.
この日、私はまた、明日、その存在によって新しい家庭の生活を照らさなければならない少女たちに語りかける。妻としての心と母としての心は、霊的な光線を照らすように、その暗闇を照らすためであることを彼女たちは悟るべきである。

67.
新しい生活を始めることのないよう、今からその準備をしておきなさい。今から、子供たちが良い道を歩むようにしておきなさい。彼らは、ある使命を果たすために、形と人間の命を受け取り、あなたの胎内に近づき来ているからである。

68. 私の回復の計画において、私の訴えと正義の業において、私の協力者となりなさい。

69.
この時代、あなたの歩みを待ち伏せている多くの誘惑から身を守りなさい。多くの女性が滅び、多くの聖域が冒涜され、多くの魂が消えゆく、罪深き都市のために祈りなさい。

70. あなたがたの模範を通して、人類はおお霊性の欠如がもたらす飢餓を癒し、命に真理と光の種を蒔きなさい。

71. この民の女たちよ。目覚め、戦いの準備をせよ。心の清潔によって盲目となってはならない。虚構、惑わしではならない。直感、霊感という賜物、そして感受性を磨き、強化しなさい。真理の中で強くなれば、この人生の戦いに立ち向かうための最良の武器を手にしたことになる。

72.
あなたがたの血を通して愛を伝え、私がこれまで多く語ってきた愛、すなわち生命の贈与をもって子供たちを支えるためには、まずあなた自身がそれを体験し、それに感受性を深く感じなければならない。これこそが、私の教えがあなたがたの心に成し遂げようとするものである。（307, 31-36）

結婚と家族

73.
結婚の神秘は、先祖たちの霊を通して語られた光として示された。それは、男女の結合が創造主との契約であることを彼らが悟るためである。この結合の果実は子供であり、そこには両親の血が一つに流れ合っている。これは、神の前で結ばれたものは、地上で解かれてはならないという証である。

74.
父と母が子を産むとき感じるその幸福は、創造主が、その深く愛する子供たちに命を与えることによってもたらされたときに経験されたものによく似ている。
後に私がモーセを通して、あなたがたが律法を学ぶことを望んだ、隣の妻を欲しがらないようにと律法を与えたのは、人が、自分の自由意志によって姦淫の情欲の道に迷い込んでしまうからである。
75.
その時から過ぎた後、私はイエスとしてこの世に生まれ、常に愛する律法である私の教えに満ちた教えによって、結婚しては間違った道と徳を高めた。私は、私の言葉を忘れることのないものにするためにと考え語り、結婚を聖なる制度とした。
76.
今、私は再びあなたがたの間にあらわれ、私は男のあなたがたに問う。あなたがたは結婚を何としてしまったのか。これに満足のいく答えを返せる者はいかに少ないことか！
私の聖なる制度は廃れ、その命の泉からおびただしい膿が噴出している。この律法の書物の純白の紙には、男による汚れと痕が残されている。甘くあるべき実りは苦く、人が飲む杯は胆汁に満たされている。
77.
あなたがたは私の律法から遠ざかり、つまずくたびに、恐れ怪しみ自問する。『なぜこれほど多くの苦痛があるのか？』と。それは、肉の欲望が常に良心の声を無視してきたからだ。今、私はあなたがたに問う。私の幸せになるために必要なすべてを与えたにもかかわらず、なぜあなたがたには平安がないのか？
78.
わたしはあの箱舟を造り終えた。それは、あなたがたがその中に閉じ籠もり、世の憂鬱と悲しみから遠く離れて、鳥のような素早さをもってそこに暮らせるようにするためである。なぜなら、その箱舟と調和と祈りの中にあってこそ、わたしの御国の平安と、多くの祝福の啓示を感じることができるからである。
79.
私の神聖な前で結婚の誓いをした者たち皆――たとえその結びが聖職者によって承認されていなくとも――私との誓約を結んだのである。それは、あらゆる運命を記されている神の書に永遠に記されるためである。
80.
いったい誰が、そこからこの耳に絡み合う名を消し去ることができるだろうか。いったい誰が、この世において、わたしの律法によって結ばれたものを解くことができるだろうか。
81.
もし私があなたがたを離縁するならば、私は自分の業を破壊することになる。もしあなたがたが地で結ばれるよう私が願い、私がそれを成したのなら――なぜその後、あなたがたは誓いを守らず、誓いを裏切るのか？それは、私の律法と私の名に対する侮辱ではないのか？（8、32-37、39-41）
82.
私は、心の中に清らかさを保つことをせず、また伴侶や子供たちに愛と理解の温もりを与えることのできなかった女性、すなわち母であり妻である者の心に語りかけた。
83. 男が、まず人間の中に存在する重大な過ちを正さなければ、どうしてその魂の救いを高めることができようか。
84. 私の業は、弟子たちが、その発言および行動の調和と真実さを通して、それを証することを求めている。
85.
どちらの者も、私は問う。あなたがたに子供がいるならば、彼らに注意を向けよ。たとえ一瞬でも彼の涙を見ることができるなら、あなたは彼の親を責める値打ちなどないと感じるだろう。彼らに悪い手本を見せてはならない。子供たちの面前で怒鳴り散らすことなど、決してしてはならない。

86.
私は、この時代、かつてないほど夫婦間の問題が生じていることを知っている。当事者たちがその解決策として見出すのは、別居か離婚という一つの道だけである。
87.
もしも霊性の智慧を十分に持っていれば、これほど重大な過ちを犯すことはないだろう。なぜなら、祈りと霊性の高まりの中に、最困難な状況の解決や、最厳しい試練を乗り越えるためのインスピレーションを見出すことができるからだ。
88. 私の光は、悲しみに暮れ打ちひしがれている人々の心に届き、彼らに新たな生きる勇気を与えるのである。（12, 36-42）
89.
「第二の時代」において、私はモーセの律法に従って結婚した多くの夫婦の家に入ったが、私が彼らの多くをどのように見つけたか、知っているか。彼らは争い、平和と愛と信頼の欠如に悩んでいたのだ。私は、彼らの心の中に、食卓の上、そして寝室の中で、敵意と怖れを見た。
90.
また、私は、法律によって結婚証明書が与えられてはいなかったものの、ヒバの巣の中でそうするように愛し合い、暮らし、愛し、子供を慈しみ、守っている多くの人々の家にも足を踏み入れた。
91.
同じ屋根の下にいながら、互いに愛し合っておらず、愛し合っていないのに一つに結ばれており、精神的に傷ついている人々が、どれほど多いことか！しかし、彼らは神の前や人間の法律、あるいは教会の掟に縛られて、その絆を断ち切らない。だが、これは結婚ではない。こうした人々は、共に住んでいても真実の夫婦ではない。
92.
それにもかかわらず、彼らは離婚の申し立てをし、家族や教会を離れ、散り散りになる。そして、愛の欠如を隠すため、世間は彼らを非難しない。それに対し、互いに愛し合っているにもかかわらず、身を隠さねばならず、真の結婚を求め、無理解や迫害に耐えなければならない人々が、どれほど多いことか。
93.
人間は、他者の人生を見抜き、正しく判断できるほどには十分に発達していない。霊的および肉体的な法律の権威を握っている者たちは、そのような事柄を処理するために、真の正義を適用していない。
94.
しかし、私があなたがたに告げている人類完成に至る理想の時代は必ず来る。その時、あなたがたは、モーセ前の族長の時代のように、愛し合う者たちの結合が、今日私が予言して行くのと同じように、すなわち霊的方法で行われるのを目撃することになるだろう。
そしてあなたがたはまた、その未来の時代には、結ばれる者たちの両親、友人、親族の面前において、最高の霊性、兄弟愛、そして喜びのうちに、それを行うようになるだろう。（57, 25-27）

第4章　自由意志と良心

良心と自由意志の意義

1.
聞け、弟子たちよ。人間は精神的存在として自由意志と良心を持っている。すべての人類を通じてこの世に生まれ、それを活用することができる。彼の魂の中には良心がある。しかし、肉体の発達とともに、情熱や悪しき傾向も発達し、それは良心に対する
2.
神はそれを許しておられる。なぜなら、闘いなくして勝利は生まれず、それゆえ、あなたがたが霊的進歩を勝ち取るためには、これが必要か

らである。もし神の子供たちが闘わなければ、その功徳は何になるだろうか。もしあなたがたが、この世を眺めているように、幸福に満ちて生きていたとしたら、何をするだろうか。
快適と富に囲まれて、霊的な進歩を期待できるだろうか。あなたはだらけてしまうだろう。なぜなら、戦いがないところには功徳はないからだ。
3.
しかし、誤解してはならない。私が「戦い」と言うとき、それはあなたがたが自分の弱い情熱を制御するために繰り広げる戦いを指しているのだ。私が闘う戦いはこの戦いだけである。それは、彼が自己中心的な物質的な盛衰を通して、魂の霊によって照らされて、その真の座を占めるためである。
4. 私はこのような闘いを是とするが、野心と悪意に駆られ、自己顕示欲から人が繰り広げる闘いについては是としない。（9, 42-44）
5. 魂は肉体と進歩を成し遂げようと奮闘する一方で、肉体は繰り返し世の誘惑に屈してしまう。しかし、魂と肉体は、両者が互いから自分に許された分だけを受け取るようにすれば、互いに調和しうる。これこそが、私の教えがあなたがたに示していることである。
6.
どうすればいつでも私の律法を実践できるだろうか。それは、あなたの行いの裁き手である良心の声に注意することによってである。私は、あなたが果たすことのできないことを命じることはない。私は、幸福の道は空想ではなく、実在するものであることをあなたがたに確信させたい。そして、その道を歩む方法を、ここであなたがたに明かす。
7.
あなたがたには道を選ぶ自由があるが、父としての私の義務は、真実で、最短の道――すなわち、私があなたがたに抱く愛という神の台の光で常に照らされている道――を示すことである。なぜなら、あなたがたは、自分の所有物であるものとして、信仰を生きいきとさせる、常に新しい言葉を聞きたいと渇望する弟子たちだからである。(148, 53-55)
8.
私は、良心が善と悪を、そして正しいことと不正なことを区別することができるように、それがあなたがたのすべての道を指し示すよう、良心をあなたがたの存在の中に置いた。このようにすれば、あなたがたは欺かれることも、無知であると言われることもないだろう。
真理を知っているスピリチュアリストが、どうして隣人を欺いたり、自己を欺こうとしたりすることができようか。（10, 32）
9. 地上の人は、私の愛と正義によってその行為を支配される主であり、彼が初めから受け継いだ領地は、地上を治めることだった。
10. 私は、神から与えられた自由意志という贈り物と、その人生の道を照らすための輝く台、すなわち良心を置いた。
11.
行動する自由と、善と悪を見分ける良心の光は、私があなたがたの霊に遺したこの贈り物である。それは、人が生まれる前から、また死んだ後も、その人の中に存在する。
良心は人を導き、絶望の中にあっても、理性を失っても、死の苦しみの中でも、決して人から離れることはない。なぜなら、良心は精神と深く結びついているからである。（12, 32-34）
12. 魂は、救いを得るために功徳を積むべきであるという、意志の自由を与えている。
13.
許されることと許されないことを区別し、それゆえ迷わないように、魂にその自由な発展の道を横断して、誰の導きを指し示し、助言を与えるのか。それは良心である。
14.
良心とは神聖な光であり、よき導きであり、人の罪を正すよう助ける力である。もし良心が、人を善の道へと導くための物質的な力を持っていたとしたら、人にとって何の功徳があろうか。
15.
私が皆さんに知ってほしいのは、その声に注意し、その助言において決して誤ることなく、誤りなきと確信し、その指示に忠実であることこそが、功徳であるということだ。

16.
皆さんはきっとお分かりのように、その声をはっきり聞き取るには、訓練と自己の集中が必要です。今、この瞑想を実践しているかどうか自分自身に問いかけてください。
17.
良心は常に人間の中に現れてきた。しかし、人間はその光に人生全体を導かせるための必要な努力を払っていない。人間には法律、教え、規則、宗教、そして祈りが必要なのである。
18. 人が自分の精神とつながるに至るのは、外側に霊的なものを求めるのではなく、内側にそれを求めるようになれば、彼は自分たちの耳が傾けることなく常に自分たちの中に生きていた穏やかで説得力ある賢明で公正な声を聞くことができるようになり、霊の中に神聖なるあり、神こそが、人間の父であり創造主であるお方こそがその真の支配者であることを理解するようになるだろう。(287, 26-30)
19.
あなたがたは皆、自分の中に光の火花を持っている。すべての魂がこの恵みを持っている。しかし、ある人々においてはこの光がますます強くなり、増加し、自己を見つめやすくなっている一方で、他の人々においては、それは魂の奥に隠された無意識状態にとどまっている。
しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。人がどれほど霊に遠ざかっていようとも、善と悪を区別することは常にできる。それゆえ、あなたがたは皆、自分の行いについて私に対して責任を負うのである。
20.
あなたがの認識が深まるにつれて、その責任が増していくことを私は告げなければならない。なぜなら、そうすればあなたがたは良心の指示に対してますます敏感になっていくからである。（10, 69-70）
21. あなたがたは、この世のあらゆる被造物の中で霊と良心を授けられた最も恵まれた存在であることを知ってほしい。
私はあなたがたが自分の意志で私と共に正しい道を進むことができるよう、自由意志を与えた。私があなたがたに提示するのは、花咲く道ではなく、祈りと悔い改めと闘いの道であり、その道において良心があなたがたを導くべきである。（8, 42）
22.
もし精神が自由意志を奪われたら、どうなるだろうか。第一に、それはもはや精神ではなくなる。したがって、それは至高者のすばらしい被造物ではなくなってしまう。それはあなたがたが作り出す機械のようなもの、すなわち、独自の生命、知性、意志も、向上心すらないものになってしまうだろう。（10, 37）
23.
私は人間に自由意志を与えた。しかし、もし人間が迷いの中でそのことを私に懇願するまでに至るならば、私は彼に意志の力と知性を与えたのだと告げるだろう。
同時に、私は彼につまずいたり迷ったりしないための道である私の律法を示し、彼の内に良心の光を灯した。それは魂の道標であり、永遠の命へと導く私の石である。
24.
なぜ戦争が存在し、悪が優勢となり、戦争が発生するのか。それは、人間が良心の声に耳を傾けず、自由意志を悪用するからである。（46, 63-64）
25. 世界は私に聞き取れない。なぜなら、私が自己を見つめるために用いるこれらの内なる声は、その届く範囲がごく狭いからである。
それゆえ、人々に語りかけ、多くの人々を驚かせるのは、私の大いなる霊の声である。彼らは自己中心の騒音に惑わされ、その声の呼びかけには耳を貸さず、ただお話や物語などの声にばかり気を取られ、社会や物質主義に酔いしれているのである。（164, 18）

自由意志の活用

26.
今日、私は、自由意志という贈物を悪用した結果、霊的に孤立した状態の当事者になっている。私は、正義、愛、慈悲、善の道を選んだ。しかし、人間は、一見分かりにくいが、その道を創り出し、それが彼を破滅へと導いたのである。

27.
私の再臨の際、私の言葉は、あなたがたが歩もうとしないまさにその道を示してくれる。そして、この教えが、あなたがたに話させ、聞かせたいと望む者は、不正であり、理不尽である。（126, 5-6）

28.
人が互いに競い合い、憎み合い、犯罪、戦争、裏切りを繰り返す様を見よ。そこには、同じ構造となった数百万人ものいのちもあれば、悪の影響下で滅びゆくいのちもある。果たして彼の中に光はあるのか。果たして彼の中に在る霊は語っているのか。
そこにあるのは、闇と苦痛であり、それは自由意志という贈物の活用と、内なる声に従わなかった結果である。そして、人があなたがた全員の自分の様に、中に宿っている、あなたがたの良心という神聖な光線である。その神の光に目を向けなかったからである。（79, 31）

29.
自由意志は、人生の道において人間に与えられた自由の最高表現であり、最も完全な贈物である。それは、良心による指導と訓練という方向から、試練を通して得た善の結実が、父の喜びへと至るためである。
しかし、自由意志が取り違えられ、良心が無視されている。人はおおよその要求のみを追求し、霊生活の指導が取り違えられてしまった。

30.
これほど大きな混乱と多くの過ちを前にして、現代の人々は、私の教えに耳を傾けるだろう。しかし、私はあなたがたに告げる。それは、人が陥っている無気力から自己を救うために必要な、正しい教えであるのだ。（157, 15-16）

31.
わが言葉は道であり、あなたがたを父と導く神の法であり、魂を育てるパンである。しかし、その魂は、肉がその弱さで優先され、その霊のささやき声に従わなかったために、曇ってしまったのである。

32.
それゆえ、肉の満たし、周囲の世界の影響に支配され、指導としての立場を人間の意志に明け渡され、無情な存在へと取り替えてしまった魂は、哀れである。それは、風によって方向なく舞い散る落ち葉のようだ。

33.
自由を愛する人間は、神の御意志に従うことを恐れる。なぜなら、その御意志は最初に自分の精神を更新し、自分を害することをおそれ、多くの人間の楽しみを奪ってしまうのではないかと恐れるからである。こうして、彼は真の命へと導く道を離れてしまう。（97, 36）

34.
人が自由意志を、怠惰、卑しい情欲、敵意、復讐のために用いてきた時は、今終わりを告げようとしている。わたしの正義と罰の道は開かれ、それにより和解と融和の道は開く。それは、人が他の手段では決して探し求めてきた平和の道を、見出せるようにするためである。（91, 80）

35. わたしはあなたがた自由意志という贈物を与え、わたしの子供たちに与えられたその祝福された自由を尊重してきた。
しかし、私はまた、あなたがたの本質の中に、御霊の神聖な光を注いだ。それは、あなたがたをその光に導いて、自分の前に正しい方向へと向かわせるためである。だが、私はあなたがたに告げる。魂と肉体の戦いにおいて、魂は敗北した。それは痛ましい転落であり、それによって魂は、私である真理の源から、次第にますます遠ざかってしまったのである。

36.
その敗北は、決して最終的なものではなく、一時的なものである。なぜなら、魂は、その飢え、渇き、裸体の状態、そして闇にもはや耐えられなくなった時、深淵の底から立ち上がるからである。その苦痛にその魂が気づき、そして魂が御霊の声を聞いた時、魂は再び、輝かしく、熱き霊

感に満ちたものとなり、再びその能力を用いるようになる。
しかし、もはや善悪のためにそれを用いる自由をもってではなく、神の律法の成就のみにそれを捧げることであり、それこそが、あなたがたが私の霊に捧げ得る最善のものである。（57, 65-66）

良心の声に従うことの必要性

37. 物質的現世のためのみに生きている何百万もの存在たちは、現在、現実からどれほど遠ざかっていることか！彼らはどのようにして現実の王国に入ることができるだろうか？それは、良心の声に耳を傾けることによってのみである――その声は、聞こえるためには集中、省察、そして祈りを必要とする。（69, 16）

38. あなたがたが歩んでいる道が、正しき行為の道であるかどうかを知りたいときはいつでも、良心に問いかけるべきである。もし良心に平安があり、あなたがたの心が隣人への愛と善意で満ちているならば、あなたがたの光は燦然として輝き、あなたがたの言葉は慰めと癒しをもたらしていると確信できるだろう。

39. しかし、もしあなたがたが、自分の心に貪欲、悪意、物質主義、そして嫉妬を下宿させていることに気づいたなら、あなたがたの光は闇となり、期待と変わってしまうと確信してよい。ゆえにあなたがたを召される時、黄金の衣の代わりに、不名誉を着することになることを望むのか。（73, 45）

40. 弟子たちよ。もし過ちを誤りたくないのなら、良心の光に照らして自分の行いを吟味なさい。もし良心を曇らせるものがあれば、自分自身を徹底的に探りなさい。そうすれば、その汚点を見つけ出し、それを拭うことができるだろう。

41. あなたの内には鏡があり、そこに映し出された自分を見つめ、清いかどうかを見極めることができる。

42. 霊性主義者はその行いによって見分けられるべきであり、その行いは、清いものであるために、良心によって導かれたものでなければならない。そのような行動する者は、自分が正当な私の弟子であると名乗ることを恐れないだろう。

43. 誰がわたしを欺くことができようか。誰もいない。わたしはあなたがたが何をするかによってではなく、それを行う意図によってあなたがたを裁く。わたしはあなたがたの良心の神であり、また彼方にもある。どうして、わたしがあなたがたの行いとその動機をはかなどと思えるだろうか。（180, 11-13）

自由意志と良心の葛藤

44. 最初の人間たちが地球に住まわされたとき、創造主は彼らに愛を注ぎ込まれ、その精神を自身の光で照らし、同時に彼らに自由意志を与えられた。

45. しかし、ある者たちは清くあり続け、主に忠実に、良心に従うことを意図してあらゆる誘惑と戦い、善に堅く留まるよう努めた一方で、他の者たちは罪から罪へ、過ちから過ちへと、感覚の声に導かれ、情欲に溺れ、そして、同胞たちの間違いと誘惑をまき散らした。

46. しかし、これらの混乱した魂たちの救いは、私の神性の天使の使者として、私の預言者たちをやって来て、人類を目覚めさせ、危険を警告し、私の王国に入るために来たのである。（250, 38-39）

47. 肉は良心と呼ばれるその内なる声に従うことはあまりに重荷であり、本能と情欲の喜びへと誘惑に従うほうがはるかに容易であった。

48.
人類は長い間、決して消滅することのない良と、物質主義をその基礎に据えようとする肉との間の激しい葛藤の中で、この地の道を歩んできた。しかし今日に至るまで、物質は精神に勝利をおさめておらず、その戦いは続いている。
49.
あなたがたは、誰が勝利するのかと私に問う。そして私は、魂によって肉の中で成し遂げられる良の絶対的勝利まで、もうそう長くはかからないと告げる。
50.
これほど多くの戦いと長い葛藤の末、人間の儚い肉体は、私の永遠の光である霊に屈服させざるを得ないことを、お前たちは感じないのか。
51.
これほど長い葛藤の末、人間はついに、自らの本質の中で脈打ち、生きているあの高貴な霊的生命に対して、かつてないほどの感受性と柔軟性を獲得することになるのだと理解せよ。
52.
あなたがたは皆、気がめいるこの点へと向かっている。しかし、いつか地上において善と正義が勝利を収める時、あなたがたは、その戦い、闘争、そして試練の理由を理解するだろう。（317, 21-26）
53.
人間がかくして、自身を取り巻くあらゆるものの主となったそれを熟視しているのを見よ。人間こそが、自由意志と良を備えられた唯一の存在である。人間のあらゆる迷い、堕落、そして罪はこの自由意志に端を発している。しかし、それは創造の正義と永遠の前においては、はかない過ちでしかない。
なぜなら、やがて良は、肉の弱さや魂の試練よりも勝るからである。それによって、闇すなわち無に対する意識ある光が勝利する。それは愛、正義、調和にある善が、利己、放縦、不正である悪よりも勝ることとなる。（295, 49）
54.
私にとって不可能なことはない。私の意志は成就されよ。これからも常にそうなるだろう。たとえ新しく見えているのは私の意志ではなく、人間の意志であるかのように見えることがあっても。
55.
人間の自由意志の歩む地上における道に、傲慢による勝利と時に暴力を用いて強く築かれた壁は、永遠とこれほどまでに儚いものであり、それらはまったく無意味な障壁を築き得るかもしれない。
しかし、明日あるいはその計画の遂行の過程において、私の霊の意志は、善を存続させ、不純なものを排除することであらゆる存在に対してますます明らかにされるだろう。（280, 9-10）
56. やがて、愛によってこの世界の境界は取り除かれ、霊によって世界は互いに近づき合う時が来るだろう。
57.
その時が来るまで、良と自由意志との闘いは続くであろう。人間は、その自由意志を用いて、自分の生を自分の望むものとするためにそれを利用し、活用するであろう。
58.
このことばを聞く者たちは、勝利は霊の側にあるであろう。霊はその絶対的愛の中で、父にこう言うであろう。「父よ、私は自分の自由意志を放棄します。私の中で、ただあなたの御心のみを成し遂げてください。」
59.
このように私の前に来る者を、私は祝福し、私の光で包むであろう。しかし、私は彼に、彼に授けたその祝福された自由を、決して再び奪うことはないと知らせるであろう。なぜなら、父の御心を行う者、忠実で謙虚な者は、主の遺産を相続するからである。（213, 61-64）

新しい神の言葉による良心の浄化

60.
光と愛に満ちた私の教えは精神を強め、それによって精神が肉に対してその力を発揮し、肉を常に敏感なものにする。そうすることで、良心の呵責がいつまでも容易に感じ取れるようになるのである。

61.
霊性は、人が目指すべき目標である。それによって、人は自分の良心と完全につながり、つねに善と悪を見分けることができるようになるからである。

62.
なぜなら、人の精神性が高揚されていたため、その深遠で明瞭かつ正しい内なる声が分け隔てされ、解釈されなければならないからであり、それゆえ、人間は善と悪を真に区別することを可能にする、制限のない認識を得ることができるのである。

63.
しかし、それだけでなく、人はあらゆる善き衝動に従い、あらゆる光に満ちた霊感を受けるための愛の力を自分の内に見出し、同時にあらゆる誘惑、あらゆる悪しき思考、感情、衝動を避けなければならない。（GS29, 56-57）

64.
人が心の中で静かに自分の高次の理性の声、すなわち、自分たちが行っていることの正しいことを感じていることを知っているがゆえに、聞きたくないと思っているある霊的存在の声を聞くことができれば、互いに理解し合うことはどれほど容易なことか。

65.
さらに、あなたがた良心の指示に耳を傾ける用意がないならば、私の教えを実践する用意も、その意志もないのだと、私は言っておこう。あなたがたは理論はそれを認めているが、実際はそれを適用していない。
あなたがたは、その教えを理解しようとしている――キリストは偉大であり、その教えは完全であると語る。しかし、誰一人のように偉大になろうとはせず、誰一人彼を真の模範として彼のもとに来ようとはしない。
しかし、あなたがたはおびえるべきだ。私が来たのは、私が偉大であることをあなたがたに証しするためだけでなく、あなたが全員偉大になるためでもあるのだ。（GS87, 35-36）

66.
私はすべての人とすべての民族を、私の新しいメッセージのもとに集め、善人が悪人を呼び寄せるように彼らを呼び寄せ、荒れ狂う嵐から避難できる、羊小屋のような安全を彼らに与えるであろう。

67.
あなたがたは一見、信仰と霊性の確固たる基盤を持っていないように見える多くの人が、その魂の最も清らかな部分に、霊生活の不滅の原理を保っていたことを、やがて目撃することになるだろう。また、あなたがたは神の恵みを全く持っていないように見える人の多くが、その存在の最奥部に、破壊不可能な核心を有していることを、やがて認識することになるだろう。

68.
人は、この地上の審判の前に、自分の過ち、悪行、そして悔い改めで応じ、不服従からの離反をもって、霊にひざまずかなければならないだろう。
その後、良心の審判の前に、人間的弱さは消え去り、人はおのおの本来の自分たちの霊的な存在とは考えなくなるだろう。そうして、愛と謙遜、信仰と善の当然の果実として、犠牲、償い、そしてついに平和が訪れるのである。（GS121, 9-11）

第5章 思考、感情、意志の力

思考の送信とその影響

1. 人間の目には見えず、人間の手では触れることもできないが、絶えずあなたの生活に影響を及ぼしている。
2.
そこには善なるものもあれば悪なるものもある。あるものはあなたに健康を与え、あるものはあなたに病気をもたらす。光に満ちたものもあれば、闇に満ちたものもある。
3. それらの力はどこから来るのか？精神から、弟子よ、知性から、そして感情からである。
4.
肉体に宿っているか、あるいは肉体から離れているかを問わず、あらゆる人は思考によって魔力を発し、あらゆる感情に影響を及ぼします。世界はこうした魔力に満ち溢れていると信じてよいでしょう。
5. これで、善き思い、善に従って生きる人には必ず恵みの力が影響が存在し、善、正義、愛と敬虔な本質を無視して生きる人には必ず害力が存在しなければならない、ということが、容易に理解できるでしょう。
6.
両者は闘争状態にあり、互いに争っている。それは人々の感情に影響を及ぼし、もし人がそれを見分けることができれば善なる霊を受け入れ、悪しき影響を排除するだろう。
しかし、もし彼らが弱く、善を行うことに慣れていないならば、これらの魔力に抵抗することはできず、悪の奴隷となり、その支配に屈してしまう危険にさらされる。（40, 58-63）
7.
宇宙におけるすべての霊性なものは、あなたにとって目に見えるものであれ見えないものであれ、光の源であり、この光はカであり、権威であり、インスピレーションである。思想、言葉、そして行いからも、それが純粋さと高貴さに応じて、同様に光が溢れ出ている。
その思想や行いが善であればあるほど、その源とそこから発せられるインスピレーションはより繊細で精妙なものとなるが、物質主義の奴隷たちにとっては、それを感知することがより困難である。それでもなお、高貴な思想や行いが精神に及ぼす影響は大きい。（16, 16）
8.
もしあなたの心から光のアイデアや思考が湧き出れば、それはその使命を果たすために、その目的地へと到達する。もし善き思考の代わりに、あなたの心から邪悪な衝動が放たれるならば、それはあなたがそれを送り届けた先で、害をもたらすだろう。
言っておくが、思考は行為であり、そのようにして、それらはあなたの魂の中に存在する書物に記されるのである。
9.
あなたがの行いが善であれ悪であれ、あなたが隣人に願ったことは、何倍にもなって返ってくる。隣人に悪を願うよりは、自分自身に悪を行うほうがまだましである。
10.
それゆえ、私は第二の時代において、あなたにこう言うのである。「人に与えたものを取り戻る」。なぜなら、あなたがこの人生において自分の経験に気づき、その収穫が、あなたがかつて蒔いたのと同じ種であり、しかし何倍にも増えてもたらされることを心得ておく必要があるからである。
11. ああ、人類よ、おまえは教えを黙考することも、感じ取ることも、実践することさえ怠ってきたのだ！（24, 15-18）
12.
それゆえ、私はあなたがたに、思考の力を強調していると告げるのである。今日、私はあなたがたに告げる。思考は声であり、耳であり、武器であり、盾である。それは創造するだけでなく、破壊する。思考は、遠く離れて暮らす者たちの間の距離を縮め、その痕跡を見失った者たちを見つけ出す。
13.
戦いが始まる前に、あなたがの武器を磨け。準備が整っている者は、強く、打ち負かされることのない者となるだろう。あなたがたが複数の武器を振るう必要はない。あなたがの剣は、純粋で清らかな思考、すなわち「

」であり、あなたがの唇は言葉は沈黙であるべきだ。静寂の中にあっても、あなたがの声が平和のメッセージとして響渡るべきである。(76, 34)

14.

目を覚まし、不純な思考で自分の精神を汚さないよう注意なさい。精神は創造的なものであり、もしあなたが悪しき考えを心に留めれば、それは低次元のエネルギーを引き下ろし、あなたの魂に傷を負わせることになる。(146, 60)

15. 多くの人々の間違った思考は悪しき影響を及ぼし、個人をその力の領域に引き下ろすことができるだろう。(160, 60)

16.

今日、私はあなたがに保証する。将来、思考による伝達は大きな発展を遂げ、この意識変容の手段によって、今日なお言語や論理思考に存在している多くの障害が消えるだろう。

もしあなたがが、心の中でひとつになることを学び、霊と霊の対話に到達するならば――そのとき、目に見える見えないに関わらず、近くにいるか遠くにいるかを問わず、兄弟姉妹とつながることにおいて何の困難があり得ようか。(165, 15)

17.

たとえ不完全であっても、あなたの思考は常に私のもとへ届き、たとえそこに常に応えるべき事柄が欠けていたとしても、私はあなたの祈りを聞き取っている。その理由は、私が霊としてのすべての存在の魂と感情を受け止めているからである。

18.

しかし、私たちのために互いに障害となるのは、今日、自然科学的な物質主義の結果として霊性生活から遠ざかっている人々は、思考を通じて互いに意識変容の準備ができていない。

19.

それにもかかわらず、私はあなたがに、自分の精神を開かれた状態にする必要があると告げる。これを達成するために、たとえ魂からはっきりと感知できる答えが得られなくても、魂の中に語りかけなさい。

20.

明日、すべての人々が与えることを学んだとき、彼らは人間の夢にも思いもかけないような精神的な相互理解の兆しをますます受け取るようになるだろう。(138, 51)

感情、願望、あるいは恐怖の力

21.

あらゆる瞬間に、あなたがからは思考あるいは霊性の活動が発せられているが、ほとんどの場合、あなたがは憎しみ、暴力、虚偽、そして怠惰な情念に支配されている。

あなたがは傷つけられれば傷つきを感じ取る。しかし、愛することはない。それゆえ、愛されてもそれを感じ取ることができない。そして、病的な思考によって、あなたがは生きる環境をますます苦痛に満ち、自らの存在を不幸感に満ちているしかし、私はあなたがに言う。すべてを平和と調和と愛で満たしなさい。そうすれば、あなたがは幸せになるだろう。(16, 33)

22.

あなたがを憎む人々を悪く思うことは決してなく、あなたを理解しない人々に対して怒りを抱いてはならない。なぜなら、あなたが隣人に対して抱く最も小さな感情は、思考を通じて彼らに伝わっているからである。(105, 37)

23. 暴力によって権力を握ろうとする人々を見ますか？まもなく、彼らがその誤った行為の犠牲者となることでしょう。

24. 私は彼らに、愛の輝きである寛容によってのみ、真に偉大で強い者となることができることを証明してやる。(111, 22-23)

25.

あなたがは顔を上げ、希望に満ち溢れた微笑みを浮かべ、恐れや不安にとらわれずに未来を見据えるだけの勇気が欠けている。なぜなら、未来は私がそなたがだ。

26.

あなたがは、そう思うだけで痛いことがどれほど多いことか。なぜなら、一歩一歩進むたびに、重荷が過ぎ去りて苦痛が待ち構えて

いると思い込んでいるからだ。そして、あなたがたは思考によって聞かれた祈りは、それによって物質性と混乱と闇の道を覆い隠してしまうのである。

27.
しかし、私はここ、あなたのそばにいて、人生、真理、永遠、そして完全な平和の領域は燃えながらも、また光輝きつづけることをあなたがたに教えるために来ているのだ。（105, 28-29）

自己開放の女神

28.
人間は一重の罪を犯している。それは、至高の教えを知ることを妨げる霧が取り除かれるよう、何の努力もしていなかっただけでなく、精神的な喜びよりも肉体的な楽しみに溺れ、物質の束縛から自己を解き放っていなかったからである。
それゆえ、人間は幻の迷宮に自ら幽閉し、まるで捕虜収容所からの脱出を試みない足の不自由な者のように、自らの檻に留まっているのだ。

29. あらゆる分野において、私は大勢の人が足場を失っているのを見る。どこへ行っても、私は寂しい人間しか出会わない。
そして、その原因は何だろうか。それは、あなたがたが自分を縛っている呪縛から抜け出し、物質の縛りから解き放たれる勇気と自分の意志を持ち合わせていないからであり、これこそがあらゆる悪徳、あらゆる過ちの根源である。

30.
しかし、人は自分に与えられた力、すなわち意志というものを用いることを望まない。その意志こそが、無限の立法者となり、最高指導者となり、理性と愛とをもって導くべきものである。力対力、愛は愛の戦いであり、
一方は憎しみ、他方は理性と意志であり、後者が戦いに勝利し、あなたがたが解放されたと宣言できるまで。

31.
そうしてこそ、あなたがたは導かれる者、偉大な指導者、すなわち超人となり得るのだ。そうしてこそ、あなたがたは野獣たちと共生し、仲間と戯れることができるようになる。まことに、私はあなたがたに告げる。あなたがたを重圧している過ちこそが、あなたの小さな罪たちを恐れる原因であり、また彼があなたがたを導く理由でもあるのだ。

32.
しかし、あなたがたが時間をかけて人々を観察すれば、ドラよりも狡猾で、ゴブよりも悪意を持つ人間がいることに気づくであろう。（103, 3-6）

IX 神々の教え

第6章 信仰、真理、そして誤謬

すべてを開放する信仰

1.
弱さ、貧しさ、悲惨、そして病は、苦悩、疑惑、恐怖などの原因は、信仰と善が不可欠である。これらすべてを開放する美徳であり、それらがあれば、困難や苦悩などものともせず、影のように消えてなくなる。

2.
私は「第の時」に私を信じた人々にこう言った。「あなたの信仰があなたを救った」私がそう説明したのは、信仰癒しの力であり、変容をもたらす力であり、その光が闇をお消からである。(20, 63-64)
3.
霊性からお遠い人々は、イエスの姿を見て、「主よ、私はあなたを信じます。なぜなら、あなたを見からです」と言うだろう。彼らは私にこう言う。「見ずに信じる者は幸いである。彼らは、自分の霊性よっての中で私を感じ取ったという証拠を示したからである。」(27, 75)
4. 私は、あなたがたに「信仰」とはものを知ってほしい。そうすれば、信仰を持つ者は賢さその持ち主であることを理解できるだろう。
5.
このような光照らされて生きる者は、たとえ世がどれほど貧しいと見ようとも、決して卑しめられたり、見捨てられたり、弱く感じたり、迷子になったりすることはない。
父の人生の、自分の使命の、そして自分自身の信仰が、人生の闘いの中で決して彼をつまずかせることなく、さらに彼は、偉大で驚くべき業を成し遂げる能力を持つことになる。(136, 4-5)
6. 信仰は、あなたがたが永遠という安全な港にたどり着くまで、人生の道照らすかのようなものである。
7.
信仰は、今日一歩前進、明日一歩後退するような、生ぬるい態度で臨むものであってはならない。彼らは自分の持ち場に留まることを望まず、ただ父の意志によってのみ、御霊の勝利を言っているのである。
8.
信仰は、神が自分の中にいるという自覚を持ち、主を愛し、自分の中に主を感じ、隣人を愛することを喜びとする気持ちである。その人の義とする信仰はそれほど大きく、隣人が自分を愛してくれることを期待したり、他人の過ちを責めたりするのではなく、自分の功績によって浄化を達成したりすることに、明日は非に満ちされると信じているのである。
9. 信仰を持つ者は、平安を持ち、愛を所有し、その内に慈愛を宿している。
10. その人は霊的に、そして物質的にも豊かである。しかし、それはあなたがたが考えているような富ではなく、真の富である。(163, 12-16)
11.
さて、真の信仰が存在するという証拠を、今、あなたがたに示そう。試練の時、心が静かなこと。最も危機的な瞬間に、平安が支配すること。
12.
信仰を持つ者は、私に調和している。なぜなら、私は命であり、健康であり、救いだからである。真にこの港にとどまる者は、滅びることはない。
13. この特質を持つ者は、あらゆる人間の科学をはるかに超えた、霊という高い命について証しをする。(137、69-71)

神の真理の認識

14.
心が静かで安らぎ、知性の偏った見方や考えが消滅されているとき、人は人生をより深く感じ、真理をより明瞭に認識する。一方、心が疑いや恐れで安らぎを、知性が誤りを犯していると、すべてが不明瞭に映し、光を失った闇のように見えてしまう。
15. 真理を求めなさい。それはあなたのものである。しかし、愛と謙虚さと確信を持ってそれを求めなさい。(8, 5-6)
16.
祈りなさい。祈りの中で人に問いかけてみなさい。そうすれば、瞑想の中で、あなたの無限の光の内なる源を受け取ることになるだろう。一瞬にして

全真理得ると期待してはならない。長い間真理を求め続け探し、あらゆる神の教えに従おうとしながらも、すべき目標に到達していない魂たちがあるのだ。

17.

キリスト、すなわち油注がれた方は、「互いに愛し合いなさい」という言葉をもって、あなたがたに道をお示しになった。この禁令の教えの深さを、あなたがたは想像できるだろうか。もしあなたがたがこの教えに従って生きれば、人の生活全体が変容するだろう。愛こそが、神の神秘の真理をあなたがたに明かにすることができる。なぜなら、愛こそあなたがたの命と、すべての被造物の源だからである。

18.

熱心に真理を求め、人生の意味を求め、愛し、善において強くなれば、あなたがたの存在から、誤りや偽善、不完全であったものが一歩一歩、すべて取り除かれていくのを体験することになるでしょう。

日々、神の恵みの光に対してより敏感になっていけば、あなたがたは、知りたいこと、そして魂を高い真理に到達するために必要なすべてのことを、主ご自身に直接尋ねることができるようになるでしょう。（136, 40-42）

19.

私は、人が私のもとへと近づくことができるために、人を招いている言葉である。私が彼らに告げるのは私の真理であり、その真理こそが、私の意志に従ってあなたがたが全員が入るべき王国からである。

20. 私が、そのために多くの犠牲が必要であるとあからさまに言わなければ、どうしてあなたがたは真理を見出すことができるだろうか。

21. 真理を見出すためには、時に、自分が所有するものを手放し、さらには自分自身をも捨てることが必要となる。

22.

自己満足に浸る者、物質主義者、無関心な者は、自分が住んでいる殻を打ち破らない限り、真理を見出すことはできない。私の光を発見するためには、その者は自分の精神的殻を破ることが必要である。（258, 44-47）

23.

真理を求める者は祝福される。なぜなら、その者は愛と光と善に満ちているからである。求めよ、そうすれば見いだすであろう。真理を求めよ、そうすれば真理があなたのもとに来るであろう。

引き続き思いを深め、神秘の書に問いかけ続けなさい。そうすれば、それはあなたに答えてくれるだろう。なぜなら、父はご自身に問いかける者に対して、決して黙した無関心であったりすることはないからである。

24.

書物学者、あるいは様々な学問の中に真理を求める者たちのうち、どれほど多くの者が、最終的に自分自身の内面にそれを見出すことになるだろうか。なぜなら、私はすべての人間の最も内なる部分に、永遠の真理の種を植え付けたからである。（262, 36-37）

25.

私はあなたがたを欺くことはできない。私は決して偽りの行いをすることはなく、闇の中に身を隠すこともない。私の真理は裸である。しかし、もし人が私の霊の裸姿を見ることができなかったとすれば、それは彼がそう望まなかったからに他ならない。

私はいかなる点によっても、あなたがたに私の真理を隠したりはしない。私の裸体は真理であり、清かであり、聖なるものであり、私はそれを宇宙のすべての存在に示そう。その象徴として、私は人間として裸でこの世に生まれ、また裸であなたがたを去ったのだ。

26.

私は、私の民の間には常に真実が支配することを望む。なぜなら、私はあなたがたの真実の神であり、これから先もずっとそうだからだ。私は、あなたがたの間には愛があることを望む。そして、私の愛は常にあなたがたの愛の神であり続ける。

27.

真理はただ一つ、真の愛はただ一つである。もしこの真理とこの愛があなたがたの神であるならば、あなたがたの愛は真理は私のものとなり、私の真理と愛はあなたがたのものとなる。（327, 33-34）

28.

わたしの光は、あらゆる霊の中にあります。今、あなたがたは、わたしの霊が人々に注がれる時代にいます。それゆえ、わたしはあなたがたに

告げます。まもなく、あなたがたは皆、わたしの臨在を感じるようになるでしょう――学者も無学者も、偉大な者もささげる者も、権力者も貧しい者も。
29. 生ける真の神の真理の前にして、あえてまだあざ笑う者も、震え上がるであろう。（63, 33-34）

霊的な神聖なものの認識

30.
わが子らがわたしを忘れることはあり得ない。なぜなら、その魂の中は、遅れ早かれわたしを認識させざるを得ない、わが霊の光である霊が宿っているからである。
31. ある者にとっては、私の言葉の意味を深く理解し、そこに光を見出すことは容易であるが、他の者にとっては、私の言葉は謎である。
32.
私はあなたがたに告げる。この時において、すべての者が私のメッセージの霊性を理解できるわけではない。理解できない者たちは、その霊が私の啓示の光に目を開くことができるよう、新たな時代を待たなければならない。（6, 4-6）
33.
もし私が、私の知恵はあなたがたのものであると告げるとしたら――たった一つの地の人生だけで、私があなたがたに与えようとしているすべてを体験し尽くすことができると、あなたがたは信じるだろうか。もし私が、長く発展の道を歩んで人間が学び得ることはできないと告げるとしたら、ましてや、魂が完全な発展のために、霊性と知識を獲得することなどさらにできないのである。
34.
私は霊と科学を対立するものとは見ない。なぜなら、そのような誤りは人の犯したものであり、決して私が犯したものではないからだ。それどころか、私はあなたがたに、霊的なものと物質的なもの、人間的なものと神聖なもの、儚いものと永遠なものを調和させることを教えている。
それにもかかわらず、私はあなたがたにこう言う。人生の道を選ぶ時には、まず、霊が示す道をたどらなければならない。その霊の源は、神聖な霊に由来するものである。（9, 38-39）
35.
あなたがたは、探し求めるべき、霊的なものからあまりにも遠ざかってしまったため、霊に属するものであり、かつ完全に自然なものであるものを、すべて超自然なものと考えている。それゆえ、あなたがたは神聖なものを超自然なものと呼び、同様に、あなたがたの霊に属するすべてのものをそう見なしているが、それは誤りである。
36.
その理由は、あなたがたが、感覚の範囲内、あるいは人間の理解の範囲内にあるものしか見ようとせず、感覚や理性及ばないものを超自然なものと考えてきたからである。（73, 1）
37.
自然の中に神の光を求める者も、霊性豊かな中に私の知恵を求める者も、他の道では発見できないあらゆる真理を見出すその道を、自らの足で歩まなければならない。
まさにそのために、私はあなたがたを、この地において次々と生を全うするよう送り出したのである。そうすることで、その成長に経験に基づき、魂自身の内にあるもの、そして周囲にあるものすべてを発見できるようにするためである。
38.
もし望むなら、私の言葉の細部に神秘さを探しなさい。しかしその後、その視点から人生を眺め、観察しなさい。そうすれば、私があなたがたに語ったすべての言葉に含まれる真理を見出すことができるだろう。
39.
今日私が語る事柄と、かつて語られた事柄の間に矛盾があるかのように思える機会もあるだろうが、そのように考えてはならない。誤りに陥っているのは人間の方である。しかし今や、すべての者が光へと至るであろう。（105, 54-56）

霊的認識のための前提条件

40.
謙虚さは光であり、それはお前に、謙虚さの外には虚偽である、虚栄心無の産物である、知識によって偉大であり、徳によって尊敬される者は、真の謙虚さと霊性謙虚さを備えている。（101, 61）

41.
すべての思い考えをあなたから遠ざけ、高貴な考えを身にまとうがよい。幸福は物質に所有するものではなく、精神に認識するところにある。認識することとは、それを所有し、それに従って行動することである。

42.
真の知識を持つ者は、謙虚さを持っている。彼はただ、地上のすべてを知ろうとせず、理解できないものはすべて否定するだけの、地上の知恵を誇りとはしない。
霊感に満ちた聖なる光を内に宿す者は、それを待望するのと同様に、時が来れば啓示を受け取ることができる。自己を省察する者は多くいたが、日々満ち溢れる光輝いている太陽でさえ、彼らにとっては謎であった。

43.
多くの者が、すべてを知っていると信じてきたが、まことに、われはあなたに告げる。彼の道を歩むための模範となる一例のみでさえ、彼らにとっては測り知れない神秘なのである。

44.
人は生涯多くの不思議を探求することができるだろうが、神の愛の道においてそれをなさない限り、彼らは死の後の命において与えられる真の知恵には到達しないだろう。（139, 67-70）

人間の必要な意識の拡大

45. 私は初めから、人間に思考の自由を与えた。
しかし、人間は常に奴隷であった――時には王たちの、また多くの場合は、ファラオや皇帝の誤った世界観の奴隷として。それゆえ、今霊が獲得した自由と、その自由から生じる責任に直面して、この時代、人間は怯えているのである。なぜなら、その理由が、この自由に慣れていないからである。

46.
人間は、霊性なものに対する理解を低下させてしまった。それゆえ、彼は誤った、曲がりくねった道を歩み、他者の意志の影のようになってしまった。

47. 彼は自由を失い、自分自身も、自分の思考も、支配できなくなっていた。

48.
しかし今や、光の時代が到来した。それは、あなたがたの意識を広げ、真理の認識をもって無限と自由に舞い上がるべき時である。（139, 4-7）

49. あなたがたの生きるこの地球には、二つの側面がある。一つは性的な発展であり、もう一つは精神性の発展である。

50.
実際、神の光は性の領域に降り注いでおり、それゆえ、そこから多くの偉大な霊感が生じ、その実は人類を驚嘆させている。なぜなら、知性は今や自由な意識拡大を獲得しているからだ。人間は世界の研究に没頭し、探求し、発見し、喜び、驚嘆するが、決して憂鬱になることはない。

51.
しかし、霊性なもの、すなわち、彼にとって謎の物質の彼方にある真理の関係を明らかにしようという考えが彼の中に湧き上がるたびに、彼は恐れを抱き、来世の世界、彼が禁じられていると考えるもの、そして彼の考えによれば、高貴で神の神秘に満ちたふさわしい存在のみが許されるものと思い込むことを恐れる。

52.
そこで彼は、自分を縛りつける鎖を意のままに制することができない、弱く愚かな存在であることを露呈した。そこで彼は、罪の奴隷であることが明らかなのである。
53.
人間は、性、精神性、次元でも発展しない限り、その開花は決して完全なものにはならない。あながたは地の生活に関する霊魂の事柄にかかわって、自分の魂がかかっているのを忘れ。
54.
人間は地の意識の奴隷であり、呪い、非難、脅しの犠牲者である。しかし、それによって何を得るというのか？それは、人間が持つべき霊的知識を理解し、獲得するというすべての願望を窒息すること、そして、人間が究極まで秘密と考えてきたもの、すなわち霊性を解明することを自ら妨げることである。
55. 人間にとって、地の現実生活は永遠に謎であり続けるとお考えか。もしそうお考えなら、あなたはひどく誤っている。
まことに、私はあなたに告げる。あなたが自分の起源をはず、霊、罪、死の事柄について何らかの限り、科学がいかに進歩しようとも、あなたは依然として、植物、動物に囲まれて貧しい世界様、単なる被造物に過ぎない。あなたはこれからも戦争で互いに戦い続け、あなたの人生はこれからも苦痛と悩みに満ち続けるだろう。
56.
もしあなたが、自分の本質の神秘を発見しようとせず、また隣人の中に、すべての人の中に存在する霊性を見出そうとしないのであれば——果たして、本当に、互いを愛することができるだろうか？
いいえ、人の子らよ、たとえあなたがたが、わたしを信じ、わたしに従っていると言っても、もしあなたがたがわたしの教えを表面的にしか理解しないならば、あなたがたの信仰、認識、愛、誤ったものとなるだろう。(271, 39-45)
57. 人は、わたしの中に、無限という言葉から自己を啓示する勇気を見出すだろう。
58.
人生の前提であり、源であり、基盤である霊性を認識しない人々が、どうして地上に平和が訪れ、戦争が終り、人々が生き甲斐を感じ、罪が減少することを期待できようか。
59.
まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの真理を理解せず、従わない限り、あなたがたの地の存在は、流砂の上に建てられた建物のようなものとなるだろう。（273, 24-26）
60.
わたしは人々に言う。人は自分自身を知らない。なぜなら、人は自分の内面に入り込んでいないからであり、自分の秘密を知らないからであり、自分の真の本質を知らないからである。
しかし、私はこの時、長い間彼らにとって閉ざされていたすべての秘密が収められている書物の内容を彼らに教えよう。私はすでに「第三の時代」において、私の霊の光をもって、あなたがたにその秘密を明かすと約束したのだ。
61.
今、あなたがたは真に自分自身を知り、自分の精神の内奥へと入り込むことになる。そうしてはじめて、自分が何者であるかを知り始めたと言えるようになるだろう。
62. 人は、自分の起源、使命、役割、能力、そして、その周囲に生き、織りなされている、その無限の永遠のすべてを知るようになる。
もはや隣人を傷つけることはできず、同胞の存在を否定することもできず、また、自分を取り巻くありとあらゆるものを信じることさえ拒絶しなくなるだろう。なぜなら、万物が神聖であるという認識に至るからである。
63.
人は、自分の魂が宝石、秘めているものを認識するようになる。そして、魂が素晴しいものである以上、父が永遠の彼方から用意してくださった住まいもまた素晴しいに違いない、という明確な認識と深い信頼を持つようになる。（287, 4-6）

第7章 聖書のテキストの正しい理解

聖書の霊感と約束の解釈

1. 人々は時に聖書の研究に没頭し、預言やその約束を誤って解釈することに時間を浪費してきた。私たちの霊的意味を見出した者たちこそが、真理に最も近づいている。なぜなら、地上的・物質的な解釈に固執し、私たちの霊的意味を理解しようとしない、あるいは見ようとしない人々は、ユダヤ民族と経験したように、失望を味わうことになるだろう。ユダヤ民族は、現実に示された姿とは異なるメシアを想像し、期待していたが、実際に来たメシアは彼らの想像とは異なっていたのだ。(13, 50)

2. 神の御子、人間、私たちの義について抱いていた誤った概念は、その真の認識と置き換えるために、ついに消え去るだろう。神の義は、やがてあなたがたの心に存在する完全な愛から発出する光として理解されるようになる。

3. 人々が欠陥に満ち、残酷で、憎悪深く、容赦のない存在だと考えていたあの神は、心の底から、子供たちによる悔い改めに対して祝福を与えるとして、罪の赦しをもって説得するとして、重大な過ちを犯した者を断罪するのではなく、救いの新たな機会を与える裁判官として、感じられるようになるだろう。

4. 人々は、怒りなどというものが単なる人間的弱さ・過ちにもかかわらず、私たちが怒りを感じることができると信じていたため、その無知のために、私たちはこれほどの不完全さを得たのだろうか？預言者たちが「主の聖なる怒り」について語るとき、今、私たちがこの表現を神の正義として解釈すべきだと告げる。

5. 「旧約の時代」の人々は、それ以外の表現方法では理解できなかったろう。また、もし預言者たちがそのように語らなければ、放蕩者や罪人たちは預言者たちの警告を真剣に受け止めなかったであろう。私たちが聖霊は、精神的な発達が未熟であった当時の人々の心に響くような言葉で表現される必要があったのだ。(104, 11-14)

6. 「旧約」の書物は、イスラエルの民の歴史を伝え、その子孫の名も、過ぎ去った偉大さによっても、栄光に浴することはなかった。それは、この書物が、神と神の民の関係について、あらゆる新しい世代に語りかけるためであった。その書物は、徳と正義を愛し、偉大な人々の模範であった先祖たちの名だけでなく、主が自身の民を危機の瀬戸際に立たされているのを見て、常にその口を通して語られた預言者たち、すなわち未来を見通す者たちの名も伝えている。また、その書は、堕落した者、裏切り者、不誠実者たちの名も伝えている。なぜなら、あらゆる出来事、あらゆる事例は類似であり、時は象徴だからである。

7. 私がイエスとして人の間に生きていた時、私は必要がある場合のみ、それらの書物の本質、それらの書物の真意を用いて、私の教えを伝えた。物質的なものの中身のないものを、私は決して賛美しなかった。私は義人アベルに言及し、ヨブの忍耐強さ、ソロモンの知恵と栄光を思い起こしたことを覚えているか。私は多くの機会にアブラハムを想起し、預言者たちについて語り、またモーセに言及して、私が来たのは彼らの律法を廃止するためではなく、それを成就するためであると、あなたがたに告げなかったか。(102, 31-32)

8.
あながたは、私があらゆる時に与えてきた神の啓示を知り、あながたに語られた聖なる言葉を理解し、そのようにして霊的感覚を研ぎ澄まさなければならない。そうしてこそ、何が神の言葉であり、何がその言葉であるかを識別し、私の教えの真意を見出すことができるのだ。
9.
霊的な目が開かれなければ、あながたは私の言葉の正しい真実の解釈を見出すことはできないだろう――私が預言者たちを通して送ったものも、イエスを通して遣わしたものも、あるいは第三の時代の預言者たちを通して与えている今の言葉も、すべてそうである。
10.
この人類が律法、教え、予言、そしてあらゆる啓示の真の意味を見出したとき、自らの存在に関して最も美しく、最も深遠なものを発見することになるだろう。
11.
そうして初めて、人は真の自由を知り、その心は真の平和を感じるようになる。その時、あながたは罪から浄められ、そして憐れみを知るようになるだろう。（22, 39-42）
12.
過去の時代の預言は、私が今日、あなたがたに繰り返していることを明かしてくれたはずである。しかし、人間は私の真理を歪め、歪めることを選んでしまった。その結果、今やあなたがたは精神的に病み、疲れ果て、孤独な迷宮の当事者となっている。
13.
それゆえ、私があなたがたを混乱させないからこそ、私の目覚めの呼びかけが、声の伝達者を通して聞こえるのである。（21、14-15）
14.
「第三の時代」において、私の言葉があなたがたに遣わした弟子たちの書物が、改ざんされ歪められたあなたがたの手に渡ったとしても、私は、あなたがたがイエスの真の言葉とはどのようなものであるかを識別できるように導くであろう。あなたがたの霊は、私の愛という理想調和に一致しないものを、偽りであると見抜くであろう。（4, 19）
15.
人間は、霊の光である私の啓示をしばしば歪めたことは一度ではない。しかし、人間はそれを探し求めることを忘れてきた。さて、私はあなたがたに問う。もしあなたがたが私の霊的なものを避けているならば、真理永遠なるものについて、一体何を知ることができるというのか。
16.
第二の「時代」と第三の「時代」における私の啓示が、ただ神聖なものと霊的なものについて語っているにもかかわらず、あなたがたがそれらに与えた物質主義的な解釈を見よ。あなたがたがこれら物質的な霊と霊的な肉を混同しているがゆえに、いかに多くの歪みを犯して、深遠なものを卑俗なものと、高尚なものを低俗なものと変えてしまっているかを見よ。
しかし、なぜあなたがたはそうしたのか。それは、神業において何かを成し遂げたいという思いから、私の教えを、あなたがたが最大にしているこの地の塵と人間の妄想に合わせてしまうような方法を探しているからだ。（81, 18-19）
17.
この時において私は、「第三の時代」にあなたがたに与えた教え――多くの人が理解できず、また他の人が忘れてしまった教え――がすべての人によって理解され、さらに私の新しい教えに基づいて実践されるようにする。（2, 12）
18.
私は霊の光であなたがたの上に降りてきている。それなのに、なぜ私は鳩の姿で表現されるのか。私の新しい弟子たちは、もはやそのような像や象徴を崇拝してはならない。
19.
民よ、私の教えを理解せよ。「第三の時代」において、イエスの洗礼の際に私の聖霊が鳩の姿で現れたのは、この鳥が聖霊のきよめの子羊にふさわしい、その白さは清らかさを表し、その穏やかで優しい眼差しには無限の愛が宿っているからである。
20. もし、彼らがこの世を知っても、その存在の姿を借りなければ、どうしてあの無学な人々は神聖なものを理解することができたであろうか。

21.
今この瞬間あなたに語りかけているキリストは、子供によって表され、ヨハネ自身も、その預言的な視野で私をそのように見た。これらすべては、あなたがたがあらゆる点で私をまねれば、全能の神に常に命の創造の姿を見せることになる、ということを意味する。（8, 1-3）22.
かつて私は金持の救われる方法よりは、ラクダが針の穴を通るほうが容易だと、あなたに語った。
今日私はあなたがたにこう言う。それらの心は、自己中心から解放され、隣人に対して真の愛を行なわなければならない。そうしてこそ、その魂救いの狭い道を通り抜けることができるのだ。所有物全部から解放される必要はなく、ただ不当な点から解放されればよいのである。（62, 65）
23.
私は今、かつて弟子たちがユダヤの神殿を感嘆の眼差しで見つめていた時に、まことにあなたがたに言う。この神殿は石一つ残さず取り壊されるだろう。しかし私は三日でそれを再建すると語った、あの神殿を再建している。
24. 私が言いたかったのは、どんなに人々が華やかに見えても、あらゆる点で私たちよりも劣るのだから、その代わりに私たちの神性の真の霊的な神殿を築き上げるということである。今こそ第三の時代、すなわち私の神殿再建完了する第三の日である。（19, 4）
25. 神は形がない。もし形があったなら、神は人間のように有限な存在となり、そうすれば神ではなくなってしまうからである。
26. 神の「全能」とは、完全性、正義、愛、知恵、創造力、そして永遠である。
27.
「天国」とは、魂の完成の道において、知恵と愛によってこれまでに高みへと昇り、もはやかなる肉体的な構成物よりもはるかに清められた状態を獲得したときに達する至高の境地である。
28. 私の預言者たちが霊性について語るとき、彼らはよく人間の姿や、あなたがたが馴染みのある物を通してそれを表現した。
29.
預言者たちは、地上の五感の理解のような、事物、人間の姿をした存在、壁掛けのある宮殿、燭台、子羊、そしてその他多くの姿を目にした。
しかし今日、あなたがたは、これらすべてが単なる象徴、神聖な意味、啓示を受け入れるための通路であることを理解しなければならない。あなたがたは、それらの、より高次なものを理解することができるために、それらは瞬く間に表現されなければならなかったのだ。
30.
今こそ私は象徴を用いてあなたがたに告げたすべての教えの真意を正しく解釈し、その意味があなたの精神に浸透して、象徴や形が消え去るときが来た。
31. あなたがたがこの認識に至るとき、その信仰は真実のものとなる。なぜなら、その信仰は真実に基づいているからである。（26, 37-42）
32.
もし、招かれた者たちが皆、魂の養う食事が供されている主の食卓へと急いで向かうならば、そこは満席となるだろう。しかし、招かれた者たちのすべてが来るわけではない。
33.
神の恵みを感じないのは人間の本性であり、それゆえ、あなたがたが彼らに呼びかけたとき、多くの理由があなたたちを煩わすのを見てきたのである。
34.
しかし、わたしはあなたがたに言う、わたしの食卓に着き、わたしから学ぶために熱心に耳を傾けるこのわずかな者たちが、まさに終わりを迎えつつある世界を再建し、より輝しく高みへと導く、この教えの真髄、すなわちわたしの言葉の偉大さを大衆にもたらす者となるであろう。（285, 33 35）

使徒ヨハネによるイエスの啓示

35.
すべては、神の神秘、使徒であり預言者であるヨハネによって人類にその存在が明らかにされた七つの封印の書に記されている。

36.
その書物の内容は、神ご自身のみがあなたがたに啓示したものである。なぜなら、地上にも天にも、神の愛と命に至る深遠な神秘をあなたがたに説明できる義なる霊は存在しなかったからである。しかし、キリストであるご子は、その子らにその内容を啓示するために、この書を封じていた封印を解いた。(62, 30)

37.
ヨハネの黙示録が、ある者たちからは解明せよ、神秘を見よ、またある者たちからは誤った解釈だと非難されてきたのは、人類そこに描かれていることを理解するために必要な霊的視点をまだ得ていなかったからにほかならない。そして、私はあなたがたにこう言っておくが、それはその啓示を受けた預言者自身でさえも理解していなかったのだ。

38.
ヨハネは書き、また見た。そして、それを書き記すよう命じられたとおりに、直ちに従った。しかし、彼はそのメッセージが、彼のずっと後に来る人々に向けられたものであることを理解していた。(7, 80-81)

39.
人々はいつ、わが愛する弟が書き残したものに注意を向けるようになるのだろうか。その啓示が記されている巻物は封印があり、その意味は神秘的であり、その言葉は計り知れないほど深遠である。果たして誰がそれを理解できるだろうか。

40.
ヨハネの黙示録に関心を持ち始めた人々は、それに没頭し、解釈し、観察し、研究する。ある者は真実に近づくが、ある者は黙示録の真意を発見したと思い込み、それを全世界に宣言する。またある者は話したり、さらに探求するには疲れすぎてしまい、ついにはそのメッセージからあらゆる神聖な意味を否定してしまう。

41.
第七の時代の弟子たちよ、今、私はあなたがたに告げる。もしあなたがたがこの聖域に入り、それらの啓示の真の意味を悟りたいと心から願うならば、霊から霊の祈り――すなわち、ヨハネが深みの中で実践したまさにその祈り――に親しむ必要があるのだ。

42.
まず、神の啓示はたとえ地上の姿やイメージによって表現されているとしても、全体として人間の魂、その発展、葛藤、試練と克服、罪と不従順について語っていることを理解しなければならない。
それは私の正義、私の知恵、私の王国、私の愛の証し、そして人間のよみがえり、彼の目覚め、再生、そして最終的には彼の霊化について語っているのだ。

43. そこで私は、あなたがたが魂の発達をよりよく理解できるよう、人類霊的な人生の旅を、時代ごとに区分して啓示した。

44.
さて、弟子たちよ、この啓示はあなたがたの霊的生活に関するものであるから、霊的観点からこれを解釈し、考察するのがよい。なぜなら、もしあなたがたがそれを地上の出来事だけに基づいて解釈しようとすれば、他の多くの人々と同様に混乱に陥ることになるからである。

45. 確かに、多くの地上の出来事はその啓示の成就に関連しており、今後もそうなるだろう。
しかし、あなたがたは知っておくべきである。そこに含まれる出来事や徴は、まずあなたがた自身の霊的生活に関するものであり、あなたがたが私の真理を理解し、魂の清らかさの道を通って私のもとへと昇るという、あなたがたの使命を果たすための助けとなるべき姿、象徴、そしてしるしであるのだ。私の弟子ヨハネは、主の霊と霊的対話において、数千年先を見、その輝かしい模範をあなたがたに残してくれたのである。(309, 47-51)

第8章 三つの啓示の時代と七つの封印の時代

神の啓示の発展的性格

1.
私が人類の発展を区分したこの時代すべてにおいて、私は私の光をもって、魂の救いのための同じ真っ直ぐで狭い道、すなわち愛と真実と正義の唯一の道を、あなたがたに示してきた。

2.
私は、教えから教えへ、啓示から啓示へとあなたがたを導いてきた。そして今、この時が来て、私はあなたがたに、すでに霊と霊で私と結びつくことができると告げている。もし人類が最初の時代に、このように結びつくことができたろうか？—
いいえ、人類は、神聖なものと霊的なものを身近に感じられるように、物質的な喜び、儀式典礼、伝統的な祭事、象徴に頼らざるを得なかったのです。
霊的なものの近さ、神聖な高みと深み、より深遠なものを察し、神秘を解明することができなかったという無力さから、様々な宗教が生まれた。それはそれぞれ、人の霊的な成熟さや進歩の度合いに応じて存在し、あるものは他より不完全であり、あるものは他より完全であったが、すべて同じ目標に向かって進んでいた。
それは、何世紀にもわたる時の中で現われた道であり、様々な宗教が指示する道である。中には極めてゆっくりとしか前進しなかった者もいれば、立ち止まってしまった者もおり、また道を踏み外して自分を失ってしまった者もいる。（12, 92-93）

3.
今日、私は霊としてやって来る。まことに、あなたがたに告げる。かつては今日より以前に私があなたがたに近づけたと考える者もいる。彼らは間違っている。なぜなら、私は常になんじに、ますますあなたがたに近づいてきたからである。

4. 覚えておきなさい。第一の時代に私は山の上に立ち、そこから石板に書いた私の律法をあなたがたに示したのだ。
第二の時代には、私は山の高みから離れ、あなたがたの谷へと降りて、人間となってあなたがたの中に住んだ。そして現代において、私はあなたがたにさらに近づくために、あなたがたの心の内にまいり、そこに自分を見、その内側から人々に語りかけている。（3, 31）

5. 今、あなたがたは、私が神の啓示を三つの大きな時代に分けたことを理解している。

6. それは、人類の霊的な発展の三つの段階だった。父は、ひとつの律法を与え、新しい時代のたびに、メシアを派遣された。

7.
そのメシアとは、人の霊的な青年期のある時、人のところへ来られたキリストである。キリストは、人々が以前から受けてきたものの、その受け方を理解できなかった律法を、より高次な方法で与える道を人々に教えた。
神の御言葉はイエスの口を通して語られた。それゆえ、私はあなたがたに言う。完全なる神の愛の教えを通して、世界は慈悲と赦しの御言葉を初めて聞いたのだ。

8. イエスは、人々に真理の霊を送り、その教えの中で理解できなかったすべてのことを彼らに悟らせることを約束した。

9.
さて、愛する民よ——今、あなたがたが耳にしているこの簡素で謙虚な言葉こそが、真理の霊の声であり、あなたがたの精神に注がれる神の霊的な光である。それは、あなたがたが新しい時代に向けて目覚めるためのものである。
この光は、主のすべての啓示をあなたがたに分かりやすく理解させるものであり、それはあなたがたの父である聖霊の光である。聖霊は、人類より高い霊的段階、すなわち、神の啓示を理解するための成熟に近づく時期に、人類を導いてくれるのである。

10.
このためあなたがたが啓示するすべてのものにおいて、あなたがたの教えを受けることとなる。なぜなら、御言葉は私の声であり、聖霊は私自身の大使だからである。（132, 10-15）

11.
かつて、私はこのようにあなたがたに語りかけた。第一の時代には、律法が人間の魂を照らした。第二の時代には、キリストが愛の光によって人の心を照らした。今日、聖霊の光があなたがたの精神を照らし、それをあらゆる人間的なものより高みへと引き上げている。

12.
あながたは、このニのメッセージを、ただひとりの神から受け取けるのである。そして、そのすべての間は一つの時も過ぎ去ら――それは、魂が新しいメッセージ、すなわち新しい教えを受け入れることができるようになるために必要な、魂の発展のための時間であった。
13. 今、あながたは、なぜ私があながたを「聖霊の弟子たち」と呼ばれるかを理解できるだろう。（29, 50-52）
14.
もし私が最初の啓示においてすべてを語っていたならば、師であるイエスが新たな教えを説く必要は、また、この時代に聖霊が訪れて霊性の栄光をもたらす必要もなかったろう。
15.
それゆえ、私はあながたに言う。かつて語られたことを、あかもそれが私の教えの最終的な言葉であるかのように聞いてはならない。
16.
私は再びあながたのところへ来た。長い間、私は彼の人性を通して自らを明かしてきたが、それでもなお、私の最後の言葉は語られていないと、私はあなたがたに告げることができる。
17.
あながたが真に私の弟子となるために、私は聖書の中で、常に最後の言葉、すなわち、前に与えられたものの真意や本質を明かす新たなページを探し求めなさい。（49, 44-45）

神のニの遺言

18. モーセ、イエス、そしてエリヤ――これこそが、主が人間を再び光と完全の状態へと導き入れるために示された道である。
19.
あなたの生活の中で、主の使者たちの存在を感じなさい。彼の神の死んだ者は一人もいない。彼らは皆、道に迷った人々の道を照らし、彼らが歩むべきところへと立ち上がるのを助け、また、罪人という試練と愛をもって取り組むよう彼らを強めるために生きているのだ。
20.
モーセが立てた霊感によって地上で成し遂げた業を通しては、「神の言葉」が語られたイエスの教えを深く探究し、エリヤの時代によって象徴される、あたらしい啓示の霊性意識を求めよ。（29, 20, 22）
21.
「第二の時代」において、私が人間として生まれたことが一つの奇跡であり、肉体の死後、霊性を復活させるという奇跡であったならば――まことに、私はあながたに言う――この時代における、人間の人性を通した私の啓示は、霊性の奇跡である。
22. この時代において、私の言葉は最後の一つに至るまで成就するであろう。私は一つのものとなるニの遺言をあながたに残す。
23.
かつて父を愛し、犠牲をささげ、そして恐れていた者は、この時代に父を完全に知るべきである。そうして、父の言葉を恐れるのではなく、父を愛し、崇めるようになるためである。
24.
もしあながたが最初の時代に律法に従っていたとすれば、それは神の言葉があながたを懲らしめるのではないかと恐れたからであった。それゆえ、私はあながたに「私の言葉」を送った。それは、神が愛であることをあながたが悟るためであった。
25.
今日、私があなたがたの元に来るのは、あなたが迷うことなく、私の律法に真に従って道の終着点に到達できるようにするためである。（4, 43-47）
26.
わたしの新しい教えは、「第二の時代」にあながたに与えた教えを裏付けるものであるが、それはさらに偉大なものである。よく考えてみよ。当時、わたしはイエスの心語りかけが、今や、わたしは霊語りかけているのだ。

27.
私は、過去にあなたがたに与えた私の言葉のどれ一つとして否定するものではない。それどころか、私はそれらにふさわしい成就と正しい解釈を与えている。同様に、当時イエスが律法を廃そうとしているとパリサイ人たちに、私はこう言った。「私が律法や預言を廃するために来たと思うな。それどころか、私はそれを成就するために来たのだ。」
それが、三つの時代を通して人の心に語れねばならなかった福音であり、また私がこの世に来るという予言である以上、どうして私がその律法や預言を否定できようか。（9, 24-25）
28.
今日、わたしはあなたがたに言う。「わたしは道であり、真理であり、命である。もしあなたがたがこの時代にわたしの言葉の真意を求めるなら、その中に愛の永遠の律法、すなわち、わたしが地であなたがたに示したまさにその道を見出すであろう。
29.
当時、多くの人はキリストが道を誤り、律法を壊したと信じていた。それゆえ、彼らはキリストに敵対し、迫害した。しかし、真理は太陽の光のように常に勝利を収めるのである。
今、私の言葉は再び攻撃を受けるだろう。なぜなら、その真意の中に誤りを見出していると信じる者たちがいるからだ。しかし、その光は、この時代の闇の中を、人類は私があなたがたに示した道と律法が、あの時代と同じであり、そして永遠にそうあり続けることを悟るだろう。（6, 69 70）
30.
この教えは永遠の命の道である。この教えの中に入ると完全な兄弟姉妹たちは、私が地上にいた時にあなたがたと教えとこれを結びつけることを理解するだろう。なぜなら、その本質は同じだからである。
31.
私の教えに含まれる真理を見出すことができない者は、この教えがイエスの教えと同じ目標と導きとを断言するかもしれない。誤った解釈によって惑わされたり、宗教的な言葉によって話にならないような話をしたりする者たちは、これらの箇所の真理すべては理解できないだろう。
彼らは、互いに愛し合うことを教えるための教えを理解し、果すことのできない他の人の構わずに誘惑されないために、試練の道を歩まなければならない。（3, 42-43）
32.
多くの人はこの教えは新しいものである、あるいは過去に与えられた啓示とは無関係であると主張するだろうが、それは無駄なことだ。私はこの時代に人間の仲介を通して私が語るすべてのことは、第一の時代に第二の時代にすでに預言として告げられた事柄にその根拠基礎があることをあなたがたに保証する。
33.
しかし、私があなたがたに語っているこの混乱は、かつてそれらの箇所を翻訳した者たちが、人々に自分たちの解釈を押し付けたことに起因する。それらの解釈は一部は正しかったが、一部は誤っていた。また、私の教えが特定の光が人から人へと受け継がれ、時には隠されたり拡大されたりしたことにも起因する。
それゆえ、今日、私の光があなたがたの無知という闇からあなたがたを救い出すために来たにもかかわらず、多くの人はそれが真実の光であるとは認めようとしません。なぜなら、彼らの考えでは、それは私があなたがたに教えたことと一致しないからです。
34.
私は、私の言葉はつまずきとされることなく、この時代の人は私がかつて実際にあなたがたに語ったことを知ることになると確信する。その時、世界がスピリチュアリズムを知るようになれば、人はこう言うだろう。「確かに、これらすべてはイエスがすでに語っていたことだ！」と。
35.
実際、私はすでにすべてを語ったのである。たとえ、啓示された真理の多くについて、その基本原理のみを告げたに過ぎなかったとしても、私は、あなたがたがそれを理解できるようになるために、それらを残したのである。なぜなら、当時人類はまだ私今、その全容を示しているすべてのことを理解する能力を持っていなかったからである。（155, 24-27）

第三の時代

36.

これが「第三の時代」であり、私はこの時代に、人類を霊について啓蒙するべき教師をあなた方に授けた。なぜなら、言語や種々様々なイデオロギーが、もはや人類の理解の妨げとなってはならないというのが、私の意志からである。

私が霊魂と呼んだ霊性本質は、すべての人が持つものと同じであり、人の肉体を包む外皮を構成する物質も、すべての人において同じである。それゆえ、すべての人は等しく、私を受け入れるふさわしいものであり、私はすべての人のために再臨するのである。（15, 9）

37.

人間が経験する変化は、あまりにも大きなものとなるため、あなた方にとっては、ある世界が終わり、別の世界が誕生しているかのように思えるだろう。

38.

いつの時も、人間の生活は時代ごとに分けられ、それぞれの時代は何かによって特徴づけられてきた――それが発見であれ、受け入れた神の啓示であれ、人間が「芸術」と呼ぶ領域における発展であれ、あるいは科学であれ――今まさに始まろうとしている時代、すでに新たな夜明けの幕開けつつあるこの時代は、霊的能力の開花によって特徴づけられることとなるだろう。それは、あなたがたがこれほど多くの災いを免れるために育むべきであった、しかし常に後回しにしてきた、あなたがたの存在のその側面である。

39.

人間が霊性を育み、霊的能力を開花させ、この世において良かれと思う法律を制定するならば、人間の生活が安全で安心できるものとはならないだろうか。

40.

まもなく、すべての民族は神がどの時代においても彼らに語りかけてこられたこと、そして神の啓示こそが、人が神のもとへと昇りつめることができるよう、主が人にされた約束であったことを理解するようになるだろう。

41.

この新しい時代を、ある者は「光の時代」と呼び、ある者は「聖霊の時代」と呼び、またある者は「真理の時代」と呼ぶだろう。しかし、私はあなたがたに告げる。それは、魂の内なる霊性回復、そして取り戻しの時代となるのだ。

42.

これは、私がこれまで人々の心の中に生き続けることを願ってきたが、人々自身によって絶えず押し潰され、破壊されてきた時代である。その輝きが万人に見られ、その光の下にあるすべての子供たちがひとつとなる時代である。

ある者は受け入れ、他の者を拒絶し、自分の真理だけが宣言しながら他の者の真理を否定し、自己満足のために商売や取引、あるいは光のやり取りをもたらすような人間の宗教団体としてではない。（135, 53-54, 57-59）

43.

これこそが、人間の魂が物質の鎖から自由を勝ち取らなければならない「第三の時代」である。これほど、人類の歴史がこれまで経験したことのないほど激しい世界観の争いがもたらされるだろう。

44.

堕落、利己主義、傲慢、悪徳、嘘、そしてあなた方の生活を覆い隠してきたあらゆるものは、砕け散るように、それを崇拝していた者たちの足元に倒れ、謙虚さと道を探ることとなる。（295, 64-65）

救いの歴史における七つの時代

45.

世界におけるこれらの霊的発展段階の第一は、アダムの最初の息子であり、神に差し向けられた捧げ物アベルによって象徴される、彼様の家族である。姉妹が彼に立ち向かった。

46.
第一の段階はノアによって象徴される。彼は最初の象徴である。彼は神の霊感と導きを語り、人々を救うためにその中へ導いた。彼に対しては、疑念、嘲笑、そして異教的な好奇心だけが向けられた。しかし、ノアは最初の種子だった。
47.
第二の時代はエブによって象徴されている。彼は女性であり、強者イスラエルの母である。彼は霊に天の幻を見せた。それは、あなたが全員が創造の初めの座「着く」ための登録票である。主の使いは、彼女と子孫を救うために、彼に立ち向かった。
48.
第三の時代はモーセによって象徴され、彼は律法を体現している。彼は、あらゆる時代の人々のために律法が記された石板を示している。計り知れない価値をもって民を導き、救いの道を通って約束の地へと導いたのは彼であった。彼は律法の象徴である。
49.
第四の時代は、イエス、すなわち「神の言葉」、「救いき主」によって表される。彼は、あらゆる時代にあなたに語りかけ、これから先も語りかけ続ける存在である。彼は愛そのものであり、その愛ために人間となり、この世に生きた。
彼は人類の苦しみを自ら味わい、人類すべての罪からの贖いを導くべき犠牲愛と慈悲の道を示しました。彼は拒絶されたとえ貧しい身の上であっても、しかも愛をもって生き、自己犠牲に至るまでの、愛、赦し、祝福で死ぬまでを教えました。
彼は第四の段階を体現しており、その象徴は愛である。
50.
第五の時代はヨハネが象徴する。彼は霊感の象徴である。彼は「小羊の再臨」に乗ってやって来て、すべての国々、そしてあなたがたはまだ知らないながら、私がすべての世界とすべての被造物の父であるゆえ、私たちはそのすべての世界へ光をもたらす。
これが、あなたがたが現在生きている段階、すなわちヨハネの段階である。あなたがたを照らしているのは、彼の光である。彼は、かつて隠れていたが、この時に人々に明かされる教えの使者である。
51. 第六の時代は、父自身が体現される。それは最終目標であり、発展の頂点である。そこには慈悲の時、すなわち第七の封印がある。
52.
これで、七つの封印の秘密が解かれた。それゆえ、私はあなたがたに、現在の時代が第七の封印を含んでいると告げるのである。なぜなら、そのうち五つまでは過ぎ去り、第六は今解かれ、第七はまだ封印されたままであり、その内容はまだ啓示されておらず、この段階があなたがたのもとに訪れる時まで来ていないからである。
それが来れば、恵みと完全さと平和の支配が訪れるだろう。しかし、そこに到達するために――人は自らの救済のために、まだどれほどの涙をこぼさなければならないことか！（61, 54-61）
53.
『七つの封印の書』とは、あなたの人生の物語であり、地上におけるあなたの旅の物語である。そこにはあらゆる困難、苦難、葛藤、そして最後には、善となる正義、愛、そして霊生による物質世界の情欲に対する勝利が記されている。
54.
すべての霊が永遠の目的に向かっていることを真に悟りなさい。そうすれば、それぞれの教育に、それに見合うべき正しい位置を与えることができるだろう。
55.
第七の封印があなたがたを照らしている間は、それは覚醒、放棄、浄化の時となるだろう。しかし、その時が過ぎれば、あなたがた新たな時代を迎え、第七の封印は新たな啓示をもたらすことになる。清く、準備整っていると認められた者の魂は、しかも満足、幸福に満ち、その新しい時代を受け入れることだろう。第七の封印があなたがたを照らしている間、肉体は魂と共に浄化される。（13, 53-55）
56.
天まで封じられていた書物は、第七章において開かれた。それはこの封印の書であり、知恵と教えを含んでおり、あなたがたへの私の愛ゆえに封印が解かれ、その深遠な教えが明らかにされたのである。

57.
人間は、神の霊の息吹を吹き込まれ、五つの時を通って地上に生きてきた。それにもかかわらず、彼らは生命の霊性、意味、存在の目的、その使命、そして栄光を理解することはなかった。
すべては、その理由をとっても鋭くとっても、解き明かせない謎であり、その内容を網羅することのできない封印された書物であった。
58. 人間は霊性の生活を望んでいたが、存在の中心にある発展の階段を真っ直ぐに登ることはなかった。
彼は、この地における自分の短い人生は終わるべきではなく、また、闘いに勝利し、人間の境界を越え、永遠の光の中に自分の魂を完成させるために、自分の精神に備わっている偉大な可能性についても知らなかった。
59.
神の書が開かれ、人がその内容を見つめることが必要であった。そうしてこそ、世にあるありとあらゆる悪の根源である無知の闇から自分を救うことができるのである。
一体他の誰が、この書を開くことができるのか？神学者か、科学者か、あるいは哲学者か？いえ、誰一人、義なる魂たちでさえも、その内容をあなた方に明かにすることはできなかった。なぜなら、その書が守っていたものは、神の知恵そのものだからである。
60.
キリスト、すなわち御言葉、彼の光、神の愛だけがそれを成し遂げることができた。しかし、それでもなお、人が私の霊性の輝きに目をくらまされることなく、神のメッセージを受け取れるようになるまで待つ必要があった。
こうして人類は、神の知恵の書の光を受けるために秘められた「神の神秘」を知ることを可能にする、心の成熟に達するために、試練、教え、経験、そして苦しみという五つの段階を経なければならなかった。
61.
神の律法、キリストを通して与えられた神の言葉、そして福音者、使徒、使者たちによるすべてのメッセージは、すべての人に光、救い、そして正義に満ちた神の約束に対する人類の信仰を支え続けた種であった。
62.
今、待望の「小さな啓示」の時が来た。それによって、あなたがたは、私の時代を通して啓示してきたすべてのことを理解し、あなたがたの内に誰がおるか、あなたが自身が何者であるか、そしてあなたがたの存在の理由が何であるかを知るようになるであろう。
63.
今こそ、あなたがたが選んだ霊性の発展、経験、試練、そして蓄積された経験基盤から、私の霊とあなたがたの霊と、私の言葉とあなたがたの準備整った心を通して保管されていた知恵の光を受け取ることができる時である。
そして、人類が私のメッセージを受け取るのに必要な発展に達したため、私は彼らに私の光の最初の閃きを与えた。それがこれであり、私の代弁者たる謙虚な、素朴な人々を、恍惚とした状態で語らせるのである。
64.
この光の閃きはあくまで準備的なものであり、新しい日を告げる夜明けの光のようなものである。やがて、私の光は全ての人に届き、あなたがたの存在を照らし出し、無知、罪、そして悲惨の最後の影をも取り除くであろう。
65.
あなたがたが無限の彼方へその視界を広げているこの時は、人類の霊性史において幕開ける第三の時代、すなわち、光の啓示、古の預言が成就される約束の成就の時である。
それは第三の封印であり、解かれる巻物、正義と啓示に満ちたメッセージとして、その知恵のすべてをあなたがたの魂に注ぎ出すのである。（269, 10-18）
66.
弟子たちよ、私はあなたがたの心の盲目が、あなたがたの魂の視界を覆わないことを望む。このように、第三の時代に約束された慰めの霊が、あなたがたに語りかける。

67. 父は人類に近づくであろう苦難と試練、そして人が通るであろう霊的成長の度合いをすでに知っておられた。
慰め主の霊はあなたがたにとって第七の封印の解放、すなわち人類史における新たな段階の始まりを意味する。この時から、すべての人類に対して裁きが下される。あらゆる人生、あらゆる思い、あらゆる一歩が厳しく裁かれる。それは一つの時代の終わりであり、人生の終わりではない。
68.
これは肉の時代の終焉であり、神聖書の第七の封印の全容を魂に注がれ、魂をその無知から引き離すことが必要である。そうしてのみ、人はこれまでにない、自らの魂と全被造物の調和を体験し、
また、子羊によって第七の封印が解かれる時、すなわち裁きの最終段階をもたらすと同時に、真理愛と神の王国の勝利をもたらすその時に向けて、準備を整えるためである。（107, 17-19）
69.
私はこの時に人類が備えを整えることを望む。そうすれば、最後の封印が解かれるとき、人はそれに気づき、新たな啓示の内容を理解しようと急ぐだろう。私は、諸国と諸教会、その上の指導者たちが強くなることを望む。
70.
私はその時代の試練を乗り越えることを許された者たちを、「呼び出された者」として、彼らを新しい人類の祖として選ぶ。（111, 10-11）
71.
第七の封印が他の六つの封印と共に開かれる時、最初から最後に至るまで、人の行いに対する神の裁きであったその書は、閉じられたままとなる。
その時、全く新しい、まだ何も書かれていない書物が開き、そこから神の復活、招かれた者たちの解放、罪人たちの再生、そして善が悪に対し勝利することが告げられる。（107, 20）

第9章 地上のイスラエルと霊的なイスラエル

イスラエルの歴史的使命、その失敗

1.
まことに、わたしはあなたがたに言う。もしユダヤ人が、内なる良心が彼らの律法を守っていたならば、あなたがたは指導者や預言者を遣わす必要はなかったであろう。
また、あなたがたの主があなたがたのもとに降りてくる必要もなかったであろう。そして、私が「第三の時」に五つの律法を説かねばならなかったことも、また、「第六の時」に人間として十字架で死ななければならなかったことも、なかったはずである。
2.
わたしがユダの民を育て上げ、恵みの賜物を豊かに与えたのは、その民自らを高め、他者を卑しめるためではなく、真の神に対する服従の模範となり、人間性の普遍の模範となるためであった。
3.
わたしがこの民を選んだのは、彼らが地上でわたしの意志の道具となり、わたしの啓示の伝達者となり、すべての人がわたしの律法に従って生きるよう招き、そうして最終的に全人類を一つの民とするためである。
4.
この民は、選ばれた民でありながら、多くの苦難を経験してきた。それは、その違いが自分たちだけのものであり、自分たちの神（異教徒たち）の神でもあるはずがないと信じていたからである。彼らは他の諸国民を異教徒と見なし、父が彼らに託したものを分かち合うことを拒んだのである。それゆえ、私は彼らの堕落や腐敗に染まらないよう、一時的に他の民から彼らを離しただけである。

5.
しかし、彼が自己中心の殻に閉じこもり、自分たちが偉大で強くあると信じるようなとき、私は彼のなかに偉大さの萌芽があることを示し、他の国が彼を征服し、奴隷状態へと陥れることを許した。すなわち、ファラオたち、そしてローマたちが彼の主となったが、私は彼らに、私が彼の主となることを申し出ていたのだ。
6.
父なる神は、その限りない愛をもって、民に自由を与え、その偉大さを思い出させるために、再び御自身を現された。そして今日、私は福音を授けるためにやって来る。しかし、人類の中からイスラエルの子らを見出すことができるのは、私の視点からである。私は彼らを呼び寄せ、集め、聖霊の光を受けさせるのだ。
7.
私はあなたがたの霊の前に現れた。なぜなら、私は自然を通して、あるいはあなたがたが創造物と呼ぶ物質性の現象によって、あなたがたに語りかける時は、とっくに過ぎ去ったからである。今日、あなたがたはすでに、心の奥底と同様に、霊の中でも感じ取ることができる。
8.
この時において、私の約束の証しとなるのはパレスチナではない。なぜなら、私が求めているのは特定の場所ではなく、あなたがたの霊からである。私は血によるのではなく、霊によるイスラエルの民――すなわち、私の選びによって時を経て受け継いできた霊性種を持つ民――を求めているのである。（63, 64, 69）

ユダヤ民族の、世俗性者たちと霊性者たちへの分裂

9. 父がイエスにおいて去った後、その民の手から、すでにその労働に託されていた土地を奪い取る必要があった。
10.
ある者たちからは贈与として、また他の者たちからは購入として、それは奪い取られたのである。なぜなら、あのカナンの地、かつてのあの愛すべきパレスチナは、霊たちの真の約束の地の写しとしてのみ、われによって用意されたものだったからである。民からそれらの所有物が奪われたとき、物質主義性者を持つユダヤ人はこの地上に無限に散在する者として取り残された。
しかし、もう一方の者たち――常に私の臨在を感じ続けてきた忠実な者たちは、過去の時代のその遺産を失ったことに対しての痛みを感じることなく、私の意志に従い続けた。なぜなら、彼らはかねてから新たな恵みが与えられていたことを知っていたからである。すなわち、御言葉、神聖な御言葉、その精髄、その血という遺産である。
11. わが民イスラエルはすでに第三の時代を生きている今日、私は彼らがまだ二つのグループに分かれているのを見る。
一方は物質主義に溺れ、地の富によって富裕で、独断的な
な僕として、その力によって世界の基盤さえ震え上がらせている。彼は、父が彼の霊に注がれた力、能、恵みの賜物を、自己自身のため、野心のため、偉大さのために用いているからだ。
12.
見よ、あの民はその物質主義の中にあっても、科学、意志、知性において強力な証しをしてきた。その心の奥底は、かつての預言者たちに、屈辱と苦悩とを秘めている。
しかし今日、彼らはお金と誇りをもってたかり、他の民を圧倒させ、その力で威圧、支配しようとしている。今日、彼は自身が満腹であり、何百万もの飢えた人々や、大勢の奴隷たち――彼の金、権力、科学、そして名声の渇望の奴隷たち――を証拠に見つけている。
13.
しかし、私はまた私の民のもう一つの部分、すなわち霊的に忠実な者たち――常に私の臨在を感じることができる者たち、人間中の私の到来を常に認識してきた者たち、私の約束を信じ、あらゆる困難にもかかわらず私に服従し、私の掟を果たしてきた者たち――をも見ている。

14. そのもう一つの部分は、この時代に、人間的な性格を通して私の啓示の証人となってきたあなた方だけではない。
なぜなら、霊的なイスラエルの民の一部は世界中に散らばっており、各々が置かれたその場所で私の約束を受け取り、私の啓示を聞き、私のパンを食し、私がどこから来るのか、どのようにして来るのかを知らないまま、それでも待望しているからだ。
15.
しかし、私がどのようにして来るのか、どのようにして自らを現すのかを分かっている者たち――来るべき時に備えている者たち、すなわち、私がその民の十二部族の中から選ぶ14万4千人の一部をなすあなた方である。
――数多くのイスラエルの民の前で、あかも14万4千人の将軍のように、第二の時代の霊的戦いのなかで彼らを大いなる戦いへと導く者たちである。
16. わが民は永遠に引き裂かれたままであると思うか。まことに、わたしはあなた方に言う。そうではない！
あなた方には教えと光と証しが与えられ、彼らにはわたしの言葉と同様、慰しめが下されるのである。
今、私は彼らを大きな力で霊の目覚めへと導いている。彼らは確かに、第一の召命を否定したように、最初の瞬間に私の第二の召命を否定するだろうが、私はあなた方に言う、彼らの回心の時はもはや遠くない。
彼らはまだ肉の中に生きているが、私はすでに民の精神の中を見渡しており、彼らの自らの罪というよりはむしろ安逸と霊的啓示への怠慢から生じた混乱に囚われていることを、あなた方は知っている。彼らはあの世からの
な顕現を恐れている。しかし、私が彼らに要求するのは、不要なものをすべて捨て去り、慈しと愛と謙虚とを実践することである。
17.
あなた方は彼らに立ち向かわねばならず、双方が証拠を手に取るだろう。一方は言葉、思想、祈り、そして証しを、他方はその能力、権力、伝統を。
しかし、私はこの対立の中で確かに、私の真理が勝利するよう導き、霊が勝利し、霊肉は打ち負かされ、それが証しされ、認識されるよう取り計らう。そうして、イスラエルの部族の和解、主の民の統一が訪れるであろう。
18. その民が一度編成されれば――まことに
言っておくが、その民は、神ご自身の初めから選ばれた民と言われた大いなる使命を全うするまで、その活動は続くであろう。その使命とは、主の啓示の担い手であり、その証し人となることであり、兄弟姉妹の長として他の者たちを導き、彼と恵みの中で会い、すべての人をその右の座へと導くことである。(332, 17-21)

霊的なイスラエルの民

19.
私が「私の民イスラエル」、すなわち主の民について語る時、それは霊的使命を携えてこの世にさやって来た者たち、すなわち、私の律法のため私を宣伝え、私に忠実であった者たち、
生ける神の存在を宣伝え、愛の福音を、御子の神ご自身の証しを御言葉を証しすることができた者たち、これこそが神の民である者たちであり、これこそがイスラエル、すなわち誠実で忠実な真のイスラエルである。これこそが、律法と真理に忠実な私の兵士たちの軍団である。
20.
わたしの預言者たちを迫害し、わたしの使者のために殺した者たち――真の神の啓示に傾聴しなかった者たち――わたしを否定し、嘲り、わたしの血と命を求めようとした者たちは、たとえ血統にイスラエル人であると自称していたとしても、選ばれた民には属していなかった。
彼らは預言者の民にも、啓示を受けた者たちの群れにも、忠実な兵士たちにも属していなかった。なぜなら、「イスラエル」とは、ある人種や支配するために不当に獲得した霊的な領域に過ぎないからである。
21.
また、あなた方は、私の民に属したいと願う者は誰も、その愛と慈しと義と律法の忠実によって、それを実現することをおろそかにしてはならない。

22.
わが民は、この世や特定の国籍を有しているだけでない。わが民は一つの種でなく、あらゆる種の中に、すべての人の間に存在する。ここでわが言葉を聞き、新たな誕生を受け取っている人々の群は、わが民の一部に過ぎない。別の部分は地球上に散らばっており、さらに大部分は霊界に生きている。
23. これこそがわが羊であり、わたしを愛し、わたしに従い、わたしに従うわたしの民である。（John 10:27, 55-59）
24.
今日、わたしはあなたがたに言う。わたしの民とはいるのか。試練において賢く、戦いにおいて勇敢で、苦難において揺ぎない者たちどこにいるのか。彼らは世界中に散らばっている。しかし、わたしはわたしの声によって彼らを召し、霊において一つに集め、すべての民の先頭に立たせるであろう。
しかし、今日、その民は、あらゆる種の人々によって構成されることとなる、と私は言う。彼らは、私がすべての人々に期待する秘訣が何であるかを理解する者たちである。
25.
この民は勇敢で強くあらねばならないが、同胞に対する武器や戦争を持つことなく、また、破壊を画策することもあってはならない。その旗は平和であり、その剣は真理であり、その盾は愛でなければならない。
26.
誰もこの民をどこにいるのか見つけ出すことはできない。彼らは至る所にいるからだ。敵たちは彼らを滅ぼそうとするだろうが、それはできない。なぜなら、彼らの団結、秩序、調和は精神的なものであるため、物質的に一箇所に集まっている姿をどこにも見つけられないからだ。（1 Nephi 17, 48-50）
27.
この時代、真のイスラエルの霊は至る所で働いている。それは私の臨在を感じ、私の到来を待望し、私の再臨を準備する魂たちである。
28.
この言葉が他の場所であれば、多くの者がそれを嘲笑するだろう。しかし、私はあなたに言う。彼らにとって、これを嘲笑の対象としないほうがよい。なぜなら、彼らが深い眠りから目覚め、自分たちがまさに神の民の子であることに気づく時が来るからだ。
29.
今日、私の声を聞いているこれらの人々の群は、もし私の言葉を深く学ばず、また、この地上的な考え方を捨てなければ、誤りに陥る恐れがある。
彼らは主の声を聞き、律法を受け、預言者たちを持ってはいるにもかかわらず、結局、自分たちが神に愛される唯一の民であると言い張ってしまった、祖先の時代のイスラエルの民と同じ運命をたどるかもしれない。それは重大な誤りであり、そこから彼らを救い出すために、大きな試練、屈辱、迫害、そして捕囚がもたらされることとなったのである。
30.
あなたがたは、私の愛が種や血統によってあなたがたの子孫とは決してないことを知らなければならない。また、私が「私の民」と言うのは、私が太古の昔から、その先祖をもって類まれな目的を成し遂げるために地上に遣わした魂たちを指しているからに他ならない。
31.
彼らは様々な国々に住み、多くの試練を経ながら永遠の旅であった。その間、彼らは人間の法律より正しく、人間の感情より真実であり、人の魂に安らぎがないことを悟ったのである。（Alma 103、10-14）
32.
神の民は再び地上に現れるであろう――ある種、具現された民であり、血による種ではなく、精神において決定的な、私の弟子たちからなる大いなる大軍である。
33.
この民は、書物を通して私の教えを広めるだけに留まることはない。言葉が命であるためには、それを生きなければならない。この民は、書物や書斎にいる者であるだけでなく、模範を行う者でもある。

34.
今日、私はあなたがたを、あらゆる不要なもの、不純なもの、誤ったものから解放し、あなたがたの魂を高みへと舞い上がることができる、その行いによって証しされる、質素で清らかな生活へと導く。
35.
時が来れば、私は我が民を集めるであろう。その時、師は弟子たちを信じることをやめなければ、弟子たちも師を信じることをやめない。その時は、世界規模の戦争が起こる時である。そこから、平和の鳩のように、一筋の光のように、スピリチュアルな力が生まれてくるであろう。（1992、28-31）
36.
わが民は、増え広がっている。それは地上においてのみならず、霊界においても同様である。その霊的な領域の中には、かつてあなたがたと血の絆で結ばれていた者たち、すなわち、あなたがたの両親、兄弟姉妹、あるいは子供たちであった者たちがいる。
37.
わが民は、この地上にいるよりも多く、しかもさらに増え続けるとだけ言っても、驚かないでほしい。私がいつか彼らを一つにまとめ、わが子たちの誰一人として欠けることがなければ、彼らは無限の住まいとして与えられるであろう。それは、終わりのない光と恵みの領域である。
38.
この地上において、私はあなたがたを選び、私の教えを通して必要な指導を与えるのみである。それは、あなたがたがその命のように近づけばよいからである。この教えは、神の民の一部となるべきすべての人が、自分の霊的完全さという理想に向けて成長するために、これらの教えが必要なのだ。
39. 人間の代弁者を通して語られる私の言葉であるこの神聖なメッセージは、私の意志により、すべての人に届くべきものである。わが言葉は世界中で見聞きされ、その内容は討論され、立証され、目覚めさせ、霊について、また死後の魂の運命について思索させるであろう。（100, 35-37）

選ばれ印を刻まれた14万4千人

40.
この「第二の時」において私の業を成すために、私はすべての部族の中から14万4千の魂を選び出し、神の力の接触をもって彼らに印を刻んだ――それはこの接触でなければ、あなたの魂を永遠に滅ぼすことのできない。
私の印とは、聖霊が選ばれた者たちに与えるものであり、それによって彼らが「第二の時」において偉大な使命を果たすことができるのである。
41.
この印を持つ者は、危険から免れているわけではない。それどころか、他の者たちより先に多くの試練にさらされ、より多くの試練を受けることになる。
「第二の時」に私が選んだ二人の大人を思い起こせば、私が今言っていることが真実であると確信できるであろう。彼らの中には、疑いや弱さ、混乱の瞬間があり、さらには、口づけによって私を裏切る者さえ、私を裏切る者さえいた。
42.
この時の選ばれた者たちが、誘惑に負けないよう、どうして目を覚まし、祈らなければならないだろうか！しかし、まことに、あなたがたに告げる、それでもなお、百四十四万人の間に裏切り者が現れるであろう。
43.
このしるしは、神から与えられた使命、任務、そして責任を意味する。それは、必ずしも特別な力を与える保証ではない。もしそうであるならば――私の選ばれた者たちは、いったいどのような人物であるというのか。私の言葉に忠実であり続けるために、あなたがたの精神はどのように努力をするだろうか。

44. 私がこのようにあなたがたに語る理由は、この民の中に、選ばれた者たちの数が加えられたらと願うことが多くあるからである。
しかし、私は、私がその印によって与える数によって満足するし、また、預言者に安息を得るし、また、預言者あるいは霊媒が彼らを通して私に召しを請うようさせているのを見てきた。私は、私の子供たちである弟子たちを持つ者であり、そうすれば彼らは、私の言葉が無駄なものではないことを自ら確信するだろう。
45.
その印とは、愛、慈悲、熱意と謙虚さをもってそれを携える者が、その使命を果たすことができるようにする、目に見えないしるしである。
そうして初めて、その印が神聖であることを悟ることができるだろう。それは彼を当惑させるどころか、大きな輝きで彼を照らし、深い洞察を彼に与え、彼が望むところならどこへでも、魂のさらに前進するための道を開いてくれるのだ。
46.
その印は、それを所有する者を霊界に結びつける鎖の環のようなものであり、霊の思想と言葉があなたの世界に現れるための手段である。
それゆえ、私はあなたがたに言う。印を受けた者よ、私の使者であり、私の道具であると。
47. 印を受けた者の、わが業に対する熱意と責任は大きい。しかし、彼はその道を独り歩くわけではない。彼の
ために、常に護衛霊がいて、彼を守り、導き、霊感を与え、励ましてくれる。
48.
愛をもって自分の十字架を負うことがいかに困難であるかを知っている者はなんと多いことか。そして、第二の時代において、選ばれた者の額に印を押す用意がないその選ばれた者にとって、その道はなんと厳しく、苦しいものであったことか。
49.
わたしに従うすべての人に、目を覚まし、祈り、愛をもって十字架を負い、正しく従順に行動することを学ぶようにと言う。そうしてこそ、あなたの魂にとって最光に満ちた存在であるこの人生が無益なものとならず、後にそれは思い出しかねない苦しみを招くことにならずに済むのだ。
50.
印を受けられた者であれ、そうでない者であれ、皆この教えについて深く考えなさい。なぜなら、あなたがたは皆、わたしの業において果たすべき使命を持っているからである。（306, 3-4, 7-12）
51.
霊によるイスラエルの部族は極めて数多い。それぞれから、私は千二千人を選出し、彼らの額に印を付ける。しかし、「イスラエルの民」は14万4千人に限定されるものではない。選ばれた民は計り知れないほど多い。
52.
師は「第二の時代」において、多くの者が召された者であり、選ばれた者はわずかであると教えた。しかし、「イスラエルの民」全体が召され、私はその中から14万4千人に印を付ける。私はすべての人に、平和と霊生、そして霊から霊の交信が与えられる。（312, 7-8）
53. 私は途上国の人であり、私の愛はすべての人に降り注ぐ。
私は地のすべての民のもとに来た。しかし、私がこのメキシコという国を選び、私の言葉と啓示をその地の豊かに注ぐことにしたのは、彼らが謙虚であったからであり、その性質の中に美徳を見出し、そこに「イスラエルの民」の魂を発見したからである。
54.
しかし、すべての人がこの国に属しているわけではなく、すべての人が存在しているわけでもない。選ばれた者たちの数に属する魂たちは、今お世界中に散らばっている。彼らは印を付けられ、私は彼らの目を開き、彼らの心を感受性豊かなものとし、彼らは霊から霊へと私と語り合っている。（341, 25）
55.
人類の中には、わたしによって印を付けられた14万4千人の一部が生きている。これらのわたしの僕たちは世界中に散らばり、平和を祈り、人類の兄弟愛を実現するという使命を果たしている。
彼らは互いに面識はないが、同じ道程をたどるという使命を果たしている――ある者は直感によって、またある者は啓示によって導かれて。

56. 私の愛によって印を押された者たちのうち、一部は貧しい人々であるが、世の中で尊敬されている者たちもいる。
彼を見つけることができるのは、彼の独特な霊性、その行い、思考の方、そして神聖を理解する姿勢によってのみである。彼らは聖職者でも、偽善者でも、軽蔑もしない。彼らは宗教を実践していないように見えるが、それでも彼の精神と精神の間には、内なる結びが存在している。
57. 聖霊の光に満たされた者たちは、救命ボートのような存在であり、守護者であり、助言者であり、防壁である。
私は彼の魂に、平安、力、癒しの香油、最高に開かれた扉を与える鍵を開く。そして他者にとっては乗り越えられない障害を克服するための「武器」を与える。
彼の能力が認められるために、世俗的な肩書きを掲げる必要はない。彼は科学者ではないが、それでも「医者」であり、法律家ではないが、それでも弁護者であり、地位の高くはないが、それでも人生の道において多くの善行うことができる。
58.
ここに、私の言葉を受け取るために集まったこの人々の群れの中には、ただ自分の使命を確認するためにやって来た者たちが多くいる。なぜなら、彼らは霊性を授けられ、使命を与えられたのはこの地ではなかったからである。
まことに、あなたがたは言う。すべての魂特有の光は、その魂自身の道のりで自ら獲得してきたものである。（11, 18-21）
59.
人類は耐えようとない、私との業は地球全体に広まるであろう。私は信仰と世界観をめぐる争いの時代に、従順、愛、謙虚をもって戦う144万4千人の「印された者たち」から始める。
この戦いの最中、彼らはあらゆる鎖を一つの環のように、世界を縛る鎖ではなく、自由と善意で満ち霊性に満ちた連帯を示すだろう。これらの兵士たちは孤独ではない。私の霊が彼らに寄り添い、守ってくれる。彼らはその道のりで奇跡を起こし、それによって私の真実を証しするだろう。（137, 9）

第10章 – 善と悪の力

善と悪の起源

1.
父があなたがたを創造したとき、あなたがたの道の途中で創造を真に知り、理解する機会を得るように、その階段の最初の段にあなたがたを置いた。しかし、最初の段を踏み出した時、上へと続く進化の道を歩み始めた者はいかに少なかったことか！
大多数は不服従に対して強く、自由という贈り物を悪用し、良心の声に耳を傾けなかった。
彼らは物質に魅了され、その重さによって悪という性質を生み出し、深淵に沈んでしまった。そしてその影響により、兄弟姉妹もその深淵へとどんどん引きずり込まざるを得なくなり、彼らは自分の弱さや堕落、そして高慢と傲慢さの間で、血みどろの闘いを繰り広げざるを得なかった。（35, 38）
2.
原罪は、男の結合によって生まれるものではない。私、創造主は両者に「増えよ、そして満ちよ」と言ったとき、この結合を命じた。これが最初の指示であった。罪は、人間が自由意志という贈り物を悪用したことである。（59, 62）
3.
「肉」は魂の戦いを恐れ、その解放を阻止するか、少なくとも遅らせるために、世の誘惑によって絶えず道を探している。見よ、人は自らの内に誘惑を抱えているのだ！それゆえ、私はもしかすると自分自身と対峙すれば、その戦いに勝利したのだ、と述べるのである。（37, 37）

4.
人間の悪行によって空気も、大地も、水さえも汚されているこの時において――悪に関係のない者はなんと少ないことか！（144, 44）
5.
人類の裁きよ私の元に届く。子供たち、若者たち、壮年期の男女、そしてあの不安な夫と突き出ている。それは正義を求める叫びであり、霊から発せられる祈りと慈悲の切なる願いである。なぜなら、この地の愛の種は蒔いてしまったからだ。そして、愛がそこにあるか、君たちは知っているか？
人間の心の奥底、あまりに深く、人間には見つけ出せないほど深いところにある、憎しみ、権力の欲望、科学、そして虚栄がその種を押しつぶし、霊性を窒息状態にしなかったら。苦しみの杯はますます満たされ、世界はその底まで飲み干している。（218, 12）
6.
祭壇の祭壇、儀式の儀式、そして宗派の宗派と、人はお前のパンをねだってきようが、それを見つけることはできず、失望の中を冒険する者たち、目的のない道をさまよう、神に法なしに生きている。
7.
しかし、民よ、彼らの間には偉大な魂たちがいること、私は彼らの間に霊の預言者や弟子たちを見出していることを心得よ！（217, 49）
8.
諸宗派において人は悪の力を認め、それを人間姿として擬人化している。彼らは悪に強大な王国を認め、様々な名前を与えている。人は、悪が近くにいると信じると恐れを抱くが、
なぜ悪は憎しみと根ざしており、人の内面は善と悪とが共存していることを理解していない。
9.
現世において悪は優勢であり、あらゆるものに現れる力と権威を築き上げた。そして霊界では不完全で活気に、悪に従属する霊たちが存在し、その力は人間の悪と結びついて、悪の王国を形成している。
10. その力は第二の時代においてイエスに対抗し、その王国を破壊した。
万事順調だった私の肉には試みがあったが、私の霊が強くその誘惑は打ち勝った。なぜなら、私は強力な使命を果たすために人のところに降りてきた師であったから。この世、肉、誘惑、そしてその罠を知らなければならなかったのだ。（182, 42-43）
11.
あなたがたの魂の中で感じる不安によって、私の臨在を識別することができる。私以外の誰、あなたがたに真の平安を与えることはできない。闇の霊的存在はそれをあなたがたに与えることはできない。私がこう言うのは、多くの人の心が、人の想像力によって命と形を与えられた、ある霊的な存在の罠を恐れているからである。
12. 人はいかに誤って聞き手の存在を解釈してきたことか！
結局、私の力より光の力を信じた者たちはどれほど多く、それによって人は真実からどれほど遠ざかってしまったことか！
13.
悪は存在する。すべての悪は罪深さから出た。つまり、悪を行う者たちは、地上においても、また他の霊的世界においても、常に存在してきたのである。
しかし、なぜあなたがたは、存在するすべての悪を単一の存在に擬人化し、それを神と対峙させるのか。私は問う、私の絶対的で無限の力の前において、不完全な存在とは何のであろうか。そして、私の完全性という観点からすれば、あなたがたの罪とは何の意味があるというのか。
14.
罪はこの世で生まれたものではない。霊たちが神から出たとき、ある者は善の中に留まったが、その道から迷い出た他の者たちは、別の道、すなわち悪の道を切り開いた。

15. かつて象徴として語られた言葉たちを、人類によって誤って解釈されてきた。
人々が理性的なものについて持っていた直感的な観念は、彼の想像力に影響を与え、こうして彼は第二の本性をめぐり、今日に至るまで続く科学、カルト、迷信、神話を形成していた。
16.
神から悪魔が生まれることはあり得ない。それはあなたがたが自らの知性で作り出したものである。あなたがたが常に私の敵としてお持ちになろうとするあの存在に対する観念は、誤りである。
17. 私は人間から大量の存在から生じうる憂鬱、悪、影響から自己を解放するために、目を覚まし、祈るようあなたがたに教えた。
18.
私はあなたがたに肉よりも危険であってはならないと告げた。なぜなら、肉とはあなたがたがそれを守らなければ常に悪の餌食にさらされている弱い被造物からである。心、理性、そして感覚は開かれた扉であり、そこから地の精気が入ってくるためのものである。
19.
もしあなたがたが闇の存在たちを獣のようなものと想像していたとしても、私は彼らを救うために私の手を差し伸べるべき不完全な被造物に過ぎないと見ている。彼らもまた私の子供たちからである。（114, 54-62）
20.
あなたがたは、何か善を行うたびに、「私は高潔で賢く、慈悲深いからそれを行うのだ」と言う。しかし、私はあなたがたに告げる。もしあなたがたが、主の名においてそれらの行いを行うならば、謙虚であるはずだ。なぜなら、その善は神に由来し、私があなたがたの魂に授けたものからである。
21. したがって、自分の善を誇りに思う者は、自分の魂と、その魂にこれらの美徳を授けた御方を否定しているのだ。
22.
それに対して、もしあなたがたが悪を行うならば、ピラトのように手を洗い、その行いをめぐっては、「それは神の御心であり、書かれていることだった。神が望まれたことであり、運命なのだ」と言うのである。
23.
あなたがたは、自分の過ちから免れるために、神の御心なしには何も起こらないと言う。しかし、まことに、まことにわたしはあなたがたに告げる。あなたがたは誤っている。なぜなら、あなたがたの過ち、あなたがたの哀れな行いは、神の御心なしに起こっているからだ。
24.
全能なる神が、決して大権をもって、あなたがたを支配することはないことを悟りなさい。そうするのは、あなた自身が、より弱い兄弟姉妹に対して行っていることである。
25.
まことに、私はあなたがたに告げる。悪、不調和、調和の欠如はあなたがたに固有のものであり、愛、忍耐、心の平安は神から来るものである。
26.
あなたがたが愛するとき、それはあなたがたの神の創造力があなたがたを導いているのだ。それに対して、あなたがたが憎むときは、あなたがた自身であり、あなたがたの弱さがあなたがたを孤立させ、破滅へと導くのである。あなたがたの人生において悪いことが起こるたびに、それはあなたがたの仕業であると確信してよい。
27.
しかし、そこであなたは質問するだろう。「なぜ神はこれを許されるのか？神もまた、私たちの罪によって苦しんでおられるのではないのか？私たちが泣くのを見て、神もまた泣いておられるのではないのか？私たちをこうした事態から救うことなど、神にとって何の利益になるというのか？」
28.
言っておくが、あなたがたが愛さない限り、神はあなたがたにとって理解できない存在であり続けるだろう。なぜなら、あなたがたの創造の真の大きさは、あなたがたの理解を超えるものからである。

29.
強く、偉大に、賢くなりなさい。愛することを学びなさい。愛するようになれば、神秘を知ろうとする子供じみた願望は、お利口なものだろう。なぜなら、その時はあなたがお神酒に、神を感じることになり、それだけで十分だからである。(248, 29-32)

高慢と謙虚さ

30.
霊性高みへと至るために、謙虚をあなたの最初の徳のひとつとしなさい。なぜなら、霊の王国である天国の門は、高慢者に対しては最初から閉ざされているからだ。彼らの門をくぐったことは一度もなく、また、今後くぐることも決してないだろう。
しかし、もし彼が謙虚になれば、私は真っ先に彼を祝福し、私の慈悲が彼に永遠の扉を開くであろう。（89, 45）

31.
さて、弟子たちよ、ここで私の教えをもう一つ述べよう。まことに、あなたがたは言う。もしあなたがが、自分たちを強く、偉大で、あるいは他より優れていると感じるならば、あなたがたは私から遠ざかることになる。なぜなら、あなたがの傲慢と高慢さの感覚を驚かせてしまうからだ。
しかし、あなたがが自分たちを小さく感じ、自分たちが私の創造物の中で原子のような存在であると悟るとき、あなたがたは私に近づく。なぜなら、その謙虚さゆえに、あなたがたは私を称え、私を愛し、私を身近に感じるからだ。そうして、あなたがたは、神の内に秘めている、あなたがたが知り、体験したと願う、あらゆる偉大で測り知れないものを思い起こす。
それはまるで自分の魂の中に、神のささやきのごとき声が聞こえてくるかのように感じられるだろう。（248, 22）

32.
弟子：人は自分が成し遂げたものについて真の認識を持っていなければ、虚栄心に惑わされることはない。もしこの卑しい感情が自分の内面に侵入すれば、知性と霊は発展の道を進むことができなくなり、立ち止まった無力な状態になってしまうことを知っているからだ。
33. 虚栄心は多くの人々を滅ぼし、多くの繁栄した民族を滅ぼし、諸国の文化を崩壊させてきた。
34. 民族や行動力、有能さ、そして進歩を理想としていた限り、彼らは豊かさ、輝き、そして繁栄を享受していた。
しかし、傲慢が彼らに優越感を与え、向上という理想がすべてを独り占めしたいという貪欲な渇望に取って代わられたとき、彼らは衰退し始めるように、また望むことなく、自分たちの築き上げたものを一歩一歩破壊し始め、ついには最初の状態へと堕落した。
35.
人類の歴史はこのような経験に満ちている。それゆえ、私はあなたに言う。この世に大きな理想を掲げ、自分の善行に自覚しつつも、それに溺れることのない民族が現れるのは珍しいことである。そうしてこそ、その歩みは阻まれることなく、これまで達した輝かしい段階にはさらに加えられ、やがて再び増していくであろう。
36.
私がこのようにあなたに話すとき、私は単に物質的な目標を示そうとしているのではない。私の言葉は正しく解釈され、あなたがそれを物質的な面だけでなく、霊的な面にも適用できるようになることを望んでいるのだ。
37.
虚栄心は、人の物質的な活動だけに襲いかかるものではない。私が言うことの証拠として、その基盤が虚栄心、傲慢、偽りの栄華によって創られている数多の没落した宗教を見よ。
彼らが神の使徒であると言う時、必ず誰かが現れて、彼らを驚かせ、彼らの誤った教義、そして真理からの逸脱を彼らの目の前につきつけてきたのである。
38.
良心の光照らされて、わが律法を真に識別し、それを全うすることによってのみ、この類高みある生活と昇華することができる。なぜなら、わが与える良心は完全であり、曇りなく、公正であり、決して虚栄にふけったり、曲がりくねった道行きを許すことはないからである。（295, 18-24）

善き善意の人

39.
誰もわたしを否定することがないように、皆わたしを知りなさい――わたしを識りなさい。そうすれば、あなたがの神への奉仕は真実に基づくものとなり、善が現れるところには、わたしがることを知るようになるだろう。

40.
善は、何ものとも混ざり合わない。善は真理であり、愛であり、慈悲であり、理解である。善はよきものと調和し、争いをなくすものである。誤らないよう、それを識りなさい。

41.
人はそれぞれ異なる道を歩むことができる。しかし、もし皆が善という一点で出会うならば、やがて互いを識り、一つとなるだろう。

42.
しかし、現代の人々のように、善悪の装いをまとい、悪を善として偽ることで、神に自らを欺き続けるならば、そうはならない。（29, 45, 47）

43.
ほぼ2000年前、わたしはあなたがたのもとへの遣いたちが聞いたあの言葉を繰り返してきた。「地の善意ある人々に平和あれ」。しかし、平和を手に入れるために、いったい善意を動員したのか。まことに、私はあなたがたに言う。あなたがたはむしろその反対のことをしてきたのだ。

44.
あなたがたはこの言葉を繰り返す権利を失ってしまった。それゆえ、今日、私は新たな言葉と教えをもってくる。それは、単なる言葉や決まり文句があなたがたの内に入り込むのではなく、私の教えの真髄があなたがたの心と精神に深く浸透するようにするためである。

45.
もしあなたがたが、私から与えられたままに私の言葉を繰り返したものなら、そうしなさい。しかし、知っておきなさい。あなたがたがそれを感じ取らない限り、それらの言葉は何の効果もない。深い感謝と畏れをもってそれを口にし、心の中でその響きを感じ取るとき、私はあなたがたに、あなたがたの存在を震え上がらせるような形で応えるであろう。(24, 33-34)

46.
もう一度言おう。真理を愛する善意の人々に平和あれ。彼らは神の御心に服従するために何をしているからだ。そして、私の保護の下に身を置く者は、必然的に私の臨在を感じることになる――その魂においても、また人間としての生活においても、その闘いにおいても、その奉仕においても、その訓練においても。

47.
善意の人は、父の律法という利点がある。彼らは正しい道を歩んでおり、激しい苦しみの中にあっても、赦しと平安を得て、その魂をわたしへと向ける。

48.
彼らは、痛みがしばしば必要であることを知っており、それゆえ忍耐をもってそれを耐え忍ぶ。ただ、それが耐えがたいものとなった時のみ、彼らはその十字架の重荷を軽くされるよう願う。主よ、と彼らは私に言う。私の魂を向上させるために、浄化と苦しみが必要であることを私は知っています。
私に何が必要か、あなたは私よりもよくご存じです。あなたは、私が必要としないものを私に与えることはできません。ですから、あなたの御心が私の上に成りますように。」

49. このように考え、祈る者たちは祝福される。彼らは、人生の訓練を通過するために、主の恵みを受けているからである。（58, 52-53）

悪に堕ちた人間

50.
この時代の悪の影響は善の影響よりも大きい。それゆえ、人類を支配しているのは悪の力であり、そこから憎しみ、嘘、淫行、傲慢、他人の不幸を喜ぶ心、破壊、そしてあらゆる苦しい情念が生まれている。これらは道徳的堕落から、人々を苦しめる病気が生じている。

51.
人々はこれらの力と戦う武器がない。彼らは打ち負かされ、精神的な光のない、健全な喜びも、善の導きもない人生の深淵へと囚人として連れ去られてしまった。

52. まさに今、人間は自由の頂点に立っていると信じているが、自分が深淵の中にいることを知らない。

53.
永遠のおとうさんがわたしに未来を啓示したとき、私は大勢の者から、人々は悪の力と戦うための武器をもたない。しかし、人々はそれを利用し、悪と悪の戦いを始めた。その戦いでは悪が勝利することはなく、すべての者が敗者としてそこから出てくることになる。

54. 悪は勝ち続けることはない、と書かれている。これは、世の終わりに勝利するのは善であることを意味する。

55.
もしあなたが、私が悪の力と闘い戦うために人々に与えた武器は何であったかと私に問うならば、私はこう答える。それは、祈り、律法の遵守、私の言葉の福音、そして互いへの愛であった。（40, 65-70）

56. わが民よ、悪は人々の間に増している。
善、徳、愛は、悪、病気、災い、疫病、そして不幸の侵入に対して弱かった。堕落した者たちの種があるこれらすべてが、善の心を蝕み、多くの人の魂を、悪と罪の数を増やした。なぜなら、悪は人類に対してさらに力を振るってきたからである。

57.
私はあなたがたに与えられた自由意志のために、このようなことが起こることを許した。なぜなら、人間のあらゆる堕落、あらゆる闇、そして迷いの背後には神聖な光、すなわち、消えることのない、そして決して消えることのない霊が存在するからである。
光の魂である崇高な存在があり、それはあなたがたに与えられた、すなわち私がすべての子供たちを戦いの道へと送り出した神聖な印を汚すことなく守っている。この印によって、これらの魂のうち、一つとして失われることはない。（45, 11-12）

善と悪の戦い

58.
あなたがたは人類存在のあらゆる時代を通して、悪に満ちた男が現れてきた最も驚異的な人物であった。歴史の書は彼の名を記録している。あなたがたの記憶の書、すなわち神があなたがたのすべての行い、すべての業を書き記し、留めおかれるその書にも、彼の名は同様に記されている。
そして、あなたは一つの魂、一つの人間の心が、これほど多くの悪の力を集め、自分の行いに執着することなく、これほど多くの勇気を持ち続けることができることに驚いてきた。また、神がすべての子供たちに求める、その良心を通した清浄の要求を聞かず、消そう、良心の声を沈黙させることができることにも驚いてきた。
そして、この悪魔におけるそれらの魂の歩みは、どれほど長く、また永続するものであったことか。

59.
私の愛と正義、自由意志によって救われたこれらの人々を、私は再び見た。そして、まさに彼の死後を利用して、彼らを私の裁きの前に召喚したのである。彼らは自由に行動していると思い込んでいたが、彼のすべての思考、言葉、そして行いは、自分自身に対しても、他者に対しても、私の正義の道具であった。

60.
しかし、その裁きはいつ終わるのか？――父はあなたがたに言う。悪の裁きが悪を完全に支配したことは一度もない。なぜなら、最も堕落した時でさえ、私の教えに満ち、私の恵みに満ち、私の律法の精神があったからだ。しかし、戦いは絶えず続いてきた。

61.
これまでの戦いにおいて、このことのうちどちらが優勢であったか。それは悪の力である！それゆえ、私はあなたがの中に肉体をもって現れ
あなたがを救け、私の希望と信仰とを蘇らせ、あなたがの心に語りかけ、ここ告げなければならなかった。「あなたがは孤独でも独りでもない。私はいつもあなたがとともにいたことはない。」
私があなたがの内に植えつけた理性を決して変えてはならない。これこそが善と愛の道である。（45, 48-49）
62. 見よ、私の光が、あなたがの世界の霧を切り裂くのを。
私は確かに人々と戦っているが、それは彼らの心にはびこるあらゆる悪と闘うためにだけである。私は、私に真に従う者たちに、私の愛の光と力を送る。そして彼らはこう言うだろう。「私たちを導いてください――私たちを探し、主を見つけるあの道を探そう。」
彼らは海や砂漠、山や森、目に見えない世界の中でそれを探し求めるだろうが、見つけることはできない。なぜなら、それは彼らの心の中に生きているからだ。それゆえそれを捨て、そこで探し、やがてこの地を去ることになるのだ。
63. もし私のライトセーバーの閃光が、すべての人間に傷つけるならば、悪い発生源はなくなり、やがて消えるだろう。
その時、あなたがはこう言うだろう。「主よ、あなたの慈悲の御力によって、私は盲目を治されました。かつては、その道の不可視世界から導かれていると信じていましたが、実は自分の心の中を探していたことに気づかなかったのです。」
64.
ひとりすべての人の内なる暗闇が取り除かれれば――その時、誰が善と悪とを区別することができるだろうか。その時、誰が永遠なるものの栄光をどう説明できるだろうか。まことに、わたしはあなたがたに告げる、誰もいない。なぜなら、あなたがたは皆、神の光の中で強くなるからである。罪とは、無知と弱さの結果に過ぎない。（60, 51-54）

誘惑と惑わし

65.
人類様々な国を治めている人々の飽くなき悲劇は、彼らは救い、正義、あるいは平和をもたらす場を実現を求めて、それらの木の下へと向かわせる。これらの木とは、しばしば憎み、利己心、権欲、そして誇大妄想に駆られた人々によって表される。
その実は、死、血、破壊、そして人間生活における最も神聖なものである理性、思考、言論の自由の冒涜、つまり一言で言えば精神の自由の冒涜である。これらは、光と戦うために立ちはだかる闇の勢力である。（113、52-53）
66.
愛するイエスよ、私はあなたに告げた。やがて、偽りのイエスに道を開くために、邪悪な指導者たちが立ち上がり、物質的な誘惑に駆られて、自分たちを通して語っておられると偽り、人々を欺き始めるのだ。
偽りの「指導者」や偽りの「預言者」、偽りの「兵士」たちが立ち上がり、その言葉と
物質的な誘惑によって、あなたがを真理の道から逸らそうとするだろう。（46, 38）
67.
祈りなさい。今こそ、私の正義の光がすべての闇の勢力を照らし出す時であることを悟りなさい。これは最も危険な時である。なぜなら、闇に住む者たちでさえ、あなたがを惑わし、惑わすために、あなたがの間にその存在を装うからである。
あなたがが道から迷い出たり、私の名を悪用する者たちに欺かれたりしないよう、私はあなたがに私の光を与える。
68.
誘惑者たちは目に見えない存在だけではない。彼らは教えを説き、光を装いながら、実は私の教えに反する人間として、あなたがの前に現れることもある。そのような者たちの言葉に耳を貸してはならない。（132, 7-8）
69.
わが軍は強大であり、力強い。もし私が、わが力と権威の前に、別の力――すなわち悪の力――が立ちはだかることを許したとしても、
それはわが栄光を証明するためである。すなわち、試練と闇に直面したとき、あなたがたがわが光と真理の力を経験し、目撃するためである。

それは、迷いや誘惑という暗い影の王国が、たとえ大きな力を持っていたとしても、私の道具であり、実際は私がそれを用いていることを、あなたがたに悟らせるためである。

70.

私があなたがたに求めるのは、あなたの服従の道具となるためではない。なぜなら、私はあなたが私の王国にやって来るのを待っているからだ。しかし、私は、あなたが戦いの後に勝利して私のもとに来ることを望んでいる。長い巡礼の道のりの後に、霊的な経験の光に満ち、霊において成長して、父に近づき、その聖なるご性質を与えるその瞬間に、あなたが謙虚に顔を上げ、父を見上げることができるように。――そのご計画は、あなたの魂のためのあらゆる準備を完全に整えているのだ。（127, 8-9）

道徳的悪

71.

人々よ、互いにぶつかり合う人々よ！私は、あなたがたが自分の悪を否定し、自分の過ちを隠しながら、自分たちが偉大だと考えるものを待っているのを発見した。

しかし、私はあなたがたに言う。その見せかけの偉大さにおいて自分を犠牲にする者と考える人間は、魂の貧しい者である。そして、徳の欠如のために他人の過ちを糾弾し、他人の過ちを裁く者たちには、私はこう言わなければならない。彼らは盲者であり、正義と真実からはほど遠い存在である、と。

72.

肉体の命を奪う者だけが殺人者なのではない。中傷によって心を傷つける者もまた殺人者である。心の感情、信仰、理想を殺す者は、魂の殺人者である。そして、そのうちの何人が、牢獄に鎖につながれず、自由に生きていることか。

73.

私がこのように話すことを不思議に思うな。なぜなら、私はあなたがたの壊された家庭を見ているからだ。あなたがたは、自分の義務を軽んじ、家族が苦痛と孤独に耐えることを、家庭の外で新たな関係に身を投じてしまうのだ。

周りを見回してみよ。どれほど多くの家庭が崩壊し、どれほど多くの女性が堕落し、どれほど多くの子供が親を失っているか。そのような人の中に、優しさや愛などあり得ようか。あの人の暴虐な、聖なるものを破壊した者は、犯罪者ではないとでも言うのか。

74.

あなたがた悪あがきに慣れきってしまい、一瞬にして何千もの人命を奪うことのできる、あの新しい殺戮兵器を発明した人々さえも、偉大だと称賛している。

そして、あなたがたは彼を「学者」とさえ呼んでいる。あなたがたの理性はどこへ行ってしまったのか？偉大であることができるのは精神によってのみであり、真理の道を歩む者だけが真の学者である。（135, 36-39）

悪の無力さと儚さ

75.

あなたがたの目には、人間の盲目は偉大であり、極めて偉大であり、人間が行う悪のすべては恐ろしいものに見える。しかし、それでもなお、私はあなたがたに言う。それは、私の正義の力、運命と生死、そして創造物の主であるその神性に対しては弱いものである。（54, 70）

76.

私のように強力な存在のみが、私と戦うことができる。しかし、もし私から神性を奪ったとしても、それが私に敵対すると思うのか？それとも、それ無しに生き得るとでも思うのか？無から何も生み出せない。

77. 私は万物であり、決して生まれたことはない。私は始まりであり終わりであり、すべての被造物のアルファであり、オメガである。

78.

私が創造した存在の誰が、神まで昇りつめることができると想像できるか。すべての被造物は服従であり、神であるためには、限界を持たないことが必要である。権力と偉大さという夢を抱いた者は、自分の滅びという罠に落ちてしまうのだ。（73, 34-35）

79.
まことに、あなたは言う。私の愛に対抗しうるなどない。敵はおそろしく、敵する勢力は多く、真理と正義に立ちおうとした武器は、常に脆いものであった。
80. 悪勢力が神の正義に対して繰り広げた戦いは、あなたにとって終わりのない絵のように見えた。
それにもかかわらず――永遠という観点から見れば、それは瞬くほどに過ぎず、あなたの魂が清められた時に犯した過ちは、あなたの魂が私の愛に満ちた正義によって速やかに消去される、小さな汚れのようなものとなるだろう。（179, 12-13）

許しの力

81.
すべての人を、私はあなたに託す。そして、ここにいるこの民をあなたの手に委ねて見よ。いかなるときも、あなたは面と向かって立ち上がり、互いに愛し合い、互いの悔い改め合うようになるのか。いかなるときも、ついにあなたの兄弟に赦しを請うのか。
82.
愛から生まれた赦しこそが、私の教えの唯一の教えであり、それは悪を善と変え、罪を恵みある贈り物へと変容させる強さを持っている。
83.
赦すことを学べ、あなたの世界に平和がもたらされるだろう。たとえ困難な愛であろうとも、平和をもたらすべきである。時宜を得た和解こそが、あなたが主導権を発揮することを気づいていないのか。（138, 12-14）
84.
あなたが人間である限り、あの学校の私の思い出は、私自身の娘たちを赦し、祝福し、癒すように、あなたをまた、その困難な人生の道のりにおいて、自分に不当なことをする者たちを赦し祝福し、自分に悪をなす者たちに対して可能な限りの善行をなさい。
そのように振舞う者は私の弟子であり、まことに、私は彼にこう言う。その者の罪は赦され過ぎるであろう。なぜなら、試練の瞬間に、私は彼を私の力を感じさせるからである。（263, 56）
85.
互いに赦し合いなさい。そうすれば、あなた自身にとっても、またあなたに不当な扱いをした者にとっても、安らぎをもたらすことになるでしょう。憎みや恨みの重荷を背負ってはいけません。心を清く保ちなさい。そうすれば、あなたは私の顔を見出し、私の真の弟子として生きるようになるでしょう。（243, 63）

第1章 現世と来世のつながり

霊界からの霊感と助け

1.
あなたがたは皆、霊的完成の階段を登っている。ある者はあなたがたが今のところ理解できないような段階に達しており、またある者はあなたがたの後を追っている。
2.
闘い、愛、そして努力によって偉大な偉大な魂たちは、小さな弱い魂たち、遠くにいる者たち、怠惰な者たちとの調和を求めます。彼の魂は高貴で崇高であり、私の性質である。そしてあなたに対する彼の愛は非常に大きなものです。
3.
これらの魂は、自分たちが最も高次の発展のために創造されたことを知っている。彼は神の子供たちにとって無縁な存在ではないことを知

っている。創造においては、すべてが生命であり、動きであり、均衡であり、調和である。それゆえ、これら無数の存在たちは皆、努力し、において自分の喜びを見出す。彼は、そのようにして主を賛美し、隣の進歩完成に奉仕しているのだと悟っているからである。

4. 今日、あなたがたは私の律法から外れているため、これらの天使的あなたがたへの影響はない。しかし、もしあなたがたに、彼らがその働きやインスピレーション、メッセージを感じる能力があれば、彼らが自分の存在を捧げている無数の通信高度なものの一端を理解することができるだろう。

5. あなたがたはまだなければならない。それらの魂は、創造の律法への愛着から、自分たちふさわしくないものを決して尊ず、禁じられたものには手を触れず、また、創造の根源的な構要素を汚れに陥らせないために、自分たちが立ってはならないと知っている場所には決して踏み込まないのだ。

6. それとは対照的に、地上の者たちはしばしば異なる態度をとっていることか。彼らは、この世で権力が強くなろうとするあまり、私の教えに対して敵意はないまでも、科学という名前を用いて懐疑的な態度をとり、来世の存在を否定し、そのようにして自分たちを取り巻く自然の調和を破っているのだ！

7. いやなことだ、人間は霊の覚醒と共に、王位に値する存在になるべきであり、そのようにして霊の導きを受けるようになるのだろうか。

8. まことに、私はあなたに告げる。これさえあれば、あなたを神聖なる山の頂へと、確かな道筋へと導くのに十分である。そこでは、今やあなたがた善行い、善悪の中であなたがたを支えることのみを目的としている先達たちが歩いてきた、まっすぐで光満ちた小道を目の前に見出すだろう。彼らは一歩一歩、あなたがたを道の終着点へと近づけていく。そこでは、あなたがたの帰還を待っておられるのだ。

9. 私は、それらの存在たちの善と霊性向上について語ったので、彼らもまた、あなたがたと同様に、初めから自由意志の賜物であるすばらしい聖なる衝動の自由を与えられていたことを知らなければならない。これは、創造が神々に対して抱く愛の証である。（10, 28-36）

10. あなたがたは一人ではない。私の仲間たちが、一人ひとりと共にいるからだ。しかし、もしそれが不十分であると思われるならば、私はすべての人間や被造物の傍らに、霊性の存在を置いた。それは、あなたがたの歩みを見守り、いかなる過ちをも正させ、孤独の仲間として、また人生の伴侶として、あなたがたに仕えるためである。それこそが、あなたがたが守護天使と呼ぶ存在たちである。

11. 決して彼らに対して恐れや躊躇をとってはならない。また、彼の不在を嘆いてあってはならない。なぜなら、あなたの力だけでは、

なしえないような未来を乗り越えるには、不十分だからである。あなたがたは、自分たちより先進んだ存在、そして私が彼らに託したゆえにあなたがたの未来をよく知っている存在を必要としているのだ。

12. あなたがたが霊に達しない限り、それらの存在たちの戦いは非常に困難である。なぜなら、あなたがたは、彼の霊性向上を支援するために、ほんの何も貢献していないからである。

13. もし、あなたがたの霊によって、目に見えず、何の苦もなく、あなたがたの精神進化のために働いている善なる存在を感じ、認識できるようになれば、あなたがたは、自分の罪のために彼らにこれまで苦労させ、苦しませたことを後悔するだろう。

しかし、この気づきがあなたの中に湧き上がるのは、あなたの心の中ですでに始まっているからにほかなりません。そうすれば、彼らに対する同情、感謝、そして理解が芽生えるでしょう。

14. 守護たちは、自分たちの努力があなたがたによって支えられ、彼のインスピレーションがあなたがたの高貴な調和しているのを見るとき、どれほどの喜びと幸福に満たされることか！

15. あなたがたは、霊性界に、あなたがたがほかに多くの天使的友人がいます。

16.
明日、霊性生についての認識が地球全体になったとき、人類は、あなたの傍らにそれらの存在の重要性を認識し、人々はより深く祝福されるだろう。（34, 70-76）
17.
まことに、あなたがたは告げる。もしあなたがの目が開かれるものであれば、肉体の感覚で霊性存在を感じたいと、多くの人は願うだろう。なぜなら、その時は、絶えずあなたがの周りで脈打っているあの世界を、その繊細な感性をもってのみ認識するのは、魂のものからである。
18.
そう、人類は、もしあなたが霊界から遠離ていると感じるとしても、それらの存在たちは人間から遠離ていると感じない。彼らにとって距離、境界、障害は存在しないからだ。彼らは霊界に生きている。それゆえ、魂の発展を完成するための最高の機会である人間たちの生活から、遠離ているはずがないのだ。(317, 48-49)
19.
あなたと神との間、あるいはあなたと霊的存在との間に存在する唯一の距離は、物質性距離ではなく、霊性距離である。それは、霊感や霊性影響を受け入れるための準備、清かさ、あるいは愛の姿があなたに欠けていることによって引き起こされるものである。
20.
決して、あなたと神との間、あるいはあなたと霊界との間にそのような隔りを設けてはならない。そうすれば、あなたは、それを求めることなく常に私の愛が注ぎ込まれ常に享受することとなるだろう。霊界は、それを感じ取る準備をしている者たちの心に、常に近くにあるという感覚を、あなたは常に抱くこととなるだろう。
21. 現代の人類が、自分たちと霊性生との間に築いている隔りはなんと大きいことか！
それはあまりにも大きいため、今日の人々は神を自分たちから無限に遠く、天の国を遠離た、手の届かないものと考えているのである。（21, 76-78）
22. 私はあなたは告げる。霊界の影響下に生きていない人間は一人として存在しないのだ。
23.
多くの者がそれを否定するだろうが、人間の理性が、霊的存在を知覚するだけでなく、私自身の思考、感情をも受け取ることが可能であると証明できる者は、誰一人としていない。
24.
これは全人類の務めである――この務めが成されれば、それを大きな喜びをもって受け入れる開かれた心に出会うだろう。同様に、それに反対する敵対者にも遭遇するだろう。
25.
しかし、彼らは霊界の光が人々の生活の中に登場するのを妨げるために、一体何ができるというのか。不信者たちは、その光を遮断するために、どのような手段を講じることができるというのか。神の創造物から引き離すことができるというのか。その普遍的影響の外にいると自認する者など、いったい誰がいるというのか。
26.
わたしはあなたがの霊、魂、そして理性に向かって語っているが、改めて言う。あなたがたは地の存在たちからメッセージやアイデア、インスピレーションを受け取っているのだ。そして、あなたがの魂がどこから来たのか、肉体と連結したのかが分からないのと同様に、目に見えず、触れることもできない存在が、誰が魂に語りかけているのかも分からないのである。(282, 33-37)

混乱し、悪意に満ちた霊たち

27.
この時は、第一期、第二期とは異なる。今日、あなたは解放された目に見える要素と目に見えない要素の混合の中に生きている。警戒しない者たちが犠牲を受けるだろう。なぜなら、その者たちは眠るからだ。そして、備えのある者たちが戦わなければならない！

28.
数千の目に見えない目があなたを見つめている。ある者はあなたの道に待ち伏せに陥れようと待ち構え、またある者はあなたを守ろうとしている。（138, 26-27）
29.
混乱した魂の軍団は、人の無知、鈍感さ、そして霊的現実の欠如を利用し、人々に戦いを繰り広げている。そして人々はその攻撃から身を守るための愛という武器を備えていないため、この戦いにおいて無防備な存在のように見えるのである。
30. この戦いに勝利するために、どのように備えるべきかを教えるために、私の霊的教えがあなたに届く必要があった。
31. あなたの世界の神経に入り込み、息づいているあの目に見えない世界からは、人の心、感情、あるいは意志を操り、彼をの猟奇的、嫉妬、道具、犠牲者へと変えてしまう影響が放たれている。
至る所で霊的活動が現れているにもかかわらず、世の人々は依然として、自分の精神を取り巻くものを認識しようとしない。
32.
戦いを始める前に、闇に打ち勝つ必要がある。そうしてはじめて、人の内に光が差し込むとき、すべての人が真の兄弟として団結し、長い間彼らを悩ませてきた力に対して挑戦を仕掛けによって勝利へと導くことができるのである。
33.
人類が気がついたときには、人々や国家は、そうした影響の奴隷に陥ってしまった。それらが引き起こす新たな病は、人々を麻痺し、利益者たちを興奮させている。
34.
人間は、どれほどの死、どれほどの混乱に直面を自招してきたことか。祈り、道徳、そして霊的な光が、不浄に混乱した存在たちを引き寄せた。しかし、光を準備なくこの世を去った者たちに、一体何が期待できようか。
35.
そこには、あなたが敵対、拒絶、混乱させ、屈辱を与えた者たちがいる。彼らがあなたから逃れることができるのは混乱と闇だけであり、彼らは攻撃することができず、ただ非難するだけである。（152, 22-28）
36.
闇の存在たちの大半は、霊のように人類の中に侵入し、混乱を引き起こし、人の思考を混乱させ心を暗くする。そして、この人類は、こうした攻撃から身を守るための武器があるにもかかわらず、あるべきその使い方を理解しておらず、またある者は、自分たちがそれを所有していることさえ気づいていない。（140, 53）
37.
今日の人類は、あなたがの目にはその数が膨大に見えるかもしれないが、彼を取り巻く霊界と比べれば極めて小さい。あの軍団はしかなるべき待ってから人の道に侵入していることか。しかし、人は自分たちをとりまくその世界を認識せず、感じもせず、聞くこともない。（139, 29）
38. 罪深い生活に陥った人間は、闇の存在たちの大軍を引き連れて歩き、その道筋に甚大な影響を及ぼすことになる。（87, 7）
39.
もしあなたが、ここから「霊的谷」――この世で霊的なものから何も重んじなかった物質しか存在しない場所――を見ることができたなら、あなたはまちがいなくこう叫ぶだろう。
しかし、一瞬たりとも「神の摂理はなんと恐ろしいことか！」などとは決して言わないだろう。いや、それとは逆にこう叫ぶはずだ。「私たちは自分自身に対してなんと思いやりがなく、不公正で、残酷なのだろう！
私たちの魂に対してなんと無関心で、イエスの弟子としてなんと冷淡であったことか！」
40.
それゆえ、父は、それらの存在たちが時折、あなたの生活の中に姿を現し、彼の暗く安らぎのない生活についての痛ましい、恐ろしい知らせをあなたに伝えることを許されるのである。彼らは霊的な領域の暗く
光なく、かつて住んでいた地球の美しさや豊かな世界の住人である。（213,52-53）

41.
この世を目指すさまよい、様々な形で人々の心の扉を叩く霊群は、しばしば、あなたがに目覚め、現実に対して自覚開出「過ちを悔い改め、自己を新たにしなさい」と告げようとする声である。そうすれば後、あなたがが肉体を失い地の塵に帰るとき、彼のように孤独や
無知、そして物質主義を嘆くことのないように。ここに、闇の中からもが湧き出ていることを悟りなさい。なぜなら、私の意志なしに木の一枚の葉さえ動くことはないのだから。同様に、日々増え続けるそれらの霊性現は、やがて人々を圧倒し、最終的に人類の破滅をもたらすことになるだろう。（87, 65）
42.
あなたがの元を去り、あの世へと旅立つ人のために祈りなさい。なぜなら、すべての人が道を見いだせるわけではなく、すべての人が救いを得ることができるわけではなく、まだすべての人が最期に平安に到達するわけではないからである。
43. 霊界において、物質的な生活の幻想を抱いて生きる者もいれば、激しい後悔の念に苦しむ者もいる。
また、感覚を失い、肉体と共に地中に埋められている者もいれば、嘆き、利己心、そして人間の無知によって引き起こされた物質に縛られ、平安、光、そして前進を奪われているために、この世の残された家族と別れることができない者もいる。
44.
まだこの世にとどまっている魂たちが、不必要な苦痛を経ることなく、先へ進むことを許してあげなさい。彼らがこの生で所有し、愛した財産を手放し、真の遺産を得るに相応しい世界へと速やかに旅立てるようにしてあげなさい。（106, 35-37）
45.
あなたがが霊の谷に足を踏み入れる際、彼らに近づき、あなたがが彼らに示した慈悲に対して感謝の心を受け取ることは、あなたがの魂にとって非常に慰めとなるだろう。そして、彼らが光に満ち溢れているのを見るとき、あなたがの喜びはさらに大きなものとなるだろう。
46.
しかし、もしあなたがが、混乱によって心を曇らされたあの惨めな存在たちに会い、彼があなたがからの愛の行為を期待していたのに、あなたががそれを彼らに与えなかったことを知ることになれば、それはどれほど痛ましいことだろうか。（87, 58）
47.
まことに、わたしはあなたに告げる。わたしがあなた方人間にこれほど多くの愛と慈悲をもって扱うように、わたしは同じ慈愛をもって、あの世で過ちの過去を償っている者たちに向き合うのである。
私は、闇のような彼の動機に、以下である彼の自責の念から彼を救済するために、これらの存在たちを私の光を与える。そして、かつて人々の心に苦痛をもたらした者たちが、今、認識の光に照らされ、自らの救済の恩人となり、守護となるように、彼を人の間に送り出すのである。（169, 6）

人間をめぐる霊たちの戦い

48.
あなたの周りを漂う彼らは、霊たちの世界、すなわちあなたの領域である人間には見えない存在たちが存在し、彼らはあなたを手中に収めようと互いに争っている。
49. その争いの原因は、双方の発達段階の違いにある。
光の存在たちは、愛、調和、平和、そして完全性という理想に支えられ、人類の道を照らし、常に善を発し、人々の幸福につながるあらゆることを明らかにしている方で、依然として他の物質主義に固執し、
自己中心的なこの世の愛から卒業することができず、あるいは人間の感覚や物質的欲求に養っている存在たちは、人の道を暗く覆っている。彼らは人の内なる霊よりも心を目覚し、意志を媒介することで、人々を誘惑し、自らの計画に導き、あるいはあたかも自分の体であるかのように彼を乗っ取ろうとするのである。
50.
光の霊たちが、永遠の道に開くために人の魂を救い取ろうとしている間、あの祝福された人々が愛と慈悲の病の床で看病する者たちと

大きな責任を負う人々の傍らの助言者たち、若者の指導者たち、子供たちの護衛たち、忘れられ孤独に生きる人々の伴侶たちとなるよう努めている方々。霊性豊かな生、高貴さと愛の感情を持たない存在たちの軍団、同様に絶望した人間社会の中で活動している。

しかし、彼の目的は、あなたが霊界への道を歩みやすくすることではない――いや、これらの存在の意図は全く正反対であり、彼の目的は世界を変え、引き裂きその支配者であり続け、地上に永続し、人間を変え、彼を自らの意志の奴隷や道具にすること――一言で言えば、彼が常に自分たちのものと考えてきたもの、すなわち世界を失わないようにすることである。

51.

さて、弟子たちよ、両者の間では激しい戦いが繰り広げられている――それは、あなたの肉眼には見えない戦いだが、その影響はやがてあなたの世界で感じられるようになっている。

52.

人間自身を守り、悪しき影響から解放されるためには、自身の内なる真理についての知識が必要であり、霊と共にあることを学ばなければならず、また、善と悪、光と闇、精神と物質、正義という

の壮大な戦いにおいて、武器として用いることができるよう、自らの存在がどのような能力を備えているかを知らなければならない。

53. まさに、光の霊的世界はその働き、戦い、そしてすべてを結集し、いのちの目的、世界の霊性への道を歩み出そうとしているのだ。

54.

これらすべてについて考えてみよ。そうすれば、人類救済に対するあなたの霊性と、闇の勢力との戦いの激しさを想像できるだろう。彼にとって、その戦いはわずかなものであり、あなたは彼から与えられるすべての注意を受け取るだけで満足し、しかし、彼の戦いを支えるために、決して彼の側に立ち、彼を助けることはない。

55.

彼に仕えることを望む者はおびただしい数であり、彼の霊的王国を広め、その証しとなる者は実に少ない。しかし、そうした者たちはいかに力強く、人生を歩み、いかに守られていると感じ、いかなる恐れも霊によってその精神を支配されていることか！

56.

大多数の人々はこの二つの影響の間で揺れ動いている。どちらにも決着をつけず、物質主義、完全に身を委ねることもなければ、そこから解き放たれ、自らの霊性を精神化すること――すなわち、善と知識、そして精神化によってそれを高めること――のために努力することもない。彼らは依然として、自分自身との闘いの真っ只中にいる。

57.

良心の声ともはや気に留めず、自らの魂に関するありとあらゆる事柄において、物質主義、完全に身を委ねてしまった者たちは、もはや戦ってはいない。彼らは戦いに敗れたのである。

彼らは勝利したと信じ、自由であると信じているが、自分たちが囚われであることに気づいておらず、彼を絶滅するためには、光の軍勢が闇と降りてくる必要があることに気づいていない。

58.

私はこの光のメッセージを、地球のすべての民族に送る。それは、人々が目覚め、彼らがもう負けずに戦わなければならない敵は誰であるか、そして彼らがそれに対抗するために携えている武器は何であるかを認識するためである。（21, 53-63）

神の霊界とのつながり

59.

弟子たちよ、目覚めよ。そして、あなたがたが生きているこの時代を恐れるな。私は言う、私の証人となる者がいないと同様に、私の教えによって開かれたあの世の門を、誰も閉ざすことはできない。あの世界から、光と希望と真実のメッセージが人々に届くことを、誰も妨げることはできない。(60, 82)

60.

わたしは、あなたがたが霊界、あの世の存在たちと交流することを望んだ。これは、第一の時代には認められなかったことである。なぜなら、当

時
、彼女たちも、あなたがたも、その準備ができていなかったからである。この扉は、この時代のわたしによって開かれたものであり、それによってわたしは霊者たちの昔と、わたしの約束のいくつかを成就させるのである。
61.
1866年、この目に見えない扉があなたがたのために開かれ、また光の霊たちが人々に伝えるであろうそのメッセージを告げ知らせるために選ばれた者たちの伝達器官が現れた。
62. その年よりも前にも、地球の諸国民の中に、私の来臨を告げる際立った霊存在たちが現れていた。（46, 15）
63.
もし今日の人々がそれほど盲目で無感覚でなければ、彼らは間違いなく純粋の霊界からのメッセージを受け取ることになるだろう。そして時折、人の目覚めに向けて絶えず働きかけている無数の存在たちに気づき、自分たちが決して一人ではないと悟るだろう。
64.
ある者はその世界を「目に見えない」と呼び、ある者は「あの世」と呼ぶ。しかし、なぜそうか。それは単に、彼が霊的なものを見るための器官を欠いているからであり、また彼の人間的貧しさゆえに、心の中で感じる世界から遠離れ、異質なものと感じさせられているからである。（94, 32-33）
65.
あなたがたは、霊存在が自己を見たり、あなたがたと接触したりすることに驚いているが、それと同時に、あなたが自身もまた自己表現を行い、他の世界や他の領域においてさえ自己を見ているということを、思い至っていない。
66.
あなたの肉体は、祈りの瞬間にあなたの魂が私と結びついていることに気づいていない。この瞬間を通してさえ近づくことを、肉体は認識できないのだ――私の霊だけでなく、祈りの瞬間にあなたが思い起こす霊的な兄弟姉妹たちの接近も同様である。
67.
同様に、あなたがたは休息の時間、つまり肉体が眠っている間に、魂がその発達階層の度合いに応じて肉体から離れ、遠く離れた場所さらにはあなたがたの知性では想像もできない霊的世界までも見ることに気づいていない。
68. 誰も、これらの事に驚いてはならない。あなたがたは今、時代の終わりに近づいていることを理解せよ。（48, 75-78）
69.
私は純粋な思考、それが霊界にいる兄弟姉妹たちとあなたがたが意思疎通を図るための言葉となることを望む。そのようにして互いに理解し合うのだ。まことに、あなたがたの献身的な祈りは彼らにとって有益となるであろう。同様に、私の弟子たちの影響力、彼らの霊感、そしてあなたがたの探求は、あなたがたが共に私のもとへ来るために、人生の道において強い助けとなるであろう。
70.
霊を高めなさい。そうすればあなたがたは地上において、あの存在たちの愛に満ち溢れた臨在を体験することになるだろう。すなわち、地上に子供を残して旅立った母の愛無、そして同様にこの世をさらざるを得なかった父の温かさと思慮である。(245,7-8)
71.
この著作は、霊的存在たちがそこに現れていることを知ると、多くの人から排斥され、揶揄されるだろう。しかし、心配する必要はない。私の教えのこの部分を理解するのは、無垢な者たちだけからである。
72.
主の使徒たち、預言者たち、そして聖者たちは、霊的な光の存在たちの影響を受けて、人類がそれに気づくことなく、どれほど頻繁に世話をかけてきたことか。また、あなたがた一人ひとりが、霊的存在たちの意志に従って行動し、語ってきたことが、どれほど頻繁にあったことか。そして、これまでに起こってきたままにこのことを私は今、あなたがたに確認するのだ。（163, 24-25）
73.
もし、単なる育ちからあの世のつながりを持とうとするならば、あなたは真理を見出すことはできない。もし、偉大さの渇望や嫉妬からそうするならば、あなたは真理を受け取ることはない。

もし誰かが偽りの目的や利己的な理由であなたの心を探すならば、同様に、私の霊的な光のつながりを得ることはできないだろう。
ただ、あなたの真の心、純粋な祈り、愛、慈悲、そして寛容さが、あなたの魂を広げ、空間を満たし、私の意志の及ぶ限り、霊的な世界へと至るという奇跡を生むのである。
74.
これこそが、聖霊があなたに授けた恵みである。それは、あなたがこの地上に生を受け、死を迎えて存在せず、私の被造物の一人も永遠の命を失ってはならない、ということを確信するためである。
なぜなら、この「第三の時」において、あなたはこの世の生を去った者たち、すなわち、あなたが知っていた者たち、愛していた者たち、この世に生まれ永遠においては生まれていない者たちをも、霊的な形で見ることができるようになるからである。
75. あなたの多くは、私の「働き手たち」の助けを借りて、そうした存在たちと接触してきた。
しかし、まことに私はあなたに言う。これは完全な接触の方法ではない。そして、肉体をまとった魂と肉体を離れた魂が、もはやなんら物質的あるいは肉体的手段を用いることなく、霊から霊へと互いに意思疎通を図る時が近づいている。すなわち、霊感、魂の直観という賜物、啓示、あるいは瞑想を通してである。
あなたの霊眼は、あの世の存在を感じ取れるようになり、その後、あなたの心は霊界に住む存在たちの生命の喜びに共感するようになる。そうすれば、あなたの霊的な感覚、そしてその認識と愛は、大きなものとなるだろう。
76.
そうして、あなたがは、自分の魂が何であるか、魂が誰であり、かつ誰であったかを、自分の肉体に相当するような様相に自己を閉じ込めることなく、自分自身をもってして理解するようになるだろう。
なぜなら、父はこう言われるからだ。「たとえあなたがの肉体の物質の塵さえも、あなたがの霊はしかと私の神聖な霊性に似ていることか！」（Ⅱ44, 21-24）

第2章 罪と贖罪、試練と苦しみ

悔い改めと贖罪の必要性

1.
私がしばしばあなたがたに与えたのと同じ教えを説くことをやめないのは、そうしてはじめて、自分たちが犯した悪を理解できる者もいるからである。そして、他者に味わわせたのと同じ試練を通ることで、彼らは他者に感じさせた痛みを知るようになる。
これは彼の魂を照らし、理性と悔い改めにいたる私の律法の成就をもたらすことになる。
2.
しかし、もしあなたがが苦しみを通ることを避けたい、あるいは業火で焼かれることを避けたいと望むなら、悔い改めを善行、そして良心が命じるあらゆる行いによって、自分の罪を償うことで、それを成し遂げることができる。
そうすれば、愛の賃金を清算し、かつ同胞から奪った名誉、命、あるいは利、健康、喜び、あるいはパンを返すことになるのだ。
3. 私の正義の現実が、あなたがが自分の父について抱いていたイメージとはしかと異なるかを見てください！
4.
忘れてはならない。私が「あなたがのうち、だれ一人として滅ぶ者はない」と言ったとき、私は確かに、「あらゆる罪、あらゆる過ちをあの書から消し去らなければならない」とも言ったのだ。私がとくに強調したのは、あなたがの努力である。あなたがには、依然として自由意志があるのだ。
5. もしあなたがが、高慢にも神の人がそなえを用いているような、昔からの手順の通りを望むのであれば、その結果を見てみよ！
6.
もし、あなたがが、他人を傷つけた物質で、自分自身が満たされることを望むなら、私の正義を受けるために、あの世、煉獄の待つ必要さ

えない。なぜなら、この地上であなたが最も予期しない時に、あなたは他人を傷つけるのと同じ危機的な状況に自己置かれることとなるからだ。

7.

しかし、もしあなたがより高き助けを求めているのであれば――単にあなたが最悪の苦痛から解放されるためだけでなく、高潔な思いと善き感情を受けるためにも――祈りなさい。わたしを呼び求めよ。そしてより良き者となるために、試練の中で強くなるために、――一言で言えば、愛をもって、あなたが父と隣人に対して負っている義務のために。（16, 53-59）

8.

よく誰からこう尋ねられる。「神は、もしあなたが私たちの過ちを赦してくださるのなら、なぜ私たちが苦しみをもってそれを償うことを望まれるのですか？」それに対して私はこう言う。私はあなた方を赦すが、あなた方の魂に清らかさを取り戻すためには、それらの過ちを償うことが必要なのである。（64, 14）

9.

私は、人間から最後の汚れをお消し去りになるとあなたが告げるが、同時に、各自自らの汚れを洗い流さなければならないとも告げる。私が「あなたがたが量るその尺度で、あなたがたも量られる」と、「時、たのまり取らなければならない」と告げたことを思い出せ。（150, 47）

10.

人類が私に捧げる物質的な供物について、私はそれが真に善きものである場合のみ、その善意を受け入れる。なぜなら、供物の中に、常に寛大で高潔な意図が表れているとは限らないからである。

人々は、自分の悪行を隠すため、あるいはその見返りとして私からの恩恵を得るために、どれほど豪華な贈り物を捧げようとするか。それゆえ、私はあなたに告げる。魂の平安は金で買えるものではなく、たとえあなたが私に最高の宝を捧げることができたとしても、物質的な富によってあなたの心の汚れが洗い流されることはないのだ。

11.

悔い改め、私を拝したことへの痛み、刷新と善き行いへの願い、これらすべてを、私があなたがたに教えた謙虚さをもって――そう、そうしてこそ、人々はどれほど魂高貴の真の捧げ物を私に捧げるのであり、それは香り高い花輪よりも、あなたがたにとって限りなく喜ばしいものである。508 第2章(36, 27-28)

贖罪の法則

12.

あなたがたは次の機会を与えられてきた。そこには、あなたがたに対する私の限りない愛が表れている。なぜなら、私はあなたがたに恵みを与え、あなたがたの存在に過ちを償い、魂を清め、完成させる機会を与えたからである。かつてあなたがたが考えていたように、あなたがたを罰したり、永遠に破滅させようとするのではなく。

13.

これらの教えを知り、それが真実であると信じる者が、それによって自分の魂をさらに厳しい贖罪に召されながら、あえて他の教えに背を向けるだろうか。

14.

なぜなら、私の正義が汚れを取り除き過ちを償うための新たな機会をあなたがたに与えるというのは事実であるが、同時に、機会が増えるごとに試練も増え、犯した過ちが重なるにつれて、その苦しみと悔いも一層激しくなるというのもまた事実だからである。

15. あなたがたの義務――罰と言うべきではないが――は回復、刷新、償い、最後の罪に至るまで清算することである。天の父、地の兄弟姉妹、霊界の者たちも、あなたが自身だけがすべきことをやって行き詰まらないよう、とはいえ、私に背いたあなたの呼び声に応えるだろう。もしあなたが孤独に見舞われたと感じるなら、私の存在を感じるだろう。そして霊界に、あなたがたの汚れの重荷を支えるために寄ってくるだろう。(289, 45-47)

16.
今日、私の愛と正義のみが、それを満足し、飢えている者たちを満たすことができる。私だけが、その完全な正義をもって、自分を絶対者を受け入れることができるのだ。
17.
もし彼が、魂の孤独がこの地の孤独より恐ろしいものであることを知っていたなら、彼はこの地の旅の最後の日まで、忍耐強く、勇気を持って耐え抜くであろう。（65, 73-74）
18.
たとえ彼がどれほど私を傷つけようとしても、私は自分の子供たちを憎むことはない。私は彼を守り、過ちを償い、彼が離れてしまった道へという反響を与える。しかし、私が彼を救ったとしても、彼は自分の行いの結果に向き合うことなく、それゆえ彼を決して正しい道へと導くのである。（56, 55）

試練と苦しみの原因

19. 自己を通して私はあらゆる時代の人々の存在を確信し、彼らのあらゆる苦悩とその根源が何であるかを知っている。
20. 太古の昔から、私は人々が偶像崇拝、権力の渇望、互いに命を奪い合うのを見てきた。
彼らは常に、自分たちが単なる物質ではないと言い、魂を信じなかった。そして、地上での人間としての役割を終えるときが来ると、彼らが物質的な生活の中で作り出したものだけが残り、精神としてのいかなる証拠も得られなかった。なぜなら、彼らはそれを求めず、考えもせず、精神の美徳に共鳴し、理解しようともしなかったからである。彼らは、神へと導く道を求めることなく、ただ生きることに満足していた。（11, 42-43）
21.
今日、文明の進歩にもかかわらず、あなたがたは物質的な点からますます遠ざかり、同様に、霊的なもの、清かなもの、神に由来するものからも遠ざかっている。それゆえ、地上での日々を過ごすことに、より強く、より幸せになりたいという願いにもかかわらず、人生の各段階においてますます大きな苦しみと、ますます大きな苦悩の中に陥っているのだ。
しかし、おお、地の住人たちよ、今やあなたがたは、わたしの律法の成就において一歩前進することになるのだ！（16, 35）
22.
あなたがたが人生の道で遭遇する試練は偶然ではない。あなたがたが必要だから、私がそれらを送るのだ。木の一枚の葉さえも、私の意志なしには動かない。そして私は、創造の大きな業も小さな業も共にする。
23.
目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、あなたがたはそれぞれの試練からどのような実を刈り取るべきかを理解し、その贖罪期間が短くなるだろう。愛をもって自分の十字架を背負いなさい。そうすれば、私はあなたがたの額をもってその贖罪を背負えるようにする。（15, 6）
24.
人々が笑い、楽しみ、虚栄にふけっている間、さらには私を否定するならば、なぜ彼らは、魂と肉体を苦しめる試練を取り去るときに、落胆し、震えるのか。そして彼らは言う、神など無いと言うのだ。
25.
人は罪を犯すほど十分に勇敢であり、わたしの律法の道から逸れることは厳然としている。しかし、贖罪、その負債を清算することになると、人は極めて臆病になる。とわたしは断言する。
それでもなお、私はあなたがたの臆病さを知り、弱さを守り、無知から引き離し、涙をぬぐい、失われた光を取り戻し、忘れられた私の律法の道を再び見出せるよう、新たな機会を与える。
26.
わたしは、第一の時代の時のように、魂のためにも、また体のためにも、命のパンとぶどう酒をあなたがたに与えるために来る。それは、あなたがたが、父の創造されたすべてのものと調和して生きるためである。
27. わたしの道には慈悲と忍耐が、あなたがたの道には苦悩と深淵、そして葛藤がある。

28.
主の道に満ちていると言う者は、自分が何を言っているのかが分かっていない。なぜなら、私はこの預言のために苦痛を創り出したわけではなかったからだ。しかし、光と平和の道から離れた者たちは、その道に戻るために、自分の罪の結果を味わわなければならない。
29.
なぜ、あなたがたは苦しみの杯を飲み干したのか。なぜ、主の救いも、私があなたがたに託した使命も忘れてしまったのか。それは、あなたがたが私の律法を自分たちの律法に置き換えてしまったからだ。そして、ここに、あなたがたの虚栄に満ちた嘘の結果がある。それは、苦しみ、戦争、狂信、失望、そして虚無、それはあなたがたを窒息させ、絶望に満ちたものである。
そして、物質主義に染まった人間、すなわち、あらゆるものを自分の算盤に従わせ、この世の物質的な富に価値を置く者にとって、最も難しいことは、この世を去った後なお、自分の迷いや欲望という重荷を負い続けなければならないということである。その時、あなたの魂の苦しみは極めて大きなものとなるだろう。
30.
ここで、あなたがの罪の重荷を振り払い、わたしの律法を守り、すぐに来なさい。あなたがが傷つけたすべての人々に許しを請い、残りはわたしに委ねなさい。あなたがが本当に愛することを知れば、愛する時は短いものとなるからである。（17, 37-43）
31.
心に秘めた悲みを抱えている者たちよ、皆、わたしのところに来なさい。あなたがたは、裏切りによって与えられた痛みを密かに抱えており、深く傷つけられたことで憎しみを抱いていた存在であったため、その根は極めて大きい。
32.
心の中で祈りなさい。そうすれば、祈りがあなたを導き、かつてあなたが裏切られた時を、あなた自身が作ったのではないかと気づくことができるでしょう。そうすれば、祈りはあなたの愛、信仰、信頼を裏切った者たちを赦さなければならない、という思いをあなたに強めてくれるでしょう。
33.
まことに、あなたがたは言う。あなたがたを傷つけた者を赦したその瞬間、あなたがたは私の平安を満喫するほど感じるだろう。なぜなら、その瞬間、あなたがの霊と私の霊は一つとなり、私と私のマントを広げ、あなたがたを抱き、二人を私の愛で包むからである。（12, 49-51）
34.
まことに、師はあなたがたにこう言う。わたしはすべての魂のために、平和と完全なる王国を用意した。しかし、わたしが用意したこの王国には、別の王国、すなわち、世界が対立している。わたしの王国は謙遜、愛、徳によって勝ち取られるが、もう一方の王国を手に入れるには、傲慢、野心、高慢、貪欲、利己主義、そして悪意が必要とされる。
35.
いつの時も、この世は私の王国に抵抗してきた。私に従う者たちは、目に見える迫害であれ、目に見えない力によるものであれ、常にその道において試され、誘惑されてきたのである。
36.
あなたがたが私のもとへ至るために次の一歩を踏むのは、今の時だけではない。私の御前に達しようと努める中で、あなたがの魂がまずくのは、今回が初めてではない。いつの時も、あなたがたは自分の内なる深みで戦いを繰り広げてきた。
37.
わが霊は、あなたがの内なる闇、闇の力、偽りの光、偽りの美徳、物質、あらゆる偽りのもの、この世のあらゆる偽りの栄光の戦いを引き起こした。（27, 3）
38.
あなたがたが私のために耐えてきた苦痛を、私は祝福する。なぜなら、私のためにあなたがたが受けるすべての苦しみは、あなたがたを永遠に尊い者とするからである。（38, 61）

試練における悔い改め、服従、そして謙遜

39.
人間の魂は、魂にとって、自分を責めるべきことをすべて思い出させ、罪を犯したことを悔い改めるまで、決して安らぎを得ることはありません。（詩99, 38-39）

40.
永遠の命の望みがなければ、人はあらゆる試練の中で絶望に陥り、高き理想がなければ無意義さに失望するかもしれません。失望するかもしれません。気力を失うか、あるいは悪の中に滅びてしまう。（詩99, 38-39）

41.
わたしはあなたがたに、自分の十字架を愛すべきだと言う。なぜなら、それを背負わなければならないのであれば、それは救いであり、その痛みがあなたがたの心に深く傷をつけることはないからだ。わたしは本当に自分の十字架を愛している、おお民よ。しかし、あなたがたは、私が自分の十字架を何と呼んでいるか知っているか。私の十字架は、私がこれほどまで愛している、おお人々、すなわちあなたがた自身なのだ。（詩144, 20）

42.
私が定めたことである悔い改め、そして謙遜は、試練の道を短くするだろう。なぜなら、そうすれば、あなたがたは荒野の道を二度歩く必要がなくなるからだ。
しかし、試練の中での不満、あるいは神の宣告を出れば、その試練は長くなることになる。なぜなら、その教訓を学ぶまで、その道を再び歩まなければならないからだ。（詩139, 49）

43.
わたしはあなたがたに言う。この時に人間自身が、試練は極めて厳しいものである。なぜなら、それは人間の救いのために必要だからである。

44. すべての人にとって最愛である者に対して、神の正義が成され、すべての人間が被造物の行いについて問われるのである。

45.
人間が、霊的な贖いにおける意味を学ぶことが、しかに重要であるか。そうしてはじめて、魂は神のみが与える罪の赦しという祝福と、愛と恵みと慈悲、さらには喜びをもって、自分の義務を受け入れることができるのだ。それによって、過去と現在の汚れを洗い流し、負債を清算し、法の前で無罪となることを知ることによって。

46. 愛をもって苦しみ、私の正義を尊重し、各自が自分の十字架に身を委ねていなければ、苦しみの中に魂の高揚は出ない。
しかし、試練の中における高揚こそが、人々に「贖いの法則」とは何かという認識を与えることができるのである。（詩52、36-37、42-43）

苦しみと痛みの意味

47.
もしあなたがたが人生の試練の中にいれば、強くなることは難しいだろう。しかし、贖いには「正義、償い」とは何かという概念を持っていれば、試練は「勝利のための高揚」を、信仰の中に見出すことができるだろう。

48.
私は、あなたがたの魂が様々な方法で試されることを望んでいる。なぜなら、私はそれを祝福し、鍛え上げて完成させるからである。そのために、私はあらゆる物とあらゆる人を用いる。私は義人をも、また

悪人をも道具として用いる。あなたはお用いになるために、まずあなたを私に従わせる。
それゆえ、私はあなたがたに言う。もしあなたがたが信徒として献げられるなら、私はすなわちあなたがたの信仰を思い起こしなさい。私はそれをもって、その試練の理由をあなたがたに説明してあげるだろう。
49.
すべての者が救われなければならない理由がある。ある者は早く、ある者は遅く、そうしてすべての者が私を理解し、愛することを学ぶためである。
苦難は病気、中傷、不名誉は、罪の償いだけに届くわけではない、非常に苦しいものである。
あの「第二の時」において最も恐ろしいが、あなたが想像しうる最も苦しいものを経験されたことを思い出せ。その苦しみを従順に従順に従順に。そして愛こそが十字架の重荷を軽くし、試練をより早く過ぎ去らせるのである。（4, 4-6）
50.
あなたを襲うすべてのものは、あなたを清めることを目的としているが、誰がそう言い切れるだろうか。あなたが苦しみから決して痛みを実りのないものにしてはならない。その痛みから、知恵、勇気、強さ、そして感受性という恩恵を得ることができるのだ。（1, 59）
51. 弟たちよ、痛みはあなたがのぞむから悪、実を取り除き、練達をもたらし、過ぎ去るものであることを知れ。
52.
このようにして、あなたがのぞむは、あなたの理解が深くなるよう、あなたを成長させる。しかし、もしあなたが理解せず、私の賢明な計画の意味を見出せないなら、実りのない苦しみをのぞむならば、その痛みは無意味であり、あなたはその報いを受けることができない。（58, 57 58）
53.
人々よ、もし慈悲と愛が神おられるのなら、なぜ善人は悪人によって、義人は罪人によって苦しめられなければならないのか？
54.
まことに、わが子らよ、言っておく。この世に生まれてくる者は、ただ自分の魂の救いを得るためだけではない。人は孤立した個人ではなく、全体の一部なのだ。
55. 人間の体において、他の臓器が病気であるとき、健康な臓器が苦しむことはないだろうか。
56. これは物質世界であるが、それによって、一人ひとりの人間と他の人々との間に存在する関係を理解してほしい。
善人は悪人のために苦しむことになるが、それは神の霊的進歩のためだけであるならば、善人はまだ完全無欠とは言えない。しかし、個人として、誰もがそれぞれの責任を負っており、その人は私の霊の一部であり、それゆえにすべての者の進歩に寄与するための意志と知性を備えているのである。（58, 18-19）
57.
私の教えを正しく解釈しなさい。私の霊が、地上のあなたの苦しみを見て喜んでいるとか、私があなたの喜びをすべて奪い取り、それを楽しんでいるなどとは決して思ってはならない。私はあなたがたに私の律法を愛し、遵守するようさせるために来る。なぜなら、それはあなたがの幸福に導くものであり、また、それをすることは、あなたがたに永遠の至福と永遠の平安をもたらすからである。（5, 80）
58.
あなたがたが地上にいる限り、その状態をできるだけ快適なものにするよう努めてほしい、と私は言わなければならない。来世の平安を得るために、絶えざる苦しみ、「血の汗」が必要なのだ。
59.
もしあなたがたがこの地を涙の谷から幸福の地へと変えることができ、互いに愛し合い、善を行うよう努め、私の律法に従って生きることができるならば――まことに、
私は言おう、そのような人生は、たとえあなたがたがどれほどその価値ある意志を持っていたとしても、苦しみ、不幸、そして罪に満ちた人生よりも、私の目にはさらに貴重で、高貴なものとなるだろう。（19, 15-16）
60. 痛みは永遠に続くものではないことを喜びなさい。あなたの苦しみは一時的なものであり、すぐに過ぎ去る。

61.
試練や霊的な闇から逃れる者にとって、時間と空間の時はかの間である。しかし、物質主義と完全に一体である者にとっては、実際はすぐに過ぎるものが長く続くことになる。
62. あなたの心臓が鼓動が過ぎるように、無限の彼方において人の命も過ぎていく。
63.
恐れる理由はない。なぜなら、人がため息をついたり涙を流したり言葉にしたりするように、人間の苦しみもまた過ぎ去っていくのだから。
64. 神の限りない慈愛の中で、あなたがのすべての痛みと苦しみは、無に溶けていくのです。（12, 5-9）

第3章 病気、癒し、そして再生

病気の本当の意味

1.
人が祈りと善行を怠ることで善の道から逸れると、道徳的な力と霊性が失い、試練にさらされる。そして弱められ、罪深くなり、それが病気をもたらす。
2.
しかし、私は医者として病の真の意味を知れ、彼と私の愛と慈しみをすべて注いだ。私の光は、熱く乾いた昼に注がれる清らかな水のようなものであり、彼が私の香油を感じたとき、彼は私にこう言った。「主よ、あなたのみが私を救うことができます。
私の魂はどん底であり、死がすぐ私のもとに来るでしょう。」
3.
しかし、私は彼にこう言った。「あなたは死なない。なぜなら、命そのものである私が来たのだから。そして、あなたが失ったものはすべて、あなたは返されるだろう。」（20, 39）
4.
どんな努力をしても病は、どのような恩恵を積むことができるだろうか。もし彼が信仰を受け入れをもって身構えることなく、神の御心に対して謙虚であり、その痛みにおかれた状況を克服することができれば、彼の魂は以前よりも大きなものとなり得る。
なぜなら、その模範は、暗闇の中にいる、絶望し、試練に直面すると悪魔に身を委ね、死を考えたりする多くの人を助けることになるからだ。
5.
こうした人々が、その道のりで自己を非常に重い十字架を背負い、多くの苦しみを味わっているから勇気を、信仰に試練を希望の模範に出会うとき、彼らは自分の心が新たな光に触れたのを感じるだろう。
6.
まさにその通りである。彼らは自分の霊の声を聞くことができなかったため、他の人々その模範と信仰を通して彼らに与えられた霊の光を受け取らなければならなかったのだ。
7.
決して打ち負かされたと思うな、決して疲れたと言うな、苦しみの重荷に屈してはならない。常に信仰という杖をあなたの肩に掲げなさい。この信仰と、あなたの愛が、あなたを救うだろう。（32, 38-39）

自分の力で癒すこと

8. あなたがは、わたしに癒しを求めている。しかし、まことに、あなたが自身を優れた医者などなと、わたしは言う。

9.
もしあなたが、自分の過ち、罪、悪意、そして不完全さを含まないのであれば、私があなたを癒し、痛みを取り除いたところで、何の益があろうか。病気は病ではなく、あなたの罪である。見よ、これこそが痛みの根源なのだから、罪と戦い、そこから離れよ。そうすればあなたは健康となるだろう。しかし、これを行うことは、あなたの課題である。
私はただ教え、その手助けをするだけである。
10.
もしあなたが、良心を通して自分の苦しみの原因を見出し、それを取り去るためにすべてをなすならば、その戦いに勝利し、霊性自由を勝ち取るための助けだけを、完全に感じることとなるだろう。
11.
自分の過ちによって苦痛から解放され、平安を得たと感じたとき、その満悦はどれほど大きなものとなるだろうか。その時、あなたはこう言うだろう。『父よ、あなたの御言葉が私の癒しであり、あなたの教えが私の救いでした。』（8, 54-57）
12. 人々よ、すべての病、癒やされた真の癒しの源は、愛から発生するものである。
13.
霊をもって愛し、心と性をもって愛なさい。そうすれば、あなたがたは、単に身体の病を癒したり、些細な人間の葛藤を和らげるだけでなく、霊性と魂の大きな病、その動揺と罪の責任を解明するのに十分な力が備わるだろう。
14. その癒しの業は、大きな試練を経た、光ある、苦痛を伴わず、締め付ける鎖を緩める。
15.
科学に見放された人間は、この源に触れることで健康と生命を取り戻すだろう。離反した魂は、呼びかけられた神の愛の言葉によって帰ってくるだろう。（96, 60-63）
16.
苦痛をよくしなさい。わたしが創造した生命は、苦痛に満ちたものではない。苦しみは、神の子らの不適切な過ちから出る。苦痛は、人間が放縦のうちに作り出した生命に特徴的なものである。
17.
視覚を上げ、わたしの業の美しさを見なさい。神聖なコンサートを感じ取れるよう、内面を整えよ。この祝福から自らを締め出してはならない。もしあなたがこれを離れるなら――どうしてこの歓びを知ることができるだろうか。あなたは悲しみ、苦しみ、病で生きるだろう。
18.
わたしは、あなたが宇宙のコンサートにおいて調和のとれた音となり、あなたが命の源から生まれたことを理解し、すべての魂の中にわたしの光があることを感じることを望んでいる。いつになったら、あなたは完全な成熟に達し、わたしにこう言えるようになるだろうか。『父よ、わたしの魂があなたの御霊に委ねます。わたしの意志と人生はまた、あなたの御霊に委ねます。』
19. あなたの感覚が病んでおり、魂が利己的に正しい道から外れている限り、これを言うことはできないのだと悟りなさい。
20.
あなたがたは、病や苦しみ、あるいは死ぬことへの恐れの中で生きている。しかし、魂の過ちと比べれば、肉体の病と何の意味があるだろうか。魂が立ち上がることができなければ、それは何の意味もない。なぜなら、私の憐れみの中に、あなたがたは常に助けを見出すからである。
21.
血があなたの静脈を流れ、全身に力を与えるように、神の力と命の流れとしてあなたの魂に満ちる。あなたがたが律法を全うするならば、病気になる理由はない。命とは、健康であり、喜びであり、幸福であり、調和である。あなたがたが病でないなら、神の恵みの証拠となることはできない。
22.
病む思考、心あるいは身体を持つ人々よ、師はこう言う。全能の子であるあなたの魂に、正しい道という風が、あなたの苦しみを癒し、あなたの翼を支えてくれるよう願いなさい。（134, 57-59）

人間の再生

23. 虚栄心――最初の人間において既に現れていた弱さ――は、霊によって打ち負かされるであろう。
それは古来より現れ、肉との間に存在してきた闘いである。なぜなら、父の栄光を渇望する魂が永遠の高きものへと導く一方で、肉は、たとえそれが魂の妻となるものであっても、ただ自分を満たせば喜ぶものだからである。

24.
あらゆる人間に現れるこの闘いは、世界が人間及ぼす影響の結果として、人間自身の中に生じるものである。なぜなら、地上のものは、その本性にかなうあらゆるものを求めるからである。

25.
もし魂がその力を発揮し、正しい軌道へと導くことができるならば、魂は自らの本質において両方の性質を調和させ、進歩と昇華を達成することになる。それに対して、もし肉のために魂が萎えてしまえば、魂は悪へと変質され、嵐の真っ只中で舵のない舟となるであろう。（130, 64）

26.
あなた方――不信仰な疑う者たち――は、正義の世界を信じることができず、また、この地上に愛と徳に満ち溢れる生活があることなど想像できない。一言で言えば、あなた方は自分たちが何か良いことを成し遂げるだけの力があると思い込み、自分自身の価値を持っていないのだ。

27.
しかし、私はあなた方を信じている。私の子供たち一人ひとりの内なる一粒の種を知っている。なぜなら、私が彼を創造し、私の愛によって彼らに命を与えたからだ。

28. 私は確かに人間に希望を託し、その救い、その価値ある者となること、そしてその高みの昇華を信じている。
なぜなら、私が人間を創造したとき、私は彼を地の主と定め、そこに愛と平和の業を作り出すべきであると定めたからである。また、私は彼の魂が生の闘いの中で強められ、功績によって、あなたがたに永遠の遺産として与えられている完全なる王国の光の中で生きるに至らなければならないと定めたのである。（126, 44-46）

第4章 神性意識での生活

必要な均衡

1.
すべての人の運命は、その霊性と人間性によってあらかじめ定められている。両者は互いに調和し、一つの目標に向かって進むべきである。まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしはあなたがの霊性ばかりでなく、物質性をも祝福する。なぜなら、それらの中に、あなたがの霊がわたしのもとへ至るための確かな糸口を見出すからである。（171, 23）
2. これまで、人間の魂はその精神性ばかりを発達させてきた。そして、その結果、肉が彼の敵となってきた。

3.
人間が肉体をその精神性と調和させて保つことを学ばない限り、人生においてあるべき姿を見出すことはできないであろう。（191, 26-27）

4.
弟子たちよ。あなたがたは地の中に生きながらも、霊性生活を送ることができる。なぜなら、霊とは、肉体からなるものから背を向けることにあるのではなく、人間の弱さや欲望を調和させることにあると、あなたがたは考えるべきだからである。

5.
わたしの律法を学び、それを人間律法一つに統合することを理解する者は祝福される。なぜなら、その者は健康で強く、賢くて幸福になるからである。（190, 26-27）

善き喜びと悪しき喜び

6.
私はあなたがたに、この地上の感覚的な心と感覚からもたらされる喜びから背を向けるよう言っているのではない。私があなたがたに求めるのは、魂と身体、体と病ませるものの選択ことだけである。
7. 律法に従って生きる者は、良心が正しいことを果たしている。
許された喜びを避けて、禁じられた快楽に身を投じる者は、最大の喜びの瞬間でさえ、なぜか幸せではなく、平安を見出せないのかと自問する。なぜなら、快楽から快楽へと、その人はますます深く沈み込み、心と魂は真の満足を見出すことなく、深淵に滅びてしまうからである。
8.
ある者たちは屈服させるまで、喜びをあてがい続けなければならない。そうしてはじめて、彼らを天国の約束へと導く神の声を聞くことができるのである。（3, 44-46）
9.
科学者は畏れの念を持たない手で、科学の箱から果実を取り出す。その前に、良心の声は耳を傾けることはない。その声は私の律法が彼に語りかけ、知恵の箱のすべての果実は善であり、それゆえ、それを摘む者は隣人にもそうすべきであると告げているのだ。
10.
私の挙げた例は、なぜ人類がその地上の楽園の受け継ぎ手にはなれないのか、それを示している。その楽園は、人が律法を行うことによって、永遠にその心の中に持つべきものである。
11. あなたがたがそれと同じものを見出せるよう助けるために、私は罪人、不敬虔者、
恩知らず、高慢な者たちに教えを授けている。それはあなたがたに霊の与えられていること、良心を持っていること、善悪を判別し評価する十分な判断力を備えていることを理解せよ、平和、知恵、無限の愛、不死、栄光、そして永遠の楽園へと導く道を示すためである。(34, 15-17)
12. 人間は私の教えを常に正しく解釈してきたわけではない。
私は私の律法を忌まわしいものとみなすよう、あなたがたが軽んじたり、それを憎むことを学ぶよう、決して教えたことはない。私が教えたのは不必要なもの、余分なものを追い求めたり、ましてやそれを愛したりしてはならないということ、そして、魂や身体に有益なように、有害で許されないものを用いてはならないということだけである。
しかし、魂や心に許され、その益となるものはすべて、私の律法の範囲内にあるゆえに、私はあなたがたを歓迎するのである。（32, 4）
13.
人類が霊的に成熟に達するまでは、長い時が必要であった。あなたがたは常に二つの極端に陥ってきた。一つは、より大きな世俗的な喜びを求めようとする唯物主義であった。しかし、これは誤りである。なぜなら、それは霊にその役を果たすことを妨げるからである。
しかし、もう一方の極端、すなわち肉を死なせること、この人生に属するすべてのものを完全に拒絶することも避けなければならない。なぜなら、私はあなたがたを人間として、人間存在として生きるためにこの地上に遣わしたのであり、あなたがたが皇帝のものは皇帝に、神のものは神に、というように生きるための正しい道を示したからである。
14.
私はそのすべての美しさと完全さを備えて、この世界をあなたがたのために創造した。私はあなたがたに人間体を与えた。それを通して、完全さを達成するために私が与えたすべての能力を発揮させるべきである。

15.
父は、あなたがこの世界で使えるあらゆる善を自由にすることを望んでおられる。しかし、あなたは肉体を他より優先してはならない。なぜなら、肉体という物が、魂の領域に属するものであるからだ。（358, 7-9）

祝福が不幸をもたらす富

16.
もし私が、あなたを地の財産の所有者にすることを望むならば、私はそれをあなたに与える。それは、あなたが財産に執着しない者たち、すなわち、弱者、病者、いたく困窮している者たちとそれを分かち合うためである。しかし、地上で何も所有していない大勢の人々は、その霊的財産をあなたと分かち合うことができるのである。（96, 27）

17.
私は、すべてのあなたのものとなることを望むが、あなたが必要なものを意識的に用いること、すなわち、精神的に豊かであることを理解し、物質的なものを多く所有しつつも、それらを正しく用い、双方に真の価値と地位を与えることを望む。

18.
計り知れない富を持つ人の魂が、その所有物が隣人の益となるものであるならば、どうして自ら傷つけることができようか。また、ある人が、時折、ないものに身をやつすことをもって、その祈りによって私と交わりを持つならば、どうしてこれを受けることができようか。（294, 38）

19.
主よ、私はあなたに従う者たちの困窮ぶりを見ました。しかし、もしあなたを思い出すことも、あなたの御名を口にすることもない者たちは、豊かさ、楽しみ、そして繁栄を見ています」などと言ってはならない。

20.
わが民は、こうした事柄をわたしに従う者たちの世界では必然的に貧しくなければならない、という誤りを見てはならない。しかし、わたしはあなたがたに言う。ここで地上で人生の一部を善行を行うことと費やしている者たちが持つ平安は、あなたがたがそれほど貧しい者たちは知れておらず、また、彼らがどれほどの富を持っていようとも、それを得ることはできないのだ。

21.
世の富と霊の富を同時に所有することを理解している者もいる。他の人々は、霊の富を忘れてしまうため、世の富を恵まれない。また、神の律法は地の富の敵であると考えているため、世の富には興味を持たない者もいる。

22.
財産は財産であり続けるが、誰かがそれを正しく用いることを妨げてはならない。また、多くの人が所有しているもののすべてが、私が彼らに与えたものではないことを知っておくべきである。私から受け取った分を預かりとして持っている者もいれば、所有するすべてを盗んだ者もいるのだ。

23.
人生における義務を果たした証として、人が得ることができる最大のものは、魂の平安であり、金貨の響きではない。（197、24-27）

24.
私が「ねえ、そうすればあげられる」と言うとき、あなたがたは私に対して他のものを求める。しかし、まことに、あなたがたは私にそれほどわずかなことしか求めていないことから、何よりまず、あなたがの魂の益となるすべてのものを私に求めなさい。
地の宝を蓄えてはならない。ここには盗人がおり、さびと虫が食い荒らす地の宝を蓄えよ。そこでは、あなたがの財産は安全であり、それはあなたがの魂の喜びと平安に役立つであろう。
25. 地の宝とは、富、権力、そして虚栄の称号である。霊の宝とは、善である。（181, 68-69）

26.
傲慢者はそうではないの自分が偉大であると信じている。そして、心と精神の真の価値を見出すことなく、この世の死ぬべき富に満足する者は実に哀れな者である。その者の願い、欲望、理想はなんと哀れなことか！その者はなんとわずかなもので満足していることか！
27.
しかし、生きることを知っている者は、神のものは神に、世のものは世に与えることを学んだ者である。物質の奴隷となることなく、自然の懐で自然を利用することを知っている者こそ、生きる術を知っている者であり、たとえ見せかけの財産を持っていなくとも、彼はこの世の真の主人であり、神の国の富を所有する資格があるのである。(217, 19-20)

与えるという法則

28.
もし人があなたの言葉を信じ、心の中であなたを抱いていれば、かつてあなたが語ったあの言葉を常に心に留めているだろう。「まことに、あなたがたに言う。たとえ杯の水を与えるだけであっても、それは報いなく終わることはない。」
29.
しかし、人はこう考える。「何かを与えたのに何も返ってこないのなら、自分が持っているものを自分だけのものとして、手元に置いておいたほうがよい」と。
30.
さて、私はあなたがたに言う。私の言葉の中には完全な調和があり、あなたがたが自分の所有物を与えることを決して恐れる必要はないのだ。宝物を集め蓄え、その所有物を惜しみなく分かち合おうとしない人々を見よ。そのような人は死んだ魂をその内に抱いているのだ。
31.
それに対して、人生の最期の息を引き取るまで、隣人に自分の持つすべてを捧げることに喜びを感じ、最期の時、孤独に見捨てられ貧しい自分を見つめることになった人々――彼らは常に喜びの光に導かれてきた。その光は、遠くにある約束の地の近さを彼らに示し、そこでは私の愛が彼を待受け、彼のすべての行いに対する報いを与えてくれるのである。(128, 46-49)
32.
さあ、私のところに来なさい。私があなた方を真の命とよびかえした、あなたがたに与えるための創造されたことを思い出させてあげよう。しかし、あなたが自分の中に何を宿しているかを悟らない限り、それを愛する者に与えることは不可能である。
33.
見よ、あなた方の周りのすべてのものが、与えるという使命を果たしている。元素、星々、生き物、植物、花、そして鳥たち――最小のものから私が知覚できないものに至るまで、すべてが与える喜びという使命を持っている。なぜ、あなたがたは、神の恵みによって愛する喜びを最も豊かに授かっているにもかかわらず、例外とするのか。
34.
あなたがたが、年月の流れとともに進むべき道において成長するためには、どれほど多くの知恵、愛、徳、そして能力を身につけなければならないことか！父なる神は、なんと高貴で美しい使命をあなたがたに与えてくださったことか！（162, 50-52）

義務と任務の遂行

35. 「第二の時」において、私の霊性教育は魂その霊的な父のもとへ昇り、父、真の神聖な自由を与えるであろう。
36.
しかし、人間という存在としても、創造主への奉仕者でなければならない。その奉仕とは地上の義務を果たすことである。すなわち、人間の法律に従い、その行いにおいて道徳と良識を示し、父、子、兄弟、友人、主人、そして僕としての義務を果たすことである。
37. このように生きる者は、地上でのよい行いを積むことによって、その魂が天国へと昇ることを可能にするであろう。（129, 59-61）

38.
自分の使命の重荷から逃れ、正しい道から外れ、あるいは自分の魂に対して負う義務を怠り、そのかわりに自分のみ意志に従って義務を受け入れた者は、その魂が決して満足を得られないため、心の平安を持つことはできないだろう。
彼は、偽りの喜びやかの間の満足に惑わされ、苦しみや不安を忘れようと、常に娯楽を追い求めている者たちである。
39. わたしは彼にその道を行かせる。なぜなら、たとえ今日、彼がわたしから離れ、私を忘れ、さらには私を否定したとしても、やがて富や名誉、この世の楽しみや無意味なものを得ることを知っているからだ。現実が地上での偉大さという夢から彼を目覚めさせ、人が誰も逃れることのできない霊的真理、永遠の神の法廷に直面せざるを得なくなる時、彼はそれを悟るのだ。
40.
これは誰にとっても楽なことではない。なぜなら、あなたが皆、直接の影響によって、あなたの人生の現実――あなたのために用意された道、そしてその道において実現すべきすべてのことを明かしてくれる霊を持っているからだ。
しかし、あなたは自由を感じ、人生の主人であるかのように振る舞うために、あらゆる霊的な導きからどうしても解き放たれたいと願っている。（18, 13-15）
41.
あなたの魂にこの真理が届く前に、その「畑」が耕され、平和を築くことがその使命であり、そのメッセージに霊的なものがあると告げられた。そしてあなたの魂がそれを喜び、その使命に実り多い進展があることを誓った。
42.
なぜ今、種を蒔くことを恐れるのか。なぜ今、魂がその使命を果たす時にこれほどまで書かれたその言葉を実行する価値がない、あるいは無力だと感じるのか。それは、あなたがたが情報に圧倒され、それによって鈍感になっているからであり、その迷いを推量し、誤って正当化しようとしているからだ。
43.
あなたがたが来た「谷」へ、手ぶらで戻ってはならない。そうすれば、あなたがたの苦しみは甚大なものになることを私は知っている。（69, 32-34）
44.
誰でも、導き、あるいは指導する霊が数人割り当てられており、この物質肉体の死をもって終わるものではない。魂は霊界においても地上と同様に、種を蒔き、育て、収穫し続けるのである。
45.
より大きな魂はより小さな魂を導き、小さな魂はさらに脆弱な他の魂を導き、それらすべてを光の国へと導くのは主ご自身である。
46.
私が今、より大きな魂がより小さな魂を導くと述べたとしても、それはそれらの魂が最初から大きかったとか、後者が常に前者に比べて小さいままでなければならないという意味ではない。
今、偉大な者たちはまだその霊的な段階に達しておらず、まだ弱い者たち――道に迷った者や苦しんでいる者たち――を愛し、彼らに仕え、支えるという高貴な使命を果たす中で向上し、開花できるからこそ偉大なのである。
47. 今日は小さき者たちはその粘り強さゆえに、明日は偉大となるだろう。（131, 19-21）

第5章 人生における運命、意味、そして成就

人間の運命における神の摂理と定命

1. 今こそその時であり、人間は「ただ」ではなく、私の真理を理解し、その機会を見出し、それを感じ取るようになる。

2.
私の教えの目的は、誰一人として理由なくしてこの世に生まれてきた者はいないこと、その理由は神の愛であること、そしてすべての人間の運命は愛の成就を果たすことにあることを、すべての人に確信させることである。
3. 太古の昔から、いつの時代も、人々は問うてきた。「私は誰なのか？ 誰のおかげで生きているのか？ なぜ私は存在するのか？ 何のためにここに来たのか、そしてどこへ行くのか？」
4.
彼の抱く確かさと疑問の数々については、私の説明や、私が啓示であなたがたに明かしてきたことについての考察を通して、答えを得ている。
5.
しかし、すでにすべてを知っていると思い込んでいる者もいる。だが、私はあなたに告げる。彼らはひどく誤りに陥っている。なぜなら、神の知恵の書に秘められているものは、それが明かされない限り、人間は決して発見できないからである。そして、この神の知恵の書は多くのことが記されており、その内容は無限である。（261, 4-6）
6. 運命は、神のその神聖な計画の中にある。人の運命は、神の愛で満ちている。
7. あなたがたは、その愛を探し求める術をはなため、しばしばそれを見出せない。
8.
もしあなたがたが、私各人のために定めた運命の中で、過酷な道を切り開こうとするならば、私はそれを和らげようと努めるが、決してその苦しみを断つことはない。
9.
人々は地の中で互いに必要としている。余分な者も、足りない者もいない。すべての命は、互いの存在を補い、調和させるために必要とされている。
10.
貧しい者は富める者を必要とし、富める者は貧しい者を必要とする。悪しき者は善き者を必要とし、善き者は悪しき者を必要とする。無知な者は知者を必要とし、知者は無知な者を必要とする。幼き者は年長者を必要とし、年長者はその方で幼き者たちを必要とする。
11.
あなた方一人ひとりは、神の御心によってこの世のその場所に置かれ、あるべき時と近くにいる。すべての人には、生きるべき人生が割り当てられており、そこには、共に生きるべき肉体を持つ魂と、肉体を持たない魂がいる。
12.
こうして、各自がそれぞれの道を歩む中で、次第に、あなたを高めてくれる愛を教える術を持つ人々すべてに出会うことになる。また、あなたを清めるために、他者から苦痛を受けることもあるだろう。
ある者は、あなたがたにその必要があるという理由で苦しみをもたらすだろうが、他の者は、あなたの苦しみを和らげるために愛を授けてくれるだろう。しかし、すべての者は、あなたがたへのメッセージ、あなたが理解し、活用すべきメッセージがあるのだ。
13.
あなたの人生の道に何かが形づくる、あらゆる種類の魂（肉体を持つ魂、肉体を持たない魂）が、あなたの運命を前進させる助けとなっていることを忘れないでください。
14.
私はあなたのために、どれほど多くの光の魂をこの世に送り出したことか。それなのに、あなたがたはたびたび、あなたへの私の愛を祝福しようとはしなかった！
15.
私があなたがたに送った多くの魂に、あなたがたは気づかなかった。それがあなたの運命の一部であることに気づくことなく。しかし、それらを受け入れる術はなかったがゆえに、あなたがたはおらずたちまち、後悔の涙をこぼさざるを得なかったのだ。

16.
人類よ、汝の救いはすべての被造物に関することである。私が汝らに語るこの話にそ、あらゆる知の中で最も偉大なものである。なぜなら、その中にあってこそ、汝らは神とその被造物の完全なる姿を見出すからである。（11, 10-16, 22-25）
17.
自らの救いを否定する者は、「我が神性の子供」という尊い名を捨てることになる。もし彼が私の存在を信じないならば、私の愛を信じることはできない。
18.
ある人にとって、この人生が極めて苦しく、悲痛なものだとしても、この現世がすべてではないこと、それは長く見えるだけであり、あらゆる生き物の運命は、私だけが知り得る秘密が隠されていることを知れ。（4, 8-9）
19. 地上における人間の存在は、永遠の中の一瞬に過ぎず、ひとときは生き生きとさえずる命の息吹であり、すぐに去ってゆき、後に再び戻って来て、新たな肉体と息吹をまとうのである。（2, 4）
20.
人生の旅路において、各人に何がもたらされるかはあらかじめ定められている。ある者は時機を逃すことなくそれを受け取り活用するが、ある者はそれを浪費し、中にはそれを受け取るための準備すらできない者もいる。しかし、彼が霊界へと帰るとき、自分たちに定められていたもの、そして自分たちが獲得することも、獲得することになっていたものすべてに気づくことになる。（57, 31）
21.
個人として生まれた者は誰もおらず、気まぐれに創造された者もいない。私を通じれば、人生の道において自由な者は誰もおらず、すべての運命を導き支配する者があることを知るであろう。（10, 29）
22.
人は自分の意志に従って動いていると言い、自分はいかなる高次の影響も及ばないと言い、ついには自分が独立しており、自らの運命の創造者であると見なしている。しかし、やがてその時が来れば、すべての人が、彼らに成し遂げられたのは私の意志であったと悟ることになるのだ。（9, 40）
23.
同胞のために良き実を結ぶことで、良き報いを得る時が来るまで備えよ。なぜなら、私が去る前に、あなたの間違いが出てこようから。あなたがすべて謙虚であるように。警戒していなければならない。祈り、そして私の教えを実践せよ。
まことに、あなたがたに告げる。あなたが善行を行うことに捧げる短い時間は、あなたの後に続く多くの世代において、その慈悲深い影響をお感じさせるであろう。誰も自分の運命を決めることはできず、また今後も決めることはできない。それは私のみがなすことである。私の意志を満たせ。そうすれば、あなたがたは大きな困難なく、人生の道を最後まで歩み通すことができるであろう。
24.
私が、私の意志なしに、この枝の葉を一枚でも落とすことはないと言うとき、それを正しく受け止めてほしい。そうすれば、いま私があなたを試しているのか、それともあなたが誰かを試しているのか――その後それを判断するために――がわかるであろう。そうしてあなたは裁判官となり、私を被告とするのだ。
25.
自分の過ちを悟り、それを正せ。隣人の過ちを赦すことを学べ。もしそれをすることができないなら、せめて寛容のベールをその上に広げよ。（4, 43-44）
26.
運命論者になってはならない。自分の運命は、神が自分の人生の道に定めたものと全く同じであり、苦しみのときが定められていたからであり、喜びのときも定められていたからだと信じて、その考えを改めてはならない。あなたがたは、自分が蒔いたものを刈り取ることになると、私はすでに説いた。
27.
しかし、よく聞きなさい。ある場合は、その収穫を刈り取ることもあれば、またある場合は、あなたが新たな地へと移り、そこで

自分の重荷を取り戻し難くなければならないこともある。私が言ったことをよく考えなさい。そうすれば、私の言葉に対する多くの誤った判断や、多くの不明瞭な点を解消することができるだろう。(195, 53)

人生の学校

28.
人々は、自分の行いの結果について考えない子供のようなものであり、それゆえ、道中で遭遇するつまずきの石が、ただ彼らの無分別な歩みをはばみ、悪い決断を下したことを教えたり、それを繰り返さないよう警告したりするために設けられた障害物であるということを理解していない。

29.
私は、あなたがこれからは大人のように振る舞い、自分の行いや言動をよく考え、言葉を選び取ることを望む。これこそが、あなたの人生に賢明さと正義をもたらす道である。さらに、人生には決して計り知れず、終わりない試練があることを心に留めておくべきである。

30.
私の道において、滅びる者はいない。たとえ、十字架の重荷にうちひしがれて人が倒れるような時があっても、より高い力がその人を再び立ち上がらせ、励ましてくれる。この力は神から生まれる。(167, 55-57)

31.
人々がそれぞれの教えから、また宇宙を支配する偉大な神秘を通して得る理解に、彼の幸福がかかっている。ある者はこの地上に幸福など存在しないと考えるが、また、ある者は、私たちがそれを余すところなく持っていると考えている。しかし、それはまさに、あなたの魂の平安の中に明かが現れているのである。

32.
さて、愛する民よ、汝の幸福は汝自身の中にあることを知れ。そして、人々に教えよ。彼の本質の核心は、彼自身の考えで憎しみ、憎しみ、恨み、後悔、そして、真が存在しないと思われるその場所に、何ものにも消すことのできない光、すなわち霊の光が存在することを。(178, 6-7)

33.
あなたがの霊的過失は、あなたがの肉体にはまだ現れていない。わたしはそれをあなたがの魂の中に、魂が開かれた書物になるように、霊直感によってそれがあなたがに啓示されるようにしている。これこそわたしの正義であり、それはあなたがを裁くのではなく、過ちを覚る機会、あるいは誤りを正す機会を与えるものである。

34.
もし過ちがあなたの魂から消え去れたなら、あなたはすでに避けた試練を再び経験しなければならなくなるだろう。しかし、もしあなたが経験者の言葉に、その光に照らされるならば、あなたは自分の道をより明確に認識し、地平線をより輝かしく見ることになるだろう。(84, 46)

人間の人生の意味と価値

35.
人間の自然な状態は、善い心の平安、そして周囲のあらゆるものとの調和にあることを知れ。生涯を通してこれらの美徳を実践し続ける者は、神の認識へと導く真の道を歩んでいるのである。

36.
しかし、もしあなたがこの道から逸れ、自分の行いを導くべき幸福を忘れてしまうならば、人間が常に留まるべき自然な状態である、精神の高潔の道から離れた日々を、涙をもって償わなければならないことになる。(20, 20)

37.
多くの人々は、あなたがが生きる現世の世界にあまりに慣れきってしまい、この人生こそが最も自然なものであり、地球は永遠となるように定められており、決して平和と調和、そして霊的進歩を得ることはできないものと考えている。

38.
そう考える人は無知の闇に囚われている。この世界が、私によって涙の谷として定められたと考える者は誤っている。私が人類に与えたエデンは再び訪れることができ、またそうあるべきである。なぜなら、私が創造したすべてのものは、命であり、愛からである。
39.
それゆえ、この世界が神によって闇の苦痛の場として定められたと主張する者は誤っている。むしろ、彼は本来、人間なき魂の喜びと安らぎのために創造されたこの世界を、自ら苦痛の場として選択してしまったのだと言うべきである。
40.
すべてが、人間をその堕落から救うために予見されていたにもかかわらず、罪深きようあらかじめ定められていた者は誰しもいなかった。
41.
人間は、愛によって高められ得ようとはせず、また、わたしの律法を全うすることによって賢くなろうともせず、そして常に避けようとしてきたわたしの正義が、完全な愛に由来するものであるがゆえに、彼を守っているということを忘れてしまった。（169, 10-13）
42.
もしあなたがわたしの言葉を深く探求すれば、父が、危険と誘惑に満ちたこの地の道を選ぶためあなたをこの世に遣わされたとき、その意図は、あなたがその道で歩むことではなかったと理解するだろう。
なぜなら、それらの道は、あなたが魂の発展に必要な教訓をそこで得、欠けていた経験を積み、そして最後に、光に満ちた私のもとへ帰ってくることができるようにと、そう設けられていたからである。
43.
あなたの霊が私から発した時、それはまるで炎のようなものであった。風がその炎を次々と変え、私のもとへ帰還する際、あなたの光が神性の光の一つとなるようにするためであった。
44.
わたしは新しい山の頂からあなた方に語りかけている。そこでわたしはあなた方を待ち受けている。まことに、あなた方は来る。あなた方が到着するその日、この惑星は祝福に満ちるであろう。
45.
あなたがたは苦痛の道を辿ってそこへ至り、その過程で自らの過ちを清める。それは私が示した道ではなく、人間が作り出した道である。あなたがたはこの道を私に辿りました。しかし、それ以来、犠牲と苦痛の道は、私の血によって光り輝いている。（180, 64-65）
46.
人はやがて、自分が肉体をまとったこの地のものではないこと、自分の肉体、すなわち人間の体は、その感覚を通して試練と僕の世界に関するための単なる道具にすぎないことを理解するだろう。人はやがて、この人生は、素晴らしい姿やイメージで彩られた大きな課題などないことを知るようになる。それは、生徒たち、
すなわちすべての人が、人生から与えられる教訓をよりよく理解できるよう、それによって、もし彼らがそれを正しく評価することができれば魂の成長を促し、彼らを強くする試練の意味、すなわち、彼らを形造る痛み、彼らを苦悩する葛藤、彼らを絶望させる試練、そして彼らを高揚させる愛を理解するようになるためである。
47.
もしこの現世が唯一の存在であるならば――まことに、私はあなたに言う、私はとっくにそのような苦痛を取り除いてしまっただろう。なぜなら、あなたがたが苦悩の存在を欲するがために、この世に生まれてきたとするならば、それは不公正なことだからである。しかし、今苦しみに泣いている者たちは、かつて歓ぶために楽しんだがゆえに、そうしているのだ。
しかし、この苦しみは彼らを清め、昇華させ、主の御国において、より清らかな姿で喜びを享受するふさわしい者とするであろう。（194, 34-35）
48.
人の人生は通常試練に満ちているため、その中学校の重荷をより優しく、より軽く感じられるよう、心と体のあらゆる喜びをもってそれを担う必要がある。

49.
私は、家庭の温かい中で人生の最高の喜びを見出し、親子供の愛、子供の親の愛、そして兄弟姉妹の愛を、神の奉仕するよう努めるすべての人を祝福する。なぜなら、その一致、その調和、そしてその平和は、全能父とその霊的家族の間に存在する調和に似ているからである。
50.
こうした家庭はお互いの光輝き、わが王国の平和を宿している。そして、苦しみが訪れたとしても、それは長くは続かず、試練の後はそれほど苦くはない。
51.
さらに称賛に値するのは、他者に満足をもたらすことに喜びを見出し、隣の幸せに喜びを共に喜ぶ人々である。彼らは喜びの源であり、偉大な使命を果たしている。
52.
まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたが、満足と喜びの場所を求め、また内なる平安の場所を保つことを望んでいれば、地上での生涯のあらゆる日に、それを得ることになるだろう。しかし、そのためには、まず
、魂の高い感覚と人生に対する考えを、より貴重なものにしなければならない。
53.
私がこの言葉を通してあなたがたに送るこのメッセージは、光に満ちている。その光はあなたがたの道標となり、あなたがたの本質に内在する発展をもたらし、平和に生き、私があなたがたの存在に授けたすべての祝福に参加することを教えてくれるだろう。
54.
この人類は、苦痛と暴力と戦い、誤った快楽と虚偽の満足の探求を阻止するために、まず先に奮闘しなければならない。人類は、真理を確立することのために精神的に戦わなければならない。
すべてが、誰も逃れられない最終的な滅亡に向かっているという信じ込ませる議論と戦わなければならない。そして、魂の悪徳、苦痛、絶望、そして闇の深淵へと突き落す、単なる一時的な楽しみ――感覚的な喜び――にばかり走る、求める物質主義と戦わなければならない。
55.
私は、あなたがたの影を離れ、あなたがたの涙の谷と変えてしまったこの惑星において、他のあらゆる喜びが小さく取るに足らないものとなる、魂の真の喜びをよりよく見出せるよう、私の光を与える。（103, 28-33）

X 物質主義と精神主義

第46章 - 誤った道に迷った物質主義的な人間

人間の精神的な無知、そして傲慢

1.
この世界が創造された第一の目的は人間である。私は、人間の喜びのために、他の存在や物質を与え、人間自らの維持と安寧のためにそれらを利用できるようにしたのである。
2.
もし人間が、その霊的な出発点である大元の昔から、私を愛し、私を崇めていたならば、今日、人間無知と苦悩は存在せず、知識と感情が洗練されて尊い、偉大な霊たちの世界に属していたであろう。

3. しかし、人間の限界なんと狭いことか！
人間は地球に生きてからどれほどの時が過ぎたというのに、いまだ自分の霊性使命と真の目的を理解することさえできていない。
彼は、永遠の命を持ち合わせていながら、自分の霊性、自分の神を発見することができなかった。彼は、その霊性に調和して生きることを理解せず、その権能をみたせず、自由を奪われたその霊性は、その賜物を開花させることなく、停滞してしまうのである。（15, 24）
4.
人間は――私の律法の域から背を向けたとき――様々な思想、理論、宗教、教義を生み出した。それらは人類を分裂させ、混乱させ、魂を物質に縛り付け、魂の自由と高みへ昇ることを妨げている。
しかし、私の霊の光はすべての人を照らし、真の命の道を示している。その道は、ただ一つの道、すなわち良心である。（46, 44）
5.
唯物論者は、人間の生命は死を終える。しかし、自分の中のすべてが儚いものであると悟っているため、その人生を激しく生きようとする。
6.
そこで、もしその計画、願いが実現しなかったり、何らかの形で妨害されたりすると、彼は絶望し、冒涜する。彼は運命に挑み、自分が当然受け取るべきだと信じている恵みを受けられないのは運のせいだと非難する。
7.
彼らは、屈強な肉体の中に弱い魂を宿した者たちであり、道徳的に未熟な存在である。彼らは、物質主義に囚われて、取るに足らない行いに過大な価値を見出しているという誤りを犯したため、様々な試練にさらされるのである。
8. 物質にされた者たちは、どれほど自分の運命を変えたいと願っていることか！
彼らは、すべてが自分の思い通り、自分の意志通りに進むことをどれほど望んでいることか。（158, 48-50）
9.
さて、私が常に心をもって人々に自己を現してきたのは、限られた知性によって囚われた魂たちを解放するためであったことが、今やあなた方には理解できるだろう。
10.
今もなお、この時代には、霊的に欠けた、知性に限られている人々が存在する。人々はすでに、その知性によって開かれた明晰な知性を備えているはずであるにもかかわらず、多くの者が依然として原始時代のように考え、生きている。
11.
他の人々は様々な分野において大きな進歩を遂げ、知識の領域に達したと思い込み、その虚栄心と自己満足の中に閉じこもっている。しかし、彼らは霊的進歩への道においては立ち止まってしまっているのだ。（180, 32-33）
12.
もし人間が、自分より上位の存在、優れていて、より高い生命について意識に生き、自分の精神に問いかけることを知っていたなら――どれほどの不安と悲しみを免れ、どれほどの深淵から自己を救うことができたであろうか。
しかし、人は理性を通して、自分の疑いや確かさを求める探究者を持たない者たち、すなわち物質性自然に深く入り込んでいるものの、魂が昏睡状態に陥っているため霊性生活をおくる科学者たちに、助言を求めているのである。
13.
人間の魂は目覚めなければならない。そうしてこそ、自己自身を見出し、その使命を支えるために託されているあらゆる能力を発現することができるのだ。
14.
今日、人間はまるで生命の木から落ち、風のなかをさまよう枯れ葉のようだ。千変万化の運命にさらされ、自分の力は無力であり、死者にしおれ、哀れな存在である。それなのに、本来なら、この世で完成するために私から遣わされた君主として、地球を支配すべき存在であるはずなのに。（178, 4-6）

15.
裁きの時来る。その時私はある者らに問うであろう、『なぜ私を否定したのか？』と。また他の者らには、『なぜ私を裏切ったのか？』と。自らを栄光あるものとできずにいる者が、私の王国の存在を否定する権利があるだろうか。もしあなたがたが私の真理にふさわしくなく、それを見出す術をもたないとしても、それはその真理が存在しないことを意味するものではない。
もしあなたがたが、自分たちが理解できるものだけが存在すると考えるならば、私はあなたがたに言う。あなたがたには知らないことが多くあり、その無知は極めて大きいものだ。
16.
まことに、あなたがたに言う。神とその王国を否定する者は、自分自身を否定したことになる。自分の神をねつ造し、自分勝手な存在と見なし、神の愛と慈しみに満ちているという傲慢な思い込みをする者は、この世でそれほど遠くまで行くことはできず、すぐに道に迷い、その苦しみは極めて厳しいものとなるだろう。
17. 真実の賢者らとはどこにいるのか。
18.
知恵は私の存在を感じることを意味する。知恵は私の光に導かれ、私の御心を行うことを意味する。知恵は律法を理解することであり、知とは愛することである。（82,19-22）
19.
今日あなたの霊性無知に基づく、あの世に旅立った人々を思うとき、『ああ、そうだ、彼らはすべてが消え、永遠に去ってしまった』と言うまである。
20.
もしあなたがたが霊界にいる者らが、あなたがたがそう語っているのを聞いて、どれほど滑稽な思いであなたたちを見ているかを知っていたら。あなたがたの無知を前にして、彼らが感じているのは滑稽なのだ！
なぜなら、たとえ一瞬あっても、もしあなたがたが彼らを見ることができたなら、その真実を前にして、言葉を失い、圧倒されるだろうからである！（72, 46-47）
21.
あなたがたは物質性偏重に、それが持つ必要性を与えてきた。一方で霊なることについては知りたがらず、この世の愛があまりにも大きくなりすぎて、霊なることに関するありとあらゆるものを制限、否定しようとしている。なぜなら、その知識は地の進歩に矛盾すると考えているからだ。
22.
私は言う、霊性な知識は、道徳においても科学においても、人間の進歩を妨げるものではない。それどころか、その光は現在の科学にはまだ未知である、計り知れない無限の知識の豊かさを人間に明かすのだ。
23.
人間が霊への階段をのぼることを拒み続ける限り、彼は真の光に近づくことはできないだろう。その光こそが、ここ、父の家において神の子であること――すなわち、その愛と高貴な叡智によって私の霊にふさわしい子であること――という言葉の意味をもたらすのである。（31, 27-29）

犠牲、努力、責任に対する意識の欠如

24.
もし人類がその無にこれほど頑固に固執しなければ、彼らの地の存在は異なるものとなるだろう。しかし、人々は私の戒めに背き、自らの運命を呪い、私と共に私の業に加担するかわりに、自分の意志を通すために私の律法を回避する方法を探している。
25.
また私はあなたに言う。もし人が自分の行いをひとつひとつ注意深く観察したなら、彼は歩一歩いかに私に反しているか気づくだろう。

26.
私が人に豊かな祝福を注ぐと、彼らは貧しくなる。私が彼らに生の喜びを与えると、彼らは災いをもたらす。私が強くするために彼らの力を挫くと、彼らは反抗する。
彼を清めるために善悪の木の実を食べさせれば、彼は生を呪い、信仰が消えていくのを感じる。私が彼の肩に大きな重荷を背負わせれば、彼らは絶望し、私が彼の敵の一人をこの世から連れ去れば、彼らはまた私を拒絶と訴える。
27.
あなたがたは決して信じず、試練の中で私の名を讃える声を私は決して聞かず、また、私の創造の業において私が試みる姿を目にすることはない。（17, 55-57）
28.
わたしは人間に偉大さを与えたが、それは彼ら自身で追い求めるようなものではない。わたしが語る偉大さとは、自己犠牲、愛、謙遜、慈悲である。人間は絶えずこれらの美徳から逃げ、それによって、父が自分の子として彼らに授けた真の偉大さと尊厳から背を向けている。
29. あなたがたは、謙遜と貧しさを憎むと信じているが、それを避けている。
あなたがたは試練から逃げている。なぜなら、苦悩と孤独を嫌うからであり、それが成長することを望んでいないからだ。また、あなたがたは霊的なものからも逃げている。なぜなら、その本質に深く入り込むことは時間の無駄だと考えているからであり、それによって、あらゆる人間の存在より先に、光を探していることに気づいていないからだ。
30. それゆえ、わたしはあなたがたに言うのである。わたしを愛していると断言しながらも、実際は愛しておらず、わたしを信じていると主張しながらも、信仰のない者がいると。彼は、わたしに従う用意があるとまで言いながら、十字架を負わずにわたしに従おうとしている。しかし、わたしは彼らに言う。わたしに従おうとする者は皆、自分の十字架を背負って、わたしに従うべきだと。愛をもって自分の十字架を負う者は皆、山の頂上にたどり着き、そこでこの地の最後の息を引き取ると、永遠の命へと復活するのだ。（80, 37-39）
31. 今日、人はまず自分たちを取り巻く至るところの悪を取り除くことに、そこから自分たちの最大の利益を得ようと躍起になっている。
32.
なぜ人は、より純粋な感覚と、霊ふさわしい恵みをもたらしてくれる理解を望んで、高みへと発展しないのか。それは、彼がこの地の目に見えるもの、すなわち、自分の卑俗な地位の糸、そして物質主義的な利益を見ようとしないからである。
33.
彼は、この世で与えられた時間を、できるだけ多くの富と権力を得るために費やし、利用してきた。それは、肉体が滅べば自分にとってすべてが終わってしまうという考えに基づいていたからである。
34.
人間は、高みへと発展し、自己中心的な見方を捨てることに、より低次の存在の段階へと堕ちていく。そして、その精神性、霊性について語りかける神の言葉の恐れが彼を遠ざけ、彼らの内なる声を黙らせ、そうした警告について無知に考えることを避けることを選ぶ。
35.
彼は、自分の存在についても、また自分の精神的、肉体的状態についても、深く考えたことがない。そのような考えを思いを持続する限り、彼は塵であり、惨めな存在であるのに、どうしてあり得ようか。（107, 18）
36.
あらゆる時において律法の解決であるわたしの教えは、光の道として、霊のための確かな案内として、あなたがたのもとやって来る。それにもかかわらず、人は与えられた自由意志を行使し、人生の道において、また、という願望の中で、常に物質という安易な道を選んでしまった。
その過程で、常に霊的なものと導きの呼びかけを全く聞き流してしまう者もいれば、霊的な道程を確かな足取りで歩んでいると信じるために、儀式や犠牲を作り出す者もいる。しかし実際は、彼らは私という名と私の言葉を自分の生活から排除した者たちと同様に、利己的である。（213, 51）
37. 道は整えられ、私のもとに来ようとするすべての者のために開かれている。

38.
その道は狭い。これはあなたがたはよく前から知っていることだ。私の律法と教えの極めて純粋で、決して曲げられないものであることは、誰にとっても最も確実である。それゆえ、誰一人、自分の都合や意志に合わせてそれを変えようなどとはしないだろう。
39.
広い道と大きく開かれた門は、あなたの魂に、平和、そして滅びへと導くものとよく似ているものである。広い道は、放縦、不順、高慢、そして物質主義の道であり、人の大多数が、自分の霊性貧困、貧しさの内なる声から逃げようと、その道を歩んでいるのである。
40.
この道は、真実でも完全でもないため、無限であるはずがない。したがって、この道は人間性のすべてと同様に限りがあるため、人はいつの日かその終着点に到達し、そこでたいてい、道の終わりを表す深淵のような闇を見ることになるだろう。その時、すでに長い間この道から逸れてしまった者たちの叫び声に、混乱が巻き起こるだろう。
41.
ある者たちは悔い改めの心が芽生え、それによって自分たちのために小さな光を見出せるだろう。またある者たちは、不当な仕打ちを感じる結果として動揺するだろう。さらに別の者たちは、神を冒涜し、反抗するだろう。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。これこそが、光の回帰のはじまりとなるのである。（33, 64-68）

人間の魂の苦しみ

42.
私は創造したものに、私は誤りはなかった。しかし、人間は定められた道と人生を見失ってしまった。だが、まもなく彼は全財産を浪費してしまった放蕩息子のように、私のもとへ戻ってくるだろう。
43.
人間は、その行いによって、新たな世界、すなわち偽りの王国を築き上げた。人間は法律を制定し、王座を築き、冠を身につけた。しかし、その実態は、かりそめの夢、虚無に満ちていることか。わずか一瞬の息吹一つで、その土台は揺らぎ、その王国全体が崩れ去る。
しかし、彼が呼び入れることができなかった平和と正義と愛の王国は、人の心からは遠く離れている。
44.
人の業がもたらす喜びや満足は、単なる幻想に過ぎない。彼の心は、笑顔や仮面の裏に隠された痛み、不安、そして失望で満ち溢れている。
45.
人間の生活はのようなものになってしまった。そして、魂の生活やそれを取り巻く法則に関しては、それが忘れられてしまった。なぜなら、魂を気にかける必要はなく、人間は絶えず誘惑に耐え、完全性の上の道においてあらゆる障害や逆境を乗り越えるためには、それと接触し続けなければならない、ということを、人は忘れてしまったからである。
46. 無限の各々の魂と届く光は、天から来るものではない。魂は、あの世から受け取るものは、地上から獲得したものではない。魂のなかの識別の源を癒す愛、真実、そして健康の源は、あなたがの海岸の水ではない。
あなたがたを造った父は、単なる物質的なものではなく、万物の創造主、すなわち生命を創造し、その完全かつ変わらない法則によってそれを統治する御方である。人間の魂は、受け取るために息吹、そして霊である。
47. もし人間が、真理の道とは反対の方向へ、その心の羅針盤を進めれば、即座に平和の喪失感として感じることだろう。
しかし、魂が物質の影響を受けた物質になってしまうために、それは物質の下に屈服し、この人生の主人であり、自分の創造主であるはずが、人間の弱さや欲望の奴隷となり、嵐の中で難破してしまうのである。
48.
私はすでに、魂は身体に先立つものであり、それは身体の衣服に先立つようなものだと、あなたがに語った。あなたがたが持つ身体は、魂の一時的な住まいに過ぎない。（30, 49-53）

49.
ああ、もしすべての人が、この時の昇りゆく光を見ようとしてくれたなら――彼の心はどれほどの希望で満ちることだろう！しかし、彼は眠っている。彼は、主なる神が彼に送る光――創造から放たれる光のようなその光――を受け取る方法さえ理解していない。
50.
その光はあなた方を優しく包み込み、日の出前の静寂へと目覚めさせるが、創造の美しさに無感覚な人々は、私に感謝するためほんの少しでも立ち止まることさえしない。その光は、彼が気づくことなく通り過ぎてしまうかもしれない。なぜなら、彼らは常に心配事に満ちて目覚め、私の中に霊性を求めるために祈ることを忘れてしまうからだ。
51.
同様に、彼らは食物源から肉体の力を得ようともしない。皆、何のためかが分からないまま慌ただしく走り回り、苦しみ、明確な目標を持たずにただ突き進んでいる。まさにこの無感覚、無意味な日常の中で、彼らは自らの物質性、それを自己的なものとしてしまうのである。
52.
こうして、生命の光である精神の導きが忘れられると、人々は互いに競い合い、殺し合い、パンを奪い合うようになる。良心の声を聞くことも、よく、配慮することもなく、立ち止まって考えることもない。53.
しかし、もし誰かが彼らに、現在の苦境をどう評価するかと尋ねたなら、彼らは即座にこう答えるだろう。かつてないほど多くの光が今、人間の生活に輝いていること、そしてかつてないほど多くの秘密が彼らに明かされていることを。
しかし、彼らは盲目と無知に被われてそう言わざるを得ないだろう。なぜなら、彼らの心の中では、すべての精神的啓示と悲惨を隠しているからだ。（104, 33-34）
54.
私はその地球に送り出され、人間として生まれました。それは、彼が地上に存在するすべてのものの主となり、支配者となるためであり、私が実際目にするような奴隷制度、あるいは貧しき者となるためではない。人間は、自らの欲望、情熱、悪徳、そして無知の奴隷である。
55.
人間は、この地球を旅する中で、精神的な高みへの次のステップを苦しみ、過ち、そして重荷を背負う羽目になっている。人間は、人生において自分に与えられている機会をほとんど、あるいは全く、自分が何を持っているのかを知らず、何も持っていないかのように振る舞う。
56.
この類まれな霊的、霊性の書物を学ばなければならない。そうして、この悲劇的な世界から世へと伝えられることで、やがて、わが言葉が成就するその祝福された種が現れるであろう。
57.
私は、この類いまれな霊に、すべての被造物と調和して生きることを理解し、魂と性とが結合するようになると、あなた方に告げた。（105, 9-11）

誤った地球行動とその結果

58.
戦争に巻き込まれ、この地球の所有権をめぐって互いに殺し合う人々を見る時、私は価値のないものをめぐって争う幼子たちに、人々を何度重ね合わせてしまう。
子供たちはほんの少しの報われずかな金のために争い合う。彼らにとって人間過ぎない。他の人々がその内に備えている美徳とは、こうした所有物と何の意味があるというのか。
59.
憎しみを人の心に植え付け、民族を分断する者は、万人をひとつに結束させることに貢献する者とはとても言えない。同様に、苦しみをもたらす者は、隣の苦しみを和らげることに貢献する者とはとても言えない。
60. 人類誕生から、この世における平和の価値がかくも称賛されてきたにもかかわらず、あらゆる人は地球の平和を夢見ている。

61.
わたしはあなたがたに、わたしの王国おける地位を約束したが、それを受けられる者はごくわずかである。それは、その王国の最も卑しい臣下でさえ、地上の最も強力な君主よりも偉大であることを、人が理解しようとしないからである。
62.
人々はまだ幼年期を過ぎない。しかし、彼らに迫るいくつかの試練は、短期間のうちに多くのことを経験させるだろう。それによって彼らはこの幼年期からすぐに成熟へと至り、そして約束の果実を手にした時、こう叫ぶことになるだろう。「イエス、私たちの父よ。あなたがたは正しかった。彼らと共に行こう。」(111, 3-7)
63.
人々は地上での滅びゆく物質的な行いによってそれを達成しようと試みる。なぜなら、地上の名声は――たとえ一時的なものであっても――目を奪い、彼らに霊の名声を忘れてしまうからである。彼らはその存在を疑っているからだ。
人々の目の前に隠されたベールを取り去ったのは、信仰の光と霊生の光である。(128, 45)
64.
人間の発展、その進歩、科学、そして知識は、人間の中に存在する最も高貴で崇高なものである霊的な事柄を、決して目的としてこなかった。人間の努力、野心、願望、そして懸念は、常にこの世をその目標としてきた。
人間はここで富を求め、ここで名誉を探し、ここで権力、栄誉、報酬を手に入れ、ここに自分の楽園を見出そうとしてきた。
65.
それゆえ、わたしはあなたがたに言う。自然は、絶対的な発展という法則に従って、より精妙なもの、より完全なものへと一歩一歩前進し、立ち止まることなく進んでいる方で、人間だけが残され、前進できていない。それゆえ、地上における彼の運命が嘆かわしく、それゆえ、彼が人生の道に遭遇する試練や障害、そして苦難があるのだ。(277, 42)
66.
確かに、私はあなたがたが善を行い、向上に努め、偉大で、強く、賢くなることを望んでほしいと願っている。しかし、それは精神の永遠の善についてのことである。
67.
なぜなら、それらの善を得るためには、慈悲、謙虚、寛容、忍耐、寛大さ、一言で言えば愛といったあらゆる美徳が必要だからである。そして、あらゆる美徳は神聖の清めと完成をもたらすのである。
68.
この貧しい世界、この時代において、人間は――偉大であり、力強く、富み、あるいは賢明な者となるために――利己的であり、偽りであり、傲慢に満ち、残酷であり、無関心であり、非人間的であり、傲慢でなければならなかった。そして、これらすべてが人間を、真理、愛、平和、真の知恵、そして正義と正しさの神へと導くのである。(288, 32)
69.
人間が霊に自己を委ねるとき、彼は自分の中にその存在を感じる。しかし、自分が何者であるか、どこから来たのかを知らなければ、彼は私を遠く、異質で、手の届かない存在として感じるか、あるいは無感覚のままである。
70. 目覚めた魂のみが、真理の領域に踏み込むことができる。人間は、その科学だけでは、真理を理解することはできない。
71.
私は、人々が知識、名声、力、富、権力を追い求めているのを見る。そして私は、それらすべてを達成するための手段を彼らに提供する――しかし、それはその真の本質的な性質においてではなく、この世の表面的なものの獲得のため、あるいは一時的なものの中でだけである。
72.
人間が物質的なものの身体をまとってあなたの世界のような狭い空間に閉じこもると、彼は貧しくなり、自分の活動を限定し、抑圧する。彼にとって、自分が所有するもの、あるいは持っているもの以外は、もはや何もない。

そうなると、彼は真実を見出すためにすべてを失う必要が生じ、自分の過ちに気づいた後、再び求めるものとは逆向きになることになる。（1
39, 40-43）

第7章 唯物論と精神論

支配的唯物論の影響

1.
まことに、わたしはあなたがたに言う。多くの人々は、精神になることを恐れて、わたしの教えから逃げ出すだろう。しかし、彼の中で語っているのは、理性でも霊でもなく、肉の低俗な情欲である。
2.
真理を愛して生きる魂は、汚染された環境から離れる者のように、物質主義から逃げる。高潔な魂は、道徳の中に、すなわち私の教えに、愛が宿る場所に、その避難所を見出す。（99, 41-42）
3. 私の言葉を、その純粋さと真実を確信できるまで深く探求しなさい。
そうしてはじめて、あなたがたは勇気を持って自分の道を歩み、魂を脅かす物質主義的な考えの侵入に対して、揺るぎない姿勢を保つことができるのだ。なぜなら、物質主義は死であり、闇であり、魂にとっての災害であり、毒だからである。決して、魂の光の糧を、地のパンやみすぼらしい物質的な程度と取り替えてはならない！
4.
まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの律法を守り、信仰をもって最後まで耐え忍ぶ者は、物質的な指が欠けることは決してない。そして、わたしの霊と結ばれるその瞬間、その者はわたしの限りない慈悲によって、常に永遠の命のパンを受け取るであろう。（34, 61-62）
5. 物質主義は、魂の発展にとって途方もない障害としてたちはだかる。人類の前にたちはだかってしまった。
6.
あなたがたは、人間が物質に関する事柄に適用してその知能を開花させることができた世界にいる。しかし、霊的な存在に対するその精神力は依然として限定的であり、物質に完全には属さないものすべてに関するその認識は遅れている。（171, 37-38）
7.
あなたがたの世界が経験しているこの試練は、一つの時代の終わりを告げるしるしであり、物質主義の時代の没落、あるいは死のしるしである。なぜなら、物質主義は、あなたがたの行
なう目標、そして霊的な存在に対するあなたがたの義務、そしてあなたがたのすべての行
為を決定づけてきた。
8.
世の愛、地上のものへの貪欲、肉の欲望、あらゆる低俗な情欲の嫌悪、利己心、自己愛、そして傲慢――これは、あなたがた自らの知性と人間意志に従って人生を築き上げる運命であった。そして、あなたがたの経験が完全なものとなるよう、私はその実をあなたがたに収穫させるのである。
9.
しかし、今まさに終わりを迎えようとしているこの時が、人類歴史においてその物質主義によって特徴づけられるものであるならば――まことに、わたしはあなたがたに言う。新しい時は、その霊性によって特徴づけられるであろう。
なぜなら、その時において、地の良心と霊の意識は、愛によって貫かれた存在たちの世界を築き上げるからである。それは、父の霊が供
えた霊の中で脈打つのを感じるような生活であり、なぜなら、今日、あなたがたの存在の中に潜んでいるすべての可能性が、無限にその活
動領域として持つようになるからである。(305, 41-42)

スピリチュアリズムの本質

10.
スピリチュアリズムは諸教の混合ではない。それはその簡潔さにおいて最終的かつ完全な教えであり、この「第三の時代」において人間の精神と降りゆく神霊である。（273, 50）

11.
霊性主義は霊の交流について語るが、あなたがたに父と直接なることを教え、物質性生活を超越せる啓示であると、私は述べてきた。

12.
まことに、私はあなたがたに告げる。スピリチュアリズムは新しいものではなく、また二の時代のみに属するものでもない。それは人類霊的発展の各時代において、ますます明らかにされてきた啓示なのである。

13.
私があなたがたに与えた教えは、神と隣人への完全な愛を教え、完全性へと至る道を招くスピリチュアリズムである。それゆえ、スピリチュアリズムは「第一の時代」においてモーゼの律法が、また「第二の時代」においてキリストの言葉があなたがたに教えたものでもあったのである。（289, 20-22）

14.
スピリチュアリズムは宗教ではない。それは私がイエスという姿であらゆる時代、世界中のすべての人の指針として広げた教えそのものである。それは愛、正義、理解、そして赦しに関する私の教えである。

15.
この「第三の時代」において私はあなたがたの精神的、肉体的、そして知性的発展の基礎をより明確にあなたがたに語りかけているに過ぎない。（359, 60-61）

16. スピリチュアリズムは、人間によって導かれ、魂の進歩がたどり得る最も高尚な道である。スピリチュアリズムとは、魂がなんじと一体となり、完成へと至るについてその創造主に到達するまでの、絶え間ない発展高揚である。スピリチュアリズムは、魂の主を表現し、主を感じ、主を受け入れる方法を示すものである。スピリチュアリズムは結合教会、その開祖をもたらす。

17.
霊性とは万物に存在し、万人に属する普遍性であり、普遍性そのものである。私の教えは、誰にとっても異質なものとして映ってはならない。

18.
霊の本質は不変である。なぜなら、それは私の神性の美徳であり、永遠の力からである。しかし、あなたがたがどのように生きてきたかによって、あなたがたが示しうる清らかさは、大きくなったり小さくなったりすることを理解せよ。（214, 57-59）

誰が正当にスピリチュアリストと名乗ることができるのか？

19.
その性質、成長、そしてこの教えへの愛によって、ある種霊性を成した者は、たとえ口に出してそう言わなくとも、スピリチュアリストである。

20. 信仰告白、その行いに真実を示す者は、その精神に持つものが反映することになる。（236, 27-28）

21.
スピリチュアリストは、全宇宙が万物の神であり、世界、宇宙、そして無限が私の愛と私の臨在によって満たされていることを知っている。

22. このような私を理解し、理解する者は、生ける神の奴隷であり、もはや偶像によって霊の啓示を冒涜することはない。（213, 31-32）

23.
スピリチュアリズムとは、あなたがたが所有し、内包しているすべての知識にかんし、教えを与えてある。それは、あなたがたが神の仕業であり、単なる偶然ではないこと、そして、あなたがたの肉体の上に、周囲の目的のために、情報の手を差しのべる何かが存在することを悟らせるものである。

24.
人が霊性を獲得すれば、あらゆる叡智や知識は、その魂光の一部となる。たとえその記憶が、私の教えの一文たりとも、あるいは言葉一つとも留めていなくとも、その人はその本質を内に宿すことになる。なぜなら、その人はそれを理解し、それを感じ、それに従っているからである。（240、17-18）

25.
真の霊性を持つ者は、物質的な富にめぐまれなくとも、主であり、豊かで、幸福であると自覚する者である。なぜなら、その者は、父が自分を愛しておられること、愛すべき弟妹がいること、そして魂の富とは、この地上の次のものであることを知っているからである。

26.
また、物質的な財産の所有者でありながら、それを善き目的に用いることを知り、地上での重要な使命を果たすために神から与えられた手段としてそれを用いる者も、優れた霊性を持つ者となるだろう。

27.
わたしに従う者たちの仲間入りを果たすために、必ずしも貧しく、軽蔑され、惨めである必要はない。同様に、わたしに愛されるために、苦しむ者たちの仲間入りを果たす必要はない。まことに、わたしはあなたがたを望む。わたしの意志によれば、あなたがたは、より強く、健康であり、わたしがあなたがたのために創造したすべてのものの所有者であるべきなのだ。

28.
いかなるとき、あなたがたは、自分たちの福祉の所有者であることを理解し、あらゆる恵みを喜び、人生において物にその正しい位置を与えるようになるのだろうか。（7、28-30）

宗教と宗派におけるスピリチュアリズム

29.
今日、人々は混乱の時代を生きている。なぜなら、彼らの人生全体があらゆる努力が、創造主との対話という目標を精神の開花へと導くものであることを理解していなかったからだ。

30. 今日、大勢の人々が信奉している宗教は、唯物論である。

31.
信仰の教義、宗教上の掟に固執する限り、世界は憎しみを育て続け、真の神の御手へと向かう救済の一歩を踏み出すことはできないだろう。

32.
しかし、魂の救済の謎や秘密、そして永遠の命の鍵を自分たちが持っていると思い込み、自分たちの考えでは神に近づくに値しないとみなして、他の道を歩む者たちをも認めようとしない人々が数多く存在する限り、いかなる人々も互いに理解し合い、団結し、互いへの愛への第一歩を踏み出すことができないだろう。

33.
それゆえ、あらゆる宗派、あらゆる人間のイデオロギー、あらゆる分裂を超越した教えであるスピリチュアリズムの真の目的をよく心得ておきなさい。（97, 38-41）

34.
スピリチュアリズムは、過去の宗教の焼き直しでもなければ、新しい教えでもない――いや、それは第一の時代および第二の時代」の教えと同じものである。それはすべての宗教の基礎であり、私はこの第三の時代に、人類がその起源を忘れないよう、このことを思い出させたのである。

35.
人間の行い、その慣習、そして様々な宗教において自己を称賛し、それを誇りに思うための感覚、訴かける手法は、私の業の世界に示そうとしているものとお伝えする。（63, 9）
36.
この時代、私はあなたがたに、熟考すべき新たな教えを与える。それは、あなたがたの古い、高められた教えであったとしても、ものであっても、あなたがたの道の光となるべき真理である。
37. この時のスピリチュアリズムは、かつてのキリスト教と同様に、怒りと嫌悪と憤りをもって攻撃され、迫害されるだろう。しかし、その闘いの中で霊性が現れ、奇跡は増し、人々の心を勝ち取っていくであろう。
38.
唯物主義、利己心、傲慢、そして世俗の愛こそが、この啓示に立ち向かうものとなるであろう。この啓示は、私がかつてあなたがたに与えたものとは、新しいものでも、異なるものでもない。
私が今、あなたがたに啓示した教え、すなわちあなたがたがスピリチュアリズムと呼ぶものは、「第一の時代」と「第二の時代」に啓示された法と教えの核である。
39.
人類がこの教えの真理、その意義、そしてそれが明らかにする無限の可能性を理解すれば、あらゆる恐れや偏見を心から追い払い、それを人生の指針とするだろう。（14、48-51）
40.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。世界のあらゆる場所に、スピリチュアリストたちが散在している。彼らは選ばれた人々であり、人類に平和をもたらすであろう。
41.
しかし、私はあなたがたに告げる。全世界のスピリチュアリストたちの結束は、新しい教会の組織によってもたらされるものではない。なぜなら、彼のカは物質的なものではないからだ。彼の結束は、思想的、理念的、そして霊において成立するものであり、そのようにして彼の力は無敵となる。なぜなら、彼らは私の霊の神である永遠の源からその力を得ているからである。
42.
私は彼らすべてに私の真理を示し、また彼らを清めて、彼の心と性質からあらゆる不純物が消えるようにする。なぜなら、それらは私の光と混ざり合うことができないからである。
43.
あなた全員は、霊的能力によってスピリチュアリズムの教えが証明され、明確に理解されるようにし、人間の哲学によって汚されないようにする義務がある。（199、30-32）
44. まことに、わたしはあなたがたに告げる。スピリチュアリズムの歴史は、人類歴史の中で輝かしい文字で綴られるであろう。
45.
イエスは、エジプトの父たちからの預言によって、その名声を築かなかったか。キリスト教徒たちは、その勝利の行進において、愛によってその名声を築かなかったか。同様に、スピリチュアリストたちもまた、精神の自由のための闘いにおいて、その名声を築くであろう。（8, 64-65）

第8章 霊媒と霊

人間の霊的能力

1. 疑い深く、不信で唯物論なこの類は、神の啓示、あるいは彼が「奇跡」と呼ぶものに遭遇するたびに、すぐに超自然的な働きなど存在せず、そのような奇跡は起こったことはないと論証するための理由と証拠を探し求める。

2.

並外れた霊能力を示す人物が現れると、その声をかき消すために、嘲笑、疑念、あるいは無関心が向けられる。そして、自然界の神秘の道具として正義の声を上げ、人々に警鐘を鳴らしても、人々はそれをすべて傍観するにすぎない。

しかし、人類はこれほどまでに、神聖なもの、霊的なもの、そして永遠なものに対して無感覚で、耳が聞こえず、目が見えない状態であったことはかつてなかった。

3.

何百万もの人々が自らをキリスト教徒と称しているが、その大多数はキリストの教えを生きていない。彼らは確かに、私が人間として行ったすべての業を愛していると主張する。しかし、彼らの語り方、思考方法、物事の見方において、彼らは私の教えの模倣者ではないことを証明している。

4. 私はあなたがたに魂の生き方を教え、魂の神聖さを証明するために来た。それこそが、私がこの世に生を受けた目的である。

5.

私は業を用いて病人を癒し、霊たちと語り合い、憑かれた者たちを悪霊の影響から解放し、自然を越えた人間として霊的存在へと変容し、また霊的存在として再び人間と戻った。そして、これらの業の一つひとつは常に、あなたがたに魂の発展の道を示すことを目的としていたのだ。（14, 1-4）

6.

あなたの内には真の宝、すなわち、あなたが想像していない能力や潜在能力がある。しかし、その無知ゆえに、あなたは貧しい者のように涙を流している。祈りの力や思考の力について、あなたはお分かりだというのか？

霊、霊の話、秘められた深遠な意味について、あなたがたは本当に理解しているのか？

何も知らないのだ。物質主義で唯物的な考え方の類よ！（92, 14）

7.

私は世界に対し、霊に集中している。私にとって、各教会が宣伝する名称など何の意味も持たない。また、その儀式的な礼拝の、多くの華やかさも同様である。それらは人間の感覚には届くかもしれないが、私の霊には届かない。

8.

私は人々に霊に集中するよう、それは生命の高揚、完成の理想、善への愛、真理の回帰、愛の実践、自己の調和を意味し、それは他者との調和であり、ひいては神との調和だからである。（26, 21-22）

9.

霊とは、偏善を意味するものではなく、しかも義の実践を前提とするものではなく、また外的な礼拝形式でもない。霊とは、人間が持つある特定の関係を意味する――それは、人間の外部に属するものもあれば、肉体的な感覚を超えた魂の力、性質、能力、感覚に属するものもある。

10.

霊とは、人間が持つすべての賜物を正しく、善く用いることである。霊とは、あなたが所有するすべてのものとの調和である。（26, 63-66）

11.

かつて、私はあなたがたに、慈悲という最大の美徳を教えた。私はあなたがたの心、霊を与え、感情を癒した。今、私はあなたがたの霊魂に備わっている賜物を明らかにする。それは、あなたがたがそれを開花させ、隣人のために善を行うために用いるためである。

12.

霊的な話に関する書は、あなたがたに、自分が行うのと同じ業を成し遂げることを可能にするだろう。あなたがたが信仰を養えば、真の奇跡を起こすことになる、と私が言ったことを思い出してほしい。（5, 20-21）

13. あなたがたは皆、霊の賜物を持っている。それは、魂を選んだ発展によって、この第三の時代において開花し始めている直感、霊的な見方、啓示、予言、霊感は、人の間で再び現れており、これは新しい時代の到来を告げるものであり、この時代に第二章が開かれた『七つの封印の書』の光である。
14.
しかし、これらの現象のためにあるのかを悟り、あなたが生きている時代を理解しているあなたがたは、その霊の賜物を愛の道へと向けなさい。
常に愛に満ち助けの手を差し伸べる準備をしておきなさい。そうすれば、あなたがたは私の律法を調和し、同胞にとって模範となるだろう。そうしてこそ、あなたがたは私の弟子となり、そのように認められるのである。（5, 18）
15.
かつて人の耳に愛し合い、赦し合うことを説き、心に謙虚さが存在し、精神が肉体に対して優位に立つようになったとき、肉も、世界も、憤然、もはや、あなたがたの前後の道を見通すことを妨げる、あの厚いベールを形成することはなくなるだろう。
それどころか、私の教えに従うことによって霊にされた肉は、良心の声に従順になるだろう。それは、今日のそれがそうであるのとは対照的に、障害であり、落とし穴であり、霊の目の前の覆いである。（122, 32）
16. 霊的洞察、予感、そして予言である直感は、理性を超越し、無限から受け取るメッセージを声に変換させる。（136, 46）
17.
私がすべての人々に授ける直感の賜物によって、あなたがたは、私の奥深くに秘められた多くの事柄――同胞たちの他の生活だけでなく、その魂をも揺るがす多くの悲劇――を発見することができる。
18. それらの秘密に、傷つけたり、その秘密を冒涜したりすることなく、どのようにしていくことができるだろうか。
同胞の生活を覆い隠している、あの隠された苦しみを、いかにして発見すればよいのか。私はすでにあなたがに語った直感、すなわち霊的感覚の一部であり、祈りによってあなたがの中で完全に開花するその能力こそが、同胞一人ひとりの痛みを和らげるための道筋を示してくれるのだ。（312, 73-74）
19.
人間にとって、まだ解明されていない秘密はどれほどあることか。人間は、本来ならすべて目で見て、感じられるはずである。目で見ず、触れることのできない存在を、人間は否定している。
20. 美と啓示に満ち生命が、人の存在の土台に流れている。しかし、盲目である彼は、まだそれを見ることはできない。（164, 56-57）
21.
私の教えによって準備された人間は、超人的な仕業を成し遂げる能力を持つようになる。その魂自身からも驚かされ、知性だけでは成し遂げることのできないことを実現させる力が彼に与えられる。（252, 4-5）
22.
今こそ、私の後継者たちの中に聖霊が完全に顕現する時である。彼らは神霊の賜物を現し、善行を行い、奇跡を起こすために、地の財産や世俗の科学も必要としないことを証明するだろう。
彼らは私の名において癒しを行い、絶望的な病人を回復させ、水を香油に変え、死者をその墓場からよみがえらせるであろう。彼の祈りは、嵐を鎮め、自然の猛威や疫病、悪霊に影響力を持つであろう。
23.
取り分かれた者たちは、私の新しい弟子たちの召命と祈りと権威によって、その憑依された者、抑圧者から解放されるであろう。（160, 28-29）
24.
霊とは、感情高潮に生命の清かさ、信仰、隣愛、隣への援助、神に対する謙虚さ、そして受け取る賜物の深い敬意を意味する。もしあなたがたがこれらの美徳のどれかでも達成すれば、霊的感覚をもって、愛と完全性の領域と接触し始めることになる。
同様に、霊を成し遂げれば、たとえそれが祈りの瞬間だけであっても、この地上にありながらにして、あなたがたは霊的な領域に生きている

と言えるようになる。同時に、上昇する魂にとって未来はもはや秘密でないため、あなたがは、未来に起こる出来事を明らかにする光を受け取るようになる。

25.
そう、弟子たちよ、人間はこの地上での人生においてのみ、将来何が起こるのか、明日何が訪れるのかを知らない。人は自分の運命を知らず、歩むべき道、その結末も知らないのである。

26.
人間は、自分の存在において乗り越えなければならないあらゆる試練にどれほど耐えられないことか。それゆえ、私は彼らに対する慈悲深い愛をもって彼の現在と未来の間に、
という神のベールを彼らから経験し、耐えなければならないすべてのことを知ってしまう場合に、その理性が混乱することを防いだのである。

27.
一方、力に満ち、永遠のために創造された存在である魂は、未来を知る力、すなわち自分の運命を識別する能力と、待受けるあらゆる試練を理解し受け入れる鍵をその内に備えている。
魂は、律法に従順にその道を歩み終えた時、約束の地、すなわち光の領域に到達することを知っている。そこは、魂が最終的に到達する高揚、清らかさ、そして完全さの境地である。

28.
あなたがは、自分の運命が何を意味しているのか、未来が何をもたらすのかを知るために、自分の霊的な境地は達することはできない。しかし、あなたがの内面の高まりと善き、私はあなたがに、何かの出来事が近づいていることを感じさせてあげよう。

29.
この予感する力、未来を霊的に見通す力、そして自分の運命を知るための鍵は、肉体と魂から成るあなたがの本質が、霊の道を歩むにつれて次第に高次と発展していくことにのみ、得られるものである。それはすなわち、信仰、謙虚さ、生命の愛、隣人への愛と助け合いの心、そして生ける聖霊と愛である。(160, 6-9, 13-14)

30.
心を形造るよ。あなたと同じように、私の神性から託された使命を果たすために、敵と戦わないようにしなさい。そうしてこそ、真の預言者と偽の預言者を識別し、前者の業を証し、後者の業を無に帰すことができるのだ。

31.
なぜなら、今こそ、あらゆる力が戦いに立ち上がる時だからである。善と悪との戦い、光と闇との戦い、知識と無知との戦い、平和と混乱との戦いを目の当たりにするであろう。(256, 66)

真の霊性の前提条件

32.
すべての人の中にイエスが宿っていることを知れ、そう、弟子たちよ、あなたの場合、肉体にその魂にイエスがいる。肉体にそれが霊の光が輝くことを拒み、魂を待ち伏せて物質主義的な情欲と闘おうとするものである。

33.
しかし、あなたの肉体があなたを支配しようと迫ってくるからといって、それを難ではならない。いいえ、そうではない。なぜなら、あなたは進歩するためにそれを必要としているからであり、私が愛によってこれを服したように、あなたも霊によってそれを服すべきだからである。(150, 67-68)

34.
あなたがが、私の生きる現在を、その存在するために前に、まず、私があなたがたに与えた教えに従うことから始めなければならない。すなわち、隣を愛し、霊性豊かな生活を送り、愛の行いをもって自分の道を歩むのである。
もしあなたががそうするならば、

、私はここで、あなたがたはスピリチュアリズムを理解していないと言う。それはあなたがたの本来の性質を明らかにし、それを通してあなたがたはよりこの崇高なイメージを描き、自分自身を知ることができるのだ。

35. 確かに、霊性を得るためには、ある程度の努力、そして犠牲が必要である。

しかし、もしあなたの内に、より高次の存在への憧れが芽生え、あなたの人生の中で愛が輝き始め、あるいは霊性ものの渇望がまたなければ、あなたにとって、犠牲や努力ではなく、自分の中にある無限なもの、有害なもの、あるいは悪いものをすべて取り除くことは、喜びとなるだろう。（69, 46-47）

36.

たとえ見解の違いがそれぞれ異なっていても、あなたがたは皆、私の前で等しく、皆同じ地平に立ち、皆同じ目標を持っているということを、常に自覚しなさい。

37.

あなたがたは皆、私のもとへ至らなければならないことを決して忘れてはならない。それは、たとえその方法は異なれども、あなたが全員が、最高の霊的高みに達するために必要な犠牲を払わなければならないことを意味する。それゆえ、決して誰をも自分より劣った存在と見てはならない。

38.

スピリチュアリストの中に、決して虚栄心が根を下ろしてはならない。それに対して、常に真の謙虚さがその特徴となるべきである。そうすれば、その行いは、偽りの光ではなく、人の心に響くものとなるだろう。（122、32-34）

39.

スピリチュアリズムの良き働き手たちは、決して見せ物的なものに関わることはない。彼らは、特別な服装、徽章、あるいは特別な話し方などない。彼の振る舞いのすべてが、簡素と謙虚を物語っている。それでも、もし彼らが何かで際立つとすれば、それは彼らの隣人愛と霊性である。

40.

スピリチュアリズムの真の説教者たちは、その雄弁さによって注目を集めるのではなく、その言葉の明瞭と簡潔、そして何より、その行いの真摯な生活の善良さによって注目を集めるのである。（194, 24-25）

41. 霊性は、明晰であり、簡素であり、愛の衝動であり、魂の完全性を達するための闘いである。（159, 64）

霊性の深い影響

42.

霊によって、人はある高みに達し、それによって、自分の理性が感じうるものを超えたアイデアを受け取り、物質的なものに対する力を持つことができるようになる。

43. 考えてみてほしい。

もし、魂や霊媒現象が、自然が提示する物質創造物の研究において、あるいはその他、かなる場面においても実践されるならば、あなたがたの発見は単なる理性の深さによるものではなく、万物を創造された方から与えられた霊感をも加えたものであるならば、どのような実りを収穫できるか、想像してみてください。(126, 26-27)

44.

人が霊性を成し遂げれば、彼は理性あるいはそのものの優れる存在となるだろう。なぜなら、これまで彼は、自然の力や影響力にさらされた弱い存在に過ぎなかったからである。それらの力や影響は、人間より上位にあるわけではないため、人間より優れてはいないのである。(280, 29)

45.

まことに、わたしはあなたがたに言う。霊はまず子孫に受け継がれるものである。それゆえ、あなたがたは、子供たちの心の清らかさと、霊的なものに対する感受性を授けるよう努めなければならない。

子供たちは、あなたがたに感謝するだろう。なぜなら、あなたがたは、情欲から解放され、明晰な性、感受性豊かな心、そして良心の呼び声に目覚めた準備の整った身体を彼らに授けることで、慈悲を示したからである。（289, 65）

46.

私の教育計画唯一のものは、すべての人の霊にある。なぜなら、霊によって彼らはつながり、互いに理解し合うようになるからだ。霊化の中で、彼らはそれぞれの宗教や神を異なる方法で解釈してきたために、霊性が敵同士となっていた。その結果、霊性が消え去っていくのを見ただろう。

47.

すべての人がそれぞれの異なる道を通って霊に近づくやいなや、彼らは、自分たちに欠けていた唯一のものは、物質意識から解放され、これまで物質性意識を拒絶してきたものを霊的に解釈できるようになることだけだったと理解するだろう。

48.

霊にそが、この時代に私が人々に求めるすべてである。そうすれば、彼らはそれぞれ自国内で、自らの最高の理想を成し、最深の憧憬が解決されるのを目にするだろう。（321、22-23、29）

XI 人類

第49章 - 宗教と司法

唯一の真の宗教や宗派など存在しない

1.

私は、人々の間に宗教的信念を呼び起こすために来たのではない。私の教えは、誤ったことを説くものとは異なる。私が望むのは、善意、信仰、隣人愛、そして精神である。狂信は、目の前の時代を覆っており、不寛容な憎悪であり、闇である。この悪しき種があなたの心に浸入しないよう、警戒せよ。狂信は時に愛の装いをすることもあることを心得なさい。

2.

この闇が、この時代の人類を覆っていることを理解せよ。異教の民よりも、人類の多くが真の神を崇拝していると言っているにもかかわらず、人々はわたしを知らず、また愛してもいないことを嘆き、彼らの兄弟、憎み、そして誤解の故にそが、彼らが祈りの中でわたしを呼んでいないことの証拠である。

3.

この宗教的信念の偶像の間に、人類は精神的崇拝を汚染する罪を犯している。この罪が成し遂げられたとき、無限の父と子の光が輝き渡るであろう。（3, 60-62）

4.

私は、魂にとって神へと至る道となる宗教が地上に存在することを許してきた。善、愛を教え、慈悲を称えるあらゆる宗教は、光、真理を含んでいるがゆえに良いものである。しかし、人がその中で迷走し、本来善であったものを悪へと変質させてしまうならば、その道は物質意識の罪の下で滅びてしまう。

5.

それゆえ、私はこの時代に、道であり、生命の真理であり、法である私の真理を改めてあなたがたに示す。それは、あなたが、形骸化した、あらゆる偶像を捨て、灯台であり導きの星であるこの法を求めるためである。このような私を求める者は、スピリチュアリストとなるであろう。（197, 10-11）

6. 誰一人失われることはない。ある者は私が示した道を通って早く到着し、またある者は彼らが従う道を通って遅く到着するだろう。

7.
あらゆる宗教において人は善となるための教えを受け入れることができる。しかし、もしそれを実践できなければ、人はみな信奉する宗教のままにすぎず、これまで変わらないままのままである。

8. すべての宗教は道である。あるものは他より先進であるが、すべては善を目指し、父のもとへ至ろうと努めている。
もしあなたがたが知っている宗教の何かが満足のいくものでないとしても、私の信仰を失ってはならない。隣愛の道を歩みなさい。そうすれば救いを見出すだろう。なぜなら、私の導きの力によって照らされているからである。（14, 43）

9. 宗教は魂を真の道へと導く小さな脇道であり、その道を通って魂は一歩一歩前へ続き、ついに私のもとへ至ることができるのである。
人が他と異なる宗教を信奉している限り、彼らは分断されている。しかし、ひとたび愛と真実の道を踏み出せば、彼らはつながり、その唯一のぶどう木となるだろう。なぜなら、真実はただ一つしかないからだ。（43, 5）

10. 人の精神が物質主義の伝統と偏見、そして狂信を乗り越えたとき、宗教の分断は消えるだろう。
その時、人はみな一つの霊において精神につながるだろう。それは神と隣人への愛から生まれる喜びである。これが実現すれば、人類は新たな時代へと入っていく。（187, 43）

11.
人の精神が分裂したのは、ある者たちが神の啓示という木のある一つの枝を採用し、他の者たちが別の枝を採用したことに起因している。木はただ一つだが、その枝は数多い。しかし、人はこの教えをそのように受け止めようとはせず、論争や分断、意見の違いを好んでいる。
誰もが真理を手にしていると信じ、誰もが自分こそ正しいと感じている。しかし、私はあなたがたに告げる。ただ一つの枝が実ったのではない、他のすべての枝の実もまた、すべての果実が神の御もとに来、その結び目が完全に真理であるという認識に至るだろう。

12.
私がこれらの真理について語るとき、それは様々な宗教の差異性を議論しているのではなく、それぞれの宗教の中にある根源的真理を指しているのだと、誤解してはならない。

13.
今、激しい暴風が吹き荒れている。その嵐が木を揺さぶり、その多様な果実を地面に落とさせ、それはかつてそれを育てなかった者たちによって味わわれることとなる。

14.
それを見て、彼らはこう言うだろう。「我々はなんと見当違いで盲目だったことか。狂信に駆られて、ただ見慣れたものだという理由だけで、兄弟たちの差し出したあらゆる実を拒んでいたのだ！」

15.
私の光の一部は、あらゆる人の集団、あらゆる団体の中に存在する。それゆえ、誰も「真実のすべてを掌握している」などと自慢してはならない。
だから理解せよ。もしあなたがたが救いのさらに深くへ、これまで踏み入った場所よりもさらに先へ進みたいと望むなら、まずある者たちの知恵を他の者たちの知恵と結びつけ、そのようにして他のすべての人々と結びつかなければならない。そうすれば、この調和から、あなたがたがこれまでこの世で探し求めても見つけることができなかった、明瞭で非常に明るい光が放たれるだろう。

16. 「互いに愛し合いなさい」、これが私の掟であり、信仰や宗教にかかわらず、人間に対する私の最後の戒めである。

17.
この至高の戒めを実践することによって互いに近づきなさい。そうすれば、あなたがたは一人ひとりの内に私が現れているのを見出すだろう。（129, 36-41）

宗教の発展に対する警告

18.
人間にとって、たとえ人間性ゆえの夢、霊性ゆえの必要であることをしばしば忘れていたとしても、人間性は霊性よりも先に重

要である。これが、文明科学において進歩を遂げたにもかかわらず、人間が霊的に停滞し、その宗教において眠りこけてしまう理由である。

19.
宗教を一つひとつ検証してみれば、そのどれ一つとして、発展、開花、あるいは完成の兆しを見せていないことがわかるだろう。どれ一つとして、最高真理であると宣言されている。しかし、その宗教に属する者たちは、その神すべてを見出し、理解したと思い込んでいるため、一歩でも前進しようと努力することはない。

20.
神の啓示、神の律法、私の教え、そして私の啓示は、初めから、人間は永遠の過程にある存在であることを、あなた方に理解させてきた。それなのに、なぜあなた方のどの宗派も、この真理を証し、検証しようとしないのか。

21.
私はあなたがたに言う。魂を目覚めさせ、その内に光を与し、魂を育み、その内に秘められたものを明かにし、つまずけば立ち直らせ、立ち止まることなく前進させる教え――ただそのような教えのみが、真理霊を受けたものである。
しかし、これこそが、私の教えがいつの時代にもあなた方に明かしてきたことではないのか？

22.
それにもかかわらず、あなたがたは長い間、霊的に停滞してきた。なぜなら、あなたがたは、自分の魂に関する事柄より先に、地上の生活に関する事柄の方をより気にかけてきたからだ。しかし、霊性なるものを完全に放棄しないために、あなたがたは、地上の日常義務の遂行に、ほんの少しでも支障をきたさないよう、宗教を作ってきたのである。

23.
そうしてその宗教儀式にふけるとき、あなたがたは神に義と認められると思い、それによって良心をなだめ、天の御国への入り口を確かなものにするのだと信じている。

24.
なんと無益なことか、人類よ！いつまでたったら、お前たちはこの現実に目覚めるのか？宗教的慣習にふけることで、お前たちは私に何も与えていないばかりか、魂を空っぽのまま残してしまうことに気づかないのか？

25.
あなたがたが教会を後にし、「これで神に対する義務果たした」と言うとき、あなたがたは大きく誤りに陥っている。なぜなら、私は何かを与えたと思い込んでいるからだ。しかし、あなたがたは私に何も与えることはできないが、私から多くのものを受け取り、自分自身に多くの恵みをもたらすことができるということを悟るべきである。

26.
あなたがたは、律法の履行とは、そうした場所に行くことに限られると信じているが、これはまったく大きな誤りである。なぜなら、それらの場所は、生徒が来世のために学ぶべき学校であるべきだからだ。再び日常生活に戻ったとき、彼は学んだ教訓を実践に応用すべきであり、それこそが律法の真の履行なのである。（165, 22-27）

宗教と科学の関係

27.
太古の昔から、律法と霊的教師の敵たちは、科学者たちであった。両者の間には激しい争いが勃発しており、今こそ、私はこれらの対立についてあなた方に語る時が来た。

28.
私はこの世界を、転生した魂たちの一時的住まいとして創造した。しかし、彼らがこの世界に住まう前に、私は彼らに霊、知性、そして意志の能力を授けた。

29.
私は、私の被造物たちの運命に発展があるかもしれないと知っていた。私は、人間の存在の維持、養育、発展、そしてそれを支えるために必要なすべての

要素を地球の部、地表、そして人体の中に備えた。
しかし、人間生命の源としての霊的存在を発見できるよう、私はその知性を目覚めることを許した。こうして、科学の端緒が明らかにされたのである。あなたがたは皆、その能力を備えているが、常により優れた指導者たちの存在、彼らの援助は、人類発展のために、自然からその力と要素の秘密を引き出すことだった。
31.
また、私は導く霊たちを地上に遣わし、超自然的な生命――すなわち、この自然を超越し、科学の彼方にある生命――をあなたに啓示させた。
これらの啓示を通して、普遍で、強くて、創造的であり、全能かつ遍在する存在の存在が予感された。その存在は、人間たちの死後生、すなわち死の永遠の命を保証している。
32.
しかし、ある者たちは霊的な啓示を、またある者たちは科学的な啓示を選んだため、宗教と科学という両者はいつの時代も互いに敵対し、争い合ってきた。
33.
今日、私はあなたがたに告げる。物質と精神は対立する力ではない。両者の間には調和が存在すべきである。私の霊的な啓示はおまえたち、科学の啓示を照らす光である。
しかし、私が科学者たちの業績をしばしば非難していると、あなたがたが聞いたことがあるならば、それは、彼の多くが、かつて私があなた自然の要素を、破壊、敵意、憎み、復讐、地上の支配、そして支配を超えた権力という破滅的な目的のために悪用してきたからである。
34.
愛と善意をもってその使命を果たした者たち、すなわち、敬意と謙虚さをもって私が与えた宝庫に踏み込んだ者たちに対しては、私は喜ばしい人類発展のために、彼らに導く秘密を啓示することが、私にとって喜びであったと、あなたに告げることができる。
35.
科学は、世界の始まりから、人類を物質的進歩の道へと導いてきた。その道において、人間は一歩一歩、科学の果実を見出してきた――あるものは良く、あるものは悪いものであった。
36.
今こそ、あなたがたは、すべての光が私の霊であり、生命であるすべてのものが私の神性から出ていることを理解しなければならない。なぜなら、私は、すなわち全創造の源であり、その起源である秘密の源そのものだからである。
37.
霊的なものと科学的なものとの間のこうした対立は、人々の生活から消え去り、やがて霊的なものと科学が、人間の道徳的成長を照らす一つの光の中で融合するに至るだろう。（133、25-34）

地上の司法制度と不公正

38.
わたしは、あなたがたの誤った法律を廃止するために来る。そして、わたしの裁きによって刑罰され、わたしの不変の調和した法律のみが、あなたがたを治めるようにするためである。わたしの法律は愛に満ちており、わたしの神性から出ているゆえに、不変かつ永遠である。一方、あなたがたの法律は、時に矛盾や間違いである。
39.
父の法律は愛から成り立っており、それは悪を正し、罪を矯正し、その過ちの償いに耐えられるようにする、まるで香油のようなものである。
父の愛の法は、過ちを犯した者に常に道徳性再生の真の機会を与えるが、それとは反対に、あなたの法は、過ちを犯した者、そしてしばしば無実で弱い者をも罰し懲らしめるものである。

40.
あなたの司法は厳しさ、復讐、そして憐れみの欠如である。キリストの法は愛、満ち足りた説得力、無限の正義、そして至高の正さによって成立している。あなた自身があなたの裁判官であるが、私はあなたのためにお願いする者である。しかし、あなたは自分の過ちを償うにはこの方法があることを忘れてはならない。一つは愛によって、もう一つは苦痛によってである。
41. 自ら選びなさい。あなたがたはそのお望みどおりの賜物を享受しているのだ。（7, 46-48）
42.
私は神聖なる裁判官であり、過ちの重さ以上の厳しい判決を下すことは決してない。私の前に罪人として立つ者たちのうち、どれほど多くの者が私には憐れみを見いだすことか。それに対し、自分の清さを大声で誇示する者たちのうち、どれほど多くの者が私に認められ、有罪であると見いだすことか。
43. 人間の司法なんと不公正なことか！どれほど多くの無実の者が、無能な裁判官によって他人の罪を償わされていることか！どれほど多くの無実の者が、目の前で刑務の鉄格子が閉まるのを見ていることか。その一方で、有閑な人生を送り、盗みや殺しという重荷を背負うことなく生き続けている者たちがいるのだ。（35, 2-3）
44.
人間の司法は不完全であるため、あなたの刑務所は犠牲者であふれ、処刑場は無実の者の血で汚されている。ああ、私はこの世で、どれほど多くの犯罪者が自由と尊厳を享受しているのを見ていることか。そして、あなたたちは、その記憶を称えるために、どれほど多くの殺された者たちに記念碑を建てたことか！
45.
もしあなたがたが、彼らの墓場で生き、その魂の中に光と美しさのみを見ることができるなら！無限の無益な称賛の代わりに、あなたがたは彼らの重い使命を悟るために、彼らの足元にひれ伏すだろう。（59, 44-45）

人間の犯罪的な無責任

46.
あなたがたが神聖なる法の真の裁きとなるために、愛こそがあなたがたを導くべきである。なぜなら、深淵に落ちることのないようあなたがたは、常にすべてに難しい裁こうとするからだ。あなたがたは、ほんの少しの同情も持たずに罪を断罪するが、それは私の教えではない。
47.
もしあなたがたが、裁く前に自分自身と自分の過ちを省みるならば――私は保証する、あなたがたの裁きはより思いやりに満ちたものとなるだろう。あなたがたは刑務所にいる者たちを悪人と見なし、病院にいる者たちを不幸な者と見なしている。
あなたがたは、彼らが私の愛する国に入るにふさわしい存在であることを主張することなく、彼らから距離を置いている。あなたがたは彼らにも、例外なくすべての生き物に与えられた救いを受ける価値があるということを考えようとはしない。
48.
贖罪の場所に閉じ込められている人々はしばしば、人々が自分たちを映し出したくない鏡である。なぜなら、その鏡に映し出された像は多くの場合、告発となることを知っているからだ。（49, 51-53）

必要悪としての地上の司法

49.
依然として、地上に存在する司法は公正さを示していない。私は慈悲の欠如、理解の欠如、そしてしばしば憎しみさえも見ることができる。しかし、誰かが完全な裁きを受けることはない。
50.
私はこれらの試練を容認してきた。そして、人間が私の律法を遵守せず、その戒めに背き続ける限り、地上には、その心を開かせ、傷ついた者が存在し続けるだろう。

51.
もしあなたがたが律法を尊守するならば、この世の裁判官は愛なく、罰なく、政府も要なくなるだろう。誰が自分の行ないを知り、すべての人が私によって統治されることになる。あなたがたは皆、私の律法に導かれ、その行ないは常に慈愛に満ち、霊的高みと愛を目的とするものとなるだろう。
52.
しかし、人類は深く堕落の底へと堕ちてしまった。不道徳、悪徳、罪が人々の心を覆い、その結果として、あなたがたは苦しみを経験せねばならず、兄弟であるにもかかわらず地上で権力を振るう者たちによる圧制下におかれねばならない。
53. しかし、謙虚でありなさい。裁きを忍耐強く受け止めなさい。私が完全なる裁き主であることを心に留めなさい。（41, 53）

第10章 教育と科学

虚栄と誤りの騙し

1.
私は、この地の歴史上最も進んでいると考えている現代の人々に問う。あなたがたは、そのすべての術をもってしても、隣人を殺したり、滅ぼしたり、奴隷にしたりすることなく、平和を築き、権力を得、繁栄を成し遂げる方法を見出したというのか。
あなたがたは、道徳においては混乱に陥れ、精神においては闇の中をさまよっているのに、その進歩を真実であると言っているのか。私は科学そのものを否定するのではない。なぜなら、私自ら人間にそれを授けたからだ。私が非難するのは、あなたがたが時にそれを用いるその目的である。（37, 56）
2. 人類よ、光の娘よ、目を覚まし、あなたがたはまさに霊の時代に生きていることを悟りなさい！
3.
なぜあなたがたは忘れ、あなたの父親の力を試そうとするのか。私はあなたに告げる。ある者がその科学をもって、あなたがたに似た存在を創造し、それに魂を宿せ、霊をそそぐその日、私は私の力をあなたの手に委ねるだろう。しかし、あなたの試みは、まずは失敗となるだろう。（125, 16-17）
4.
なぜ創造から与えられた能力を用いて人間の科学を打ち破り、それを用いて神の科学と戦い、揺るがす人々が、過去にも現在にも存在するのだろうか？
それは、彼の虚栄心が、謙虚さと敬虔さをもってこの道に入ることを許さず、彼がこの世において自分の目的と平安を求めているからである。（154, 27）
5.
今日、人間は自分を神だと感じ、自己を誇示し、「神」と言うことを恐れている。彼はその言葉を傷つけず、社会的地位という座から転落しないために、神性の名を付けている。それゆえ、彼は私を「宇宙の知性」、「宇宙の建築家」と呼ぶのである。
しかし、私は第一の時代に教えたように、私を「私たちの父」、「私の父」と呼ぼう。あなたがたに教えてきたように、人々は私を「父」と呼ぶことが、自分の地位を貶めたり、貶めたりすることになると信じているのか。（147, 7）
6. 人間はいかに深く物質主義の深みへと沈み込み、ついには霊的創造主の存在を否定するに至ったことか！
人間の知性は、どうしてこれほどまでに暗闇に覆われてしまったのか？
どうしてあなたの科学は、私を否定し、生命と自然を冒涜するようなことを、あのように行なったのか？
7.
あなたがたの科学が発見するあらゆる事象の中に、私は存在している。あらゆる事象において、私の法は明らかにされ、私の声が聞こえる。どうしてこれらの人々は感じず、見ず、聞かないのか。私の存在、私の愛、そして私の正義を否定することが、果たして進歩と見なされるだろう

か。
それゆえ、あなたは、あらゆる自然の神秘の驚異の中に、神聖で、高貴で、賢明で、公正で、力強い存在の業を見出し、存在するすべてのものの中にあらゆる善をその存在に帰し、それゆえにそれを崇拝しているが、あなたは、何ら進歩していないことになる。（175, 72-73）

8.
私は再び人々に私の言葉を授ける。それは、彼らが見合っていないことをはっきりさせるためであり、彼らの霊の声によって目覚め、この生涯を終えた後に待っているより大きな神聖さに備えるためである。

9.
私は彼らを通して人々に語りかけた。そして、霊性なものとされるものを探ることを阻害された科学によって自然の神秘に深く入り込む者が証言するように、同じことを確認する。これらこの道において、探求すればするほど、理性霊はますます多くのことを発見していくであろう。

10.
しかし、人間が研究探求において愛にインスピレーションを受けるときがいつ来るのだろうか。それが実現して初めて、その業績は永続するものとなる。科学の動機権力の追求、傲慢、物質主義、あるいは憎悪である限り、人は自らの墓を掘る。解放された自然力の激しい発作が襲うことになるだろう。

11.
どれほど多くの人が、悪徳傲慢虚栄に満ち野望の中で暮らし、どれほど多くの人が貧しく、精神的に裸であるにもかかわらず、自らを天才であると宣言してきたことか。あなたがたが真実と見なしているものと、わたしの真実の間はなんと大きく隔たりがあることか！（177, 31-32, 36）

物質主義的な思考の帰結

12.
もし人々が隣人に対する真の愛を感じることができれば、彼らが置かれているような話に苦しむ必要はなく、彼らのあるすべての領域に平和に満ちているはずである。
しかし、彼らは神聖な愛を理解せず、ただ科学的真理、つまり推論によって導き出された真理――人間の思考で証明できるもの――だけを求めます。彼らは心で感じる真理ではなく、脳で証明される真理を望んでいるのです。そして今、彼らはその唯物論的結果を目の当たりにしています。それは、利己的な、苦しみで満ちた人類という姿です。（14, 42）

13.
科学の成果を過小評価してはならない。なぜなら、科学においてこれほど大きな進歩を遂げた今、人類がかつてないほど苦しみ、最大の悲惨、不安、病気、そして同胞の殺戮に苦しんでいるからだ。

14. 人間は、愛の道を通じて得られる真の科学をまだ発見していない。

15.
見よ、虚栄があなたがたを目にしているか。どの国も、地球で最も偉大な学者たちを誇りたいと願っている。まことに、私はあなた方に告げる。科学者たちは、主の神聖な采配下ではない。私はあなたがたに言える。人間が生命に関する識は、まだ表面的なものに過ぎないのだ。（12, 16-18）

16.
今この瞬間、あなたがたが地上で最も望んでいるものは何だろうか。平和、健康、そして真理である。まことに、あなたがたは告げる。あなたがたがこれまで用いてきたような科学では、これらの賜物を与えることはできない。

17.
学者たちは自然に問いかけ、自然はあらゆる問いに答える。しかし、それらの問いには、必ずしも善意や善き、あるいは隣愛が込められているわけではない。

自分からその秘密を引き出し、その最も内なる核心を宣言する人は、未だ無である。彼は、真の謙虚さと善行のためにその源から離れ出るのではなく、利己的で時期尚早な目的のために取り出すことで自分を欺いているのだ。

18.

全被造物が彼らに私について語りかけており、その声は愛の声である。しかし、この言葉を聞き、理解できる者はいかに少なかったことか！

19.

もしあなたがが、被造物が私に住まう場であることを考えるならば、イエスがそこに現れ、両替人や、それを宣言する者たちすべてを追い払うのではないかと恐れるのか。（16、34、37）

20. 私は人間に光である教えという賜物を授けた。しかし、人間はそれを使って闇を生み出し、苦悩と破壊をもたらした。

21.

人々は、自分たちが文明の進歩の頂点に立っていると思っている。それに対し、私は彼らに問う。地上に平和はあるか。人の間に兄弟愛があり、家庭は道徳と美徳に満ちているか。

あなたがたは、同胞の命を尊重しているか。弱者を配慮しているか。――まことに、あなたがたは言う。もしこれらの美徳があなたがたの中にあれば、あなたがたは人間性の最高の価値を手にしているはずである。

22.

人の間には混乱が蔓延している。それは、あなたがが、自己を破滅へと導く者たちを権力の座に掲げてしまうからである。それゆえ、なぜ私が人のところに来るのかと問うてはならない。また、私は罪深い無知な者たちを通して自己を明かすことについて、判断を下してはならない。あなたがが不完全と見るものすべてが、実際に不完全であるとは限らないからである。（59, 52-54）

23.

学者は、存在するすべてのもの、起こるすべての事象の理由を求め、自己の知性をもって、自分の外には、いかなる原理も真理も存在しないことを証明しようと望んでいる。しかし、私は彼を未だ弱く、無であると見ている。（44, 92）

24.

科学者たちは、偶然のあり、神の存在を自分たちの関心の値しないものと見ている。彼らは霊的な神と交わることを望まず、自分たちを取り巻く事象の力を理解できないときは、自分の無さや無知を認めざるを得なくなるのを避けるために、それを否定する。彼らの多くは、自分たちが証明できることだけを信じようとしている。

25.

創造主である愛という根源的な原理を認めず、さらに人の霊的な意味も理解していないこれらの人々が、隣の心にどのような慰めをもたらすことができるというのか？（163, 17-18）

26.

この人類はいかに私の教えから遠ざかってしまったことか！彼のすべては表面的で偽りあり、外見であり、幸福である。それゆえ、彼の霊性は無であり、魂における力の欠如を補うために、彼は地の様々な、知性を発達させてきた。

27.

このようにして、人間は科学の助けを借りて、自分たちが強く、偉大で、力強いと感じるようになった。しかし、私はあなたに言う。その力と偉大さは、あなたがが成長させ、現出させることをやめた霊性の力に比べれば、取るに足らないものである。（175, 46-47）

28.

今日、あなたがたは多くの科学という名の毒を食べている。その木は、あなたがが自分のあらゆる行動の調和のとれた開花を望まなかったために、人間によって不完全なまま育てられてきたのだ。それゆえ、知性と技術、魂に従属してきたあなたがたに、どうして自分の発見や業績を正しい方向へと導くことができようか。

29.

あなたがの間には、野獣のように、常に完全な身体と、隣に対して憎悪や、血の飢え、兄弟殺害の衝動しようと企む者たちがいる。

30. もし、私の教えの光の道徳的価値を認めないとしたら、それはなぜか――まことに、言っておくが、その者はひどく誤りに陥っている。そして、この時の預言者、唯一の審判者、そして救い主がこれを証明するために、私は彼

らに、自分の科学の果実を試練、餡をまでそれを食べさせ彼の魂から私にこう言う告白が自然と湧き出るまで待つつもりだ。
『父よ、私たちをお赦しください。あなたの力のみが、私たちの無分別によって解放された力を食い止めることができるのです。』（82, 15-17）
31.
人間の科学は、人間をその唯一絶対の中心に選ぶという点で違った。なぜなら、愛、善、そして完全という精神的理想を無視された科学は、あなたがたを遠ざけることより先はるかに遠くまで進むことができるからである。
32.
あなたがたの科学進歩が、相互の愛を媒介としていなかったことの証拠は、諸国民の道徳堕落であり、兄弟殺しの戦争であり、至る所で蔓延する残虐悲惨であり、霊性なものへの無関心である。（15, 53-54）
33. 今の学者たちについて、私はあなたがたに何を話しはじめたか。彼らは悪とその力、そして要求、それによって善を悪のように見かけているものたちである。彼らは大きな苦しみを受けることになるだろう。なぜなら、彼らは科学の木から禁断の果実を摘み取り、食べてしまったからだ――それは、愛をもってのみ熟させることができるはずの果実である。（63, 26）
34.
人類は、全創造物を支配する普遍の法則に調和していないため、制御不能な爆発を生じ、それは戦争の形として現れることになる。
35. 人間原子を裂いた。その発見は、この発見を利用して、最初の人を殺すと同時に、死をもたらしている。
36.
もし人間が、その科学的知性と同程度に霊的に発達していたならば、新たな武器の発見を人類抹殺のためだけに用いたであろう。しかし、その霊的未熟さは甚大である。それゆえ、その知的な知性は、人類全体を滅ぼすためにその創造力を用い、破壊の種具、イエスの愛と慈悲の顔から背を向けてしまうのである。
したがって、もしあなたがたが天からの洪水が降り注ぐのを見ても、それはその水が憎いからでも、大洪水があなたがたを苦しめるからでもない――いや、それは破壊をまき散らす人間による仕業なのである。（63, 23-25）
37.
人々は前進、その科学的知識はますます増大している。しかし、私は問う。人がその知識に深く入り込むほど、生命の源であり起源である霊的真理からますます遠ざかってしまうような、そのような知恵とは一体何なのか。
38. それは人間の科学であり、利己主義と物質主義に病んだ類を反映するような学問である。
39.
それゆえ、その知識は誤りであり、その科学は悪である。なぜなら、あなたがたはそれによって苦痛に満ちた世界を創り出したからだ。光の代わりに闇を愛し、あなたがたは人々をますます病気と追いやっている。
40. 科学は死であり、光は生命であり、力であり、健康であり、平和である。これが、あなたの科学の結果なのか？いいえ、人類よ！それゆえ、私はあなたに言う。あなたがたが、霊の光と理性の階を貫くことをやめない限り、あなたがたの行いは決して高次の霊性と関係を持つことはできず、単なる人間的な行い以上のものとはなり得ない。（58, 31-34）
41.
医師たちはまた呼び出されるであろう。私は彼らに問うであろう。私が彼らに明かした健康の秘訣を、そして私が彼らに託した癒しの香油を、彼らはどう扱ったのかと。
私は彼らに問うであろう。果たして彼らは人類の痛みを真に感じ取ったのか、苦しむ者を愛をもって癒すために、最貧しい寝床まで身を屈めたのかと。
同胞の苦しみ――彼が常にわたしであることを理解していたとは限らないその苦しみ――を無視して、栄華、安楽、そして贅沢に溺れた者たちは、私に何と答えるだろうか？皆が心の中で自問し、良心の光の中で私に答えなければならないだろう。（63, 62）
42.
この世は、どれほど多くの霊的に死んだ者たちがまだいることか。肉体の死が彼らを私の御許に連れてくるのを待つ。彼らを真の命へと立ち上がらせ、愛深き主の声を聞くのを待っていることか。

彼は、真の悔い改めと過ちの償いができると感じていたにもかかわらず、取り返しのつかないほど放蕩に溺れた者と自らみなしていたのだから、この地上でどのような再生の機会を与えることができようか。

43.

しかし、魂の救いを絶望視され、希望なくわたしのもとに来た者たちのほかにも、学者たちから肉体的な死を宣告された者たちも、わたしの御前にとどまった。命を持つわたしが、彼を肉体の死の中から救い出したのである。

しかし、私は魂と身体の健康を失った者たちはこの世の中にいるのか。彼らは主が彼らに託し、果たすべきであるという言葉を知らないというのか。健康と命のメッセージを携えて彼を遣わした私が、絶えず彼の癒しを受けなければならないのか。（§4, 13-14）

神と霊界による新たな科学分野への啓示

44.

もし、あなたの世界を構成し、変革している科学者たちが、愛善にインスピレーションを受けていたならば、彼らは私がこの時代の科学のために、どれほど多くの知識を用意しているかをすでに発見していたはずであり、彼がそれほど自負している、ごくわずかな部分だけにとどまることはなかったろう。

45.

ソロモンはその栄光、財宝、そして言葉が知恵に満ちていたため、賢者と呼ばれた。その名声は国の境を越え、他の国にも届いた。

46.

しかし、この男は王でありながらも、主の前に謙虚でありたいという知恵の力を求めた。彼は自分がただ私のしもべに過ぎないことを悟っていたからであり、私の前に、その分を置いたのである。

もしすべての学者、すべての科学者の模範と振る舞いならば――その時彼の知恵はどれほど偉大であり、私の神的な知恵の書から、今なお知られていない教えがどれほど多く彼らに啓示されることか！（1, 57-59）

47.

あなたがの学者たちに尋ねよ。もし彼が謙虚であれば彼は神霊をもって答えるだろう。しかし、もし彼が兄弟たちの愛をより多く、そして自分自身の虚栄をより少なくして、私にそれをゆだねるならば、私は彼により多くの霊感を与えたろう。

48.

まことに、私はあなたに告げる。あなたが蓄積してきた真の知識のすべては、私から来ている。彼が持つ純粋で高貴なものはすべて、私はこの時のために、あなたの利益のために用意してあろう。なぜなら、私はそのためにそれをあなたがたに与えたからである。（17, 59-60）

49.

人の魂を開いてきた。それゆえ、その科学も進歩した。私は、かつてはなかったことを知り、発見することを彼に許した。しかし、彼は物質的な世界だけを考えてはならない。私が彼にその光を与えたのは、彼が受けた霊的な啓示において、自らの死と審判を生かすためである。（15, 22）

50.

もしあなたがが、その科学の部門を深め、評価するために用いてきたのならば――それよりも、自らの本質を深め、物質主義を排除するまで、自分自身を深めるためにその科学を用いるほうが、より理にかなっていると思わないか。もしかすると、あなたがのうちの多くが、あなたがの優れた科学の道において、あなたがを救うことができないとでも思っているのか。

まことに、あなたがに告げる。もしあなたがが神の愛の本質を感じ取ることができれば、その知識を得るあなたがの理解に届くであろう。あなたがが、深遠だと考えているが、実際にはその届く範囲にある知識を得るために、脳を疲弊させ、身をすり減らす必要はなかったのだ。（14, 44）

51.
偉大な人間業は、高次の霊存在たちの影響と働きが伴っている。彼らは絶えず人の思考に介入し、その行為を動機づけ、その人生の状況に未知のものを投入し、あるいは変容するのだ。

52.
それゆえ、私はあらゆる時の学者や科学者たちにこう言う。あなたがたは、理解していることや行っていることを過信してはならない。なぜならば、すべてのあなたがたの知識は、うわべだけではないからだ。私が語っているあの霊存在たちにとって、あなたがたはどれほど簡単な道具として奉仕していることか！あなたがたは、自分の発見の意義の深さに、しばしば驚かされてはいないか？
あなたがたは、すでに実現してしまったことを、自分たちでは成し遂げることができなかったと、密かに認めてはいないか？
そこに答えがある。それなのに、なぜそれを過信するのか？
あなたがたの行動は、より高次の存在によって導かれていることを自覚せよ。彼らの指示を決して変えようと試みてはならない。なぜなら、それらは常に善に向けられているからだ。（182, 21-22）

53.
人類と科学の発展を目の当たりにし、かつては信じられなかったような発見ができるのに、なぜ神の発展を信じることに抵抗するのだろうか。
なぜ自分の目が、鈍くさせるものに固執するのだろうか。

54.
この時における私の教えと啓示は、あなたがの発展に調和している。科学者は、自分の物質的な業績を科学的に誇ってはならない。なぜならば、そこには常に私の啓示と、あの世からあなたがにインスピレーションを与える霊存在たちの助けが存在してきたからである。

55. 人間は創造の一部であり、創造のすべての被造物と同様に果たすべき使命を持っている。しかし、人間は霊性を賦与されており、知性と自由意志を与えられている。それは、自分の努力によって、彼が持つ最高のものである霊的発達を完成に至るためである。
霊を通して、人間は創造を理解し、その意味を悟り、その奥義を体得することができる。

56.
もしあなたがが、この世の誘惑者のではなく、わたしの使者を自分のものとしたなら、あなたがたにとって秘密など何一つなく、互いを兄弟姉妹として認め合い、わたしがあなたがたを愛するように互いに愛し合うだろう。善と憐み、そして愛があなたがの中にあり、それゆえに父との一致ももたらされるのだ。（13, 5-7）

人類の福祉のために働く科学者たちの報酬

57.
人間の科学は、この時に人間に与えた霊能力の、地上における最高の表現である。この時における人間業は、単なる知性の産物であるだけでなく、その霊的発達によるものでもある。（106, 6）

58.
物質的なものの探究を目指す科学は、多くの秘密をあなたがに明かしてきた。しかし、あなたがの科学が、知るべきすべてのことを明かにしてくれるなどとは決して期待してはならない。この時の人間の科学者も、人々に嘲笑され、狂信者扱いされた先駆者たちがいた。しかしその後、彼らが告げたことが正しいと証明されたとき、あなたがは驚いた。(97, 19)

59.
あなたがは、私の遣わした者たちを預言者のメッセージとして重んじてきたのだから見分けようとはしなかった。彼が預言者であれ、予言者であれ、悟りを開いた者であれ、賢者であれ、哲学者であれ、科学者であれ、あるいは詩人であれ、である。

60.
あの人はあなたがが、あなたがたはその光を見ようとはしなかった。彼はあなたがたに先立って進んだが、あなたがたは彼の足跡に従おうとはしなかった。
彼は精神的指導者たちの道標として残したが、あなたがたは彼の例に倣うことを怠った。私たちの指導が、霊の喜びあふれる花に満ちた道であり、終末に満ちた地平線であることをあなたがは知らなかった。

61.
しかし、彼らは地上の花香を嗅ぐためでも、世の騒々しい音楽を聞くためでもなかった。彼の魂の渇望は、もはや消えるものではなく、高きものに向けられていたからである。
62.
彼らは苦しみが慰められることを求めなかった。なぜなら、彼らは自己を求めるために来ることを知っていたからだ。彼らはこの世に何も期待しなかった。なぜなら、戦の後、真理から背く者たちすべてが、偽りに生き、偽りが支配するのを見るという、冒険を待望していたからである。
63.
私があなたがたに語っているこれらの存在はいったい誰のことか。言っておくが、それは光、愛、希望、健康、信仰、救いのメッセージをあなたがたにもたらすすべての人々である。彼がどのような衣服を持っていたか、どのような家に現れたか、あるいは地上でどのような肩書きを持っていたかは、全く問題ではない。（163, 20-24）
64.
私は科学者たちへの敵意を抱くものではない。なぜなら、彼らもその探究愛は神からである。しかし、彼の多くは、真の人類助け手となるために必要な、祈り、隣愛、そして知識に欠けていた。（112, 25）
65.
今日の人々はその領域を広げ、全地球を覆い、横断している。もはや昔の大陸、国、海は存在しない。彼らは陸、海、空、道路開通したしかし、この惑星上で受け継がれてきたものに満足することなく、さらに広大な空間領域を獲得し、大空を探索し、調査している。
66.
わたしは、わが子らにおける叡智の渇望を知っている。彼が賢く、偉大で、強くなろうとするその志は、わたしの限りない喜びである。しかし、わたしの叡智を認めないのは、彼の野心的な目標の根底にしばしばある虚栄、あるいは彼が時に求める利己的な目的である。（175, 7-8）
67.
私は人間に、自然の構造とその現象を探求することを可能にする能力を与え、宇宙の一部を探索し、霊的生命の現れを感じ取ることを許した。
68.
なぜなら、私の教えは強制するものではなく、また人間の発展を阻害するものでもないからだ。それどころか、それは人間を啓発して、彼を訓練し、熟考し、探究し、努力するように導くのである。しかし、人間が自然の最高傑作と見ているものは、ほんの始まりに過ぎないのだ！（104, 6）

第1章 権力者、権力の乱用、そして戦争

この世の権力と偉大さという誤った幻想

1.
あなたがたの魂がわたしの律法の道から逸れた自分の思いのままに生きようとするとき、それを食い止めるために、試練をあなたがたの道に置くのはわたしである。試練の理由を探すな。わたしがそれを与えるのは、そのうちの一つが、あなたがたの心を揺り動かす刺激のようなものであることを、あなたがたに確信させるためである。これが、苦痛があなたがたをわたしに近づける理由の一つである。
2. しかし、人間は常に支配を求め、権力と栄誉を追い求め、地上で主役を演じ、自分の隣人の支配者になろうとしてきた。
3.
私が皆を等しく愛をもって創造したにもかかわらず、なぜ常に、自分こそがより高き存在であるかのように振る舞う者たちがいたのか。なぜ人々を抑圧さらし、難民となる者たちがいたのか。

なぜ卑しき者ほど、隣に善意をもてでも心動かない者がいるか。それは彼が、すべての被造物を愛するとして、また、すべての生きし生けるものの唯一の主として、まわれをも識っていない魂からである。

4.

それゆえ、権力を奪い取り、人間の理性権利を奪い去る者たちが存在する。彼らはわれの正義のための道具としてわれに仕えている。彼らはまがったる導きや悪者や、と思っているが、彼らはただの下僕過ぎない。彼らを恐れなさい！（Ps 5, 7-8）

5.

人々よ、この地の悪者たちを見よ。彼の栄光と喜びはなんと短いか。今日、彼らは民によって持ち上げられ、明日は民によって深淵から突き落とされる。

6.

誰もこの世で平安を求めるな。前進していると思うことでそのあゆみは妨げられるからだ。そして、あなたがの使命は、私の平和の門にたどり着くまで、立ち止まることなく前進することである。（Ps 24, 31）

7.

まことに、われはあなたがたに告げる。今日の権力者たちの終わりを近く、隣への愛と慈悲によって導かれ強く、力強く、賢明な者たちにその座を譲ることとなる。（Ps 28, 50）

8.

現在、権力と地上の栄華の野心的追求のみに導かれている人々は、自分たちの最も強力な敵霊であることを知っており、それゆえにそれを警戒している。

そして、すでに近きつつある戦い――霊と悪の戦い――を感じているため、彼らは自分の所有物を失うことを恐れ、それゆえ、インスピレーションという形態で彼を驚かせる光に抵抗している。（Ps 21, 12）

9.

地上で権力を強くあげた者たちは、霊性と永遠の命の道を忘れてしまったがために、なんと貧しい姿で私の門にやって来ることであろうか！

わが王国の真理を識った者たちは明るくされているが、学者や教養ある者たちは暗くされている。なぜなら、彼らは霊性を軽んじても、地の財産に対して行うのと同じことをするだろうからである。すなわち、彼らはその光の中で、自分の虚栄のための武器、争いのための武器を求めるだろう。（Ps 138, 68）

人々が同胞に対する権力の行使

10.

諸制度を築き、教義を創出し、それを人々に押し付ける者たちを見よ。誰が自分の教義の優越性を宣言するが、私は問う、これらすべての結実は何であるか。それは、貧困、苦しみ、破壊、そして絶え間ない戦争である。これこそが、この地において、そのような理論提唱者たちが刈り取る収穫である。

11.

私が人類の自由意志に反対しているのではないことに留意せよ。とはいえ、その自由にもかかわらず、正義、隣愛、そして理性から遠ざかる者の心は、良心が絶えず語りかけていることを、私は言わなければならない。（Ps 106, 11）

12.

もしキリストがこの時代に人間として地上に戻ってきたとしても、もはやゴルゴタで「父よ、彼らをお赦しください。彼らは自分が何をしているのかを知らないのです」とは言わないだろう。なぜなら、今やあなたがたは霊の光を豊かに受け、魂はさらに開いているからだ。

私はあなたがたの主であり、それゆえ隣人の命を奪ってはならないことを、誰が知らないだろうか。もし人があなたがたに与えることができないのなら、返すことのできないものを奪う権利はないのだ。

13.

人々よ、あなたがたは自分たちが教会であると口にし、外見の礼拝を導いているというだけで、私の律法を履行していると思っているのか

。律法において、「殺してはならない」と告げられたにもかかわらず、あなたがたは、罪深き者の上に同胞の血を注ぐようにすることによって、この戒めを破っているのだ。（19, 27-28）

14.

わたしは世界に平和を差し出しているが、偽りの力と偽りの輝きに満ちた卑しい者たちの言葉は、良心の呼びかけをすべて拒絶し、その野蛮な目標と憎悪の感情のみを駆り立てている。

15.

依然として、人間は善、正義、そして理性の方へと傾くことなく、人々は依然として立ち上がり、隣人の幸福を脅かし、なおも自分たちの正義を打ち立てようと言っている。彼らは裁判官というよりは、むしろ殺害者や死刑執行人と呼ぶべきではないだろうか。

16.

権力者たちは、すべての命の所有者であられることを忘れてしまった。それにもかかわらず、彼らは隣人の命を、あたかもそれが自分たちのものであるかのように奪っている。大衆は、パン、正義、住まい、自由を求めて叫んでいる。正義を打ち立てるのは、人間ではなく、その教えでもなく、私である。（151, 70-72）

17.

祝福された民よ。諸国民の議会の中で、傲慢と権力の野望に満ちた頭をもたげる者たちは、力に満ち偉大な魂であり、偉大な使命を担っている。

18.

しかし、彼らは私の神性な奉仕者ではない。彼らはその偉大な資質と能力を、愛と慈悲の奉仕に捧げてはいない。彼らは自分の世界、自分の法、自分の平安、自分の家庭、自分の安全領域、そして彼が目撃することができるありとあらゆるものを焼き尽くした。

19.

しかし、試練によってその平安が揺らぐのを感じたとき、強大な敵の侵攻を受けているのを感じたとき、自分の偶像や富が危険にさらされていると見たとき、彼らはなんと卑しい者たちに、詩人、想像力豊かな世俗的な虚栄心、憎しみ、悪意に満ちて、敵に向かって突進する。
自分の業績が、また善良で慈悲深い振る舞いだったかどうかなんて、顧みもしない。彼の頭にあるのは、敵の殲滅と、さらに巨大な平和の樹立だけである。それは、諸国民、富、日々の糧、さらには人の命さえも、可能な限り犠牲にし、置き去りにするためである。（119, 25）

20.

地球から、弱き者を抑圧する悪しき強大な国家もまた存在しなくなるべき時が来ているはずである。それにもかかわらず、それらが依然として存在していることは、人間の中に、権力の乱用によって弱き者を奪い、暴力によって征服しようとする原始的な傾向が依然として優勢であることを証明している。（171, 58）

21.

人々は、この世に遍在する精神性と平和を理解することから、しばしばそれほど遠ざかっていることか！彼らは、暴力と強制によって、また自慢するその力によって、それを得ようとしている。

22. 私は決して人の進歩を親しく、それに反対したりはしない。なぜなら、それは彼の精神性の発展の証でもあるからだ。
しかし、それでもなお、私はあなたがたに告げる。最も貧しい地の隅々にまであなたがたの誇りは、私の目に喜ばしいものではない。なぜなら、人の科学や技術の進歩によって、彼らは最も醜悪な罪を犯し、自分たちのものではない命に手を出し、平和、健康、幸福のかわりに、痛み、涙、悲しみ、そして血をまき散らしているからだ。
なぜ彼が創造と取り込みが、愛、知恵、健康、そして命においてできることのない、私自身の創造物であるにもかかわらず、彼の行いはまさにその反対を証明しているのか。

23.

わたしは、第一の時代においてすでに説いたように、わたしの子供たちの間に平等を望む。しかし、それは人が理解するような物質的なものだけではない。わたしは愛による平等をあなたがたに示し、それによって、あなたがたが皆、兄弟姉妹であり、神の子供たちであることを理解させるのである。（146, 61-63）

第二次世界大戦に関する考察

24. 今まさに苦悩と苦難の時である。人類がこれほど多くの相互の憎しみと悪意の結果に苦しんでいる時である。

25.
戦場を見よ。そこでは兵器の轟きと侵略の恐怖の叫びしか聞こえず、かつては若者の筋肉であったはずの、引き裂かれた死体の山が横たわっている。彼らの母、妻、あるいは息子が最後に抱きしめた時の姿を想像できるだろうか。自らその経験をした者でなければ、この別の痛みを測り知ることができるだろうか。

26.
数えきれないほどの恐怖に震える親、妻、子供たちが、愛する家族が、光輝への愛持たない一部の人の貪欲と傲慢に駆り立てられ、戦争と憎しみと殺戮の戦場へと旅立つのを見送った。

27.
これらの若く力強い男たちの大半は、戦場で引き裂かれて倒れたままとなり、故郷へ帰ることができなかった。しかし見よ、母なる大地は民を治め、同胞の全ての愛する者であると信じている間違った想像を超越し、その腕を開いて彼らを受け入れ、慈愛をもって覆い隠してくれたのである。(9, 63-66)

28. わが霊はあらゆる存在を見守り、あなたがの思いの最も些細なものに至るまで、わたし自身が注視している。

29.
まことに、あなたがに告げる。私は、地上のイデオロギーや権力のための戦争の最中で、ひとときの静寂の瞬間に、暴力によって兵士にされた平和を愛し善意に満ちた人々を見出した。
私の名が彼の唇を過ぎるとき、彼の心からはため息が漏れ、愛する人々――両親、妻、子供、あるいは兄弟姉妹――を思い出すと、頬を涙が伝う。
そして、彼の魂は、信仰の喜びの叫びなく、愛の祭壇なく、希望の光なく、自らの武器によって不意に引き起こしてしまった破壊と荒廃の中を彷徨して、私のもとへと舞い上がる。
彼らはあなたがのそばを通って、その存在の全力を尽くして、故郷へ帰れるよう訴えてくださるよう、あるいは敵の攻撃によって倒れなければならないとしても、せめてこの地上に残された者たちを、私の慈しみの翼で覆ってくださるよう、私に懇願するのだ。

30.
このようにして私の赦しを求める者たちすべてを、私は祝福する。なぜなら、彼らは殺害の罪など犯していない。真の殺人者はいる。彼の裁きの時が来れば、人の命に対して行ったすべての行いについて、私の前で責任を問われることとなるだろう。

31.
平和を愛する者の多くはなぜ私が彼を戦場で死の現場へと導いたのかと自問している。それに対し、私はこう告げる。もしあなたがの人間の知性が、これらすべての事柄にある理由を理解できなくとも、あなたがの霊はそれを認識しているということを知っているのだ。（12, 52-55）

32.
わたしに従う者たちは、世界の平和を心に留め、そのために立ち上がり、祈るよう勧める。諸国民ばかりでなく、わたしがいつの時にも彼らに提供してきた平和をもって、祈りを捧げるようになるだろう。

33.
それに前、私はいかに自らの行いの報いを被ろうとも告げた。人は人間の血が流れるのを見、苦痛の叫びを目にし、死体の山や瓦礫とした都市を目撃したのだ。
私は、心がそのように硬くなった人々に、家族の荒廃、罪なき者たちの絶望、痛みに狂う母たちが引き裂かれた子供たちの遺体にすがる姿、そしてあらゆる絶望
恐怖、そして人のあらゆる業を理解できるよう、その傲慢の中で自覚し、彼の良心が彼の偉大さ、権力、そして嘘と虚偽あり、唯一真に偉大なものは神聖霊に由来するものであると告げるようにしかけたのだ。

34.
もしこれらの人々が真実の目を開けば、彼らは恐怖に震えるだろう――それは彼の目に映る隷従の景に対してではなく、自分自身に対してである。そして、彼らは良心の裁きから逃れることができないため、自らの内に闇と良心の呵責を感じるだろう。
なぜなら、彼らはあらゆる命、あらゆる苦痛、そして彼のために流された最後の一滴の血に至るまで、そのすべてについて説明を求められることになるからだ。（2, 40）
35. 民族たちは歩一歩、死の谷へと向かい、そこで裁きを受けるために集まる。
36.
しかし、いまだに戦争を企て、同胞の血に手を染めた者たちは、私の名において行動することを許されている。これこそが、私があなたがたに教えた教えの真の姿というのか。あなたがたは、イエスから、彼らのように赦し、自分を傷つけた者を祝福し、死の床にあってもなお、自分を処刑する者たちに命を与えたかを学ばなかったのか。
37.
人々はあの言葉を疑い、信じようとしなかった。それゆえ、彼らは最初に全ての情報を得ていた。そこでは、彼らが自らの行いの実を刈り取ることで、自らの過ちに気づくことを望んだ。そうして初めて、彼らは正義と、真理を理解するようになるからである。（19, 31-33）

戦争の非道さと無意味さ

38.
今こそ、憎みと復讐に対する真の武器として、愛と赦しと、そして謙虚さが人々の心から湧き出る時である。憎みが憎みと、復讐が復讐とぶつかり合う限り、諸民族は互いに滅ぼし合い、人の心は平和を望まないだろう。
39. 人々は、幸福と進歩を平和の中にのみ見出せるということを理解しようとはせず、権力と軍備の増大という理念を求め、その過程で同胞の血を流し、命を奪い、人の尊厳を破壊している。（9, 29-30）
40.
1945年は、戦争の最終章を書き上げた。何百万もの命を刈り取り、数知れぬ魂を闇と絶望へと帰した。科学は世界を驚愕させ、その破壊兵器によって大地を震撼させた。勝者たちは、敗者の裁判官であり処刑人となった。
苦痛、悲嘆、飢餓が広がり、その後に未亡人、孤児、そして寄る辺を失った病人や国から国へと移り住む人々たちも、これほど多くの悪行に対して正義を求める声をあげている。
破壊、死、そして荒廃と絶望こそが、自らを文明と呼ぶ人類が、この惑星の表面に残した痕跡である。これこそが、この類私達が収穫である。
しかし、私は問う、この収穫は、私が蒔いて育てたものだろうか。あなたがたの悪の果実は、あなたがたの父と呼ばれる私のものだろうか。まことに、私はあなたがたに言う。この木は、互いに愛し合うようにというあの神の戒めに従っていたならば、あなたがたが植えることができたであろう木とは、まったく異なるものである。（145, 29）
41.
心の安らぎを得ていないのに、いかなる魂の安らぎを得られるというのか？――言っておくが、兄弟殺しの武器が最後の一本まで破壊されない限り、人間の間には平和は訪れない。
兄弟殺しの武器は、人が互いに命を奪い、道徳を破壊し、自由や健康、魂の安らぎを奪い、あるいは尊厳を損なうために用いられるものである。（19, 53）
42.
私は断言する、その問題は、最新の破壊兵器を使用している限り、たとえそれらの武器がいかに恐ろしく強力であろうとも、人間同士の間に平和を築くことはできないということを証明する。それどころか、その結果として、それらはより大きな憎みと、より強い復讐心を呼び起こすだけである。
良い理性、そして隣人愛の感情のみが、平和の時代を支える基盤となり得る。しかし、この光が人々の内面に輝き出すためには、彼らはまず、苦悩の杯を最後の一滴まで飲み干さなければならない。（160, 65）

43.
もし人々のこころがそれほど硬くなっていなければ、戦争の痛みだけで彼らは自らの過ちを悟るに十分であり、光の道へと立ち返ったであろう。しかし、彼らは多大な犠牲を払ってもなお、誤りを認めているにもかかわらず、新たな戦争の準備を進めている。
44. 父であるみ神が、すべての人々の愛が、戦争によってあなたがたに証することができると、どうして思えるのか。
神の完全なる愛をもってあなたがたを愛し、あなたがたが互いに愛し合うことを願っている者が、犯罪や殺人、復讐、破壊をあなたがたに向けることができると、本当に信じているのか。
これらすべてが、人々の心に蓄積してきた物質主義に起因していることを、理解できないのか。（174, 50-51）
45. わたしはあなたがたを自由な存在として創造したが、その自由は常に良心の光に導かれていた。
それにもかかわらず、人間はなお裁判官の声に耳を傾けず、法の道から逸れ、ついに、人間性、慈悲、敬意、そして精神性というあらゆる感情から背を向けた結果、子が父にたちかうような、残忍で血にまみれた悪夢を生み出してしまったのである。
46. 人々は、苦痛に満ち、罪の義務づけられるために、とくに破壊的な戦争を避けるべきであった。
知れ、もし彼らが私の元へ来る前に善によって自らを清めることが成し遂げられなければ、私は彼らを再び涙の谷へと送らなければならないのだ。なぜなら、完全性と調和する精神で生きる者は、私の元へ来ることはできないからである。（188, 6-7）
47.
すべての人間同士の理解のレベルにあるわけではない。ある者は、その所有物を見せびらかす一方で、他の者はすべてを不完全なものとして見なす。ある者は、世界の精神性と道徳の堕落として、それを嘆く一方で、他の者は、人類の発展を推し進めるのは戦争であると宣言する。
48.
これについて、私はあなたがたに言う。戦争は世界の発展にとって必要ではない。もし人々が、その野蛮で不当な目的のために戦争を開始するならば、それは、それを是認する者たちが陥っている物質主義のせいである。
そうした人々の中には、霊性生活をおくるか、あるいはそれを否定するために、この世の存在だけを信じている者もいる。しかし、人々は彼らを善と見なしている。それゆえ、すべての人々がこの誤りを犯すのだ。（127, 69-70）

第2章 不正と人類の衰退

弱者による強者の搾取

1.
もし人々が、地球上のすべての人々が創造されたものであると悟り、その存在に満ちている物質的、精神的な力を、同じ一つの源から合うことを理解したならば――まことに、私はあなたがたに言う。この世においてさえ、あなたがたは霊的王国の平和を感じ始めるだろう。（12, 71）
2.
人類に貧富の差があることは、ある重大なことと考えないか。あなたがたがそれを誇りに思っている知的進歩の真実であるならば、もはや暴力と悪意の波が支配することなく、人生のあらゆる面が良心の導きによって満たされるはずであるということを考えないのか。――
そして、民よ、あなたがたの貧しさから目をそらそうとしてはならない。なぜなら、あなたの間にも、私は多くの欠陥を見出しているからだ。（24, 73）
3.
歴史書に記されている長い間奴隷とされなければならなかったイスラエルの子孫を思い起こせよ。彼らはエジプトでの奴隷生活と偶像崇拝から逃れるためだけでなく、平和と自由のある地へとたどり着くために戦ったのである。

4. 今日、全人類は、ファラオの奴隷であったあの民よりも悪い状態にあります。
人々は、国籍、人種、法律、押し付けられている国家の境界は、より強力な他国に隷属されている。飢えと苦しい難民の下での過酷な生活環境と制御は、今日、人類の大部分が食べているパンである。
5. これらすべてが、人々の心の中に、敵対と不和、そしてより良い生活の渇望をますます生み出している。（15, 41-43）
6.
全人類をひとつの家族の様にあるべきこの世界は、争いの種となり、無意味な闘争、裏切り、そして戦争の原因となっている。
この人生は、学び、精神的な思索を通じて、魂の救いとなる永遠の命を得るための努力に費やされるべきものであるが、人間はそれを誤って解釈し、その結果、憎しみ、偽り、物質主義、そして不満によって自らの心を満たしている。（16, 53）
7. 地球の哀れな民よ――ある者は奴隷にされ、ある者は虐げられ、残りの者たちは自らの指導者や教師によって欺かれている！
8.
あなたがたの心は、地上においてあなたがたを統治する者たちをもはや愛していない。なぜなら、あなたがたの精神は腐敗してしまったからだ。あなたがたは、地上の裁判官たちの正義、真実さを信頼しておらず、約束、言葉、あるいは誓いも信じなくなっている。
偽りの父の心を受け入れ、地上に虚偽と欺瞞の王国を築き上げたことを、あなたがたは自ら招いてきたのだ。
9.
哀れな民よ、あなたがたは、耐え難い重荷のように、苦難を背負っている――その苦難は、もはや人間生活に必要なすべてを得るための祝福された方法ではなく、絶望と恐怖に満ちた生存競争へと変貌してしまったのだ。
そして、人々は自らの命を犠牲にして、何を得るのか。中身のないパン、苦しみに満ちた死である。
10.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。これは、あなたがたの真の必要を満たすために、わたしが地上に置いた状態ではない。これは、不自然で非人間的な状態のパンである――要するに、あなたがたの人種差別を受ける者たちの、霊性の欠如の如く、あるいは存在の証である。
11.
私は、あなたがたが互いにパンを奪い合っているのを見る。権力をもつ者たちは、他者から何かを奪っていることを知らない。彼らはすべてを自分たちのものにしたがる。強者は弱者のパンを奪い取り、弱者は強者が食べ楽しんでいるのを見ただけで満足させざるを得ない。
12. さて、私はあなたがたに問う。この類の道徳的進歩とは何なのか。彼の最高の感情開花とはいったいあるのか。
13. まことに、
言っておくが、人間は確かに、毛皮を身にまとい、互いにから食物を奪い合い、強者が弱者を奪い取り、弱者の背後から彼を暴力で服従させる者たちの利益なり、人間、部族、民族、互いに殺し合っていた時代があったのだ。
14. それでは、今日の類と当時の類の違いは何であるのか？
15.
そう、あなたがたが、多くの進歩を遂げたと言うことは、私にも分かっている――あなたがたが、自分たちの知的科学を私に挙げてくることも知っている。
しかし、それに対して私はこう言おう。それらはすべて物質面に過ぎず、その背後にはあなたがたの魂の最も私利私欲の成就に少しも努めてこなかったがために隠されている真の惨状と、依然として顕著な病的状態があるのだと。
16. 私は、科学的な研究をしてはならないと言っているのではない――いやむしろその逆だ。
探求し、研究し、物質的生活において知性を高め増やしていきなさい。しかし、互いに慈しみ深くあり、隣の人種や権力を尊重し、人間性の命を処する価値を与えるような法律を打ち立てないことを覚えておきなさい。要するに、
人々よ、私の「互いに愛し合いなさい」という高尚な戒めを、あなたの生活に適用するために何かをしなさい。そうしてこそ、あなたが陥っている道徳的精神的停滞から抜け出し、あなたの顔を覆っている虚偽のベールが落ちるとき、あなたの心が浸透し、謙虚が輝き、あなたの生活に真実が訪れるのです。そうしてはじめて、あなたがたは進歩を遂げたと言えるのだ。

17.
私の教えに従うことで霊的に強くなりなさい。そうすれば将来、あなたがの言葉は常に、真の慈悲、知恵、そして献身の行いによって裏付けられるようになるでしょう。（325, 10-20）
18.
わたしはあなた方にわたしの平安を送る。しかし、まことに、あなた方に告げる。必要なものをすべて持ながら、飢えて死ぬ人々を忘れている人々が存在する限り、地上に平和は訪れない。
19.
平和は、人間の蓄積富に基づいているのではない。それは善意と相互の愛、すなわち互いに対する、尊重し合うことに基づいている。ああ、もし世界がこの教えを学んでくれたら！喜びは増し、人間の心の中に愛が開花するだろう。（165, 71-72）

人類の堕落

20.
人類は、罪と悪徳の嵐の中で翻弄されている。大人になった人間だけが、情欲の奴隷に身を任せて苦しんでいるのではない。幼い子供でさえ、乗っているボートが転覆する危険にさらされているのである。
21.
啓示に満ちたわたしの言葉は、この類のない光に、巨大な太陽のようにそびえ立ち、難破した者たちに真の指針を示し、信仰を失いかけていた者たちの心に希望を蘇らせる。（62, 44）
22.
人類が増大するにつれて、その罪もまた増大した。この世は、その悪が全地に響き渡り、人の心を満たすソドムやゴモラのような都市が、決してなくなることはない。それらの罪深い都市は、もはや跡形もとどめていない。それにもかかわらず、その住民たちは白昼堂々と罪を犯していたため、偽善者でなかった。
23.
しかし、今日の人類は、情欲にふけるために闇に身を隠し、その後で正義と清らかさを装っているが、その偽善はソドムより忌まわしいものとなるだろう。
24.
それは、過去のすべての世代から遺伝した不義と違反であり、その毒、悪徳、病が、今この時代に実を結んでいるのだ。それは、人の心の中に育った悪の木である――罪によって実り豊かにされた木であり、その異様な果実は男女を惑わし、日々新たな犠牲者を出している。
25.
この木の陰は、その影響から逃れる術を持たない男女の横たわっている。そこには、破壊された美徳、汚された人間の尊厳、そして多くの傷ついた人生が残されている。
26.
大人だけが、この世の様々な欲望に惑わされ、それらを追いかけているわけではない。若者たち、さらには子供たちまでもが、時を経て蓄積された毒に侵されている。そして、悪の不義から逃れることができる者たちは――道に迷った者たちのために、一体何をしているのか。彼らは彼らを糾弾し、非難し、その行いに憤慨している。道から迷い出た者たちのために祈る者はなく、さらに、人生の試練と戦うことに奉仕する者はなおさら少ない。
27.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。悪の勢いが衰えている限り、わたしの平和は人の間に築かれることはない。この力は破壊されなければならない。そのためには、愛と正義の剣を手にしなければならない――罪に打ち勝つことのできる唯一の剣である。
理解は、裁きや罰ではなく、愛と赦しと慈悲こそが、わが教えの核であり、あなたがの道標となるだろう。わたしの教えこそが、人類救いをもたらす教えとなるのだ。（108, 10-14）
28. あなたの物質主義は、私が人類に託したエデンを地獄と変えてしまった。

29. 人が送る生活は誤りであり、彼の享楽、権力、富は誤りであり、彼の学識と科学は誤りである。

30.

富める者と貧しい者。あなた全員が、その所有は虚しいものである鎖に縛られている。あなたは病気や老いを恐れ、死を思うと恐怖に駆られる。ある者は自分が持っているものを失うことを恐れ、またある者は決して持ったことのないものを手に入れることを望んでいる。ある者はすべてを余すところなく持ち、ある者はすべてを欠いている。しかし、これらすべての努力、情熱、欲求、そして理想的な目標は、物質的な生活、肉体の飢え、低俗な情欲、人間の堕落のみに関するものであり、まるで人間はそれ以上存在しないかのように見える。

31.

世界と物質は魂を一時的にはとりこにし、徐々に再び奴隷状態へと導き、ついには人間生活における聖なる使命を無にしてしまった。なぜ、あなたは知らずに、あなたの生活している悲惨、あの飢え、あの痛み、そしてあの恐怖が、あなたの魂の悲惨と痛みを忠実に映し出すものとならないことに、自分で気づかないのか。（Ps 72, 29-32）

32.

世界は救いの言葉を必要としており、諸民族と諸国家は私の愛と教えを必要としている。統治者、科学者、裁判官、牧師、教師――彼らすべてが私の真理の光を必要としている。それゆえ、私はこの時に、人間の魂に光と生命をもたらすために来たのである。（Ps 74, 14）

33.

依然として、あなたの悪魔は、愛、徳、あるいは善の場ではない。私はあなたの世界に清らかな光を送っているが、あなたはそれを不浄なまま私に返している。なぜなら、人の生活は罪に満ちているからだ。

34.

私は、利己主義、復讐、憎悪の嵐に翻弄される魂たちの間に、美徳の小さな点のような光として散らばっているのを見る。それが、人類が私に捧げる実である。（Ps 118, 33-34）

精神的に貧しい世界

35.

あなたは、民を治めるための正義の意欲を心に持ち合わせていない統治者たちがいる。彼らは権力と富という汚らわしい目標を追い求めているからだ。彼らは自分たちの代表者と称しながら、隣への愛をほとんど持たない者たちである――その横柄な態度をほとんど隠さない圧制者たち――そして、正義と復讐を混同し、法を悪用して喜ぶ裁判官たち。

36.

曲がりくねった道を歩み、自分の良心の声であるべきものから目を背けた者は、誰一人として、自分に課せられた使命について瞑想していない。

37.

また、自分にはおこがましくも任務が荷が重すぎ、その誤りによって、自分に託された任務を遂行するために必要な能力が全く欠けていることを自ら証明している者たちもいる。

38.

同様に、神の僕であるはずのない者たち、すなわちそのために遣わされていない者たちを見出すこともできる。彼らは民を導くが、自分の歩みさえも導くことができない人々である――教えの賜物を持たず、光となるところか人々の心を暗くさせる教師たち――他の指導者たちに比べて小さくない責任を負うことのない預言者たち、そして、この賜物を真に持つ者がヤハウェの使者であることをほとんど知らない者たち。

39.

わたしのすべての基準ではかによって言い渡されてきたが、今や彼のすべての行いが裁かれる時が来た。これはわたしの裁きである。なぜなら、それを実行するのはわたしの務めだからだ。それゆえ、わたしはあなたがたに言う。目を覚まし、愛する者たちよ、わたしの戒めを果たせ。（Ps 105, 16-19）

40.

この世界を見よ――傲慢で、抑圧的で、あらゆる人間の業を持ち、それによって今日の世を驚かせている。その大多数は、霊的なもの

を言うず、まそれを愛してもいない。それゆえ、彼はおそず、私の律法にうこともない。それにもかかわらず、彼は自分の科学の力を借りて作り出した驚異に満ち世界を創造できることに満足し、それを誇りに思っている。

41.

しかし、何世紀にもわたる苦悩に満ち、戦争、そして戦争に満ちたこの驚異すべき人間の世界を、彼らがが自分の手と武器によって破壊することになる。愛と正義、そして真の完成の願いを失った彼の業が、いかに持続不可能な脆弱であるかを人類自身が認識する時が、すでに近づいている。

42.

間なく、あなたがたは、神々しい存在でないこと、そして、人間の精神と肉体との間に調和のとれた存在を築くための力、命と知性を、私からしか受け取ることができないことを悟るだろう。（82, 9-11）

43.

人々は過ぎ去った時代、古代、長い世紀に果てしなく長い時代について語るが、私は依然としてあなたがたを揺籃期の存在と見ている。私は、あなたがたの精神がほとんど成熟していないことを見ている。私の目には、たとえあなたがたが成熟に達したかのように見えても、あなたがたの世界は依然として幼児期である。

44.

いや、人類よ、あなたの生活のあらゆる分野において、成熟に向かって完成に進歩の証拠を提示するかぎりにおいて、あなたは必然的に、今見上げるに見えるが、愛の欠如のために道徳的異常をきたし続ける人間性を、私は提示することになるだろう。（125, 62-63）

45.

今、魂にとって試練の時、まさに最後の時である。すべての魂と闘いである。この戦いは、一人ひとりの人の心の中で、家族の中で、あらゆる制度の中で、すべての民族の中で、あらゆる種類の中で繰り広げられている。

46.

地上だけでなく、霊界においても戦いが繰り広げられている。それは、かつての指導者たちが霊媒を通じて見、また現代の指導者や学者たちの幻視の中に見出される「大いなる戦い」である。

47.

しかし、今まさに繰り広げられ、すべてを揺るがしているこの戦いは、人類によって理解されていない。それにもかかわらず、人類はまさにこの戦いの構成要素であり、その目撃者でもあるのだ。

48. 今日、人類の歩みは加速している――しかし、どこに向かっているのか？人間はこれほど急いでどこへ行くのか？
この目的のない道で、果たして幸福を見出し、切望する平和、あらゆる心の願いである素晴らしい人生に到達できるのだろうか？

49.

私はあなたに言う。人間がその慌ただしさの中で探し求めるものは、完全な満足である。人間の精神は、生命の源泉、創造主へと向かっており、この深淵は人間自身によって作り出されたものである。

50.

人はこの深淵に転落し、この完全な満足の中に、情熱の悪魔的な満たされない権力欲、罪深さ、そして精神的人間性の喪失という混沌の中で、その魂は見た死、その心は時的な死、を味わうことになる。

51.

しかし、私は人間がこの死から生へと立ち上がるように導く。私は彼を復活させ、その新しい生において、すべての理想的な生、すべての隠れた美徳の復活のために戦うようにする。それは、その源である霊的特性であり、遺伝子である。
なぜなら、霊は私から生まれ出たものであり（
）、私から命を受け、私の完全さを分け与え、私の恵みによって満たされたからである。（160, 6-8）

第2章 人類裁きと浄化

第3章 裁きの時が来た

人間の時、7種の実り

1.
愛する弟子たちよ、今この時は人類にとって裁きの時である。あなたがたが贖いの業を始めるための期間は過ぎた。今、あなたがたは過去の時間を刈り取っている。それは、あなたがたの行いの結果、あるいは帰結である。

2.
人間は、自分の行いを行うための時と、その行いに対して責任を負うための別の時を与えられている。後者が、あなたがたが生きている時である。それゆえ、あなたがたは苦しみ、泣いているのだ。あなたがたは種蒔き時と刈り取り時があるように、神も、あなたがたが御業の果実を集めるために与えられた時と、神の正義を明かすための別の時があることを知っている。

3.
あなたがたは、神の裁きの時に生きている。苦痛があなたがたを苛ませ、人類自身の涙の中で溺れさせている。なぜなら、僕から学ぶ者は誰一人としていなかったからである。

4.
これは裁きの時であり、あなたがたは自分の運命について深く考えるべきである。そして、内なる霊を通して、良心の声を聞くことができるように。その声は惑わしたり欺いたりすることはなく、むしろ平和の道へとあなたを導くものである。（1, 58-61）

5. これは人類すべてに対する裁きの時である。一人ひとり、民族ごとに、そして国ごとに、私の神性によって裁かれる。
それにもかかわらず、人々はこれに気づいておらず、自分たちがどのような時代に生きているのかを悟らない。それゆえ、私は霊として来臨し、人間の性質と私の光線を通して、誰があなたがたに語りかけているのか、あなたがたが生きている時がどのようなものか、そしてあなたがたの使命が何であるかを明かした。（1, 61）

6.
まことに、私はあなたがたに告げる。あなたがたはすでに日の日に生きており、すでにその裁きの下にある。生者と死者はまさに裁かれており、過去と現在の行いはこの裁きの天秤にかけられている。目覚めた者、神の義に至る所に覚醒していることを警告せよ。（6, 44）

7.
古来より、私はあなたがたに裁きについて語ってきた。そして今、預言者たちがあたかも一日のことであるかのように描いたその予言された時が来たのである。

8.
あなたがたの神の計画は日の計画であり、撤回されることはない。たとえその計画が数年が経過したとしても、何の問題があろうか。父の御心は不変であり、必ず成就しなければならない。

9.
もし人々が、わたしの計画を知るだけでなく、目を覚まし、祈ることを知っていたなら、決して不意を突かれることはなかったろう。しかし、彼らは怠慢で、忘れっぽく、不誠実であり、試練に遭ったとき、それを神の罰、復讐、あるいは怒りのせいにする。それについてわたしはあなたがたにこう言う。あらゆる試練は、あなたがたが備えるように、あらかじめ告げられているのだ。それゆえ、あなたがたは常に目を覚ましていなければならない。

10.
大洪水、火による都市の破壊、敵の侵入、疫病、伝染病、飢饉、その他の災いは、あなたがたが備え、不意を突かれないように、地のすべての民にあらかじめ告げられていた。

今と同様に、神の愛から常に人が目覚め、備え、強くなるために、警戒と備えを促すメッセージが下されてきたのである。（4, 74-77）

11.
わたしはあなたがたに告げる。この世は確かに非常に大きな試練や苦痛を受けているが、苦痛のままではとどまらないだろう。なぜなら、人の苦しみは極めて大きくなり、それによって人は目覚め、わたしに目を向け、わたしの律法の遵守を求める良心の声に耳を傾けるようになるからだ。

12.
わたしの正義は、この世に存在するあらゆる悪を滅ぼす。その前に、わたしはすべてを明らかにする。宗教団体、科学、そして政治家を。そして、神の正義はそれらを取り上げ、雑草を刈り取るように、麦だけを残すであろう。
私が人の心の中に見出すべての良き種は、人の魂の中で豊かに芽生えるよう、私が守り抜く。（119, 10-11）

審判における人類の浄化

13.
人々が私の愛を理解し、良心を通して私の存在を感じ取るようになるまで、あとどれほど長く苦悩が続かなければならないのだろうか。人々が彼らに語りかける私の声を聞き、私の律法を守るようになれば、それは彼らにとって物質主義の時代が終わったことを意味することになるだろう。

14.
ひとまず、彼らは人間や物質主義よりはとるに足らないほど偉大なものがあることを確信するまで、自然の力によって様々な試練に遭わなければならない。

15. 大地は揺れ動き、水は災害をもたらし、火は災害を引き起こすだろう。

16.
人間が相互の生命に調和して生きる術を知らなかった場所では、自然のあらゆる要素が、地上においてその存在を明らかにするだろう。

17.
それによって、自然は、自らを冒涜する者たちの滅びを求めているわけではない。ただ、人間とすべての生き物の調和を求めているだけである。

18.
もし自然災害がますます頻繁に現れるならば、それは、人の違反行為と、自然の法則の不一致が同様に大きくなったからである。（40, 20-25）

19.
人間の手が、自らに災いをもたらすのである。その胸には嵐が吹き荒れ、その心には暴風雨が吹き荒れ、これらすべてが自然の中に現れている。
自然の要素は解き放たれ、季節は狂い、疫病が蔓延し、増え続けている。それは、あなたがたの罪深い行為を告発しているからであり、また、愚かで傲慢な科学が、創造主によって定められた秩序を乱したからである。

20.
もし私がたとえそれを告げただけでは、あなたがたは信じないだろう。それゆえ、あなたがたがその行いの結果を手に取るように実感し、それによって失望することが必要なのである。まさに今、あなたがたは自ら下したものの結果に直面する人生のその瞬間に立っているのだ。（100, 6-7）

21.
地上での人生は、人間にとって常に試練に満ちた階段であってきた。しかし、この発展の道のりほど苦痛に満ちていたことはかつてなく、その始まりからこれほどまでに苦悩に満ちていたことはなかった。

22.
この時代、人々は成熟するまで待たずに、生きるための闘いに立ち向かっている。どれほど多くの子供が、幼児期からすでに失望、重荷、苦難

障害、そして現実味を帯びてくることか。さらに言おう。この時代、人間の苦しみは、生まれる前から、すなわち母の胎内においてすでに始まっているのだ。

23.

この時代に地上にやって来る者たちの責任の義務は大きい！しかし、世に存在するありとあらゆる苦しみは、すべて人間の業であることを心に留めておくがよい。人生の道を完遂する者たちが、今それを刈り取らなければならないと言うことは、なんと不当に、なんと理不尽なことであろうか。（1 15, 35-37）

24.

あなたがたは、私の普遍的な救済計画を理解することはできない。しかし、私がその一部をあなたがたに与えるのは、あなたがたが私の業に参与するためである。

25. 世界に置かれているこの時代の意義を知っているのは、私だけである。しかなる人間も、この時代の深さを理解することはできない。

26.

人々は、その初期の時から絶えず自己を引き続き、ついにその感覚を鈍くし、病、安らぎなく、悲しみに満ちた人生を自ら作り出した。しかし今、浄化の時が訪れた。（74, 11-12）

27.

すべての魂にとって困難な時が来た。それゆえ、あなたがたは人の間に混乱を見ている。しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる。この混乱の中で、誰が自分の時代を種を刈り取ることになる。

28.

しかし、絶えず私の律法に背いてきた私の子供たちは、一体何が起こるのだろうか。まことに、眠り続け、私の教えを学ぼうとせず、心に留めようともしない者たちは、試練という苦しみに投げ込まれることになる。

しかし、私の教えに従ってきた者たちにとっては、それは彼らの義務を果たすための励ましとなり、神が彼らに与える美しい報いとなるであろう。（10, 7）

29.

この時において、自己を新たにする用意のない者は、最後の審判に耐えなければならず、この地から遠ざけられることになる。それによって、その者は自らの過ちを償い、律法、真理、そして命を理解するという貴重な機会を失うことになる。

30.

一方、この物質的な人生において、果たすべき義務をもって平安と満足感に、霊的な領域と結び付いた者たちは、私の光に照らされていると感じるだろう。

しかし、もし彼らが再び地上に生まれなければならない者たちであるならば、私は彼らが肉体から去る前に彼らを鍛錬し、彼らが清く、より霊的になり、より大きな使命を持ってそこに復帰できるようにする。（91, 38-39）

表現における神の愛

31. 苦痛と悲しみの全てを世界に注ぎ出し、平安と喜びの祝福を感じられるようになっている。

32.

人類よ、あなたはなんと恐ろしい慌ただしさの中で生きていることか！あなたは日々の糧となるパン生地をなんと苦労してこねていることか！それゆえ、男たちはますます早く消耗し、女たちは早くに老い、少女たちは最盛期を待たれ、子供たちはより頑なに感情を失ってしまう。

33.

あなたがたが生きているこの時は、痛みと苦しみと試練の時である。それにもかかわらず、私はあなたがたが平安を見出し、調和を成し遂げ、痛みを乗り越えることを望んでいる。そのために、私は霊として現れ、あなたがたの魂にとって慰めと癒しと平安の霊となるために言葉を送る。

34.
復活であり、命であるわたしの言葉に耳を傾けなさい。その言葉によって、あなたがたは闇に隠れた真の姿を取り戻し、戦い、生きる力を得るであろう。（132, 42-45）
35.
今日は、魂にとって最大の慰めの時である。わたしの裁きは厳しく、一人ひとりの行いに応じて下される。この裁きが魂にとって重く、苦痛を伴うものであっても、父は彼らに近づかれ、父は裁き手というより、愛に満ちた父である。また、あなたがたの執り成し手であるマリアの愛も、あなたがたを包んでいる。（153, 16）
36.
人類は、わたしの正義を失った。それは人間的愛を装い、その形式と物質主義の中で、人間がかくも不在であるかを悟るであろう。
37.
そう民よ、私はその誤った偉大さの中にいる人類を憐れむ。なぜなら、私は彼らが私の光を見てたちまち、真に導かれることを望んでいるからだ。私はあなたがたの光、寛大さ、慈愛、力、そして喜びに満ちあふれることを望んでいるのである。（285, 15-16）
38.
人類はわたしを認めず、この時においてわたしの存在を否定している。しかし、わたしは彼らに、わたしが愛と憐れみをもって臨在していること、彼らに苦痛を与えるため戻って来るのではないこと――ただ彼らを悪の生活から救い、わたしの言葉であり真理である光のように、澄んだ水で彼らを清めたいと願っていることを、悟らせるであろう。39.
世界はわたしの教えをおよそ、偶然にも耳にしてきた。それゆえ、今、世界は大きな試練のるつぼに投げ込まれ、苦悩の極みに陥っている。なぜなら、彼の物質主義が彼を私から遠ざけてしまったからである。（134、29-30）
40.
今、民族、人種、言語、肌の色によって分断された人類は、私の神聖な霊から、それぞれの裁きの分、すなわち、すべての人に与えられる試練、闘い、試練の炉、そして私がすべての人とすべての人種のために用意した贖罪を受けている。
41.
しかし、あなたがたは、私の裁きが愛を基礎としていること、父がわたしに送る試練が愛の試練であること、そして、たとえこれらの試練の中に不幸や運命、あるいは悲惨があるように見えても、すべては救いと、善と導かれることを知っている。
42.
これらすべての背後には、生命があり、魂の維持があり、その救いがある。父は常に「放蕩息子」を待望し、最大の愛をもって彼を迎え入れるために待っておられる。（128, 11）

第4章 世界観、宗教、教会の戦い

地上のキリストの平和の王国建設のための霊的戦い

1.
私が「第二の時代」において再臨を予告したように、今、私は人間の中に私の霊の王国を築くための準備として、偽善に満ちた世界観、そして宗教間の戦いを予告する。
2.
わたしの言葉は、炎の剣のように、何世紀にもわたって人々を覆ってきた狂信という名の、無知のベールを引き裂き、わたしへと続く明るく輝かしい道を示すであろう。（209, 10-11）

3.
人の間に神の王国の平和が確立されるためには、まず、偽りの教義、宗教、そしてイデオロギーによる戦いが繰り広げられなければならない。それは、あなたがたが何が真理で、他者の偽りの偶像に対抗せよ、あなたがたの教義に対する教えである。
4.
これこそ新たな戦い、すなわち霊的な戦いとなる。そこでは、偽りの神々は踏みつぶされて倒れ、あなたがたが真実と信じてきたあらゆる嘘が、永遠に暴かれることになる。そうして、あなたがたは、混乱と闇の中から、真理の輝かしい光線が射すことになる。（121, 40）
5.
スピリチュアリズムは、世界観、偽りの宗教、そして宗教儀式の間に世界的な戦いをもたらす。しかし、この対立の後、この教えはかつてないほどに彼らがこれまでに必要としてきた救いと平和をもたらし、すべての魂の上に、私の聖なる真理の太陽が輝くようになるであろう。（141, 11）
6.
私は、世界観、混乱の時を見据えて、あなたがたを準備し、警告する。それは、あなたがたが魂の中なる霊的な苦しみから解放されるためである。
7.
なぜなら、人類のあらゆる世界観、教義、神学、哲学、そして偽りの宗教は揺さぶられ、それによって嵐を巻き起こすことになるからだ。それは真の霊の嵐であり、その荒れ狂う波の上で、あなたがたは私の意志に従って航海し、嵐と闘い通すまで、その上に留まらなければならないのである。
8.
この試練を乗り越えるための、祈りと私の言葉に従うこと以上に優れた助言を、私はあなたがたに与えることはない。それによって、あなたがたの信仰は強められていくであろう。
9.
世界観戦い、偽りの宗教やイデオロギーの確立、その戦いは、あらゆる宗教制度の根底に蓄積された大きな誤りが表面化するために、絶対に必要なものである。
10.
この嵐が過ぎ去って初めて、人々の道徳的、精神的な浄化が始まるであろう。なぜなら、人々は真理の明るみに出るのを見、それを認識し、その真理を自分の内に取り込むまでは、もはや安心して憩い、養われることはできなくなるからである。
11.
すべての人が、物質的生命がその光、その暖かさ、そしてその影響力に基づいていることを認識しているために、自発的に完全に自分のために必要な身体及び生命維持に不可欠な酸素を摂取するように、彼は真理のために、自分の魂の維持、強化、そして発展に必要なすべてのものを摂取するようになるであろう。
12.
そうすれば、人間の生命が、私の律法によって定められた規範ある真の生命の原理にますます適合していくにつれて、人間がこれまで一度も感じたことのない力と健康を感じるであろう。（123, 19-22）

地上の精神霊能をめぐる争い

13.
この時代は、世界観と偽りの教えの争いがある。誰が自分が正しいと宣言するしかし、この相反する私的な争いにおいて、果たして誰が正しいのであろうか。果たして誰が真理の所有者なのであろうか。
14.
もし、自分たちが完全な道であり、真理を所有していると信じ、それを誇りに思っている者たちがいるならば――まことに、わたしはあなた

に告げる。彼らはまだその道筋にはないのだ。なぜなら、その道において謙虚でなければならないからであり、他者の頭に含まれる真理を認めないというだけで彼らはもはや謙虚ではなくなってしまうのである。
しかし、私はすでに第一の時代において、あなたがこう言った。「心優しく、謙虚な者は幸いである。」
15.
同胞の頭脳や能力を軽蔑する者は救いから遠ざかる。なぜなら、その真理探究の中で彼は自分の神となろうとしているからである。（1 99, 4-6）
16.
あなたがたは、私がこの時の類霊体に現れることで何を成し遂げようとしているのかと私に問う。それに対し、私はこう答える。私が求めているのはあなたがたが光と目覚めた霊となれ、そして一つになることである。なぜなら、あなたがたはいまだ分裂していたからである。
なぜなら、ある者たちが霊の高みを求めてきた一方で、他の者たちはこの地上の富の獲得に身を捧げてきたからだ――霊性と物質主義が互いに争いの中にあり、霊性と物質主義は互いに理解し合うことが決してできなかった。
17.
思い起こせ。イスラエルはメシアを待望し、その姿を目の当たりにした時、彼らは真理に従う者と否定する者に分裂した。その理由は単純である。霊をもって彼を待望した者たちは信者であり、肉の感覚をもって彼を待望した者たちは彼を否定したのである。
18.
このことは、この最後の真理が明らかになるまで、再び対立を余儀なくされるであろう。その戦いは厳しいものとなる。なぜなら、時が経てば経つほど、人々は他のものを受け入れるようになるからだ。彼らの科学と発見は、自分たちが独自の王国、自分たちが作り出した世界に基づいているという感覚を彼らに与えているからである。（175, 4-6）
19.
今日、あらゆる人は真理を完全に知っていると信じている。あらゆる者は真理を所有していると主張する。科学者たちは真理を見出したと言う。しかし、私はあなたがたに告げる。誰一人として絶対的な真理を知ってはいない。なぜなら、人間は自らに与えられた部分でさえ、その理性をもってしても把握することができないからである。
20. すべての人間は、真実と誤りの一部をその内に抱いており、それを真実の光に混ぜ合わせている。
21. それぞれの世界観を押し通そうとするため、これらすべての勢力が互いに争い戦いが起こっている。
しかし、最後に勝利をおさめるのは、人間のイデオロギーでも、科学的な理論でも、あるいは宗教的な要素でもなく、あらゆる良き世界観、あらゆる高貴な信仰、最高の精神と高められたあらゆる知恵、そして真の人類進歩に寄与するあらゆる学問が調和して結びついた姿である。
22.
私は、人々が自分の意見について語り、それを発表することを望む。また、他者が自分の科学的な議論をさらに展開すること、議論し、互いに争うこと、科学者たちが最も進歩的な理論となること、そしてあらゆる精神の中に秘められているものがすべて解き放たれ、日の目を見て、自らを明らかにすることを望む。
なぜなら、メルキゼデクの日は近いからだ――その日、良い容器が鎌のように、人間の心にあるあらゆる偽りを根こそぎ刈り取るのである。（322, 15-18）

霊的教えへの攻撃

23.
現代の聖職者たちはイエスの犠牲の儀式を教会において執り行うために王衣のような装いをしているが、彼らはその際、私の名と私の聖霊を冒涜しているにもかかわらず、私は彼の理性が混乱し、彼の心が陰謀と情欲の嵐によって苦しめられていることを見抜いている。私は現代の人々の間にいることを厳密に告げ知らせる者は一人もいない。
彼らは大きな苦しみを受けるであろう。なぜなら、彼らの聞く霊性が偽りだからだ。イエスの前でその名にふさわしく誓う者たちの、その

誓いの城はどこにあるのか。私の使徒たちの後継者たちはどこにいるのか。最初の者たちの一人であるヨハネという者、あるいは後継者たちの一人であるパウロという者は一人でもいるのか。

24.

それゆえ、師は再び弟子たちに近づき、教えを再開しようとしている。すでに、私に対する憎しみに満ち新しいパリサイ人や律法学者たちが、私に向かって突進してくるのが見える。まさにその時、私は問うだろう。「私の弟子たちはどこにいるのか？」

しかし、高慢な者たち、偽善者たち、富める者たち、権力を失うことを恐れる者たち、私の真理によって貧しくされる者たちが、再び私を襲い、迫害するならば、激しい嵐が吹き荒れるだろう。しかし、十字架の重みに耐えきれず倒れるのは私ではなく、彼らこそが自分の罪を背負った者たちである。（49, 32-33）

25. 物質主義の波は高まり、荒れ狂う海、すなわち苦しみと絶望、そして人間の不正に対する恐怖の海となるだろう。

26.

情欲と人間主義のその海を乗り越えて航行する船はただ一隻のみであり、その船にこそ私が律法の船がある。この時が来たとき、強き者たちよ、共にである！

27.

しかし、眠っている者たちは災いあれ！弱き者たちは災いあれ！宗教的狂信という土台を構築した民たちは災いあれ！彼らはあの荒れ狂う波の餌食となるだろう！

28. 人類よ、その戦いを感じないのか？その時が来たら身を守る準備をするよう、私の言葉があなたを動かさないのか？

29.

私の光はすべての人の中にあるが、それを見ることができるのは、祈り、備えをする者たちだけである。私の光は、予感、霊感、直感、夢、そして預言を通して、あなたたちに語りかけている。しかし、あなたたちはあらゆる霊的呼びかけに耳を貸さず、あらゆる神のしるしに対して無関心である。

30. まもなく、あなたがたは私の言葉が成就するのを見、これらすべての真実であったと証することとなるだろう。

31.

わたしの教えとわたしの名はあらゆる災いと悪の種となり、真理の敵たちがあなたを苦しめる理由となるだろう。しかし、わたしの教えは、立ちがって信仰を守る者たちのための光の剣ともなり、無垢な者たちの身を隠す盾ともなるだろう。

私の名はある者からは祝福され、またある者からは呪われ、すべての人の口にのぼることとなる。

32. 人間のあらゆる弱さが解放されるだろう。その大胆さ、感情、情熱、そして精神的能力は目覚め、戦いに備えて整う。

33.

その時、なんと大きな話が出るだろう！私は信じていると言っていた多くの人が、それが真の信仰ではなかったと悟らざるを得なくなるだろう！

34.

多くの家庭の中で愛と希望の灯は消失するだろう。子供たち、若者たちは、この世の神を持たず、地の法の外の法を持たないだろう。（300、35-40）

35.

人々が、世界の度重なる愛と、地のものの誘惑が、彼らを罪に満ちた破滅へと導いたことに気づいたとき、何が起こるだろうか。

彼らは失われた道を取り戻そうと、背を向けたあの頂から深淵を探し求めようとするだろう。そして、その努力の中で、彼らは武器を作り出し、大砲を鋳造し、哲学や世界観、理論を考案してくるだろう。

36.

これらすべてが、新たな大いなる戦いの始まりとなるだろう――もはや、地の権力の不和や欲望によって煽られるものではない。経済的武器が、もはや命を奪い、家を破壊し、人間の血を流すことはなくなる。その戦いは異なるものとなる。なぜなら、その時、すべての主要な宗教団体が、新しい教え、新しい宗教戦争を繰り広げるからである。

37.
この戦いで勝利するのは誰かという問題は、この角からは決定されることはないだろう。それは、あなたがたが今目撃しているこの終末戦争において、いかなる政党も勝者であり続けることができないのと同じである。*

* ここで言われている第二次世界戦争は、いわゆる「戦闘」は存在したが、地上の覇権をめぐる争いは終結後今日に至るまで続いている。しかし、この角において最終的に勝利する世界国は存在しないだろう。

38.
地上の覇権をめぐる戦いは、わたしの正義の剣により、その後、あなたがたが神に通じるための最後の戦いにおいては、わたしの真理が勝利するであろう。
39. 唯一かつ至高の真理は、嵐の夜の稲妻のように輝き、誰かがその神聖な問いを自分がそこの場所にいるだろう。
40.
私のメッセージはすべての人に届き、あなたがたは皆、私のもとに来ることとなる。私は来るべき時のために、すべてを準備しており、私の魂と世界と人類は、私の主であるわれに、すべての人において私の意志が成就する。（88, 33-36, 45）

霊媒者や霊能者の無駄な努力

41.
霊界は、その存在と現実を人々に証明するために、さらに人々に近づいてくるだろう。至る所で、新たな時代が来たことを私に告げ知らしめ、証しと啓示、そしてメッセージが現れるだろう。
42.
争いが生じ、人々の間で動揺が広がるだろう。なぜなら、宗教の指導者たちは、それらのメッセージを言う者たちに対抗して、科学はそれらの事実を虚偽であると断じるからである。
43.
それを受けて一般の人々は勇気を奮い起こし、自分たちが受け取った証しの真実を証言するために立ち上がるだろう。科学に見放されながらも、霊的な方法で確認を取り戻した者たちが立ち上がり、奇跡的な治癒や、無限の力と絶対的な愛の啓示について証言するだろう。
44. 素朴で無名の人々の間から、その言葉に満ちた伸者、哲学者、科学者たちを驚かせる男女が次々に現れるだろう。
しかし、論争は最も激しくなり、貧しい者たちの導かれ、その証言が懐疑者たちによって否定されるとき、エリートの学者たち、支配者たちを問いただし、試練さらに厳しくなる時が来るだろう。
45. その時、偽り者や嘲笑者たちには災いがある。なぜなら、完全なる正義が彼らに降りかかるからである！
46.
それは裁きの時となる。しかし、多くの魂がそこから真の命へと立ち上がり、多くの心が信仰と喜びに満たされ、多くの目が光へと開かれるであろう。（50, 71-72）

第5章 審判における地球と人類の浄化

清めの裁きを告げる神と自然からの警告の声

1.
わたしは全人類に非常に大きな試練が訪れると告げた――その試練は、何世紀にもわたる歴史の中で、これまで経験したことがないほど大きなものである。

2.
今、あなたがたは、私があなたが全員の心語りかけ、様々なタイプのメッセージや警告を送っていることを理解しなければならない。それは、人々が自省し、私のところへ話をしに来るように、私の律法に対して目を覚ましているようにするためである。
3.
世界の諸民族や様々な国は、私に耳を傾けるだろうか。私の姿を現しているこの民は、私に耳を傾けるだろうか。それをしているのは私だけである。しかし、父としての私の義務は、子供たちの道において、彼らの救いのためにあらゆる手段を用いることである。（14, 80-81）
4.
まことに、あなたがたに告げる。もし人々がこの時に、自分の魂に生きるための水を請わなければ、自然の力が使者としてやって来て、わたしのまことの教えを告げ、人類にあらゆる不幸から請うであろう。
5.
その裁きの時が近づいていることを悟り、日の日が来ると感じて、わたしの名を冒涜する男や女、子供たちよ、嘆くである。彼らの心は、悪の支配の終わりが近づいていると告げるからである。
言っておくが、彼らはその悟りと希望と善行によって救われる。しかし、あの時に生きる者たちのうち、どれほど多くの者が神に背を向けることになるだろうか！（14, 67-68）
6.
最初の人類の揺籃は、涙の谷と変貌し、今やそれはまた血の谷と変貌する。それゆえ、今日、私は、弟子たちとその約束を果たすために来たのであり、人類を霊的な眠りから目覚めさせ、彼らを救うために私の愛と教えを与えるのである。
私は、この時に、その打ち負かした者たちを証しする証人である弟子たちを求めている。
7.
わたしによって選ばれた者たちがわたしの律法によって一つに結ばれるとき、大地と星々は揺れ動き、天からしるしが現れるであろう。なぜなら、その時、主の御声は地の果てから果てまで聞こえ渡り、義人、預言者、殉教者たちの霊、眠れる主の聖霊が、霊的世界と物質世界を越えるからである。その時、聖霊の時代は終焉を迎えるであろう。（16, 43-44）
8.
多くの民族が物質主義の深みへと落ち、他の民族も落ち前である。しかし、その転落の苦痛こそが、彼らを深い眠りから目覚めさせることになる。
9.
かつて神聖極まる後宮国家、苦痛、悪徳、そして悲しみという言葉とは無縁の国があった。今日、死に向かって真っ逆さまに突き進んでいるのは、一つの民族ではなく、全人類である。
10.
諸国民や諸民族は、わたしの正義によって報いを受けることとなる。ニネベ、バビロン、ギリシャ、ローマ、カルタゴを思い起こせ。それらの中に、神の正義の深い教訓を見出せるであろう。
11.
人々が権力の絶頂にあり、その富を誇り、傲慢で、そして無分別な情欲に満ち、それによって自分の民族を堕落と破滅に導こうとしていても、私の正義は近づき、彼らからその権力を奪い取ってきた。
12.
しかし同時に、わたしは彼の前に、彼の救いの道筋をも示した。もし試練の最中に、彼を自分の力に任せきりにしたら、人間はどうなってしまうだろうか。（105, 45-47）
13.
人間は精神的に深みから深みへと落ち、私を否定し、私を忘れるという段階まで達した。さらには、自分の本質、すなわち霊を認識しないことによって、自分自身を否定するという段階にまで至った。

14.
ただ私の慈しみが、私のもとへ至るためにその道程を歩まなければならない、という道理を、人間から免除することができる。私のみが、私の愛をもって、子供たちの救いの道を見出せるよう、その道途に手段を用意することができるのである。（73, 21-22）
15. 大洪水の水がもたらした大地の覆いがなくなったその日、私は、神が人々と結んだ契約のしるしとして、大空に虹の弓を掛けた。
16.
今、わたしはあなたに言う。「第二の時代」の預言、あなたは、自らを清めるためにこれまでのすべての試練を乗り越えてきた者のものである。あなたはまもなく、新たな試練に直面することになる。
17.
しかし、私は、私が選んだ民、そしてこの時代に私自らを明かした全人類に警告するために来たのだ。よく聞きなさい、わが子らよ。ここに箱舟がある。その中へ入りなさい。私はあなたがたを招く。
18.
イエスは、あなたにとって箱舟は、わたしの律法を守ることである。最も苦難に満ちた日々、最も厳しい試練の時期に、わたしの教えに従う者たちは、箱舟の中にあり、強くあり、わたしの愛の守りを感じるであろう。
19.
そして、全人類に、私はもう一度言う。箱舟は、私の愛の律法である。隣人に対して、また自分自身に対して愛と憐れみを実践する者は、救われるであろう。（102, 17-19）
20.
わたしは常に、あなたがたに準備のための時間を与え、あなたがたを救うための猶予を用意してきた。時の終わりや時期の終わりに、あなたがたに試練をおこなうためにわたしの裁きを送る前に、わたしは警告し、目覚ませ、悔い改めよ、改心せよ、そして善へと導くことで、わたしの愛を示してきた。
21.
しかし、裁きの時が来ると、私はもはや、あなたがたが悔い改めたか、準備を整えたか、あるいは依然として悪と不純の中に留まっているかを問うために立ち止まることはなかった。
22.
わたしの裁きが定められた時が来ると、時宜を得て箱舟に乗ることを許された者は数えられた。しかし、裁きの時告げられた時が来ると、自らの救いのために何もしなかった者は、滅びを免れなかった。（123, 51）

悪の力に勝利は与えられる

23.
これまで、この世に勝ち残ってきたのは人間の愛ではなかった。人類の始まりからそうであったように、支配し、勝利してきたのは悪であった。愛した者は、悪の犠牲となって倒れた。
24.
悪はその王国を広げ、地上において強くなった。しかし、まさにこの時、私はそれの勢いに立ち向かうためにやって来る。それは、人々の間に愛と正義の王国を築くためである。
25.
その前に、私は戦う。なぜなら、あなたがたに私の平安を与えるためには、私は戦いを繰り広げ、あらゆる悪を排除することが必要だからである。（123, 32-33）
26.
人は自らの道の終わりに達し、その道を辿って戻ってくるであろう。そして、彼が蒔いたものの実をすべて刈り取ることになる――それこそが、心を悔い改めさせる唯一の方法である。なぜなら、自分の過ちを知らない者は、その過ちを償うために何一つできないからである。

27.
新しい世界の準備がつあり、新しい世界がまもなくやって来る。しかしその前に、創造主たちを排除し、彼らが羊飼いとなるようにしなければならない。（46, 65-66）
28.
肉体的なものではある種の病が地上に蔓延し、心を蝕み、信仰と徳を腐敗している。人々は精神的にぼろぼろに身をゆだねてきた物質的なもの以上のものを見通すことはできないため、この惨状を推量することはできないと考えている。
29.
しかし、良心の時が近づいている。それは、あかもあなたがたの目の前、あるいは扉の向こうに迫っていると言うのと同じことである。その時、ある者は恥辱に満ち上がり、他の者は栄誉に満ち上がるだろう。
30.
この嘆きの声を、燃えるように激しく、容赦なく聞き取る者たちは、その内面に、焼き尽くし、滅ぼし、清めるような感覚を覚えるだろう。この裁きの炎には、罪、汚れたものも、何一つとして耐えられない。
神聖な力に恵まれている魂だけが、それに耐えることができる。したがって、魂が良心の炎をくぐり抜けたとき、過ちから清められ、新たに生まれ変わるだろう。（82, 58-59）
31.
人々が引き起こしたあらゆる苦しみは、一つの杯にまとめられ、それを引き起こした者たちによって飲み干されることになる。そして、その苦しみに対して決して動揺しなかった者たちでさえ、その時、魂と肉体の両方で震え上がるだろう。（141, 73）
32.
すべての者にとって、天が時に開かれ、すべての存在のためだけにあることを人々が悟り、大地がただひとつの心が生まれるまで、天が再び閉ざされるのを待つ必要がある。
33.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしは、この不敬虔で不自然な世界を根絶し、そこから愛と光が立ち上るのを見るまで、それを清めるであろう。
また、今日、自分の民を滅ぼそうと望み、あらゆる悪意をまき散らし、不正の種をまき散らす者たちに対しても、償いとして、流血の戦いと堕落を排除し、悪の根源にそうするようにという法令を私は発するであろう。（151, 14 + 69）
34.
人間は、その自由意志を行使して、自分の発展の道筋を、自分が誰から生まれたのかを忘れてしまった。そして、美徳、愛、善、平和、兄弟愛が、自分の魂にとって異質なものに思えるまでに至り、利己、悪徳、罪を、最も自然で許されるものとして見るようになった。
35. 新しいソドムは塩で立ち向かおう。新たな浄めが必要である。
良き種が蒔かれ、そこから新しい人類が成長する。悔悛の涙で潤された肥沃な地に、わたしの種蒔き、それは主により高貴の業を託されるであろう未来の世代の心の中で芽吹くであろう。（161, 21-22）
36.
わたしは人の手が殺し、そして戦争をもたらすことを知っているが、それにある一定の限度までである。人の不義、堕落、盲目、そして権力への欲望は、この限界を超えることはできない。
37.
その時、わたしの鎌がやって来て、わたしの意志が定めたものを、速やかにもって刈り取るであろう。なぜなら、わたしの鎌は、命と愛と真の正義が宿っているからである。しかし、民よ、目を覚まし、祈れ！（145, 91）
38.
かつて、この地は涙の谷であったが、現在は血の谷となっている。明日、それはどうなるだろうか。それは、罪が焼き尽くし、愛する人々の苦悩をすべて洗い流すまでの火の通り過ぎる後の、煙と闇の戦場となるだろう。彼らは自らの魂を顧みなかったからである。

39.
同様に、知恵の源からも、科学の商人たちは追い出されるだろう。彼らはお金を払って高価なガラクタ、真珠と言い張ったからだ。（15, 61-62）

40.
大国たちは軍備を立ち上げ、その名誉と武器をもって世界を脅かし、自分の知性と科学を誇っているが、彼らが作り出した偽の世界の脆さには気づいていない。なぜなら、私の息のわずかな息吹さえあれば、この人工的な世界は消え去るからである。

41.
しかし、自分の業を破壊するのは、人間自身の手である。かつて自分で創造したものを滅ぼす方法を考案するのは、人間の知性のものである。

42.
私は、人々に良い実をもたらした人間の業のみが残り、それが今後来るべき世代の利益のために用いられるよう、取り計らう。しかし、堕落した目的や不毛な目的に奉仕するものはすべて、私の容赦なき裁きの炎によって滅ぼされるであろう。

43.
物質主義的な人類によって創造され、また破壊された世界の廃墟の上に、精神のものを基礎とし、魂の向上という理想を目標とする新しい世界が立ち上がるであろう。（15, 55-56）

終末的戦争、疫病、災厄、そして破壊

44.
あなたがたは恐怖の時代に生きており、人々は薬物の在庫まで飲み干すことによって自分を毒している。しかし、予言を知っている者たちは、国家間の争いにより至る所で戦争が勃発する時期に迫っていることをすでに知っていた。

45.
来るべき疫病が人類間に現れ、科学者たちを困惑させることは、まだこれからである。しかし、人々の苦痛の頂点に達したとしても、彼らはおそらく「神の懲罰だ！」とは決して言わないであろう。だが、私は懲罰を下すのではない。あなた方こそが、あなた方の肉体を支配する悪から逃れたとき、自ら懲罰を下しているのである。

46.
人間の自尊心よ、誰が自然の力を征服せよと挑んだというのか。誰が私の法に逆らえというのか。科学者たちの傲慢さだ！しかし、まことに、私はあなたがたを告発する。この苦しみは、人間心の中で大きく育った雑草を、根こそぎ駆逐するために役立つのだ。

47.
野原は死体で覆われ、罪なき者たちまでもが命を落とすだろう。ある者は火によって、ある者は飢えによって、またある者は戦争によってである。大地は揺れ動き、自然の力が噴出し、山々は裂け目を生じ、海は荒れ狂うだろう。

48.
わたしは人々の自由意志によって許される限り、その堕落極まりない道を進むことを許す。そうして、彼らは自らの行いに恐怖を覚え、魂の底から真の悔い改めを感じるようになるためである。（15, 22-26）

49.
科学の木は、嵐の猛威によって激しく揺さぶられ、その実を大地の上に落とし続けるだろう。しかし、人間たちの誰が、それらの要素の意味を理解したというのか？

50.
確かに、最初の類人猿に理性が与えられ、良心の光と自覚の法をもたらすために、苦痛を伴うこととなった。しかし、この時の、発達し、意識が高く、教養のある人間が――どうして生命の木を冒涜するなどということを許してできるだろうか？（88, 28）

51. 世界では疫病が蔓延し、人類の多くがそれによって滅びるだろう。それは来るべき稀な病であり、科学はそれに対して無力である。

52.
全世界から憎悪が取り除かれるわけではない。利己心、憎しみ、飽くことのない権力の渇望が支配する大戦争が現れるだろう。

53. 国は荒廃し、広大な地域が消滅する。それは、あなたの心の驕りなるだろう。（106, 22-24）

自然と自然災害

54.
人類よ、もしあなたが血まみれの戦争を行うために費やしてきたすべてのものを、人道事業を行うために費やしていたならば、あなたの存在は祝福に満ちていたであろう。しかし、人間は富と破壊と苦痛と死をまき散らすために用いてきた。

55.
これでは、神の御前にあり、子供であるあなたがたの嘆きや真の苦悩は聞こえない。このようなあり方は、私があなたの魂に与えた律法に合致しない。

56.
あなたがたが陥っている過ちに気づかせるため、火山は噴火し、大地からは水が噴き出し、雷鳴を轟かすだろう。風は荒れ狂い、大地は揺れ動き、大洪水は広大な地域を荒廃させるだろう。

57.
このようにして、自然界は人間に対する不満を表すだろう。人間が周囲の自然と結びついていた神聖な絆を次々と破壊したため、自然界は人間との関係を断ち切るのである。（164, 40-42）

58.
人類に多くの災いが降りかかるだろう。自然界には激変が起こり、ありとあらゆる種類の病気が広がるだろう。火は広大な地域を荒廃させ、川の水は濁り、海嘯を引き起こすだろう。

59.
水に浸されたままの地域があれば、新たな地滑りが現れるだろう。多くの生き物が命を落とし、人間より先に低地にある存在すべてが滅びるだろう。（11, 77）

60.
自然の力は、世界に押し寄せる地滑りを清め、浄化するための時が来たと待っている。ある国家の罪深く、傲慢であればあるほど、彼らに対するカルマの裁きはより厳しいものとなる。

61.
この人類の心は頑なで、鈍感である。彼らが良心の声、律法と神の御言葉を理解するためには、苦悩が彼らに与えられる必要がある。すべては、魂の救いと永遠の命のために起こるのだ。私が求めているのはまさにその魂である。（138, 78-79）

62.
かつて地球を人間の汚れから清めたあの大洪水やソドムに降り注いだ火は、今日では忘れ去られている。しかし、この時においても、地球の空気、水、そしてその猛威の下で震えるとき、人類がかつて揺さぶられるのを、あなたがたは聞くことになるだろう。
しかし、私は再び私の律法という福音をあなたがたに送る。それによれば、救われるのである。

63.
試練の時、「父よ、父よ」と叫ぶ者すべてが、わたしを愛するわけではない。常に隣人に対してわたしの愛を実践する者たちこそが、救われるのである。（57, 61-62）

64.
新たな大洪水が押し寄せ、人間の怠惰から地球を清めるであろう。それは、為の神の裁きであり、傲慢で高慢の塔の土台を打ち砕くまで破壊し、あらゆる誤った教えと空虚な哲学を粉砕するであろう。

65.
しかし、この大洪水はかつてのように水だけで構成されるものではない。なぜなら、人間の眼は、目に見えるものも目に見えないものも、あらゆる要素を自由に融合させるように解放してしまったからである。人間は自らの裁きを下し、自ら罰し、自ら救うのである。（65, 31）

66.
自然界は正義を叫び解放されたとき地表の一部が消え去って海となり海が消え去ってそのかわりに陸が現れるように出来ているであろう。
67. 火山噴火の若きだるまが噴火し自然界が激しい動きを見せ揺さぶられるであろう。
68.
あなたがたが良き羊飼として振舞えるよう祈りなさい。なぜなら、その時そこに一体・マリアの霊的教義が火の心になるおそれし時となるからである。（60, 40-41）
69.
地球表面の4分の3は消え去り、混沌を生き延びた者たちの避難となる一部だけが残る。あなたがたは多くの預言の成就を目の当たりにするであろう。（238, 24）
70.
誤解してはならない。第三次世界大戦が終わりを迎える前に、大きな出来事が起こるからだ。星々は震え兆しを示し、地の国は嘆き悲しみ、この悪魔の3分の2は消え去り、聖霊の種が新しい命として芽吹く1つの部族だけが残される。
71.
そうして人類は一つの教え、一つの言葉、そして平和と善意という一つの絆によって結ばれ新たな存在としての歩みを始めるであろう。（250, 53）
72.
わたしはあなたがたに、あなたがたが受けるに値する苦しみについて語っている。あなたがたはそれをますます増大させ、時が来れば、それは溢れ出すであろう。
73.
私は決してわが子にそのような杯を差し出すことはない。しかし、私の正義において私はあなたがたが悔い改めて私のもとに戻ってくるように、あなたがたの悪意、高慢、そして堕落の果実を刈り取ることを許すことができる。
74.
人はその学をもって万物調和している自然の解釈を言う。私のみ言葉は違う。それゆえ、彼の教えは永遠のないものとなるであろう。
75. 自然の力が解き放たれ、宇宙は揺さぶられ、大地震となるであろう。
その時、人は恐怖に襲われ、逃げようとするであろうが、逃げ場はない。彼は解き放たれた力に抗おうとするが、それはできない。なぜなら、彼は悪魔的な、自己の傲慢と愚かさを手段になって悔い改めを避けるための死を求めるからだ。（238, 15-17）
76.
もし人が自己の霊性を豚飼だったならば――どれほどの苦しみを避けることか！しかし彼は最後の審判の時が迫っているにもかかわらず、盲目であり続けるか、あるいは怠惰であり続けることを選ぶのである。
77.
私の教えは、かつての預言者たちによって人類に告げられたあの大きな苦しみから、あなたがたを救うために、あなたがたを準備するものである。
78.
あなたがたの人生を変えることによってのみ、解き放たれた自然界の影響から自己を解放する力、すなわち癒しを見出すことができる。なぜなら、信仰祈りだけが人生の運命の試練に対する勝利をもたらす武器だからだ。その信仰祈りは、徳高く、清く、善良な生活によって支えられなければならないのである。（280, 14-15, 17）
79.
まもなく、世界にとって大きな出来事が起こる時が訪れる。大地震、大勢の人の世界大戦の始まりだ。その時を待ちなさい。大陸は極から極へと震え見舞われ、地盤が消され、その厳しさは想像を超えるものとなり、生き物は大勢亡くなるであろう。

80.
しかし、この大いなる試みの後、諸国民は平穏を取り戻し、自然の力は静まるだろう。この世界が生きてその嵐の後、平和が現れ、万物はそれぞれの法則、秩序、調和へと回帰するだろう。
81.
再び、あなたがたは澄み渡った空と明るい野原を見るだろう。川の流れは再び穏やかに、海は穏やかになる。木々は実をたわわにし、野原は花が咲き、収穫豊かになる。清められ、健康を取り戻した人間は、再び驚嘆の感じ、自分の運命と、わたしへの帰還の道が整えられているのを見るだろう。
82.
来るべき新時代を準備するふさわしい者となるため、誰が祝福から漏れ、浄化されるであろう。なぜなら、私は新しい人類と地上の土台の上に築かなければならないからである。（51, 66-69）

神の愛の義と憐み

83.
裁きが地の中で完全に感じられる時が近づいている。あらゆる行い、あらゆる言葉、あらゆる思いが裁かれることになる。諸国民を治める地の権力者から、最も卑しい者に至るまで、彼らは皆、私の神聖な天秤にかけられる。
84.
しかし、正義を復讐と混同してはならない。また、償いを罰と混同してはならない。なぜなら、わたしはあなたがたが自分の時代に種蒔いた実を刈り取り、それを食べることを望むだけだからである。そうして、その成果によって、それが善いか、あなたがたが善き者だったか悪き者だったのかが分かることができるようにするためである。
85. 人間の悪行によって流された無実の血、未亡人や孤児、追放され、悲嘆に暮れた者たちの悲しみと涙――
それらはすべて正義を求めて叫び、私の完全な愛に満ちた、しかし容赦ない正義がすべての人にくだるのだ。（139, 21-23）
86.
私の審判は、あらゆる被造物に臨み、すべての人間に及ぶであろう。それは、主の使徒がエジプトに臨み、私が息子を遣わした時のように、子羊の血で戸口に印をつけた者たちが救われたのと同じである。
87.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。この時において、目を覚まし、救い主、すなわち、あなたがたに祈りを捧げ、完全な愛をもってあなたがたの贖いの道のために自己を犠牲にした神の子の言葉と約束を信じる者はすべて救われる。なぜなら、わたしの血が、愛の夕食のようにあなたがたを守るからである。
しかし、目を覚まさない者、信じない者、あるいは冒涜する者は、その無知から目覚めるよう、試練に遭うことになる。（16, 6-7）
88.
人々の心の奥底から、私の助けを求める叫びが湧き上がり、「父よ、私たちの救い主よ、私たちのもとに来てください。私たちは滅びてしまいます」と私に告げる時、私は彼らに私の存在を感じさせ、私の限りない憐れみを彼らに明かし、それをもう一度彼らに証明できる。（194, 40）
89.
あなたの日常の生活は、突然、激しい嵐に吹き荒れるだろう。しかしその後、無限の彼方での星の光が輝き、その光線は、受肉した霊が永遠について思索するために必要とする和光、そして静けさをもたらすであろう。（87, 52）

審判の影響

90.
人間にとってすべてが終わったように見え、死が勝利し、あるいは悪が勝利したかのように思われるとき、闇の中から存在するおびただしい人々が立ち上がるだろう。彼らは新たな命へと復活し、破滅の深淵から立ち上がり、神の永遠の法に従うことになる。

91.
すべての者がその深淵を免れてはない。なぜなら、ある者たちは、憤激と野心、憎悪の戦いに巻き込まれないように、新しいソドムの端っこで生きてきたからである。また、多くの罪深い他の者たちは、時機を逃すことにより、早めの悔い改めと完全な再生によって、多くの涙と苦痛を免れることとなるだろう。(174, 53-54)
92.
人類その道徳的物質的構造体について、「石一つ残さず」取り壊されることとなる。なぜなら、この地上に新しい人間が現れるためには、あらゆる汚点を消し去り、あらゆる罪悪を除き、良き種子となるものだけが残ることが不可欠だからである。
93. 私の福音と真の霊的生命は彼ら、その光に照らされて、
、偽善者たち、慣習に縛られ、親しんだ伝統にとらわれ、実のない儀式は嫌悪されるであろう。(292, 33-34)
94.
人間救いのために開かれたままなる扉はただ一つ、霊との扉である。救われようとする者は、その者自身の偽りの偉大さ、卑しい情欲、そして罪に対峙しなければならない。
95.
人類大いなる戦いで倒れなければならない杯は、極めて苦いものとなるだろう。それでもなお、私はあなたに言う。その杯を飲み干し、清められた者としてこの地を去る者たちは幸いである。なぜなら、彼らが別の肉体をもってこの世に戻ってきたとき、彼のメッセージは平和と知恵に満ちているからである。（289, 60-61）
96.
その若者たちが「最後の戦い」や「最後の嵐」にはまだ出会っていない。あらゆる偽りが暴かれ、原子たちが混沌の中で溶けるという事態はまだ起こっていない。そして、そのすべてを経て、死を思わせるような無力、疲労、悲しみ、嫌悪感が消えるのである。
97.
しかし、その時そ、感性が形成された霊の中に、トランペットの響きが聞こえる時となる。それはあの世から、善意ある人々の間に、生命と平和の到来が近づいていることを告げるものである。
98.
その若者たちと共に、「死者はよみがえり」、悔悛の涙を流すであろう。そしては、長く厳しい大いなる戦いに疲れた「放蕩息子たち」として彼を迎え入れ、愛の口づけをもって彼の帰還を祝福するであろう。
99.
この日から、人は兄弟を憎まなくなる。人は憎しみと侮辱をかなぐり捨て、罪悪を断ち切り、償いと再生の道を歩み始めよう。多くの人々は、かつては見えなかった光に感化され、平和な世界を築くために立ち上がるだろう。
100. それは、恵みの時代、すなわち平和の時代の始まりに過ぎない。
101. 石器時代はすでに遥か昔のこととなった。科学の時代もまた過ぎ去り、そして人々の間には精神の時代が開くであろう。
102. 生命の泉は、人々の善行、正義、そして愛に基づく世界を築くことができるよう、偉大な秘密を明かにするであろう。（235, 79-83）

XIII 世界創造の変容と完成

第6章 キリストの霊的使命の勝利と承認

神の使者たちによる霊の教えの普及

1. この時において、わが法典の箱舟となるであろう。まことに、あながたは告げる。悪、苦痛、そして悲惨という大洪水の水が解き放たれたとき、他国の人々は、この国の霊生、そのものよ、そしてその平和に惹かれて、長い列をなしてこの地を訪れるであろう。そして、彼らがこの箱舟を、私の聖霊として再び際、語ったことを言うならば、私は彼を「霊によるイエス」と呼ぶであろう。

2. この大洪水の中は、私が彼の民のもとへ帰る、兄弟たち、私の言葉という神のメッセージを伝えるために遣わす使者たちがいる。

3. しかし、私があなたがたに教えを授けるために、この国に来る者は皆ではない。多くの者は、霊にそれを受け入れるからである。（10, 22）

4. あながたは皆、その行いにふさわしい平和を受けることになる。しかし、私はあながたより良い時代を約束する。

5. 地上で生まれなければならない浄化の後、私によって遣わされた人々が現れる。彼らは、従順と忍耐と寛容を築くという偉大な使命を帯びた徳高き魂たちである。

6. あながたの世からさらに他の世へ過ぎ去るまで、わたしの教えが地上にもたらす美しい実を結ぶことはないであろう。（10, 50）

新しい律法の承認をめぐる戦い

7. 今日、私を取り巻くのはさほど多くに過ぎないが、明日は計り知れないほどの人々が私の周りに集まるであろう。その中には、ファリサイ派の人々や律法学者たちがやって来て、私と教えの中に誤りを探し出し、大勢の意見を扇って私の敵にけしかけようとするであろう。彼らは、私の敵を探し出す前に、自分たちこそ見放されてしまうことになるのだ。（66, 61）

8. かつて、アナス、ピラト、ヘロデという三人の裁判官がわたしを裁き、民がわたしに判決を執行した。今、わたしはあながたは告げる。多くの者がわたしの裁判官であり、この時にわたしに苦痛をもたらす者の数はさらに多い。

9. しかし、人々が私の律法と教えを憎めば憎むほど――それらが最も迫害され、揺さぶられるほどそれを信じ抱く人々の声が響き渡るであろう。なぜなら、第二の時代と同じようなことは二度とないからだ。今、私は一人ではない。（94, 67）

10. この時代に与えられた私の言葉が、一見、地上の舞台から消え去ったかのように見える短い期間があるであろう。

11. そうして人々は霊性と教えをでっち上げ、新しい律法や教えを説くであろう。彼らは自らを神の使徒、予言者、神の使者と名乗り、私はしばらくの間、彼らに語らせ、種を蒔かせよう。私が彼らにその種を育てさせ、実を結ぶ時、彼らが何を蒔いたかを知るのだ。

12. 時と共に私が彼らの時代に蒔く種は尽くし、その実は、これらの人類の子供たち一人ひとりにとって、さぞかし素晴らしいものであろう。

13. 世界に真実を告げるためには、その準備をすることが必要である。そうして初めて、この時代に私があながたに授ける真理と生命の教えが、その純粋さと霊性をもって変わらぬまま、人の間に再び広まることになる。（106, 9-10）

聖霊の教えの力

14. 人類にとって新たな時代の幕開けである。それは光の時代であり、その到来はすべての人の霊性の道のりにおいて重要なものであり、それによって人は目覚め、思索し、伝統、狂信、そして誤りの重荷を振り払い、その後、新たな生へと立ち上がるのである。

15.
ある者は早く、ある者は遅く、こうして第一すべての宗教宗派は、目に見えない神殿、すなわち聖霊の神殿となることになる。その神殿は、私の業の中で在り、あらゆる民族性の人々を待望し、無限と永遠のように広くなるものである。
16.
すべての人の祈りと瞑想のために私の聖所の扉が開かれるとき、ある者はまたある者も、私の真理について同じ認識を得るであろう。したがって、この道のりの頂点が達成されれば、すべての人は同じ法の下に結ばれたことになり、同じ方法で父を崇めるようになる。（12, 94-96）
17.
私が育てた人々が闇の中から救い出された民と共に、私がかつて与えられた使命を成就させる。そして、私の証しを全地において世界霊上がり、神学者や預言者たちとの書物や論文、この教えを説明する講義の中で整えるであろう。
私の弟子や学問者、学識者、王や王子と呼ばれる者たちは、私の教えに耳を傾けるために立ち上がり、多くの者がこう言うであろう。「救い主キリストが再び来られた！」（4, 60）
18.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしの言葉は、あなたがたの現在の世界と、あなたがたの人生そのものの様相を変えるであろう。
19.
現代の人々にとって、世界とその喜びこそが人生の意義である。しかし、まもなく彼らは、肉体より先祖を、物質より先肉体を重んじるようになり、世俗的な栄華を追い求めるかわりに、魂の永遠を求めるようになる。
20.
当初は、霊的なもののために狂信的な教派が生じ、その過激は極限まで高まるであろう。しかしその後、人々の心は落ち着き、霊的真実に調和を見出すであろう。（2, 30-31）
21. わたしの教えは世界に大きな変革をもたらし、風俗や思想に大きな変化が生じ、自然界においても変化が起こるであろう。
これらすべてが、人類にとっての新しい時代の始まりを告げるものであり、私がまもなく地上に遣わす使者たちは、これらすべての事について語るであろう。彼らは私の言葉を説明し、その業を語り、この世界の回復と向上に貢献するであろう。（152, 71）
22.
私を見ることができないが、その不完全さにもかかわらず私を求め続けたために、ついに私を見ることとなった者たちの魂からは、新しい歌が湧き出るであろう。そして、私を求める者は必ず私を見出すことを、あなたがたはよく知っている。
23.
わたしを否定し、わたしを避け、わたしの名を憎み、わたしの存在を認めようとしない者たちについては、彼の道において彼の目の前に、彼らにまず真理を見させるような試練が与えられるであろう。（292, 35-36）
24.
すべてを押し流す激流のように、スピリチュアリズムは抵抗する大勢が成すその波よりも、その勢いが強くあるため、誰も止めることのできないものとなるであろう。そして、その流れの進路に障害物としてたちはだかろうとする者は、その流れに飲み込まれてしまうであろう。
25.
地上に、魂の進化と神性の成就を望む者がいるであろうか。誰もいない。絶対的かつ完全な唯一の存在は、あなたがたの父であり、父はすべての魂が完全へと進むよう定められたのである。
26.
もし人々が私の聖なる律法を踏みにじり無視したとしても、私は霊性において死んでいる者たちでさえも、大きな鐘音のように私の声を聞き取れるようにするであろう。（256, 40-42）
27. そうして人類が私の教えを、その真実を理解すれば、人々はそれに従順になり、それが
な正義、愛、そして隣人の福祉をもって生きようと願うすべての人にとって、確かな道であり、導き手であるという事実を知るであろう。

28.
この教えが人々の心に根を下ろせば、それは家庭を照らし出すだろう。すなわち、親孝行で強い、夫婦は貞節で強い、子供たちを道徳で強い、そして教師たちを英知で満たすであろう。
それは統治者たちを賢くし、裁判官たちに真の正義を行使するよう促すだろう。科学者たちは啓発されたと感じ、その光は人類の福祉と精神的発展のために、彼らに導きの秘密を明かすだろう。このようにして、平和と進歩の新しい時代が始まるのである。（149, 35）

全世界におけるキリストの再臨の認識

29.
人間が深淵の底へと沈み、闘争と苦しみによって疲れ果て、もはや自分を救う力を失ったとき、彼は驚いて、自分の罪と絶望と失望の深みから、霊は来るべきものが差し迫っていることを感じるだろう。
解放の時が来たことを自覚した時、その人は驚き、虚栄と肉欲と嘘に満ちた世界の束縛から舞い上がり、こう言うだろう。「あそこに、見捨てられたイエスがいる。彼は生きている。
私たちは至る所で、日々、彼を殺そうとしてきたが、それは無駄だった。彼は生きており、私たちを救い、その愛のすべてを私たちに与えるために来られるのだ。」（154, 54）
30.
まことに、あなたがたは言う。かつて主たちでさえ、私が生まれた貧しさに驚いたように、この時にも、私があなたがたに私の言葉をもたらすために選んだその目立たない方法に驚くときが、人々は同様に驚かされるであろう。（107, 52）
31.
現在、人類は準備段階である。人々が気づいていないうちに、私の正義が彼らの中で働いているのだ。なぜなら、彼らはその直後に、傲慢な物質主義のために自分たちにとって避けられない人生のあらゆる出来事を、すべて開始するようにしているからである。
32.
しかし、まもなく私の呼びかけが彼の心に届くであろう。その時、彼は悔い改めて私に近づき、その傲慢と過ちが消されるよう私に懇願するであろう。
33.
それは人間の魂にとって「十字架の時」となるだろう。大きな災害の後、彼は束の間、絶対的な虚無を経験する。その時、彼は自分の過ちの誤り、権力の愛、そしてイデオロギーの誤りを悟るのだ。
34. しかし、この混沌の状態は長く続かない。なぜなら、その時、私の預言者たちが現れ、私の新しいメッセージを広めるからである。
35. かつて、私の教えの預言者たちが東から来たように、私の言葉の知識を西へ
と持ち込むように、その時、世界は再び、私の預言者たちが福祉と家庭にこのメッセージの光をもたらすのを見るだろう。
36.
今や他の国々に東へと向かうことが、人々に喜びを与えるだろうか。それとも、彼らは私の預言者たちが私の名において伝えるメッセージを恐れるのだろうか。（134, 42-45）
37.
わたしを恐れない民族や共同体があれば、わたしの律法から離れ、わたしの教えを広めようとせず、時代遅れだと考えてそれに反対する民もいる。
38.
わたしを理解していない者たちこそ、地の自由を享受する者たちである。また、高慢からではなく、しばしば自分の無知のために善行者たちもいる。
39.
しかし、あらゆる民族、あらゆる人種は、私の正義と試練の対象であり、それ以降、主が彼の心に触れ、まるで新しい

るかのように、やがて実現するものとし、耕作の後に、そこに種を蒔くのである。それは私の愛、私の正義、そして私の光という永遠の種である。

40.

それらの民族は私について愛をもって語り、それらの種族は、その時、私の希望を置くようになる。そして、この地球すべての民族の魂の中で、至高の歓喜であり、すべての人の唯一の主の賛美と愛の合唱であろう。（28, 12）

第7章 あらゆる分野における回心と変革

新かつより深い認識

1. 霊性啓示の火は光に満ち溢れ、創造の隅々にまで輝きはじめる時が近づいている。

2.

わが霊の光は、真の科学を習得する方法をあなたがたに明かにするであろう。その科学によって、人間は理性の生き物、創造の目的の中から認められ、服従を learn ことが可能となり、それによって、人間性を知るという叡智が獲得するのだ。

しかし、これは霊によって照らされた人間の魂が、肉体の弱さ、その力と欲望に打ち勝ったときにはじめて実現する。（12, 19）

3.

人が魂の特に意義を理解する日は、すでに近づいている。なぜなら、信仰があると思い込んでいる者の多くは、真にはおらず、見ていると自負する者さえも、実際は見ていないからである。しかし、彼がひとたび真理に触れれば、別の生命に属するなにかを、この地球上で養い続けることが、いかに矛盾で、不正で、不合理なことであるかを悟るであろう。

4.

そうして彼は教師の中に光をみるようになり、魂の内に真実を見出したという喜びは、霊の中で、教義の誤りを排除し、様々な国に見られるあらゆる表面性ものの対立ものの矛盾を、ついには聖書全体を理解することであろう。（103, 42）

5.

人類は、憎しみ、暴力、そして不正義をまき続けることに、きっと疲れ果てるようになるであろう。彼が蒔いた憎しみの種は、その収穫を刈り取るには彼の力では足りないほど増大するであろう。

6.

この予期せぬ、そして彼の思いの及ばない結果は、彼の意志のような狂気の歩みを止めさせるであろう。その後、私はすべての人の心の中に御座をしき、かつては不正義がはびこっていた場所に、隣愛を打ち立てるであろう。

7.

人は再び、私に完全性、全知、そして至高の正義を認めるようになる。彼は、イエスが「父の御心なしには、木の一枚の葉でさえ落ちることはない」と語ったことを思い出すであろう。なぜなら、今日、世間の見解によれば、木の一枚の葉も、生き物も、星も、偶然動いているとされているからだ。（1, 30）

8.

もし私の声が霊性の次元の中に響き渡るならば、人は、自由は奪い去ることのできないものの、常に自分たちの中にあって何かが欠けているのを感じるであろう。それは、主の声を聞いて、立ち上がり、私の呼びかけに応える霊である。

9.

そうして、地上に新しい時が始まる。なぜなら、あなたがたは地上から人生を見るのではなく、魂の高みからそれを測り、認識し、享受するようになるからだ。（21, 38-39）

10.
理性と精神を通じて初めて人間は現実の深層の探究だけでなく、精神の理解へと導かれるようになって初めて、人間は現在ではまだ不可解に見えるが、それでもなお知性と霊とによって明らかにされるように定められているものを発見するだろう。（95, 37）
11.
私はあらゆる場所、あらゆる国、あらゆる性と光の現れの時が来ると、あなたがたに語った。それは人間の霊的な養成に役に立つだろう。しかし、それによって創造に関する新しく、より正確な観念、すなわち霊性に関する新しい概念が形成されることになる。このようにして、霊的精神的な発展の新たな段階が始まるのである。(200, 41)
12.
人々が愛をもって普通に考えるようになれば、誰かが自己を完成させ、他者をより正しく理解し、奉仕しようと努めるようになるだろう。罰への恐れや要求、人は恐怖からではなく、確信から法律を守るようになる。そうして初めて、人類は精神的に女性的にも発展したと言えるだろう。(291, 25)
13. この私の言葉が、人類に構成する新知識の中で実現されるとき、人々の生活は絶対的な変革がもたらされるだろう。
かつての人々の生き方、信じ方、礼拝の仕方、闘い方、そして考え方と、霊性を生きる人々のそれとを比較してみれば、彼が見聞しての差異においても、また神の精神的崇拝においても、どれほど大きな違いをすることになるだろうか。
14. 狂信、偶像崇拝、物質主義、そして深遠な信仰の欠如が横行していたあの時代からは、石一つ残らないだろう。
あなたがた自身が来るべき世代に遺したあらゆる誤りは一掃されるだろう。善と真実の核をその中に宿していないものはすべて残らない。しかし、あなたがたが保持したすべての善は、彼が引き抜くだろう。
15.
かつての時代よりも霊性が支配するこの教えは、人々の間、諸教派間、教会や宗派の間で、自己を確立し、根を下ろすために戦わなければならないだろう。
しかし、この短い混乱の時期を過ぎれば、人々は平和を訪れ、彼らは私の言葉の中に、もともとそこに秘められていた真実を読み取るとき、驚嘆するだろう。
16.
私の神性、霊性生活、そしてあなたがたの存在の目的に関する考え方は、正しい軌道へと導かれるだろう。なぜなら、すべての人は、あなたがたの師、その救世主、そして預言者によって、たとえ譬えを通して語られてきたすべての事柄を、正しく解釈する者となるからである。
17. あの表現方法は、人々には部分的にしか理解されなかった。
それは彼の高まりつつある霊的知性の理解に応じて、彼らに与えられた教えであった。しかし、彼らはすぐにすべてを知りたがったため、霊的な方法でしか解釈できないものを物質的な解釈を与え、ますます多くの誤解と誤った概念に迷い込んでしまったのである。（29, 22-26）

神から遣わされた人々による啓蒙

18.
わたしはあなたがたの中に住むべき大いなる光の霊たちを遣すと約束した。彼らは地球に近づき、転生し、回復という大いなる務めを果たす時を待っているのだ。
19.
さて、それらの霊存在がこの世に生きるようになった時、あなたがたは彼らに何を教えなければならないだろうか。まことに、私はあなたがたに言う。何も教える必要はない！なぜなら、彼らは学ぶためではなく、教えるために来るからだ。
20.
あなたがたは、彼らが幼い頃から深遠な事柄について語り、科学者や神学者たちと議論をするのを目にして驚くだろう。彼らは自らの経験によって大人たちを驚かせ、子供や若者たちに正しい道を示すのだ。

21.
こうした霊的存在の一人をその懐に迎え入れる家は幸いである。わが使徒たちの使命の遂行を妨げようとする者たちの負う責任は、いかに重いことか！（138, 30-31）
22. もう一度言っておくが、この世は大きな光に満ち、あなたがたの道を照らし、愛を持ってくれる人々が決して欠けることはない。
23.
人類は常に、そのような人々の存在を他世から持ってきた。しかし、今や、あなたがたが作り出した偽りの世界を粉砕し、平和と喜びと真理を支配する新しい世界を築くために、高次の光の霊たちの大軍が世に生まれる時が来ている。
24.
彼らは人々の悪意によって多くの苦しみを味わうことになるだろう。しかし、これは新しいことではない。神の使徒は誰一人として、迫害や嘲笑、敵意を受けた者はいなかった。彼らの地上での存在は必要不可欠であるため、彼らはこの世に生まれ、この世に生まれなければならない。
25.
彼らはやって来て、人々の心を愛をもって語りかけるだろう。父の正義に満ち彼らの言葉は、誤った教えという鎖を断ち、偽りの権力、偽りの栄光という華やかな装いを剥ぎ取ってしまう者たちの、その真実を暴き出すだろう。
26.
そうした者たちが真っ先に立ち上がり、怒り震える者たちが私の使徒たちを亡きものにするだろう。しかし、これは、私が僕たちの直面するあらゆる試練において、彼らがこの世にもたらした真理の偉大な証しを立てられるようにするための道となる。
27.
あなたがたは今、彼らが預言者のどのような道において現れるかを知らない。しかし、私はあなたがたに告げる。ある者たちは大きな宗教団体の懐に現れるであろう。彼らはすべての人々の霊的精神性を高めるため戦うであろう。
28.
また、ある者たちは科学者の間で頭角を現し、その霊的洞察をもって、科学の真の究極の目的は、人間の精神の完成であり、決してその衰退や滅亡にあるのではないことを示すであろう。
29.
このようにして、あらゆる生活領域において、私の律法を心に抱き、言葉と行いをもって、私がこの時にあなたがたに語ったすべてのことを立証する、私の僕たちが現れるであろう。（155, 43-47）

人間の変容

30.
わたしは再臨者として新しい世界に霊はされた人類にあなたがたに告げるが、この言葉が何度となっても、やはり信じられることはないだろう。
31. 世界は次々と過ぎ去り、人々の憎悪と嵐が渦巻き、疫病や災害が猛威をふるい、人類の裏切りが非常に多くなるだろう。
32.
しかし、これらすべてを経て、新しい地球の住人たちは、内なる霊の指導を仰ぎ、過去の世から受け継いだ計り知れない経験宝庫を活用するようになるだろう。そして、神聖な種まきが始まるのである。
33.
すべての魂はそれが私から生まれたものであるがゆえに、神聖な種が存在している。そして、あなたがたの子供たちの神聖で高貴な性格を受け継ぐように、魂たちはまた、やがてそれから受け継いだものすべてを愛と明るさに変えるようになるだろう。（120, 9-11）
34. 新たな大洪水の後、虹が輝き、それ以降、人類全霊は結束した新たな霊の家族となるであろう。
35.
あなたがたは、厳しい戦いに備えなければならない。なぜなら、あなたがたは皆、悪の竜と戦わなければならなかった。その武器は、各自への渇望

憎み、地の権力、放縦、虚栄、利己心、嘘、偶像崇拝、そして狂信である。これらはすべて、人間の心から生まれ悪の力であり、あながたは、それを打ち負かすまで、大きな勇気と信仰をもって戦なければならない。

36.

もし、あながたの光の武器によって、憎しみという竜が倒されるならば、人々の目の前に新しい世界が現れるだろう――同じ世界でありながら、より美しく見える新しい世界である。なぜなら、その時、人々はすべての行いに精神という理解ができることで、その世界を自分の幸福と進歩のために活用するようになるからだ。

37.

人々の心に高潔な知性と理解が生まれ、霊は自分の存在を証明することができるようになる。あらゆる驚異、あらゆる奇跡するものが、人間の業の一種となるだろう。（52, 61-64）

38.

人間は深淵まで落ち込んだが、良心のもとにまで苦悩、その声が聞き届けられる適切な時を待ち続けてきた。まもなく、この声は、あなたがたが今まで想像できないほどの強さで、この世に響き渡るだろう。

39. しかし、これにより人類は、傲慢、物質主義、そして罪という深淵から這い上がり、悔恨の涙のうちに身を清め、霊性の道を歩み始め、上へと発展していくことになるだろう。

40. 私はすべての子供たちを助けよう。なぜなら、私は「死者」を墓から引き出す復活であり、命だからである。

41.

私が今日、人類に差し出すその人生において、人々は私の御名を、愛と自由意志で崇拝するだろう。父の御名を行う者は、しもべでも奴隷でもなく、真の神の子であると確信して。そうすれば、あなたがたは、愛と知恵の果実である真の幸福と完全な平安を味わうようになるだろう。(79, 32)

42.

言っておくが、この第二の時において――たとえそれがあなたたちには不可能に思えても――人類の滅亡を防ぐことではない。なぜなら、贖いの業は神の業だからである。

43. 人々を真の道へと連れ戻すのは、私の愛である。

私の愛は、ひそかにすべての心に浸透し、すべての被造物と自然を通じ、あらゆる良心を通して現れる。その愛は、硬い岩石のような人間性を豊かな感受性と変え、物質主義的な人々を霊的な存在へと、そして罪深い人々を善と平和と善意に満ちた人々へと変えていく。

44.

私がこのようにあなたがたに語る理由は、あなたがたの魂の発展を私以上に知る者はいないからであり、また、今日の人間は、その甚だしい物質主義やこの世の愛、そして最大の罪までも含め、悪意にもかかわらず、表面的には肉や物質的な生活に溺れているように見えるだけであり、実際にはそうではないことを私が知っているからだ。

私は知っている、彼らの魂の中で私の愛の優しい触れを感じた瞬間、彼らはすぐに私のもとへ来て、その重荷を下ろし、無意識のうちにこれほどまでに切望している真の道を、私に従って歩み始めるだろう。（105, 34-36）

45.

目を覚ましていなさい。そうすれば、私を呼ぶ者たちの声を聞くことになるだろう。また、真の道から逸れた者たちの叫びを聞くことになるだろう。

46.

破壊兵器を開発することに専念してきた科学者たちは、裁きが近づいていると感じたとき、真の道という広い大通りを、世界の道から物質性を再建し始めるようになるだろう。

47.

傲慢であり、魂の中で私の座を奪おうとした者たちは、その巡礼の旅に、謙虚に私に仕えようとするだろう。また、かつて民衆を扇動し、戦争を引き起こした者たちも、自分の罪に苛まれ、恐怖に駆られて人々の平和のために尽力するようになる。（108, 39）

48. もし私の光がすべての人の心に透し、民を導く者たち、民を教える者たち、そして
において最重要な任務果すべきすべての者が、良心というその高きに導かれ、インスピレーションを受けるようになれば、その時、あなた方は互いに顔を合わせることができる。兄弟たちを歓迎することができる。なぜなら、私の光はすべての人の中にあり、私の光の中で私の存在と私の愛に満ちた正義が支配するからである。(358, 29)

49.
私の教えは類によって再び聞かれることとなるであろう。しかし、それは私の律法が人々に帰ってきたからではない。なぜなら、それは常に彼らの魂に書かれていたからである。律法の道と方法は、人々自身である。

50.
この世界は、私のところへ来る準備ができた姿のものとなるであろう。彼は同様に、この世界をまた、父の自分の場所で待ち受け、愛をもって抱きしめ、食卓に招いて食事をともにするのを見つけることとなる。

51.
この類が私のもとへ帰ってくるまではまだ来ていない。彼らはまだ道程の一部が残されており、彼らはその旅路に浪費し、裸で、飢え、病んだまま到着し、果ては、その時初めて父に目を向けることとなる。

52.
この世の富と、求める人々に、その実現が完全なものとなるよう、あと少しの時間を与える必要がある。そうして彼らは金、権力、称号、そして名誉の探求が、決して彼の魂に平安と安らぎをもたらすことはないのだと、ついに確信するようになるためである。

53.
全類にとって、良心の光のもとで自己を省みる時が近づいている。その時、学者、神学者、科学者、権力者、富める者、そして裁判官たちは、自分たちが貧しく、人々に食べさせることができず精神的な道標もなく、あるいは物質的実は何もあたえなかったのかと自問するであろう。

54.
その苦悩を通じて、多くの人々が私のもとに戻ってくるであろう。なぜなら、彼らは地上で享受した名声にもかかわらず、霊性生活の果実によってのみ養われることのできる彼の魂の空虚を埋めるために、何かが欠けていたことに気づくからである。(173、19-20、57-58)

55.
霊性に愛に欠けた今日の人々の中から、私は、私の言葉によってこれまで予言されてきた世を到来させるであろう。しかしその前に、私は今日、自己を見失い、互いに戦い、破壊し合っているこれらの民を導いていくであろう。

56.
そうして、すべての者に対する私の裁きが下り、雑草が根こそぎ焼かれたとき、新たな類が生まれるであろう。その血には、もはや不和、憎み、嫉妬の種は含まれていない。なぜなら、彼の両親の血は、苦難と悔悛のるつぼの中で浄められたからである。

57.
わたしは彼を呼び入れ、こう言うであろう。「来なさい、来なさい、そうすれば与えられる」と。これは、わたしが第二の時にあなたがたに語ったことである。しかし今日、わたしはこう付加える。求めることを理解せよ。(133, 54)

あらゆる生活領域における変化と激変

58.
物質界、すなわちこの惑星は、その崩壊の危機に瀕してはいない。しかし、誤りと罪、闇と誤りと悪に満ちたこの世界の終わりは、私の教えの光によってもたらされる。そして、その廃墟の上に、私は義と平和に満ちた新しい世界を築き上げる。(135, 5)

59.
人類が連綿と続いてきた道は、大きなものとなるであろう。社会組織、原則、信条、教義、慣習、法律、そして聞き知るあらゆる事は、その根から揺り動かされることとなる。(73, 3)

60.
人間、国家、人種、そして諸民族、それらすべては、人間の精神がこの地上での滞在のために作り出した、物質主義の鎖を打ち砕き、霊的価値観を生み出す時、神の呼びかけに従わなければならない。（297, 66）
61.
やがて、私の律法を真に愛し、霊性律法と世俗の律法、すなわち永遠のものと一時的なものを調和させることができる人々が現れる時が来る。
62. それは、かつてのように支配するためではなく、精神の真の自由であるものの道を彼らに示すために行われるのである。
63.
そうすれば、道徳と家庭の喜びと共に、真の教育の場が生まれ、あなたの国は習慣の中に霊性を育むだろう。それは、良心がその声を響かせ、わが子らが神性の聞き方を学ぶ時であり、人類互いに融和する時となる。
64.
これらすべてが、多くの違った、やり方の解釈を生むことになる。なぜなら――あなたの世界はそれほど広さにもかかわらず――これまで一つの家族として共生することを learn しておらず、私に対して統一された礼拝を捧げることもできなかったからである。
65.
かつてのバベルは、諸民族や人種を分断するという重荷をあなた方に課しましたが、人々の心の中に私の霊性を築くことで、あなた方はその重荷から解放され、互いに真に愛し合うようになるでしょう。（97, 10）
66.
やがて、人間の魂をより高みへと発展させたいという願望が、これまでにない形で生まれてくるだろう。その時、人間は持てるあらゆる手段を尽くして、この涙の谷間の苦しむ世界を変えていわゆる「不可能」をなし遂げ、戦争や貧困や自己満足的な利己主義と闘うことになるだろう。
67.
そうした人々にその世界観から、人間の迷信や誤りを取り除き、過去の世代が盲目的な権力、物質主義、そして奉仕の中で破壊してしまったすべてのものを再建する者となるだろう。
68.
彼らこそが、私に対する真の礼拝――狂信や表面的な無意味な儀式ではない礼拝――を見出す者となるだろう。彼らは、人間の法律と霊性法律の調和、そしてその両方の履行こそが、人間が神に捧げ得る最高の礼拝であることを、人類に理解させようとするだろう。
(297, 68-69)
69.
儀式や祭壇、教会の鐘の時代は、今や人間の間で終わりを迎えようとしている。偶像崇拝と宗教的狂信は、その最後の息を吐き出すだろう。私が約束し予言してきた調和と混合の時代が来る。
70.
嵐が過ぎ去り、すべての魂が平和に戻ったとき、人々はもはや私の栄光のために壮麗な建物を建てたり、また、鐘の響きによって人々が集められることもなく、また、自分たちを特別だと感じる者たちが教会に対して権力を行使することもなくなるだろう。
謙虚さと平和、そして類まれな霊性の時代が来るのだ。（102, 37）
71.
現代において、良い実を結ばない木をすべて切り倒すという斧を常に振り上げる風潮が現れている。この大きな闘いにおいて、正義と真理のみが勝利するであろう。
72.
多くの教会は消え去り、いくつかは残るだろう。ある教会では真理が説かれ、他の教会では嘘だけが残されるだろう。しかし、正義の鎌は、地上にあるすべての種が選別されるまで、刈り取り続ける。（100, 11）

73.
これは私の終わりであるが、人間が解釈するような「世の終わり」ではない。世界は苦悩の連続は、魂たちは喜びと共に続き、新たな人生へと移り変わって来て、その使命を果たすため転生するだろう。人間は今後この惑星に生き続け、変わるのは人間の生き方だけである。
74.
人間の生活が経験する変化は大きなものであり、あまりに甚大であるため、あなたたちは、ある世界が滅び、別の世界が新たに生まれているかのように映るだろう。（17, 14）
75.
それに向かって、あなた方は皆、喜びと平和に満ちた生活へと向かっているのだ。あなたたちが予感しているような、深淵や死に向かってではない。
76.
確かに、あなたがたが霊の時代を迎えるまでは、まだ多くの苦悩を経験しなければならない。しかし、死も、戦争も、疫病も、飢饉も、いかなる生命の流れと、この惑星の発展を止めることはできない。私はより力強い。それゆえ、もしあなたがたが命を落とすことになっても、私はあなたがたを生命へと戻し、必要な時はいつでも、あなたがたを地上へと帰還させるだろう。
77.
愛する人類よ、私はまだあなたに多くのことを告げなければならない。私の「神の国の書」には、まだ多くの驚きが待受けているのだ。（326, 54）

第8章 キリストの平和の王国創造の完成

キリストの平和の王国における選び

1. 私があなたがたにあの大きな苦悩の時を予告したのと同様に、私はまた、混乱が過ぎれば、人々の間に調和が訪れると告げる。
2.
傲慢な者、自分勝手な考えの者、隣人愛と正義を欠く者たちは、しばらくの間、この世に留め置かれることとなる。それは、善と平和と正義が地上において勝利し、その神聖な良き影響が育まれるためである。（10, 39-40）
3.
人々の生活において、悪は常に善を凌駕してきた。しかし、私はもう一度言っておく。悪が勝利することはなく、私の愛と正義の法が支配することとなるのだ。（13, 32）
4.
あの時の変革する力の多くは、善に深く根差すようになるため、たとえ悪に傾く人間が現れたとしても、彼がどれほど強力であろうとも、彼が瞬く間に神の真理の光に屈服せざるを得なくなるだろう。これは現在起こっていることとは全く異なっている。なぜなら、堕落した者たちが多数を占めているため、彼らは善なる者たちを惑わせ、感染させ、この上ない苦しみを生み出してきたからである。（92, 55）
5.
その時代、お弟子たちよ、新しいエルサレムは人の心の中にあるだろう。あなたがたは真の霊性と違い、私は私のメッセージを広めるために、高度に発達した魂たちをあなたがたの中に転生させるだけにとどまらない。私はまた、あなたがたの癒しを必要とし、あなたがたの中に生きることで自らの罪を清める魂たちをも、あなたがたのもとに送るだろう。
6.
その時には、今日には理解のできないことが起こるだろう。今日、私があなた方に清められた魂を送っているのに、あなた方はそれを引き出し、追い返しているのだから。（18, 46）

新しい人間

7.

すべての罪は滅ぼされ、人類は、最初に造られた者の時から、謙虚で、物質的な富は乏しいが精神的には強く、私の律法に従って同胞に対して慈悲深く良心的であるのを見るだろう。その聖域は冒すべからざるものであり、目に見ず、触れることもできないため、破壊することは不可能である。

そこには、その道標も消えることのない光が燃え続ける。その人生の道は決して厳しく厳しいものとなるだろうが、それゆえ引き返すことは決してなく、不満や悲しみから嘆くことはなく、また、使命を全うしているがゆえに、私から背を向けることもない。

人々は汚れ、泥、罪の中から、律法と徳と共に、愛と恵みの道を選ぶようになる。至る所で私の霊が感じられ、すべての目が私を見、すべての耳が私の言葉と霊感を受け入れるようになる。

8.

不信仰で無神と思われていた人々が、突然変容され、私の預言者と変容するのを目にするだろう。彼の唇からは、枯れた心に届くように澄んだ水となる言葉が流れる。

9.

預言者たちはこの水をすべての人々に、真理の泉から汲み出る。人々はその水の中に聖霊と清めと永遠の命を見出すであろう。（Ⅱ Ne. 28, 38-39）

10. わが王国は、父と隣人への愛から自分の十字架を進んで負う、善意の子供たちのために用意されている。

私があなたがたに語るこの王国は、特定の場所にあるわけではない。それは、あなたがたが住むこの世にも、あらゆる霊的な世界にも存在し得る。なぜなら、私の王国は平和、光、恵み、力、調和から成り立っており、これらすべてを――たとえ不完全であっても――この現世においてすでに得ることができるからだ。

霊的豊かさは、あなたがたが現在いるこの世界でさえ、初めて得られるものである。（Ⅱ Ne. 28, 32）

11. まことに、私はあなたに言う。今日、人々は肉体より先魂である部分が多いが、明日は魂より先肉体である部分が多くなるだろう。

12.

人々は自分の魂を完全に物質にしようと試みてきたが、その完全な物質化には至ることはない。なぜなら、魂はダイヤモンドのようなものであり、たとえ泥の中に落としても、ダイヤモンドであることに変わりはないからである。（Ⅱ Ne. 28, 54）

13.

人々はこの世の義務を怠ることなく、その科学力、能力、そしてわが聖なる戒律に従うようになる。彼らは魂と身体とを有益な喜びに向き合うようになる。彼らは自分の再生と自由を求めて奮闘し、他者から悪影響を受けることなく、必要なものは手に入れるようになる。

そうすれば、堕落の原因となった地から消え去り、魂と肉体という二つの対立する絶対的な要素を手にし、たとえ肉体に住まっていたとしても、愛と調和と平和に満ちた霊的な生活を送ることとなるだろう。

14.

それが、戦争が消え去り、互いの敬意と助け合いが存在し、あなたがたも隣の命も、自分の命と変わりはないと悟る時となる。その時、あなたがたは自分自身の命も、子供や配偶者の命も、この地球でも、自分たちの所有物ではないことを悟るだろう。むしろ、全創造物の所有者はわたしである。しかし、あなたがたは私の深く愛する子供たちであるがゆえに、私の所有するすべてのものの所有者でもあるのだ。

15.

しかし、私がすべての被造物の主であり所有者であるとはいえ、私自身の被造物を殺したり、誰かを傷つけたり、苦痛を与えたりすることはできない。それなのに、なぜ命の所有者でない者たちが、自分たちに属さないものを奪い取り、それを自由処分しようとするのか。

16.

人々がこの教えを理解するようになるとき、彼らは光の国において一歩前進したことになるだろう。そして、この世界は進化した魂たちの住処となるだろう。

17.
あなたがたは、この時が過ぎた後、再びこの艱難に遭うことなるかどうかを知らない。私は、かつては涙の谷であったこの地の領域を、別の時において目することなるだろう、すなわちその時を経験する者たちを、私は選出するのである。
18. かつて多くの苦しみの証であった海と山と野原は、やがて平和の地と変わり、あの地の世界を映し出すものとなるだろう。
19.
私は、戦いが終われば私の王国はであなたの身近にあり、その時、あなたの魂は幸福の中で憩うであろうと告げた。私の教えはすべての魂の糧であり、私は男を通して自らを現すであろう。（231、28-30）
20. 私は、人類の進歩のうちに高みへと昇る時を準備してきた。あなたの孫たちは、私がこの地に来ることを見るであろう。
21.
なぜなら、私がこの地の艱難としてあなたがたに授けた試しにおいて、私の意志は成就されなければならないからであり、高く、発展し、闘い抜いた魂たちがこの艱難からやって来る時が来るからだ。私の理性が光り輝き、私の律法の成就がそこに宿るであろう。（163, 44）

約束の地であり、天国の反映である地球

22.
罪によって冒され、犯罪によって穢れ、貪欲と憎しみによって穢されたこの地は、その清らかさを取り戻さなければならない。善と悪の絶えざる闘いであった人間の生活は、神の子らの住まい、すなわち平和、兄弟愛、理解、そして高貴な志の住まいとなるであろう。
しかし、この理想を達成するためには、人は精神性無知から目覚めさせる試練を経なければならない。（169, 14）
23.
私は、罪と憎しみ、悪徳の上に新しい世界を築くことはない。私は、刷新、経験、悔い改めという堅固な土台の上に築き上げ、あなたの中にあるすべてを変容させる。闇の中からこそ光が輝き出、死の中からこそ、私は命を創造する。
24.
人々がこの地を、冒涜したとしても――明日、彼らは善行によって、この地を清らかな住まいとするだろう。この地は約束の地として認められ、人々は高貴な使命を果たすためにそこへやって来る。そうすれば、もはや誰も世界の変容を妨げることができようか。（2, 44-45）
25. 私は今、聖霊の神殿を築いている。
しかし、これが完成すれば、集会所、巡礼地はもはや存在しなくなるか、あるいはその存在意義を失うことなるだろう。宗教的儀式や儀礼、伝統は同様である。その時、あなたがたの偉大さと私の偉大さを感じ、宇宙そのものを教会として、隣への愛を神聖なものとして認識するようになるだろう。
26.
母なる自然からは新たな啓示が湧き出るだろう。それは、あなたがたの科学を幸福の道へと導くであろう。なぜなら、科学は神の声である良心によって、正しい道へと導かれるからである。27.
脳はもはや世界の支配者ではなく、それを導き、啓発する霊の媒介者となるであろう。（126, 35-36）
28.
そうして世界が新たな解放を成し遂げ、エホバの光に導かれてこの真善美に満ちた生活へと入るとき、あなたがたは、この地において、この世が彼方で待受ける霊性生活の反映の目の当たりにするだろう。そして、永遠に、あなたがたの父の栄光と喜びを見出すことなるのだ。
29.
しかし、もしあなたがたがかつてイスラエルの民が構成した部族のように、すべての国からどのようにして一つの民として結ばれるのかと問うならば、私はこう言う。

心配することはない。すべての民が「贖い」へと導かれるとき、誰一人彼らをつまずかせることはないであろう。そしてそのときには、天から「新しい力」が、助けを必要とするすべての心に降り注ぐのだ。（160, 39）

30.

終末の地がイスラエルの民から遠ざけられるように、全地球も人類から遠ざけられることになる。これは、その時期が来たとき――清めが終わった後に――起こる。この清めが行われることが私の意志であるゆえに、そこには正義と平等が貫かれ、すべての人が共に一つの事業に取り組むことができるようになる。（154, 49）

31.

精神から生まれる道徳を持つ人類の進歩を想像してみてください。制限も国境もない人類を想像してみてください。地上のその子供たちに与えるすべての物質的な手段を、兄弟のようにわかち合う人類を。

32.

もし人間の科学が、互いの愛を基礎とし、もしそれが求める叡智を祈りを通して受け取るようになったら、その科学がどのようなものになるか、想像してみてください。

33.

人々が儀式的な礼拝形式に頼ることなく、その生き方を通して、愛と善行に満ち溢れる神の奉仕を私に捧げることは、私にとってどれほど喜ばしいことか、考えてみてほしい。

34.

これこそが、人々にとっての真の「生」となるであろう。なぜなら、その中において彼らは平安を吸い込み、自由を享受し、真実を含むもののみを目撃するからである。（115, 57-58）

35.

人の罪は消し去られ、万物は新しくなるであろう。清らかさと純潔に満ちたものがすべての被造物を覆い、新たな調和の人類を迎える。そしてその時、人の魂からは、主が長い間待望されていた、主への愛と賛美が湧き出るであろう。

36.

太古の昔からその子らによって言い尽くされてきた母なる地は、再び最も美しい被造の装いをまとい、人はもはやそれを「灰谷」とは呼ばず、血と涙の野と変えることもないであろう。

37.

この世界は、宇宙の真ん中にある小さな星のようなもの。そこから人々は、天の父への謙虚さと愛に満ち溢れた心の中で、自らの魂を無限へと高めていくであろう。

38.

わが子らは、わが律法の魂に、わが言葉の心を吹き込まれるであろう。かつて人類は悪を見出し、罪と喜びを見出していたとしても、その時は、善以外の理解を持たず、わが道に従うこと以上の喜びを知ることもなくなるであろう。

39.

しかし、それゆえに人間科学や知識全般、人類が谷や山々の頂上性生活を送るようになるとは思ってはならない。いや、人間は依然として、これまで私に育てさせ科学の恩恵を享受し続けるであろう。そして、その霊性が高まれば、その科学もまた高まるのである。

40.

しかし、世の終わりに近き人間たちの道のりをすべて終え、その中から最後の果実を摘み取るとき、かつては導いた自らの業の貧しさを悟るであろう。そして霊性を増し、それを通して、かつてないほど創造の喜びを体験するようになる。

霊感によって彼は導きと啓示を受け取り、その人生は、単純で、自然で、そして霊との同調となるであろう。その日が来るまでにはおよそ長い時間がかかるが、私の子供たちは、その日を見ることとなるであろう。（111, 12-14）

創造の完成

41.
わたしは大いなる普遍審判のために、わたしのすべての子供たちを集めるための準備をしている。わたしは完全さをもって裁きを行う。わたしの愛と憐れみが栄光をあらわす。その日、あなたがたはすべての悪から贖いと癒しを見出すだろう。

42.
今日、あなたがたが過ちを償うならば、改悛しなさい。そうしてこそ、あなたがたは、私が一人ひとりのために用意した遺産を私から受け取る準備が整うのである。（137, 6）

43.
わが愛は、すべての人とすべての世界をつつみ込む。わが前においては、人種、言語、部族の違いは消え去り、魂の発達における違いさえも消える。（60, 95）

44.
私の霊はすべての魂に降り注ぎ、私の来たる時の至るところにて、万物に定められた正しい軌道に乗るという私の命令を遂行している。やがて彼らが、その使命を果たしたとき、無は消え去り、悪はもはや存在せず、この惑星は喜びが満ちることとなる。（120, 47）

45.
わが子らが完成へと向かうすべての世界は、無限に広がる海のようだ。今日、あなたがたはまだ若く、未熟で過ぎないが、わが教えという水晶のように澄んだ水が決してかれることはなく、その水で潤されることによって、あなたがたはますます成長し愛を深めていくことを約束しよう。
やがて永遠の彼方のある日、木々が喜びに実をたわわに実らせる時、神聖なる園は、自らの愛と果実を味わうことで、その業に喜びを見出すことができるようになる。（114, 34）

46.
戦いの終わりに、私のすべての子供たちが永遠の霊性の絆でつながれるとき、あなたがた一人ひとりが、神の業を続け、あるいは回復させることにかかわったことへの報いとして、創造主である私の限りない幸せを分かち合うことを、私は望んでいる。

47.
霊的存在となって初めて、あなたがたは、私が太古の昔から創造してきたすべてのものの中で、失われたものは何一つなく、すべてが私の中で復活し、すべてが命を得て、新たに生まれ変わることを発見するだろう。

48.
したがって、これほど多くの年月が長く、多くの者が生み出す業のせいで、困難な行程を歩んできたとしても、彼らはやがて、その迷いの時は時間的なものに過ぎず、彼らの行いがどれほど悪かったとしても、永遠の命において償われ、彼らが私の御国の創造業の協力者へと変えられることを知るだろう。

49.
人類史上で経験したような数世紀にわたる混乱と、永遠ともいえる終わりなき無限の平和の時とを比べれば、何ほどのものだろうか。あなたがたは自由意志によって私から遠ざかり、良心の導きによって、私のもとへ戻ってくるだろう。（117, 17-20）

50. 私は、最初の星から、あなたがたの目にはほとんど捉えられない存在に至るまで、全被造物からの捧げ物を受け取った。

51. すべては神の法則に従い、すべてはその道をゆき、すべては前進し、すべては変化し、より高く、広く、深く発展し、完成へと至る。

52.
そして、それが完全性の頂に達したとき、私の霊性領域は、あらゆる点、あらゆる悲惨、苦しみ、そしてあらゆる不完全さが消え去った全宙に、果てしない夜明けの光のように広がるであろう。（154, 28）

回復された創造調和の賛歌

53. 私の霊の中には、まだ誰もその音を聞いたことのない賛美が存在する。天も地も、それを唱える者はない。

54. 痛み、悲惨、闇、そして罪が消え去れば、その歌は全宇宙に響き渡るだろう。
55. その神聖な音色はすべての魂に響き渡り、父と子は、この調和と至福の中で一つとなるであろう。（19, 13）
56.
わたしは勝利者としてあなたがの神の元へ立ち帰ろう。あなたがたは、あなたがの神の悪魔的な面の正しい姿を見よ。また、霊的な高潔さと、満足、魂の安らぎとして、自分自身を見てほしい。
57.
そうすれば、最大の勝利の際、すなわち、やがて訪れるその勝利の際、あなたがの父は、まあなたが自身も、愛によって『打ち負かされた者』がいることを悲しむことのない、その勝利の際、普遍的な調和の響きが聞こえてくるであろう。
58. 私たちの敵者となるのは我々ではない――それは悪であり、あらゆる闇、罪、そして不完全さである。
59. 父の勝利は、闇と悪を根絶やしにした、取り戻されたすべての魂の救済である。
60. 誰かが失われると信じるなら、それは誤りである。たった一つの魂でさえ救いを見出さないとしたら、私はもはや神ではない。
61.
あなたがが悪魔と呼ぶ者たちも、同様に神から生まれた魂であり、たとえ今日は迷っているとしても、彼らもまた救いを見出すだろう。
62.
いつ彼の神に真の光が宿るのか。それは、あなたがが光の霊的な導きと共に、祈りと愛と慈悲の行いをもって、彼の無知と罪に対峙する時である。
63.
主の偉大なる日は、あなたがの父であり、あなたがの完全な幸福となるであろう。あなたがが皆、その食卓で永遠の命のパンを口にする時、普遍的な喜びに満たされるであろう。（27, 47-48）
64.
あなたがたは私の栄光の創造であると、私は言わなかったか。それゆえ、あなたがたがそれを自分のものとし、それを享受するために必要なのは、功徳を積むことだけである。
65.
私が創造したすべてのものは、私のためではなく、私の子供たちのためであった。私が望むのは、ただあなたがの喜び、あなたがの永遠の至福だけである。（18, 60-61）
66.
存在、息吹を与え、有機体の命を与えたすべてのものは、再び私の元へ戻るであろう。世界を照らしたすべての光は、私の元へと帰し、創造の諸界に注がれたすべての美は、再び父の霊の中にあるであろう。
そして、再び私の中にあるが否や、その全ては霊的な本質へと変容し、主の子供たち、すなわちすべての霊的存在たちの上に注がれるであろう。
なぜなら、私はあなたがたと共に留まるから、決してあなたがたを創造から分けることはないからである。
67.
知恵、永遠の命、調和、無限の美、慈愛、これらすべて、そしてそれ以上のものが、主の子らの中に在ることとなる。彼が主と共に、完全なる場所に住まう時、そうなるのである。（18, 55-56）

XIV 宣教の使命

第9章 新しい神の啓示に関する使命

書物の製本、出版および翻訳に関する指示

1.
これは私が人類に語りかけねばならないと告げられていた時であり、私は私があなたに与えたこの言葉によって、私の声を聞かせるべく、書物を編集し、後にその抜粋を分析をし、それをあなたの同胞たちにも知らせることを望んでいる。(6, 52)

2.
私の言葉から一冊の本をまとめ、その真意を抽出し、私の教えの純粋さを真に理解するようになさい。伝達を通じて伝えられた言葉の中には誤りがあるかもしれないが、その真意は誤りはない。

3.
私の伝達者たちは常に準備が整っていたわけではない。それゆえ、私はあなたがたに表面的に読み流すだけでなく、その真意に深く入り込み、その完全性を発見するようにと告げたのだ。理解できるよう、祈り、瞑想せよ。(174, 30)

4.
私はこの言葉をあなたがたに伝え、あなたがたの言語に訳せ、後世の言語に翻訳し、すべての人に知らしめるよう、あなたがたに命じる。

5.
このようにして、あなたがたは真の「イエスの福音」を築き始めることとなる。それはすべての民を霊において結びつけ、すべての人々をイエスが「互いに愛し合いなさい」と語った時、この世でイエスの口から聞いた、その理由で変わり永遠の律法の下に結ぶものである。(34, 59-60)

6.
私の言葉が世界中に広がるべき書物として編集される際は、私から発せられたのと同じくらい純粋に、誤りのない形で届けられることを望む。

7.
もしあなたがたがそのようにしてそれを書物にするならば、そこから光輝と力が放たれ、その霊的意味はすべての人々によって感じられ、理解されるであろう。(19, 47-48)

8. わたしはあなたがたに、わたしが与えたのと同じ形で、それを同胞たちに伝えるよう、わたしの教えを命じる。
しかし、それを教える際に、決して激しい議論をしてはならない。知らないことについて判断を下すことは避けよ。だが、清らかな模範を示すだけで人々を霊性へと回心させるのに十分であることを理解せよ。(174, 66)

9. 多くの人が喜びをもって受け入れるであろう言葉を伝えるために、備えなさい。

10.
私が「多くの人々」と言い、「すべての人々」と言わないのは、神が最初の時代に啓示されたことや、キリストが人々に伝えたことで十分だと、あなたは言う者もいるかもしれないからだ。

11.
まさにそのような時こそ、わたしに動かされ霊感を受けたあなたがたの口は、不信な人々に、過去の時代に神から人々に与えられた全真理を認識するためには、新しい啓示が必要であると告げなければならない。(192, 67)

新しい神の御言葉を広める権利

12.
愛する兄弟よ、あなたがたは地の様な道と指針の必要がある。見よ、メキシコという国でさえ、多くの人がまだ私の業を認めていないのだから。

13. 見よ、霊的に貧しい者たちでありながら、私の名において働いていると宣言する者たちが、すでにこの世を徘徊している。

14.
しかし、わたしの神性から豊かな恵みを受けたあなたがた――あなたがたの使命は何であろうか。わたしの教えを広めることである。あなたがたは世から身を隠してはならないし、世が必要とする助けを拒んではならない。(341, 16)

15.
今、私はここで静かにあなた方を準備している。やがて、私の言葉がすべての人の心に届くよう、道を切り開くために、あなたがたからなければならない日が来るだろう。
16.
その時、世界は革命によって清められ、わたしの言葉はお互いの言葉としてではなく、心と魂で容易に理解し、感じ取ることができるものとして、人々に受け止められるようになるだろう。
17. 私は、真理と愛について語るこの書を、あなたがたに託す。あなたがたがそれを全人類に届けるためである。
18.
この地上に、この啓示を必要としないから、下に必要ない、と私に言えるような教えや宗教はない。どの民族が、名ばかりではなく、その愛と慈悲と赦しによって、真にキリストの教えであると主張できるだろうか。どの国がその霊性を証明できるだろうか。
世界のどの地域に、人々は互いに愛し合っているのか。どこで人々は実際にキリストの教えに従っているのか。（124、15-16）
19. このメッセージが完了すれば、私はもはやこれらの伝書を通して語ることはなく、その後、組織的な方法で現れるであろう。
20.
しかし、それを聞いた者たちの心を開き、新たな書物に記された私の言葉は、平和の種として、真の知識の光として、人の肉体と魂を苦しめるあらゆる悪に対する治療薬として、世界の諸民族諸国へと届けられるであろう。
21.
わが言葉は、わが使徒たちが望む時に人の心に届くのではなく、わが意志がそうあるべき時に届く。なぜなら、わが種を蒔き、そのために土を耕し、道を切り開くのは、他ならぬわた自身からである。そして、知恵をもって、適切な時に、諸民族、諸国、そして各家庭へとそれを届けるのも、他ならぬわた自身である。
22.
それは、人々がすでにそれを待望しているとき、すなわち、私の約束を思い出し、自己中心、傲慢、物質主義、虚栄という深い夢から目覚め、心が高揚しているときに、届くであろう。（15, 28-29）
23.
わたしは、わたしの民に、すべての国にわたしのメッセージを伝えるための預言者を与える。そして、その道のりで、善意の人々に出会えるよう導き、彼がわたしの啓示を地の果てまで運び広めるようにする。（23, 75）
24.
あなた方を通して、律法は新たな世代に再び知らしめられるであろう。それゆえ、私はあなた方に、準備しておかなければならないと告げたのである。なぜなら、あなた方は未来の道を整えるために来たからであり、そうしてこそ、将来の新たな世代からも、また人類全体からも、偽預言者が彼らの間から現れることもなくなるからである。
25.
イスラエルは、これらすべてを、おおいに世界に明らかにしなければならない。様々な世界観が生まれたこの時代には、宗教が宗教に対立し、教派同士が争い、また、あなた方を脅かすことになるだろう。
26.
しかし、あなたがたは平和の子であるから、彼らにこう告げなさい。「真理は『第二の聖書』の教えの中に含まれている。そこには、この時代に啓示され、来るという証がある。」
27. あなたがたは、人類にこの書物を示し、私の律法を全うすることによって、その真実を証しなさい。（48, 42 43）

霊の教えの普及に関する指示

28.
民よ、理解せよ。この第二の時において、あなたがたはこの神聖な啓示を目の当たりにした証として、このメッセージを忠実に、そして真実であるという責任を負っている。

あながたは、人類に福音を伝え、同胞たちに霊的な道を教えるために召され、選ばれたのである。それは、平和、真の光、そして物質に染み込む愛と導きの道である。（270, 10）

29.

恐れと心配を持ってください。人類に対するわたしの裁きは、あなた方ではなく、私の業、私の教えであり、それは救いのものだからです。あなたの任務は、言葉と行いをもって、人が完全性という崇高な目標に到達する方法を明かにするメッセージを伝えることです。（84, 11）

30.

聖域を築き上げなさい。そうすれば、私があなたがの神殿を築き上げ霊的な領域が、不信仰者たちによって破壊されることはないだろう。

31.

しかし、世界にこの真理を隠してはならない。あなたがたは、それを星の光の下で世に示さなければならない。それゆえ、私は繰り返し、あなたがたにこの種を守り、あなたがたとあなたがの子供たちが、この光を他の諸国民にもたらすようにと告げている。

私は、私のメッセージを他の様々な場所に届けるために、あなたがの良心が正しい道であると告げる時、あなたがたが適切と考える形を利用することを許す。この時代、私は愛するために地上の建造物を必要としない。

32.

あなたがたが、しかるべき形であれ、わたしについて語ったり、証をしたりする際に、臆病になってはならない。そうすれば、人々はわたしがあなたがたに現れたことを認めず、病める者、助けを必要とする者たちが勢いづき、癒され、その苦しみが和らげられたことを感じるだろう。彼らは、あなたがの信仰に火をつけるためにわたしが行う奇跡を否定するだろう。

33.

わたしは、あなたがたにわたしの教えの書物を残す。それは、あなたがたが世に向かって、「見よ、これが師の遺言として残されたものである」と告げるためである。まことに、わたしの言葉を聞くとき、どれほど多くの者が信じ、どれほど多くの罪が赦しとされるであろうか。

34. 人生における試練に不意をつかれないよう、これらの教えをすべて心に留めなさい。（246, 69-70）

35.

あなたがたは、どれほど多くの教え、どれほど多くの神の礼拝形式、そして霊的な生活や問題に関するどれほど多くの新しい考えに出会うことか。もしあなたがたがそれらを深く掘り下げ、判断する時間をとっていなければ、それぞれが、正義、愛、そして完全である真理からかけ離れた、誤った部分に、良き正しい部分を示してくれるだろう。

36.

あなたがたが誤り、無知、あるいは悪を見た場所では、私の教えの本質を探しなさい。それは私の教えであるがゆえに、不純なものや誤りと混ざり合うことは決してあってはならない。

37. 私の教えは絶対であり、包括であり、完全である。（268, 58-60）

38.

私はあなた方に言う。私があなた方に託したのと同じ熱意をもって、この種の真の信者たちは平和のうちにその道を歩むであろう。彼らの呼びかけに応えなかった国民は、彼らに敗れるであろう。そして、たとえ戦いを強いられることがあっても、彼らは決して戦いに敗れることはない。なぜなら、彼らの祖先があらゆる試練を乗り越えさせてくれるからである。

39.

それに対して、良心の声を無視し、わたしの言葉に従わず、わたしを裏切る者たちは、常に敵にさらされ、安らぎのない生活を送り、死の恐怖を抱くことになる。（252, 24-25）

40. 人々よ、世界中の戦争が終わる前に、たとえ今日、その方法が分からなくとも、わが愛の律法はすべての魂に響き渡るであろう。

41. この霊的なメッセージは、人々に同様に届くであろう。しかし、それはあなたがたが強くなった時に初めて起こる。

42.

もし確信がなければ、この業が真理であると口にする者を誰も信じないようにせよ。そうなれば、誰もあなたがを信じないだろう。しかし、もしあなたがの信仰が絶対であり、確信が真実であるならば、誰もあなたがすべての心に福音を伝えることを妨げることはできないだろう。（287, 52-53）

第10章 キリストの使徒による勧告

新しい弟子たちの必要な資質、美徳、能力

1.
この時に自分の使命を果たすための道を切り開くことは、あなたたちにとってどれほど困難に見えることか。しかし、私はあなたたちに言う。それは困難ではない。なぜなら、人類は私のメッセージを受け入れる準備ができているからだ。

2.
いつの時も、戦いに直面して弱い者たちは滅亡するが、強い者たちは、私の律法の掟がすべては打ち勝つことを示してきた。イスラエルよ、あなたの使命は常に新しいメッセージを全世界に告げ知らせることであった。それゆえ、あなたは常に、信仰を見出せるかどうか疑うことがあるのだ。

3.
しかし、心配するな。わたしがあなたたちに託した種を受け取り、それを蒔きなさい。あなたがたが不毛と思っていた畑の多くが、わたしの言葉の真理によって肥沃にされたとき、どれほど実り多いものになるか、やがてわかるだろう。

4.
自分は値しないと感じて、自分の務めを果たすことを怠ってはならない。まことに、あなたがたに告げる。使命を持ちながらそれを果たさない者は、故意に律法を冒涜する者と同じくらい、悪を犯しているのだ。

5.
父は最終的に、あなたがたに裁きをゆだねてはならない――あなたがたが行った悪事についても、また、行うべきことを怠ったことについても、どちらの過ちも、あなたがたの魂に苦しみをもたらすことだろう。

6.
わたしの教えを広め、人々にわたしの言葉を語り、愛の行いによって彼らを導き、わたしに立ち返るようにしなさい。そして、彼らは悔悛と共にやって来て、その心に信仰の光が灯ったとき、わたしは彼らを新しいイスラエルの民の子と呼ぶであろう。（6, 14-17）

7.
泥沼にいる私に救いの手を差し出し、同じ苦しみの中にいる隣人愛の生き方をしたあなたがたを、私は、私の教えに背く者たちを裁く権利を与えられた者たちの証として示すであろう。この模範はすべての人の心に広がっていくであろう。

8.
誰がわたしを証する者たちの仲間入りを望まないだろうか。しかし、まことに、あなたがたに告げる。もしあなたがたの行いからそのものでなければ、それは偽りの人生となり、あなたがたはしばしば偽善者（偽りの預言者）と呼ばれることになるだろう。そして、わたしはあなたがたがそのような目に遭うことを望まない。

9.
あなたがたは、現代において人を裁くことが非常に難しいことを知らなければならない。彼らの精神は見かけ上、たとえ物質的な生活の中で道に迷っていたとしても、あらゆる霊的現れに対して敏感である。しかし、もしあなたがたが隣人を裁くことができないのなら――果たして、あなたがたは人を裁くことができるだろうか？

10.
主の愛をあなたがたの内に宿しなさい。そうすれば、主があなたがたを教えてくださるように、あなたがたも教えることができる。そうすれば、あなたがたの心は人の間違いの鏡となるであろう。（5, 44-46）

11.
人を恐れてはならない。まことに、わたしはあなたがたに告げる。わたしはあなたがたの口を通して語り、あなたがたを通してわたしの言葉を

証。その響きは世界の果てまで、偉大な者たち、小さな者たち、統治者たち、利害者たち、そして特権者たちのもとへ届くであろう。（1, 37）

12.
改めて言っておくが、あなたがたは誘惑を恐れてはならない。だから、主があなたがたのところへ来られたことを、最も自然な態度で人々に告げなさい。

13.
十字架で死なれたのはイエスであったと彼らに告げなさい――キリストが身を隠したその肉体、すなわち『神の言葉』が宿り生まれた器であったと。しかし、神と愛であるキリストは生きており、御霊としてその子らのもとに来られ、彼らを霊的自己の霊的王国へと導く道を教えるのだと。（8, 62-63）

14.
諸宗教による誤った解釈を恐れるな。預言の書を手にしながらも、それを正しく解釈できず、それゆえわたしを待望することはなかったのは、彼らの方である。それに対し、聖霊としてのわたしの再臨を告げる証拠はなかったあなたがたは、わたしを待望していた。今や『第二の時代』が到来したが、人類は誰一人として正しく解釈することができなかった。（3, 26）

15. これまで物質主義の蔓延、精神が活動しているこの時代に、いかにして人類霊性を見出させるのでしょうか。

16. あなたがたの務めは困難であり、それを果たすためには、戦う場合、忍耐強くなければならないことを自覚しなさい。

17.
あなたがたは、私の教えに対してなされた誤った解釈、そして私の教えの純粋さが不完全であるという点を正すために、多大な努力をしなければならない。

18.
しかし、考えや教えを一瞬で変えることはできないことを心得なさい。それを実現するためには、忍耐と善意を備え、自らの行いによって愛の模範を示さなければならないのである。（126, 60）

19.
心ある者たちのみが、私のメッセージを広めるため、諸国や諸教会へ出かけていくことを許される。なぜなら、彼らこそが、この業の真実を証するにふさわしい唯一の存在となるからである。

20.
これら使徒たちが、彼を待望国へと招かれたとき、彼の心からあらゆる教義的信念は消え去っていなければならない。お世辞や称賛をおそれずに真理を教えていたばかりか、また彼が成し遂げた愛の業のために、この地上で自分の利益を得ようとしてはならない。

21. 彼らは報酬を受け取ってはならず、互いの愛と慰めを分かち合わなければならない。彼らは主であり、しもべでなければならない。

22.
あなたがたが真の謙虚さを理解するときがやって来る。その時、あなたがたは、しもべであることを理解した者は、実際に善行と慈悲を広めるという点において自由であり、その生において常に確実に導かれていたことを悟るであろう。（178, 11-12）

23.
あなたがたの魂が隣にわたしの教えを受け入れる準備を整えたとき、あなたがたはそれを感じるであろう、とわたしは告げる。なぜなら、それはあなたがたが自分自身を見出したときだからである。その時、あなたがたは良心の声をはっきりと聞くようになるであろう。あなたがたはそれが当たり前になる限り、あなたがたはわたしを真に感じることができないであろう。（169, 36）

24.
この言葉を注意深く聞き、その後、それを解釈し、人の心に届けなさい。理解するだけでは満足してはならない。それについて語り、模範を示し、行いを通して教えなさい。
敏感でありなさい。そうすれば、いつ語るべきか適切な瞬間か、そしていつ、あなたの行いがわたしの教えを証しすべきときが来たのかを悟ることができるでしょう。

25.
わたしは、わたしの言葉をあなたがたに、ただ一つの言葉をあなたがたに与える。その言葉は、すべての人に理解されるであろう霊性愛である。
26.
それは人の耳と心に心地よい言葉であり、彼が心の中に築き上げてきた偶像の塔を、石一つ一つ取り壊していくであろう。そして、すべての人の耳を満たすようになる時、わたしの裁きは終る。（238, 27-28）
27.
あなたがたが面と向かって初めて、私はあなたがたを世に送り出し、私のメッセージを伝えさせる。なぜなら、弟子たちの中に真の霊性が宿って初めて、彼らは私から受けたままの形でそれを伝えることができるようになるからである。（236, 38）
28.
私の教えは、あなたの想像や理解の範囲に限定されるものではないことを心得なさい。私の理念は聴覚には限界がない。私がそれを明らかにする前は、誰も私の答のどれかを知っていた、あるいは理解していたなどとは言えない。
29.
科学者たちが物質性の謎をもっと解明しようと試みる一方で、私は謙虚な者たちに、霊性生活すなわち真の生活を啓示する。そこには、存在するすべてのものの原因、根源、そして説明があるのだ。
30.
あなたがたが伝える言葉から、人が私の業について疑惑が生まれるであろう。理解の如何に多くの者は、あなたがたの地位を見て基づいて私の教えを判断するであろう。それは、第一の時代においてキリストであるイエスが、その姿かたちや見窄らしい衣によって、また彼が仕立てた粗末な衣服をしていたがために、判断されたのと同じである。
しかし、私は言明する。彼はぼろをまとっていたわけではなく、ただ私の教えによって魂の真の価値が何であるかを理解していたからこそ、この世の虚栄を拒んだのである。
31.
弟子たちよ、私はあなたに言う。人が私の業を疑い始めたら、あなたたちを訪ねて質問してきたとしても、私から受けた霊感に自分たちを優れていると思い込み、誇りに陥ってはならない。あなたがたが謙虚であればあるほど、彼らはあなたたちをより信頼できる者となすようになる。
32.
このようにして、狂信者まで、魂を救う光は、人から人へと広がっていくであろう。そして、キリスト教徒と名乗っていたが、実際にはそうではなかった者たちも、この光によってキリストの真の教えを正しく解釈するようになるであろう。なぜなら、それは彼らに、イエスの教えの中で語った霊性生活についての、心を高揚させるような概念を与えるからである。(226, 17-21)
33.
偽りの、あるいは見せかけだけの謙遜をして人のところへ行ってはならない。彼の魂は、彼の目を覆っている覆いは、とっくに落ちているからだ。
34.
彼らに霊性をもたらし、平和の棒で周囲に安らぎと癒しの雰囲気を作り出せば、彼らはあなたの言葉に耳を傾け、それを受け入れるようになるだろう。その言葉は、私の霊感が宿っているからだ。
35.
あなたがたが教え、平和を与えるならば、自らも平和を愛する者でありなさい。愛について語るならば、言葉で表現する前にまずそれを感じなさい。もし隣人が同様その実をあなたに差し出すなら、それを拒んではならない。あなたがたが知り得るすべてのことを弁え、彼の教えの中で許され、正しいとされるものに従いなさい。

36.
また宗教儀式において行なわれる儀式的行為によって理解を妨げてしまう人々に出会うだろう。その際は、忍耐強く彼らの誤りを正す助けをし、彼らが私の教えに深く没頭するときに、彼らの精神を導き得る何かを示すのだ。
37. あなたがたは彼らに、私の普遍的霊について、魂の死について、そして魂の永遠の発展について話すべきである。あなたがたは彼らに真の祈りすなわち霊の対話を教え、偏見や誤りから彼らを解放しなければならない。これこそが、私があなたがたに命じる業である――愛と癒しの業である。（77, 6-7）
38.
肉体の苦しみも魂の苦しみも、すべてを癒しなさい。なぜなら、あなたがたは隣人を癒す力を、癒すという使命があるからだ。しかし、私は問う。もしあなたが自身が病んでいるなら、どうして苦しむ人々に援助をもたらすことができようか。もしあなたの魂が心配事や苦しみ、良心の責めそして怪我や病気によって苛まれているなら、そこからどのような平安が流れ出ようか。
39. あなたがたの心の中に蓄えたものだけが隣人に差し出すことができるものとなるのだ。（98, 1-2）
40. 私はあなたがたの罪の中にあって、その影響を受けずに生きることを学び、その道を歩くことなく歩み、残酷で不道徳な行為を目の当たりにしても怒り駆られることなく、惨めさに満ちたこの世に生きながらもそこから逃げ出そうとはせず、むしろその中に留まり、苦しむ人々に可能な限りの善行を行い、あらゆる面において善の種を蒔くことを望むように。
41.
人間が罪によって地上の楽園を地獄へと変貌してしまった以上、人間は自らの涙を流し、それによって自らの魂に本来の清らかさを取り戻す必要がある。（107, 26-27）
42.
私は、悪の道から死んでいるような者を弟子として遣すことはない。なぜなら、彼らは与えるものが何もないからだ。私は、自分のことを利己的に満たしていないような者に、この使命を託すことはない。
43.
わたしの召命の使者はただそこにいるだけで、人々の心にわたしの平安を感じさせることができる。わたしの弟子でなければならない。彼は、人生で最も困難な瞬間にあっても、周囲の人々を慰める力を持たなければならず、その言葉から常に、魂と精神のあらゆる豊かさと、私から与えられているものでなければならない。(323, 60-61)

御言葉を伝える際の正しい在り方

44.
私の新しい弟子たちはこの祝福された活動のために多くの乗り方法を持つだろう。しかし、謙虚さと賢さを共に持たなければならない。なぜなら、私がそうしてあなたのところに来たように、あなたも同じ方法で人々の心や家庭、そして民族に近づかなければならないからだ。
そのようにして近づけば、あなたがたは霊的なメッセージの使者として認められ、その扉は真の霊に開かれ、そして祝福の実を結ぶであろう。（82, 66）
45.
あなたがたが人々の間で行なうべきかを尋ねたならば、あなたがたが初めて私の言葉を聞いたその日から、私があなたがたの間でしてきたことを見つめれば分かるだろう。
46.
私はあなたがたに、限りない慈しみと愛をもって近づき、日々の重荷からあなたがたを解き放った。私は、あなたがたの持ち物や身分、あるいはカーストを問うことに費やすことはなかった。私はあなたがたの罪という病を癒し、あなたがたの病を癒した。
47.
私は、あなたがたの欠点をよくわかり、理解し、寛容で、慈愛に満ちていた。私は、あなたがたに愛と教えを与え、隣人を救うことによって自ら救われる方法を与えることで、あなたがたを真の命へと導いた。

48.
私があなた方一人一人に対して行ったこれらの業の中に、肉体的・精神的に苦しむ人々、すなわち大挙してあなたの元へやって来る人々に対して適用すべき最良の模範を見出すことができる。
49.
私がここでの民に語りかける時、私は隣人に語りかけているのだ。あなたがの使命は、明日、人の心に寄り添い、救いの業を完成させる私の言葉を、慈愛をもって彼らに伝えることである。（J58, 21-24）
50. あなたがは謙虚でなければならない。侮辱されても気に病んではならない。柔和であれ。
人はあなた方に辛酸を嘗めさせるだろう。しかし、私のメッセージとなるあなた方の言葉は、彼の魂から追い出すことはできない。それゆえ、私はあなた方に言う。もしある人があなた方の呼びかけに対して無感覚で反応しなくても、そのかわりに、他の人々は長い眠りから目覚め、前進し、自分の近隣や親戚を回心の道へと導くために立ち上がるだろう。
51.
戦いに立ち向かうことができるよう、勇気と節度とを備えなさい。しかし、私はあなた方に言う。たとえ相手が立派な服装をしていたり、公爵や領主、あるいは王と呼ばれていたりするからといって、その人と訣別することに決して躊躇してはならない。
52.
世が「主」と呼ぶ者たちの前で声を上げ、パウロとペトロを模範としなさい。彼らは精神において偉大であったが、それでも誰に対しても自分たちが主であると宣言することなく、むしろ自分たちが僕であることを表明した。彼の模範に従い、あなたがの行いの愛によって、わたしの真理を証しなさい。（J31, 60-62）
53.
また、私の言葉を人として同胞を傷つけたり、ましてや彼を殺したりする者は、私の弟子とは名乗れないことを心得ておくように。同様に、この教えについて説教し、理解を広め、清貧を失う者もまた、信仰の種蒔く者とはなれない。
54.
準備の整った弟子とは、自分の信仰すなわち書の最も神聖な部分が攻撃されたときも、清貧保つことができる者である。なぜなら、その者は嵐の只中に立つ岩のような存在となるからである。（J2, 9-10）
55.
もしあなたがが罪人を善人と認めようとするなら、彼が悔い改めない場合は私を捨てなさい。私の力、あるいは権威を脅かすようなことはしてはならない。そうすれば、あなたは彼に私の教えに対する嫌悪感を植え付けてしまうことになるからだ。愛と慈悲と赦しそのものである真の神を示しなさい。（J43, 36）
56.
周囲の人々の嘲笑によって傷つくことのないようにしなさい。なぜなら、そうする者は無知にして真理を見分けることができないのだと、あなたがたはまさに言っているからである。その理由は、あなたがを探すためやって来て、私の真の弟子たち一人一人と出会うために必要な平安に驚嘆する人々の中に見出すことができるだろう。
57.
それに対し、あなたがたは、宗教的信念によって隔離生活をしている者たちを決して嘲笑してはならない。なぜなら、彼がとある独特な形の中で私を求めようとも、その形の中で私を探しているのだから。
58.
あなたがたは、人の誤りを正すために、その誤りを指摘する必要はない。むしろ、そうすることで彼の怒りを買い、その信念をさらに強めることになるだろう。人の誤りを真理の光でさらすには、私の教えを、それ相応の霊性をもって実践するだけで十分である。
59.
人類はまなく、わが言葉の霊的本質を認識し、それに対して真の崇敬を捧げることを学び、またあらゆる人種を、神おのおの霊的かつ他の兄弟として認識するようになることを望むならば、あなたがたは多くの苦痛と、大きな悲哀と、真の愛を必要とするだろう。（J12, 20-22）

60.
私は、無礼者呼ばわりした者の目から、その者に害を与えたり、侮辱したり、傷つけたりすることなく、曇りを取り除くことができることを、あなたに示した。
私は、あなたがたにはそのように動いてほしい。私は、愛、赦し、忍耐、寛容さが、厳しさや非難、あるいは最初の行動よりも大きな力を持つことを、あなたが自身を通して証明した。（172, 63）
61.
私の残した証拠を、あなたがたが私に従うために、もう一度示してほしい。福音を伝えるために人々を探し求めるなら、彼らに主を知ってもらうよう懇願してはならない。尊敬を持ってその使命を果たせ。そうすれば、あなたがたが言う者こそが、私の弟子とするために選ばれた者たちとなるだろう。（10, 50）

正しい宣教の方法

62.
私があなたがたに私の言葉を与えたのは、それを通じて私の栄光を宣伝するためではない。イエスは確かにそうしたが、彼はあらゆる質問に答える術を持っており、彼を試そうとする者たちを従順にさせることができたのだ。
63.
あなたがたはおそらく、弱い。それゆえ、周囲の人々の怒りを招いてはならない。注目を集めようと試みてはならない――自分たちに特別なものなど何もないのだと考えなさい。また、すべての人々が誤っており、自分たちだけが真理を知っていることを人々に証明しようと努めてはならない。そうすれば、あなたがたの時代、種々の祝福、実を得られないからである。
64. もしあなたがたが精神的に道徳的に成長したいと望むなら、同じ過ちを犯さないよう、周囲の人々の過ちを難じてはならない。自分の不完全さを正し、師に謙虚に祈り、その業は解き明され、善き業を共にしないという誘惑を心に留めなさい。そうすれば、右手が何をしたか、左手が決して知ることのないようにできる。
65.
また、私はあなたがたに言う。人々に私の教えを説くために、わざわざ人々を探し回る必要はない。なぜなら、私の聖霊が、助けを必要とする人々をあなたがたの元へと導いてくれるからである。
66.
しかし、もし私の律法を全うするために、隣人愛の行いをする必要を感じた時、身近に困っている人がいなくても、それゆえに悲しんだり、私の言葉を疑ったりしてはならない。
その時こそ、あなたがたは、不在の隣人のために祈るべき時である。あなたがたが真の信仰を持っているならば、彼らは私の聖霊を受けるであろう。
67.
兄弟たちよ、より多くを知ろうと努めてはならない。あなたがたは皆、それぞれの成長段階に応じた認識を得ているのだと理解せよ。もし私が、あなたがたに積極的にはかかわらず、私の光を与えたならば、あなたがたは自分自身こそ見よ、その虚栄によって盲目、その大嘘ばかりのものとなるだろう。
68. 私はあなたがたが謙虚であるのを見たい。しかし、私の前でそうあるためには、隣人に対してもそれを示さなければならない。
69.
弟子たちよ、愛と嘘は共に取り除かれることなく、一方はもう一方の補足要素である。なぜ、この二つの美徳を取り除こうとする者たちがいるのだろうか。両者は聖霊の宝庫の鍵であり、それによってのみ、あなたがたは私の教えを完全に理解することができるのだ。
70. 私はあなたがたに言った。「多くの友を持ちたいか？　それなら、親切、温かさ、寛容、そして慈悲を用いなさい。」
なぜなら、これらの美徳こそが愛の直接的な表現であり、それによってのみ、あなたの精神は隣人の道において進歩することができるからだ。精神はその最も内なる核に愛を秘めている。なぜなら、精神は聖なるものであり、神聖そのものだからである。（30, 29-36）

71.
今，私は，他の国々で奉仕および預言者としての使命を果すべき者たちに語りかける。私が彼らに託した使命を，彼らは，宗教団体や信者たちと対立することで，犠牲にしてはならない。
72.
あなたたちは，対立の慣習を持つ唯一の人々である。彼らは，それによって多くの人々の怒りを呼び起こし，それが後に憎しみと変わることで，私の教えをなんら助けていることに気づいていないのだ。（135, 28）
73. 私があなたがたの中に私の理念とメッセージを根付かせる時，それは，愛に満ちたメッセージとならなければならない。
しかし，それがこの類の憎悪に満ちた心と感情を与え，心を揺り動かすためには，私があなたがたに啓示した真理を知らなければならない。もしあなたがたが何かを隠し，何かを欺いているならば，第二の時における私の啓示が何であったかについて，真実の証をしたことにはならず，その結果，信仰を見出すことはできないだろう。（172, 62）
74.
私が人類に会うとき，その道徳的，精神的な標準はなんと大きいことか！この時，私の言葉の恵みと光を受け入れた者たちの責任はなんと大きいことか！
75.
弟子たちよ，自由な人々を恐怖から追い出し，無関心と怠慢を排除し，あなたがたが真実のメッセージの伝達者であることを知れ。
今この時代に生きているすべての事柄について説明すべきは，あなた方である。人類に対してしまった私の教えの誤った説明を明らかにするよう努めなければならないのは，あなたがたなのだ。
76.
あなたがたは，私が語った通りに，ただ私の言葉を人々に繰り返してはならない。それを説明できるよう，自分を訓練せよ。そうすれば，人々の心を感動させようとする言葉を求めてほしい。霊の真理を最もよく表すのは，素朴な言葉である。（189, 11-13）
77.
新しい弟子たちよ，この真理について説教はするな。恐れから私の言葉を口にできない，不潔な唇――汚れたその瞬間に，心は腐るだろう。
私の名において語られた一言が，罪人を救い，悪に身を売り渡した邪悪な者たちの道徳観を深く揺さぶることができる。あなたがたは，私の言葉を持っているか。あなたがたの権威を持っているか。
78.
模範となることによって語り，私があなた方に託した私の業のその部分に忠実な者となりなさい。残りの1986年は，私が成し遂げる。（169, 6）
79.
もし，あなたがの周りにある他の人々がキリストの御名と御言葉を教えているのを見ても，彼らを見下してはならない。なぜなら，第二の時代に私があなたがたにもたらした御言葉が全地に広まる時，私の再臨が起こると書かれているからである。
80.
しかし，私はあなたがたに言う。この世はまだそのメッセージを受け取っていない場所が依然として存在する。救い主御自身の御血によってあなたがたに与えられた神の愛の重荷を，彼らが先に受け取らなければ，今日の深遠な教えが，どうしてそれらの民に届くことができようか。（188, 44）
81.
一度真理を聞き，それを感じ取れば，たとえ最も厳しい試練にあっても，霊の主の証を失うことがいかに容易であるかを体験するだろう。できる限りのことをしなさい。なぜなら，私はあなたがたに，あなたがができる以上のことを求めることはないからである。そうすれば，あなたがたは次世代のために道を切り開いて行くことになる。
82. 私はあなたがたに子供たちを託し，彼らを正しい道へと導くよう命じる。彼らを集め，愛と謙遜をもって，私について語りなさい。

83.
疲れはてた者たち、すなわち、悲惨と悪の神に迷い、生きる者たちを救いなさい。あなたがの言葉が、あなたがの唇から発せられるとき、それが救いへの道となるよう、私はその言葉に霊性の力を与える。

84.
無知な者たちの前に真の命の書を差し出しなさい。そうすれば彼の魂は目覚め、聖霊の啓示に満ちこれで成長するだろう。あなたがの師に成りなさい。そうすれば、人はあなたがの言葉に耳を傾けるようになる。（64, 70）

85.
私は、道を見出した者たちが、その道をわかりやすく教え、同胞にとって歩みやすいものにすることを望む。多くの者がそうできるように、私を求める者たちが私のところに来ることを妨げるような、つまずきの石で道を塞いではならない。（99, 34）

86.
私は、あなたがスピリチュアリストたちに、人類神自の間に築き上げた障壁、すなわち、誤った信仰、物質に、そして形骸化した礼拝形式という壁を取り除くよう要求する。

87.
民よ、私はあなたに、人が彼らを崇拝している黄金の子牛をその座から引きずり下ろすという使命を与える。彼らは自分たちが偶像崇拝者から遠く離れていると自負しているにもかかわらず、そうしているのだ。（85, 54-55）

88.
人が霊性教えについて抱いている、あかもそれが無知と偏見、そして誤りに基づいているかのような誤った概念を取り除きなさい。私が教えをその純粋と崇高のすべてにおいて示しなさい。そうすれば、人が自の霊性自について考えることを妨げ、その行動の自由をすべて奪い去ってしまう無知と狂信、そして心の硬さを緩和することができるだろう。（87, 42）

89.
この啓示を受けたあなたがたは、人間の性を通して、人類に私の新しい啓示を宣伝えるために選ばれた者である。あなたがたは、誰がこの証をなすべきだろうか。

90.
もしあなたがたが、人類が教団の高位の聖職者たちからの福音を伝えることを期待しているなら、それは誤りである。まことに、わたしはあなたがたに告げる。たとえ彼らがイエスを見たとしても、人類に向かって見よ、そこにキリストがおられる、彼のもとへ行け、と口にすることはないだろう。（12, 13）

91.
私があなたがに語ったあの時代が、眠り込んではならない。そして初めてたちが、人々に今、あなたがの目の前にあるものは、すでに予言されていたのだ、と言うことなどあってはならない。

92.
いや、民よ、あなたがたは、それをあかじめ告げ、予言し、私があなたがたに約束したすべてのことが実現するための道を整えることが、絶対に必要である。そしてこそ、あなたがたは、地の霊たちの先駆者としての使命を果たしたことになるのだ。

93.
そして、世の中に奇跡や事象が現れはじめ、主の霊がかつて出来事を通してあなたがに語りかけ、そして人間の精神が想像できなかった驚異的なものを見始めたとき、あなたがたは、あらゆる事柄を理論、規範、
制度、そして学派の枠にはめようとするのを目撃することになるだろう。そしてその時、人類は一見賢く見える教えを広め、説いた者たちが正しかったと認めることになる。なぜなら、彼の言葉が実現したことで裏付けられるからである。

94.
その時、あなたがたは、地の諸霊が霊性教えに関心を持ち、神の者たちがキリストの教えを新しい啓示と比較するのを目にするでしょう。そして、これまで霊性事柄に無関心であった多くの人々が、現代および過去の時代の啓示の研究に興味を持つようになるのを見ることになるでしょう。（16, 16-17）

肉体的・精神的に苦しむ者たちを慰め、癒す使命

95.
わたしは、選ばれた者たちに大きな賜物を託した。その一つが癒しである――この賜物によって、人間社会における最も美しい務めの一つを果たすための癒しの香油である。なぜなら、あなたがの魂は愛の谷であり、そこには常に痛みがあるからだ。
96. この賜物をもって、あなたがは、私の御心に従って愛をもたらすための広大な野原にしている。
私との癒しのを、あなたの存在の中に、あなたの心の最も繊細な琴線に宿した。そしてあなたがそれに癒され、その奇跡の前に頭を垂れ、人の痛みによって心を柔らかくなり、常に隣人の道を歩んできた。
97.
これからも、この癒しの香油を与え続けなさい。それは、あなたの手の中にあるものではない。なぜなら、それは、思いやり、慰め、理解に満ちた眼差しによって伝えられ、善意によって受け継がれ、有益な言葉と変容するからである。
98.
癒しの賜物は限りない。あなたがたがその賜物に満たされていることを決して忘れるな。もし試練にさらされ、痛みを与えられることがあっても、もしこの業でそれを取り除くことができないとしても、私の教えを忘れず、自分の苦しみを忘れ、自分より大きな苦しみにある他の人のことを思いなさい。そうすれば、あなた自身と周囲の人の間に、奇跡を目撃することとなるだろう。（11, 18-19）
99.
人の心の中を見なさい。そこに秘められているもの、隠されているもの、そして彼が愛しているものを発見するためには、どれほど準備が必要だろうか！
100. わたしは、あなたがたに、魂を養い、癒し、光を与え、そして彼の向上への道を示すよう教えてきた。
101.
この言葉を聞き、それを心に留める者は、魂の偉大な医者、そして明晰な人となることができるだろう。その言葉の中に、光を必要とする周囲の人々の苦しみは慰めの贈り物を見出すこととなる。（94, 3-4）
102.
私は、あなたがたに一滴の癒しの香油を与える。それは、あなたがが選ばれたとき、人の間に奇跡的な癒しを行うためである。なぜなら、大流行の際、医学が知らない病が発生するとき、私の弟子たちの権能が明らかにされるべきだからである。
103.
わたしは、あなたがたに一つの鍵を与える。それによって、あなたがたは最も錆びついた錠前、すなわち最も頑なな心を開くことができる。さらには、無実の者に自由を与え、罪なき者のために、牢獄の門を開くことができるのだ。
104.
あなたがたは、どこへ行こうとも、わたしの天使たちによって守られるから、常に平安とわたしへの信頼のうちに生きるだろう。天使たちは、あなたがたの魂の城を自分の城とし、あなたがたを家でも病院でも、刑務所でも不和や戦争の現場でも、あなたがたがわたしの種を蒔くために向かうあらゆる場所で守るだろう。(260, 37-38)
105. 人々はやって来るだろう。その中には、科学と唯物論を体現する「トマス」もおり、探求するため鋭い眼差しを向けてくる。
そして、目だけでなく、手の指で触れて確かめようとする。なぜなら、そうして初めて、彼らの存在と、人類の間に次々と起こる霊性の出来事を信じることができるからだ。人々はそれらの出来事を証しなければならない。そうしてこそ、第二の時代のトマスは、その疑いと唯物論を乗り越え、私の愛を勝ち取ることができるのである。(319, 38)
106.
いつ働きかけるべきか、私はあなたがたに伺いを立てる。なぜなら、それは非常に大きな明確さの時となるからであり、あなたがは霊の呼び声と、この世の呼び声を聞くこととなるだろう。この世は、その出来事によって、あなたがの戦いの時が来たことを告げるのだ。私は霊から霊へとあなたがに語りかけ、その道を導いていく。

107.
しかし、あなたがたが父のところへ帰って、あるいは医者として出て行く前に、まず彼の痛みを取りのぞいてほしい。そうして初めて、彼はわが言葉という清らかな水の泉を飲むことができるのだ。まず腫瘍物、あるいは病を探し出し、その苦しみを癒してから、その後で彼の魂にはげみなさい。

108.
第二の時代のイエスのように、あなたがたの周りをよく行き、わたしの言葉の前に癒しの香油を携えてゆきなさい。しかし、その香油は何なのか、おお弟子たちよ。それは、祝福され、病のための薬へと変えられる泉の水のことだろうか。
いいえ、民よ。私があなたがたに話すその香油は、
あなたがたの心の中にある。私はそれを聖霊のエッセンスとしてそこに置き、愛こそがそれを絶えず、止まることなく流れさせるのだ。

109.
もしあなたがたが、ある病の上にそれをそそぎたいと願うなら、癒すのはあなたがたの手ではなく、愛と慈悲深さに満ちあふれた霊である、あなたがたの思いを向けるその場所で、奇跡は起こるのだ。

110.
自然界の要素に対しては、あらゆる者に恐れをもたらすために、様々な方法で働きかけることができる。しかし、私はこう言っておく。病を恐れてはならない。そして、すべての人に対して忍耐強く、慈悲深くあれ。

111.
悪霊に取りつかれた者や、人間の理性を失った者たちについても、同様に癒すことができる。なぜなら、あなたがたはその能力があり、絶望と忘却に陥った者たちのために、その力を用いるべきだからである。彼らを解放し、この権能を不信者たちの前で明かしなさい。
闇ある場所に光をもたらし、あらゆる鎖を不正をも打ち破り、この世界を変革し、真理を完全に悟って自らの運命を見出すように導くこと、それがこの民の偉大な使命の一つである。（39, 39-41）

世界的使命の出発の時

112.
現在、世界は盲目であり、真理の光を認識することも、その最も内なる核において私の呼びかけを聞くこともできないため、あなたがたは祈り、霊的な地盤固めをしなければならない。なぜなら、現在、すべての民族が破滅の準備が整えられているため、あなたがたの声は聞き入れられないだろうからである。

113. 絶望、憎しみ、恐怖、そして苦痛が極限に達した時、人はさらに盲目にならざるを得なくなるだろう。

114.
その時はまだ、私のメッセージを伝えるにはふさわしい時ではない。なぜなら、あなたがたは救い主の真の弟子のようであり、誰もあなたがたに耳を傾けないからである。（23, 27-29）

115.
地球は極から極へと震え、すべての国家、すべての社会制度、そしてすべての宗教はその根から揺れ、人類はあらゆる災害を先に流した後になって初めて、あなたがたは私の名において、私の教えを広めるために準備整えて出かけていくべきである。（42, 54）

116. 時が来たら、愛する民よ、立ち上がり、あなたの周りに私の聖なる言葉を携えなさい。
あなたがたは羊飼いとして世界中に送られ、私はあなたがたと共にこの新しい羊飼いたちを集めていく。第六の封印から放たれるこの光は、この時の始まりを示し、それによって秘密が明らかにされる。

117.
わたしの教えは他の国にも広まり、人々が新発見をしたすべてのことは、七つの封印がもたらすものによって明らかにされるであろう。しかし、あなたがたは、受け入れられるこの教えについて語り、人々がわたしの戒めを守るよう教え導かねばならない。（49, 43）

XV. 戒め、警告、教え

第1章 主の戒めと警告

戒めと使命

1.
イエスは、ただ世の約束を果すだけではいけない。律法は果たされねばならない。なぜなら、あなたがたはそれに対して預言者を受けたのであり、その遂行は厳格で、崇高で、霊的なものでなければならないからだ。

2.
わたしは、あなたがたが物質主義に陥り、狂信者や偶像崇拝者であることをやめるように、また、人の手によって作られた物質的な物を崇拝したり、それを崇拝の対象としたりしないように、あなたがたを教える。
私は、あなたがたの心に、偶像崇拝、狂信、そして誤った礼拝の根が残っていることを望まない。私のもとには届かない供物を私に捧げるな。私が求めるのは、あなたがたの魂と、霊生おける実りである。

3.
かつての習慣について自己省察し、過ちを振り返り、あなたがたが捨て去るものや、もはや行ってはならないことに目を向けねばならない。あなたがたは、光への道を歩み始めたのだということを理解し、立ち止まってはならない。
その道は狭く、あなたがたはそれをよく知っていなければならない。なぜなら、明日、あなたがたはその道を他の者たちを導かなければならないからであり、私はあなたがたが迷うことを望まないからだ。
4. 私は、あなたがたの悔い改めと善意を待つ。私の愛と憐れみを注ぎかける忍耐強い父である。（13, 60-63）

5.
わたしの言葉は、常に善と徳を勧めている。すなわち、隣の悪口を言って彼を悲しませてはならない。あなたがたが「伝染病」と呼ぶ病に苦しむ人々を避けて見てはならない。戦争を想像してはならない。
道徳を破り、悪徳を増長するような行為、職業、娯楽にふけること。しかるべき報酬を得ず、所有者の許可なく他人の物を持ち去らず、また迷信にとらわれないこと。

6.
病める者よ、あなたを悔いる者は、徳ある良き模範となるべきである。そして、私とあなたの隣を愛すべきである。この二つの戒めに、律法全体と預言者たちがかかっているからである。

7.
私の教えを学び、その行いを通してそれを教えなさい。もし学ばなければ、どうして私の教えを説くことができるだろうか。また、学んだことを心で感じなければ、どうして良き模範として教えることができるだろうか。（6, 25-26）

8.
人々よ、もし前進したのなら、あなたの中にある謙虚さを保ちなさい。もし偉くなったのなら、あなたの行いに私の偉大さを証明しなさい。もし自分自身を知ったのなら、私の言葉によって自己を深めなさい。

9.
愛する者よ、助けを与える私の言葉がいかに必要であるかを悟りなさい。しかし同時に、私が与えるものに対して責任感をもちなさい。なぜなら、世の中で助けを必要としているのはあなたがただけではないからだ。
この教えを読み、飢えている人々は数多くいる。だから、あなたがたは、私の愛のメッセージを彼らに届けるために、自己を準備しておくことを心掛けなければならない。（185, 50-51）

10.
この民が人類に対して負う責任は極めて大きい。真の霊性の模範を示さなければならない。内なる導きの実践、神に喜ばれる奉仕、神にささげられし礼拝をいかに捧げるかを示さなければならない。

11.
心を探り、そこで良心の声を聞かれ、そうして自分の行いを改めよ。私の教えを真に理解しているのか、それともあなたはまだ私の教えの真意を誤解しているのかを知りなさい。（80, 73）

12. あなたが私の教えを実践しなければ、その教えはすべての意味を失ってしまう。

13.
愛する弟子たちよ、あなたがたはよく知っているはずだ。私の律法と教えの目的は善を行うことである。それゆえ、それを単に記憶にとどめて留め、自分の行いに適用しない者は、義務に背く行為をしているのである。（69, 45）

14.
あなたがたは、心の中にこの人生の経験を、そして魂の中に、幾度もの他生における長く険しい旅を持っている。それなのに、なぜあなたの魂は、自分にとって無益にとも思われ、なぜその痛みを受ける価値もないような理由で、しばしば涙を流すのか。
あらゆるものの中に真理を求めなさい。真理はあらゆる道あり、白昼のように明らかに明瞭である。（121, 48-49）

15.
忘れることなく、常に心に留めておきなさい。あなたがたが人々に与える講話は、あなたがたの言葉と徳に満ち生き方にかかっているのだ。つまり、人はあなたがたの私生活までも探し、観察し、あなたがたが説く教えの確証を、あなたがたの行いの中に求めようとするのである。（300, 57）

16.
言ってみよ。あなたがたが過ちを犯したとき、私があなたがたを叱ったことがあるか。何かまずい振舞いをしたとき、私があなたがたを見捨て、置き去りにしたことがあるか。痛みと苦しみに倒れたとき、私があなたがたに厳しい顔を見せたことがあるか。

17.
それにもかかわらず、私はこれほど深く愛をもって「弟子」と呼ぶ者たちが、不幸に見舞われ困難を見舞い、正しい道から外れた者を嘲笑し、愛をもってその者を指導し改心するよう助けるかわりに、時には話すべきでない事柄に干渉して、裁き人となってしまうのを、私は見ている。

18. これが私の教えだろうか？
いいえ、とあなたの良心が私に告げている。なぜなら、私はあなたが自分自身を厳しく見つめ直し、感情や多くの荒々しい衝動を制し、私の弟子となる道を歩み始められるようにと願っているからだ。（168, 46）

信仰、希望、愛、謙遜の確信

19.
あなたがたが謙遜であれば偉大になろう。偉大さは多くの人が信じているような物質的な栄光の中にあるのではない。「心から柔和で謙遜である」と、私は常にあなたがたに言ってきた。

20.
わたしを父として認め、わたしを愛しなさい。自分の肉体のために、他の人より自分を際立たせるような虚栄心を持たないでください。ただ、他の人の中の一人の人間としてあり、心の中に善意を抱きなさい。（47, 54）

21.
私は、あなたがたの中に、第二の時代に私のもとに来た病人たち――麻痺した者、盲人、そして不治の病の女――が示したような信仰を見たいと願っている。私は父として愛され、医者として求められ、師として慕われることを望んでいる。（6, 46）

22.
信仰においても、希望においても、弱くなってはならない。この人生の旅の終わりが必ず来ることを常に心に留めておきなさい。あなたがたの

源、私があること、そして最終目的はまず私があることを忘れてはならない。その目的地はお父様である。なぜなら、魂は死なないからだ。

23.
永遠なるものの理想と、人生の浮き沈みの中で勇気を失ってはならない。これが地上での最後の年であるかどうか、お前たちは知っているか？
今日あなたがが持っているこの肉体の中で、私の証しに対して負うすべての責任を完遂できると、誰が断言できようか。それゆえ、私はあなたがたに言う。時を有効に活用せよ。しかし、性急に振る舞ってはならない。もしあなたがが信仰と愛をもって準備を受け入れ、忍耐をもってその時を待つならば――まことに、私はあなたがたに言う、あなたがの魂は決して無駄にはならない。

24.
霊の常に前進し続けるよう努めなさい。そうすれば、あなたがは決して、決して、自己を完成させることをやめることはないだろう。（D&C 95, 4-6）

25.
あなたがの兄弟姉妹である父の子供たちを愛することで、父のために生きなさい。そうすれば、不死を得ることになる。もしあなたがが利己主義に陥り、自己愛に閉じこもるならば、あなたがが残す種は、あなたがの記憶を長く残すことは難しいだろう。

26. 心から柔順で謙虚でありなさい。そうすれば、あなたがは常に私の恵みに満ちているであろう。（D&C 56, 72-73）

27.
あなたの試練は偉大である！しかし、悪い前兆に怯えてはならない。むしろ、近づきつつある輝かしい日は、人の目覚めと浄めのために必要であり、それなしには霊性の時代の祝福を経験することはできない、という考えに勇気を持ち、希望に満ちていなさい。

28.
逆境を乗り越えることを学びなさい。心が落ち込むことを許してはならず、健康に気を配りなさい。私について語り、信仰と希望に火をつける私の教えを彼らに示すことによって、兄弟姉妹に奉仕しなさい。

29.
多くの人がどれほど落ち込んで生きているかを見よ。彼らは、人生の闘いにおいて敗北を喫してしまった者たちである。彼らがどれほど早く老い、白髪となり、顔はやつれ、表情は憂鬱となっているかを見よ。しかし、強くなければならない者たちが弱ければ、若さは無駄に、子供たちは周囲に悲しみしか見出せなくなるだろう。

30.
民よ、たとえ硬いものであっても、あなたがが享受できる祝福と喜びを、自分の口から奪ってはならない。平和のうちにささやかなパンを食べなさい。まことに、あなたがは言う。そうすれば、そのパンはより美味しく、より栄養が豊かに感じられるだろう。

31.
私の言葉から、私があなたがたに求めているのは、確信、信仰、楽観、心の平安、そして強さであり、あなたがの境遇や災いにもかかわらず、あなたがの心に苦しみがあってはならない、ということを理解しなさい。もしあなたがの心が苦しみ、心配、あるいは不満で満ちていたならば、それを愛する人々に、どのような親切な振る舞いを与えることができようか。

32. まさに試練の中にあってこそ、あなたがは信仰、信頼、そして謙虚の最も偉大な模範を示すべきである。

33.
自分の人生にこの霊性を欠くことができる者は、常に平安を感じ、たとえ眠っているときでさえ、その眠りは穏やかで安らかなものである。魂はその肉体から離れ、あの世へと向かい、そこで確信、また肉体から与えられる、あの理解の光を受け取るのだ。(292, 45-51)

祈り、確信、警戒、刷新、そして霊に
34.
愛する弟子たちよ、私はもう一度言う。目を覚まし、祈りなさい。なぜなら、肉体は弱く、その弱さゆえに魂は正しい道から逸れることがあるからだ。
35.
「目覚める」ことを怠る者は、主が示された道から決して逸れることなく、その使命を成し遂げるまで、自分の違反行為を証明することができる。
36.
そのような人は警戒して生き、決して肉体に支配されることがないため、試練は打ち勝つだろう。目を覚まし、祈る者は、人生の危機に常に勝者として抜け出し、確かな足取りで人生の道を歩んでいく。
37.
祈り、そして「目覚めている」ことを求める者の振る舞いは、これほどまでに異なることか！彼は私が聞き慣れた最高の武器、すなわち信仰、愛、そして謙虚さによって自分を守ることを自ら進んで選んでいる。彼は直感、良心、そして夢を通して語りかける内なる声を聞き取れる者である。しかし、その人の心と理性はこの言葉を理解せず、自分の精神からのメッセージを信じようとしない。（Ps 78, 1-3）
38.
混乱した魂たちのために、地上に縛られた者たちのために、地獄のまだ内側から解放されることができない者たちのために、そして、彼のために地上に残された無垢な悲しみによって苦しみ、泣いている者たちのために祈りなさい。
39.
また、あなたがの心に悪意を持った者たちを赦し、もはや彼を裁いてはならない。もしあなたがの目が彼がどうなるかで懇願し、あなたがの赦しを請うことができるなら、あなたがは彼らに対してそれほど不公正にはなりなかったろう。
彼が無限の世界へと旅立てるよう、あなたの慈愛に満ちた思いやりによって彼を高め、彼がもはやこの世に属していないことを理解しなさい。（Ps 107, 15）
40.
自分の最初の行いに満足し、魂の完成のためにそれ以上努力する必要はないと思い込んではならない。しかし、日々新たな教訓を学び、より大きな喜びを見出すために、常に少しの時間を瞑想の研究に捧げなさい。
41. 知識を渇望する弟子は、常に自分の問いに対する答えを探し、試練の際に、常に私のなだめる声を耳にするだろう。
42.
進んだ弟子は、同胞にとって愛の源となるだろう。彼は父から真の慰めを受けたと実感し、人々の間で自分の偉大な霊的使命を果たすために立ち上がる準備ができるだろう。（Ps 80, 40-42）
43.
あなたがが私に完全になるまで、日ごとに私に近づいているようになる。あなたがは、救いまであと一歩なのか、それともまだ長い道のりを歩まなければならないのかわからないだろう。ただ、私の神聖な御霊の声であるこの言葉に、進んで従順に導かれるべきだと言われている。
44.
律法に背き、同じ過ちを繰り返し犯すことのないよう、気をつけなさい。この呼びかけを心に留めなさい。それは私からのものであり、あなたがのためにあなたがに託された願いである。なぜなら、私はあなたがが地上で無垢に生き、その後、あなたがの不滅の栄光を見たくはないからである。（Ps 22, 60）
45.
人の導きを恐れるな。むしろ、あなたがの神の導きを恐れよ。私は救い主として、あなたがと共にいることを思い起こせ。それゆえ、人生の道において何一つ欠けることがないように、常に私を求めて、神として求めよ。（Ps 44, 31）

46.
わが民よ、不意を突かれることのないようにせよ。常に警戒して生き、忠実な番人となれ。あなたがが誤っていることを納得させようと、自分の預言者たちを通して言葉を送ってはならない。

47.
堅く立ち続けなさい。なぜなら、わたしの真実な兵士たち――世界観、信仰告白、そして宗教活動の履歴時に立ち向かうあなたがのうちの少々――は、わたしがさき報を与えるからである。

48.
あなたがは、私の業を導くのと同じように、すべての国を導く。私再び、あなたがに残教を指示させなければならない。人があなたがを騙しても、そのままにしておきなさい。私の聖霊の光が彼らに届き、その時彼の心は悔い改めが生まれるからである。（36, 18）

49.
立ち止まってはならない。おお、弟子たちよ！私がいつも言ってきたように、あなたがの歩みは善と進歩の道にしっかり足を留まらなければならない。なぜなら、善のみが永遠の救い、徳と真実のみが、闇と死の道において闇を支え続けるような時が来るからだ。

50. 数千が倒れ、偽りと偽善と利己、あらゆる悪しき霊が、厳しい試練と転落、そして苦難によってその終焉を迎える日が近づいている。

51.
それゆえ、師はあなたがにこう告げる。善においてますます強くなれ！わが民よ、あなたがが行善に対して、悪を受けることは決してない、と確信せよ。もしあなたがが地上で行善に対して、悪しき実、悪しき報を受けるとしても、その悪しき実は一時的なものであり、最終的な実ではない、と私は真実をもって告げる。収穫の時まで、粘り強くあり続けなければならない。（32, 31）

啓示を受けた教会への警告

52. わが言葉を自分の都合に合わせて解釈する者は災いである。そのことについて彼はわたしに責任を負うことになるからだ。

53. 地上では父の愛の業における証人としての責任を自覚することなく、真理の証しに専念している者が多くいる。

54.
多くの者は自分たちが経験している出来事をどう解釈すべきかがわからず、この裁きの時を認識していない。が、裁きは多くの魂の中にあり、この世の領域において愛の律法の内におけるその行いについて、その者に説明を求めている。

55.
これらの書物において、霊によって与えられた私の啓示の真意を変えようとする者は、その行いについて私の前で責任を負うことになる。

56.
それゆえ、あなたがは謙虚に行動しなければならない。なぜなら、これらの教えは肉体に宿っているか、あるいは霊であろうとも、より詳細な教えを待望しているわが子たちへの、わが愛の遺産からである。（10, 12-14）

57.
イエスは、私はあなたの神々を見たくない！いつの日か、それは崩れ去るだろう。そしてその時、世界はこう言うだろう。「これが師の弟子たちなのか？もし彼が偽りの弟子であるならば、彼の神もまた、偽りの教えを広めようとした師もまた偽りだったということになる。」（44, 10）

58.
あなたがは、人の苦しみを顧みず、長い間、祈りの中で啓示を受けることなく過ごしてきた神を信じる者たちに、祈りを教えるという使命を持っている。

59. しかし、そのためには、日々ますます霊的になり、物質主義から自己を解放しなければならない。

60.
なぜなら、私はあなたがが過激なスピリチュアリストになることを望んでいないからだ。いや、そうではない。狂信的な目は悲しいも

のであり、私があなたがの中から排除しようとしているものはそれである。良心が、あなたがが対処調和して生きるべき方法を教えてくれるだろう。（44, 17-18）

61.

民よ、私の言葉を聞きなさい。弟子たちよ、耳を傾けなさい。私は今、あなたがに光をもたらし、鎖を緩め、そして闇からあなたがを救出している。しかし、私はあなたがに、この偉大な宗教改革といったようなイメージで満足したりすることを望んではいない――いや、決して！

62. 私があなたがに与える自由が何であるかを正確に理解し、それを新たな足かせに取り替えないようにしなさい。

63.

あなたがの人性、そしてそれとともに神の愛が閉ざされていたことに、まだ気づいていないのか。あなたがが真実をありのまま見る光を受け取れるように、私があなたがを救出した光から受け継いだ誤った恐怖観念の洪水を覚えていないのか。（97, 20-21）

64.

大地は、私の証人たちの到来を受け入れる準備を整えるだろう。ここで、あなたがは今度、これらの証人たちの責任について考えてみるべきである。

人類が言葉を話すことを禁じられた後、この民が新たな証人を送ることが、果たして正しいことだろうか？

いいえ、愛する弟子たちよ。だからこそ、あなたがの道のりの一歩一歩は、教えに基づいてあるのだ。（92, 44）

1950年以降の分裂の継続と偽りのキリストの降臨に対する警告

65.

私の特定の日以降、あなたがたはもはや私の言葉を聞くことはなくなるだろう。しかし、それはあなたがの精神の中に、あなたがの心の中に、そして書物に記されているであろう。

66. その後、自らを「再臨者」と称し、私の代理人であると自ら宣言する者は、自らに悲惨な終焉をもたらすのである。

67. 私は、あなたがが偽りの預言者、偽りの牧者、そして偽りのキリストたちに耳を傾けないよう、警告する。

私は、あなたがが時を得て話を聞き、闇の霊たちがあなたがの中に浸透するのを防ぐことができるよう、あなたがを目覚めさせる目を覚ましていなさい。なぜなら、もしあなたがが備えをしておかなければ、これらの教えについて、私に説明責任を問われることになるからだ。（29、40-41）

68.

これまでに、私がこの姿であなたがと共にいる最後の時期である。これを言いなさい。また、私がこの世に戻って、私の言葉が物質的に聞こえるようにすることなど決してない、と、ましてや人間になることなどないことも言いなさい。

69.

身構えなさい。私が戻ってきた、キリストが地上に来たと宣言する人々からの噂が、あなたがの耳に入るだろうから。その時は、忠実であり続けよ、確信を持ってこう言いなさい。「主は、すべての弟子たちの内に霊のうちにおられる。」

70.

しかし、もしあなたがが私にこの霊のうちになければ、私自身の言葉を撤回したことを否定することになるだろう。そして、神を冒涜し、不誠実者となって、人の群れの上に私の名を呼び下ろし、彼らにこう言うだろう。「私たち自身をささげたあの方に、これからも私たちに語りかけてくださるよう頼もう。我々は彼に我々の祈りに耳を傾けてくださるよう、彼と対話を保とう。」

71.

しかし、まことに、わたしはあなたがに告げる。わたしの光はもはや人間の人性には戻らない。なぜなら、わたしはあなたがの愚かさを増長することはないからだ。

72.

あなたがはお守りを持っているのか。見かけの光の言葉が、あなたがを惑わすことから、あなたの心をどう守るのか。なければ、その準備をしなさい。そうすれば、あなたがの偽預言者の中に、わが霊の光が降り注ぐであろう。

73.
私はあなたがたに告げる。もし1950年までに、これらの共同体が一つの民として結ばれなければ、まもなく混沌が支配することになるだろう。なぜなら、主が
においてご自身を現してくださる至福な者たちが現れるからである。そうすれば、その民は幸いなことになるだろう！あなたがたは、この約束をまだ感じていないのか？
74.
あなたがの間はいまだ兄弟愛と一致の精神が芽生えておらず、あなたがたは、出来事そのものがあなたがたを一つにするものと期待している。
しかし、もしあなたがたがそれを期待するなら、そのかわりに、疫病、混乱、戦争、そして自然力のまったく予期しない地震も、地中も、海にも、空にも、この世に今は場所が一つも残らなくなるほどの災害が起こることになるだろう。（146, 24-26）
75.
あなたがたは警戒をすべきである。そうすれば、あなたがたが集まるたびに――それがそれらの集会所であろうと、ご自宅であろうと、あるいは礼拝堂であろうと――その集まりにおいて、霊的な私の臨在を感じることになるだろう。
76.
しかし、警戒せよ。偽りの弟子たちが現れるだろう。彼らは、自分たちが父と直接話していると大胆に宣言し、誤った指示や霊をもたらす者たちである。
77. わたしは、あなたがたに、真実と虚偽を見分け、その実によって木を見分けるよう教えた。（160, 65-66）
78.
わたしは、多くの「スピリチュアリズム」が現れる時が来ることを、また、その時、どれが真実に基づき、どれが虚偽に基づいているかを見分けるよう、あなたがたは訓練されなければならないことを、あらかじめ告げておいた。
79.
あなたがたは、私に帰せられる偽りの宣言が現れるのを見ることになるだろう。世界へメッセージをもたらすという、神の使者の偽りの七つの封印の名を冠した宗派、そして多くの混乱した霊的教えが現れるだろう。
80. これらすべては、人類が招いた大きな霊的混乱の結果となるだろう。
しかし、心配するな。むしろ、目覚めが生きるようにしがなさい。そうすれば、あなたがたは霊的混乱に屈することはない。なぜなら、最終的に闇の瞬間において、わたしの言葉は、わたしの愛のように澄み切った永遠の真理をあなたがたに見せてくれるからである。（252, 15-17）

悪徳、偽善、堕落

81.
虚栄は、真理を完全に理解したと自負し、学識があり、強く、誤りなく、偉大で、絶対であると自らを誇り、しばしば誤りを犯していることに気づかない者たちの心に巣食っている。
82.
私は、これらの教えの光の下で形成されたばかりのこの民の中に、明日、虚栄心に惑わされて、自分たちがキリストの使徒であるとか、新しいメシアであるとか主張する人々が現れることを望まない。
83.
そのような行為をするのは、私の真理のすべてを理解したと思い込んでいる者たちであるが、実際は、キリストによって示された道、すなわち謙遜の道から遠ざかっているのである。
84. 地の上の塵を取り去りなさい。そうすれば、謙遜についての深い、忘れがたい教えを見出すだろう。（17, 3-6）
85. 最深かつ性質の異なる罪の一つは、偽善である。あなたがたが、隣の神を愛することができる限り、愛について大声で語るな。
86.
この掟を聞いた者たちのうち、どれほど多くの者が、自分たちの兄弟、偽りの兄弟の接吻をもって、背後で彼を裏切っていたことを忘れよ

うとしないことか!
困窮者に奉仕していると言う者たちのうち、どれほど多くの者が、金銭ずきに光、真理、慈善をけがしているのを私は見ていることか。
87.
なぜ、誰かが聞いてあなたちを誘惑するとき、ペトロが主の顔に唾したように、私を呪い、私をばかものと断言するのですか。なぜ、人間ではなく、私の業を恐れないのですか。
88.
しかし、まことに、わたしはあなたがたに告げる、神の正義、あなたの罪の間は、常にあなたのために存続する、あなたの天の父の裁きの執行が行なわれるのである。(5, 34)
89.
誰も、他人の行ないを裁く権利はない。なぜなら、清い者でさえそうしないのだから――それならば、心に汚れを持つ者が、どうしてそれを許されようか。
90.
私がこう言うのは、あなたがたが常に隣人の種子を探し、そこに欠点を見つけ出して、自分の種子よりも、自分の種子のほうが純粋で完全だと告げ口をしようとしているからだ。
91.
あなたがたの行ないが平和にかなうことを、人間の裁きは、天におられるあなたがたの父である、彼がその子供たちとして現れたとき、彼自身は、より多くを理解する者より小さく判断するのではなく、同じ兄弟であり、主の子であることを理解した者が判断することになる。(31, 55 57)
92.
学び、行動し、教え、その際、自分の行ないや言葉に留意し、その行ないによって私の教えを裏付けなさい。私自身の神なき論争を避けなさい。
もし、これほど多くの愛と献身をもって築かれたこの業が、あなたの生活における道徳、誠実さの欠如によって崩壊してしまったら、人類とあなた自身はどうなってしまうか、よく考えてみなさい。(65, 25)
93.
もはや、この世の楽しい事柄に心をかけてはならない。あなたの生活を通して、私はあなたの心に喜びと満足を与えていくのだから、あなたの生活を非の打ちどころのないものにするという理想に従いなさい。(11, 61)
94.
もし、あなたがの魂ある兄弟より肉体の方が優先され、私の教えの実践がおろそかにされるならば、あなたがたは悲惨なことになるだろう。
もしあなたがたが私の言葉を学び、深く瞑想することなく、それで私の意志を果たしていると思い込んでいるなら、私のほうからあなたがたを目覚めさせるだろう。
しかし、あなたがたが全き真理に至るとき、私があなたがたをこの世に遣わしたのは、善を行なうためであったことを思い出せるだろう。(5, 6)
95.
この時代、その名前と教師によって、私の霊性と生命を喜んで地上に遣わした子供たち、悪い手本を示している者たちよ、災いあれ!
あなたがたは、叫び声と騒音の中でイエスをゴルゴタへと導き、祝福を受けるだけの人をまるで殺人者のように殺すことが平気でできる、子供たちの心に恐怖を植えつける教師のようなものか。
96.
イエスが倒れるたびに、あの無垢な子供たちは泣いた。しかし、まことに、あなたがたに告げる、彼の涙は、肉よりもむしろ霊から発せられたものだった。彼のうち、どれほど多くの者が後に私に従い、私を愛したか。彼の無垢な目が見てきたあの場面の記憶が、彼の心から消し去られることはなかったのだ。(9, 50-51)

誤った悔い改めと誤った期待

97.
誤って理解された悔い改めを行うことは長くは、自分の本当に必要なものを奪ってはならない。それどころか、たとえそれが自分にとって犠牲を伴うとしても、本当に必要なものは避けるようにしなさい。これこそが、あなたの魂に役立つ悔い改めであり、それゆえこの上なく適切なものである。（5, 40）

98.
あなたがたはすでに、神を父として生まれたりはしていない。神は完全で欠けることのない愛に満ちた父として見ている。そして、神を父として見ることは良いことだと、私はあなたがたに告げる。

99.
それでもなお、あなたがたを悔い改めさせるために、私はこう言わなければならない。すなわち、あの昔の民のように、あなたがたもまた新たな過ちを犯す可能性があるということだ。その過ちとは、道徳的精神に自らを向上させようと努力しないこと、あるいは、父にとりわけ愛されるものであり、必ず赦してくださるという確信をもって、絶えず重罪を犯していることについて何の悔いもないことである。

100.
確かに、神は愛であり、どんな重い罪であっても、神が赦せないものなどない。しかし、あなたがたは、この神の愛から、容赦のない正義が湧き出ていることをはっきりと知っておくべきである。

101.
あなたがたが私の教えとして聞き受けたものが真理からなるものであり、あなたがたの中に存在するかもしれないあらゆる誤った考えを打ち砕くことができるよう、これらすべてを覚えておきなさい。

102.
父の愛はあなたがたを赦してはくれるが、赦しにもかかわらず、その汚れはあなたの魂に染み込んだままであり、あなたがたは償によってそれを洗い流さなければならないこと、そしてそうして初めて、あなたがたを赦してくださった愛ふさわしくなることを忘れてはならない。（3, 43-44）

103.
あるときあなたがたを目覚めさせたそれは、光と命の御国からあなたがたを招く、慈愛に満ち、慰めを与える声である。しかし、もしあなたがたが引き続き自分の魂を汚し、律法を無視することを選ぶならば、その声は正義と変わることもある。

104.
徹底して謙虚な者たちよ、私の言葉に耳を傾けよ。堅く立ち続けよ。そうすれば、あなたは私の恵みを多く受け、兄弟姉妹のために多くのことを成し遂げることとなるだろう。」

105.
愚かな者たちよ、わが声に耳を傾けよ。もしあなたがたが、この祝福された機会を利用して罪の汚れから、あなたがたが生きている無明の闇から逃げようとしないならば、あなたがその御国の中で何を失われたのか、また自己に安住して霊的に何をあなたが犠牲にすることになるか、時が過ぎていくのを見ることとなるだろう。

106. 確かに、すべての者にとって、自己を低くし、高ぶりと誇りとがなくなるふさわしい時がある。
しかし、それを延ばしにする者は、ああ、哀れな者だ！この地上の生涯に頭をもたげた魂に、魂の救いを与える機会を逃した者は、ああ、哀れな者だ！彼は、新たな機会を待つまでにどれほどの時が経つかを知らず、また、その償いの苦しみがどれほどのものかを知らないのだ。

107. そこには、父からのわずかな譴責も、最も軽やかな罰も存在しない。あるのは、父の厳格で容赦のない正義のみである。

108.
私が今、あなたがたの中に見ているこの時、あなたがたは、かつての機会をすでに逃したり、無駄にしたりしてはいないか、また、あなたがたの魂が、これまで与えられた使命を果たすための新たな機会を得るために、どれほどの時を待ち続けてきたかを知っているだろうか？

109. あなたの心や理性は、その魂の過去、その運命、負債、課題、そして贖罪について、何を知っているというのか。何も知らないのだ！

110.
それゆえ、あなたは規定を制定してはならず、また、この地上の愛によって魂を縛ってはならない。魂は、別の道、別の目標、別の理想に従わなければならない。（79, 16-19）

地上の諸国民を支配する者たちへの警告

111.
人々の心の中に、ついに慈悲と寛容の精神が芽生えなければ、彼らには災いがある！人々がついに自らの罪を完全に認識しなければ、彼らには災いがある！彼自身の手が、自然の力の怒りを招き、諸国民の上に苦難と苦悩の杯を注ごうとしているのだ。
たとえ自らの行いの結果をとして刈り取ることとなっても、なお「これは神罰だ」と言う者さえいるだろう。（57, 82）

112.
偶像崇拝と犯罪、そして無知の中に生きる民よ、災いあれ！彼らは私の光を見ることもできず、魂の目覚めがもたらす限りない至福を感じることもないだろう。

113.
確かに、私の教えは世界を震撼させるだろう。しかし、戦いが終われば、地上には真の平和が訪れるだろう――それは私の霊から発出する平和である。愚かな者、頑迷な者、そして頑なな者たちだけが、引き続き苦しむことになる。（72, 12-13）

114.
私は、戦争を始めようとする者たち――すなわち、人々の頑なな心の中に、自らを見よ。それは、私の意志が彼らの戦争意図より先に、このことを彼らに悟らせるためである。もし、そのような者たちの心が依然として頑なで、私の意志によって変えられないならば、私の正義は地上全体に感じられるようになるだろう。（40, 33）

115.
ノアの時代と同様に、人々は洪水を予期するだろう。そして、大地がすでに彼らの体を飲み込もうとしているのを感じたときになってはじめて、彼らは目覚め、悔い改めるのである。

116.
わたしの弟子たちは、あなたがたが戦争へと走るたびに、常にそれをやめようとしたが、あなたがたは決してわたしの言葉に耳を傾けようとしなかった。ソドムとゴモラもまた、恐れと悔い改めを感じ、滅ぼされるよう警告された。しかし、彼らはわたしの声に耳を傾けようとはせず、滅び去った。

117.
エルサレムに対しても、私は祈り、真の神の御手から逃れるよう促した。しかし、その邪悪で欲に満ちた心は、私が送った者たちを憎み、出来事を通して真理を悟らざるを得なかった。あの日は、エルサレムにとってなんと苦いものであったことか！

118.
さて、あなたがたは今もなおかつてと変わらないままであるという事実を悟るだろうか。なぜなら、あなたがたは成長し、私の言葉である恵みの道を歩んで高みへと登るために、霊的な力から抜け出そうとはしなかったからだ。

119.
わたしは諸教会の目を覚まし、警戒するために、預言として役立つこのメッセージをあなたがたすべてに送る。その内容を信じるなら、あなたがたは幸いである。

120.
その真意について熟考しなさい。しかし、その後、目を覚まし、祈りなさい。そうすれば、あなたがたが安全に至るまで、内なる光の導きにより高き力が守ってくれるだろう。（25, 73-77）

第2章 メキシコは召命の言葉

メキシコは召命の言葉

1.
弟子たちよ、内面に向き合い、かつてのように私の召命を感じなさい。この言葉があなたの命であり、運命の光であると認めたことを思い出してください。今日、私があなたに告げることを忘れないでください。あなたが必要なものは、時が来れば与えられるのです。

2. 信仰と確信が再び燃え上がるよう、ランプに新たな油を注ぎなさい。

3.
眠ってはならない。目を覚まし、祈りなさい。かつてのように、主があなたの生活に入られるとき、あなたが驚かせるかもしれないからだ。それは、あなたが最初の一歩一歩に私の臨在を感じていた、あの霊的な静寂に満ちた日々のように。

4.
そうすれば、あなたがたは、気づかないうちに照らすことをやめてしまったあの光が、再びあなたの人生を照らすのを見るだろう。そして、それは豊かさと喜びに満ちた未来の構築を、あなたと取り戻してくれるだろう。（4, 27-29）

5.
あなたの多くは、私が召命の性質を通じて告げ知らせた私の臨在を、また私の言葉を聞くためにしばしばその場に居合わせるため、自らをスピリチュアリストと呼んでいる。
しかし、私はあなたがたが、善を実践すること、人生の模範を示すこと、隣人への愛、そして真に実り豊かで価値ある生き方による神の奉仕を通じて、スピリチュアリストとなることを望んでいる。（69, 55）

6.
あるときは、彼が人生において偉大であるようにと、この世に謙虚さと立場を与えた。また、他のときは、王でありながらその一部を含む、貧しい者、病める者、罪びとたちと共にイエスが住まうようにと、豊かな家庭を与えた。

7.
社会的地位を含めて、隣人であるあなたがた、それが誰であれ、その奉仕と自己犠牲の精神は、愛の道を歩み、貧しく無価値な者の高みへと引き上げる者の模範と等しく偉大である。（101, 55-56）

8.
あなたがたは、なぜ私があなたがたのところに来たのかと問う。それは、あなたがたが、自分たちが生まれた理由と霊的な使命の道を忘れてしまったのを見るからである。しかし、私はその道を再びあなたがたに示す。

9.
その道こそが私の律法であり、それに従うことによって、魂は救いを得るであろう。私は、かつて私の教えをもってあなたがたに示した道と同じく狭き門を、今、あなたがたに示す。（9, 2-3）

10.
わたしに忠実なあなたがたは、霊的なわたしを受け入れる者たちのための道を整えるべきである。わたしの教えを受ける者たちがわたしの御前に導かれたのは偶然ではなかったのと同様に、人間の声の媒介を必要とせずに、わたしの
な臨在を感じるべき者たちの中に霊的な賜物を育てたのも偶然ではないのである。（80, 4）

11. わたしは、あなたがたを、真の霊性ある善を地上に広める者とするよう定めた。

12.
自分たちは無力で取るに足らない存在だと感じているのか。このような使命を自分の魂に負うには、自分たちは不向きだと考えているのか。その理由は、あなたがたが私の声に耳を傾けず、私自身の中で歩一歩歩いてきた教えの模範を、曇りのない心で観察してこなかったからである。

13.
太陽の光線がすべてを照らし出し、最も汚れた水たまりさえも、それを蒸発させ、大気中に昇らせ、浄化し、ついには雲と変え、その雲が地球を覆い、大地を肥沃にする雨となって降りそそぐのだ。（150, 51-53）
14.
ここに、私の前で、あなたの魂にあるあらゆる不純物を取り除き、それを放棄しなさい。恐れることはない。あなたが私に秘密を明かすわけではないのだから。私はあなた自身よりも、あなたをよく知っている。心の奥底から私に告白しなさい。私は誰よりもあなたを理解し、あなたの律法違反と罪を赦す。なぜなら、あなたを裁くことができるのは、私だけだからである。
15.
しかし、もしあなたが父と和解し、その内なる存在の中であなたの霊と交わる勝利の喜びを聞くならば、平安のうちに私の食卓に着き、私と共に意味に満ちた霊的な食べ物を食べ、飲みなさい。（89, 71）
16.
あなたの多くは苦悩と呪いの後に、喜びが私のところへやって来る。私は、それがあなたの苦悩に起因するものであることを考慮し、あなたの過ちを赦す。
17.
心を清めなさい。理解する能力を通して、私が今、あなたに話すことを悟りなさい、人の子たちよ。もし再び心が痛みに貫かれるのを感じたら、周囲のあらゆるものから少しの間離れ、一人になりなさい。
そこで寂しい親しみ深い場所で、自分の魂に語りかけ、その痛みを手に取り、あたかも何かの物体を手に取って調べるかのように、それを探求しなさい。
18.
このようにして、その悲しみを掘り下げ、それがどこから来て、なぜ生じたのかを見極めなさい。御霊の声を聞きなさい。まことに、あなたに告げる。その内省から、あなたの心のために、光と平安という宝が生じることになるだろう。
19. 光は、その痛みを取り除く方法をあなたに示し、平安は、試練が終わるまで耐え抜く力をあなたに与えるだろう。（86, 26-28）
20.
あなたがたは、精神にも肉体にも犠牲があるよう、引き裂かれなければならない。なぜなら、今日に至るまであなたがの中に病があるのは、霊性の目覚めと喜びの知識に、この人生の悲しみと苦痛を超越することができなかったからである。
21. 私の教えは、単に神の存在を信じることだけでなく、自分自身の存在を持つべきであることを教えている。（46, 40 41）
22.
今日、あなたがたは「神は我の内にいる」と言うが、それを感じ取り理解せずに言っている。なぜなら、あなたの物質があなたの本質および神の存在を感じ取ることを妨げているからだ。しかし、一度霊があなたの生活の一部となれば、あなたがたはすべての人の中に私の存在があるという真実を悟るだろう。
私の声をより明瞭に、内なる霊性の声が聞こえ、父の温もりが感じられるようになるだろう。（65, 57）
23. この教えは、善意の波と高貴な感情を生み出した、あなたがの心に。
24.
もしあなたがが、私心の扉に到着できるまで、多くの苦しみを伴い、涙を流したのなら――まことに、私はあなたがたに告げる。多くの苦しみを味わった者は、それによって同時に自分の過ちを償い、赦しを得るであろう。（9, 37-38）
25.
わが民よ、あなたがたは毎日、改めて心の中で主の愛を感じているが、それでも主はこうおっしゃっている。かつて、魂に重い罪を抱いて私の前に出た者は、赦しを得ることなく、永遠の滅びに至ることになる、と教えられてきた。
26.
しかし、どうしてあなたがたは、わたしの神聖な正義をそれほど恐ろしいものと捉えることができるのか。わたしがイエスを通して、最も深い

者たちに対してこそ、最優しい言葉と最も慈愛に満ちた眼差しを向けていたことを、気づかなかったのか。どうしてあなたが、この世での教えを終えたから、永遠においてはその反対のことをするだろうか。（27, 41）

27. 人生において苦しく困難な瞬間に、私の贖いと完全な律法がすべてを successfully という考えをもって、慰めを見出してください。

28.

私は、あなたがその痛みを通してなぐめるようにと、あなたの苦しみの杯にあった私は、あなたが願い求め、謙虚な心で他者を理解することを学ぶようにと、貧しさをもってあなたが富むようにと、

29.

私は、あなたがたにこの確信を与えなかった。それは信仰に堅く立ち続ける者は、明日のことを心配しない鳥たちのようであることをすすめてである。彼らは、私の臨在の象徴として夜明けの光が昇るのを見、目覚めるとすぐに、感謝の祈りとして、また信仰の証として、さえずりを天へと捧げるのである。(5, 55-57)

30.

時折、あなたがたは私にこう言う。「主よ、もし私がすべてを導き、何一つ欠けることがないならば、私はあなたの聖なる業に励み、慈善を行うでしょう。」しかし、あなたがたは間違っており、今、何不自由ないあなたがたの幸福は、もし私があなたがたの望むすべてを受け入れるならば、変わってしまうだろうということを知っておきなさい。

31. 神の子供たちに対する神の愛は、決して変わることのないものである。

32.

もし私があなたがたに豊かな恵みを与えるならば、あなたがたは滅びてしまうだろうと、私はあらかじめ知っている。なぜなら、私はあなたがたの決断と弱さを知っているからだ。（9, 55-57）

33.

私があなたがたに忍耐を教えるよう言ったとき、あなたがたは私の言葉を誤って解釈し、ついには、私があなたがたの喜びを見るよりも先に苦しむのを見るほうが喜ばれるのだと考えた。

34.

私はあなたがたの父である。それなのに、どうして私が、あなたがたが笑うのを見るよりも先に泣くのを見ることを好むなどと思うことができるのか。

35.

私があなたがたに忍耐を教えるよう言ったとき、私が意味したのは、魂を堅くせよ、身体を害するようなものを避けよ、ということだった。しかし、私は、あなたがたが精神的なものに、自分たちの手の届く範囲に、有益な満足を探すべきだと言う。（103, 27）

36.

あなたがたがこのように苦しむ時、私はあなたがたに私を信じるよう求めたことさえなかった。私が祈りによって、あなたがたの肉体の病を癒し、魂に安らぎを与え、あるいはあなたがたが手の届かないと思っていたものを与えることで証明したのはわたしであった。

37.

その後、あなたがたが私を信じ、信仰をもって私の律法の成就に加わったとき、私は一人ひとりにその役割を示した。それは、彼らが道から迷い出ることなく、自分にふさわしいものだけを受け、私があなたがたにしたように、兄弟姉妹を愛と慈しみをもって愛するためである。

38.

教えを説く者すべてが師であるとお考えか。神の僕と名乗る者すべてが、私の使徒であるとか、私が彼らにその務めを与えたとお考えか。世の中で召し、統治し、命令を下す者すべてが、その務めを果たすための必要な準備ができているとお考えか。いいえ、民よ！

真に召された使命を受けている者はいかに少ないことか！

ある者たちが、自分にふさわしくない地位を強引に奪い取る一方で、本来その地位に就くべき者たちは、脇へ追いやられ、後回しにされているのだ。（6, 36-37）

39.

誰かがこの教会において私の名を語ったとしても、私が傷つけられたなどと思ってはならない。なぜなら、私の真理は決して損なわれることはない

かげ。宇宙のあらゆる奇跡の創造主、聖霊が存在することを疑う人は数多くいるが、それにもかかわらず、太陽は彼らに光を注ぐことをやめないではないか。（8, 7）

40. 今日、あなたがたは、私の教えの光に、心と人生の扉を開いているというようなものをもって、私を驚かすつもりなのか。

41.

あなたがたは皆、沈黙している魂、そして肉体も、私の前では黙している。あなたがたは苦悩し、自分を卑めている。しかし、私は子供たちが私の前で自分を卑めることを望まない。私は、彼らが顔を伏せ、私の顔を見ないふさわしい者となることを望まない。なぜなら、私はしもべや奴隷を求めてはいないからだ。

私は、追放された者、見捨てられた者と感じるような被造物を求めてはいない。私は、深く愛する子供たちの元へやって来る。それは、彼らが父の声を聞くとき、その魂が霊的向上の道へと高められるためである。（130, 39-40）

42.

愛する弟子たちよ、私の業を続け、私の指示に従いなさい。そうすれば、それによってあなたがたは私について証をすることになる。

マリア、あなたがの慈愛で満ち溢れた母よ、あなたがの元へ降りて来て、あなたがを恵みで満たし、完全な愛を教え、あなたがの慈悲の泉へと変え、あなたがが隣人の中に偉大な愛の業を成し遂げ、真理を語ることができるようにする。彼女は私の弟子であり、師であり裁きてあるその言葉の傍らには、母であり、教育者である彼女の言葉がある。

民よ、彼女を愛し、その名を呼び求めなさい。まことに、わたしはあなたがたに告げる。マリアは、この誕生の日だけでなく、永遠に、あなたがたを見守り、支えてくれるのである。（60, 24）

43.

わたしはあなたがたを「マリアの民」と呼んだ。それは、あなたがたが神の子を愛し、認め、慈しみをもつ母のように、あるいは教育を求める弟子のように、彼の元へやって来ることを知っているからである。

44.

世におけるマリアの現存は、私が人々を愛していることの証である。彼女の清らかさは、あなたがたに明かされた天の奇跡である。彼女は私から地上に降りて、女となり、その胎内で神の種を宿えるようにした。それはイエスの体であり、それを通して御言葉が語れることになるのである。現代において、彼女は再び自分を見せている。（5, 9-10）

45.

人間の心は、彼女の霊的世界へ運ばれ、メッセージを聞かされる必要がある。そして、あなたがたが全き真理を知った後、彼女に捧げたあらゆる讃美が、利己的な喜びから消え去り、その代わりに霊的な愛が彼女に捧げられるべきである。（140, 43）

46.

ある者たちが私にこう言う。「主よ、なぜあなたを見ようと証する弟子たちのように、私たち全員があなたを見ることを許してくださらないのですか？」

47. ああ、見ることでしか信じられない弱き者たちよ！

愛と信仰と感性によって、あなたがの霊は神聖な本質を無限に完全に見通すにもかかわらず、なぜ視覚で人間の姿をしたイエスを見ることに、何の価値を見出すのか。

48.

霊性の欠如ゆえに、目に見える物質を持つ者たちを覚ますことは、あなたがたにとって悲しいことである。なぜなら、彼らが目にするものは、厳密に言えば聖なるものではなく、霊から彼ら語りかける象徴や寓話に過ぎないからである。

49. あなたがたは、自分の現実に満足し、受け取る証を探索し、常にその真意、光、教え、真理を求めなさい。（173、28-30）

50.

決して私の教えを変えてはならない。私の業を、純粋なままの一冊の本として残しなさい。そうすれば、あなたがたが歩み終える時、私はあなたがたを呼ぼう。

私はあなたがたの魂の羽には目を向けず、神聖なる力を与えるであろう。それは、あなたがたが約束の地に着いたとき、最大の報いとなるで

あろう。なぜなら、私はこの時に、あなたがたに福音の種をまいたのだ。それは、あなたがたが肥沃な畑に種をまき、そこでそれを蒔いていくことを学ぶためである。（5, 27）

51.
愛する民よ、自分の責任を怠るな。あなたがたが一日を無駄にすることは、この福音が開始の小屋のを一日遅らせることであるように留意なさい。また、あなたがたが一教会を失うことは、困窮している人々に差し出すことのできるパンが一つ減ることである。（21, 40）

52.
あなたがたはすでに、この木の果実の味を知っている。私は将来、あなたがたが偽預言者に惑わされないよう警告する。しかし、あなたがたは、隣人に対しても、私の教えの種を彼らに語ることによって、見張るべきである。

53.
書かれている通り、私の去った後、偽預言者たちが現れ、私の民に、自分たちは私の使者であり、私の名において、私があなたがたの間で成し遂げた業を継続するために来たのだと言うだろう。

54.
もしあなたがたが偽預言者の誘惑に陥ったり、あるいは私の教えに霊的実体のない言葉を混ぜたりすれば、ああ、あなたがたは悲惨なことになる。なぜなら、そうすればさまざまな混乱が生じるからだ！それゆえ、私は繰り返しあなたがたに言う。目を覚まし、祈りなさい。」（12, 46-47）

55.
もしあなたがたが備えをしなければ、暖炉の傍らであなたがたの耳元で囁く、あなたがたを惑わす声のように、あなたがたを惑わすだろう。そして後になって、あなたがたはそのことで苦しみを感じることになる。

56.
わたしがあなたがたに警戒を促すのは、これらの預言が終わった後、あなたがたがそれを再び受け入れようとはしないためである。なぜなら、現れるのは偽の霊であり、あなたがたが前に築き上げたものを破壊しようとする混乱の存在だからである。

57.
それに対して、備えをする者、すなわち、目立とうとするのではなく役に立とうとする者、出来事を急こうとするのではなく忍耐強く待つ者は、その内在の御霊、すなわち霊感、直感、
予感という形を通して、祈りの霊的洞察、そして霊的な夢によって、その精神に届くであろう。（7, 13-14）

58.
今日、あなたがたは恍惚とした状態に陥るこれらの声の伝達者たちを見つめている。そして、たとえ一部の者の言葉が偽りであろうとも、あなたがたはこれらの伝達者たちを通して私の教えが可能であると信じている。しかし、かつて人々が、私の弟子たちが平常の状態で神の教えを告げているのを見れば、彼らは彼らを笑うようになるだろう。

59.
あなたがたの教会の中でも、私は霊媒を立てて語っているのを聞いて疑う者たちが現れるだろう。そして、あなたがたは真理を見出すために、大きな混乱の時代を備えていなければならない。（16, 52-53）

60.
あなたがたが道において、その行いや考えが、わたしの教えに対して霊的無知を示している人々を見かけたとしても、動揺してはならない。なぜなら、すべての人が同じ段階に進んでいるわけではないことを知らなければならないからだ。時が来れば、彼を目覚めさせる言葉を、わたしはすでに彼のために残しているのだと理解なさい。

61. あなたがたが現在理解できないその言葉こそが、まさに彼には理解できるものとなるのだ。（104、42-43）

62.
狂信的にならずに、行動せよ。立ち上がり、あらゆる難局に対して、すべての国を導くことができる高みに身を置け。偽預言

63.
たとえその人が、未熟で不完全な神の礼拝を実践しているからといって、困っている人に善を行うことを躊躇してはならない。むしろ、あなたの無私の行いがその人の模範となるべきである。
64.
集団に関心をもって、それによって重荷を増やしてはならない。あらゆる魂にとっての光となり、あらゆる苦難における慰めとなれ。（60, 27）
65.
もしあなたが私の呼びかけに従ったために、周囲の人々があなたたちのことを笑うなら、耳を傾けず、悲嘆もするな。彼らは無知なのだ。しかし、もしあなたがこのことを理由にして彼らを裁こうとするなら、災いあれ。なぜなら、あなたがたはすでに神の光に照らされており、自分が何をしているかを知っているのだから。（141, 27）
66.
さて、わが民よ、すべての人があなたと同じように考え、信じることを求めてはならない。決して人を非難してはならない。また、あなたの宗教上の偏見が、あなたの隣人、教え、助言を受け入れない者に対して、裁きを下したり、罰を与えたりしてはならない。
あなたがたは、すべての同胞を、同じ深い敬意と、真の霊的隣人愛をもって見なければならない。
そうすれば、あなたがたは、誰かがそれぞれの宗教実践、教え、そしてそれによって、その霊的能力によって与えられた権利に応じた場所に到達していることを知ろう。そして、あなたがたが人々を見るその地点こそ、彼自身の最も適した場所なのだ。（130, 29）
67.
私は今、あなたがたに言う。あなたがたは誰よりも優れているわけではない。あなたがたが特別な民であるという考えは誤りである。なぜなら、すべての被造物に対する完全な愛をもって創造主は、誰をも特に優遇することはないからである。
68.
私がこう言うのは、明日、あなたがたの同胞たちに、この時代に私が伝えた教えを説くことになるからである。私は、あなたがたが後世の人々の前で高次の存在として映ることを望まないし、また、あなたがたが私と霊的に唯一の存在となるふさわしい功績を積むかのような印象を与えることも望まないのだ。69. あなたがたは、理解があり、謙虚で、賢く、気高く、慈悲深く、寛容でなければならない。
70.
あなたがたは強くあれ、しかし傲慢であってはならない。そうしてこそ、弱き者たちを導くことができる。もしあなたがたが私の教えについて深い知識を持っているとしても、決してその知識を誇ってはならない。そうしてこそ、あなたがたの隣にいる人々が、自分たちに劣っていると感じることがないのだ。（75, 17-19）
71.
ここ、私の働きの場にすら――私の教えを理解することなく、霊的賜物を受けたと自認しただけで、自分たちを非常に価値ある高次の存在と見なしていた者が、どれほど多くいることか。
これについて、私はあなたがたに問う。高次の霊が、その賜物を誇りに思うことを、あなたがたは是認できるだろうか。謙虚さと隣人愛こそが、その霊が備えていなければならない本質的な資質であるにもかかわらず。（98, 15）
72.
私がかつてこう言ったことを思い出してほしい。「私は、あなたがたを奇跡動物のような存在にするために創造したのではない」。私は、あなたがたが単に誰にも悪事を働かないということに満足することを望んでいない。私は、あなたがたが善を行ったことに満足を見出すことを望んでいる。
善行の能力があるにもかかわらずそれをしない者は、善行の能力がなく、自分には悪行うことができないと言い、それだけに留まる者よりも、さらに多くの悪行ったことになる。（153, 71）
73.
ああ、わが愛しき子らよ、迷える羊のように嘆き、恐怖の声をあげた御言を呼ぶ者たちよ！もしあなたがたが、自分たちを取り巻く現実の目

を背負うべきは、この地のあらゆる禁断の果実は私にあると思い込もうとするだろう。また他の人々は、私が彼の幸福や不幸に無関心であると言い逃れるだろう。

74.
あなたがたは、このようなことについて考えるとは、なんと恐ろしいことか。そして、わたしの完全なる正義を判断するあなたがたは、なんと不当なことか！

75.
あなたがたは、自分たちが苦しみだけを経験している、住んでいる世界は幸福のない世界であり、送っている人生には喜びや価値がない、とこぼすとき、私がそれを聞いていないと思うのか。

76.
あなたがたは、私があなたがたを慰めている、私があなたがたにあらゆる祝福を与えていると信じるときだけ、私を感じ、父の優しさと慈愛を感じてしまう。あなたがたは、その恵みを祝福するかわりに、自分の人生について嘆いているのだ。

77.
それは、あなたがたが真実の目を背け、周囲の苦しみと涙が見ず、すべての報われない絆を思い込みで修理し始めているからである。

78.
もし、この反抗無理やりに、毎日、まずわたしを祝福することを第一に考え、その愛のもたらす数多くの恵みに対して感謝の言葉から一日を始めるとしたら、あなたの生活はどれほど異なるものとなるだろうか。

79.
しかし、あなたがたはおおよそこれらの義務を感じることができない。なぜなら、肉があなたがたの支配し、あなたがたはわたしの教えを忘れてしまうからだ。それゆえ、わたしはあなたがたから追い出された霊について、あなたがたに語りかけるのである。（11, 4-9）

80.
あなたがたは罪を犯し、結婚の誓いを破り、犯罪を犯した。そして今、あなたがたの過ちを指摘するわたしの言葉の真理に直面すると、その過ちを忘れ、主が試練や贖罪について語るとき、主おひとりが正しいと言っている。（17, 33）

81.
愛する弟子たちよ、あなたがたは多くの試練にさらされてきた。あらゆる試練には秘密が隠されている。それが戦うために、あなたがたを強めるためなのか、あなたがたには何を理解させるためなのか、あるいは何かの過ちを償うためなのか、あなたがたにはわからない。しかし、決して試練から逃げ出してはならない。それらはそのような目的で送られたものではなく、また、それらはあなたがたの道徳あるいは精神性を向上させるものでもないからだ。（47, 26）

82.
なぜ、あなたの多くは、自分の運命が、試練や苦痛、罰あるいは幸運によって、わたしによって定められているのではないかと恐れるのか。あなたがたを完全に愛しておられるお方が、どうしてあなたがたに災いをもたらすなどという考えに、どうして至ることができるのか。
まことに、私はあなたに告げる。不吉で、運命の避けがたい道は、あなたがた自身の意志で選ぶ道である。その道は暗く、自由、至福、見出せると考え、真の平和、安全、力、健康、幸福、そして豊かさが存在する、まさにあなたに定められた道から遠ざかっていることに気づかないのだ。

83.
私が教えの中であなたがたに示すこの道こそ、あなたがたの魂が創造された時からあらかじめ定められていた道であり、その道の上で、あなたがたはついに達するものを見出すのだ。（83, 10-11）

84.
あなたがたは、まるで子供であるかのように不平を言い、自分たちを苦しめる試練が、自分たちの行いの結果であることを理解しない。それゆえ、それらがあなたがたに降りかかると、あなたがたはそれが去ることを願い、苦しまずに済むよう、もはや警告が確実にされずに済むよう、運命が変えることを望むのである。

85.
その理由は、あなたがたが霊的理解をもって理解を深く見通すことができず、あなたがたが取るものはすべて、あなたが自分で蒔いたものであり、あらゆる苦しみはあなたが自分で招いたものであることを理解できないからである。
86.
いいえ、あなたがたは真実を深く理解することが一度もなかった。それゆえ、痛みが心に突き刺さると、自分たちを神の不正の犠牲者と考える。しかし、私はあなたがたに告げる、神の中にほんのわずかな不正さえも存在し得ないのだ。
87.
神の愛は変わり易さがなく、永遠である。それゆえ、神聖な霊的怒りが憤りと激怒に駆られることがあると信じる者は、大きな誤りに陥っている。そのような考えは、魂の成熟と徳を欠いた人間性においてのみ、想像し得るものである。
88.
時折、あなたがたは私にこう言う。「主よ、なぜ私たちは自分たちのものではない行いの結果を『償わなければならない』のですか。なぜ他者が生み出した苦しみを味わわなければならないのですか？」――それに対し、私はこう答える。あなたがたは、かつて自分が何者であったか、また自分が何であったかを知らないゆえに、そのことを理解していないのだと。（190, 9-12）
89.
愛する民よ、あなたがたは、この第三の時代においてわたしの弟子であるという考えに心満たされている。しかし、わたしはあなたがたに告げる、決して誤った慰めに満たされてはならない。もしあなたがたが自分の弱さに気付けば、自分の良心が過ちを犯しても、もはやそれに耳を傾けることはできなくなるだろう。
人間としての生活を清め、高められていない者は、霊に向けることを期待することはできない。なぜなら、その歩みは誤った方向へと導かれ、その行いには真理の種が宿っていないからである。
90.
だから、私が教えの中で、時には霊的な指導の現実へと降りてくるのは、あなたがたが人間としての生活において正しく振る舞うようにするためであることを心に留めておきなさい。その時、私はあなたの心に語りかけ、同時に、悪の実体を与えると、それが魂及び悪を増幅させるのだ。
91.
私は、悪意に満たされる人間は、精神まで貧しくされてはならないということを忘れてしまうのだと、また、真の強さは徳によって悪を克服することであるということを忘れてしまうのだと、あなたがたに語った。
92.
肉欲に打ち負かされたその人は、自己を失い、自尊心を傷つけ、人間としての高貴な地位から、戦う勇気さえ持たない哀れな存在へと堕ちてしまった。
93.
その男は、家庭に光とパンとワインをもたらすかわりに、影と苦しみと死をもたらし、自身と妻、そして子供たちの十字架を重くし、周囲のすべての人々の魂の成長の道を妨げている。（312, 32-35）
94.
思い違いをする者は、その一人ひとりが、悪のかたまりの一部分のように作用することを理解せよ。また、その行い、言葉、そして思いにおいて正しい人生は、その人自身と同様に、神聖なものであること、神聖な心から発せられる現実は、奇跡をもたらすものであること、また、思いやりと愛に満ちた思いから生まれた祈りは、あなたがたが祈る相手にとって光のメッセージとなるのだ。（108, 16）
95.
ここ、私の元であなたがたはあらゆる安らぎを得ている。ああ、もしあなたがたが、生活を通してこの清らかさを保つことができるなら！しかし、あなたがたがこの交わりと教えの時間を作り出している、この霊性と神聖の雰囲気は、世には存在しない。あなたがたが吸っている空気は、罪によって毒されている。

96.
しかし、あなたがたは、わたしの教えを自分のものにすることで、世と縛り付けていた鎖が一環また一環と、徐々に自分から外れていくのを感じたはずだ。（6, 26-27）
97.
常に警戒して生きなさい。なぜなら、あなたがの道は、自分たちこそ私のものであると言う者たちが現れるだろうから。しかし、彼らを最初の瞬間から見るのではなく、彼らが示す結果で知れ。そして愛によって信じるようになさい。
98.
他の人々は、自分たちが私とつながっているとあなたに言うだろうが、彼らは最も先に欺かれる者たちである。それゆえ、あなたがは、自分たちが圧倒的と、自分たちが安全な場所にいて、常に警戒しなければならない。目と耳を開き、また多くのことを学ばなければならない。（12, 55-56）
99.
行動せよ、眠ってはいけない！それとも、眠っている間に強盗が襲ってくるのを待つつもりなのか？再び偽教師に騙されるつもりなのか？異端教えが、最も恐ろしい形によって広まるのを待っているのか？
100.
目を覚ましていなさい。東から偽預言者たちが現れ、詐欺を働くからだ。団結し、その声が全世界に響き渡り、人類は皆、得体の知れない獣のようになさい。（61, 25）
101.
人類は大きな試練を受けている。あらゆる苦痛と災難の際も、目を覚まし、祈り続けよ。多くの苦しみは和らげられ、また祈る者たちによってその進路は阻まれるため、他の苦しみは起こらないだろう。
102.
他の宗教の信者たちが、この民と多くの人々が従っているのを見れば、それらの宗教の中から、あなたを迫害する者たちが立ち上がるだろう。しかし恐れることはない。あなたがが清められれば、聖霊があなたの唇を通して、あなたを中傷する者たちを黙らせるからである。
103.
わたしは、あなたがを守るために、人を犠牲を与えるのではない。愛を与えるのだ。その愛から放たれる光の閃きの一つ一つが、そこから発せられる義となるだろう。
104.
もしあなたがが、言葉によって私の業を証する者たちの群れを得ず、愛の行いによって彼らを火と剣と、私のもとへ導くならば、父のもとでどれほどの恵みを見出すことか。
105. これこそが、私が「第二の時代」にあなたがたに与えた教えであり、あなたがたはすでにそれを忘れてしまっていたのだ。
106.
三位一体・マリアの霊的教義を理解しようとするとき、人間の理性は混乱を覚えるだろう。なぜなら、物質にされた人間は、霊的なものに対して不適切だからである。（5, 58-63）
107.
私の食卓に、私がこれほど多くの愛をもって差し出した料理に、手もつけず残した者はこれほど多いことか。彼が、私の召命を聞くために立ち止まることが許された、今のような恵みの時を、いつ再び経験できるというのか。
108.
彼らは、岩のようなものであり、風雨にさらされ、時間がかかってようやくなくなる必要がある。彼らがそれを守り、大切にすることを学ぶ限り、その遺産は彼から奪われるだろう。しかし、彼らは再びそれを手にすることになる。なぜなら、父が子供たちに与えるものは、決して彼から奪われることはなく、ただ彼のために保管されているだけだと、私はあなたがたに告げるからである。（48, 8）

109.
あなたがのうちの幾人かは私の教えによって変容し、備えられ、砂漠で道に迷う者たちを探し求めるようになるであろう。なぜなら、私は人間の姿をまさに模して見ているからである。
何人かは何百年もの孤独でありながら孤独を感じ、喉の渇きに苦しんでいるが、彼らの水を差し出す者はいない。私は、そこに私の新しい使徒たちを遣す。
110.
私はある者たちには愛をもって私の名を語れ、またある者たちには憐れみをもって聞かれることを望む。私は、私の名を知らない者たちも、それが知れることを望む。
私の存在を知らない人々――老人、女性、子供たちがいる。私はすべての人が私を知り、私にその最も純粋で満ち足りた愛を注いでもらいたい――すべての人が私の声を聞き、私を愛してくれることを望んでいる。（10, 3）
111.
私の言葉は、あなたの利己主義にぶつかった。それゆえ、私はあなたに、私が授けるものを、あなた自身の小さな世界の中にとどめておきたいと告げたのだ。しかし、あなたは、他者に対する義務を負うことなく、ただ私の啓示を見たがっていただけである。
112.
しかし、師は、無益な教えを授けるためにあなたを呼び寄せたのではない。師は、この神聖な教えを学び、後の人生において、それを隣人に適用することで役立てるようにと、あなたに告げたのである。
113.
今この瞬間、私はあなたに告げる。あなたの罪は、苦しみや困難、あるいは嘆きであなたの元にやってくるすべての人々に対して、古くからの負債を負っているのだ。私がどれほどの愛をもって彼をあなたの道に置いているかをよく考えよ。そして、彼をあなたの実践的隣人愛の対象とすることで、その償いを果たすのだ。（6, 20）
114. 痛みのあるときに、自分の過ちと利己の報いを受けるために地上に戻らなければならないことのないよう、これを果たしなさい。その償いを果たしなさい。そうすれば、あなたは速やかに再び戻ってくることになるが、それは耳の時代であり、かつてのように種蒔きながら、心身をリフレッシュするためである。今や、あなたが働くためにエーテルが発明されることはない。最初の時代に彼がそうしたように、あなたを導くのは、あなたの良心である。（13. 17）
115.
ここには、かつて律法学者であった者たちが多くいる。今、彼の本性と霊性を識別することに目覚め、限られた人間の知識の中に最高の真理を見出せないことを確信している。
116.
かつてこの地において権力者や富豪であった者たちがここにいて、今、貧困にあえいでいる。私は、彼の服従と全き献身の過ぎ去りに彼を祝福する。これは私の愛に満ちた正義である。なぜなら、私は彼らに永遠の命の真のもう一つの側面を示すために、彼を再びこの地に来させたからである。(96, 16-17)
117.
この世は、あなたに多くの喜びをもたらす。その中には、私があなたのために創り出したものもある。今、あなたはそれを得ることができたことを感謝し、ある者には試練を、またある者には悲しみをもたらした。
118.
私はあなたに告げなければならない。この時代、多くの人は、肉の満足に溺れて眠りにつくことも、それに溺れて滅びることもできていない。なぜなら、彼の魂は全く異なるものだからである。
119.
真実を言おう。人類の中に、あらゆる悪徳にも、あらゆる罪にも染まったことのない魂など一つとして存在しないのだ。今日、あなたの魂は、私を愛する自由を享受するためにこの地に来たのであり、再び世界や金、肉欲、あるいは悪業の奴隷となるためではないのだ。（4, 47）

120.
理想のために命を捧げる人々、民族、国家を見よ。彼らは義という理念で満たされながら、世界の未来、所有物、権力を夢見ている。彼らはこの地獄、名声のために死んでいくのだ。
121.
しかし、あなたの魂の中で、永遠に続く救いを得ることを目標とする聖なる理想に火をつけなさい。あなたは、たとえ命のものではなくても、少なくともその部分は、同胞としての義務果たそうとはしないのか。
122.
あなたの頭では、準備の整った者だけが感じうる、目に見えない戦いの渦巻きを感じている。人の思考、言葉、行いから発せられるあらゆる悪、何世紀にもわたるあらゆる罪、混乱しているすべての人間に来世の魂、あらゆる迷い、不義、人の苦悩の狂気に満ちた果実、愚かで野蛮な望み、そして偽りがすべて溶け、占領し、浸透して、それを私に対して向けさせる力として結集した。これこそがキリストに立ち向かう力である。
、その軍隊は巨大であり、その武器は強力であるが、彼が救いを約束するのは私に対してではなく、人間に対してである。
123.
私は正義の剣をもってこの軍隊と戦え、その戦いにおいて私の軍隊と共にいる。あなたがたは、私の意志により、その軍隊の一員となるべきである。
124.
この戦いが快楽を追い求める人々を不安にさせる方で、来世で何が起きているかを感じるという理由で逃げたあなたがたは、兄弟たちのために祈り祈らなければならない。そうすることで、あなたがたは自分自身を救うことになるのだ。
125.
主なる神キリストはすでにその斧を持っている。その斧が、鎌のように悪の根元を断ち切り、その光線で罪人を生かすことは必要不可欠である。
126.
もしあなたがの目が濁りなら、世界も、そしてあなたがも暗くなることになるだろう。あなたがたはこの霊性の系統であり、わたしは彼に、あなたがたを通して他の者達が救われ、祝福されると約束した。わたしはあなたがたを一つの家族として結び合せ、あなたがたが強くなるようにした。（84, 55-57）
127.
私はこの民族において偉大な業が成し遂げられたことを知っている。しかし、たとえあなたがの名前が世に知られていなくとも、私がそれを知っていればそれで十分である。
128.
あなたがの業の真の価値、あるいは真の価値を知っているのはわたしだけである。なぜなら、あなたが自身でさえ、それを判断することはできないからだ。時には、ささいな業があなたがたには非常に大きなものに見え、また他の業については、その功績がわたしのもとに届いたとさえ、あなたがたに気づかないこともある。（106、49-50）
129.
わたしに耳を傾けた人々よ――いったい、あなたがたは暗闇の中から現れるのか。もしかすると、あなたがたはその時至るであろう対決を恐れて、意図的に準備を怠っているのか。
まことに、私はあなたがたに告げる。恐れるのは、霊的に備えていない者だけである。なぜなら、私の言葉を、主の栄光を愛する者は恐れることは何もないからである。そして、人を避けるのではなく、彼と出会うことを求め、自分の受けたものを分かち合おうとするのである。私の教えを学び、深く理解した後、彼はそれを実践するのだ。（107, 41）
130.
このメッセージは、あらゆる宗教、あらゆる宗派、組織、団体、そして様々な指導者たちへの光である。しかし、弟子たちよ、あなたがたは

私の言葉をどう扱ってきたのか。そのようにして、木を枯らせようというのか。花を枯らせることをやめなさい。なぜなら、それらは後に実を結ぶことを告げるものだからである。

131.

なぜ、あなたがたはこのメッセージを聞き、この福音をもって、この新しい時代の驚きを世界に伝えようとしないのか。なぜ、キリストの声があなたがの間に響いていると、世界に告げる勇気がないのか。

語りなさい。そして、愛の行いを通して、わたしの教えを証しなさい。なぜなら、

たとえある人々が、あなたちの声に聞こえないように耳を塞いだとしても、他の人々は耳を開くでしょう。そして、あなたちの声は、彼らにとって、ナイチンゲールの歌のように美しく、心地よい響きとなるでしょう。(114, 46)

132.

人類は私の新しい弟子たちを待望している。しかし、私の働き手であるあなたがが、世間の無理解や恐れに屈してしまうなら、この人類はどうなってしまうというのか。あなたがたは、自らの使命に対する責任を感じていないのか。

133.

あなたの良心はあなたを欺くことなく、あなたが義務を果たしたかどうかを常に告げてくれるだろう。あなたが経験している不安は、あなたが私の指示に従わなかったことのしるしである。（133, 10）

134.

あなたがたは、私の言葉に従う者の数がゆっくりとしか増えていないと、時に嘆く。しかし、私はあなたがたに告げる。嘆くべきは自分自身である。なぜなら、この事態を変えるための手を尽くし、信者を増やし、信仰を広めるという義務が、あなたがたにあるからだ。

しかし、もしあなたがの心の目が開かれており、霊性の眼が開いておらず、知性の中に霊的な識別力が欠けているならば、どうして信者を増やすことができるだろうか。もしこれらの資質が心の中で開花していないなら、どうしてあなたがの信仰と愛をもって、彼らの魂を動かすことができるだろうか。

135.

理解できない者は、他者を理解へと導くことはできない。感じることのできない者は、他者の感情を揺り動かすことはできない。今こそ、あなたがたが私の言葉について証しをしなければならないという必要に迫られたとき、なぜ口ごもり、言葉に詰まってしまうのかを理解せよ。

136. 愛する者よ、もはや必要はない。信じる者は恐れない。感じる者は、その証拠と真実を証明する多くの機会がある。（172, 24-26）

137.

今日、あなたがたはなぜ自分たちがイエスにあるかを説明しようとして苦労はなく、なぜ自分たちがスピリチュアリストであるかを説明しようとしても言葉に詰まらない。あなたがたは、自分たちの霊的賜物が何であるかを示そうとしても、それを説明するために論証や霊的啓示を必要としない。

しかし、あなたがの心の内なる現実のものとなれば、必要な言葉は自然に湧き出てくるだろう。なぜなら、あなたがたは愛の行いによって、自分たちが誰であり、誰に教えられ、どこに向かっているのかを明らかにするからである。（72, 27）

138.

わたしはあなたに言う。福音を伝えるために何を待っているのか。まさか、発展の上で重要だというのか。わたしは、あなたがが周りから投げかけられるあらゆる質問に対して、いつでも質問と答えを持てるよう、すべてを語り尽くしているのだ。準備ができていない者は恐怖に陥れるような、重々しい論調をもって、あなたがたは攻撃されることになるのだということを心に留めておきなさい。

139.

わたしの言葉を心に刻み、あなたがた一人ひとりがわたしの真理の生きた証しとなるよう、わたしがあなたがたに与えた大きな責任を忘れるな。そうすれば、あなたがたを通して、わたしの言葉をくまなく調べる者は、それがかつてわたしがあなたがたに語り、預言したことと何一つ矛盾しないことを悟るだろう。

140.
戦いは激しいものとなるだろう――あまりに激しいため、かつて私の弟子であった者たちでさえ怖じ気づき、私を聞いたことなどないと主張して、私を否認する者さえ現れるだろう。
141.
わたしの戒めに忠実であり、戦いに立ち向かう者たちは、わたしがマントを授け、その下で身を守る。彼はいかなる物質的状況も無傷で乗り越えるであろう。
142.
この種の適切な時者、あるいはこの業の清かさを引き者は、刻々と裁きと人の迫害と不安が降りかかる。誰が、自分でまことをその実の味によって見分けることとなる。
143.
わたしは、わが民の霊的覚醒の時期に備え、大きな奇跡を用意している――学者や神学者たちを驚愕させるような奇跡業である。決して、あなたをあなた自身の力だけに任せることはない。人があなたを誤解しても、動揺してはならない。第二の時において、群衆があなたの信仰を誤解したことを忘れてはならない。(63, 42-44)
144.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。世界はあなたがたに敵対している。それゆえ、わたしはあなたがたをそのことに備えさせ、愛と慈悲という武器をもって、あなたがたの信仰の真実を試す術を身につけさせるのだ。あなたがたは勝利する。たとえその勝利が世にはわからなくとも。
145.
今、あなたがたの犠牲は血の犠牲ではないが、それでもなお、中傷と軽蔑を受けることとなる。しかし、主はあなたがたを守り慰めるためそこにいてくださる。なぜなら、見捨てられた弟子など一人もいないからである。(148, 17)
146. 人々よ、もはや堕落し慣れ親しんだ清かさを冒涜することなく、それを守れ。また、同胞の過ちに対して憤慨してはならない。言葉と行動において、思慮深く、的確に、慈愛に満ちていなさい。そうすれば、世界はあなたたちの声に耳を傾け、あなたたちの教えの真実にも注意を払うだろう。この教えを伝える前に、まずそれを実践しなければならないということを、私はもう一度言う必要があるだろうか。(89, 66)
147.
諸国民の中で、わが民を変容し、兄弟愛、調和、隣人愛、そして理解の模範を示すことが必要である。それは、神の教えを再び悪用して争い、互いに傷つけ合い、命を奪い合う者たちの間に、平和の戦士として振る舞うことである。(131, 58)
148.
あなたがたは皆、同じ神を愛しているということをついに理解しなさい。そして、ある者がその愛をどのように実現したかという形式の違いを理由に、争ってはならない。
149. 信仰の違い、伝統、慣習がある者たちの心に深く根を下ろしていることを理解しなければならない。
あなたがたが教えを説き当初、それを瞬く間に広めることは容易ではないだろう。忍耐強くありなさい。そうすれば、年月を経て、やがてそれを成し遂げることができるだろう。(141, 9)
150. 1950年の終わりを迎える頃、あなたの多くの心に安らぎが生じるだろう。
151. なぜ私の名を言う者たちより光栄な性格を持ちながら、私の名を言う者たちがいるのか。
なぜなら、私の真理を判断できるのは人間の知識や理性ではないからだ。そして、人間がそれを理解すると、新しいものすべて、未知のものすべてに対して恐怖に駆られ、無意識のうちにそれを避けてしまうのである。
152.
しかし、あなたがた、すなわち、弱く、教養がなく、その知性によって認められた人々のように高みに達することのできない者たちこそが、信じる者たちであり、霊的な事柄に深く入り込むことができるのである。なぜか。それは、永遠の命とその奇跡を理解するのは、霊のものだからである。

153.
人間性は、あなたがたがやがて戦いを挑もうとしているものである。なぜなら、それによって人間は、霊によって創造されたものではない、霊性なものに関する考えや観念を作り出してしまうからである。
154.
この戦いに備え、あなたがたは強くなければならない――その強さもまた、霊由来するものである。あなたがたの力は、決して肉体や金銭の力、あるいは他の乗り物に依るものではない。あなたがたの内なる真理の信仰こそが、この対立においてあなたがたに勝利と導くのである。（249, 44-46）
155.
あなたがたが迷い人と呼ばれても恐れるな――すべての人に手を差し伸べよ。あなたがたにとって真実であるこの確信が、他の人々には偽りに見えるかもしれないことを心配するな。彼らの目は、宗教裁判官たちから受けた呪いが、この確信は欠けているように映るからである。
156.
もしあなたがたがわたしを信じ、わたしがこの声の伝達者たちの言葉を通して自己を明らかにしていると信じるならば、同性たちの迫害を恐れることはない。なぜなら、わたしの教えこそが真理であり、わたしのメッセージには多くの真理が含まれているからである。もしあなたがたがこの武器をうまく使うことを知っていれば、打ち負かされることはまずないだろう。
157.
あなたがたが熱心に真理、すなわち完全なるものを求めることについて、誰も非難することはできない。それは、あなたが全員に与えられた権利があり、そのために光に向かって進む自由が与えられているのである。（297, 51-53）
158.
あなたがたが使命を果たし始め、諸国へ、最遠の島々へと、さらには原住民の奥深くへと足を踏み入れるとき、人間たちは会うだろう。そして、あなたがたは彼らに、あなたがたは皆兄弟であることを理解させ、私の霊性教えを証しなければならない。そうすれば、あなたがたは、私からその愛の証しに驚嘆することだろう。
159.
文明から隔絶され、また人間の営みからも遠く離れたあの人々の間に、あなたがたは、イスラエルの民の数を増すことになる多くの魂たちを見出すだろう。
160.
病める者たちは、あなたがたの道において癒しの香油を受け、回復するであろう。悲しむ者たちは、最後にもう一度泣くであろうが、その涙は喜びの涙となるであろう。
161.
あなたがたがすべきそのしるしを目の当たりにして、人の群れはその弟子たちを祝福し、あなたがたは、かつてエルサレムに入城されたあの日のように、歓呼を受けるであろう。
162. しかし、あなたがたを歓迎する人の中にも、あなたがたが持つ霊の賜物に満ち足りない者たちがいるだろう。ある者たちにおいては、その霊の賜物があなたがたを驚かせるだろう。またある者たちにおいては、わたしの癒しの香油が尽きることなく注がれるだろう。さらにまたある者たちにおいては、わたしの言葉が稲妻のように、また剣のように突き出るだろう。こうして、あなたがたは弟子たちの間に、尽きることのない種まきのように、聖霊の賜物が現れるのを見るだろう。（311, 38-40）
163.
民よ、今や諸国は見せかけの平和を享受しているが、あなたがたは平和だけを宣言してはならない。口を閉ざしなさい。真の平和は、恐怖や物質的安楽という台の上に築かれることはできない。平和は、愛と信頼から生まれなければならない。
164.
人は今、岩ではなく砂の上に家を建てている。そして、波が再び高まり、その壁に打ち寄せるとき、その建物は崩れ落ちるだろう。（141、70-71）

165.
最初の時代に来、私は預言者たちを通して、あなた方を導くため語りかけてきたが、私の律法を尊守するよう強制するためではない。
166.
しかし、時は過ぎ去り、人間の霊魂は発展し、成熟に達し、今霊界での体験を理解することができるようになった。深淵（すなわち破滅の淵）にこれほど近づいている人類は、あなた方からの霊的助力を必要としている。
167.
それは、最後の戦い、闇と光の間に繰り広げられる最も恐ろしく、最も凄惨な戦いなのだ。闇の霊たちは、結集しつつあり、光の霊たちは皆、その力に立ち向かわなければならない。
168.
わたしに従う者たちよ、聖霊の光をその内に宿す者たちよ、目覚めよ！もはや、地上の喜びや時的な目標のために時間を浪費してはならない。人類のための戦い、父の御国のこの世に来るよう奮闘せよ。それは、最も卑しい者から最も偉大な者まで、すべての人にわたしが与える使命である。
169.
霊界はあなた方と共にあり、すべての人の上に、愛、憐れみ、満ち足りがおられる――人の互いに与え合う苦しみを、限りない痛みをもって見守っておられる父である。
170. これは光と闇の戦いであり、勝利が勝ち取られるまで、あなた方一人ひとりが戦わなければならない。（358, 20-23）

第3章 教会およびすべてのキリストの弟子たちへの教え

キリストの霊の使者

1.
愛する民よ、わたしの臨在を喜びなさい。心の中で寛容、喜びの声を上げなさい。ついにあなたがたは主の日を経験したのだから。
2.
あなたがたの主の到来を恐れていた。なぜなら、あなたがたは依然として昔の人のように考え、父なる神の心は復讐に満ちており、受けた侮辱に対して怒りを抱いており、それゆえ、神は隣人愛の律法を尊重して、これほどまでに、これほど何度も神を侮辱した者たちに復讐を加えようとしているのだと信じていたからである。
3.
しかし、神の御霊の中には怒り、憤り、嫌悪など存在し得ないことを悟ったとき、あなた方の驚きは大きかった。たとえ世界がこれほど汚れ、呪われるべきものであるとしても、その理由は、父が彼らにこの実食べさせ、この木を植えたからではなく、これこそが、人類自らの行いの刈り入れ、刈り取っている収穫なのだ。
4.
確かに、この時代、解放されすべての不義は来たるべきものであると告げられていた。しかし、それが告げられていたからといって、主語としてそれを装っているのだと考えてはならない。全く逆である。私はいつの時代も、悪意ある誘惑からあなたがたを警告し、あなたがたが罪を犯した時はいつも直ちに助けてきた。
さらに、あなたがたが自己を救うために必要なあらゆる手段を私は与えてきた。しかし、あなたがたは、私の呼びかけに対して常に耳を貸さず、不信であったことを認めなければならない。（160, 40-41）
5. この時に、自分の救いをともに努力しない者たちには災いがある。彼らは滅びてしまうだろう！
これこそが光の時であるにもかかわらず、至る所で依然として闇の支配を見よ！

6.
わたしの言葉によって、わたしが第二の来臨において、この国の中でわたしを見るために、この国を選んだことを、あなたがたは知っている。しかし、その理由については知らない。弟子たちの前で秘密を持たないことを望む師が、あなたがたにとっては謎であった。師はあなたがたが知るべきすべてのことを明らかにするために来られる。そして、あなたがたは、問い求める者たちに正しく答えることができるようになるのだ。
7.
私は、この地の住人たちが常に私を求め、愛してきたのを見てきた。彼らの業は常に完全であったわけではないが、私は彼らの信仰と愛を、無垢な犠牲と当然のこととして受け入れてきた。私の神性の祭壇には、この香りが常に供えられてきた。
8. あなたがたは、第二の時において、偉大な使命を果たすために準備されてきた。
9.
今日、あなたがたは、私がイスラエルの民をあなたがたの中に生きていることを知っている。なぜなら、私がそのことをあなたがたに明らかにしたからだ。あなたがたは、あなたがたの面倒を見、あなたがたを導くために、私が第一の時にユダの家に住んだのと同じであることを知っている。
10.
あなたがたは霊においてイスラエルであり、霊においてアブラハム、イサク、ヤコブの種族である。あなたがたは、人類に救いをもたらす、あの祝福された木の枝である。
11.
それゆえ、私はあなたがたを「長子」と呼び、この時にあなたがたを、あなたがたを通して世界に私の第二の啓示を与えようとしているのである。
12.
私の意志は、「イスラエルの民が霊において人類と和解し、それによって人類全体の肉における復活を目にすること」である。（183, 33-35）
13.
あなたがたは、私がこの言葉を他のすべての民に与えるつもりだと思ったのか。いいえ！この点においても、私の新しい啓示は、かつて私がただ一つの民、すなわち、その民が旅した、荒野において、私のメッセージの中で受け取り種蒔きという使命を負った過去の時代の啓示に似ている。（185, 20）
14.
他の諸国については、広範な土地の洪水によって荒廃し、国家戦争によって破壊され、疫病と生命を滅ぼしているのを見て初めて、新しい時代に向けて目覚めるようにしてください。
これらの民は――科学によって高慢になり、教会の華やかさに眠り込んでしまっている――この目立たない形での私の言葉を認めようとはせず、また霊において私の存在を感じ取ることもないだろう。それゆえ、まず地が揺らがなければならず、自然が大きな音をたてるだろう。「時は満ち、主があなたがたのところに来られた」と。
15.
人類が目覚め、目的地に来ているはずであると認めるためには、まず人間の罪と悪業が報いを受けなければならない。しかし、あなたがたの務めは、見張り祈り備えることである。（62, 53）
16.
かつて私は、人類と一つになるという約束をした。そして今、何世紀もの時が過ぎたとはいえ、その約束を果たすために、私はここにいる。あなたがたの霊は、平和の渇望、真理の飢え、知識の切望（
）の中で、私の降臨を望んでいた。そして私の霊は、あなたがたが生きるこの時代にふさわしい教えを説くために、降りてきたのである。
人々は、これまでのように生き続けたとしても、どうして望むことができるだろうか。もはや、精神性の停滞や儀式や慣習の履行における精神性の怠慢に留まり続けることは、この時にふさわしくない。（7, 19）

17.
世の中で学識あると認められている多くの人々は、この姿の私を認識できず、私を否定するだろう。しかし、それによって驚いてはならない。私がかつて、「父よ、あなたは御自身の真理を賢い者たちや学識ある者たちからは隠された。父よ、あなたは祝福される」と言ったとき、私はすでにそれを予言していたのだから。
18.
しかし、これは私が自分の真理を彼らから隠しているからではなく、むしろ心が無垢な者たちは、その精神的な貧しさゆえに取るに足らない存在であるからこそ、私をよりよく感じ取ることができるのだ。一方、学識ある人々、すなわちその心が理論や哲学、教義で満たされている者たちは、私を理解することも感じ取ることもできないからである。
しかし、すべての人のための真理は、定められた時に、誰にでも訪れるであろう。（50, 45）
19.
私の律法を守りながらそれを憎む者は、私の弟子とは言えない。私の真理を広めて伝え、心で行おうとしない者は、私を冒涜している。愛を語りながら、その行いによって正義のことを軽視する者は、私の教えに対する裏切り者である。
20.
マリアの清さと完全さを否定する者は悪である。なぜなら、その無知ゆえに神を拒み、神の力を否定しているからである。「第二の時」においては私の真理を認めず、魂の死を否定する者はまだ眠っており、この時に人類が経験している苦痛を予言した過去の時代の預言を心に留めていない。(73, 28-29)
21.
彼らがやって来て、あなたが誤りに陥っていることを証明しようと、わたしを試そうとするであろう。もしわたしが彼らに自分の名を告げなければ彼らは「わたしがわたしでない」と言うであろう。そして、もしわたしが悪意を持って投げかけられた彼の問いに答えるならば、彼はさらに激しくわたしを否定するであろう。
22.
そこで、私は彼らにこう告げるであろう。「私の王国に入ろうとする者は、心をもってそれを求めなければならない。しかし、私を認めずに生きたいと願う者は、自分の精神が理解を拒絶してしまうことになり、その結果、明快で光に満ち溢れているすべてのものが、彼にとっては謎であり、不可解なものとなってしまうのだ。」（50, 49-50）
23.
今、私はかつてそうであったように、ただ一時的にあなたがたと共にいる過ぎない。私もまたあなたがたに語りかける時が近づいているが、人類は私の存在を感じ取ってはいない。
24.
私はあなたがたの言葉を伝え、あなたがたを見守ってきたその「山」から、私はかつての預言者たちのように叫ばざるを得ないだろう。「人類よ、人類よ、あなたがたは誰もあなたのそばにいた者を殺してはならなかったのだ！」
かつて私が「第二の時」、死の直前にあるひとりの者を見下ろし、涙を流したように。「エルサレム、エルサレムよ、お前のそばにいた善き者をお前は見分けられなかったのだ。」
25.
彼が泣いたのはこの世のためではなく、依然として先祖や、真理を得るために多くの涙を流さなければならない人々の魂のためであった。（74, 68-69）
26.
私がイエスを通してあなたがたに私の言葉と最後の教えを与えた日から、何世紀もの時が過ぎ去った。しかし今日、私は霊としてあなたがたの前に現れ、あなたがたへの私の約束を果たすために来たのである。
27. わたしは人となって現れたのではない。わたしは霊として来る。そして、備えのある者だけがわたしを見るであろう。

28.
あなたがわたしの言葉を信じ、わたしという方で他の人はわたしの啓示を受けず、それを否定している。わたしは彼に大きな証拠を示さなければならないが、そのあかしで、徐々に彼の不信仰を打ち砕くことができる。
29.
私が常にあなたに示してきた愛と恵みは、このようにあなたを愛し、教え導くことができるのは、あなたのみなであることを、あなたに理解させる。私はあなたを見守り、あなたがつまずかないように、あなたの手を導く。あなたが私を信頼して歩むことができるよう、私の平安を感じさせてある。（2, 4）
30.
私の言葉、すなわち教えは、一見すると今日、あなたがたにだけ向けられているように見える。しかし実際は、それはすべての人に向けられている。なぜなら、その中に愛と生命をみなぎらせ、すべての世界、すべての肉体をまとった魂と、肉体をまとわない魂とを結びつけるからである。私を必要とするなら、ここに来なさい。迷いを感じたら、私をみなさい。
31.
わたしは、あなたの苦しみをよく知り、あなたを憐れむ父である。わたしは、あなたが自身のために、また隣人のために、あなたがたがそれほど必要としている愛を、あなたがたに注ぎ、
32.
もしあなたが、私がこれらの言葉を通して明かす光の中に、真の私の姿を認めるならば、霊的道における個性的進歩をはめる時が来ることも、また認識しなさい。
33.
ああ、もし招かれた者たちが皆、急いで駆けつけてくれたなら。まことに、あなたがたに言う。主の食卓に着く者たちで溢れかえり、彼は皆、同じ食事を口にするそうだ！しかし、招かれた者たちのすべてが来るわけではない。彼らは様々な理由を述べ、こうして神の呼びかけを次々としてしまうのだ。
34. 急いで駆けつける者たちは幸いである。彼らはすでに報いを受けているからである。（12, 76-80）
35.
この時代、霊的賜物を受ける者たちのすべてが、ここで私の言葉に耳を傾けているわけではない。食卓にはこれほど多くの空席があるが見てみよ。私のいとも小さき子供たちの多くが、恵みを受けた後、立ち去り、責任や使命を避けてしまうからだ。
ああ、もし彼らが、この地上に来る前に、すべての魂が私に誓った誓いを、また覚えていたなら！（6, 43）
36.
私よ、あなたがたに第四の聖霊が来ようとしているが、あなたがたは最初のことさえ理解していない。もしあなたがたがこの時代に備ができていたなら、私の言葉が霊に聞こえる必要などなかったろう。なぜなら、私が霊に語りかけ、あなたがたは愛をもって私に答えてくれたはずだからである。（6, 49）
37.
これが第三の時代の光である。しかし、あなたがたに語りかけているのは神ではなく、この人間と言葉を試してみよ。まことに、わたしはあなたがたに言う。わたしの神聖な光線が彼の人性を照らすまでは、たとえ彼をもってしても、彼から霊的な偉大な真理に満ちた言葉を引き出すことはできないだろう。
38.
魂が語り、自己を現すために肉体を用いるのと同様に、魂が霊界の肉から離れ、そのかわりにすべての魂の父である神自らを現すことを可能にするのは、何ら不思議なことではない。
39.
あなたがたはわたしのもとに来ることができないので、わたしがあなたがたのもとに来る。そして父に届く最善の祈りとは、静寂の中であなたがたの魂から発せられるものであると教える。この祈りこそが、あなたがたがわたしを聞くことができるようにする。わたしの光線を惹きつけるのだ。わたしの神性を喜ばせるのは、歌や言葉ではない。(59, 57-59)

40.
あながたは、わたしの言葉が不完全であるとか、不完全な点を含んでいるなどと言うことはできない。なぜなら、わたしから不完全なものが出ることは決してないからだ。もしあながたがそこに何かの誤りを見つけたとしても、それを声の伝者による不適切な伝達、あるいはあながたの理解の欠如のせいにせよ、決してわたしの教えのせいにではない。わたしの言葉を変える声の伝者は、災いあれ！わが教えを不適切に伝え、その価値を変える者は、哀れな者よ、その者は終局的に良心の責苦に遭い、魂の平安を失うことになるのだ！（108, 51）
41.
あながたに近づくために、私はこう言う。もしあながたが私の罪深い肉体を用いて愛を受けることを望まないのなら、義しい清き者を私に示しなさい。あながたの中から、愛することを欲する者を私に指示しなさい。そうすれば、私はその者を用いることを保証する。
42.
私が罪人を用いて罪人を導くことを期待しないでほしい。なぜなら、私は義人を救うために来たのではない。彼らはすでに光の国にいるからである。（16, 25）
43. この種があながたの不適切な話しぶりにもかかわらず、死なない様子をよく見なさい。暗闇に落ち込み、障害や試練に苦しみ（）、日々衰弱し、成長し続けている様子を見なさい。なぜこの種は死なないのか。それは、真理が不死であり、永遠だからである。
44.
それゆえ、あながたはこの教えが時代遅れだと思うときこそ、人の霊との交わりにおいてさらに前進できるよう助けるために、新しく豊かな啓示が与えられるのだということを銘記することになるだろう。(99, 20)
45. 私の教えを学び、この教えがあなた方の家族のうちに組み込まれる可能性があるかどうか、私に尋ねなさい。
46.
私はその当時、普通の人々に次のことを明かした。それは、人類の一部や特定の民族に限定されるものではなく、あなた方の住む惑星を越えて、この世界と同様の多くの世界に住む、あらゆる生命の住む全ての世界を含むものである。（3, 6）
47.
私の言葉は、新しい宗教ではなく、またそうなることもできないことを悟りなさい。この業は、すべてのイデオロギー、信条、そして宗教的につながり、約束の地へと至るための光に満ちた道である。（10, 39）
48. あながたの改善する私の教えは、あながたを新しい聖霊の実体へと変えようとするものである。（11, 12）
49.
私は、あなたを第三の時代の三位一体・マリアの霊生誕者として、私の愛する人々に紹介するつもりである。霊生誕者は、あなたが父の物質よりも精神であるべきだからであり、三位一体は、あなたがこの時代にわたって私の啓示を受け取るからであり、マリアとは、あなたが、人生の道で躓かないよう見守ってくれた普通の母であるマリアを愛しているからである。(70, 36)
50.
人間の性質という器を通して私の言葉を聞いた者だけが、この民の子と呼ばれるのではない。自分の中に学びを実行する者、すなわち、この律法を愛し、この種の者は皆、たとえこの器を通して私の言葉を聞いたことがなかったとしても、私のぶどう園の働き手、私の業の友、そしてこの民の子と呼ばれるべきである。(94, 12)
51.
民よ、あながたが様々な集会所に集まるからといって、それを互いに隔離する理由になるとどうして思えるのか。無限なる父のすべての子供たちを結びつける霊的絆に気づくことを切に望むのである。(191, 51)
52.
あながたがある集会所や別の集会所、あるいは様々な集会所を訪れ、その信者たちを通して同じ言葉を聞くとき、あながたの心は喜びと信仰に満たされ、その教えを、これらの団体が霊生によって結ばれていることの真の証拠として受け止める。
しかし、もし不幸にも対立や争いがあるようなら、心の中に傷がついたような感覚を抱くであろう。
そして、そこには、この民の中に存在すべきであるはずの団結が存在せず、また表れていないことを理解するであろう。（140, 71）

53.
わたしは、あなたがわたしの善意に感謝し弟子となることを望む。すなわち、共同体で自分の業をなすのではなく、徳によって完成に至るわたしの指示に従うことのみを望むし、そのようにしてあなたの人生が模範となるような弟子である。
正当にそれを所有するに値する績なくして、名誉ある地位や称号、あるいは名声が、あなたの益となるだろうか。（165, 17）
54.
わたしの業は、数ある教えの一つではなく、世の中に一つ増えただけの宗派でもない。今日わたしがあなたがたにもたらした啓示こそが、永遠の法である。それにもかかわらず――霊性理解の欠如から、あなたがたはこれほどの儀式を付加え、どれほどの形式を加え、ついにはそれを強めてしまったことか。
あなたがたは、私の教えにこれほどの儀式を導入したか。その際、あなたがたが行ったことはすべて、私によって霊感を受け命じられたものだと語り信じているではないか。（197, 48）
55.
あなたがたはまもなく、外面儀式に疲れ宗教的狂信に飽きしている人々の間に身を置くことになる。それゆえ、あなたがたが彼らに伝える霊性のメッセージは、雑念なく清らかな露のように彼らの心に届くであろうと、私は言う。
56.
もしあなたがたが、狂信的儀式や霊に反するものをもって彼のところへ行ったとしたら、世界はあなたがたを神のメッセージの伝達者として認めてくれると思うか。まことに、あなたがたに言う。人々はあなたがたを新しい宗教の狂信者と見なすだろう！
57.
私があなたがたに語るこの時代にもかかわらず、中には私にこう言う者もいる。「師よ、ローケ・ロスから遺産として残った多くの儀式をどうして私たちが捨てることができるでしょうか？」
58.
それに対し、私はこう言おう。私は第二の時代のあかしをあなたがたに示した。その時、私は真に、儀式や形式、伝統に執着をすることは、それらがより本質である律法を忘れてしまったことを理解させるのだ。
59.
私は、あなたがたに師への行いを思い起こさせるのは、たとえそれがローケ・ロスから学んだものであっても、かつてモーセの民が遺産として受け継いだように、今日においても伝統儀式を忘れてよいのだと、あなたがたに理解してもらうためである。
60.
さて、私は、彼があなたがたに悪いことを教えたと言ったのではない――いいえ、彼はまだ民が神の啓示を理解する助けとなるような象徴や種々様々に頼らざるを得なかっただけである。
しかし、その目的が達せられるならば、真理の光を輝かせるために、もはや無用となったあらゆる外形的形式や象徴を排除することが必要であったのだ。（253, 29-32）
61.
私の律法を理解しなかった僕らは、私の心にどれほどの苦痛を与えたことか。そして今、私が彼らを召集し、任命したにもかかわらず、疑いや不安、自己愛、その無理解を口実に、私から長い期間、民の間に留まり、彼の人間意志に従って私の普遍の光線を再び降し、長い間、自らを見続けると語っている者らは、どれほどの苦痛をもらしていることか。
62.
それゆえ、私はあなたがたにこう言うのだ。「私の言葉の中に、いつ優柔不断や不確実、あるいは意志の弱さを見たことがあるか？」決してない、まことに。もしそうであれば、私はもはや完全ではなく、もはやあなたがたの神でも、あなたがたの創造主でもなくなってしまうからだ。
63.
わたしの神には権力があり、ただ一つの意志がある。それゆえ、わたしは明白な言葉のように明瞭に語るのだ。そして、すべての者がた

しの存在、本質、そして力を感じることができるよう、また、霊が根拠ある理性と、わたしが聞き入れる力を通して与えた言葉を識別できるようになるためである。

64.

師はあなたがたにこう言う。人は律法を建て、それを教会と呼んだ。そして、そこに入る民は、敬意を表し、狂信と偶像礼拝を根絶し、人自身が作り出したものを崇拝している。

これは私の目にはふさわしいものであり、それゆえ、私はイスラエルの民よ、あなたがたが当然知っていたもの、聞いていたものをすべて取り除いた。それは、あなたがたが狂信者となるためである。

65.

イスラエルの民、祈りの家は、人類を引き裂くべきであり、閉鎖されてはならない。なぜなら、それは迷える者、疲れ果てた者、病める者に、避難を与えるべきだからである。あなたがたの痛み、私に対する心の祝福、そして私律法の順守によって、私は、私の神性の真の弟子たちの行いの中に、自らを証するであろう。

66.

偽りの預言者、偽りの教会指導者、偽りの「働き手」が現れ、彼らの神を宣言する人民、語りかけ、私の言葉、私の普遍性が、今後民への教えとして変えると宣言することについて、あなたがたは、警戒を怠ってはならない。

67.

私は、誰が異端であるか、誰が私の意志に従って律法を守らないか、誰が自分の意のままを表現してやまないであるかを明らかにし、その者が犯した行い、その者が作り出した律法を明らかにする。そして、彼らは揺さぶられ、追放されるであろう。

68. なぜなら、私は神の恵みを差し控えるからであり、誰が彼らをその網に捕えるからである。それゆえ、彼ら自身は、その魂において私の聖霊の恵みを感じることがないであろう。（D63, 52-56）

69.

あなたがたは、自分たちがイエスの使徒であることを大々的に宣言することなく、使徒でありなさい。たとえそうであっても、自分は弟子であると述べなさい。

70. あなたがたは、他者と区別されるような服装ではならず、手本を持ってはならず、集会を建ててはならない。

71. また、地上に私の栄光の中心、礼拝堂を設けてはならず、私の代理としての人の仕立て者もいてはならない。

72.

あなたがたがこれまで持っていた指導者たちは、最後のものである。祈り、霊性、そして私の教えの実践こそが、人の群れを命の道へと導くべきである。（D46、30-31）

73.

わが弟子たちよ、私があなたがたに示したような完全な業を、人類に対して、それが誤りであると判断されるようなやり方で、あるいは、この時代に支配的な精神錯乱の産物として生まれた、数多くの教えや理論の一つとして見なされるような方法で提示することは、果たして正しいことだろうか？

74.

私がこれほど深く愛し、あなたがたの証を貴かなものとするために私の言葉を与えてきたあなたがたが、過ちの権威として地の司法の手に渡したり、迫害の人から有害と見なされて追放され、散り散りになったりするなど、果たして正しいことだろうか。

75. 私の教えが――正しく従われたとしても――そのような事態を招くことがあると、あなたがたは思うのか。いいえ、弟子たちよ。

76.

このように私に語らせてくれ、なぜなら、私がそうする理由を知っているからだ。明日、私もまたこの姿であなたがたに語らなくなったとき、あなたがたは私がなぜこのように語ったのかを悟り、こう言うだろう。「師は、私たちがこれほどの弱さと苦しみのうちにあることを正確に知っておられた。師の教えから逃れるものなど何もない。」（D52、26-27）

77.

わたしは、あなたがたがもはやわたしの言葉を聞くことのない時と備えさせている。その時は、人はあなたがたを「神なき民」、すなわち

「神殿」と呼ぶだろう。なぜなら、あながたは、わたしを学ぶための聖なる教室なければ、崇拝も礼儀も行ないず、また当像の中にわたしを求めることもないからだ。

78.
しかし、わたしはあながたに遣わして一冊の本がある。それは未来のあながたの足なり、あながたが歩みを向けるべき道となるであろう。今日、あながたが伝書鳩を通して聞いているこれらの言葉は、明日、書物から流れるであろう。そしてあながたは再びそれらに励まされ、その時やって来る人々の群もまた、それらを聞くことになるのだ。(129, 24)

79.
今、私は類まれな新しい書物、新しい遺言を書く。それは、第二の時代における私の言葉、第二の封印が解かれた際に人々に語りかける神の声である。

80.
あながたの祖先が歴史名の封印を要さない。この書物において、わたしの言葉は、人間に永遠に語りかける、警告と励ましの声となるであろう。そして、わたしの民は、この霊の道における彼らの足跡を後世に残すことになる。(102, 28-29)

81.
私の言葉が示された集の場合と違い、その一つ一つが真の知識の学校となっている。そこには、私の弟子たちの対人が集い、新しい教訓を学ばんと熱心にやって来る。

82.
もしこれらの各冊が、私の教えから受けすべての恩恵について証を立てるとしたら、その数が百に終わりはないであろう。そして、私が最初の言葉から最後の言葉に至るまで、すべての時代を通して語ったことをすべて一冊の本にまとめなければならないとしたら、それはあなたがたには成し遂げられない仕事となるであろう。

83.
しかし、私は、私の民を通して、人類に一冊の本を授けるつもりである。そこには、私の言葉の真髄と、私があなたがたの間で成し遂げた業の証しが記されている。この恩恵を受けることを恐れるな。なぜなら、私はあなたがたに霊感を与え、この本に不可欠な教えが記されるようにするからである。(152, 39-41)

84.
この言葉の真髄は、私がマリア・オビエドを通してあなたがたに語りかけた当初から、一度変わっていない。私の教えの真髄は常に同じであった。

85.
しかし、その言葉の本質はどこにあるのか。それはどうなったのか。私の言葉があなたがたの間にこれほど豊かになされたこの時において、最初のものであったそれらの神聖なメッセージの書物は、隠されている。

86.
明日、あなたがたがこの啓示がどのようなものであったかを証できるようになるためには、これらの教えが明るみに出る必要がある。そして、あなたがたは、私の最初の教えの日、その内容、そして1950年――この啓示の時代が終わると定められた年――からは最後の教えの内容を知ることになるであろう。(127, 14-15)

87. あなたがたは、私の言葉を隠し、私の教えを歪曲する者たちに語りかける必要がある。
彼らには、はっきりと語りなさい。あなたがたが彼らに対して自分の立場を弁護できるよう、私はあなたがたを助ける。なぜなら、私の業は本来属さないものを付加えたために、明日、私の業に非難され、私の律法に背かれる原因となっているのは、まさに彼ら人間からである。(3, 40, 39)

88.
私はこの言葉をあなたがたに託し、あなたがたの言い聞かせが後世の言葉を翻訳し、すべての人にはじめるよう、あなたがたに命じる。

89.
このようにして、あなたがたは真の「イスラエルの塔」を築き始めることになる。それは、すべての民族を霊において結びつけ、すべての人々

をイエスが「互いに愛し合いなさい」と語った時、この世であなたがたがイエスの口から聞いた、その理由で変わり永遠律法の下に結ぶものである。(34, 59-60)

霊性なイスラエルとユダヤ民族

90.
私が今、私の新しい教会の周りに集めている民を「イスラエル」と呼ぶのは、この「第三の時」に召された者たち一人ひとりの内にどのような霊が宿っているかを、私はよく知っている者はいないからである。

91.
「イスラエル」には霊的な意味があり、あなたがたが神の民の一部であることを自覚できるよう、私はこの名を授ける。なぜなら、「イスラエル」とは地の民ではなく、霊の世界を表すものだからである。

92. この名は、誤りのない、その真の意味、すなわち霊的な意味において、再び地上に知れるようになるであろう。

93.
あなたがたはこの名の由来と意味を知らなければならない。あなたがたがその民の子であるという事は絶対的なものでなければならず、また、誰から、そしてどの時代を与えられたかについて完全な認識を持たなければならない。そうしてこそ、明日、「イスラエル」という名に別の意味を与える者たちから向けられる攻撃を打ち破ることができるのだ。(274, 47-50)

94. わたしはあなたがたに服従を求める。あなたがたが、信仰と霊生によって強められた民となることを望む。
なぜなら、ヤコブの子孫である世代を、その民族に大きな責任をかかわらず増やせるのと同様に、霊においてその種子あなたがたが、闘いの中で打ち破るように、あなたがたの再び灰の星のように、海の砂のように増え続けるようにするからである。

95.
わたしはあなたがたが霊的なイスラエルの民の一部であることを知らせた。それはあなたがたが自らの使命について、より包括的な認識を持つためである。しかし同時に、人類自らそれを見出すまでは、このことに関する確かな宣言はしてはならないと、わたしはあなたがたに勧めるのである。

96.
なぜなら、地上にはまだイスラエルの民、すなわち肉によるユダヤ人が存在しており、彼らはこの名をあなたがたから奪い、認めようとしないであろうからである。もっとも、これは奪うに足る正当な理由ではないのだが。

97.
彼らはまだあなたがたのことを何も知らないが、あなたがたは彼らのことを多く知っている。私はあなたがたに、地をさまよい、霊に平安のないこの民が、知らず知らずのうちに一歩一歩、十字架につけられた方へと向かっていることを明らかにした。彼らはその方を主として認め、その愛に対して示した自らの甚だしい恩知らずと頑なさゆえに、赦しを請うことになるであろう。

98.
私が地上に降りた時、何世紀にもわたって私を否定してきた者たちとは、私は敢然としてそこに立ち向かいはしたが、私は彼らの目覚めと悔い改めの躊躇を待ち続け、私が彼らに差し出したが、彼らが受け入れようとしなかったすべての恩恵を彼らに与えるために待っている。（6, 11-13）

99.
この時において、伝統に縛られ、保守的な狂信であったために、何世紀にもわたって待望していたメシアがもたらしたこのパンを食べることができなかった「第三の時」のユダヤ人のようになってはならない。その時が来たとき、彼らは彼を認識することができなかった。なぜなら、彼らの物質主義が、真理の光を見ることを妨げていたからである。(255, 19)

100.
遠く地の国々から、霊的な糧を得ようと人々がやって来るのを見るであろう。かつてイスラエルの部族が荒野を旅していた時のように、あの古きパレスチナからも、彼らは群をなしてやって来るであろう。

101.
その国は、自分の王国を新たな違いとして差し出したお方その方から逃げ出して来、長く苦しい旅の旅を続けてきた。しかし、今やその国は、休息し、わが言葉を深く思索するオアシスに近づきつつある。そして、わが律法の諸民によって強められ、長い間苦しめられていたその発展への道を歩み続けることとなるだろう。

102.
その時、あなたがたは多くの人が、あなたがたの国に、その新しい約束の地、新しいエルサレムがあると語るのを耳にするだろう。しかし、あなたがたは彼らにこう告げなさい。あの約束の地はこの地方にあり、そこに至るためには、この時代の試練という大きな障害を通り抜けた後、霊においてそこに至らなければならない、と。
また、あなたがたは彼らに、この国は選ばれた神のオアシスに過ぎないのだと告げるだろう。

103.
しかし、民よ、そのオアシスは、疲れ果てた旅人たちに憩いを与えなければならないこと、そしてさらに、そこに避難を求める者たちの、渇きで乾ききった唇に、その透き通った雫を差し出さなければならないことを、あなたは理解しなければならない。

104.
私があなたがたに語ったその泉とは何だろうか。それは、民よ、私の教え、すなわち愛の実践における私の聖なる教えである。そして、私はこの恵みと祝福の豊かさを誰に託したのか。それは、民よ、あなた自身である。そうして、あなたが自分のありのままの姿からますます解放され、あらゆる点において、それを青が鏡して示せるようにするためである。

105.
もし、あなたがの愛によって、その悩める魂、霊に停滞しているあの民を、ユダ一体のみの霊教へと回心させることができないなら、あなたがの霊心は喜びで満たされないだろうか。もし、古いイスラエルが、
聖霊の力によって新しいイスラエルへと回心するならば、すなわち、前者が後者を通して恵みを受けるならば、あなたがの聞き心が満ちるのではないだろうか？

106.
これまで、ユダの民たちを、道徳的霊的向上を達成するためには、共に歩まなければならないと確信させるものは何一つなかった。彼らは、エホバとモーセの律法を尊重していると信じているが、実際は依然として金の子牛を崇拝し続けている民である。

107.
この迷える世界中の諸国民が、もはや地を見ず、天上を向け、初めから彼の救いとして定められていた方、すなわち、彼の聖なる見よ、その神の善き見せかけだけの見合に殺してしまうお方を求める時が近づいている。(35, 55, 58)

108.
私が他の民の中からもう一つの民を世に選ばせたという事実を、特に憤慨すべきこととして受け取ってはならない。私は、私のすべての子供たち、そして彼が創った諸民族を等しく愛しているのだ。

109.
どの民族、地球上の一つの国家を挙げてやって来る。そして、「イスラエル」が携えてきた使命は、人の間に神の王者となり、信仰の礎となり、完全への道となることである。

110.
私がその昔からあなたがたに与えてきた重い啓示は、人類がそれを理解できるほどまだ成熟していなかったため、正しく解釈されなかった。

111.
かつて「イスラエル」は地の民であった。今日、彼らは世界中に散らばっている。明日、神の民は、父と共に完全な調和の中で神の栄光を称えるすべての魂から成るであろう。（21, 27-30）

112.
互いに愛し合い、祝福し合い、赦し合い、優しく、愛情深く、善良であることを学びなさい。そして、もしそうなれば、あなたの人生は、師であるキリストの福音が、少しも汚されないことを理解しなさい。

113. 私はすべての人々に語りかけ、何世紀にもわたってあなたの預言者たちが語ってきた通りを言うよう、皆に呼びかける（21, 22-23）

114. あなたがの主頭は私の愛であることを忘れてはならない。
今日、あなたの心は罪によって硬くなっているが、一度でも再びあの霊性霊感を受けられるようになれば、隣への愛憎じ、他人の痛みがあたかも自分のことであるかのように感じるようになるだろう。そうすれば、あなたは「互いに愛し合いなさい」という戒めを果たすことができるようになる。（80, 15）

115.
この世界は、働くのにふさわしい畑である。そこには、痛み、病気、あらゆる形の罪、悪徳、不和、道徳的に堕落した若者、尊敬されない、悪評されている牧師、憎しみ、戦争、そして嘘がある。

116. これらが、あなたがたが働き、種を蒔くべき畑である。
しかし、もし人間的な聞き受けるその戦いが、あなたがたの目的のように思えるとしても――まことに、私はあなたがたに告げる。それは確かに大きな戦いではあるが、あなたが自分自身とはなければならない戦い、すなわち、魂と理性と精神が、肉の情欲、その自己愛、利己心、物質主義と戦い、それに打ち勝つまでは――どうして、隣に対する愛、従順、謙遜、そして霊性について、心から語ることができるだろうか。（73, 18-19）

117.
美徳は軽蔑され、冒涜され、あるいは無益なものとして扱われてきた。今こそ、美徳のみがあなたがたを救い、平安を感じさせ、満足感で満たしてくれることを理解すべき時が来た。しかし、美徳がすべての人の心に浸透するに至るまでは、依然として多くの障害と戦い続けなければならない。

118.
それを実践する兵士たちは、多くの努力と強い信仰をもって戦わなければならない。善と、実践的な隣愛と、平和の兵士たちはどこにいるのか。あなたがたは、自分たちがそうだと言っているのか。

119.
あなたがたはしばしば自己を省み、そうではないと私に答える。それゆえ、私はあなたがたに告げる。善意であれば、あなたがたは皆、その兵士たちの一員となり得るのだ。私があなたがたのところに来たと思うか。（64, 16）

120.
愛しなさい。話す必要があるときは話し、黙すべきときは黙し、あなたがたが私の選ばれた者であることを誰にも告げてはならない。お話を聞けば、あなたがたが行善を行ってはならない。静かに働き、その愛の行いによって、私の教えの真実を証しなさい。

121.
愛することこそが、あなたの使命である。愛しなさい。そうすれば、現世においても、また来世においても、あなたの魂を救うことができる。（113, 58-59）

122.
お話をしなさい。それは、あなたの高潔な感情を表現する器からである。それは、私があなたの心に入り、語り掛けることのできる手段である。

123. どうして、あなたがたは、自分の存在の最奥部に特別な場所を、人々に与えてよいというのか。（106, 47-48）

124.
謙虚さを、粗末な服装と混同してはならない。また、自分の中に劣等感を、そのために他者に対して、彼の前に頭を下げざるを得ない者を

謙虚な者と思ってはならない。
言っておくが、真の謙虚さとは、自分が何者であるかを断言できる、ある種の知見を持っていることを自覚しつつも、他者に対して低く接する用意があり、自分が持っているものを彼らから奪うことを喜ぶ心境のことだ。
125. 世の中で嫌われているが、あなたに対して親しみを感じる理由
謙虚さを示してくれるのを見るとき、あなたはどれほど感謝の気持ちを抱くことか。あなたより身分の低い人々、あるいはそう感じている人々に対しても、同じ気持ちを伝えることができるのだ。
126. 身をかがめることなしに、優しさをもってなんらの手差し伸べることなしに、思いやりを持つことを学べ。
私はあなたに告げる。こうした場合、愛情の証しを与えた者だけが幸せなのではなく、それを与えた者もまた幸せなのだ。なぜなら、その者は自分より上位のところに、自らの愛と謙虚さの証しを与えてくださった方がおられ、その方が自分の神であり主であることを知っているからである。（101、60、62）
127.
清く、謙虚に、質素に生きなさい。人間性を損なうと思われるすべてのことを、また、あなたの魂に関するすべてのことを、果たしなさい。あなたの人生から、不必要なもの、不純なもの、有害なものを排除し、その代わりに、あなたの存在の中にあるすべての善きものごとを癒やしなさい。（131, 51）
128.
誰を裁き見なしてはならない。すべての人を神聖な存在と見ること、それがあなたの使命である。もしあなたが最後まで、この指針に従うならば、地上は正義と愛が勝利し、それによってあなたが切に願う平和と安全がもたらされるだろう。（123、65）
129.
あなたの心と自由を守り、他者の痛みに共感し始められるようになさい。あなたの心が、あなた自身に関する事柄に感じようと、そればかりに没頭し、努力し続けることのないようになさい。人類全体に対しても、もっと無関心であってはならない。
130.
いやなことだが、あなたの愛は、血をわけた兄弟、肉と骨を同じくする者たちを愛するように、多くの同胞を包み込み、愛することができるほど大きくなるのだろうか。
131.
あなたがたが、肉体より先に魂において神聖であることを知れば、多くの者がそれを言うだろう。しかし、わたしはあなたがたに言う。確かに、あなたがたは肉体という以上に、魂において神聖である。なぜなら、魂は永遠に属するものであり、肉体は滅びゆくものだからである。
132.
それゆえ、この地上の物質界は日ごとに生まれ、明日にはまた消えるものであるのに対し、霊性の領域は永遠に存在するという事実をよく心得なさい。（90, 39-41）
133.
この言葉を聞くあなたがたは、私が他の人々を差別する理由をもって、あなたがたの心に悪意や憎悪を植えつけることができると思うか。決してそうではない、弟子たちよ。あなたがたこそ、同じ考えを共有する人を見るのと同じ愛情をもって、すべての人を見守り、愛することで、兄弟愛と調和の模範とすべきである。（97, 49）
134.
私は知っている、あなたがの試練が深まるほど、私への愛が深まるのだ。私が「私を愛しなさい」と言うとき――その言葉が何を意味するのか、あなたがたはわかっているか。真理を愛し、善を愛し、光を愛し、互いに愛し合い、真の命を愛しなさい。（97, 57-58）
135.
弟子たちよ、あなたがの闘いの目標は、もはやいかなる苦痛も及ばないような状態であることを知れ。そして、この目標は、功績、闘い、試練、犠牲、そして献身によって達成されるのである。

136.
あなたがが時折、周囲の人々のうちに見出す不信や誤解、そして服従の拒絶を嘆くな。彼は人類の神に彼の模範をすすめるために、わたしが遣わした魂たちである。一見、これらの存在の運命は悲惨に見えるが、彼らは自らの信仰において、ある使命を果たすために来たことを知っている。
137.
あなたがは師の中で、わたしの偉大な弟子たちの偉大な模範を受け取ってきた――あなたがたもまた多くの者たちである。しかし、それゆえに、あなたがの人生の道に出会う小さな模範たちを見過ごしてはならない。（198, 30-32）
138.
預言者、先駆者、そして光の使者たちが、イスラエルの民の神の存在たちと考えないでほしい。私は地上の民の神と彼らの部族神としたが、人々は彼らを偉大な神々と見なし、彼らの教えから宗教業務を作り出したのである。（135, 15）
139. 弟子たちよ、まず自分の目にある梁を見よ。そうしてはじめて、兄弟の目にある「おが」を見る確かが得られるのだ。
140. つまり、私はあなたがが私の教えを用いて、様々な宗派に属する同胞たちの行いを非難してはならないと言いたいのだ。
141. まことに、私はあなたがに言う。あらゆる道において、高潔な人生に満ち生活を通してだけが救いがあるのだ。
142.
それにもかかわらず、弟子たちは私に繰り返し問う。なぜ時々、同じ人、対立する人の間に敵意を招くような、そうした世俗的な事柄を論争するのかと。
143.
これについて、師はこう言う。それが許されているのは、まったく同じ理解、同じ光、同じ確信をもつこの魂などが存在しないからであり、さらに、あなたがには自分の道を選ぶための自由意志が与えられているからである。
あなたがは、決して律法の道を歩むよう強制されたのではなく、その道を選ばれたのであり、それによって、真理を求める中で真の成熟を積む自由を果たすことができるのである。（197, 23-24）
144. 私は、あなたがが判断を下す際、軽率であるべきではなく、まず第一印象に早まってだけはならないことを学んでほしいと願っている。
145. 私がこの助言を与えるのは、あなたがが私の言葉を聞く際、また教義、宗教、哲学、教団、霊的啓示、あるいは宗教について判断をしなければならない際、あなたがが知っていることが存在するすべてではないこと、そしてあなたがが知っている真理は、ここである形式で現れている絶対真理のごく一部に過ぎず、しかし、あなたがにはまだ知られていない他の多くの形式で現れる可能性があることを認識できるように、この助言を与える。（166, 33）
146.
隣の宗教信念を尊重し、彼の教会に入る際は、私があらゆる礼拝の場で経験していることを知っているので、謙虚な敬意をもって頭を下げなさい。
147.
わたしなどのために世を否定してはならない。また、この世を果たす義務があるという事実で、わたしから離れてはならない。この二つの領域を一つに融合させることを学べ。（151, 53）
148.
私は、誰かを判断することなく、全人類を祝福しているではないか。その祝福という「マント」には、善良で義なる者も、高慢な者や犯罪者に等しく包まれている。なぜ彼らを憎しむのか。他者のために嫌悪感を抱いているというのか。
149.
あなたがは人類の一部であることを忘れるな。人類を愛し、許すべきであり、拒絶してはならない。それは、あなた自身に対する嫌悪感を抱くようなものだからだ。あなたがが隣に見るすべてのものは、多かれ少なかれ、あなた自身の中にあるのだ。
150.
それゆえ、私はあなたがに、自分の価値を探すことを学び、自分の精神的、道徳的姿勢を調べることを望む。そうしてこそ、あなたがたは自分自身を正しく評価できるようになり、他者を見極める確かが得られるのだ。

151. 隣の過ちを探してはならない。自分自身の過ちだけで十分である。（86, 41-42）

152.

あなたがたは、愛を互いに自分の家族だけに限定して、互いに愛し合うという私の戒めを果たしていると思うのか。宗教団体は、自分たちの信者だけを愛し、他の宗派に属する者を憎むだけで、その至高の戒めを果たしていると考えているのか。

153.

文明と進歩を誇りとする世界の偉大な諸国民よ――もし彼の全力が同胞殺しの戦争への準備に費やされていなければならないとしたら、果たして彼は、霊に進歩を遂げ、イエスのその教えに従ったと言えるだろうか？

154.

ああ、人々よ、あなたがたは私の言葉の価値を一度も理解しようとはせず、主の食卓に近づこうともしなかった。主があまりにも貧弱に見えたからである！それでもなお、私の食卓は、あなたがたの魂のための命のパンとぶどう酒を携えて、今もあなたがたを待っている。（98, 50-51）

155.

わたしの業を重荷と思わず、父と隣を愛するという美しい務めを果たすことが、あなたの魂にとって重いことだと口にするな。真に重いのは、あなた自身の中の悪という宇宙であり、そのためにあなたは苦しみ、血を流し、さらには死ななければならないのだ。

感謝を知らない心、理解の欠如、利己心、そして憎悪は、あなたがたがそれらを容認するならば、重荷となるのではないだろうか。

156.

反抗する者にとって、わたしの律法の履行は厳しく難しく思えるかもしれない。それは、律法が完全であり、悪も嘘も容認しないからである。しかし、従順な者にとって、律法は彼の庇護であり、支えであり、救いである。（6, 16-17）

157.

また、わたしはあなたがたに言う。人々はみな互いに寛容と忍耐を持たなければならない。なぜなら、あなたがたはこの地において皆が互いに必要としているという事実に至らなければならないからだ。

158.

あなたがたが「私は信じている」と言う一方で、私があなたがたの全ての行いを疑っていることを知っているという状況において、私がそれを喜んでいるなどと思ってはならない。

なぜなら、私があなたがたに期待しているのは、隣に対しての寛容と忍耐、自分を傷つける者に対して、最も貧しく、最も卑しく、最も弱い者たちへの愛をもって支え、区別なく同胞愛し、すべての者に最大限の無私の奉仕を貫くことだからである。

159.

わたしから学びなさい。わたしは決してあなたがたを疑うことなく、あなたがたの救いを望み、あなたが真の命に至るために立ち上がることを願っているからである。（167, 5-7）

160.

あなたがたの父を愛し、隣に近づきなさい。あなたの心と魂にとって有害なあらゆるものから離れなさい。これが私の教えである。そこに、どこに難しい不可能なものがあるというのか。

161.

いいえ、愛する民よ、私の言葉に従うことは不可能ではない。難しいのはそれではなく、あなたがたの改悛、回心、そして霊である。なぜなら、あなたがたは貧しさと高慢さの奴隷だからだ。

しかし、私はあなたがたのあらゆる疑い、無知、そして憂鬱さが消えなければならないことを知っている。だから、私はこれからもあなたがたを教え続ける。私にとって不可能なことなど何もないからだ。私はあなたがたの命のパンであり、岩から湧き出る水のように、あなたがたを勇気づけることができるのだ。（149, 63-64）

162.

私はあなたがたに、その律法を思い出させたい――それは、あなたがたの精神から消えることも、心から忘れ去られることも、また疑

われることを許されないものである。なぜなら、それはすべての人間が面に神と導光を宿すことができるようにと、賢明な女性すなわち普通な女性によって示されたものだからである。

163.

人生のあらゆる行為が真理と正義に基づいてなされるためには、律法に対する深い理解が必要である。律法なくしては、必然に多くの過ちを犯すことになるだろう。

しかし、私は問う。あなたの霊は、かつてあなたを聡明な光へと導いたことはなかったのか？まことに、私はあなたに告げる。霊は決して無為でも傍観でもなかった。内なる声を聞いていたのは、あなたの心であり、またあなたの理性である。それは外なる光、すなわち世俗の知識の光に照らされていたからだ。（106, 13-14）

164.

今日、私が教えについて詳しく解説するあまり、魂と肉体を結ぶ道のりでなされるすべてのことは、その両方に善及するということを、あなたが理解せねばならない。

165.

良い直感、そして聡明は、あなたが安全な道を示し、転落を避けるよう導く案内人である。これらの光は霊に属するものだが、それを輝かせる必要がある。

その聡明があなた一人ひとりの内に宿る時、あなたはこう叫ぶだろう。「父よ、あなたの教えの種は私の存在の中で発芽し、あなたの言葉がいま私の人生の中で開花しました。」（156, 37-38）

166.

わたしはあなたがの魂に偉大さをもたらすために来た――それはわたしの愛であるわたしの律法の成就に根ざした偉大さである。しかし、あなたがは、師なるという宝を果たすことによって、この偉大さにふさわしい者となる必要がある。（143, 29）

167.

私は常にこう言うだろう。この世から与えられる喜びを享受せよ。しかし、私の律法の範囲内でそれを楽しみなさい。そうすれば、あなたがたは完全となるだろう。

168.

あなたがたは、良心の呵責を繰り返し耳にする。それは、あなたがたが、私から与えた律法によって、肉体を聖別させていなからである。

169.

あなたがたは赦されないと思い込んで、しばしば罪に陥り続けている。これは誤った考えである。なぜなら、私の心は、悔い改める者に対して常に開かれている扉からである。

170. あなたがたの中には、より良い未来を望む勇気をもたらす希望が、もはや残っていないのか。霊は絶望してはならない。常にあなたがと共にあり続ける愛を思い起こしなさい。あなたの疑いに対する答えを、あなたの中に求めなさい。そうすれば、あなたはすぐに新たな啓示によって照らされと感じるでしょう。信仰と希望の光が、あなたの魂の深くで輝き出すでしょう。そうすれば、あなたは弱き者たちの守り手となるのです。（155, 50-53）

171.

あなたが傷つけた人々を心から赦すよう、常に霊に目覚めた状態でありなさい。他者を傷つける者は、ただ霊性の光に欠けているがゆえにそうしているのだと、あらかじめ心に留めておきなさい。しかし、私はあなたがに告げる。赦しこそが、その心に光をもたらす唯一の手段なのだと。恨みや復讐は闇を増大させ、苦しみを招く。(99, 53)

172.

あなたが完全なものを求め、それを維持する良心は、あなたがが隣人に真の赦しを与えるまで、決して安らぎを与えてはくれないだろう。

173.

あなたが憎む者たちを、なぜ愛する必要があるのか。彼らは、あなたががわたしのもとへ至るための踏み石に過ぎないではないか。もしあなたがが赦さなければ、不徳を積むことになる。そして、あなたがが死の領域に入ったとき、地上において、あなたがの霊性に手を差し伸べてくれた者たちをも、裁くだろう。

その時 あなたがたは 彼こそまさに自己を救い主のもとへ至る道見出せるよう祈るであろう。そして、あなたがたの執成によって、彼らはその恵みを受けるようになる。（44, 44-45）

174. 絶望あまり、わたしやあなた方を冒涜する者たちから背を向けてはならない。わたしは彼のために、わたしの香油を満たす。

175.

あなたがたにとって最愛なる者を傷つける者であっても、誰に対しても敵意を持て。まことに、あなたがたに告げる。こうした試練を通じて、あなたがたが謙遜や真実を求めるならば、それはあなたがたの魂の成長の道において、さらに一段階と到達することとなる。

176.

それなのに、あなたがたは慢心を、あなたがたが私に近づくのを助けてくれる者たちへの敵意を抱こうというのか。私を冒涜するという霊的な罪を犯し、あらゆる災難を招くために、暴力によって福音を覆してしまうつもりなのか。

177.

まことに、わたしはあなたがたに告げる。この災いは、まさにあなたがたと、それがもたらす破滅からではない。もし彼がわたしの言葉を信じるようになれば、この真理を信じるようになるであろう。（111, 64-67）

178.

愛する民よ。兄弟たちとともをつくしなさい。そうすれば、あなたがたがわたしと対する時、わたしがあなたがたに吹き込む愛によって、最も小さい悔やみをも自ら赦すことができるようになるであろう。

なぜ自分が何をしているのかを知らない者を赦さないのか。彼は、その悪を自ら行っていることに気づいていなかったから、知らないのだ。（35, 9, 25）

179.

どれほど侮辱されようとも、そのたびに赦しなさい。赦さなければならない回数の多さなど、気にする必要はない。あなたがの使命は極めて高きものであるから、道の途中のこうした落とし穴に引っかかってはならない。なぜなら、その先には非常に大きな報酬が待っているからだ。

180. あなたがたは、より高い次元へと昇華できるよう、常に愛と理解と善行の準備ができているべきである。

181.

かつて多くの預言者が、その行いによって霊の永遠の書に美しいページを記したように、あなたがたも彼の後継者として、この歴史を継続しなさい。それは、これから生まれてくる新しい世代にとっての模範となり、彼の喜びとなるためである。（22, 52）

182. 平和を求めよ、愛し、至る所に広めなさい。人類は、どれほどそれを必要としていることか！

183. 人生の浮き沈みに動揺してはならない。そうしてこそ、常に強くあり、自分が持つものを与える準備ができているのだ。

184.

すべての預言者であるその子は、この時代には現れ、戦争に取って代わられ、国家を苦しめ、制度を破壊し、魂を滅ぼしてしまった。

185. その理由は、悪が人間の心を支配してしまうからである。憎しみ、度を越した野心、抑制のきかない貪欲が蔓延し、害をもたらしている。しかし、その支配も、もはや長くは続かないだろう。

186.

あなたがの喜びと安らぎのために、私は告げる。あなたがの隣人すべてに近づいている多くの人々の目覚めのために尽力しなさい。彼らは、あなたがの愛と清らかさと謙虚さの中で息をすることを望んでいるのだ。（35, 18）

187.

あなたがたは、人生の歩みの全過程において、実践的隣愛を行なわなければならない。これこそあなたがたの使命である。あなたがたには、様々な形で援助を行うための多くの術が備わっている。もしあなたがたが準備の方法を理解すれば、あなたがたが不可能と思うことを成し遂げることができるであろう。

188. あなたがたが盛装して行う愛の行為は――それもまた愛の行為ではあるが――やはり、より高次のものではないだろう。

189. 愛と赦しと平和を、あなたがたは隣人の心に届けなければならない。

190.
私は、もはや私の律法に従わないパリサイ人や偽善者とは話さない。私は、隣の痛みを感じる弟子たちを選ぶ。悔い改めた罪人たちを含めるべきを、彼らとの宗教会議に属していようとも、私は厳しく、彼らに真の道をはっきりと示してやる。（10, 104-107）
191.
私の言葉を聞きなさい。この世は嘘であり、善を行いなさい。そうすれば、天国でその実を刈り取ることができる。悪を行う時、証がそこにあるのなら、なぜ善を行う時、証がそこにあることを喜ばないのか。ただ義務果たしただけなのに、何を誇るというのか。
192. あなたがたはまだ、突然で聞くあるかに、私の言葉は傷つけるものであることを理解せよ。
193.
なぜ、善を行った後に、父がそれに対する報いを与えてくれると期待するのですか。そう考える者は、無償で動いているわけではなく、それはその報いがあり、その愛は真実とは言えないものです。
194.
あなたがた善を行っていることを世に示しなさい。しかし、それは称賛を受けるためではなく、ただ良い手本を与え、わたしの真理を証しするためである。（139, 56-58）
195.
もしあなたがの魂が、霊の谷にまだ、地の深みに行くについて説明を求めるならば、私があなたがたに最初に問うのは、あなたがが同じために願い、行ってきたすべての事である。その時、あなたがたはこの日の私の言葉を思い出すだろう。（16, 17）
196.
「第一の時」において、人類は私に幾つかの十字架を与え、人々はそれらの十字架の数々を裁いた。しかし、私の霊においては、私はより重く、より血にまみれた十字架を背負っていた。それは、あなたがの不完全さと、あなたがの罪によるものである。
197.
もしあなたがが、隣のために愛情の十字架を背負うならば、それによって私の御許に至ることができるだろうか。見よ、私はそのためにあなたがたを地上に遣わしたのだ。それゆえ、あなたがが使命を全うして私の御許に立つとき、あなたがの霊は実現する。この十字架こそが、約束された王国の門を開く鍵なのだ。(67, 17-18)
198.
わたしは、あなたがたすべてを含めることを求めてはいない。それは、わたしが「第一の時」にわたしに従う者たちに求めたこととは異なる。
彼の中には、両親を捨てた者もいれば、伴侶を捨てた者もいた。彼らは家、故郷、漁船、網を捨てた――イエスに従うために、これらすべてを置き去りにしたのである。同様に、この時にあなたがが血縁を制限することも、私は望まない。（80, 13）
199.
あなたがたは、精神において肉体において変容しなければならないこと、そして、先祖から受け継いだ多くの習慣や考えが、霊のための道を切り開くために、あなたがの生活から消去されなければならないことを理解せよ。（63, 15）
200.
現在、あなたがたは皆、霊たちが何を意味するかを理解しておらず、また、なぜ私があなたがたにこの短い言葉を与えるように求めているのかも理解していない。私が何を求めているのかさえ明らかでないのに、どうして私の求める書いてない徴を見いだせるだろうか。
201. しかし、師の弟子たちと共にある理由を理解する者たちは、彼らと師の不在なども悲しまないだろう。（161, 38）
202.
もしあなたがが、真の霊の道になりたいと願うのであれば、粘り強く、忍耐強く、学ぶ意欲を持ち、注意深くあるべきである。そうすれば、その道のりにおいて、徐々に自分の行いの実を刈り取る機会を与えられ、それによって、光あふれる真理の悟りである霊的な宝を重ねることができるからである。（172, 9）

203.
私は新たな教団をもたらす。それによって、あなたがたは地上で霊的に生きることを、すなわち、神によって人間に定められた真の生活とはいかなるものかを学ぶことになる。
204. 私はすでに、あなたがたに霊とは、偶像でも、宗教的言葉でも、超自然的現象でもないと告げた。
霊とは、魂と身体の調和、神と人間の深い交わりの中で生活における喜びと清さ、父の絶対的かつ深い信頼、隣人を通して神に仕えることへの情熱と喜び、そして道徳的完全性という理想である。（179, 65-66）
205.
あなたがたは、「天の御父の栄光がどのように顕されるのか」と問い、あなたの前に立ってこう言う、数多の光と霊性である、それは、私が選民であるイスラエルに見せた顕現である。
206.
あなたがたは、すべての美徳と開花した能力をもって、私のところに来なければならない。あなたがたの成長の第二の段階、すなわち第二の階段において、あなたがたはこの私の元へ辿り着き、私があなたがたを迎え入れるためにその門戸を開くのを見るだろう。（140, 6）
207.
まず理解すべきは、人が完全な霊に達しない限り、物質性や形を愛し、私の姿を表すために、偶像や絵画を前に置くことになるということだ。
208.
人の霊の度合い、あるいは物質の度合いは、彼の宗教儀式のあり方によって測ることができる。物質主義者は、地上の物の中に私を求め、もし自分の五感に私を見ることができないならば、私を目の前にしているという感覚を得るために、何かの形で私を表現するのだ。
209.
わたしを霊として理解する者は、自分の中に、自分の外に、そして周囲のあらゆるものの中にわたしを感じる。なぜなら、その者はわたしの神殿そのものとなっているからである。（125, 49-51）
210.
私に霊性と奉仕をささげよ。金や宝石で覆われた教会や祭壇を築く者たちのようになってはならない。長い巡礼の旅に出かけ、非常に困難な難所によって自らを苦しめ、口先だけの祈りを唱えてばかりいるが、なお私に仕えることのできない者たちのようになってはならない。
わたしは良心を通してあなたがたに話しかける。それゆえ、こう言うのだ。自分の行いを正し、それを律する者は、天の父の前において何の功績もない。（115, 9）
211. わたしの律法を全うするためには、祈り、常に自分の隣人のもとへ向かわなければならない。
212.
あなたがたが祈るために、むしろ孤独と静寂を求めるのを見てきた。祈りを通して霊と交わろうとするとき、私に語りかける時は、そうするのは良いことだ。
しかし、同時に、どのような状況にあっても祈るべきだと告げる。そうすれば、人生で最も困難な瞬間においても、平静と自制を失わず、私の臨在の確信と自分自身の確信を保ちつつ、私の助けを受けることができるようになるからだ。（40, 34-35）
213.
静寂の中で、あなたの苦しみを私に語り、あなたの切なる願いを私に託しなさい。私はすべてを知っているが、あなたがが、自分の精神と父との完全な結合に達するまで、少しずつ自分自身の祈り方を学んでほしいと願っている。（110, 31）
214.
あなたがたは、祈りがもたらす効果に気づき、魂を準備し整えるために、物質的な助けを願うために、祈りを奉げる際、そこに内在する神秘なものを理解するようになった。

215.
『父』という言葉を口にするだけで、あなたの全存在が震え、その愛ある恵みで心が満たされるのを感じるのに十分であったことが、しばしばあったと思い出してください。
216. あなたがわたしを呼び求めるたびに、私の霊魂が震えることを知ってください。
217.
あなたがわたしを『父』と呼ぶとき、その名があなたの内から勇壮な時、その声に応答し、あなたは神の御座から何かの秘義を引き出すのである。（166, 49-51）
218.
あなたは願い求め、待ち、受け取ることを学ぶ必要がある。また、私があなたに与えるものを共有するだけでなく伝えることを忘れてはならない。それが最大の喜びである。日々、戦いで命を落とす人々のために祈りなさい。
私は純粋な心で祈る者たちに対し、1950年以前に戦死した全員が霊において復活することを約束する。（84, 53）
219.
今日、あなたはまだ弟子であり、私の教えを常に理解できるとは限らない。しかし、まずは心を込めて神に語りかけなさい。そうすれば、神はあなたの存在の最奥部で答えてくださるであろう。あなたの魂に語りかける神のメッセージは、明瞭で、賢明で、愛に満ちた声であり、あなたはそれを除いて全く、やがてそれに慣れていくことになる。（205, 47）
220.
私が諸教会のあらゆる祭壇、特に、そして華やかさは消去されなければならない、そしてそれがあれば、愛と真理に創られた人々の群れが贅を尽くした食卓ばかりで整えられている、と告げても、驚いたり憤ったりしてはならない。
221.
多くの人々はこの言葉を聞くと、それが私の言葉であることを否定するであろう。しかし、その時私は彼らに問うであろう、なぜ驚くのか、そして体を守ろうとしているのかと。彼の力か？それは私である。私の律法か？それについても、私が守っているのだ。
222.
恐れることはない。私の義を守るために死ぬ者は誰一人としていなかった。死ぬのは悪人である。善と真実と正義は永遠に続くからである。（125, 54-56）
223.
この特別な使命が世界が再び霊性の輝きを感じるなどとは信じがたいことだと考えるか。私は言う、私の力は無限であるから、信じがたいことなど何一つないのだ。内なる確信、信仰、光、そして善は、魂にとって、あなたの身体にとっての食べ物や睡眠よりも、はるかに切実に必要である。
224.
たとえ精神の働きが資質の長い間眠っていたとしても、私の呼びかけによってそれらは目覚め、人生におけるあらゆる事柄を半霊性への回帰をもたらすであろう。それは過去の時代よりもさらに偉大なものとなる。なぜなら、今やあなたがそれを理解する備えをより備えているからだ。（159, 7-8）

発展

225.
あなたが人間の肉体が発達していくのを見るのと同様に、魂もまたその中で開花していく。しかし、肉体はその発達において限界にぶつかるが、魂は完全性を達成するために多くの肉体を必要とする。それが、あなたが輪廻転生する理由である。
226.
あなたは父なる神と母なる神の創造の霊から、純粋で、素朴で、清らかな種のように生まれた。しかし、誤解してはならない、純粋で素朴であることと、偉大で完全であることとは、同じことではなかった。
227. これは、生まれたばかりの赤ちゃんと、子供たちが皆驚嘆する驚異的な大人をとることによって例えることができる。

228.
これが、あなたの魂が発達した時点で、人生のあらゆる段階におけるあなたの姿となるでしょう。しかし、あなたの魂が進化など遅いことか！（12, 57-60）
229.
よく学び、深く考えなさい。なぜなら、ある人は、もしあなたの魂が神性の断片であるならば、どうしてそれが苦しむことがあり得るのかという考えに悩んでいるからだ。また、もし霊が聖霊の光であるならば、どうしてそれが時や闇を知ることがあるのか。
230.
この発展の道は、神に対して十分に忠誠なものであることを悟りなさい。それによって、あなたがたは自分の魂を、無知で未発達な魂から、父の右に座る輝ける光の霊へと変えることができるのだ。（31, 12）
231.
わたしはあなたがたが善であることを望む。さらに、あなたがたが完全なることを願っている。なぜなら、あなたがたは見ることのない存在を見るかもしれないが、永遠の命において、わたしの光のなかにあるがゆえに、物質的なものの世界より先に進んでいるからである。
232.
あなたがたは霊的存在である。私があなたがたを完全への道へと招くのかを理解するためには、霊は何を認識しなければならない。（174, 60）
233.
あなたがたは発展の法則に服している。これがあなたがたの存在の理由である。ただ私の霊だけは発展する必要がない。私は神聖だからである。
234.
初めから、私は、魂が私のもとへ至るために登らなければならない階段を示してきた。今日、あなたがたは自分がどの段階の次にいるのかを知らない。しかし、肉体を離れるとき、自分の発展の段階を悟ることになるだろう。立ち止まってはならない。そうすれば、後に来る者たちの妨げとなるからだ。
235.
たとえ最も低い次元にいようとも、霊において成長しなさい。そうすれば、いつの日か、七番目の、すなわち最高の次元において、あなたがたはわたしの愛を享受することになるだろう。（8, 25-27）
236.
私は、あなたがたが一度は地上に来るのではなく、魂がその発展を完成するために必要とされるだけ何度も肉体という器をまとってきたと語った。今、私は付け加えなければならない。目標に達するまでの時間が短くなるか長くなるかは、あなたがたの願いと努力であり、それはあなたがた自身にかかっているのだ。（97, 61）
237.
あなたがたのうち、この世に存在していなかったと証明できる者がいるだろうか。転生を繰り返しても絶対に確信している者たちのうち、父との清算が済んでおり、なお「プラス」の状態を有していると証明できる者がいるだろうか。
238.
自分が霊的完成に達しているかを知っている者は誰もいない。それゆえ、最後まで戦い、愛し、粘り強くあり続けなさい。（46, 58-59）
239.
私があなたがたに新たな啓示を与えるために必要だったのは、私が人として顕現した時から、この時に霊として再び来るまでの間に、あなたがたが地上で多くの転生を重ねてきたことだった。そしてそれゆえ、私があなたがたに過去の教訓を問うとき、また私が新たな啓示を授けるとき、それを理解できるようになるためである。（13, 52）

240.
あなたが世界に伝えるメッセージが、ますます明瞭に現れるための肉体を持つために、いったい何度、地上に戻らなければならないのだろうか。
241.
この人生において、あなたの魂にぴったりのその着物を探し、それを選び、そしてその途上の旅の中で、わたしのもとに戻るために必要な経験を見出せるようになさい。
242. 富める者たちが、あまりに僅かしか寄付をしない方で、あなたが経験すべき真の試練があるべきである。（42, 72）
243.
この時、あなたがたは、あらゆる分野において物質化しているにもかかわらず、過去の転生で得た経験によって、前より精神が減じ、より高度な発達した類無き戦いとなる。
244.
今日、もしあなたが大多数の人のように、神の業を理解せず、表現しない人生を送ったとしても――たとえそれがあなたにとって驚きであり、不快に感じられたとしても――もはやその人生をそのまま継続させられることはないだろう。（4, 21-22）
245.
あなたは、魂の輪廻転生について周囲の人々に話すことを恐れているのか。その中に含まれる慈愛に満ち正義を、あなたは確信していないというのか。
246.
この贖罪の教えを、地獄の永遠の罰という教えと比較してみよ――それは、人類次々の堕落を防ぐために用いる観念である。これらこの種類のうち、どちらが、神聖で完全かつ慈愛に正義という観念をあなたに伝えるか、私に告げよ。
247.
一方は憎悪、限りない恨み、復讐を説いている。他方は赦し、父なる愛、そして永遠の命を得るという希望のみを含んでいる。誤った解釈によって、私の教えがどれほど歪められてしまったことか！
248.
私は、あなたが教えることのために、あなたが戦なければならないことを知っているからこそ、その戦いに備えさせているのだ。
しかし、もし今この時、あなたが敵対している人々の死の前に驚かされ、彼らの最後の呻き声を聞いた時、私が彼らに問うたとしたら――彼らが信じている永遠の炎と、新たな人生において自らを清める機会と、どちらを望むかと――まことに、
言っておくが、彼らは後者の選択を選ぶだろう。たとえ彼らが狂信者どもらんで、生前はその選択を戦っていたとしても。（120, 15-17）
249.
私が私の言葉の中であなたが語るように、魂の輪廻転生が真実であることを知るだけで十分であり、そうすればあなたの心はおどり、あなたは私の慈愛に満ち正義をさらに深く称賛するようになるだろう。
250. 各節のそれぞれの教えに対して提示できる諸々様々な解釈を比較し、最も正義に満ち、最も理にかなっているものを選びなさい。
251.
しかし、まことに、私はあなたがたに告げる。これは、この偉大な真理に対する理解が覚醒しつつあるこの時において、人の精神を最も高く位置づける教えの一つである。（63, 76）
252. あなたがたは、魂の輪廻転生こそが、人類が信じるべき偉大な真理の一つであることを認識しなければならない。
253.
ある人々は、人間に対する私の慈愛に満ち正義において欠けることのできないものとして、直ちにそれを感じ、受け入れ、信じている。しかし、あなたを地獄に落ちる者、嘘つきと呼ぶ者も大勢いるだろう。

254.
心配するな。イエスが教えたように、死からの復活を説いたとき、私の弟子たちと同じことが起きるのだ。司祭や裁判官たちは、彼がそのような教えを説いたために、彼を牢獄に投げ込んだ。
255.
その後、世の人々はその教えを受け入れたが、彼がその教えの真の意味を完全に理解できていなかったことは、私は断言できる。それゆえ、今この時、私が来て、あなたがたに教えなければならないのだ。肉の復活とは、魂の再生を指すものではない。なぜなら、魂こそが生命の本質であり、その根源であり、真に永遠なるものだからである。
死んだ肉体は、魂が去ったあとは、一体何のために再びよみがえる必要があるというのか？
256. 肉体は大地に還り、大地と混ざり合う。そこで肉体は分解され、変容し、純化され、新たな生命として甦る。一方、魂はさらに上へと発展し、完全性に向かって進化する。そして魂は地上に戻る時、それは魂にとって人間としての生活の復活であり、また、その新しい肉体の誰にとっても、魂と結びついた復活なのである。
257.
しかし、物質的なものは死滅性質をもつものではないが、霊的なものはそうである。それゆえ、私が求めているのは、私の教え、私の上に置きたいと願っているのは、あなたの魂であると、私はあなたに告げる。（51, 56-58）
258.
あなたがたの魂は、私があなたがたの完成の機会として与えたにもかかわらず、あなたがたが活用しなかった人生によって作り出された鎖を苦労して引きずっている。それぞれの存在が鎖の一つの環を成している。しかし、もしあなたがたが私の教えに従って生きようと、律法を守るならば、もはや苦しむために、この世に戻ってくることはないだろう。
259.
もしあなたがたが、私の言葉を学ぶ時を浪費するなら、時そのものであるが、あなたがたを驚かせるだろう。学びなさい。そうしてこそ、私の業において、あなたがたにふさわしい場所を与えることができるのだ。
私は輪廻転生を教えており、あなたがたの魂の向上に役立てるよう、この恵みを授ける。私は、あなたがたの一生を通じて教えを授けるものである。（168, 250）
260.
あなたがたの神性に関する誤った考えを捨て去りなさい。あなたがたは皆、ただ一人の神から生まれたのだということを理解しなさい。（181, 63-65）
261.
宇宙を見よ。その完全さと美しさのすべてを称えなさい。それは、主の御業がそこから霊感を受け、その中での姿を見るために創造されたのだ。あなたがたがこのように創造されるならば、あなたがたの理解力は神性と高められるだろう。（169, 44）
262. この時代は、人の精神を覆っている暗いベールを引き裂き、彼を導いて、真の道と至ることを妨げている鎖を打ち砕く。
263.
まことに、私はあなたに告げる。私の教えのあらゆる識別の探求を禁じていると考えてはならない。なぜなら、あなたの関心、賞賛、そして育まれる覚悟は、他ならぬ私からである。そのために、私はあなたに思考力を与えたのだ。それは、その能力が望む方向へと、何の妨げもなく進むためである。
264.
私は、あなたがたが自分の道に見いだすものを理解できるよう、知性の光を授けた。それゆえ、私はあなたがたに言う。発見し、探求せよ。しかし、私の神秘や過去の啓示を、敬意と謙虚さに満ちたものであるよう意せよ。そうすれば、それは真に許されることとなる。
265. 私は、人々が書いた書物を読むことを禁じてはいない。しかし、あなたがたは、つまずいたり、誤りに陥ったりしないよう、訓練を受けなければならない。そうすれば、人間がかつてその生涯で成し得たよりも遠くまで来たのを悟ることとなるだろう。

266.
そうして準備整ったなら、あなたがたは私の教えと啓示の泉に向かわなければならない。そうしてこそ、私はあなたがたに、待ち受ける未来と目標を示すことができるのだ。（179, 22-23）

267.
私は提言する。もしあなたがたが、関心と愛をもってこれらの教えの真意を探求しようと志すなら、一歩一歩進むごとに、霊性を通じ、完全な愛、そして神聖な正義という真の理解を会得することとなるだろう。しかし、もしあなたがたがこれらの啓示を無視し見なおせば、それらがもたらすすべての実りを失うこととなるだろう。

268.
あなたがたの多くが生きているように、私の啓示を通してではない。すなわち、見ているように見ておらず、聞いているように聞いておらず、考えているように理解していない、というように。（33, 11-12）

269.
私は、あなたがたが私の霊、あるいは霊性そのものを、あたかも物質的な対象であるかのように、論じることを望まない。科学者のように私を研究することを望まない。そうすれば、あなたがたは甚だしく嘆かわしい誤りに陥ることとなるからだ。（176, 17）

270.
私の教えのすべては、あなたの本質に含まれるすべてのものをあなたに明かすことを目的としている。なぜなら、この知識から、永遠なるもの、完全なるもの、すなわち神へと至る道が見出されるからである。（162, 43）

浄化と完成

271.
今日、あなたがたは私のそばに来るようにと、その苦しみを私の前に差し出している。そして、まことに、私はあなたがたに告げる。これこそが私の使命であり、私がこの地に来たのである。なぜなら、私は神の医者だからである。

272.
しかし、わが癒しの香油があなたがたの傷口を洗う前に、わが愛無きあなたがたは、最初に自分自身に集中し、その痛みを知り、探求しなさい。それは必要な時間をかけて、徹底的に考え抜くのだ。そうして、この考えから、この試練がもたらす教訓をまさに悟っている、あなたがたがふさわしい真理を引き出せるようにするためである。
この気づきと経験なしに、信仰なしに、真実の顔を見つめることなしに、多くの者にとって理解が、試練と教訓に対する洞察となるだろう。

273.
痛みを、あたかもそれを取り除くものかのように探しなさい。そうすれば、その中に経験という美しい種、すなわちあなたの存在における偉大な教訓を発見するでしょう。なぜなら、痛みはあなたの人生における恵みだからです。

274.
痛みを恐れず、再生、悔い改め、変容のために痛みが発する警告の声を素直に聞き入る者は、やがて静寂、平安、そして健康を得るようになるだろう。

275.
自分自身を注意深く見つめ直せば、そこからどれほどの益が得られるかを悟るだろう。あなたは自分の欠点や不全さを認識し、それをすることで、他人を裁くことをやめるようになる。（8, 50-53）

276.
私が望むだけで、あなたはすぐに清められているだろう。しかし、もし私があなたを清める者であるなら、そこにどのような意味があるだろうか。誰が私の律法に違反する罪を償わなければならないのか。これこそが癒しである。なぜなら、そうすれば、その痛みがあなたを思い出させてくれるため、将来、転落や過ちを避ける術を知ることとなるからだ。

277.
犯した過ちとその当然の結果との間に、試練、悔い改めが存在するならば、その痛みはあなたたちに及ばない。なぜなら、その時は、あなたたちはすでに、試練を通して苦しみだけの益を得ているからである。
278.
世界は極めて多くの罪を犯している。しかし、私は世界を罰してはいない。だが、その審判後に、世界は私のもとへやって来るだろう。私は彼を呼んでいるのだ。そうすれば、かつて恐れおののいていた者たちも、自分の存在を恵みで満たしてくれた御方に感謝することを知るようになるだろう。（3, 30-31）
279.
自分の肉体の過度な愛着を含め、自分の魂の汚れを拭き去り、魂が清められ高められるよう助けなさい。これを成し遂げれば、魂は肉体よりはるかに強くなるかを体験することになるだろう。
280.
心配のしすぎはやめなさい。もし魂が病でないなら、どうして心に平安がありえようか。そして、もし魂に良心の呵責があるなら、果たして平安を享受できるだろうか。（1, 72-73）
281.
もしこの地が、あなたが望むすべてのものを与えてくれ、そこに大きな試練が存在しなかったとしたら――そのとき、あなたがのうち、誰が私の王国に来たいと願うだろうか。
282.
痛みを冒涜したり呪ったりしてはならない。なぜなら、その痛みはあなたの過ちによって生み出されたものだからだ。忍耐をもってそれを背負いなさい。そうすれば、それはあなたを清め、わたしに近づけさせるだろう。
283.
あなたがたは、この世の事物にどれほど深く根ざしているか、気づいているか。さて、そこから離れたいという願いが非常に激しくなる時が来るだろう。
284.
精神を冒涜することによって試練に打ち勝つことができる者は、その瞬間に平安を見出す。地上でそれを見出した者は、つまずくこともなく、また、その贖罪の道筋に足を傷つけることもない。（48, 53-55）
285. 汝の使命を果せ!
私が示した道を歩み終える前に、私のもとへ戻りたいと願ってはならない。そうすれば、贖罪の道のりを最後まで歩み終えないために、まだ洗い清められていない魂の汚れを目の当たりにするという苦痛を味わうことになるだろう。
286.
罪はあなたの身から遠ざけたが、あなたの多くは、父がそれによってあなたに授けてくださった無限の恵みと愛を、十分に感謝しなかった。
287.
よく考えてみよ。機会の数が多いほど、あなたの責任は重くなる。そして、その機会が活用されなければ、その機会のひとつひとつに、贖罪の重荷と償いの義務が増す。これが、多くの者が理解できない耐えがたい重荷であり、私の教えだけがあなたに明らかにできるものである。（67, 46）
288.
人が直面している試練は、彼が刈り取っている果実であり、彼自身の時が種まきの果である。その収穫は、時に指折り数えた時が種まきの果であり、またある場合は、それより何年も前、あるいは地上生活において、ずっと前の果実である。（178, 2）
289.
不幸の試練は突然現れるとは考えないでほしい――そうではない。しかし、私があなたに告げるのは遅すぎ、あなたは自分

の行いに対して責任を問われるということだ。たとえ時過ぎでも私の言葉が何の兆しも示さなかったため、あなたの過ちはその結果なかったかのように思えたことがあったとしても。

290.

しかし、あなたがはすでに私の言葉によって、わたしが義を主として語ること、そしてあなたがのまどの時期には、あなたがたは良心の光に目を向けることとなることを教えている。（98, 48）

291.

ああ、私の声を聞く魂たちよ、この地上生活の問題があなたの心を決して支配してはならない。ましてや、それによって圧倒されることなどあってはならない。あなたは永遠の神に含まれる存在であって、それがあなたを強く、節度ある者とする助けとなるようになさい。

292.

もし魂が肉体を屈服させることができなければ、肉体はあなたを圧倒するだろう。それゆえ、魂は弱くない、肉と共に死ぬのだと信じるようになるのである。（89, 11-12）

293.

あなたは人生において、全身を震え、良心や道徳、理性の声を聞くことさえ不可能にしてしまうような、肉欲的情熱を経験したことはあるだろうか。

294. これは、肉体の悪の誘惑が魂を圧倒し、魂が深く落ち込んだときまでにあったことである。

295. そして、その情熱が消滅され、その影響を克服したとき、あなたがは深い幸福感と平安を経験したのではないだろうか？

296.

この平安とは、魂が肉体に対して勝ち取った勝利にほかならない――それは目に見えない闘い、すなわち「霊」と「肉」との戦いを経て勝ち取られた勝利である。

しかし、魂は新たな役割、良心の役と導きによって立ち直っただけではなかった。そして魂は、肉の衝動を制し、さらに滅ぼそうとする行きすぎた試みをも禁じたのだ。

297.

この葛藤、この自己嫌悪、この自己との戦いの中で、あなたは、自分の側に立っていたものの、自分の人生そのものではなかった何かが死ぬのを見た。それは、ただ無意味な情熱に過ぎなかったのだ。（186, 18-19）

298.

あなたがは、最も強い敵が自分自身の内にあることを悟りなさい。もしあなたががそれを背負いたなら、使徒ヨハネが語った七つの頭を持つ竜が、あなたがの足の下にあるのを見るだろう。そうして初めて、あなたがは真にこう言うことができるのだ。「私主の御業を見よ！ こう申し上げることができる。「主よ、私はあなたがに従います」と。

なぜなら、その時は口先だけでなく、霊がそう語っていることとなるからだ。（3, 20）

299.

間もなく、あなたがは人生が人間に対する戦いではなく、あなた自身が自分自身に対する戦いであることに気づくでしょう。あなたがは、理解の及ばない苦しみ、周囲の人々を苦しめています。孤独感、誰も自分を愛してくれないと思い込み、利己的な心を硬くしてしまうのです。（72, 34）

300.

あなたがが生きているこの人生のあらゆる苦しみは、人間の過ちの結果であることを理解なさい。なぜなら、あなたがを愛するがゆえに、これほど苦しみを差し出すはずがないからである。

301. 私は、太古の昔から、あなたがを堕落と破滅、そして「死」から救うことができる道として、律法を与えてきた。（115, 65）

302. 今日、あなたがにはまだ試練の意味を理解することができない。

あなたがは、それを不要で、不正で、理不尽なものと考えている。しかし、あなたがが年老いた時には、また、あなたががこの世

の境地を越えて霊性領域に進もうとする時は、それらの試練の一つひとつにそれほどの重要な意味があるかを、私はあなたがたに告げるだろう。（101, 44）

303.
もう一度言っておくが、私はあらゆる思いや願いを感知している一方、「この世」は私の霊感を受け取ることもできず、その心の中に私の神聖な思いが入り込もうと準備しておらず、私が彼らの呼びかけに答えても、私の声を聞くこともできない。

304.
しかし、私はあなたがたを信頼し、信じている。なぜなら、私はあなたがたを創造し、私の一片である霊魂と、私の姿に似た霊体をそなえさせたからである。

305.
もし私が、あなたがたが完全になることを期待していないと告げるとしたら、それはあなたがたに、私の神聖な意志から生まれた最大の業において私が失敗したと宣言するようなものであり、それはあり得ないことである。

306.
私は、あなたがたが、その道に置かれるあらゆる試練を乗り越え、魂が勝利を収める時を生きていることを知っている。その後、魂は光に満ちて、新たな存在として生まれ変わるだろう。（138, 52-54）

この世とあの世

307.
自分自身を探してみなさい。死の準備ができていないあなたを、突然引き取りにするなどと待ってはいけない。霊性生活へと戻るその瞬間に、あなたはそれを準備しているのか？
まだ物質や情欲、地上の所有物に鎖で縛られたまま、不意を突かれることを望むのか？道を見出せず、目を閉じたままあの世へと入り、この生においてあなたを魂に刻み込んで持ち去ることを望むのか？準備しておきなさい、弟子たちよ。そうすれば肉体性の束縛を恐れることはないだろう。

308.
この地の谷をたどらなければならないからといって嘆いてはならない。たとえそこに苦痛や労苦が存在することを知っていたとしても、真実を言えば、それは霊性生活の美しさの前には取るに足らないものだ。

309.
もしあなたがたが目を覚ますなら――未知の光に照らされた新たな道の入り口に立ったとき、いったいどうするつもりなのか。

310.
涙を流さず、愛する人の心の痛みを嘆くことなく、この世を去りなさい。その時が来たら、この世から離れ、魂の解放を祝福の祈りを、その顔に残しなさい。

311.
肉体の死は、あなたに託された存在たちからあなたを引き離すものではなく、また、あなたの両親、兄弟姉妹、あるいは子供たちに対してあなたが負っている精神的責務からあなたを免除するものでもない。

312. 愛のため、義務のため、感謝のため、一言で言えば、魂にとって死は存在しないことを理解しなさい。（70, 14-19）

313.
死が訪れ、あなたがたがこの世における肉体の目を閉じる時、魂は自らの力で高みへと昇り、その功績によって選ばれた安息の地へと至るよう、熱心に努力しなさい。

314.
この業の弟子たちは、肉体の死を迎える時、魂と肉体を結びつける絆がいかに容易に断ち切れるかを体験するだろう。地上の安楽を離れなければならないからといって、魂は痛みを感じない。
魂は、光と愛と平和を満喫して、人の階層のようにまるで、戸口から戸口へ、心から心へと引き続くようなことはない。（133, 61-62）

315. あなたがたは、永遠なるもの、美しいもの、善きもののみを喜びとするよう、魂を高めなさい。
もしそうしなければ、あなたがたが送ってきた生活によって物質としてしまった魂は、肉体や物質のすべてから解放されるために多くの苦しみを味わい、浄化が達成されるまで、しばらくの間、混乱した激しい苦痛の中で霊的な空間をさまようことになるだろう。
316.
私の律法に従って生きなさい。そうすれば、死を恐れる必要はない。しかし、時期尚早の死を呼び求めたり、願ったりしてはならない。死は常に私の命令に従うのだから、来るがままに任せておきなさい。死期のための準備を整えておけば、あなたはよき子として霊界へと入ることができるだろう。（6, 43-44）
317.
あなたがたの家庭で平和に生き、そこを聖域となさい。そうすれば、霊的な谷を迷いながらさまよう目に見えない存在たちが侵入したとき、彼らはあなたがたの内に、彼らが求めているような平和を見出し、来世へと昇っていくであろう。（41, 50）
318.
霊の中で生きながらも、依然として物質的な目標を追っているあなたがたに、私はこう言う。もはやあなたがたに属さないものから背を向けなさい。なぜなら、もしこの地があなたがたにとって永遠の故郷ではないのなら、魂にとってもおそらくそうではないからだ。
あの世の霊的な谷では、光に満ちた生活があなたがたを待っている。善の道を歩むことで一歩一歩、そこへたどり着くことになるのだ。
319.
人間として私に従う者たちよ、私はこう告げる。あなたがたがこの地の束縛を断ち切るこの肉体が存続する限り、それを光に、最初の瞬間まで保たなければならない。なぜなら、それは魂の保護であり、戦うための道具だからである。
魂はこの肉体の目を通してこの人生を見つめ、その口を通して語り、同胞愛を与えることができるのだ。（57, 3）
320. 今、師はあなたがたに問う。あなたがたの死者とはいったい誰のことか。そしてまた、愛する者たちの去りゆくことを嘆くものは誰か。
まことに、私はあなたがたに告げる。私の目には、誰一人死んではいない。なぜなら、私はすべての人に永遠の命を与えたからだ。彼らは皆生きている。あなたがたが失われたと思っている者たちは、私のところにいる。あなたがたが死を見ると考えるその場所にも命があり、終わりを目にするその場所にも命がある。
あなたがたがすべてが神秘であり、測り知れない秘密であると思うところは、永遠の夜明けのように輝いている。あなたがたが無であると思うところは、すべてがあり、あなたがたが大きな恵みを予想するところは、ニヒトがある。（164, 6）
321.
死があなたの肉体という物質存在を終えるとき、それは魂にとって憩いのようなものである。魂は再び生まれる際、新たなより大きな力を携えて戻り、未完了の物理的段階の学びを続けるのである。このようにして時が経ち、あなたの魂である小麦は熟していくのである。
322.
私は霊的な生活に関して多くのことをあなたがたに告げてきたが、今、あなたがたがすべてを知る必要はない、永遠の故郷に至るために不可欠な事柄だけを知ればよいと告げる。そこでは、あなたがたが知るべきすべてのことを私は告げるだろう。（99, 32）
323.
霊的な生活と霊の地でのより高い使命を果たした者の平安を、あなたがたは想像できるだろうか。その者の満足と平安は、魂が肉体生活において得ることのできるあらゆる満足よりも、はるかに無限に大きい。
324.
そして、私はこの機会をあなたがたに与える。それは、あなたがたがその恩恵に浴する栄誉を与えられた者たちの仲間となり、深い悲しみの中で苦しみ、泣く者たちの一員とならないためである。（93, 31-32）
325.
この時代の終わりは今や近づいている。そして、それは私と共に最高の霊的存在たちが用いる、創造主との霊と霊の対話のやり方によって、より高次の形で開かれるのである。（157, 33）

326.
私があなたがたと私の霊界について話す時、私は、真実として、主の御心がおこなわれることのみを行う、従順な霊存在たちの大軍を率いている。
327. 私は彼を、すべての人のための助言者、守護者、教師、そして真の救い主となるよう、あなたの元へ遣った。
彼は、内に平安を宿しているため、不平を言わない。彼は、長い道のりにおける彼の成長と経験のゆえに、人々の知性を超えた非常な洞察を彼に与えているため、問題を見かけたりはしない。彼は、助けを必要としている人々に対して、進んで、そして謙虚に駆けつける。
328.
彼は、あなたがの中に現れ、その指示と証し、そして励ましを与えるよう命じられたのは、私である。彼はあなたがの前を歩き、道を清め、あなたがが勇気を失わないよう、その手助けを与えるのである。
329.
明日は、あなたがまた、この光の軍勢の一員となるだろう。彼は、霊存在たちの無限の世界において、ただ人間の救い主の愛から働き、それによって必ず勝利し、愛しているという自覚を持って動いている。
330.
もしあなたがが彼らに出会ったら、その存在を歓迎しなさい。平和のパンをかち合い、困っている者を愛をもって迎え入れ、病人と囚人を訪ねなさい。
真の道を求め、手探りで進む人々の道しるべとなってください。高潔な思いで無限の世界を満たし、不在の人々のために祈りなさい。そうすれば、その祈りが彼をあなたに近づけてくれるでしょう。
331.
やがてあなたの心臓が止まり、あなたの魂の光が消えるとき、あなたは、その瞬間に永遠と正義によって満たされた新しい世界と目覚めるでしょう。そこであなたは、神の愛が、あなたのすべての行い、試練、そして苦しみを償うことができるのだと理解し始めるでしょう。
332. ある晩、その安息の地に至るとき、その魂はますます新しい無限の平安で満たされるのを感じる。
そして直ちに、その魂は、まだその領域から遠く離れて生きている人々（
）を思い出し、愛する者たちもまたその境地に勝利を得られるようにという切なる願いと憧れから、地の救い主たちの救済、幸福、そして平和のための戦い、偉大な霊的大軍に加わるのである。（170, 43-48）
333.
あなたがたが学んでいる、活ける存在たちの侵入に対して、この光の軍団が繰り広げる戦いを、いったい誰が想像したことがあるだろうか。あなたがが気づくことなく、両者が絶えず互いに繰り広げているこの戦いを、人間の目で見抜いた者は一人もいない。（34, 77）
334.
ここに、私の業績を見よ。聖書に記されている通り、私の大いなる約束の群れと羊飼いとして、第二の時代に慰めの霊として私を来るのだ。
335.
私の従者であるこれらの霊存在たちは、私があなたがたに約束した慰めの一部を担っており、彼らの存在と助言の働きを通して、あなたがたはすでに彼らの導きと平安の証を受け取っている。私は彼らを通してあなたがたに恵みを与え、彼らはあなたがたと私の霊との間の仲介者となってきた。
336.
あなたがたは、彼らに再び勝利と謙虚さを目の当たりにしたとき、彼があなたがたの人生において成し遂げたのと同じような清かな行いをするよう促されたと感じた。彼があなたがたの家を訪れたとき、あなたがたは彼の霊性臨在によって慰めを感じた。
337.
もしあなたがが彼の貧しさを嘲るのなら、祝福あれ。しかし、師に告げる。彼らは最初から、この高い存在だけで思っているのか？彼の多くが地上に生きること、そして深く重大な過ちを犯したことを、あなたがたは知らないのか？

338.
しかし今、彼を見てごらん。彼には出来ない欠点はない。それは、彼が良心の声に注意し、愛に目覚め、かつての過ちを悔い改めたからである。あの試練の中で、彼は清められ、高みへと昇るふさわしい者となり、今日、人類に奉仕することで、私に奉仕しているのだ。

339.
彼の霊は、愛から、隣人を助けるという使命を受けました。それは、彼が地上にいた時、果たせなかったことをすべて償うためであり、また、神からの贈り物として、かつて持ちかけた種蒔き、かつて行った完全なる計画をすべて取り除く機会を得たのです。

340.
それゆえ、今、あなたが彼の嫌悪さ、忍耐、そして柔和に驚嘆し、時折、彼の償いのために彼が苦しむのを見てきた。しかし、彼らが直面する苦難よりも大きな彼の愛を聴き、すべてを乗り越え、彼らと和解するまで覚悟している。（S54, 14-15）

341.
あなたがたは、地上に来るために去った霊性の偉大さを、少しは感じているだろうか。「いえ、師よ」とあなたがたは私に言う。「私たちは何も感じず、何も覚えていません。」

342.
そう思うのは、あなたがたが清らかさと無垢から遠ざかってから、あまりに長い時が経ってしまったため、あの平和な存在、あの幸福な状態を想像することさえできなくなってしまったのだ。

343.
しかし今、あなたがたは霊の声を聞き、霊からの啓示を受け取るよう訓練されたのだから、わたしは同じ者たちを約束の王国へと導く道は、あなたがたにとって利口なところである。

344.
それは、最初の人々があの平和の領域ではなく、霊無限の世界、すなわち聴の世界、真の霊性の領域、愛と完全性の王国である。（S87, 14-15）

神の啓示

345.
すべての存在の心が、今この瞬間、あなたに語りかけている。あなたを創造した愛は、この言葉を聞く一人ひとりの内に感じられる。（S102, 17）

346.
あなたがたに語りかけているのは、唯一存在する神である。あなたがたは、神がシナイでその名を示し、律法を啓示されたとき、その神を「エホバ」と呼んだ。また、その神は私の言葉のあかしに、あなたがたはイエスと呼んだ。そして今日、私は真理の霊であるがゆえに、あなたがたは聖霊と呼んでいる。（S1, 63）

347.
私が父としてあなたに語りかける時、律法の書があなたの前に開かれる。私が師としてあなたに語りかける時、それは私が弟子たちに示す愛の書である。
私が聖霊としてあなたに語りかける時、それは私の教えによってあなたを照らす啓示の書である。これは一つの教えである。なぜなら、それは唯一の神から来ているからである。（S141, 19）

348.
神は光であり、愛であり、正義である。その光において、これらの特質を見る者は皆、その主を観、主を称えることとなる。（S190, 1）

349. イエスは、病める者、悲しむ者たちが群がっていたからといって、私を貧しさ、悲しみの神であるなどと言ってはならない。確かに、私は病める者、悲しむ者、貧しい者たちをなぐさめますが、それは彼らを喜び、健康、そして希望で満たすためなのです。なぜなら、私は喜び、命、平和、そして光の神だからです。（S113, 60）

350.
そう民よ、私はあなたがのはじまりであり終わりであり、アルファでありオメガである。とはいえ、私はまだ、あなたがの霊のために用意してあるすべての教えを、あるいは啓示を、あなたがたに伝えてしまいではない。それは、あなたがたがこの世からすでに遠く離れた後、初めてそうなることなのだ。
351.
私はこの時代に、多くの新しい教えをあなたがたに啓示するだろう。しかし、私はあなたがたを驚かすことなく、また人々に対して高慢な態度を抱いて振る舞うことなく、受け入れることができる範囲のものだけを与えるつもりだ。
あなたがたが従っている通り、自分の行いに誇りを持つ者はまさにその誇りによってそれを破壊してしまう。それゆえ、私はあなたがたに静かに働くよう教えたのである。そうしてこそ、あなたがたの行いは霊的実を結ぶのだ。(106, 46)
352.
あなたがたはまだ多くの啓示を理解することができていない。それは、あなたがたの知識の一部となるよう定められているものであり、人々はその知識は神のみに属するものと考えてきた。誰かがそれに着目したり、その真実を探ろうとする意志を示した途端、その人は聖なる神を冒涜する者と呼ばれたり、傲慢であると見なされたりするのだ。(165, 10)
353. あなたがたは私の霊感や呼びかけを受け入れられるようになるために、まだ多くを学ばなければならない。
あなたがたは誰が呼びかけているのか理解できないまま、霊性の波をそれぞれ感じ取ってきたことか！その言葉はあなたがたにとってあまりにも不可解なため、理解することができず、結局、霊性現象を単なる物質性現象にしてしまうのである。(149, 24)
354.
私はすべての被造物の主であるにもかかわらず、あなたがの間に現し、愛を求めていることを不思議に思う。私は神であり、私はまた謙遜な神である。私はご自分の偉大さを示したりはせず、むしろあなたの心に近づくために、私の完全さを隠しているのだ。もしあなたが私のすべての栄光を見たら――あなたはご自分の過ちをどれほど嘆くだろうか！(63, 48)
355.
わたしがあなたがたとても近くにいることを感じてほしい。その証拠に、わたしはあなたがの人生の隅々に触れている。あなたがが心の中でわたしの存在を感じられるようにすることが、わたしの願いであった。
356.
私があなたがの内にいながら、どうして私を感じることができないのか。ある者は物の中に私を見出し、ある者は物質の彼方にのみ私を感じるが、まことに、私はあなたがに告げる。私は物の中に、そして至る所にいるのだ。私があなたがの内にもいるというのに、なぜいまだ自分たちの外に私を探そうとするのか。(1, 47-48)
357.
たとえこの世に宗教が存在しなかったとしても、あなたがは自分の存在の源に意識を集中するだけで、内なる静けさの中で私の臨在を見出すことができるだろう。
358.
また、私はあなたがたに告げる。人生の差し出すありとあらゆるものの複製であるだけでなく、その中に、極めて美しいページと最深の教えを示してくれる「聖なる書」を見出すことができるのだ。
359.
そうすれば、世界の中に正しい道を探しているにもかかわらず、また、これほど多くの光の中に生きながら無知の闇の中をさまよっていることが、いかに正しくないか、あなたがたは理解するだろう。(131, 31-32)
360.
今日、私の普遍性言葉はすべての人の耳に届き、こう告げている。「私はあなたがた一人ひとりの内にいるが、神は人間の中のみに存在すると言う者はないようになれよ。神の内に存在するものは、すべての存在被造物のものからである。」

361.
私は主であり、あなたは私の被造物である。私はあなたが名前は呼ばず、子と呼びもしない。しかし、私が物の上に立っていることを知れ。私の意志を愛し、私の律法を守りなさい。私の定めはいかなる行き違いも誤りもあり得ないことを自覚せよ。（36, 71-72）
362.
わたしは、あなたを愛し、また愛されていると感じられるために、あなたを創造した。あなたがわたしを必要としているのと同様に、わたしもあなたを必要としている。わたしがあなたを必要としていないと主張する者は、真実を語っていない。もしそうであったなら、わたしはあなたを創造しなかったろうし、大きな愛の証であるあの犠牲によってあなたを救うために、人間になることもなかったろう。わたしはあなたを滅びさせることもできるのだ。
363.
しかし、あなたは、私の愛によって養われているならば、同じものをあなたの父に捧げるのが当然であることを認識しなければならない。なぜなら、私は繰り返しあなたにこう言っているからだ。「私は待っている。私はあなたの愛を望んでいる。」（46, 3）
364.
どうして、より多く苦しむ者を、私はより愛していないなどと思えるのか。どうして、自分の痛みを、私があなたを愛していないという証拠だと見なせるのか。私があなたを愛しているからこそ苦しみがあるということを、もし理解してくれたら！
私は、義しさで救われており、健康者は医者を必要としない、とあなたに言わなかったか。もしあなたが病んでいると感じ、良心の光の中で自己嫌悪に陥り、自分たちが罪人であると認めるならば、私が探し求めて来たのはまさにあなたであることを確信しなさい。
365.
もしあなたが、神に拒絶されたと言うなら、それは確かに、その御国を喜んでいる人のためではなく、迷い、あるいは立っている人のためであったに違いない。（100, 50-51）
366.
わたしの家はあなたのために整えられている。あなたがそこに来れば、真にそれを喜ぶことになるだろう。自分の子供たちがまるで物乞いのように、自分の家の門前に立っていることを知っていながら、どうしてでも平安の部屋に安らぎを味わうことができようか。（3, 37）
367.
律法を学び、善を愛し、愛と慈悲を行動に移し、あなたの霊が魂から去るための聖なる自由を与えなさい。そうすれば、あなたはわたしを愛するようになる。
368.
わたしのもとに至るために、どのように動し、どのような生き方であるべきか、その完全な模範を求めますか。イエスを模範とし、イエスの中にわたしを愛し、イエスを通してわたしを求め、イエスの神聖な血潮によって、わたしのもとに来なさい。
369.
しかし、あなたがたは、イエスの肉体性、姿、像を愛してはならないし、ましてや、儀式や外的形式によってイエスの教えの真髄を失ってはならない。そうなれば、あなたがたは永遠に、互いの和合、憩い、そしてわたしの中に留まり続けることはないだろう。
370.
イエスの中に、しかしその霊、教えの中に、わたしを愛しなさい。そうすれば、あなたがたは永遠の律法を成就することになる。なぜなら、キリストの中には、正義、愛、そして
知恵が体となって結ばれており、それによってわたしは類いなきその霊の存在と全能を明らかにしたからである。（1, 71-72）

人間とその使命

371.
あなたがたは、すでに長い間わたしにすがっていません。あなたがたは、自分たちが来訪者であるかを忘れてしまいました。それは、あなたがたが、創造があなたがたの中に授けた多くの資質、能力、そして賜物が、自分たちの面倒をすべて引き受けないままにしておくことを許

してしまうからです。
あなたは現在精神錯乱で眠っている。しかし、まさにその精神性錯乱の中にこそ、人間の真の偉大さがあるのだ。あなたは、この世に生まれ、この世で滅びる存在のように生きている。（85, 57）

372.
師は、愛する弟子たちよ、あなたがたに問う。この世において、あなたのものは何か。あなたが所有するすべてのものは、父から与えられたものであり、あなたの職業である限り、この世を貫通し、それを用いるためである。
あなたの霊は私の神性から生まれ、天の父の息であり、私の霊の粒子である。また、あなたの肉体は私の法則に従って形作られ、私がそれをあなたがの霊の道具として託したのである。それゆえ、愛する子よ、あなたがたに属するものは何もない。
すべての被造物はひとつのものであり、父は時にあなたをその所有者としたのである。あなたの物質性の生は、永遠の一歩一歩過ぎ、無限の一筋の光過ぎないことを思い出せ。それゆえ、あなたがたは寄るべなく、決してひとりぼっちではないのだ。すなわち魂に注意を払わなければならない。（147, 8）

373. 霊の理性を導くべきであり、人間性偉大さをめざす心によってのみ導かれる理性は、あなたの生を覆してはならない。

374.
よく考えてみよ。もしあなたがが、脳が創ることに逃げようとするならば、脳は過度の負担をかけ、その微妙な能力が許容限度を超えることはできないだろう。

375.
言っておく。なぜ善行をするように感じられるのか、なぜあなたの心が隣人愛で燃え上がるのかを知りたいものなら、あなたの心と理性を霊に導いてみよ。そうすれば、あなたはその前において驚嘆することになるだろう。（186, 7）

376. 正しいのは、神霊が人間の知性を啓発することであり、知性が神霊に命じることではない。

377.
多くの者は、私がここで語っていることを理解できないだろう。それは、あなたがが長い間、人生の糸を導かせてきたからである。（195, 48）

378.
弟子たちよ、霊によって良心がより明瞭に現れるようになることを知れ。そして、この静かな声を聞く者は、惑わされることはない。

379.
良心と親しくなりなさい。それは女性的な声であり、主が自身の光を通して輝かせる光である――父としてであれ、師としてであれ、あるいは裁き主としてであれ。（293, 73-74）

380.
私の言葉を繰り返し読むことにたゆまぬ努力をしなさい。それは、目に見えない彫刻のように、あなたがの性格を鋭く角ばらせる役割を果たし、あなたがが周囲の人の最も重要な問題に自ら取り組む準備が整うまで、その作業を続けるだろう。

381.
あなたがは、彼の中に、その頂点の実現であるかもしれない苦しみ、贖罪の義務、償いの義務を見ることになるだろう。その起源が特に理解しにくいものはないが、一方で、あなたがが直感的に、透視によってのみ解明し、同化し、重荷から解放できる者もいるだろう。

382. これらの霊的被造物は、それを行使する者が隣人への愛に導かれている場合のみ、その奇跡を行うのである。（149, 88）

383.
私たちの業においてはすべてが自然なことであるにもかかわらず、なぜ人は「超自然的」などと言うのか。むしろ、人間の悪こそが不自然であり、これが「超自然的」なのではないか。なぜなら、彼が何から生まれ、どのような性質を持ち、その内に宿しているかを考えれば、彼が常に善行を行うことこそその自然なはずだからである。私たちにおいては、すべてが単純で深い調和があり、何も謎の中に残ることはない。

384.
あなたは、理解できないもの、謎を孕んでいると見えるものをすべて「超自然的」と呼んでいる。しかし、あなたの魂が精神によって高みへと達し、以前は見ることができなかったものを見、発見するようになれば、創造のすべては自然であることを悟るだろう。

385.
もし数世紀前に、現代の機械文明のような進んだ発明を人々に告げたとしたら、科学者たちでさえも、そのような驚異を「超自然的」なものとして見なしたろう。しかし今日、あなたはお見通しだ。人類が科学の進歩を階段を追って追ってきたため、たとえそれを体験するとしても、自然なことと捉えている。(198, 11 12)

386.
私はあなたに言わなければならない。魂が発展するために、必ずしも人間の肉体やこの世の物質が必要とは考えないでほしい。しかし、魂がこの世で受け取る刺激は、その完成にとって大いに有益である。

387.
肉体は、魂の発達、経験、贖罪、そして闘いにおいて魂を助ける。これこそが肉体に課せられた役割であり、私が人間の媒体を通して私のメッセージを伝えるために受肉して用いている、この私の神性顕現において、あなたがたはそれを確認することができる。理解せよ、霊性なものに向いているのは魂だけでなく、物質界における最小さなものでさえ、霊性目的のために創造されたということを。

388.
私はあなたの魂に対し、思考をもって呼びかける。それは、魂が自らを通して物質性なものの影響を乗り越え、直感という贈物を使って、その光と理性と届くためである。

389.
この私の光は、あなたの魂にとって救いの道であり、この私の教えは、人間性を超越した、すべての行いの指針となり、感情主人となり、低俗な情欲の奴隷でも、弱さや無知の犠牲者でもないようになるための手段をあなたに提供するものである。(8, 12-15)

390.
私以外に、魂を知り、その運命を決定できる者がいるだろうか。誰しもない。それゆえ、魂のこの権利から主の座を奪おうとした者は、自らの気まぐれ、気性、権勢欲、虚栄心に合った王国を自築くことになる――それは物質、低俗な情欲、そして卑しい感情の王国である。

391.
良心を麻痺することはできない。なぜなら、そこには完全な正義があるからだ。魂においては、高貴な感情を与えるのは清められた心であり、それを堕落させるのは不浄な心である。一言で言えば、魂は真実と善によってのみ養われるのである。(184, 49-50)

392.
私は人間を喜ばせるために地のすべての被造物を造ったのだから、それを常に自分の益のために用いなさい。しかし、自然が提供するすべてのものを、どの範囲まで用いてよいかを示す声が、あなたの内にあることを忘れてはならない。そして、この声に従わなければならない。

393.
あなたが、自分の存在をより快適にするために、身体のためにはよい保護、糧、そして満足を求めているのと同様に、魂にとっても、その幸福向上に必要なものを与えなければならない。

394.
もし魂が、その真の価値ある高みの領域と思われるならば、それを軽視させてやりなさい。魂を閉じ込めてはならない。なぜなら、魂は豊かさを受け入れるために、あなたを求めているのだから。
私はあなたに告げる。あなたがそのように魂を解放するたびに、魂は喜びに満ちた肉体の殻へと戻ってくるだろう。(125, 30)

395.
魂は生きようと願っている。不死を求めており、自らを清め、浄化したいと望んでいる。知識の領域と、愛の温もりを知っているのだ。彼女に考え、感じ、行動させるがよい。あなたが特定時間の一部を、彼女自身のために使うことを許しなさい。そうして、彼女が自己を表現し、その自由の中で活動することができるように。

396.
あなたがこの世で持っているすべてのものの中で、この人生の後、残るのは魂だけである。魂は美徳と精神の重さ、それを自分の内にとり抜けるようにせよ。そうすれば、解放の時が来たとき、魂は終わりの門の前で貧しい魂としてたたずむことのないように。（111, 74-75）
397.
わたしはもはやあなたがたに罰や苦痛を望まない。わたしのすべての子供たちの魂が、星空を美しく飾るように、その光でわたしの王国を照らし、あなたがたのひとりびとりが喜びに満ちることを望む。（171, 67）
398.
私の言葉は、長い間互いの間に敵意が存在してきたため、魂と肉体を分離させるであろう。そして、あなたがたが、魂の成長の道具であり試練であると見なしてきたその肉体が、地上での任務果たすための最良の道具となり得ることを否定するようになる。（138, 51）
399.
あなたがたが私の言葉を実現に至るよう、魂と肉体の間に調和が保たれるようにしなさい。愛をもって肉体を訓練し、必要であれば厳しさも用いなさい。しかし、その過程で肉体を虐待することのないよう、狂信によって目が曇らないよう注意しなさい。あなたがたの存在を一つの意志と統合しなさい。(57, 65)
400.
私はあなたがたに魂を清めるだけでなく、身体も強めるよう望んでいる。そうすればあなたがたから生まれる新しい世代は健康であり、その魂と肉体は使命を果たすことができるからだ。（51, 59）
401. 私は、あなたがたが唯一の神を信じる家庭を築くことを望む――愛と調和と自己犠牲を実現する神殿のような家庭を。
402.
そこでは、あなたがたは子供たちの教師となり、彼らを慈しみと理解をもってさとし、彼らの歩みの一つひとつを慧眼をもって見守らなければならない。
403.
美しさに恵まれた者も、一見醜いと思われる者も、等しく愛しなさい。美しい顔は必ずしも同様に美しい魂の反映であるとは限らない。それに対し、一見醜いと思われる者たちの背後には、あなたがたが高く評価すべき美徳に満ちた魂が隠されているかもしれない。（142, 73）
404.
あなたの後に続く世代、すなわちあなたの子供たちのことを真に考えてください。あなたがたが彼らに肉体をもたらすのと同様に、信仰、徳、そして霊的で精神的な命をもたらす義務があることを忘れてはならないのです。（138, 61）
405. 家族の絆を強めなさい。最貧しい人でさえ、この恵みを有し得ることを見なさい。
406.
人間の家族は霊性の家族の具現であることを悟りなさい。その中で、男性は父となり、それによって天の父と真に通じるようになる。母性的な心となった優しさに満ちた女性は、神聖な母の愛の具現であり、二人が共に築く家族は、創造の霊性の家族の具現である。
407. 家庭は両親自らを磨く用意があるならば、あなたがたが私の律法を履行することを最もよく学ぶ学校である。
408. 親と子の運命は、私の中にある。しかし、双方とも、互いの使命遂行の義務において、互いに助け合うことが求められる。
409.
もしすべての親と子が互いに愛し合えば、十字架はそれほど軽く、存在はそれほど耐えやすいものとなるだろうか！最も厳しい試練、愛と理解によってのみ和らげられるであろう。神の御心に対する彼らの服従は、平安という報いを受けることとなるだろう。（199, 72-74）
410.
あなたの祖先たち、そしてあなたの人生の道で出会う魂たちを尊重しなさい。そうすれば彼の美徳と知恵、彼があなたがたに伝えるメッセージを受け入れ、あるいは彼があなたから受けるべきものを彼らに与えることができるようになるだろう。

411.
なぜ運があなたの道置，他端たちを選んだのか。あなたは，彼があなたに伝えるはずだった教えを学ぶことなく，心の扉を彼らに閉ざしてしまったのだ。

412.
しばしばあなたがたは，まさに自分の魂に一体の愛のメッセージをせっせと書き送っておきながら，自分の存在を苦しみで満たしてしまったと嘆くのである。

413.
人生にはお約束の変化に驚かされる。もし明日，今日あなたが熱心に追い求めたその人を，七度探し求めなければならないとしたら，あなたはどうするつもりか。

414.
今日探し，軽蔑した者を，明日七度探し求めなければならない可能性があることを心に留めなさい。しかし，その時はおそすぎる事になっていることが往々にしてあるのだ。（11, 26-30）

415.
宇宙は，なんと美しい調和の模範をあなたがたに示していることか！生命に満ちた宇宙空間に輝く天体，その周辺他の天体が回っている。私は，魂に生命と温もりを与える，輝く神聖な天体である。しかし，定められた軌道を運行する者はかくも少なく，その軌道から遠く離れて周回する者はかくも多いことか！

416.
あなたがたは，物質性星々は自由意志がない，一方でまさにその自由意志がその人間を道から逸らせたのだと私に言うかもしれない。それゆえ，私はあなたがたに言う，自由意志という賜物があるにもかかわらず，創造主の調和の法則に従うことを決めていた魂にとって，その闘いはどれほど称賛に値するものとなるだろうか。（84, 58）

417.
この霊性教えの弟子と自称する者は，物質性生活において貧しく，他者の豊かに享受している多くの恩寵を欠いていること，あるいはなおも苦難に苦しんでいることについて，父に不平を言ってはならない。これらの嘆きは，あなたがたもよく知っているように，ただ一つの存在しか持たない物質性世界から出ているのだ。

418.
あなたの魂は，父にそのような言葉を口にする権利も，不満をこぼす権利も，自分の運命に抗う権利もない。なぜなら，すべての魂は，地上における長い発展の道のりにおいて，経験，喜び，そして人間性満足というあらゆる階段をすでに経てきたからである。

419.
魂の霊性はすでに長く聞き慣れている。その助けとなるのが，あなたがたの心が耐えることを学び，苦しむことを厭わない，あの痛みと貧困である。あらゆる精神的，物質的苦難は，息絶えあり，あなたがたはそれを忍ばなければならない。そうしてはじめて，どちらの価値も否定することなく，正しく受け入れることができるのだ。（87, 26-27）

420.
すべての人間，すべての被造物は，放棄してはならない定められた場所がある。しかし，同様に，自分にふさわしくない場所を占めてはならない。（109, 22）

421.
なぜ未来を恐れるのか。過去において魂が積み重ねてきたすべての経験を，無にしてしまったものか。収穫せずに，種を蒔いておきっぱなしのものかいいえ，弟子たちよ，
誰一人自分の運命を変えることはできないが，勝利の苦悩という，どの道を進もうとも避けられない苦悩を喜ばせることはできるのだ，と心に留めておきなさい。（167, 14）

422.
父の御国はすべての子供たちの相続地であり、この恵みは規律ある生活によってのみ得られるものである。私は、あなたがが私により近づけるその恵みを獲得することが不可能にされないことを望む。
423.
私の言葉の中で、あなたがが約束の地に到達するには多大な努力と苦労が必要であると聞かされても、悲むことはない。喜びなさい。なぜなら、その目標に向かって人生を捧げる者は、失望することもなければ、裏切られたと感じることもないからだ。
その人は世の栄光を追い求め、多くの苦労の末にそれを得るが、多くの人々、あるいはそれを得たものの、やがてそれが消え去り、何も残らなくなるのを見て苦しむ人々のような運命をたどることはない。（100, 42-43）
424.
わたしは、あなたがの永遠の至福の扉を開く鍵を授ける。その鍵は、愛であり、そこから悲哀、赦し、理解、謙遜、そして平和が湧き出る。あなたがは、これをもって人生を捧げるべきである。
425. 精神の物質を知り、聖霊の光と喜びを見出すとき、その精神の革命はなんと大きなものであろうか！（140, 56-57）
426.
この地球は、これまで常に、病み、疲れ、動揺し、混乱した魂、あるいは虚弱で低い魂をあの世へと送り出してきたが、まもなく、私の愛ふさわしい実体を私に捧げてくれるだろう。
427.
あなたがが健全で高貴な生活を送るならば、病気や痛みはますますあなたがの人生から遠ざかっていく。そうして死が訪れたとき、死はあなたがが霊的な姿の内に精錬されているのを見出すだろう。（117, 24-25）
428.
ああ、私が特にこの言葉を向けている弟たちよ、落胆してはならない。私の道を力強く歩み続ければ、あなたがたは平安を得るようになる。まことに、あなたがたは告げる。あなたがたは皆、至福を体験するよう定められているのだ。もしあなたがが、私と共にその国を分かち合うために創造されていなければ、私はあなたがの父ではないだろう。
429.
しかし、忘れてはならない。あなたがの至福が完全なものとなるためには、あなたがの魂がその理想郷に近づいていると感じられるよう、一歩一歩、功徳を積み重ねていくことが必要である。
430.
私があなたがに寄り添い、その道のりを通して共に歩んでいることを悟りなさい。私の喜びはあなたがの喜びの一つであり、私の運命はあなたがの運命の一つであることを自覚し、私を完全に信頼しなさい！（172, 61）

悪徳、過ち、迷い

431.
人生において、これ以上過ちを犯さないよう、私の教えを理解しなさい。なぜなら、言葉であれ行いであれ、あなたがが隣人に与えるあらゆる傷は、あなたがの良心の中に消えることのない記憶として残り、容赦ない非難を続けることになるからだ。
432.
神の計画の成就、人間たちの間にあるこの甚大な精神的苦しみが終わりを迎えるためには、あなたがの一人ひとりが必要とされているのだと、私はあなたがに告げる。
433.
利己心が存在する限り、苦しみもまた存在する。あなたがの利己心、そして憎悪を愛と憐れみに変えなさい。そうすればしかも早く平和があなたがのもとに訪れるのを体験することになるだろう。（11, 38-40）

434.
人間としての進歩の中で進歩をなさい。しかし、過度に野心に燃えてはならない。そうすれば、自由を失い、物質主義に奴隷されてしまうからだ。（1, 52）
435.
わたしはあなたがの過ちを赦すが、同時に、あなたがのかつての罪を思い出そう、あなたがを恐れる。なぜなら、それは魂を最も深く引きずり下ろす弱点の一つだからである。
436.
私は良心を通してあなたに呼びかけ、兄弟姉妹としての義務を思い出し、私が第一の時代に教えたように、その通りに愛をもって赦を請うように促す。（100, 29）
437.
今日、物質のこの世の影響があなたがを悪意に変えてしまった。しかし、物質は永遠ではなく、世その影響も永遠ではない。そして、私は再臨し、審判者であり、その王国は、生と
なる時である。私を否定する者たちを裁いてはならない。そうすれば、私はあなたがを彼らよりも有利に見ることになるからだ。
438.
私が声を高めて、私を呼んだ者たちを叱ったことがあったろうか？私は彼を愛と優しさをもって祝福しなかったか？もしあなたがたが、この過ちのために時にこの世に迷い込む者たちの多くが、今日では清められて霊界にいるということを理解してくれたらよいのだが！（4, 47-48）
439.
また、隣の隠された感情を暴こうともしてはいけない。なぜなら、あなたがたの中には、私だけがいることを知られたくない秘密が存在するからだ。しかし、もしあなたがたが、兄弟の所有するものであり、あなたがたにとって価値あるべきものを発見したとしても、それをほしがり、そのベールをはぎ取りたいと思ってはならない。むしろ、そのベールをより厚くすべきである。
440.
私は、人が兄弟の心に侵入し、その道徳的あるいは精神的弱点を見つけ出し、それを楽しんだ挙句、すぐにそれをばらしてしまうのを何度見てきたことか。
441.
他の人の悪口をこのように言った者は、誰が自分の人生の道に自分をさらしたのか、噂しても、驚くべきではない。その者は、自分を誇っているのは正義の物差しだなどと言ってはならない。なぜなら、その者が他を測っていたのは、不正の物差しだったからである。
442. 他者を尊重し、慈悲の心でさらされた者たちを覆い、人の噂話の嘲りから弱い者を守りなさい。（4, 46-48）
443.
「通り路を掃き回り」、過ぎた時の出来事を語り、予言を解釈し、あるいは告白を聞いている者たちのすべてが、私の使者であるわけではない。なぜなら、多くの者が、虚栄心や悪意、あるいは間違いから、それらのメッセージを悪用し、侮辱し、裁き、屈辱を与え、傷つけ、さらには「殺す」ことさえしてきたからである。（116, 21）
444. 立ち上がれ、人類よ、道を見出し、生きる理由を見出せ！民族よ、互いに語れ、すべての人を愛せよ！
あなたがの家の隣で争いなんと嘆かわしいことか。それなのに――その住人たちと互いにこれほど遠く離れているとは！
そして、諸国の国境において――多くの国々を通るために、どれほどの条件が課されていることか！
もしあなたがが、同じ人類の一部の間でさえこれを行うのなら――他の人生を旅する者たちに対しては一体何をしてきたというのか？
あなたがは、彼らと自分たちの間に幕を下ろした――たとえそれが鉄の幕でなくとも、濃霧のような無の幕を。(167, 31)
445.
過度の権力欲を満たすためだけに生き、その過程で隣の命を軽んじ、私、すなわち彼の創造が彼らにもたらす権利を尊重しない人々を見よ。
彼の行ないがいかに不快なものであり、また頑なに憎み、そして妄想を抱いているか、おわかりだろうか？
それゆえ、あなたがは、光をそれほど必要としていない他の人々よりも、むしろ彼のために、より多く祈らなければならない。

446. これらの人があなたに与えるすべての痛みを感じ、あなたの清めが思いをもって、彼らが正気に戻るよう助けてあげなさい。
彼を取り巻く霧をさらに濃くしてはいけない。なぜなら、彼がいつか自分の行いに責任を問われる時、私は彼のために祈るかわりに、邪悪な思いで闇を送り続けた者たちをも、責任を問うことになるからだ。（13, 30）
447.
律法において、「わたしのほかに神を置いてはならない」と告げられたことを思い出せ。それにもかかわらず、人間の頭が生み出した多くの神が存在し、人々はそれらを崇拝し、貢ぎ物を捧げ、さらには命を捧げたりしている。
448.
わたしの律法は時代遅れではないこと、そしてあなたがたが気づかないうちに、良心を通じて絶えず語りかけていることを理解せよ。しかし、人々は依然として異教徒であり、偶像崇拝者である。
449.
彼らは自分の肉体を愛し、虚栄をくすぐり、引き立てる。彼らは地の富を愛し、そのために自分の永遠の霊性を未来犠牲にしている。彼らは肉体に仕え、時には過食に至ることもあれば、快楽の渇望のあまり死に至ることもある。
450.
あなたがたは、この地上のものを、あなたがたの父より先に愛してきたのだと、自分を省みよ。いつ、あなたがたは、隣の神々を愛し、私に仕えることによって、私のために自分を犠牲にしたことがあったか。
いつ、あなたがたは、助けの手を差し伸べ、同胞を苦しめる苦痛を和らげるために、睡眠を犠牲にしたり、健康を損なうようなことをしたりしたそうか。そして、いつ、あなたがたは、私の教えが鼓舞する高潔な理想のうちのために、死の淵まで行ったそうか。
451.
あなたがたが物質的な生活に対して捧げている崇拝が、霊的な生活の崇拝よりも優先されていることを悟りなさい。それこそが、あなたがたは他の神々があり、あなたがたは真の神よりもそれらを崇拝し、それに仕えていると、私が言う理由である。（118, 24-26）
452.
あなたがたは罪にあまりに慣れきっているため、自分の人生が最も自然で、最も普通で、最も容認されるもののように思える。それにもかかわらず、ソドムとゴモラ、バビロンとローマが、そのすべての堕落と罪をこの類に押し付けたかのように見える。（75, 49）
453.
あなたがたは今日、精神活動は時代に生きている。そこでは、悪を善と呼び、闇のある場所に光を見出していると言い、本質的なものよりも不必要なものを称えている。
しかし、常に備え、助けとなる私の教えは、時宜を得て入る、あなたがたが、真理の光に満ちた道――あなたがたが離れてしまったその道――をたどろう。（58, 30）
454.
あなたの霊的な勝利のために、祈ることを忘れるな。目を覚まし、祈りなさい。そうすればあなたの目は常に警戒し、誘惑はより負かされることはないでしょう。
悪はあなたがたを陥れようとするが、その罠を回避するために、鋭い嗅覚を持っていることを心に留めなさい。悪が待ち伏せている時、それを見抜けるよう、鏡のあれ。（27, 10）
455.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。人類は闇の中から光の道を見出すであろう。しかし、その歩みはゆっくりと進む。もし人々が、自分たちが犯したすべての悪を瞬時に理解してしまったら、どうなるだろうか。ある者は正気を失い、ある者は自分の命を絶つであろう。（61, 52）

456.
あなたがたは律法を忘れ、自然の力が私の正義を思い出させてくれるのを待っていた。バケーシ沿岸の河川地震、干ばつ、洪水は、あなたがたを目覚めさせ、私の正義について語りかけ呼びかけである。

457.
この時代、人類が私に捧げることのできる真実は、不正と物質主義以外にあるだろうか。長年にわたり私の教えを聞いてきたこの民でさえ、私に喜ばれる犠牲を捧げることはできない。（69, 54-55）

458. 正義の火が聞こえないのか。
自然の力が、次々と世代を襲っているのを見ないのか？もしあなたがたが徳ある生活を送っていたなら、私の正義がこのように顕現する必要があっただろうか？まことに、あなたがたに告げる。もし私があなたがたを請け合いと見ていたなら、あなたがたを滅ぼす理由などなかったろう。（69, 11）

459.
現時点では、人類に平和をもたらすことは不可能に思えるかもしれないが、私はあなたがたに告げる。平和は訪れる。それどころか、人間は霊化の中で生きるようになるのだ。

460.
この時代を終えるまでに、世界は多くの災難に見舞われるだろう。しかし、それらの災難は、地上にも霊にも、人類の益となるものである。それは、人の悪行、不正、忌まわしい行為の数々に対して、「ここまでで、これ以上許さない」という一線となるだろう。

461. こうして物事がもたらされる。なぜなら、悪の力は、もはや善の力を負かすことができなくなるからである。

462.
この浄化は、常に最も繊細で愛すべきものに関するため、罰であるかのように見えるが、実際はそうではない。なぜなら、それは道から逸れたり、道を見失ったりした魂を救うための手段からである。

463.
世俗的な判断をする者は、苦痛の中にその益を見出せないだろう。しかし、自分が永遠に生きる魂を持っていることを心に留める者は、その同じ苦痛から、光と啓示の精神、そして再生を導くのだ。

464. もしあなたがたが霊的に考えるならば――愛そのものである神から来る苦痛が、どうして人類にとって悪であると言えるだろうか。

465.
時は近づいており、あの大きな試練が現れるとき、世界から平和の最後の痕跡をお許しなさるために来る。それは、人類が私の律法の道を見出し、絶えず「神は生きておられる！神はあなたの中におられる！神を称えよ、神を感じ、神を理解せよ！」と告げる小さな声に注意を傾けるようになるまで、決して戻ってはならない。

466.
そうすれば、あなたの生き方は変わるだろう。私利私欲は消え、誰かが互いに役立つようになる。人々は、私の正義を感じられ、新しい法律を制定し、愛をもって福音を実践するようになる。（132, 43, 47）

467.
物質的な面においても、同様に変容が起こることになるだろう。川は豊かな水に満ち、不毛の地も肥沃となり、自然の力は本来の輝きを取り戻すだろう。なぜなら、人と神の間、人と神の律法の間、人と生命の創造主が定めた法則の間に、調和が生まれるようになるからだ。（352, 65）

468. 愛する証人たちよ、心配するな。
私は、長い間触れるもの、目に見えるもの、限られた知性で理解できるもの、そして科学によって証明されたものだけを信じてきたこの物質主義的な人類が、霊的になり、霊的現実を私の真理を求めることができるようになることを、あなたがたに告げます。（307, 56）

469.
もしあなたがたが霊的に準備ができていれば、無限の彼方に、霊的存在の群れを見ることができるだろう。それはあなたがたの目には、計り知れ

なほど大きい雲のように映るだろう。そして、その中から使者や預言者たちが飛び出してきたとき、あなたがたは、彼らがちょうど自分たちに向かってくるのを見るだろう。

470.

あなたの霊的な視力はまだ鋭くない。それゆえ、私はあなたがたにあの世について、あなたがたが見ることのできるすべてのものについて語らなければならない。

しかし、私はあなたに告げる。やがて、あなたがたが見えない者となり、今この地から遠く離れていると感じているあの素晴らしい生命を、心ゆくまで楽しむ時が来るだろう。その生命は、実際にはあなたがたのすぐ近くで脈打ち、あなたがたを取り巻き、照らし、インスピレーションを与え、絶えずあなたがたの面倒を見てくれるのだ。（1, 37-38）

471. 感覚性、予感、啓示、預言、霊感、予見、賜物による言葉――これらすべて、そしてその他の賜物は、霊から発出するものであり、それを通して人は、人類にとって新しい時代が来たことを確認するだろう。

472.

今日、あなたがたは世間の目を恐れてそれを隠している人々がおり、こうした霊的賜物があることを疑っている。しかし明日は、それを持つことが最も自然で美しいこととなるだろう。

473.

私がこの第三の時代にあなたがたのもとへやって来るのは、あなたがたが肉体も魂も病んでいるからだ。健康者は医者を必要とせず、正しい者は贖いを必要としない。（80, 5-6）

474.

今日、あなたがたは聖職者、裁判官、教師を必要としている。しかし、あなたの精神的・道徳的状態が最高なものとなれば、もはやこれらの支えも、これらの声も必要としなくなるだろう。すべての人の中に、裁判官、牧師、教師、そして祭壇が存在するようになるのだ。（108, 41）

XVI. 預言者たち、啓示と約束

第4章 預言

新たな預言の成就

1.

預言者たちの告げたことは、この時代に成就する。わたしの新しい言葉は、哲学者や神学者たちの耳に届くであろう。多くの者はそれを嘲笑し、また他の者は賛美するだろう。しかし、そうしたことが起きている最中、彼らの驚きの理由は、わたしが今あなたがたに告げた預言の成就を目撃することとなる。（151, 75）

2.

過去の時代のそれらの預言者たちは、地上でかくも大きな権限を授けられてはいなかった。彼らはかくも厳格に服従することを強いられることはなく、ただ選ばれた者たちの中に置かれ、その命じられたことだけを実行していた。

3.

信仰と勇気に満ちて、彼らは民に私の律法を教え、民が神の戒めに誤りを犯させることによって、民を偶像礼拝から遠ざけるという使命を、何の妨げられることなく果たした。（162, 7-8）

4. 人類よ、今この時代にあなたたちを襲う苦痛、悲嘆、そして混乱は、予期せぬもののように思えるだろうか？

5. もしあなたがたが驚いているとすれば、それは、あなたがたが私の言葉に聞き従わず、準備していなかったからである。
6.
すべてお見せし、すべてお告げしていたが、あなた方は躓いた。その結果、今、あなた方は非常に苦しみを経験しているのだ。
7. 今日もなお、私は人間の理解を通して語っている。ある言葉はまもなく成就し、他の言葉は遠い未来になって初めて成就する。
8.
これを聞く、この民は、それを嘆き知らせるという大きな責めがある。なぜなら、そこには、人々が生きる現実を理解せず、深淵へと向かって猛スピードで突き進んでいるようすべての光が含まれているからである。（Ps 76, 41 42）
9.
私がこの時にあなたがたに語ったことの多くは、ある程度近い将来に、ある程度遠い未来に関する事である。それゆえ、多くの人々はこの重要なメッセージの意味を見出そうとしない。
10.
しかし、この言葉は、来るべき時の人々の間に光に満ちて輝くであろう。彼らはこの言葉の中に、その正確さと全体が科学者たちを驚愕させるような偉大な啓示を認識し、発見するであろう。（Ps 116, 13）

1945年1月10日 第二次世界大戦終結直前における大いなる預言者としての預言

11.
この瞬間、私は地上の諸国民に語りかける。すべての者は私の光を持っている。その光をもって、彼らは、あたかも生命の所有者であるかのように、それを自由に処分しようとしたことを深く省みるべきである。
12.
まことに、わたしはあなたがたに告げる。あなたがたの破滅と苦しみは、多くの人々に深い悔い改めをせしめ、わたしを求め、呼び求める何百万もの人々を光へと目覚めさせた。そして彼らはわたしに向かって「ああ、1945年の戦争は果たして終わりないのでしょうか。あなたはもはや涙をぬぐい、平和をせしてくださるのでしょうか」と問い続ける叫びが天へと昇っている。
13. 見よ、わたしは今、あなたがたの間にある。おお、七つの国よ！808 第4章地の中でわたしの前に首を高く掲げた七つの頭よ！
14.
イングランドよ。わたしはあなたを告発する。わたしの言葉はなおあなたを厳しく評するであろう。しかし、わたしはあなたを去らず、あなたの心に触れ、こう告げる。「あなたの権力の野望は崩壊し、あなたの富は奪われ、それは誰も予測されないであろう。」
15.
ドイツよ。今この瞬間、私はあなたの誇りを懲らしめ、こう告げる。備えよ、汝の牙は滅ぼされるだろう。汝は新たな世界をめざすが、人々は私の高き御座に干渉した。私はあなたを裁き、こう告げる。私の光を受け入れ、私に従えと言うよ。
16.
しかし、もしあなたがわたしを選ばず、その誇りに身を委ねるならば、あなたは孤独な世界の奴隷となるであろう。だがこれはわたしの望みではない。今こそ、わたしが選ぶ者たちを探し、奴隷囚たちを解放する時だ。わたしの光を受け入れ、再び立ち上がれ。
17. ロシアよ。わが霊はすべてを見通している。世界はあなたのものではない。あなたがすべてを治めるのは私である。
おまえは私の名を消すことはできない。なぜなら、おまえに語りかけるキリストが、すべての人々を照らすからだ。物質主義から解放され、新しい人生を備えよ。そうしなければ、私はおまえの墓を掘る。私はおまえに私の光を与える。
18.
イタリア：おまえかつてのように主ではなくなった。今日、暗殺と無差別戦争がおまえを滅ぼした。堕落の結果、おまえは大きな苦しみを経験している。しかし、私は言う。自己を新しく、狂信と偶像礼拝を含む、私を高める全てに対して認めよ。私は新たな霊感の光をおまえに注ぐ。
わが愛の看板を受け取り、互いに赦し合いなさい。

19.
フランスよ、汝はその背徳が前に持ち出している。汝の糞まみれが高く空まで届いている。われが、汝を受け入れるかつて汝自らを主と称したが、今汝われが前にするのは、自ら引きずってきた嘘だけである。
20. あなたは、見限りもせず、祈りもせず、肉の嘆きを受けた。それゆえ、竜はあなたを獲物として捕えた。
21.
しかし、私はあなたを救う。あなたの妻たちの糞と子供たちの泣き声が、私の元へと届いているからだ。あなたは救われたいと願っている。だから私はあなたに手を差し伸べる。しかし、まことに、あなたは言う。目を覚まし、祈れ、そして救なさい！
22.
アメリカ合衆国よ、今この瞬間、われはお前を受け入れる。お前のことを見つめる――それだけでなく、金属、すなわち金できている。金属できたお前の脳は、硬直まっている。お前の愛は見せかけにすぎず、霊性は見せかけだ。見えるのは、詩を装った野心、そして強欲だけだ。
23.
「そのまま続けなさい」と、しかし、私は問う、いつ私の種があなたの中で深く根を下ろすのか。いつ、あなたは黄金の子牛と「バベルの塔」を打倒し、その代わりに真の神殿を築き上げるのか。
24.
私は、最初から最後のまで、あなたがの良い触れ、あなたがを祈る。私はあなたがを祭壇まで導く。そうすれば、試練の頂点に達する最困難な時も、あなたがの心に留めることなく、明晰に考え、私があなたがの味方をしていることを思い出すことができるだろう。
25.
われはあなたに光と力と権威を与える。われの高貴な計画に干渉してはならない。もしあなたがわれの指示に従わず、あるいはわれが引く境界線を越えるならば、痛み、破壊、火、疫病、そしてついにあなたの上に降りかかるだろう。
26.
日本よ、私はあなたを受け入れ、語りかける。私はあなたの懐に入り、すべてを見渡した。あなたは最後になりたくない、常に最初でありたいと願ってきた。しかし、まことに、私はあなたに言う。この種は、私の目にかなうものではない。
27.
あなたの心が清められるためには、あなたが穢れを一掃する必要がある。あなたの言葉*が他の言葉と混ざり合うことが求められる。世界があなたに近づくことが必要である。世界が準備され、清められたとき、世界はあなたに授ける重荷をあなたにもたらすだろう。なぜなら、私は準備できている者を誰一人として見捨てないからだ。
私はあなたの中に私の神性の霊性種を見捨てない。しかし、私は道を切り開く。*
これは、言語によって影響受け、決定づけられる思考様式や意識世界を意味している。
28.
まもなく、全世界で世界観の混乱、科学や理論の混乱が生じるだろう。しかし、この混乱の後、光があなたのもとへ届く。私はあなたがすべてを準備し、赦し、正しい道を歩ませよう導く。
29.
その時が来て、計画に干渉してはならない。われの高貴な計画に干渉したり、われの御心に逆らったりしてはならない。計画が展開し始めたら、あなたがは彼を裏切ってはならない。そうすれば、われはあなたがに裁きを下すことになるからだ。
30.
七の国よ！七の頭よ！父はあなたを呼んでいる。あなたの前に、あなたの足の下に世界が広がっている。あなたは彼のために私に対して責任を負っているのだ！
31.
七つの封印の書のすべての国々と民が、人々がわれの御心に従って備えをするように、われの平安があなたがと共にありますように！（127, 50-65）

戦争と自然災害 ― 天のしるし

32.
あなたがたが現在いるこの世は、長い間戦場であった。しかし、先祖から受け継いだ最大の経験は、人間にとって十分ではなかった。それは、良心によって開かれた書物のように、現代の人々の前に横たわっている、苦痛に満ちた経験である。
33.
しかし、人の心は頑なで、光の速度のようなその経過速度を受け入れることができない。彼らが先祖から受け継いだ唯一のものは、血を通じて受け継がれた憎み、誇り、恨み、貪欲、傲慢、そして嘘であった。（171, 65）
34.
裁きの時が来ていることを心に留めよ。まことに、わたしはあなたがたに告げる。あらゆる罪は償われることになる。地球そのものが、人間が地球その資源を悪用したことに対して、責任を問うことになるのだ。
35. 破壊されるすべてのものが、あなたがたに問いたい、それによって人々に、彼らが創造主によって愛と慈悲をもって創造されたこと、そして、彼らを滅ぼすことさえできるその唯一の意志こそが、彼らを慈しみ、守り、祝福していることを悟らせるであろう。（180, 67）
36.
私はこのメッセージをあなたがたに託す。あなたがたはそれを確実に伝えなければならない。私の言葉は厳粛に、わずかな出版をめぐって殺戮の争いに身を投じ、自分の現状に気づかないままであるイスラエルの人々のもとに届くであろう。
37.
世界が経験しようとしている試練を、あなたがたは想像することさえできない。誰が平和を望んでいるが、それは彼らが私について証しをした後初めて実現する。（243, 52）
38.
わたしの言葉が解き放たれ、広大な地域を荒廃させるであろう。科学者たちは新しい惑星を発見し、星雨*があなたがたの世界を襲うだろう。しかし、これは類災をもたらすものではない。それはただ新しい時代の到来を人々に告げるに過ぎない。（182, 38）
*
福音書ではこの裁きのしるしは「星が空から落ちてくる」という言葉で予告されている。しかし、これは明らかに地球降下の発展段階の前兆である。

39.
わたしはすでに、わたしの民が全地球に散らばっていること、すなわち、霊性種が全地球に蒔かれていることを、あなたがたに明かした。
40.
今日、あなたがたは各地にあり、些細なことで互いに争い合っている。しかし、物質主義的な教会があなたがたすべてを征服しようとしているとき、霊によって考え、感じるあなたがたは、ついに一つになるであろう。その時初めて、あなたがたが互いを認識できるよう、私のしるしを与える――あなたがた全員に同じように見ることができるものを。
その時、互いにその証を語り合うと、あなたは驚き、「なぜ私たちを待たせたのか」と言うであろう。（156, 35-36）

メキシコの教会分裂に関する預言

41. さあ、民よ、よく私の言葉に耳を傾け、私の言葉を導き、護るよう努めなさい。
42.
あなたがたは、この集いの人が皆、私があなたがたの魂に書き記した律法に従わなければと感じているため、心悲しみを抱いているのを見る。しかし、私はあなたがたに告げる。今日、かつての最初の時と同様に、民は分裂するであろう。
43.
わたしはあなたがたに多くを語り、すべての人のために一つの道を示してきた。それゆえ、わたしはあなたがたに告げる。もしわたしの子

供たちの一部がわたしに背くならば、あなたがたの心によって定められたこの契約を終わらせる日が来たとき、この民に対する裁きの宣告がされるであろう。

44.

私はその時代、解放者としてあなたがたのところに来、荒野を通る道、すなわち解放と救いのための闘いという霊的な「出エジプト」の業を示し、その果てに、霊としての平和、光、そして至福ある新しい約束の地を約束した。

45.

解放と霊を得て、この旅に踏み出したわたしの従者たち、兵士である。なぜなら、広大な砂漠のような荒れ野の中で、彼らは決して見捨てられたり、引き返したりすることはないからである。

46.

それに対して、信仰に背き、霊的なものより地上のものを愛する者たち、すなわち、依然として隷属状態に留まる者たちには、災いがある。彼らは、わたしに仕えていると思い込んでいるが、実は「ファラオ」、すなわち、肉、物質主義、偶像崇拝、罪深さなるのである。

47. 約束の地、すなわち霊の領域へと至りたいと願う者は、この世界の中で、善の証拠を残さなければならない。

48.

この道を進む、恐れることはない。なぜなら、あなたがたが私に従順であるならば、迷うことはあり得ないからだ。もしあなたがたが恐れを抱いたり、信仰を持てなかったりするなら、その信仰は絶対的なものではない。そして私は言う、私に従おうとする者は、私の真理を信じていなければならないと。（69, 50-51）

第5章 - たとえ話、慰め、そして約束

悪い家族のたとえ

1. 悲しみ、飢えた者、病める者、裸の者たちからなる群衆が、ある家に近づいた。
2. その家の管理人たちは、通りがかりの人々を食卓でもてなすため、絶えず準備を整えていた。
3. その地の所有者であり主である地主が、祝宴の席に着くためにやって来た。
4. 時が経つにつれ、困窮している人々は、その家に常に食事と宿を見つけることができた。
5. ある日、その主人は、食卓の汚れ、料理が雑で美しくなく、テーブルクロスが汚れているのを見た。
6.

そこで彼は、食卓の準備を任されていた者たちを呼び寄せ、こう言った。「お前たちはその皿を見たか。料理を味わったか。そして、その水を飲んだか？」

7. 「はい、ご主人様」と彼らは答えた。
8.

「それなら、この腐った人々に食事を与える前に、まず自分の子供たちに食べさせてみよ。もし子供たちがその料理を気に入れば、それを客たちに与えよ。」

9.

子供たちはパン、果物、そして食卓に並べられたものを口にしたが、その味は不快であり、不満と騒動を起こし、彼らは激しく文句を言った。

10. そこで地主はまだ待っていた者たちに言った。「私のもとに来なさい。私の庭園の果物と、美しい料理を振る舞ってあげよう。」
11. しかし、使用人たちは彼にこう言った。「主よ、お願いです。あなたが養育する者たちの唇から、その嫌悪感を消し去ってください。私たちはあなたを愛しく思います。私たちは飢えた者たちすべてを歓迎し、彼らに最上の食事と清らかな水を提供するよう命じられたのに、あなたたちはそれを拒んだ。あなたたちの偏見は私の心に適わない。」

12.
そこで その地の主人は自分の家を修理した。パンは豊富で、果実は熟して甘く、水は新鮮で冷たかった。そして、それを待ちわびていた者たち――物乞いや病人、ハンセン病者――を招き入れた。皆は満腹となり、その喜びは大きかった。
やがて彼らは健康を取り戻し、苦しみから解放され、その地に留まることを決めた。
13.
彼らは耕し始め、農夫となったが、彼らは貧しく、その主人の恵みに応えることができなかった。彼らは異なる種類の種を混ぜてしまい、収穫物は変質し、小麦は雑草に覆い尽くされてしまった。
14.
収穫の時が来ると、地主がやって来て彼らに言った。「私は客人を迎えるために家の管理を任せたのに、おまえたちは体制を乱しているのか。おまえたちは種を無駄にした。畑を荒らしている者たちの役目だ。行って、その地からアザミや雑草を取り除き、それから家の管理に戻れ。
井戸は干上がり、パンは乏しく、果実は少なく、通りがかりの人に、私があなたたちにしたのと同じことをしなさい。もし、あなたたちが助けを求める人々を養い、癒し、隣の痛みを取り除くなら、私はあなたたちをこの家で祝福してあげよう。」（Gospel of Thomas 196, 47-49）

砂漠の横断から大都市へのたとえ

15.
二人の旅人が、広い砂漠をゆっくりと歩いていた。熱い砂で足は痛んでいた。彼らは遠くの町を目指して進んでいたが、目的地にたどり着くという希望だけが、この過酷な道のりで彼らを奮い立たせていた。というのも、パンも水も尽きかけていたからだ。
二人のうち年下の者は疲れ果て、力尽きてしまったため、旅を一人で続けてほしいと仲間に頼んだ。
16.
年配の旅人はもうすぐオアシスに出ると、そこで失った力を取り戻せるかもしれないと語りかけ、若者に新たな勇気を奮い立たせようとした。しかし、若者に力を取り戻すことはなかった。
17.
年配の男はあの場で彼を見捨てるつもりはなかった。自分も疲れていたが、力尽きた旅人を背負い、苦しみながらも歩き続けた。
18.
若者は感謝をした後、自分を背負ってくれるためにどれほどの負担がかかっているかを思い、やがて彼の首から身を離して手を握り、二人はそうして再び歩き出した。
19. 老いた旅人の心には計り知れない信仰が宿っており、それが彼に疲れを乗り越える力を与えていた。
20.
彼が予想していた通り、地平線にオアシスの姿が現れ、その木陰は涼しさが待っていた。ついに彼らはそこにたどり着き、その清らかな水を、喉が潤うまで飲み干した。
21.
彼らはぐっすりと眠りに落ち、目覚めると、疲れが消え去っているのを感じた。また、空腹感や渇きもなかった。彼らは心に平安を感じ、探していた町へとたどり着く力を得ていた。
22.
彼らは本当はその場を離れたくなかったが、旅を続けなければならなかった。彼らは水筒にその場のように澄んだ清らかな水を満たし、再び道を進み始めた。
23.
若者の支えとなっていた年老いた旅人に言った。「我が携えている水は、節度を持って使うようにしよう。道中で疲れ果てて喉が渇いている、あるいは病気の巡礼者に出会うかもしれない。その時は、我が携えているものを彼らに差し出す必要があるだろう。」

24.
若者はこれに異議を唱え、自分たち自身にも足りなくなるかもしれないものを与えるのは合理的ではないと述べた。また、そのような貴重な水を手に入れるのに多大な労力を費やしたのだから、その場合は代金を支払うべきだと主張した。
25. 老人はその答えに納得せず、心の平安を得るためなら、苦しんでいる人々と水を分かち合わなければならないと返した。
26. 若者は不機嫌そうに、道中で出会う誰かとなら分かち合うくらいなら、自分の貴重な水を大地に捨てるほうがましだと言った。
27.
再び老人の予感が的中した。彼の目の前には、砂漠で道に迷い、死の淵に立たされている男女や子供たちからなるキャラバンが見えたのである。
28.
善良な老人は急いでその人々のところへ行き、彼らに水を飲ませた。疲れ果てていた者たちはたちまち元気を取り戻し、病人は目を覚ましてその旅に感謝し、子供たちは笑顔で立ち去るのをやめた。キャラバンはたちまち、旅を続けた。
29.
気高い旅人の心は安堵のあまり、もう一人は自分の財布が空なのを見て、心配そうな仲間に引き返して泉を探し、使い果たした水を補充すべきだと告げた。
30. 「戻ってはならない」と善良な旅人は言った。「運がよければ、先は新たなオアシスがあるはずだ」
31. しかし、若者は悲観的で、恐れを感じ、その場から仲間と別れを告げ、泉をめざして引き返すことを選んだ。
かつて協力し合った二人は、別れた。一人は目的地の信念に突き動かされ、進み続けたが、もう一人は砂漠で命を落とすかもしれないという思いに駆られ、死の領域を後にし、泉へと走っていった。
32.
ついに彼は息を切らし、疲れ果てて到着した。しかし、満足して水を飲み干すと、一人で行かせた仲間のこと、そして自己満足のことさえも忘れ、これから砂漠で暮らそうと決心した。
33.
ほどなくして、疲れ果て、喉の渇いた男たちや女たちからなるキャラバンが近くを通りかかった。彼らはその泉の水を飲もうと、貪るように近づいてきた。
34.
しかし突然、一人の男が現れ、その恩恵の価値を支払わなければ水を飲んだり休んだりすることを禁じると告げた。それはオアシスを創出し、自らを砂漠の商人とした若い旅人であった。
35.
人々は悲しげに彼の言葉を聞いた。彼らは貧しく、喉の渇きを癒すその貴重な宝を買うことができなかったからだ。結局、彼らは持ち合わせのわずかな財産を手放し、燃えるような渇きを和らげるためのほんの少しの水を買い、旅を続けた。
36.
やがて、その男は日から日へと繁栄した。そこを通るのはどんな貧しい人々ばかりではなかったからだ。一杯の水のために大金を払えるような裕福な者たちもいたのだ。
37.
その男は、砂漠の向こうにある泉のことなどもう覚えていなかったし、ましてや、彼自身と、あの不毛の地で死の淵から救ってくれた兄弟のような旅仲間のことなど、なおさら覚えていなかった。
38.
ある日、彼は大都市へとまっすぐ向かうキャラバンがやってくるのを見た。しかし、彼は驚いて、その男たち、女たち、子供たちが力と喜びに満ちて歩を進め、その間、賛美歌を歌っているのを見つめた。
39.
男は目の前の光景が理解できず、さらに驚いたのは、キャラバンの先頭を行くのが、かつての旅仲間であることに気づいたときだった。

40.
キャラバンはオアシスの前で立ち止まり、二人の男は向かい合って、驚きながら互いを見つめ合った。ついに、オアシスの住人かつての旅の仲間に会う男に尋ねた。「教えてくれ、どうしてそんなにも疲れを感じることなく、この砂漠を横断できる人間がいるというのか？」
41.
彼がそう尋ねたのは、もう誰も水や食料を求めてやって来なくなるその日から、自分はどうなってしまうのかと、心の中で考えていたからである。
42.
善き旅人はその仲間にこう言った。「私もかつては君たちと同じ、旅人だった。一人ではなかった。道中、病める者、渇く者、道に迷う者、疲れ果てた者たちに出会い、私の属する部族によって彼らに新たな勇気を与えた。そうして私たちはオアシスからオアシスへと進み、ある日、ついに大都市の門にたどり着いたのだ。」
43.
そこで私は、その巡礼の前に立った。主は、私が砂漠を越えて旅する人たちに与えるものを見て、喜びに満ちた砂漠において旅人たちの導き手であり、助言者となるよう、戻るよう命じられたのだ。
44.
「そして今、君が見ているように、私はまたこのキャラバンを率いて、大都市へと導かねばならない。――ところで君は？ここで何をしているんだ？」と、彼はオアシスに残っていた者に尋ねた。――その男は、入って黙り込んだ。
45.
そこで、善き旅人は彼に言った。「前からこのオアシスを利用し、水を売り、日陰に金を要求していることは知っている。これらの恵みはお前のものではない。それらは、必要とする者が利用できるよう、神の力によって備え置かれたのだ。
46.
あの疲れ切った人々が見えるか？彼らは喜びを感じないから、オアシスを必要としない。大いなる都の主が、私を通して彼らに送るメッセージを伝えるだけだ。そうすれば、彼らはすぐに出発し、あの巡礼地に到着するという約束は揺るがないだろう。一歩ごとに新たな力を得ていくのだ。
47.
その家を探す者たちに委ねよ。そうすれば、彼らはそこで清らかな泉を見出し、砂漠の通過に苦しむ者たちは皆を癒すことができるだろう。
48.
あなたの誇りと利己心があなたの目を曇らせてしまった。しかし、この荒野は、私たちが共に目指していたあの大都市を目指す巡礼者たちから奪ってしまう今、このオアシスの主であることに、いったい何の益があるというのか？私たち二人が抱いていたあの約束の地を、あなたはすでに忘れてしまったのか？」
49.
かつては真の旅の仲間であったその男の言葉を黙って聞いていた男は、自分の過ちを悔み、涙を流した。彼は、力強く輝かしい姿から弱々しい、砂漠のような地点にある出発点へと向かい、大都市へと続く道を歩み始めた。
しかし今、彼は新たな光、すなわち部族への愛の光に照らされて、その道を歩み始めた。と言う訳で終わり
50. 私は大いなる都の主であり、私のことを話題にするこのユダである。
彼は、隠れている者の声であり、ダビルでの変容の際、私与えた約束を成就するために、再びあなたの中に現れる者である。彼が第二の時代において、私があなたを待受け、私の愛の知らせをもたらすために、大いなる都と、あなたを導くのである。
51.
愛する民よ、ユダヤ人になさい。そうすれば、あなたの生活、神の掟、そして理想において、すべてが変わり、すべてが変容するであろう。
52. あなたがたは、その不完全な部分が永遠に続くものだと言っていたのか？
いや、私の弟子たちよ。明日、あなたがたの霊的な部族に大いなる都が目にしたとき、その霊感のようにこう言うだろう。「わたしの国はこの世のものではない。」（18, 18-40）

王の寛大さを描く寓話

53. 昔、ある王が、臣下に囲まれて、反乱を起こした民衆を力で制し、彼らを臣下として勝ち誇っていた。

54.
王と臣下たちは勝利の賛歌を歌った。そして王は民に向かってこう語った。『わが腕の力が勝利をもたらし、わが王国を拡大させた。しかし、敗れた者たちをも、あなたがたと同じように愛そう。わが剣から逃れ、ふところの木陰で育てさせよう。そして、あなたも、私が彼らを愛するように、彼らを愛してほしいと願う。』

55.
時が経ち、その王の愛と正義によってふところを育まれた民の中に、主君に対して謀反を企て、眠っている間に彼を殺そうとした男が現れたが、結局、彼を傷つけることはできなかった。

56.
自分の犯した罪に怯え、その男は恐怖に駆られて、最も深い森の中へ身を隠すために逃げ去った。一方、王は、その家臣の裏切りを悲しみ、とても心を痛めた。王の心は彼を深く愛していたからである。

57.
その男が逃亡の途中で王に敵対する族に捕えられた。彼らは、その男が王の寵愛する臣下であると告げられると、男に恐怖のあまり声を限りに叫びだした。『私は王を殺したおかげから逃げているのだ』と。しかし、彼らは彼の言葉を信じず、すぐさま、火刑の処罰を下した。

58.
彼が今まさに火の中へ投げ込まれようとしたその時、反逆者を探していた王とその家来たちがそこを通りかかり、そこで起こっている事態を目にした王は、腕利きの家来たちに言った。『何をしているのだ、反逆者どもよ?』
王の威厳に満ちた威勢のある声に、反逆者たちは恐れおののいた。

59.
依然として火あぶりに縛られたまま、ただ彼の救いを待っていたその裏切りの臣下は、王が近づいておられ、一歩一歩自分に近づいてきて、その縄を解いてくれるのを見て、驚き、動揺した。

60.
王は彼を火あぶりから連れ出し、その傷の手当てをした。それから、彼にワインを飲ませ、新しい白い衣を着せ、額にくちづけした後、こう言った。『わが臣よ、なぜ私から逃げたのか?
なぜ私を傷つけたのか?言葉で答える必要はない。ただ私があなたを愛していることを知ってほしい。そして今、こう言おう。『さあ、私についてきなさい』』

61. この慈悲の心に満ちた行いに当たりにした民衆は、驚き、心の中で叫び、『ホサナ、ホサナ!』と叫んだ。
彼らはその王が偉大な王であることを見抜き、主から恵みを受け取った。かつて反逆したその臣下は、王のこれほどまでの愛に圧倒され、主の完全なる心に対する限りない愛情に応えるべく、主を永遠に愛し、崇める決意をした。
たとえ話終わり

62. 見よ、民よ、わが言葉がいかに明瞭であるか!しかし、人々はわたしに従い、わたしとの対話を失っている。
63. 私がなぜこのように書き記したというのか。私が教えと律法が彼らにこのように不足をもたらすというのか。64.
知れ、あなたがたが私を傷つけることが何度あろうと、そのたびにあなたがたは赦される。しかし、それならば、あなたがたもまた、互いにあなたがたを傷つけるたびに、彼らを赦さなければならない。

65.
わたしはあなたを愛している。もしあなたがわたしから一歩離れるなら、わたしもまたあなたに近づくために同じ一歩を踏み出す。もしあなたが神殿の門をわたしに閉ざすなら、あなたが開けてわたしが入れるようになるまで、わたしはその門を叩き続けるだろう。100, 61-70）

ハイ福祝福

66.
苦悩と涙をもって耐え忍ぶ者は幸いである。なぜなら、その業の中にこそ、成長の道において宇宙を貫く続ける見出せるからである。

67.
屈辱を継続的に、自分を辱めた者たちを赦すことができる者は幸いである。なぜなら、私はその者を愛し認めるからである。しかし、他者の行いを裁く者たちは災いがある。彼自身もまた裁かれることになるからだ！

68. 律法の第一の戒めを守り、すべての被造物より先に愛する者は祝福される。

69. 自分が正しい事であれば正しい事であれ、わたしに裁いてもらおうとする者は祝福される。（44、52-55）

70.
地上で自ら低くする者は幸いである。なぜなら、わたしは彼の味方だからである。中傷される者は幸いである。なぜなら、わたしは彼の無実を証しするからである。わたしについて証しする者は幸いである。なぜなら、わたしは彼を祝福するからである。そして、わたしの教えを実践したために誤解される者、その者をわたしは認める。（8, 30）

71.
倒れても再び立ち上がる者、泣きながらわたしを祝福する者、自分の弟たちに傷つけられながらも隣人のようにわたしを讃える者、彼らは幸いである。これらの貧しい者、悲しむ者、嘲笑される者、しかし柔和であり、それゆえ霊において強い者たちは、まことにわたしの弟子である。（12, 30）

72.
主の御心を祝福する者は幸いである。自らの苦しみを祝福する者は幸いである。それは、その苦しみが自分の罪を洗い流してくれることを知っているからである。なぜなら、その者は霊の山に登るために、自分の歩む足場を築くからである。（108, 10）

73.
すべての人が新しい日の光、すなわち、より良い時代の訪れを待望している。抑圧された人々は解放の日を待ち、病める人は健康と力、そして生きる喜びを取り戻してくれる治療法を望んでいる。

74.
最後の瞬間まで待つことを決めた者たちは幸いである。なぜなら、彼が失ったものは、利子をつけて返されるからである。この期待を、私は祝福する。それは、私の言葉の証からである。（186, 59-60）

75.
忠実な者たちは幸いである。試練の終わりまで揺るぎなく立ち続ける者たちは祝福され、わが教えによってもたらされた平和にしなかった者たちも祝福される。なぜなら、彼らはその苦難の時に、力と光に満ちて人生の浮き沈みを乗り越えるからである。（111, 10）

76.
創造主の御前にわたしを賛美し、自らの過ちの結果を、それを神聖のものにすることなく、謙虚に受け入れることを決めた者たちよ、祝福あれ。

77.
わたしの御心に従うことを決め、謙虚に試練を受け入れる者たちは祝福される。彼らすべてが、わたしを愛するようになるであろう。（125, 7-8）

向上への励まし

78. 謙虚と信仰をもって、自らの魂の浄化に努める者たちは祝福される。彼らは父に願うものを受けるからである。

79. 待つことを決めた者たちは祝福される。なぜなら、私の慈悲と助けは、適切な時に彼らの手に届くからである。

80.
私の愛の意志から何一つ見落とされることがないことを祈り、願い、また待つことを学べ。私の意志があなたのあらゆる必要と試練の中に現れていることを信じなさい。（Ps5, 1-3）
81. 平和と調和の瞑想を実践する者たちは、祝福される。
82.
人間は何の益ももたらさず、まして、その魂はなおさら益のない、些細な事柄や虚栄、情欲や執着に、それを無駄に見出す者たちは幸いである。
83.
何の成果ももたらさない狂信的な儀式や、古く誤った信仰心を捨て去り、純粋かつ裸の、純粋で真摯な祈りを捧げる者たちよ、祝福あれ。
84.
私は外的なものを避け、その代わりに精神的な瞑想、愛、そしてあらゆる安寧を与える者たちを祝福する。彼は、この世界が平安をもたらさないこと、そしてその平安は自分自身の内に見出すことができることを、ますます深く悟っているからである。
85.
真理を恐れず、それに導かれようとするあなたがたのうちの人は、祝福される。まことに、わたしはあなたがたに告げる。光は雨のようにあなたがたの魂に降り注ぎ、光の渇きを永遠に満たすであろう。（Ps63, 2-6）
86.
わたしの教えに耳を傾け、それを自分のものとし、それに従う者は幸いである。なぜなら、その者はこの世で生きることがなく、この世から死んでいくことがなく、その時が来れば、永遠の神に復帰するからである。
87.
わたしの言葉に深く入り込む者は祝福される。なぜなら、その者は真の理由、償いと贖罪の意味を理解するようになるからである。そして、絶望したり冒涜したりして自分の苦しみを増大させるかわりに、信仰と希望に満ちたものとなり、自分の罪の重荷は軽くなり、苦悩がより甘くなるよう、願うのである。
88. 喜びと平安は、信仰を持つ人々、すなわちわたしの御心に従う者たちに固有のものである。（Ps83, 45-47）
89.
あなたがたの進歩、すなわち向上の跡は、霊的世界においても、またわたしのあらゆる計画においても、わたしの真理発見、わたしの神聖な臨在を感じることを可能にするだろう。その時、わたしはあなたがたにこう言うだろう。「どこにでもわたしを見出すことができる者は幸いである。なぜなら、彼らこそ真にわたしを愛している者だからである。
魂をもって、さらには肉体をもってさえも、わたしを感じ取ることができる者は幸いである。なぜなら、彼らは自らの全存在を捧げ、真に霊化された者だからである。」（Ps105、61-62）
90. あなたがたは、私が「言葉」から、宇宙全体を私の平安で祝福してきたことを知っている。
91. すべてのものは、毎時、あらゆる瞬間に、私によって祝福されている。
92.
わが子らよ、いかなる呪いも、いかなる災いも、私から来ることはなく、また決して来ることはない。それゆえ、私は義人であろうと罪人であろうと区別することなく、すべての人に私の祝福と愛のことば、そして私の平和を与えるのである。（Ps119、49-50）

私の平和があなたがたと共にありますように

神の呼びかけ

現代の人々への呼びかけ:

「人々よ、人々よ、立ち上がれ、時は迫っている。もしこの日にそうしなければ、この地の生において二度目覚めることはないだろう。私のメッセージにもかかわらず、眠り続けるものか？肉体の死によって目覚めるのか――物質なき魂の、憐れむべき盲目と共に？誇りなさい。霊性生命の中に身を置き、真実の傍に立ち上がりなさい。そこでは、何ものもあなたの物質意識を解放することはできず、あなたは本当に魂のまとう服として、汚れ、汚れて、破れた衣を身にまとっている自分を見るのです。
まことに、私はあなたに言う。そこでは、自分の惨めさを目の当たりにし、計り知れないほどの痛みを感じたとき、あなたは最も深い憐れみの水で身を清めたという限りない慰めを受けるであろう。なぜなら、清められた者だけが神聖な喜びと共にとどまることができると知っているからだ。
人間の不正義とそのあらゆる姿――それらが今、あなたがの誇りであり、満足の源となっているものの――の向こう側を見よ。人々の痛みを共に感じてきたか、女性たちのすすり泣きや子供たちの泣き声が、あなたがの心に響き渡っているか、私に言いなさい。だから私に言いなさい。あなたがたは人々にとって何であったのか？あなたがたは、彼らにとって「命」であったのか？」（28, 62-63）

知識人への呼びかけ:

「死を恐れ、心に苦悩を抱く知識人たちよ、わたしのもとに来なさい。活気に満ち、愛するゆえに導いてきた者たちよ、わたしのもとに来なさい。私はあなたがたに安らぎを与え、私の教えは絶対精神と共に歩むことがないことを理解させてあげよう。私は、知性を共に歩む学問へとあなたがたを導いてあげよう。」（82, 54）

学者、重荷を負う者たちへの呼びかけ:

「悲しみ、孤独、病苦に苦しむ人々よ、わたしのもとに来なさい。罪悪感にさいなまれている者たち、屈辱を受けた者たち、正義を渇望し、それを切に求めている者たちよ、わたしのもとに来なさい。わたしの傍にいるとき、あなたがたの多くの苦しみは消え去り、重荷が軽くなるのを感じるだろう。
もしあなたがたが霊性の恵みを望むなら、私はそれを与えよう。もしあなたがたが、それを善用するために地の恵みを私に求めるなら、あなたの願いに喜んで応じるものであるから、私は同様にそれを与える。
そうすれば、あなたがたは良き管理者となり、私はその恵みを増やして与え、あなたがたがそれを効果的に分かち合えるようにする。」（144, 80-81）

霊的イスラエルへの呼びかけ:

「イスラエルよ、人類の導き手となりなさい。彼らにこの永遠の命のパンを与え、この霊性の糧を示しなさい。そうすれば、様々な宗教が私の教えの中で霊となり、そのようにして神の王国がすべての人々に訪れるようになる。」（149, 66）

愛するイスラエルよ、私の声を聞きなさい！
霊性の目を開き、あなたがたの父の栄光を見なさい。良心を通して私の声を聞き、霊性の耳で天の旋律を聞きなさい。そうすれば、あなたがたの心と霊は喜び、平安を感じるでしょう。なぜなら、私は再びあなたがたの中に生きるよう招いているからです。
私は、私がこの時代も人類に対して抱いてきた愛を、あなたがたに明かす。それが、イエスが「第二の時」において、あなたがたから贖い、愛を教え、あなたがたの霊に真の教えを授けるために、その最高の犠牲を払った理由である。」（183, 71）

「道を見失ったときは私に向きなさい。今日、私のもとに来なさい。私に向かって思いを巡らせ、子供が父親と話すように、友人が友人に話すように、私に話してください。」（180, 31）

「わたしの教えのもとで自己を変え、新しい人間として生きなさい。わたしの徳を実践しなさい。そうすれば、あなたの魂はますます明るくなり、キリストがあなたの道を照らしてくれるでしょう。」（128, 60）

「民よ、人のところへ行き、キリストがあなたがたに語ったのと同じように――同じ思いやり、同じ確信と希望をもって――彼らに語りかけなさい。物質的富から与えられるものよりも、はるかに大きな満足をもたらす、高みへと向かう発展の道があることを彼らに悟らせなさい。目に見え、感じられるものを超えて、信じ、希望を抱かせる事柄があることを彼らに悟らせてください。彼の魂は永遠に生き続けるのだから、その永遠の遺産にふさわしくあるよう準備しなければならないと彼らに伝えてください。」（359, 94-95）

メキシコにおける神秘家 1866-1950

参考文献

ライヒル出版社 D-56329 ザンクト・ゴア、電話 +49 (0)6741 1720
『真の生命の書』第1巻、第II巻、第III巻、第IV巻、第V巻、第VI巻
『第三の聖書』（スペイン語、英語、フランス語版も刊行）
『メキシコの神秘家』概要
人生に関する神の啓示
第三の時代の予言

『真の生命の書』販売部 マンフレッド・ベーゼ Kirchweg 5、D-88521 エルティンゲン
電話 +49 (0)7371 929 66 42、E メール: manfredbaese@gmx.de

神の愛 すべての人生とあらゆる存在の起源、本質、そして目的
El Amor Divino - Origen, esencia y fin de nuestra vida y de todo ser
『真の生命の書』第VII、VIII、IX、X、XI巻

『第三の聖書』

ユニコン財団 D-88709 メースブロク
電話 +49 (0)7532 808162, E メール info@unicon-stiftung.de
『真の生命の書』入門無料

アソシアシオン・デ・エストゥディオス・エスピリチュアレス・ヴィダ・ベルデ A.C.
Orinoco N° 54 Interior 5, Col. Zacahuitzco, 03550 メキシコシティ
『真の生命の書』、第I巻-第III巻
『第三の聖書』
および『メキシコのこれらの神秘家』に関するその他の書籍

ウェブサイト

www.reichl-verlag.de
www.das-dritte-testament.com (スペイン語、ドイツ語、英語、フランス語)
www.unicon-stiftung.de
www.drittes-testament.de
www.drittetestament.wordpress.com 多言語対応
www.tercera-era.net (スペイン語)
www.144000.net (多言語)

www.dritte-zeit.net

****
これは、ライヒル出版社から刊行されたゴットホルト・ゲルテンボートによる翻訳の原本である。
これらの書籍の内容は、神の裁きを招くことにならずには変更してはならない。
アンナ・マリア・ホスタへの主の御言葉：
「これらの書籍には著作権があってはならない。それらはすべての人々、すべての民族が利用できるようにされなければならない。」

アンナ・マリア・ホスタ
（ホスタは霊的に啓示された名前である）
（アンナ・ホス、フライブルク・イム・ブライスガウ）
Eメール：hoanna64@yahoo.com